

『真のいのちの書』

神聖なる師の教え

第IX巻

教え 242～276

『真の生命の書』 出版事業

全12巻からなる『真の生命の書』（Libro de la Vida Verdadera）
は、全人類への遺産であり、
メキシコシティの「Secretaría de Educación
」に登録されています。

スペイン語版原著に関する詳細情報：
アソシアシオン・デ・エストウディオス・エスピリチュアレス・ヴ
ィダ・ヴェルダデラ、A.C.
Apartado Postal 888, México, D.F., - C.P. 06000

ドイツ語訳、ドイツ語版への序文、解説、脚注、注釈および本書に
関する注記の責任者：
ヴァルター・マイヤーおよびトラウゴット・ゲルテンボート。

2017年1月現在

編集（新正書法およびレイアウト）：
Buchdienst zum Leben
マンフレッド・ベーゼ
キルヒヴェーク5
D-88521 エルティンゲン

電話：+49 (0) 7371 929 66 42
Eメール：manfredbaese@gmx.de

『真の生命の書』は、この版を基にDeepL Translatorを用いて多くの言語に翻訳されています。

これらは、ゴットホルト・ゲルテンボートによって翻訳され、ライヒル出版社から出版された、著作権を有する真正かつオリジナルの著作物です。これらは本来の純粋な形で保存されなければならない、改変してはなりません。改変することは罪であり、神の裁きを招くことになります。

主がアンナ・マリア・ホスタに語られた言葉：

2017年3月25日

イエスは彼女にこう言われます。「封印の時代」……

……そしてこう言われます：

「これを活用しなさい。今日、わたしはあなたを選び、わたしの教えを受け取り、それを人々に伝えるようにしたのだ。」

この取り組みの責任者は、これらの書物の所有者である主イエス・キリスト、私たちの神の御名において、アンナ・マリア・ホスタが務めています。

(Eメール：hoanna64@yahoo.com)

DeepL - ダウンロードリンク：www.DeepL.com/Translator

(ビジネス版)

DeepLは現在100以上の言語に対応しており、デスクトップにダウンロード可能です。翻訳にはインターネット接続が必要です。

2026年9月現在

目次

『真のいのちの書』	1
序文	6
序文	8
教え 242	12
教え 243	21
教え 244	31
教え 245	40
教え 246	50
教え 247	61
教え 248	72
教え 249	84
教え 250	95
教え 251	107
教え 252	117
教え 253	126
教え 254	136
教え 255	146
教え 256	156
教え 257	166
教え 258	176
教え 259	186
教え 260	198
教え 261	208
教え 262	217
教え 263	228
教え 264	238

教え 265.....	248
教え 266.....	260
教え 267.....	271
教え 268.....	281
教え 269.....	292
教え 270.....	302
教え 271.....	312
教え 272.....	321
教え 273.....	332
教え 274.....	341
教え 275.....	350
教え 276.....	359
目次.....	369
1866年から1950年にかけてのメキシコにおける神の教え	376

序文

神は、過去においても、そして今日においても、常に人類に御自身を現してられました。

神と人間との間のコミュニケーションにおいて、最も純粹かつ至高の形態は、霊から霊へのものです。しかし、大多数の人々は、そのために内面的に準備ができておらず、今もなお準備ができていないため、神は伝達者を選び、その聖なる御言葉を律法、啓示、教えという形で民に明らかにされました。

第一の時代には、モーセ、族長たち、そして預言者たちを通じて。

第二の時代には、イエスとその弟子たち、そして使徒たちを通じて。

第三の時代——すなわち現代——においては、1884年から1950年にかけてメキシコで、多くの「声の伝達者」たちを通じて行われました。そこでは、庶民の人々が毎週日曜日、質素な集会所に集まり、神の御言葉に耳を傾けていました。

1950年以前の過去10年から20年の間に、これらの神聖な啓示は速記によって記録され、1950年代には様々な集会所から集められました。そのうち366の教えが選ばれ、1962年に『Libro de la Vida Verdadera』（ドイツ語では『真の命の書』）と題された全12巻の著作として出版されました。これらの教えの一つひとつは、神の教えが調和のとれた一体を成しており、当時はメキシコの聴衆に向けられたものではあったものの、その中で繰り返し強調されているように、今日の人類全体および将来の世代への遺産である。

人を高揚させるのは、神の言葉の文字そのものではなく、その深く内面的な意味であり、それは飢えた魂にとっての糧であり、癒やしとなる。同時に、それは日常生活における行動の指針ともなる。

神の言葉を聞くことは、完全性への道の第一歩である。それは、聞いたことを心に刻み込み、日々の生活に応用したいという心の願いを私たちの中に呼び覚まし、それによって、2000年前にイエスによってすでに与えられた神の戒め、「何よりも神を愛し、隣人を自分自身のように愛せよ」を果たすことができるようにする。これこそが、内なる平安、ひいては世界の平和へと導く真の礼拝なのです。

一般的に、この世でのたった一度の人生だけでは、「天の父のように完全になる」には不十分であるため、私たちは輪廻転生の法則——神の愛、慈悲、そして正義の法則——を通じて、魂を段階的に開花させ、過ちを償う機会を与えられているのです。

多くの教えの中で、神の御霊は、神にますます近づき、最終的には霊と霊との間で神と交わり、また日常生活のすべてを神の御手に

委ねるために、真の霊的な祈りが私たちにとっていかに重要であるかを戒めておられます。

第二の時代において、神の御霊はイエスの口を通して「主の祈り」を私たちに教えられました。今日の第三の時代において、神は私たちに、さらに短い祈りを勧めておられます。それはすべてを含んでおり、声に出して唱える必要さえなく、心深く感じ取り、内なる切なる願いとして天の父に捧げることができるものです。「主よ、御心が行われますように。」

第9巻を読み、研究することが、神の愛、知恵、そして全能性に対する私たちの信頼を強め、激動の時代にあって、周囲の人々にとっての灯台となれるよう、私たちに力とインスピレーションを与えてくれることを願います。

序文

長年にわたり、メキシコでの神の啓示において自ら「声の伝達者」として関わってきた、直接の目撃者ほど、その深い感慨や、内面的かつ外面的における個人的な変容の体験を、これほどの確かつ説得力を持って表現できる者はいないだろう。

「私はちょうど21歳になったばかりだった。何年もの間、私は非常に厄介な皮膚病に悩まされ、家に閉じこもるしかなかった。その病気のせいで、ほんのわずかな時間であっても、太陽の恵みや新鮮な空気を楽しむことさえ許されなかったのだ。

あの孤独な年月――特に、最も虚栄心あふれる夢にふける青春の曙光の中にいた私にとっては、まるで永遠のように感じられた――の間、私はかなりの焦りと絶望の危機に苦しみました。率直に告白すれば、この試練の中で私に精神的な支えを与えてくれたのは、両親や兄弟姉妹による温かい支えだけでした。もちろん、いつか健康を取り戻せるという微かな希望も、その支えの一つではありました

。多くの医師が私の症例を引き受け、私は数え切れないほどの治療法を受けましたが、どれも効果はありませんでした。ただ、治療が失敗するたびに、私の絶望感が募っていったことだけは覚えています。

孤立と沈黙、そして孤独が日ごとに耐え難くなっていく中、私は祈りに逃げ込み、その中で私の精神が言葉に尽くせないほどの平安を見出し、まもなくこの囚われの身から解放されるだろうという予感が心に湧き上がってくるのを感じた。

私の祈りはますます長くなり、精神の集中もますます深まっていた。できるだけ頻繁に瞑想するよう努めた。なぜなら、祈りが続いている限り、私はあらゆる苦しみから解放されていたからだ。そして、その至福の時間が過ぎ去り、孤独で静寂に包まれた単調な日常へと戻ったとき、私はいつも、まるで自分の精神が力づけられ、インスピレーションを得た別世界から戻ってきたかのような感覚を抱いていた。ここで付け加えておきたいのは、私の祈りは、思いつきで即興的に紡がれていたということだ。そのような恍惚状態の間に時間の感覚を失い、周囲のすべてが消え去ってしまう瞬間があったことを、私は決して忘れることはない。とはいえ、子供の頃――およそ12歳頃から――自分でも説明できないまま、ほぼ毎日、数分間続く一種の魂の離脱状態に陥っていたことを覚えている。その間、おそらく潜在意識に導かれて、まるで自動人形のように振る舞わざるを得なかったのだ。この奇妙な状態が続いている間は、まったく困難を感じることはなかった。不思議なことに、当初はこの状態に恐怖を覚えたが、次第にそれに慣れ親しむようになった一方で

、その現象は時が経つにつれて強まっていった。

私の病状はピークに達した。時には、まるで内なる炎に焼かれるかのように皮膚が燃え上がり、それを鎮める術など何一つないかのように感じられた。同時に、私の容姿はますます悲惨なものになっていった。

ある日、父は、ある平凡な人物——その人は間違いなく神に選ばれた者である——の口から、神聖なる師の言葉聞いたという知らせを持って現れた。場所は、メキシコのある人里離れた地区にある質素な集会所だった。以前からその啓示を敬慕していた親しい友人が、父をそこに連れて行ってくれたのだ。

その瞬間、私は確信した。そこにいたのは、まさに「主」その人であり、人々の心に寄り添うために人間の知覚力を借りて語りかけ、光を渴望し、正義を渴望する人々を探し求めておられるのだと。

私が日々待ち望んでいた奇跡が、目の前にあった。苦痛に苛まれる時、何度も語り合った「彼」—— —が今や私のすぐそばにいて、私の肉体と魂の癒やしを授けるために、私を待っていたのだ。

私は主の呼びかけに従った！1934年2月14日（日曜日）、私は初めて、神の御言葉を聞くことができる数ある集会場の一つである、あの質素な集会室に足を踏み入れた。出席者たちが、「神の光線」の到来を待ち受けるために、内省と深い集中をもって身を整えている様子に、私は強く心を打たれました。その「神の光線」は、「御言葉の伝達者」の内なる聴き取りを啓発し、その者が天の御言葉を伝えることになっていたのです。

その時の「言葉の伝達者」、あるいは「道具」は、ある女性でした。ごく平凡な外見の、生まれつき目の見えない、質素な女性でした。正直なところ、彼女の風貌は、私にはあまり好ましい印象を与えませんでした。それゆえ、彼女の唇が開き、想像を絶するほどの深みと素晴らしさ、そして知恵に満ちた説教が聞こえてきたとき、私の驚きは一層大きなものとなった。その説教は、驚くべき抑揚に満ちた優しい声で語られ、メッセージに深く印象的で感動的な響きを与えていた。

説教が進むにつれ、出席者たちはその言葉の伝達者の存在をすっかり忘れ、精神の世界へと昇華し、神の教えを存分に味わっていた。しかし、説教の最中にたまたま目を開き、の伝達者を観察した者がいたならば、本来は貧しく平凡なその存在が、精神の高揚によっていかに変容したか、いや、そのような瞬間には、彼から大きな美しさと畏敬の念を抱かせる威厳が放たれていることに気づくことができただろう。

神聖な言葉は、尽きることのない大津波のように、その唇から流れ出ていた。1時間、2時間、3時間、そしてそれ以上。それはすべて、途切れることなく、中断されることなく、完璧に、そしてわずかな疲労の兆しも見せず、声がかすれたり途切れたりすることもない

く続いた。それどころか、啓示が続く時間が長くなるほど、その靈感はますます完璧さを増しているように見えた。

その啓示の瞬間、神聖なる師の存在は極めて強く感じられ、その近さと親しみはまるで手に取るように実感できた。師は一人ひとりの心に語りかけた！ 師は出席者たちの最も隠された思いを読み取り、聴衆の心の奥底に触れつつ、誰一人として傷つけたり非難したりすることはなかった。誰もが心の中で、愛と知恵に満ちた鋭い眼差しを向けながら、師がまさに自分に向けて語っている言葉を感じ取っていた。

神の御言葉は、御言葉を伝える者の口を通じて、さまざまな響きや色合いを帯びた。主が父として語られるとき、その声には優しさ、赦し、そして慈愛が込められ、師として現れるときは、その声は深遠で知恵に満ちたものとなり、また、主が裁き主として現れるとき、その御言葉の伝達者の声には無限の権威と力の響きが宿り、正義と神聖な熱意がこれほどまでに力強く響き渡ったため、聴衆はまさに打ちのめされ、悔恨の涙を流させられ、悔い改めと償いへの固い決意を抱かされたのである。

私はそのような偉大さの前に、まるで集まった人々の中で最下位の者であるかのように、ごくちっぽけな存在に感じられた。無知な私は、主はきっと私の取るに足らない存在に気づいておられないのだろうと考えた。しかし、すぐにその思い違いに気づかされ、師の視線がすべての人を見逃さないことを知らされた。その霊的な祝宴を味わうことだけを目的として、数ヶ月にわたり頻繁に訪れていたある日、忘れがたいある午後、私は主から召された。それは1934年8月9日のことであり、私は驚きから抜け出せないまま、神の御言葉の伝達者として仕えるために、印を授かり、油を注がれたのである。

。その至高の瞬間、私の心は深い感動と、最も高貴で計り知れない感情に包まれました。被造物に対して無制限の権威をお持ちである御方に、この崇高な瞬間に、私が何をお断りできましょうか？

私の運命はあらかじめ定められていたのです。その日以来、私はこの重く、また繊細な務めに人生を捧げることにのみ生き続けてきました。

数ヶ月にわたる準備期間——それは同時に私の肉体の完全な回復ももたらした——は、神の師の「言葉の担い手」としての訓練に充てられた。私はその時から、1950年12月31日、神性の光がこの形での顕現を止めたその日まで、心身を捧げてその師に仕えたのである。

。私たち「御言葉の伝達者」が、あの年、押し寄せる群衆と戦った忘れがたい闘いの日々において、印象、そして経験について語ろうとすれば、何巻もの本を埋めることになるでしょう。なぜなら、私たちの歩みは、最も驚くべき出来事の絶え間ない連続であり、ここ

で私に与えられた限られた紙面の中でそれらを語り尽くすことは不可能だからです。

しかし、私たちの準備において、私たち自身の口から流れ出た御言葉以外に頼るべき書物はなかったということを強調することは、極めて重要です。なぜなら、神の御言葉を可能な限り忠実に受け入れるために、私たちの心にいかなる影響も入り込むことを許してはならなかったからです。私たちが謙虚であり続けたとき、主は御自身の民の前で、愛と御心によって私たちを際立たせてくださいました。しかし、一度でも虚栄心や利己心に支配されてしまうと、主は御自身の正義をもって私たちに触れ、しばらくの間、御霊の導きを取り去られました。それは、主なしでは私たちには何もできないこと、つまり主なしでは私たちは何者でもないということを、私たちに示すためでした。

1950年末の師による最後の啓示以来、私は、御言葉の伝達者としての使命を果たしていた間、年々自らの内に抱いていたあの独特の感覚を、二度と味わうことはなかった。

その日から、多くの兄弟たちが、主が私たちに与えてくださった、幸いにも記録されていた、できるだけ多くの啓示や啓示を収集するという任務に専念しました。それらをもとに一冊の本が編纂され、一般に公開されることとなりました。そして今に至るまで、この本は、マスターが現在および未来の人々に、愛と光、正義と平和の贈り物として残した「真理の水」を、人類が飲み干すことのできる源となっています。

私は、この形での主の啓示の期間中、不遜ながら主の御言葉の伝達者であった者として、証言を求められ、この文章をもってそれに応えるよう努めました。私は、自分に可能な限りの誠実さを尽くし、この証言が、この本を手取る人々の心に信頼と信仰を呼び起こすきっかけとなることを切に願いながら、これを記しました。この本には、神聖なる師が、その慈愛により、この時代の人類に向けて、私のような単純かつ不適格な仲介者を通じて啓示されたメッセージが収められています。

同時に、私は心の底から、主の名において、ドイツの兄弟姉妹たちに兄弟愛に満ちた挨拶を送ります。マスターは、その人間である媒介者たちを通じて、彼らの素晴らしい霊的目覚めを私たちに示してくださいましたのです。」

教え 242

1. 人類の苦痛が厳しく、その道が苦難に満ちているこの時代において、あなたがたが自らの遺産を発見できるよう助けるために、私があなたがたに近づこうとしたのは、私の意志であった。

2. 顔を振り返り、あなたがたが歩んできた道をよく見よ。その道に、多くの者が戦慄を覚える。まさにその道を、私はあなたがたに再び歩ませるつもりである。しかし、それはあなたがたがそこで汚れを受けるためではなく、道に迷った者たちを救うためである。

3. 弟子たちよ、あなたがたの間にある私の臨在を活かし、魂の中に私の平安を宿し、それを周囲の人々に実感させてあげなさい。

4. この「第三の時代」における私の教えは、あなた方を霊的な停滞から引き出し、霊的な道において大きく確かな歩みを踏み出させるであろう。

5. 私は、あなたがたに、私の啓示があなたがた自身の知性を通じて行われるという恵みを与えた。それは、あなたがたが私の神性にふさわしいと感じられるようにするためであり、また、あなたがたが私の言葉を伝える能力を与えられ、その言葉の周りに大勢の人々が集まったという認識のもとで、明日、この声が聞こえなくなったとしても、私の言葉があなた方の存在に深く刻み込まれていることを知っているからこそ、闘いの前に心が挫けることがないようにするためである。

6. 私が今、あなた方に託している種を大切に守りなさい。私が決して子を相続人から外すことはなく、その子が自らの悪行によって、次第に自ら相続権を失っていくのだということを悟りなさい。

7. 人々が説明や証しを求めてあなたの戸を叩くとき、隠れたり、「どうすればいい？ 何と答えればいい？」と迷ったりしてはならない。

8. あなたがたは、穏やかな心と力強い声でわたしについて語り、わたしがあなたがたに与えた武器、すなわち慈悲、愛、真実をもって、わたしの御名を擁護しなければならない。

9. それゆえ、わたしはあなたがたのそばに留まり、長い間自らを明らかにしてきた。それは、わたしの多様な教えがあなたがたを照らし、わたしの奇跡があなたがたの信仰に火をつけるためである。わたしの言葉の真意は、あなたがたに以前の宗教的狂信を忘れさせた。そして、人々があなたがたを詮索したとしても、彼らはあなたがたの中に、真の霊的な礼拝の素朴さしか見出さないだろう。

10. 私の言葉は、それを聞くことのできる様々な集会所に、川のように溢れ出ている。それは、あなたがたが最大の闘争と最も厳しい試練の時代に、教えなき状態になることのないようにするためである。しかし、もはや私の言葉があなたがたの間で聞かれなくなる時が、すでに近づいている。

11. この恵みから切り離されることを恐れてはならない。私が、初めの時代から、霊と霊との対話に向けてあなた方を準備してきたことを思い起こせ。

12. どの時代も、あなたがたの霊にとって新たな教訓であり、進化の道におけるさらなる一歩であった。

13. 私は、多くの代弁者を通じて私の声を響かせることで、世界に平和のメッセージを伝えている。そして、いつの時代もそうであったように、私の教えはあなたがたの魂を完成させなければならない。

14. もし人間に魂がなく、完全に物質的な存在であったなら、その使命と運命は最後の息を引き取る瞬間に終わっていただろう。しかし、人間の中には不滅の何かが存在する。それゆえ、人間は戦い、「目覚め」続け、永遠へと視線を向けるのである。

15. わたしの言葉は、あなたがたを明日の世界——すなわち、わたしのメッセージが徐々に理解されるようになる時代——に生きるために備えさせるものである。その時、あなたがたは、わたしがずっと以前に予告していた出来事を、わたしが予見していたことに気づくだろう。

16. 私の教えは戦い、人々の心の中で真の戦いを引き起こすだろう。人々が利己的な生き方を固執する一方で、教えは彼らに、慈悲と愛のないところには平和も存在し得ないことを理解させるだろう。

17. 私の霊的な教えは、貧困や屈辱の中で抑圧されて生きている人々だけのためのものではない。それには、様々な分野で人類を導き、統治している人々の魂と知性を正しい軌道に乗せるという役割もあるのだ。私の言葉は、すべての人々を包み込む高貴な感情へと呼びかけるものである。そうすることで、あなた方は一人ひとりに宿るより高い使命を理解するようになるからだ。

18. 人々は、心に憎しみや利己心、悲観主義を抱く代わりに、善を行いたいという願いを持ち、正義の勝利への希望を育むようになるでしょう。霊性化はますます広まり、あなた方は兄弟姉妹のように互いを愛し合うようになり、それによって強大な力を形成するでしょう。その力の前では、あなた方を戦争へと導くあらゆる状況は、無に帰してしまうでしょう。

19. わたしはあなたがたを罰するわけではないが、わたしは正義そのものであり、その正義として、わたしの戒めに背く者すべてに、その正義を実感させる。なぜなら、永遠なる方は、誰も変えることのできない御自身の律法をあなたがたに知らしめたからである。

20. 見てごらん、人が厳しい試練に直面したとき――計り知れないほど深い奈落の底に落ち、愛する者を失って妻が泣き、子供たちが飢え、家が悲しみと苦難に沈んでいるのを見たとき――その不幸に動揺し、絶望し、祈ったり自分の罪を悔い改めたりする代わりに、「どうして神は私をこのように罰するのだろうか」と言って私に反抗する。その一方で、神聖なる御霊もまた、御子たちの苦しみゆえに泣いておられ、その涙は愛と赦しと命の血である。

21. まことに、あなたがたに告げる。人類が到達した発展の段階において、その状況の改善は、わたしの慈悲だけに依存するものではない。それは彼ら自身の犠牲によるものであり、わたしの罰によるものではない。なぜなら、わたしの律法と光は、あらゆる霊の中に輝いているからである。わたしの正義は、あらゆる雑草を根こそぎ引き抜くために降りてくるものであり、自然の力さえも、この正義の執行者として現れる。そうすると、すべてが人間を根絶やしにしようと結託しているかのように見えるが、それはあくまで人間の浄化のために行われているに過ぎない。

しかし、ある者たちは混乱に陥り、「これほど多くの苦痛を耐えなければならぬのなら、そもそもなぜ私たちはこの世に生まれてきたのか」と言う。彼らは、苦痛も罪も私から来るものではないということを考えもせずに。

人間は、正義とは何か、贖罪とは何かについて無知のままにすることに對して責任を負っている。それゆえ、まず反抗が生じ、その後には神への冒瀆が続くのである。私の教えを深く探求し、私の律法に従う者だけが、もはや父に対して非難を投げつけることはできなくなる。

22. 霊魂とは、神聖な霊から生まれた火花であり、様々な肉体を介して試練にさらされている。あなたがたがすでに達成したその発展のおかげで、この時代において、私の霊的なメッセージが霊魂に直接届き、理解されることが可能となっている。

万物が完成に向かっていく中で、あなた方もまた発展していくのは当然のことである。どうして、先祖たちが捉えていたような、あれほど限定的な方法で、今もなお神を想像し続けることができるのか。あなた方は、従うことを義務づけられていた儀式や規定に従って行動していた人々のように、もはや生きたり考えたりすることは

できなくなるだろう。もはや、彼らのように、靈的な事柄に向き合うには自分たちが未熟すぎると考えることはできません。

23. かつて人々は、物質的な教会を建立することで魂の救いを求め、外的な礼拝形式の実践を通じて魂の浄化を図ろうとしていたが、あなたがたはもはや、そのような狂信と無知による停滞状態に留まってはならない。そうすれば、あなたがたの神の偉大さを理解し、見出すためにあなたがたが備えている能力が、あなたがたの内面で衰えてしまうからである。

24. わたしはあなたがたにこう言った。「心の奥底に意識を集中しなさい。そうすれば、肉体の目ではなく、霊の目をもって、無限で測り知れないものを仰ぎ見ることができるだろう。そうすれば、わたしの慈悲から受けたこの計り知れない恵みを前にして、物質的な捧げ物によって感謝の気持ちを表す必要は、もはやなくなるだろう。」

25. あなたがたの愛に満ちた思いと行いが、あなたがたにとって最善かつ最も尊い捧げ物となるでしょう。

26. 天の御国を得たいと願うなら、あなたがたの善行が記された一冊の書を作りなさい。そうすれば、あなたがたは自分自身に対してのみ責任を負う者となり、もはやその責任を他者に転嫁することはなくなるでしょう。

27. 私が、かつてあなたがたに示したのと同じ道、すなわちあなたがたの未来のための確固たる基盤となる道を示した以上、あなたがたは、あたかも新しい教えであるかのように見える新たな法律や戒律を制定することには警戒しなければならない。なぜなら、それらは人々を私の言葉の真意から遠ざけてしまうからである。

28. 私はいかなる宗教団体とも対立するものではない。それぞれの団体は、それ自体で責任を負うものである。私はただ、完全なるものを示すだけである。完全になりたいと願う者は、私に従うべきである。

29. 私は、あなたがたに魂の救いを得ることを教えるために、私の血を流した。試練の時が来れば、あなたがたもまた、イエスの言葉がいかに正しかったかを悟る時が近づいている。

30. わたしの光は、この質素で取るに足らない集会所の陰に集う人々の魂の中に現れている。それらは、疲れた旅人にとっては木のように、砂漠を横断する者にとってはオアシスのようである。その光は彼らを照らし、慰める。

31. 私があなたがたを赦し、戒めるその愛の中に、私は自らを現している。あなたがたが自らの意志のままに生き、その過程で絶え

ず父を傷つけていたときでさえ、私はその罪深い生活の糸を断ち切ることはせず、あなたがたに空気もパンも拒むことはなかった。私はあなたがたを苦痛の中に置き去りにすることもなく、あなたがたの嘆きを聞き流すこともなかった。そして、自然は依然として、その豊穡と光、そして祝福をもってあなた方を包み込み続けた。このようにして、私は人々に私を明らかにし、自らを現すのである。この地上において、この愛をもってあなた方を愛せる者は誰もおらず、私がそうするようにあなた方を赦せる者もない。

32. あなたがたの魂は、私が永遠の昔から育て、磨き上げ、最も美しい花と最も完璧な実を結ぶまで導いている種である。どうして私が、あなたがたを枯れ果てさせたり、嵐の猛威にさらしたりできようか。

33. すべての被造物の運命を知る唯一の存在である私が、どうしてあなたがたの道の途中で見捨てることなどできようか。

34. わたしは、あなたがたが歩む道において、口には出されない嘆きの声を聞き取り、笑顔の裏に隠された悲しみを察し、科学では癒やされない病を治すことを学べるよう、多くのことをあなたがたに啓示している。

35. 今日、苦しむ人々があなたの道に現れたなら、あなたが受けた恵みのほんの一部を彼らに分け与えなさい。しかし、時間を無駄にしてはならない。そうしなければ、あなたを「霊的な谷」へと招く永遠の鐘の音が、不意にあなたを襲うことになるだろう。なぜなら、あなたは逃した機会を深く後悔することになるからだ。

36. 今すぐ、あなたの魂の平安を築き上げなさい。

37. 弟子たちよ、私の言葉は、しばしばあなたがたの間で裁きとなるものであった。しかし、その核心において、あなたがたはこの時代にあなたがたを再生へと導いた実の甘美な味わいを見出したのである。

38. あなたがたが頑なに罪の中に留まっていたとき、私は厳しく責任を問った。しかし、やがてあなたがたは、あなたがたを救おうとする父の御心を見出した。こうして、「肉」の反抗心は、次第に霊化へと道を譲っていった。

39. 私があなたがたに命を与えたその愛について、人々はほとんど証拠やしるしを示さない。あらゆる人間の感情の中で、神の愛に最も似ているのは母性愛である。なぜなら、そこには無私無欲、自己犠牲、そしてたとえ自己犠牲を意味するとしても、子を幸せにしたいという願いがあるからだ。

40. しかし、再び人々の心から、この世界を変容させる愛が溢れ出るだろう。この愛は、私の聖霊によって鼓舞されるものであり、聖霊はその光を人類に降り注ぎ、人類を深い眠りから目覚めさせ、人々が覚醒した感覚をもってこの新たな日の到来を享受できるようにするのだ。

41. この時代にわたしに従いたいと願う者は皆、わたしの足跡をたどるために何かを捨てなければならない。ある者は財産を手放し、ある者は偽りの恋愛関係を忘れるだろう。ある者は高貴な住居や玉座から降り、またある者は自分の祭壇を離れるだろう。

42. 残されるのは、情欲、虚栄、そして儚く無意味な快樂であ。

43. わたしは、あなたがたの魂を救うために、わたしの愛をもって支えながら、その魂を渴望してやって来る。私が約束の地の門を開いたのは、あなたがたの肉体そのものがそこに入るためではない。あの白く輝く都は、まるで最も美しい祝祭の衣をまとったかのように、その功績と人生の大きな戦いで勝ち取った勝利によって、その地を勝ち取った「予告された者」の到来を待ち望む住まいであり、それこそがあなたがたの霊である。

44. わたしは、あなたがたが永遠の故郷にたどり着くために必要な功德をどのように獲得すべきかを教えている。わたしは、花の香りのようにわたしのもとへ昇っていく、その深く素朴な祈りをもって、世界のために祈るようあなたがたに教えてきた。わたしは、あなたがたが様々な形で慈悲を実践できるよう、能力と霊的な賜物を授けた。私は、あなたがたが喜びと勇気を持って生き、試練を乗り越えられるよう、霊的かつ道徳的な力を与えました。あなたがたが私の弟子であると名乗る喜びと、自らの模範を通じて私の教えを広める満足感を感じられるよう、私はあなたがたの刷新と改善への決意を強めてきました。

45. あなたがたの魂は、わたしの臨在を受け入れる準備を整えた。時間が経つにつれて、あなたがたは地上の生活にますます関心を失い、霊的な未来に関心をもち始めていることが、わたしにはわかる。

46. あなたがたが道のりで遭遇する苦しみや不運を、今や、足をわずかに傷つけるだけの小さなつまづきとして捉え、前進を阻む決定的な障害とは見なさなくなっています。今日、あなたがたは、人生の大きな危機のためにのみ、すすり泣きや涙を留めているので。

47. わたしの憐れみがあなた方を導き、あなた方はますます賢明になっていく。あなた方はもはや、わたしの言葉を聞きながら、その内容を何も心に留めず、ただ気分を晴らすだけで満足していた者

たちでも、主から物質的な恵みを懇願するときだけ注意を払っていた者たちでもない。

48. 今や、あなたがたは師を慕う真の弟子としてやって来ており、その者としてわたしを見出している。かつてわたしが「わたしは道である」と言ったように、今日、わたしはこう言える。「わたしは、あなたがたがわたしのもとへ登っていく天の梯子である」。なぜなら、今やあなたがたは、わたしの光の中で、高みへと舞い上がり、わたしに近づき、祈りを通じて霊的に師と語り合う道を見出したからである。

49. 今や、あなたがたは自分自身の内なる、あなたがたが存在し始めて以来、私が常に住まっていたその場所で、私を見出すことができる。あなたがたは自らの内面を見つめ、愛の祭壇、謙遜のな捧げ物、そして最も激しい嵐でさえも消すことのできない炎――すなわち信仰――を宿す燭台を備えた聖所を発見したのだ。

50. あなたがたの魂は、使者であり、霊的な使命を担う者であった。太古の昔から、それは隣人を救い、祝福するために定められていた。

51. あなた方の魂にとって、神を身近に感じ、触れて、見つめ、語りかけるために、神の像を創り出していた時代は過ぎ去った。

52. あなたがたは、創造主の真の姿を自らの内に宿していることを悟ったため、すでに長い間、そうした像や像、象徴に背を向けてきた。なぜなら、あなたがたは、生命、愛、精神、意志、理性、力、霊的な永遠といった、神性のあらゆる能力と特質の一部を備えているからである。

53. この時代、私はあなたがたの魂に理解され、愛され、また模範として仰がれることになる。今や、私の光は、人々にとって不明瞭で理解しがたかったすべてのものを明らかにしている。

54. 私は、あなたがたの知性を通じて語りかけてきた。その際、私の神聖な輝きの光は、人間の言葉へと変換されていた。しかし、知っておいてほしい。語り手と聴衆の群れが、私を受け入れる準備を整えたとき、私は神聖な本質そのものとして自らを顕現したのだ。しかし、もし私の子供たちが自らを高め、私のための聖所を準備することができなかったならば、神聖な光線は魂の上に漂ったまま、魂を完全に貫くことはなかった。

55. 私は、この最後の時期において、まだ多くのことをあなた方に啓示し、教えよう。私の遺すものは偉大なものとなるでしょう。私の秘められた宝庫には、一人ひとりに定められたものがまだ数多く残されています。たとえあなたがたが「選ばれた者」の仲間であ

っても、全員が同じレベルの理解に達するわけではありません。ある者は他者よりも高い段階に立っているからです。このことを理解した上で、誰かを急かそうとしてはなりません。親切で寛容であり、すべての者がその使命を果たせるよう助け合いなさい。

56. あなたがたは現在、予期せぬ形で訪れる試練に備えている。その試練がどのようなものになるかについて、預言的な夢や霊的な幻を通じて、象徴的な形で示唆を受けてきた。目を覚まし、祈り続けなさい。なぜなら、私はあなたがたに事前に警告するからである。

57. あなたがたは、わたしの業と、あなたがた自身の使命を前にして、自分にはその価値がなく、未熟だと感じている。しかし、まことに、あなたがたに告げる。あなたがたの不完全さによるあらゆる荒さは、わたしがあなたがたに告げる試練という彫刻刀によって、滑らかにされよう。

58. すべてのものがわたしについて語り、わたしは自然のあらゆる現象を通してあなたがたに語りかける。かつては聞き取られなかった呼び声が、今や聞き取られ、理解されるようになる。全被造物は騒然となり、震え、揺さぶられ、宇宙に神の正義が存在することを証しするだろう。しかし、裁きを受けた後、人々はいつもの軌道に戻るだろうが、彼らは完全性へと一步を踏み出したことになる。それは、この人類の目覚めであり、新生となるだろう。

59. 美德の光は、誰にも消されることなく、この世に輝き渡るだろう。理性は勝ち残り、愛はもはや単なる言葉にとどまらず、行動となる。主と奴隷という関係は徐々に消え去るだろう。全地球にわたり、わたしには弟子たちがおり、彼らは諸民族にとって光、平和、そして啓示となるだろう。

60. 人間の権力欲と利己主義によって不和の種となってしまったこの世界は、やがて、誰も所有者となることなく、すべての人によって分かち合われるようになる。なぜなら、創造主がすべての被造物をあなた方から取り戻される時、あなた方はすべての財産を喜んで手放すことになるからだ。

61. 人類は今、この光の時代が到来することに備えている。もしあなたがたが激しい試練に直面しているとしても、絶望してはならないし、ましてや神を冒瀆してはならない。祈り、「見張って」、耐え忍びなさい。神への冒瀆、呪い、悪口は、無知な者たちの口から発せられるだろう。あなたがたは彼らを赦し、立ち上がるよう教え導かなければならない。

そして、人々の絶望の只中に静寂が訪れたとき、あなたがたは語り、その言葉は聞き届けられるでしょう。その時、あなたがたは、

私から遠く離れ、私を侮辱していた者たちが、悔い改めによって、たとえ話の「放蕩息子」のように赦しを得る様子を目の当たりにすることになるでしょう。しかし、彼らに罰の代わりに赦しと慈しみが与えられたのを見ても、驚いてはならない。むしろ、この世に平和と愛の祝宴が繰り広げられるのを見て、喜びの涙を流すことになるだろう。

62. 人類の心の中から聖霊の神殿が無限にそびえ立つとき、その中心には新たな啓示が現れるだろう。そして、魂が上へと発展すればするほど、その啓示はより大きなものとなる。

63. 今、私は、さまざまな集いの場で私の声を聞くすべての人々を一つにまとめようとしている。あなたがたが一つになっていないのは、私を理解していなかったからだ。それが実現すれば、あなたがたは互いに愛し合うようになり、愛し合うとき、あなたがたは一つの心のように鼓動を合わせるだろう。

64. 理解の欠如は、あなたがたの理解力が表面的で弱く、常に地上の富に心を奪われていることに起因している。あなたがたは、最初に手に入れたもの――すなわち、心のわずかな安らぎ、確かな住処、少しの身体の健康、愛する人々の温かさ、そしてわずかな金銭――で満足してしまっているのだ。

65. 私は、あなたがたに地上の富を軽んじよとは言わないが、聖霊の賜物よりもそれを優先せよとも言わない。

66. わたしの道において、あなたがたの魂の高みへの発展を求めなさい。しかし、この世の諂いや栄誉は避けなさい。あなたがたの間では、個人の名ではなく、民全体としての行いが称えられるべきであることを知っておきなさい。良い種を蒔いた者の記憶は尊重され、祝福され、その模範は手本として用いられるべきである。これこそが、この地上におけるその者唯一の記念碑となるのである。

わが平安があなたがたと共にありますように！

教え 243

1. わが愛の炎が、あなたがたの心に温もりを与え、魂の中に燃え盛る炎を灯すために、あなたがたのもとへ降りてくる。なぜなら、あなたがたの内面を照らすその灯は、ある者たちにおいては消えかけており、またある者たちにおいてはすでに消え失せており、彼らはわが目に、ただ無知による不安を映し出しているだけだからである。しかし、この瞬間、わが光はすべての人々の内に輝いている。

2. なぜ、歩み始めた道を後退したり、立ち止まったりするのか。前進せよ、弟子たちよ！

3. 人類はすでに、私の使者たち、すなわち「良き知らせ」の伝達者を待ち望んでいる。その使者たちとは、第三の時代において私の臨在と私の言葉を証しする、あなた方である。人々は、さまざまな宗教を通じて私にたどり着くことができるだろうか？ 私が言っておくのは、人類の向上に向けた道はただ一つだけであり、それは私が第一の時代に私の律法の中で示した道である——第二の時代に私の血によって封印され、この時代に私の聖霊によって照らされている道である。

4. 私の律法全体は、神への愛と隣人への愛という二つの戒めに要約されている。これこそが道である。

5. 宗教とは、魂を真の道へと導く小さな脇道であり、その道を通して魂は一步一步昇り続け、最終的にわたしのもとへ至ることができる。人々が地上で異なる宗教を信奉している限り、彼らは分断されている。しかし、ひとたび愛と真理の道に踏み出せば、彼らは一つとなり、その唯一の光と一体となるだろう。なぜなら、真理はただ一つしかないからである。

6. しかし、この地を旅する巡礼者たちは、立ち止まり、眠り込んでいる。愛と真理は人々の心から消え去ってしまった。それゆえ、私はあなたがたに語りかけ、使者を用意した。彼らは、自然の力が解き放たれ、その威厳ある呼び声をもって魂や感情、知性を震撼させるという任務に専念する前に、迷い出たり疲れ果てたりした者たちを、愛と慈悲をもって目覚めさせ、立ち上がらせるのである。

7. 霊の教えに対しては、その敵たちが立ち上がり、最良の武器を手に取り、全力を尽くして、この啓示に反する証拠を探し求めるだろう。しかし、まことに、わたしがあなたがたに告げる。この時代に輝き出した光を消し去ることのできる人間の力は存在しない。かつて人々が、ゴルゴタ（ ）での処刑によってさえ、キリストの声を

沈黙させることはできなかったのと同じである。なぜなら、そこで彼らが流した血は、永遠に語り続けているからである。

8. 詐欺師や魔術師と呼ばれることを恐れてはならない。こうしたあらゆる侮辱の言葉は、あなたがたの師に対しても投げつけられたものであり、また、不信仰者や墮落した者たちが、わたしの預言者や使徒たちに付けた呼び名でもあった。しかし、主とその御者たちの真理が勝利を収めたとき、かつて最も激しく冒瀆していた者たちは、その後、パウロのように、最も深く悔い改め、最も熱心な信者となったのである。

9. 第三の時代の私の使徒の群れの中には、苦難の道を歩み、木製の十字架の足元まで師に付き添い、罵声を聞き流し、嘲笑に耐え抜いたあの女性もいます。今、第三の時代において、彼女は忠実な「働き手」であり、強い魂の持ち主であり、戦いの兵士となってきました。それゆえ、私はこの時代に、彼女を私の食卓の席に招いたのです。なぜなら、使徒としての地位は、性別を問わず、魂に根ざしているからです。

10. 共に働き、約束の地に至るまで、真理の道を歩みなさい。

11. 今こそ、イスラエルが、その愛の行いを公にすることなく、謙虚に働きに着手すべき時である。左手は右手が何をしているかを知ってはならない。主の弟子であることを誇示してはならず、また、お世辞を求めたりしてはならない。この指針に従えば、霊的な軍勢は真の軍隊として結集し、一つの意志、一つの戦線を形成するだろう。その戦いは、無知、罪、そして宗教的狂信と戦うことを目的とする。

12. この民、すなわち人間と霊的存在からなるこの軍勢は、来るべき時代においてこの業の守護者となり、教えと律法が歪められることのないよう、また人間が真理に敵対することをやめるようにするであろう。

13. わが教えの陰の下には、そこから栄光に包まれた者たちが同胞の魂を支配するような玉座は築かれることはない。主の座を奪おうとして、誰も戴冠されることも、紫のマントをまとうされることもない。また、裁き、赦し、断罪し、あるいは人々の行いに対して判決を下すような告解司祭が現れることもない。正義に満ちた完全な裁きの座から、魂を裁くことができるのは、私だけである。

14. わたしは、人々を正し、教え、導く者を遣わすことはできるが、裁き、罰するために誰かを遣わすことはしない。わたしは、人々の羊飼いとなる者たちを遣わしてきたが、主人や父となる者たちを遣わしたことはない。霊において唯一の父は、わたしである。

15. 霊化はあなたがたの魂に浸透し、来るべき世代へと受け継がれていく。彼らは自らの体の中に、良心の戒めに従順な器を見出し、神聖な靈感を受け取るための大きな明晰さを持つようになる。

それらの世代からは、霊的な教えを説く偉大な師たち、そして明晰な知性と高い知性を備えた偉大な科学者たちが現れるだろう。その道徳と徳によって模範となる家長たちが現れ、真理の預言者や使徒たちが現れるだろう。

16. 私があなたがたに「備えよ」と言うのは、あなたがたが、従順、霊性、兄弟愛、そして隣人への愛の行いという、あなたがたの模範の証しとして、子供たちを残せるようにするためでもある。

17. そうすれば、あなたがたの名前は、来るべき世代によって祝福され、記憶に留められることになるだろう。彼らは、あなたがたの闘いの足跡、善行、そして見習うべき模範に基づいて、あなたがたを愛するようになるのだ。もしあなたがたが、子供たちが傷つけないように、アザミや茨の道をきれいに取り除いてあげる者であるならば、どうして子供たちから認められないことがあろうか。それゆえ、道の障害物を無関心に見過ごし、足かせを取り除かずに通り過ぎてはなりません。なぜなら、あなたがたの後に続く者たちは、その障害物や茨にぶつかるたびに、あなたがたを非難し、中にはあなたがたを呪う者さえ現れるでしょう。

18. あなたがたは、私の教えに従って自らの行いを完成させなければならない。そうして初めて、あなたがたの後に続く者たちは、多くの人にとって不可能と思われることを、あなたがたが成し遂げ、実行できたことを理解するだろう。霊性主義が単なる空想でも、過度に先進的な教えでもなく、魂がその発展の段階においてそれを理解し実践できるようになった適切な時期に、人類の間に現れたものであることを、あなたがたは証明しなければならない。

19. 今こそ、エリヤの霊が全宇宙に輝き、すべての世界、すべての道、すべての魂を照らし、眠っている者たちを目覚めさせ、死者たちをよみがえらせ、膨大な人々の群れの中から、太古の昔から人類に対する主の使命を帯びてきた「14万4千人の印された者たち」、あるいは「封印された者」に属する者たちを見出している。彼らは太古の昔から、人類に対する主の使命を帯びてきたのである。

20. こうして、私は今、かつてイスラエルの十二部族に属していた魂たち―その食卓には、かつてルベン部族（）に属していた者たちが座っていた―から、レビ部族やゼブルン部族の者たちと共に、この民の新しい家族を形成した。それは、境界、隔たり、分裂を消し去るためである。そこに神の正義がある。

21. 集会所の名声を高めようと努めてはならない。たとえそれがあなたたちの集会所であっても同様である。むしろ、あなたたちの同胞が私の名と教えを認め、尊ぶように努めなさい。1950年に私が最後にあなたたちに語りかける時、それは人々をグループや集会所ごとに分けて迎え入れるためであってはならない。私は、どの集会所が私の教えをより良く実践したか、あるいはどの集会所が私の意志に従うことを知らなかったかといったことを一切問うことなく、私の「働き手」たち全員を受け入れる。

22. 私は、各集会所が抱える「働き手」の数が多かろうと少なかりょうと、その数を数えることはない。私は一人ひとりの心から捧げられる献身を受け取り、それらすべてを一つにまとめ、その中に私の聖所を築き上げるのだ。

23. エリヤはあなたがたの道を歩み、その力によって、あなたがたは不信仰者、狂信者、そして唯物論者たちとの戦いにおいて勝利を収めたのである。

24. 彼は、分裂によって民が分断されていた「最初の時代」に、民を一つにまとめた。そして現代において、彼は愛の光をもって、再びあなた方を霊的に一つにまとめたのである。

25. 当時、民は二つの王国に分かれていたことを思い出してください。十部族が一方に、二部族がもう一方に属していました。大多数の民は偶像崇拜に陥り、バアルを崇めるようになっていました。そこで、エリヤが彼らの間に現れ、異邦人の前でわたしの栄光、存在、そして力を明らかにするために、彼らに次のように語りました。「わたし、エリヤは、あなたがたが拒絶し、敵対し、その御目の前で偽りの神々や偶像を立てた、あなたがたの神エホバの名によってやって来た。わたしは、あなたがたに、それらの神々の力を試すべきだと告げるために来た。そして、わたし自身は、わたしの主であるエホバの御臨在を誓いとして掲げ、その祈りが聞き入れられる者が、真の神を所有している者であると示す。」

26. バアルを崇拝する者たちはこれに同意し、全焼のいけにえの祭壇を築き、自分たちの神を呼び求め、その存在と力を証明するために火を降らせてくれるよう願った。日夜を問わず、祭司たちや大勢の人々は踊りや祝祭をもって偽りの神に祈りを捧げたが、全焼のいけにえの祭壇は依然として何の変化もなかった。

そこでエリヤは、神の民の十二部族を表す十二個の石でできた祭壇の上に薪を積み上げ、エホバに呼びかけ、こう言った。「主よ、あなたのしもべである私は、あなたを拒んだ者たちの前に、あなたが御自身を現してくださるようお願いします。そうすれば、彼らは

再びあなたを礼拝し、賛美するでしょう。」すると、父なる神は嵐の真っ只中に御姿を現し、そこから稲妻が走り、預言者の全焼の祭壇に降り注ぎ、それを燃え上がらせた。

そこで、偶像崇拜者たち、惑わされた者たち、不忠実な者たちは、エリヤこそが真の神の使者であり、あらゆる悪を滅ぼし、その光によって闇を照らす「火の預言者」であることを悟った。

27. 彼こそが、私があなたがたのところへ来るための道を整えた者である——この時代に、かつて十二部族に属していた魂たちを一つにまとめた者である。今日、あなたがたは岩の破片のように分断されているが、新しい犠牲の祭壇の上に、私の神性の普遍的な光線を降り注がせるためである。しかし、この光は、あなたがたを永遠に一つにするために戻ってきたのである。

28. 今日、私はあなたがたにこう告げる。「最初」の者も「最後」の者も、弟子も若い生徒も、熱心な者も不信仰な者も、すべて歓迎する。

29. 私はあなたがた全員を準備している。なぜなら、世界はあなたがたに、私の新しい啓示の証拠を求めることになるからだ。

30. この地上には多くの宗教団体があるが、そのどれ一つとして、人々を一つにまとめたり、互いに愛し合うようにさせたりすることはできない。この業を成し遂げるのは、わたしの霊の教えである。世界がこの光の進撃に抵抗しても、それは無駄である。

わたしの弟子たちへの迫害が最も激しくなる時、自然の力が解き放たれるだろう。しかし、わたしの働き手たちの祈りによって、それらは鎮められる。そうして、世界は、わたしが彼らに与えた権威の証しを目の当たりにすることになるのだ。

31. 私があなたがたをこれらすべてのものから引き上げてあげた後、世の苦しみや混沌に動揺することのないよう、眠ってはならない。

32. もっと良い別の時が来るだろうと期待して、この時間を無駄にしてはならない。なぜなら、定められたその瞬間が訪れ、「霊的な谷」へと戻ることになるからだ。たとえその時、使命を全うするために寿命の延長を願ったとしても、父の正義に直面することになり、その正義は「この機会は過ぎ去った」と告げるだろう。

33. あなたがたには、あなたがたの中にいる疲れ果てた旅人や、悪徳によって力を失った罪人を受け入れるという使命があることを悟りなさい。、あなたがたの模範、助言、そして教えによって、彼らは再生を見出すことになるからだ。

34. わたしは裁き人としてあなたがたのところに来るのではない。あなたがたが、この世の苦しみを和らげるために、慰めを求めてわたしのところに来るのを、わたしは見ているからだ。しかし、あなたがたが、わたしがあなたがたにしたのと同じことを、隣人に対して行えるよう、わたしはあなたがたを教え導くのである。覚えておきなさい。私がこの霊的な遺産をあなた方に託したとき、私はこう言った。「困っている隣人に与えなさい。もしあなたが彼らのために身内を顧みないことになっても、私が彼らの面倒を見るか」

35. この教えは、殺戮の武器によって守られるべきではない。私あなたがたに託し、そのために戦わせる唯一の武器は、光に満ちた言葉と愛の行いである。これらを正しく用いる者は、悪意や耐え忍んできた攻撃が、それらの前では無に帰していくのを目にするだろう。

36. もしあなたがたが罪人を善へと導こうとするならば、彼が改心しない場合にわたしの裁きや自然の力、あるいは苦痛をちらつかせて脅すようなことはしてはならない。そうすれば、彼に私の教えに対する嫌悪感を植え付けてしまうことになるからだ。愛と慈悲と赦しそのものである真の神を示しなさい。

37. しかし、この第三の時代に聖霊の光が注がれたのは、あなた方だけではない。この光は、すべての人間の内側と上に、すべての魂の中に存在する。この時代が、あなたがたにとって向上するための貴重な機会となったのと同様に、あらゆる宗教団体の聖職者、司祭、牧師たちにとっても、過ちを正し、父の御心を果たすための機会となっているのである。

38. わたしに喜ばれるよう努めなさい。そのためには、あなたがたは隣人に好意を示さなければならない。あなたがたが、真実な愛の行いによってわたしの真理を証しするとき、彼らは福音を注意深く聞き入れるだろう。

39. 1950年以降、あなたがたはもはやこの形でわたしの言葉を聞くことはなくなるだろう。しかし、わたしはすでに、霊と霊との対話をいかにして得るかをあなたがたに教えてきた。わたしの教えを高め、それを正しく実践することによって、その対話にふさわしい者となりなさい。あなたがたは、わたしの靈感や新たな啓示を欠くことはないだろう。

40. あなたがたが集まる場所は、装飾で飾ってはならない。そのような装飾で私の神聖な御霊を喜ばせようとしているからである。私の臨在は、質素さと簡素さの中でより深く感じられるだろう。

41. わたしは、わたしの教えを純粹に理解し、解釈できる力強い人々を準備する。そうして、彼らが人々の群れにとって励みとなり、子供たちが彼らの中に良き手本を見出せるようにするためである。なぜなら、この民は、兄弟愛、団結、そして調和の種となるべきだからである。

42. 私が自らを現すこの時代の終わりに、あなたがたが互いに愛し合う家族を築くこと——まるで本当の兄弟姉妹のように、一人の痛みを他の者が共に感じ合うこと——それが私の意志であった。あなたがたは皆、同じ父から生まれたのだということを理解せよ。もしあなたがたがこの理想に到達すれば、その力は誰にも打ち勝てないものとなるだろう。

43. 自分の賜物の価値を判断したり、兄弟姉妹の賜物と比較したりしてはならない。「ある者には他者よりも多く与えられている」などと言ってはならない。なぜなら、一人ひとりにそれぞれの賜物と使命が与えられているからであり、あらゆる被造物は、愛と不屈の精神の果実を、過ちや迷いの果実と同様に、徐々に刈り取っていくのである。あなたがたが私の業の中で果たす様々な任務には、正義、償い、そして報いも含まれている。しかし、それが主に対する功績によるものなのか、それとも負債によるものなのか、誰も知る由はない。

44. わたしの教えは、地上であろうと「靈的な谷」であろうと、あなたがたの魂にとって忘れがたいものとなるだろう。今や、その魂は成長の道のりで二度と反抗することはなく、父とつながっているゆえに、常に父の声を聞くことができるようになる。なぜなら、わたしは世の光であり、わたしのもとに来る者は滅びることがないからだ。

45. 人間の肉体と魂の結合は、私が成し遂げたものである。こうして私は最初の人間を創造し、初めから様々な啓示を通じて私の律法を明らかにし、主と隣人に対して抱くべき愛を彼に悟らせたのである。

46. わたしの教えによって、人類は自分たちが父の娘であることを認識するようになった。それゆえ、わたしはあなたがたに、人間同士の戦争には存在意義がないと告げるのである。創造主は、すべての人に思考し、感じ、理解する能力を与えたからである。しかし、すべての人が霊によって考えるわけではなく、ましてや、地上の情欲に流されてしまうため、自らの魂を大切にする者はさらに少ない。人間は、自分が私そのものの一部であり、「私の姿と似姿」に従って創造されたことを、常に自覚すべきである。

47. やがて人は、この惑星に一度だけでなく何度も訪れていることを知るようになるだろう。しかし、それはこの地で迷い、あるいは滅びるためではない。その時、人は、自分が持ち、これほどまでに愛しているその肉体は、魂がこの世に生きている間、魂と結びついている単なる道具にすぎないことを理解するだろう。

48. あなたがたは、この私の到来の証人であり、私の啓示と教えを受け取り、私の現れを目の当たりにしてきた。

49. 今日の多くの人々にとって、これらの教えは理解しがたいものであるが、それでもなお——時が来れば——彼らはあなたがたの言葉と行いを通じてそれらを理解するだろう。私の言葉は人間の思考を照らし、その光はすべての魂に届き、彼らを真理の道へと導き、狂信から遠ざけ、彼らを目覚めさせ、彼らの精神の声を聞かせるであろう。

50. 私は、時を経て、あなたがたのもとへ至るために様々な形を用いてきたが、ついにはイエスとして人間となった。今日、私があなたがたと共にいるこの在り方は、最も高次であり、同時に最も深遠なものである。なぜなら、あなたがたは、霊的な高揚と靈感を通じて、私を感じ、触れ、そして聞くことができるからである。

51. 人間の知性を通じて自らを明らかにするために、私は、私が語っている者や、私の言葉に耳を傾ける者たちの受容能力に応じて、自らを制限している。私の声を聞く者の中には、私を理解できない者もいれば、私の声を聞かずに理解する者もいる。今日、私の言葉を聞いたあなた方は、この第三の時代に、霊性化へと一步を踏み出すよう召された者たちである。

かつての時代にも、民は預言者たちの呼びかけに応じて立ち上がり、偶像崇拜を捨て去りました。あなたがたは今日に至るまで、伝統を守り続けてきた民でした。しかし、その本質の深みにおいて、あなたがたは私の再臨を待ち望んでいたのです。それは、内面的な謙遜、慈悲、そして愛の崇拜である霊性化のために、無益な伝統や無意味な儀式を捨て去るためでした。

52. 私はこのメッセージをあなた方に託す。あなた方はこれを海を越えて伝えていかなければならない。わが言葉は旧大陸を横断し、わずかな土地をめぐる兄弟殺しの争いに身を投じ、自らの魂の惨めさに気づくことさえできないイスラエルの民のもとにも届くであろう。あなたがたは、この世界が経験することになる試練を想像することさえできない。誰もが平和を待ち望んでいるが、それは自然の力がわたしを証した後になって初めて実現するのだ。

53. 人々はもはや、わたしの正義を恐れてはいない。戦争は残酷なものだったが、人類は生まれ変わろうとはしない。私が戦争によって人間の罪を罰しているわけではないのだ。もしわたしの正義がそれを許すならば、それは人間が清められなければならないからである。

54. 「神の子」と名乗る者は多いが、真に神を認識する者はごくわずかである。なぜなら、あなたがたは御霊によって私の神性を求めなければならないからだ。しかし、すでにあなたがたの間には、目覚め、再生、復活の時が訪れている。

種まきの後には収穫が訪れるが、それは単に人間の発展の産物であるだけでなく、わが天の力の御業でもある。あなたがたは身を整え、新しい世代が花開き、良き実を結ぶことができるよう貢献しなければならない。あなたがたの信仰が弱まらないよう注意せよ。なぜなら、1950年以降、あなたがたはわが教えの真理を証し、預言者としてそれを宣べ伝えなければならないからだ。

55. わたしの弟子ヨハネは、これから起こる出来事を見通していた。神の御命により、彼は未来を予見し、人類を救うためにそれを告げた。彼は、印を刻まれた者たちが救われるのを見た。あなたがたは印を刻まれた者たちの一員であり、滅びることはない。また、最後の避難所としてあなたがたのもとに逃げ込む者たちも、滅びることはない。

56. あなたがたの唇は、人類に私の言葉を伝える使者となるべきである。

57. イスラエルの民よ。わたしは、あなたがたを、病人を慈しみ、「油を注ぐ」ために、また、欠乏に苦しむ者たちのパンを増やし、同胞に平和をもたらすために、備えてきた。

58. 私はこの日、あなたがたが蒔いた種から収穫したものを吟味し、あなたがたが子供たちをどのように育てたか、そして次世代のために道を整えたかどうかを問うためにやって来る。

59. あなたがたは常に私の導きを求めており、私にこう問いかける。「この重要な局面、あるいはあの局面において、私はどう振る舞えばよいのでしょうか？」それに対し、私はこう告げる。私の言葉はこれらすべてを教えている。それを深く学びなさい。そうすれば、あなたがたが求めている答えをその中に見出すだろう。

60. あなたがたが歩む道は陰しい。しかし、私の律法の範囲内で行う一歩一歩、一つの行い一つ一つが、すべての霊性追求者が持つ目標へと、あなたがたを近づけていくのである。

61. あなたがたの償いの義務は大きく、その結果、その苦しみもまた大きい。しかし、ひとたび過ちを償い、魂の救済を勝ち取ったとき、その苦しみは無駄ではなかったこと、そしてあなたがたの運命は公正であることを理解するだろう。

62. なぜ、しもべが主に対してそうするように、互いに仕え合わなかったのか。仕える者は決して卑しい存在ではないことを理解せよ。その謙虚さが彼を高め、尊厳を与えるからである。私があなた方に与えたすべての使命、は、あなた方なら果たすことができる。あなた方の能力と力は、それを行うのに十分である。

私は、互いに愛し合い、いかなる私利私欲もなく善行を行い、隣人からの報酬を期待してはならないと、あなた方に告げた。なぜなら、一銭の金貨も、あなた方の愛や他者への犠牲の対価にはならないからだ。

63. 互いに赦し合いなさい。そうすれば、あなた自身にとっても、またあなたに不当な扱いをした者にとっても、安らぎを見出すことになるでしょう。憎しみや恨みの重荷を魂に背負ってはいけません。心を清く保ちなさい。そうすれば、平和の秘訣を見出し、わたしの真理の使徒として生きるようになるでしょう。

64. この日、あなたがたは、地上であなたがたと共にいた人々——両親、子供たち、あるいは兄弟姉妹——を偲んでいる。しかし、中には、私が彼らを「霊の谷」へと呼び戻したことを、深い動揺のうちに私に非難する者もいる。だが、私は彼らにこう告げる。あなたがたを結びつける愛の絆は、決して断ち切られてはいないのだ。あなたがたは皆、この宇宙の中に生きており、最終的な目的地に到達するまで、一つの段階から次の段階へと進んでいく。そして、そこであなたがたは皆、再び再会することになる。あなたがたが私のために祈っているあの存在たちは、死んだわけではない。彼らは生きており、その魂には、あなたがたよりも大きな明晰さがある。彼らは悟りを開いており、失われたどころか、苦しみの中での支えであり慰めであり、執り成し手であり守護者となっている。彼らと一つになりなさい。なぜなら、彼らは愛と御霊によって、わたしと結ばれているからだ。彼らは苦しみもせず、満足している。それは、わたしのもとへ来るために、成長し、完全になっていくからである。

65. あなたがたの執り成し手であるマリアは、その母なる愛と、魂の強さ、そして平安をこの世に注ぎ下している。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 244

1. 愛するイスラエルの民よ、わたしの愛と憐れみは、あなたがたの中にあります。

2. 父の御前に首を垂れる男女よ。今日、再び目を開き、わたしの御姿と光を見つめる、三つの時代の神の選民の魂たちよ、わたしはあなたがたを祝福する。祝福あれ！

3. わたしの言葉の核心に深く入りなさい。キリストは、まさに人間の知性を通じて御自身を現し、あなたがたに教えを授けておられるのだ。しかし、私はあなたがたに告げます。キリストがいつあなたがたに御言葉を授けたとしても、そこにはエホバなる父と聖霊が関わっていたのです。私の神聖な御霊の中に三つの位格を求めるのではなく、ただ一つの創造主の御霊、ただ一人の父を求めなさい。その父は、三つの異なる時代と啓示の段階において、あなたがたのところに来られたのです。

4. まことに、わたしはあなたがたに告げる。神学者たちは、いかに人類を混乱させてきたことか！しかし、わたしはあなたがたを救い、贖い、高めようとして、わたしの光を与える。そして、真実を告げる。すなわち、あなたがたの理性が霊にこれらの知見を啓示するのではなく、霊が人間の理性に霊的かつ神聖な知見を啓示するのである。それゆえ、あなたがたの主はこう告げる。神学者たちではなく、霊性主義者たち、すなわち聖霊の真の弟子たち——神聖な御霊と交わり、わたしの声を聞き、あなたがたの主の愛撫と励まし、そして呼び声を感じずることを学ぶ魂たちこそが、それを行うのである。

5. それゆえ、私は今この瞬間、ただ一本の光線の中に自らを限定し、ただ一つの知性を通じて、あなたがたに私を現そうとしているのである。私は、第二の時代に私の聖霊と共に人となった、私自身の「御言葉」——それは常に私の中にあつたものである——を通して、父としてあなたがたに語りかけている。なぜなら、あなたがたすべてが私から生まれたからである。ただ一つの霊、ただ一つの本質、そしてただ一つの父の愛を求めることによって、真の神の三位一体を悟りなさい。

6. あなたがたは、聖霊の発展、顕現、啓示の時代に入った。そして、わたしの啓示の一つひとつが、人々を目覚めさせ、思索へと導くであろう。混乱の瞬間もあり、その時にはあなたがたはこう言うだろう。「父よ、理性は常にあなたの中にあり、真理はあなたそのものであり、私はあなたの御前では常に小さな子供に過ぎません」

7. 私はこの記念の日にあなた方を受け入れる。しかし、今もなおあなた方の間に残っている伝統は、将来、消え去ることになる。そして、神性および霊界の到来は、もはやたった一日だけ記念されることはなくなるだろう。私は、あなた方が常に私と、そして兄弟姉妹たちとつながっていることを望む。

8. 初期の頃、あなたがたは私への愛ではなく、ただあなたがたの地上的存在の一部から生じた、私への畏怖の念を捧げていた。なぜなら、あなたがたは父の心の中に、被造物に対するその無限で完全な愛をまだ見出しておらず、私をただ容赦なく、厳格で、正義を求める父としてしか見ていなかったからである。あなたがたは私の律法を持ち、私の正義への恐れからそれに従っていましたが、私は、あなたがたが私を恐れられる父ではなく、愛すべき父として認識する時を待っていました。

しかし、私があなたがたに、私の愛と温かさ、そして優しさの大きな証しを与えたにもかかわらず、あなたがたは依然としてエホバの正義を恐れていました。あなたがたは、父が絶えずあなたがたに語りかけていた良心の声を、依然として恐れていたのです。

魂のための準備と目覚めのあの時代、すなわち、あなたがたの霊をわたしの霊へと導く道において、あなたがたが最初の確かな一歩を踏み出し始めたその頃、わたしはあなたがたに、亡き人々の魂と交わることはわたしの御心ではないことを理解させた。なぜなら、あなたがたはまだその準備ができておらず、その恵みを正しく活用することはできなかったからである。霊界も、あなた方も、互いに交わりを持つには十分な準備ができていなかった。しかし、その予感はずでに存在しており、可能性と恵みも備わっていた。それゆえ、それ以来、霊的存在との交わりを求める人々がこの世に現れるようになったのである。

9. その禁止は永遠に続くものではなかった。子供たちをこれほど深く愛する父が、どうして子供たち同士の交信を禁じることができようか。熱意と愛をもって互いを探し求める兄弟姉妹の間に、私の神聖な御霊が、障壁や越えられない隔たりを築くことなどあり得ようか。ただ、そのための適切な時期がまだ来ていなかったため、私はあなた方をその苦しみから免じていたのです。しかし、人間、すなわちあなた方自身の転生した魂に対する私の限りない愛ゆえに、私は人間となりました。その際、私の到来が驚きとならないよう、また私が到来するのを待ち望み、目を覚まして祈っているあなた方に会えるよう、あらかじめ預言として告げ、そのことを知らせておいたのです。

10. 私は約束を果たし、私の霊を肉体化させた。私は人間として生まれ、あなた方の間に住み、生き、成長し、そして死ぬために過ごした。そして、あなた方の父である私が人間であったこの期間、私はあなた方に、霊性に満ちた顕現、教訓、そして教えを与えた。私は、あなたがたの霊に多くの啓示を与えたが、それによってある者は光に満たされ、またある者は混乱に陥った。

11. 私は「第二の時代」に到来することで、あなたがたが視線を天に向け、私の王国をより近くに見つめることができるよう準備を整えた——その時代において、あなたがたの魂が、天の王国がますます近づいていることを感じ取れるようにするためである。

当時、私は人間の中に、目に見えず、あなたがたには触れることのできない、数多くの魂の軍勢を見出した。それらは、あなたがたの魂にとってはまだ解き明かせない謎であった——すなわち、あなたがたの間で蠢き、織りなされていたあの生命である。私はそれをあなたがたに啓示し、それらの現れの謎を明らかにし、神学者や科学者たちに、私の啓示が彼らの発見や言葉よりも優れていることを示した。

12. 私は、科学に見放された病人を癒した。彼らの病気は超自然的なものであり、魂に由来するものだったからだ。私は、取り憑かれた者たちを、混乱した魂の大軍から解放した。そして、私を信じた者たちは立ち上がり、私の名を賛美し、私の力を認めた。私を信じなかった者たちは、私を非難し、その力の証拠を悪の仕業だと決めつけ、私を黒魔術師として扱った。

私は、魂にとって距離など存在しないことをあなたがたに悟らせるため、人類に光への扉を開いた。そして、人間としての私の死の瞬間、私の霊は墓に眠る魂たちを目覚めさせた。私は彼らをラザロのように墓から出てこさせ、彼らの存在と実在を証しさせるために、あなたがたの間へと送り出した。

13. あなたがたの目は彼らを目にし、あなたがたの心は彼らを非常に身近に感じた。それは、私があの試練の瞬間に彼らを新たな命へと蘇らせ、魂の輝かしい命、すなわちあなたがた全員を待ち受ける来世の永遠の命を証しさせるためであった。

また、私の肉体が地中に横たわった後、イエスの姿となってあなたがたの元に戻り、繰り返しあなたがたの目の前で私を現し、あなたがたが現在住んでいる場所と「霊の谷」とをつなぐ扉を永遠に開かれたままにし、それによって魂たちが私の祝福され、約束された王国へとアクセスできるようにし、父なる神と聖霊の愛によるこの扉が、すべての人にとって常に開かれていること——すなわち、か

つてはあなたがたの魂がその敷居を越えることができなかったために一時的に閉ざされていたその扉が、主の慈悲によって開かれたことを、魂たちが悟れるようにするためであった。この時から、人間の魂は靈的な交わりへと目覚めた。

14. しかし、靈的な啓示を完全に理解する時はまだ来ていなかった。しかし、これらの神聖な教えへの渴望が人類を包み込み始め、第二時代のさまざまな世代の人々は、自分たちの間に潜在していた能力や賜物を利用し、熱心にあの世を探求し始め、そうして次第に「靈的な谷」へと導く道を見出していった。

15. その過程で、人々は多くの障害や失望を経験し、私の業や私の靈界において多くの冒瀆が行われた。しかし、父はすべてを赦された。なぜなら、父は、この地球に住む魂たちが、靈的な兄弟姉妹との思想の交流を得たいと切望しているのをご覧になったからである。しかし、人類の一部がこれらの啓示の発見やあの世との交信を切望していた一方で、別の部分は靈的な交信を疑念と嫌悪の目で見つめていた。

16. しかし、今や第三の時代があなたがたの間で幕を開けた——それは、私、すなわちあなたがたの神ご自身が、第一の時代に律法として来られたあの父、あなたがたの間で御言葉を広めるために人となられたあの御方が、聖霊として来られた時代である——第一の時代のように物質的に声を聞かせるためでも、第二の時代のように人間となるためでもなく、人間の知性を通じてあなた方を準備させるためである。すなわち、私は短期間だけ自らを現し、後にあなた方と霊から霊へと交わることができるようにするためである。というのも、今この瞬間も、私が聖霊として語っている間、人間自身を通して語る際には、私の意志によって定められた程度まで物質化せざるを得なかったからである。

17. まもなく、あなたがたの前には新たな時代、すなわち聖霊の恵みの時代が幕を開ける。その時代において、あなたがたは私を見出すことになる——それは、儀式や教会の典礼、あるいは知性を通じてではなく、あなたがた自身の魂の中においてである。

18. 長い時間が過ぎ去り、それに伴い、試練、闘い、そしてあなたがたの魂の成長も過ぎ去った。そして今、聖霊の時代において、あなたがたは、わたしを理解しうる人間として立ち上がっている。

19. 今や、あの世との交信が禁じられていた時代は終わった。私がただあなた方を準備し、約束をするだけの時代も終わった。今こそ、私の約束が成就する時——あなたがたに告げる時です。あなたがたは、この地上で肉体だけを奴隷にしていただけでなく、魂まで

も物質的な欲求に縛り付けてきたのです。それにもかかわらず、あなたがたの真の故郷は、私があなたがたに授ける、無限なる宇宙、果てしなき霊的な空間なのです。なぜなら、あなたがたの魂が今まさに転生しているかどうかは、重要ではないからです。ここからも、あなた方はその領域を征服することができるのです。霊界を故郷とし、互いを兄弟姉妹として抱きしめることができるのです。

20. 私の光が境界を取り除く前に、それはあなたがたが、私の神聖な霊と、「霊的な谷」にいる兄弟姉妹の両方とつながれるよう、準備を整えてきたのである。なぜなら、私はあなたがたが無知の子供たちであってほしくないからであり、むしろ、私の三位一体・マリア的霊の業の弟子として、完全な清らかさと高揚をもって、このつながりを築けるようになってほしいからである。準備の仕方を理解していない者だけが、その中に留まることはできないだろう。汚れのある者もまた、私が今まさにあなた方に語っている、幸福をもたらす交わりには至れない。なぜなら、不純なものは何一つ私のもとには届かないと、私はすでにあなた方に告げたからだ。

21. もし単なる好奇心からあの世との交わりを求めようとするならば、あなたがたは真理を見出すことはできないだろう。もし、偉大さへの渴望や虚栄心がその動機であるならば、真の啓示を受けることはできないでしょう。もし、誘惑が偽りの意図や利己的な利益をもってあなたの心を惑わすならば、私の聖霊の光とのつながりを得ることもできないでしょう。あなたがたの畏敬の念、清らかな祈り、愛、慈悲、そして魂の高揚こそが、あなたがたの魂が翼を広げ、空間を横切り、霊的な住処へと至るという奇跡をもたらすのである――それは、わが意志が及ぶ限りにおいてである。

22. これこそが、聖霊があなたがたに授けた恵みと慰めである。それは、あなたがたが皆、同じ故郷を仰ぎ見、死も疎外も存在せず、私の被造物の誰一人として永遠の命に関して死ぬことはない、ということを確認するためである。なぜなら、この「第三の時代」において、あなた方は、この地上の生を去った者たち――あなたが知っていた者たち、愛していた者たち、この世では失ったものの、永遠においては失っていない者たち――をも、霊的な抱擁で包み込むことができるようになるからです。

23. あなた方の多くは、私の「働き手」たちの助けを借りて、それらの存在と接触をとってきた。しかし、まことに、私はあなた方に告げます。これは完全な接触の方法ではありません。そして、肉体をまとった魂と肉体を離れた魂が、もはやいかなる物質的あるいは人間的な手段を用いることなく、すなわちインスピレーション、

魂の感受性の賜物、啓示、あるいは直感の力によって、霊と霊の間で互いに意思疎通を図れるようになる時が近づいています。あなたがたの霊の目は、あの世におけるの存在を感知できるようになり、その後、あなたがたの心は「霊の谷」に暮らす存在たちの生命の表れに共感するようになり、そうして、あなたがたの霊の歓喜、そして父への認識と愛は大きなものとなるでしょう。

24. そうして、あなたがたは、自分の魂が何であるか、魂が誰であり、かつて誰であったかを、肉体に縛られたような狭い枠組みに自分を閉じ込めることなく、自分自身を知ることによって理解するようになるだろう。なぜなら、父はこう言われるからだ。「たとえあなたがたの肉体の物質が実際に小さくとも――あなたがたの霊は、いかに私の神聖な霊に似ていることか！」

25. わたしは、現在と未来のために、あなたがたに語りかけている。この啓示を通じて、わたしの言葉によってあなたがたを準備し、目覚めさせている。あなたがたは、第三の時代についてだけでなく、わたしの神聖な業について語ることで、他の人々に対しても同じことを行うために立ち出さなければならない。なぜなら、その時代においてわたしがあなたがたに教え、啓示したことは、わたしの業のすべてではないからだ。私が第一の時代と第二の時代にあなたがたに教え、啓示したことも、同様にその一部である。それゆえ、あなたがたが真の三位一体信者となるためには、三つの時代のすべての教えを知らなければならない。なぜなら、あなたがたは三つの時代を通じて、父のもと、すなわち父の三つの顕現と三つの啓示の中にいたからである。

26. 愛する民よ、このようにして備えなさい。そうすれば、明日、あなたがたが人類を混乱させることはなく、人々の心や理性、あるいは魂の中に、あなたがたを黙らしてしまうような疑問が一つも残らないようにするためである。むしろ、私の御霊の光をもってすべてに答え、あるいは解き明かし、ただ一つの魂も混乱の中に置き去りにすることなく、人間が謎や闇、あるいは不確実性に包まれて見ていたものについて、すべての命にその説明を与えることができるようにするためである。

27. わたしは光であり、簡潔さであり、真理である。すべてが明瞭である場所に、もはや秘密を見出すべき時ではない。私は、魂が上へと発展するにつれて、その魂に私の知恵を啓示する。魂が前進し、霊化すればするほど、それまで知らなかった啓示をよりよく理解できるようになり、その道を通じて、あなたがたの魂は、私の神

聖な御霊が示す、絶えず新たな教訓を永遠に喜び楽しむことになるだろう。

28. ここにいるあなた方は、魂の輪廻転生を信じているからこそ、この時代において、すでに何度もこの地球に生を受けてきたという確信を持っている。しかし、私があなた方に与えたこの啓示は、世界を震撼させ、人々の間に革命を引き起こすでしょう。そしてそれによって、人々は多くの謎の説明と、魂への励ましを得るでしょう。なぜなら、輪廻転生は愛の法則であり、その根底には私の光があるからです。

29. 愛する民よ、あなたがたは、この世でどれほど多くの回、さまざまな肉体を持って生まれてきたのか、まだ知らない。たとえ「肉体」が自らを探求し、自らの魂に問いかけようとも、あなたがたは自分の過去、つまり前世を垣間見ることはできない。なぜなら、父である私がこの知識を禁じ、人間としての生涯において、あなたがたの魂が過去の地上での生を発見することを妨げてきたからである。これは、あなたがたの中にいる聖霊による、今もなお続く禁令だからである。

しかし、あなたがたは現在、来るべき世代を準備している。彼らは魂の進化のレベルが非常に高い者たちであり、今はまだあの世に生きており、そこで浄化され、高みへと進化して、やがてこの惑星にやって来るのだ。彼らには、聖霊によって、確かに前世を思い出し、自らの過去を知る能力が与えられるだろう。なぜなら、それは彼ら自身の魂にとって有益だからである。私がこれをあなた方に許さなかったのは、あなた方の魂、とりわけこの地上の性質の中にまだ弱さを見出し、過去を振り返ればあなた方が落胆してしまうことを知っているからです。多くの過ちを犯し、それによって父を侮辱した者は、後悔や良心の呵責に耐えるだけの力を持ち合わせていないでしょう。また、かつて重要な地位にあった者は虚栄心に満ちてしまうだろう——取るに足らない存在だった者は屈辱を感じ、その心には復讐への渴望が湧き上がるだろう。これこそが、完全なる知恵そのものであるあなたがたの父が、あなたがたが肉体を持つこの生において、まだ魂の過去を明らかにしようとしなかった理由である。

30. この恵みは、自らの過去を知ることには害を受けない未来の世代のために留保されている。あなたがたは、彼らの目の前で開かれた書物のような存在となるだろう。それらの魂たちは、多くの秘密を明らかにする者たちとなる——自らの地上の生を通じて魂の生涯

を照らし出す者たち——他の世界や、靈的な道というこの広大な道について、この世界に語りかける者たちとなるのだ。

31. 人よ、準備を整えよ。そうして、あなた方から生まれる者たちにこの準備を継承できるように——この恵みがあなた方の子孫の中に存続するように——あなた方が生み出し、受け入れる肉体が、来るべき世代の魂たちにとって、喜んで用いられる道具となるように。なぜなら、私は今、あなた方自身を通して、この人類のために新しい世界を準備しているからである。あなたがたは、この時代、私が育て、私の教えという水晶のように澄んだ水で潤している小麦である。

32. 転生した魂たち、そして「靈の谷」に住む者たちは、今この瞬間、私に敬意を表している。全被造物が、私に愛の捧げ物を捧げている。

33. 今日、わたしを迎える準備をしていなかった者は、心に悲しみを抱いている。しかし、わたしに対して閉ざされたその扉を、わたしは愛の鍵で開くであろう。なぜなら、わたしは地上の旅人であり、すべての人を訪ねて回り、わたしの足跡として完全な教えを残す者だからである。

34. 私の声は、眠っている者を目覚めさせ、疲れている者を力づける。それは、彼らに、自分たちが持つ時間は短く、それを活用することが必要であることを理解させるためである。

35. わたしの言葉は、教養のある者にも、教養のない者にも等しく向けられている。わたしはすべての人に対して、同じように、率直かつ簡潔に語りかけた。なぜなら、神聖なる師の靈的な教えに比べれば、あなたがたは皆、若い生徒に過ぎないからだ。しかし、あなたがたは、この簡潔な言葉の中に、まだ完全に理解し、その深みを極めきれていないにもかかわらず、どれほどの命、どれほどの真理、そしてどれほどの啓示を見出してきたことか。

36. この時代にわたしの言葉を聞いた者たちの責任は大きい。彼らは、この世における刷新の種となり、人々が変容するきっかけとなるべきだからである。私の新しい使徒たち、そして「働き手」たちは、肉体的には生き続けているものの、恵みの命にとっては死んでいる人々に、復活をもたらさなければならない。彼らは、ラザロが聞いたあの「起き上がって、歩め！」という声のように、私の使者の声を聞き取らなければならない。

37. ある者たちは、自らの賜物を開花させ、私の神聖な教えに従い、熱意と希望に満ちて戦いに備えることで準備を整えてきた。一方、他の者たちは、この時間を有効に活用せず、まだ努力をしてこ

なかったため、氣力を失っている。私はすべての人に語りかけ、すべての人を啓発する。そうして、一人ひとりが自分に関わることを受け止められるようにするためである。

38. ある者たちが使命を立派に果たし、豊かな黄金の麦を提示しているのを見て満足し、一方で他の者たちが恥ずかしそうに空っぽの手を隠しているのを見るようなことは望まない。そうすれば、私の喜びは完全なものにはなり得ないからだ。しかし、私はそれによって、任務を果たした者の喜びを台無しにしようというわけではない。なぜなら、その者が私に収穫を提示するためには、働き、苦労し、しばしば涙を流さなければならなかったのだから。しかし、彼らの任務には、恐れを抱く者たち、冷めた者たち、疲れ果てた者たちを再び活気づけ、奮い立たせることも含まれている。そうして、主があなたがたの働きの成果を問うために現れたとき、民全体が祝宴を催せるようにするためである。

39. 私は愛をもってあなたがたの心を耕し、そこから慈悲と兄弟愛の行いが湧き出るようにする。

40. これからも常に前進し続けなさい。そして、すでに約束の地を征服したと信じて、自分たちが成し遂げたことに満足してしまった者たちのように考えてはならない。

41. あなたがたは、永遠の昔から神によって定められた魂の道を進んでいる。それは、人間の目に見える地上の道ではない。もしそうであったなら、カナンの地が今もなお目的地であったはずだからである。しかし、私は魂たちをそこから連れ出し、全世界に散らした——かつて東方に住んでいたあなたがたが、靈的な道から逸れることなく、今や西方へと現れたのと同じように。

42. ある人々にとっては、物質的な形で表現された象徴が依然として不可欠であるが、他の人々は、魂の力を表す姿たちを自らの想像力の中に持っている。一度真の靈化に達すれば、神の存在を信じたり、その意味を理解したりするために、目に見える、あるいは目に見えない像や形を求めることはなくなるだろう。

43. あなた方は先駆者である。なぜなら、あなた方から新しい世代が生まれ、その中に新たな靈的な大軍が転生するからである。

44. 現在、あなたがたは、彼らの宗教的実践、礼拝行為、そしてわたしとの交わりがより深まるよう、その道を整えている。

45. 確かな足取りで進めば、一步一步、高みへと登っていくでしょう。誤った物質主義的な信仰の実践を捨て去れば、日々、あなたの魂はより大きな高揚と自由を得るでしょう。

私の平安があなた方とともにあ

教え 245

1. あなたがたがわたしを慕ってここへやって来ることを、わたしの霊は喜んでい。魂にとって日や日付など存在しないというのに、なぜ今日、あなたがたはあの世へ旅立った人々をこれほどまでに思い出すのか。「死者」を悼む「死者」たちに惑わされてはならない。あなたがたは「死者」ではないし、あなたがたの両親、子供、兄弟姉妹、親族、あるいは友人としてあなたがたに属していた人々もまた「死者」ではない。もし彼らが心を改めたのなら、あなたがたに悪事を働いた人々も、なぜその対象に含めないのか。

2. あなた方は光を渴望しており、私の業は、その渴望を真に満たすものである。魂は、啓発されればされるほど、見せかけの「死」からますます遠ざかっていくのだ。

3. 希望も慰めもなく、「死者」を悼んで泣く人々を見る時、あなたの心は悲しみに満たされるでしょう。彼らのために祈り、この世とあの世の「死者」を生き返らせる術を学ぶよう努めてください。

4. 人々が一度、これらの教えの真実を理解すれば、もはや遺骨を納めた墓の前で泣くことはなくなり、その涙を、肉体の安息の地である場所への敬意へと変え、また「霊の谷」に住む魂たちへの祈り――それは、抱擁であり、挨拶であり、キス、そして愛撫となるような祈りへと変わるでしょう。

5. あなたがたはすでに「第三の時代」に生きていますが、人類は依然として霊的に遅れたままです。彼らの牧師、神学者、そして霊的指導者たちは、永遠の命についてほとんど、時には全く何も明らかにしていません。彼らに対しても、私は私の知恵の書の秘密を明らかにしている。それゆえ、私はあなた方に問う。なぜ彼らは沈黙しているのか？なぜ彼らは、人々の眠りについた魂を目覚めさせることを恐れているのか？

6. 今、私の言葉を聞いているあなたがたは、すでにこの地において、あなたがたの魂の未来のための発展と進歩を築き上げることを理解している。しかし、これらの真理を知らない者、あるいはそれを忘れてしまい、死が準備もできないまま彼らを襲う者は、どれほど多いことか。

7. 私は、清らかな思いが、霊界に住む兄弟姉妹たちとあなたがたが意思疎通を図るための言葉となることを望む。そうして互いに理解し合うのだ。まことに、あなたがたの功績と善行は、彼らにとって有益なものとなるだろう。同様に、私の子供たちの影響力、彼ら

の靈感、そして保護もまた、あなたがたが共に私のもとへ至るために、人生の道において力強い助けとなるのである。

8. 霊性を高めなさい。そうすれば、あなた方は人生において、あの存在たちの慈愛に満ちた臨在を体験することになるでしょう。それは、この地上に子供を残して旅立った母の優しい愛撫であり、同じくこの世を去らざるを得なかった父の温かな心と助言なのです。

9. 私がこの教えを授けた後、あなたがたは、自ら命を絶つ者たち——同胞を殺す者たち、そして殺戮的な戦争を煽る者たち——に対する裁きを理解するようになるだろう。「目を覚まし」、カインから最後の殺人者に至るまで、彼ら全員のために祈りなさい。そうすれば、彼らの裁きは和らげられるだろう。

10. 嵐を告げる暗い雲のように、混乱した存在たちの大群があなたがたの上を漂っている。あなたがたが彼らの影響の犠牲とならないよう、祈りなさい。これらの闇の勢力が光となるよう、祈りなさい。

11. この人生に嫌気がさしたり、苦しみの中で反抗したりしてはなりません。なぜなら、あなたがたは、今まさに前世からのどのような負債を償っているのか、知らないからです。

12. 家族や社会の懷の中で、調和と平和のうちに生きなさい。そうすれば、光の存在たちによって導かれた多くの人々が、あなたの模範に従うことができるでしょう。

13. この第三の時代に、喜びに満ちていなさい。なぜなら、私の言葉は輝きに満ちて、あなた方の元へ届いたからです。

14. これは、あらゆる魂にとっての平安の瞬間である。父がその光を注ぐとき、世界は照らされる。この神聖な賜物を受け取る準備が整ったすべての人類にとって、それは栄光の瞬間である。この恵みがあなたがたの世界に到来した。そして、私は、この世界で「死者」たちが「死者」を葬り、地上の財に崇拜と礼拝を捧げ、虚飾に満ちた儀式を通じて神に物質的な供物を捧げるのを見てきた。

15. この時、私の聖霊の光はすべての人々に注がれ、それによって人々は、主に喜ばれる捧げ物がどのようなものであるかを理解することができるようになる。魂は、その肉体を脱ぎ捨てたとき——大地に沈めば腐敗し、その形を失い、やがてはほんのわずかな原子の集まりとなるその物質を——創造主の御前に至らなければならない供え物として自らを整えるのである。人間という存在の終わりが訪れるその場所こそ、人々が理解することのできなかった新たな命が始まる場所なのである。

16. 人々は自らの伝統や慣習に固執している。彼らが、遺体を墓に下ろした人々に対する消えることのない記憶を抱き、その遺骸を埋葬した場所—— —に惹かれるのは理解できることである。しかし、もし彼らが物質的な生命の真の意味を深く考察すれば、その肉体は、原子一つひとつが分解されるにつれて、それが形成された自然界へと還り、生命はさらに展開し続けることを理解するだろう。

17. しかし、人間は、霊的な事柄を学んでこなかった結果、いつの時代も、肉体を崇拝する一連の狂信的な儀式を生み出してきた。人間は物質的な生命を不滅にしようと試みる一方で、真に永遠の命を持つものである魂を忘れてしまっている。彼らが霊的な生命を理解することから、いまだどれほど遠く離れていることか！

18. 今、あなたがたは、墓石が「死」を表している場所へ供物を捧げる必要がないことを理解するだろう。その墓石は本来、「消滅と生命」を表すべきものだからだ。なぜなら、そこでは自然が満開であり、そこには、生き物や生命体のための、より肥沃で尽きることのない胎である土壌があるからだ。

19. これらの教えが理解されれば、人類は物質的なものにその価値を、神聖なものにその価値を正しく認めるようになるだろう。そうすれば、先人たちに対する偶像崇拝は消え去るだろう。

20. 人間は、霊と霊との間で、その創造主を認識し、愛すべきである。

21. 祭壇は喪の飾りであり、墓碑は無知と偶像崇拝の証である。私はあなたがたのすべての過ちを赦すが、本当にあなたがたを目覚めさせなければならぬ。私の教えは理解されるようになり、人々が物質的な賜物を高尚な思想に置き換える時が来るだろう。

22. 弟子たちよ。愛する人を失うという試練を経験したとき、あなた方の口からは次のような祈りが自然と湧き出てくるようになるだろう。「主よ、この世を去った者はあなたの御許に在ること、ただ私たちより先に旅立ったに過ぎないこと、そして、あなたが私たち全員を同じ故郷で一つに結んでくださる時が来ることを、私は知っています。私たちの目には涙はありません。なぜなら、死んでいるのは彼らではなく、この世に在る私たちの方であり——『霊的な谷』には真の平等と兄弟愛が支配していることを知っているからです。なぜなら、すでに光を豊かに得た者たちは向上への道を歩み続け、その道を照らすかすかな火花しか持たない者たちは、前者たちによって支えられているからです。彼らの間には、完全な調和と助け合い、そして慈悲が存在しているのです。」

23. それならば、なぜあなたがたは、この世を去った人々への追憶を、彼らの地上の存在に限定するのでしょうか。彼らを乱さないよう、霊的な方法で彼らを偲んでください。彼らがひとたびあらゆる人間的な情念を脱ぎ捨てたとき、彼らはあなたがたの元に戻ってきて、たとえあなたがたがその方法を理解できなくとも、あなたがたの心に近づくことが許されるでしょう。

霊的な生活において、ただ一つの渴望、一つの願いがある。それは、神の完全さに近づくことである。かつて私はあなたがたにこう言った。「人は、私のようにならない限り、天の国に入ることはできない。」

24. もし誰かが私の教えを理解できないとすれば、それはその人がそれを研究する努力を怠ったからに他なりません。なぜなら、それはすべての人にとっての光だからです。やがて、全人類が立ち上がり、「私はあなたを信じます。永遠の命への復活を信じます」と言う時が来るでしょう。

25. 弟子たちよ。あなたがたが体験したこの平和の雰囲気は、あなたがたにとってまるで開かれた天のようであったが、それはまさに「第二のエルサレム」の懐そのものであり、その大空には、平和と真理を渴望してやって来る人々を導く星が輝いている。

26. わたしの霊は、あなたがたに語りかけるとき喜びを感じます。そして、悔い改めた罪人が天国にたどり着くとき、義人が来るのと同じくらい、天におけるわたしの喜びもまた大きいのです。なぜなら、義人は常に救われていたのに対し、罪人は迷い出ていたが、再び見出されたからです。

27. わたしの言葉を聞くからといって、自分たちは救われたと思い込んではいけません。「私たちは迷っていたが、見出され、天国への道は確実だ」などと言ってはならない。いいや、あなたがたは、わたしがただ、わたしの王国へと続く道へとあなたがたを導くために来たのであり、あなたがたはこの道から決して迷い出さないよう努め、そして、永遠の故郷、すなわち魂のゆりかごであり真の祖国である場所の扉にたどり着くまで、毎日一歩ずつ前進しなければならない。あなたがたは皆、二度と迷うことなくその場所へ到達し、人生の闘いの中で収穫した実を味わい、また、信仰と愛に堅く立ち続けるすべての人々に父が約束された報いを受けるために、そこへたどり着かなければならないのだ。

28. あなたがたは、「肉」、この世、そして苦痛に縛られていると感じている。しかし、それらがあなたがたの上向きの成長の妨げであると考えからといって、それによって落胆するのではなく、

これらの妨げこそが、実際には、あなたがたの信仰、愛、そして善への粘り強さを試すための手段であることを理解してほしい。

29. わたしはあなたがたの救い主であり、解放者である。しかし、あなたがたを救うためにわたしが愛を授けるならば、あなたがたもまた、わたしに愛を捧げなければならないことを理解してほしい。わたしがあなたがたに、自分の行いを自覚し、誰のもとへ、そしてなぜそこへ向かうのかをしっかりと理解した上で、わたしのもとへ至るための功德を積む機会を与えることで、わたしはわたしの役割を果たし、あなたがたもまた、あなたがたの役割を果たすことになるのだ。

30. もし私が憐れみから、この世と苦しみからあなた方を解き放ち、天の領域へと導いたとしたら、あなた方にとって、それはどのような功德となるだろうか。まことに、私はあなた方に告げる。あなた方はそこに住むに値するとは感じず、その生活を真に評価することもできないだろう——一言で言えば、あなた方は自分がどこに住んでいるのかさえ分からないだろう。それゆえ、私があなたがたに告げるのは、あなたがたがそこに至るとき、それはあなたがたの功績によるものでなければならない、というのが私の意志であるということだ。そうしてこそ、あなたがたは、周囲にあるすべてのもの、そして所有するすべてのものにふさわしい者となるからである。

31. あなたがたの歩みの一つひとつ、試練や困難、努力、行い、そして思考のすべてにおいて、私が常に共にあり、愛を注ぎ、語りかけ、意志を強め、信仰を励ましていることを知ってください。なぜなら、私の助けなしに、誰が完全さに近づくことができようか。

32. 目を覚ませ！ 背筋を伸ばせ！ 光へと立ち上がり、戦いを始めよ！ 自分たちは囚人だと感じるか？ それなら、物質主義という牢獄を打ち碎け。痛みや悲慘さに押しつぶされそうか？ それなら、人間の苦難を乗り越えることを学べ。他者と比べて自分たちは取るに足らないと感じるか？ 魂が善を通じて開花するとき、あなた方の内には偉大な存在が宿っているのだ。私が創造した魂の中に、いつまでも取るに足らない存在であり続ける運命にある者や、いつまでも隠れたまま生きる運命にある者は一人もいない。高き住処に偉大な魂たちがいるとすれば、それは彼らが愛の道を歩んで昇華したからに他ならない。しかし、もともと彼らもまた、小さな存在であったのだ。

33. なぜ私の霊が、まだ小さな者たち——闇の中に住む者たちや、苦痛と悲慘に縛られて生きる者たち——と語り合うときに喜びを感じるのか、その理由を悟りなさい。なぜなら、私は、私の愛によ

って、あなたがたの魂が光へと目覚め、希望に満ち溢れ、高みへの発展という理想を信じ、それを受け入れることを知っているから。

34. わたしは、あなたがた全員が幸せで、平和と光の中に住み、次第にすべてを手に入れる姿を見たいと願っている——それはわたしの愛によってだけでなく、あなたがたの功績によってもである。そうしてこそ、あなたがたの満足と幸福は完全なものとなるから。

35. あなたがたの上向きの発展を助けるために、わたしの神聖な光線があなたがたの上に降り注ぎ、教えの言葉へと変容する。そして、わたしは第二の時代と同様に、あなたがたにこう告げる。「わたしは道であり、真理であり、命である。」 こうして私は、あなたがたの道において自らを現し、あなたがたを泥沼から引き上げ、真理と道徳、そして完全な霊化の道へと導いた。あなたがたが私に従えるよう、私はあなたがたの鎖を断ち切ったのである。

36. ナザレのイエスは、第二の時代に人々の間に身を置き、父を愛し、父に仕えるべき方法、そして人々を愛すべき方法について、生きた模範をあなたがたに残すために来られたのである。

私がこのように語るのとは、私がただあなたがたの苦しみを癒やすために来ただけだとあなたがたが信じないようにするためである。なぜなら、私はまた、あなたがたに隣人に善を行うことを教えるために来たからである。私が人間としての生涯と受難の経緯を思い起こさせるのは、私が今日あなたがたに示す道が、イエスがあなたがたに示した道と同じであることを理解してもらうためです。それは太古から続く道であり、唯一かつ永遠の道なのです。

37. あなたがたの多くは、私が人間の知性を通じて自らを現すことを、幻想であるか、あるいは不可能なことだと考えている。しかし、そのような疑いに対して、私はこう答える。私は、人類の始まり以来、あらゆる時代を通じて、人々を通じて自らを現してきたのだ。そして、その人々を通じて、私は世界に私の戒め、私の靈感、そして私の啓示を与えてきたのである。今日起きていることは、人類が物質主義に陥り、この世や物質に縛られ、宗教的狂信に囚われているということである。

38. 私は今、すべての人々に語りかけている。なぜなら、私は当初、地球の地殻に住むために、対等な魂たちだけを遣わしたのだから、誰かを特別に優遇することはないのだ。

39. 私は、すべての者の運命を知る唯一の存在であり、あなたがたが歩んできた道、そしてこれから歩まなければならない道を知る唯一の存在である。あなたがたの苦しみと喜びを理解しているのは私である。私は、あなたがたが真理と正義を見出すために、どれほ

ど長い道のりを歩んできたかを知っている。私の慈悲こそが、心の中で自らの過ちの赦しを私に懇願する者の、恐怖に満ちた叫びを受け止めるのである。

40. そして、父として、私はあらゆる切実な願いを叶え、あなたがたの涙をぬぐい、病を癒やし、あなたがたが赦され、汚名から解放されたことを実感させて、あなたがたが人生を新たに築き直せるようにする。

41. また、わたしこそが、わたしの子供であるあなたがたからわたしに与えられた侮辱を、赦すことのできる唯一の存在である。

42. あなたがたは、私が準備する一粒の種である。かつてあなたがたが私を拒んだことがあったとしても、私はあなたがたを赦し、今日、あなたがたを私の食卓に着かせ、あなたがたを私の弟子へと変えるのである。

43. 私は、あなたがたの魂が、この世で背負った疲れによって疲弊しているのを見ます。そして、その魂は、真の安らぎへと導く道を模索してきました。あなたがたの中に苦しみが残した深い痛みの痕跡は、あなたがたが、隣人への愛を実践することに魂を注ぐこの道を歩むにつれて、次第に消え去っていくでしょう。この努力において、魂は決して疲れることはない。もしこの民が、現在の生において地上の使命の最終目標に到達すれば、もはやこの世に戻ることはないだろう。なぜなら、その時には、彼らの故郷は永遠に霊界となるからである。

44. あなたがたはこの世のものではないが、深い教訓を学び、功德を積み、罪を償い、魂の完成への道を歩み、善を蒔き、わたしを証しするために、この世に来たのである。

45. この時代にわたしに耳を傾けた者たちは、自らの行いと責任について、より深い理解を持たなければならない。一方、わたしに耳を傾けなかった者たちは、無知であると思なされるかもしれない。前者の者たちは、学んだこと、行ったこと、そして行わなかったことすべてについて、責任を問われることになるだろう。

46. もしあなたがたが自らの内面を省みれば、わたしに仕え、山の頂に到達するために必要なものは何一つ欠けていないことに気づくだろう。わたしに仕えるか否かに関わらず、あなたがたは常にその使命と賜物を持ち続けるのだ。しかし、もしそれらを活用する必要があるのなら、賜物や権能など何の意味があるだろうか。富は極めて大きいかも知れないが、役に立たない金持ちの守銭奴のようにってはならない。

47. 魂がこの世にやって来るとき、それは、自らの存在を父に捧げ、あらゆる面で父に喜ばれ、隣人のために役立つという、最も高潔な決意に満ちている。しかし、一旦肉体という檻に閉じ込められ、人生の道のりで千通りの試練や試みにさらされると、魂は弱くなり、「肉」の衝動に屈し、誘惑に負け、利己的になり、ついには何よりも自分自身を愛するようになり、その使命と誓いが記されている御言葉に耳を傾けるのは、ほんの一瞬だけになってしまう。

48. わたしの言葉は、あなたがたが霊的な契約を思い出し、誘惑や障害を打ち勝つ助けとなる。わたしが示した道から一度も逸れたことがない、と断言できる者は誰もいない。しかし、あなたがたが隣人を赦すことを学ぶために、わたしはあなたがたを赦す。

49. わたしを愛する者とは、いったい誰のことか。まことに、あなたがたに告げる。それを知っているのは、わたしだけである。わたしを愛しているのに、そのことに気づいていない者もいれば、わたしを愛していると信じ、さらにはそれを自慢さえしているのに、実際には愛していない者もいる。

50. 私が去った後も、あなたがたは一人きりになることはない。私は、私を愛する人々をあなたがたの中に残していく。なぜなら、彼らの心には、悪しき種も虚栄心も存在しないからだ。彼らの中には、愛と慈悲と謙遜がある。

51. 私をより深く愛する者たちがいるからといって、それによって彼らがより大きな賜物を受けるわけではない——いいえ。私は今、すべての人に、真の命に目覚め、私の崇高な御計画の道具となる機会を与えているのだ。

52. この時期、私は多くの人々に呼びかけを送ったが、誰もが駆けつけたわけではない。私が人々の間に存在しているという知らせは、多くの場所や多くの人の心に届いたが、人類はこの呼びかけに耳を貸さなかったと、私はあなた方に告げることができる。しかし、やがて大きな試練が相次ぎ、自然の力が正義を求めて声を上げるとき、人類は長い眠りから目覚め、私が本当にあなた方のそばにいたことを悟るだろう。

53. 私は、特定の民族や特定の国家だけを救うために来たのではない。私は全人類のために来たのだ。すべての人々に、創造主との真の霊的交わりへと結ぶ祈りを教えるために来たのである。

54. 私の声を聞く者の中には、こう問う者もいる。「主よ、これからあなたの神性に向けて歌を捧げるべきではないのでしょうか？」それに対し、私はこう答える。「子供たちよ、夜明けが訪れるやいなや、鳥たちはさえずりをもって私の名を賛美するのだ。もし

それがあなたがたの魂を高揚させるために必要なら、そうしなさい。そうでないなら、魂から湧き出る別の賛美歌がある。その音色はあなたがたの耳には響かないが、その余韻は無限の彼方で鳴り響いている。それが『祈り』である。

55. 誰も、自らの霊性を誇ってはならない。誰が、すでに肉よりも霊であり、沈むことなく水の上を歩けると言えるだろうか。高揚するのは、あなたがたの物質的な性質ではない。その集中は、ただ魂が距離を乗り越えるのを助けるだけである。

56. あなたがたの心に宿るわが神聖なる霊は、こう告げている。

57. 愛する民よ、もし地上にただ一人の義人がいたなら、その義人によって世界は救われるだろう。しかし、この私の普遍的な光線は、太古の昔から父によって人類のために定められた道を照らすために降り注いでいる——それは、あなたがたが弱さゆえに偽りの神々の前にひざまずいたとき、あなたがたを立ち上がらせてくれた、教化と徳と霊化の道である。

58. 太古の昔から、私は、私の慈悲によって選ばれた人々を通して、人類に自らを現してきた。預言者たち、靈感を受けた者たち、義人、そして族長たちは、あなたがたに私の戒めと私の御心を伝えたのである。彼ら全員が、初めからあなた方を霊性の道へと導き、目に見えない父に祈ることを教え、主があなた方のそばに臨在されるよう、あなた方の心を聖所として整えるよう導いてきたことを悟りなさい——それは、寝床の隅であれ、山の上であれ、旅の途中であれ、川のほとりであれ、どこにあっても同じことである。

59. あなたがたは、しばらくの間、物質主義の道に迷い込み、父から遠ざかり、真の神への奉仕を歪め、それを狂信や偶像崇拜に置き換えてしまい、ついには多くの者が不信仰に陥ってしまった。

60. しかし、この時代、あなたがたは主の足音が近くにあるのを感じ、まるで遠くから響く鐘の音のようにそれを聞き、自分たちに届けられた神秘的な呼び声に従わざるを得なかった。あなたがたの肉眼には何が見えたのか？ 私の新しい弟子たちと、取るに足りない者たちが集まる、いくつかの質素な集会所。そこから、尽きることのない泉のように、心温まる言葉——誠実さと知恵、そして説得力に満ちた言葉——が溢れ出ていた。それ以来、この言葉は多くの人々にとって、命の糧となり、渇きを癒やす水となり、痛みを和らげる香油となってきた。

61. 私が再び人々の間に現れたという奇跡を前にして、耳の聞こえなかった者は聞き、目の見えない者は見、頑なだった心は感受性を持ち、恵みの生活から死んでいた魂はよみがえった。

62. そして、男女は勤勉な「働き手」となり、知識豊かな弟子たちとなり、やがて真理を語り広めることになるでしょう。彼らは二度と私を否定することはなく、私を見誤ることもなく、また私の力に疑いを抱くことも決してないでしょう。

63. 彼らは、迷える者たちの道において、輝く灯台のような存在となるだろう。そうして、この時代の魂たちは、創造主にさらに一步近づくために、真理の道を見出すことになる。

64. あなたがたにまだ一息の命が残っている限り、道に迷った者たちを探し求めなさい。人生の闘いの中でつまずいた兄弟姉妹を立ち上がらせ、病人の魂、心、あるいは体を癒やしなさい。善を行い、それによってわたしを証ししなさい。善行を受けた者たちが、わたしの業に回心しなくても、それは問題ではない。あなたがたが蒔いた種は決して滅びることなく、明日か、あるいは永遠の内に芽吹くであろう。

65. どんなに学識豊かで力ある人間であっても、あなたがたに与えることのできなかつた賜物の力を認識しなさい。そうして、あなたがたが真に世の光と塩となるように。

わが平安があなたがたと共にありますように！

教え 246

1. 愛する弟子たちよ。あなたがたは、この時代に霊的な使命を果たすために召されたのである。あなたがたの魂がこれらの使命を受けるにふさわしいものとなるために、大きな試練を乗り越え、極めて苦い杯を飲み干さなければならなかった。しかし、この試練は、あなたがたに堅固さ、成長、そして経験をもたらした。

2. あなたがたは、私がかつて教えを受けるために求めた者たちと同じである。しかし、あなたがたが形成するこの小さな共同体は、地球上に散らばっている神の民のほんの一部に過ぎず、私はその民をも、あなたがたと同じように愛している。

3. あなたがたは皆、同じ起源を持ち、皆、聖霊の賜物を受け、同じ目標に到達するでしょう。しかし、私があなた方を「私の民」と呼んだのは、あなた方が人間の中で、各々の魂に愛の種を運ぶという使命を負った、年上の兄弟姉妹のような存在だからである。あなた方は、私から生まれた純潔な種であり、無限に増殖した種として私のもとへ戻らなければならないが、その種は元の種と同じように純粋でなければならない。

4. こうして、魂たちはわたしの懐へと至るのだ。その賜物の開花によって偉大となり、その行いの純粋さによって清らかとなる。

5. わたしは、わたしの業の一部をあなたがたに託した。なぜなら、もし父がすべてを行われたならば、あなたがたに自己を完成させる機会を与えることはなかったであろうから。

6. 時代を超えて、私はあなたがたに教えを与えてきた。それは、あなたがたの人間生活を律する法となり、永遠の光へと続く道において、あなたがたの魂を強めるよう、ますます広げてきたものである。

7. 木に例えられる私の律法から、人々は枝を切り落としてしまった。それこそが宗派や教会であり、木から切り離されたために、その樹液を失ってしまったのである。それらの影はまばらであり、その葉の間には愛の巣もなければ、味わい深い実もない。

8. 私があなたがたに私の教えを啓示したのは、単に地上で善く生きるためだけではない。それは、魂を高い場所、すなわち愛と知恵、そしてあらゆる存在との調和が満ちる高みへと導く道なのである。

9. 教会は、魂を永遠の入り口へと導くという使命を果たしてこなかった。魂がこの世から離れるとき、死という分かれ道で迷い、な道を知らず、光の欠如によってつまずき、自分たちが置き去りにした人生を渴望することで、物質主義に陥ってしまうのである。

10. これは、私が示した道ではない。私の道は、光と啓示、すべての人への深い知恵、そして慈悲と愛によって特徴づけられている。その道から迷い出さないためには、私の律法を全うするための犠牲、放棄、そして粘り強さが必要である。

11. しかし、あなたがたを愛するわたしの霊は、わたしの子供たち一人ひとりの歩みに寄り添い、彼らを真理の光へと目覚めさせ、命の木を見出せる道へと導いている。その木は、その樹液が完全であるゆえに、恵み深い木陰を与え、良き実を結ぶのである。

12. これにより、あなたがたは、やがて、わたしの光が輝いているあなたがた自身の霊以外に、他の羊飼いや導き手を持たない時が来ることを理解するようになる。

13. この世には、真の霊的知識の源など存在しない。あなたがたは、謙虚さによって、父との霊的な対話の中で、私の中にこそ、恵みと知恵の源を見出すことになる。

14. あなたがたが、わたしの啓示を目撃し、それを喜び楽しむために入る、これらの質素で小さな集会所は、天候の厳しさや好奇心の眼差しからあなたがたを守ってくれます。しかし、それらは決して私の神性の神殿となることはできません。なぜなら、私は、私が創造した宇宙の中にその神殿を求めることを好むからです。そこでは、あらゆる存在が捧げ物であり、あらゆる命が聖域であり、あらゆる心が燭台なのです。

15. あなたがたがどこへ行こうとも、何を見ようとも、私の臨在に出会うことになる。なぜなら、私の霊は、神性、魂、そして物質が完全な調和の中で結びつき、神の聖域を形成しているその神殿に、永遠に宿っているからである。

16. しかし、この神殿に住んでいるのは私だけではない。そこには私のすべての被造物があり、それぞれがふさわしい場所を占めている。

17. まことに、あなたがたに告げる。この地上には、これほど短い道を教え、これほど遠くへ導き、そして永遠を垣間見させる光に満ちた、これほど広大な地平線を示してくれる師は、他にいない。

18. 人間は科学を高度に発展させてきたが、今や限界に達しつつあると感じている――しかし、それは科学に限界があるからではなく、私が科学者の無思慮な歩みに介入し、彼に自らの業についてに思索させ、良心の声を聞かせ、進路の修正を待たせるためである。

もし人間が、同胞の幸福のために科学を用いるならば、自然はその秘密を人間に惜しみなく与え、しもべとしてその足元にひれ伏す

だろう。なぜなら、私は人間を地上に送り、この地を治め、その主となるよう命じたからである。

19. 浄化は万物を包み込む。なぜなら、生まれたばかりの乳児から老齢に達した者まで、すべての者が苦難の杯を飲み干しているからだ。あらゆる要素と力が戦いに巻き込まれている。

20. あらゆる種類の魂の軍団が互いに戦っており、至る所で戦争、苦痛、そして悲しみの空気が漂っている。強くあれ。なぜなら、この戦いが一度終わり、苦い酒が飲み干されれば、空の杯は命のワインで満たされ、地上のすべての魂にとって、それはまるで新たな誕生のようになるからだ。

21. この時代にわたしに耳を傾け、わたしの教えを学んだ者たちの中には、使命を果たすために故郷を離れない者もいる。しかし、他の者たちは、他の民族や国家へと旅立たなければならないだろう。今日、わたしが望むのは、あなたがたが忍耐強く耐え忍び、わたしの最後の教えに耳を傾け、わたしの言葉の最後の一言を、あなたがた自身の中での遺産として抱き続けることだけである。

22. この時を前にして口を閉ざす者たちよ、災いあれ！準備不足や靈感の欠如を理由に、わたしの啓示を隠し持つ者たちよ、災いあれ。その後、彼らの良心が容赦なく彼らを問いただすことになるからだ！

23. 1950年以降、私はもはやこの形では現れないが、あなたがたの使命は終わらない——それどころか、それは葛藤に満ちた人生の始まりとなるだろう。私はあなたがたに新たなコミュニケーションの方法を示し、あなたがたの心に語りかけ、あなたがたの魂と対話し、あなたがたの知性に靈感を与える。そうして、あなたがたは引き続き、神聖なる師の声を聞くことになるだろう——その声は、そのたびに、より完全で、より高尚で、より霊的なものとなるのだ。

24. 私があなたがたの間で私の言葉を語り終えた後、誰も、再び私の言葉を聞くために私の光線を呼び寄せようなどと考えるはずはない。なぜなら、その人は自分がどのような事態に身をさらすことになるのかを知らないからである。これらの教えが知られていない他の民族や祖国において、人々が霊界と交信し、人間の知性を通じて私の神聖な霊を呼び求め、その声を聞こうとするならば、彼らは、自分が何をしているのかを知らないのだから、私は彼らを赦すであろう。しかし、あなたがたに告げる。混沌が訪れる前に、私の光が彼らに届くよう、急いでほしい。なぜなら、学者でさえ何も知らないと信じるような混乱の時代が到来し、多くの信念が打ち碎かれ、多くの光が消え失せるからだ。

しかし、この嵐の真っ只中で、わたしの名は口から口へと伝えられていく。人類は、預言と信仰を渴望して、聖典に目を向けるようになる。神学者、聖職者、科学者たちは問われることになるだろう。しかし、私があなたがたに告げ、備えさせているその時代は、まさにあなたがたが新しい世代を準備すべき時代である。彼らは、私の民があなたがたとともに絶えることなく、むしろ成長し、その数において、純粋な霊性、知識、そして徳において増し加わるように、あなたがたの使命を引き継がなければならないのだ。

25. 私が、教師として、模範として、そして「書物」として、あなた方を残して去る日が近づいている。なぜなら、私の教えが人類の間に反響を呼ぶとき、私の視線はあなた方を注視するからである。

26. あなたがたが、何の責任も感じることなく私の言葉に耳を傾け、私の食卓で果実やパンを食べながら何の義務も負わず、好きなだけワインを飲み、それをこぼしてしまうほどに飲み、病の薬を見つけられて幸せだった時代は、すでに過ぎ去った。

27. 今、あなたがたは目覚めた魂をもってここへやって来る。今、あなたがたは自らの責任を感じている。あなたがたは人々のことを気遣い、病める者たちのために苦しみ、わたしの大義のために尽力している。そして、今まさにわたしの最後の啓示に立ち会っているという自覚のもと、わたしの声を聞くために急ぎ、その啓示を心の中に刻み込もうとしている。あなたがたは、この啓示の最終日に裁きを受ける準備をしている。それは正しいことだ。

28. 世界は、「イスラエル」が灰の中から新たに甦るのを見るだろう。しかし、それは金に貪欲で肉欲に溺れたユダヤ人ではなく、霊によるイスラエルである。それが人々の間に現れたとき、魂の輪廻転生を証し、愛と正義の法則によって、基盤や観念、信仰の確信を揺るがすことになるだろう。まず、あなた方は争いを引き起こし、世界観の衝突による戦争を招くことになるだろう。しかしその後、あなた方は自らの平和を実感するようになる。その平和は、最も激しい対立の最中であっても、あなた方を穏やかで揺るぎない状態に保ってくれるだろう。混乱は過ぎ去る。なぜなら、魂の動揺が永遠に続くことは決してないからだ。すべての人間の核心には、決して消えることのない一筋の光の火花が存在しているからである。

29. その後、あなたがたは、わたしが教えたことを説明するよう召され、人々の混乱を解消するために光を照らさなければならない。そして、世界が平和を得たとき、わたしの御国は人々に近づくであろう。なぜなら、わたしの憐れみが第七の封印を解く準備が整うからである。

30. あなたがたは、自分がわたしの使徒であることを大々的に宣伝することなく、使徒として振る舞わなければならない。たとえ師であっても、自分は弟子であると述べなければならない。他者と区別されるような服を着てはならず、手に書物を持ち歩かず、集会所を建ててはならない。また、地上に私の業の中心や基盤を設けてはならず、私の代理として人々の上に立つ者もいてはならない。

31. あなたがたがこれまで持っていた指導者たちは、最後の者たちである。祈り、霊性への深化、そして私の教えの実践こそが、人々の群れを光の道へと導くのである。

32. わたしの言葉の真意があなたがたの心に届き、光の軌跡を残すその瞬間は、厳粛なものである。それは、かつてわたしが愛の血をもってあなたがたに示したものと全く同じものである。

33. 救いを渴望する魂は、この時代にその道を探し求め、その道の上で、清める赦しであり、高める愛であるわたしと出会う。まことに、わたしはあなたがたに告げる。この愛こそが、わたしが創造したすべてのものを結びつける力であり、命を与え、すべての存在を強める神聖な息吹である。あなたがたは、成長の過程において、精神的にも肉体的にも、ますます完全さへと変容してきた。とはいえ、あなたがたの本質は魂である、と私は告げる。なぜなら、肉体は魂が展開するための単なる外殻に過ぎないからだ。

34. 時の流れの中で、肉欲に従って道を誤ったことがあったとしても、今やあなたがたは正しい道を見出し、父が世界に御自身を現わし、この世界が救いを得るための悟りに至ったことを理解しなさい。ここにいらっしゃる皆さんは、救いを渴望するあまり、時には自己犠牲に至ることもありました。それは、遅かれ早かれ、しかし容赦なく、霊的な生へと入っていくことを理解しているからです。

35. 美しさと奇跡に満ち溢れたこの世の生活が、いかに素晴らしいものであるかを、よく認識しなさい。人間がこの世において、あなたがたの生き方に進歩をもたらすような働きをしてきたことも、否定できないでしょう。とはいえ——今こそ、あなたがたは私へと目を向け、私があなたがたを取り巻くすべてのものの創造主であり所有者であり、また、人間に科学を啓示する光そのものであると、私に告げるべき時が来た。あなたがた全員がこの発展段階に達しているわけではない。なぜなら、誰もが自分たちが生きる時代を理解しているわけではなく、また、以前生きていた人生についての知識も持っていないからだ。

36. 宗教的狂信に覆われ、魂からあらゆる自由を奪い、自然な表現のすべてを奪い去っている者たちが、どうしてこの時代の恵みを予感できるようか。

すべての魂は、この世に生まれる前から存在していたため、その内に大きな能力を秘めています。しかし、もしその魂が束縛され、内に秘めたものを表現することを妨げられるならば、理解されず、動揺したまま生きざるを得なくなるでしょう。その魂は、霊的なものに対する予感や自身の過去の記憶に頼って生きなければならず、霊的なものに関する狂信的な信仰教義によって植え付けられた恐怖の結果として、すべてを隠し、口をつぐんでしまうことになるでしょう。そうして、彼女たちは「靈魂」という言葉さえも異質に感じてしまうため、私の存在を感じる事ができなくなるだろう。それでは、転生である靈魂の復活を、どうして信じる事ができるだろうか。今日、彼女たちが目の当たりにしている顕現を、どうして信じる事ができるだろうか。

37. 私がこの姿であなた方に語りかける最後の瞬間が近づいているが、人類は依然として、私の存在を感じているという証拠を何も示していない。

38. この時代に私の啓示を知った者は、なんと少ないことか！人間の知性による私の啓示を信じるだけでなく、さらに、神性が無限の形態で顕現し得るという確信を持っている者は、なんと少ないことか。しかし、私が証人となるよう準備しているあなたがたが、この時代の私の啓示について証しを立てなかったとしても、自然とその要素が「語り」、新しい世代は、たとえ私の言葉を耳にしなかったとしても、私の業を知るようになるだろう。

39. あなたがたの責任を深く考え、まだ時間があることを認識しなさい。あなたがたが、深い霊的な意味を持ち、あなたがたの完成に向けた成長の道を明らかにしてくれると知っている、私の教えを活用しなさい。私の言葉の本質があなた方の心に刻む印象を心に留め、それが、ただ唇を通じて私の声を伝えただけに過ぎない人間によって語られたことなど、忘れてください。

40. 自ら実践していない教えは、決して説いてはならない。そうすれば、誰もあなた方を信じないだろう。人々はあなた方から証拠を要求するだろうが、それを示すことは、私があなた方に教えたことである。今日に至るまで、魂について知ってよいこと、知るべきことは、私があなた方に語った。私が啓示したこと、何も付け加えてはならない。あなたがたは、精神的にも肉体的にも強靱であるよう、引き続き努めなければならない。なぜなら、今日に至るま

であなたがたの中に病が存在するのは、霊性への目覚めと信仰の欠如ゆえに、この人生の悲惨さや苦痛を超越することができなかったからである。

41. わたしの教えは、単に神の力への信仰を持つことだけでなく、あなたがた自身への信仰を持つべきであることを説いている。真のスピリチュアリストである者は、いつでもその知性を通じて、主に対する純粋な観念を受け取ることができるだろう。なぜなら、その者は精神的にも肉体的にも、主を受けるにふさわしい者となるからである。

最後に、この日、私はあなたがたにこう告げます。目を覚まし、祈りなさい。そうすれば、天の父への祈りとして送り出されたあなたがたの思考の力が、この人類の苦しみの上に癒しの香油として降り注ぎ、広がっていくでしょう。

42. 愛する子供たちよ、私の神聖な御臨在は、ここ、あなた方のそばにある――第二の時代のように人間となってではなく、霊的な形で。

43. 私は、私の言葉に耳を傾けるすべての人々に語りかけている。しかし、あなたがたが私の言葉の奥深くに入り込めば、師が一人ひとりの心に語りかけていることを感じるだろう。

44. 私の言葉に慣れ親しむな。今、この言葉が、あなたがたの魂を形作り、その道を確実に歩めるようにしているのだということを心に留めよ。

45. エリヤは、モーセが「最初の時代」にあなた方を約束の地へと導いたように、羊たちを安全な羊小屋へと導く、目に見えない羊飼いである。

46. この迷い出た人類は、いつになったらその羊飼いの足跡に従うようになるのだろうか。私は彼らを啓発し、正しい道を見出せるようにする。

47. 私が語る道とは、再生の道、霊化の道、そして慈悲の実践の道である。病人の恐怖に満ちた声、疲れ果てて慰めを失った者の嘆願を耳にする者は、皆、心を開き、愛と憐れみがその心を貫くのを感じなければならない。

48. あなたがたが、自分の魂の真の本質を明らかにし、わたしの業の使徒として認められるようになることを、わたしは願っている。

49. 私は今、さらなる一步を踏み出すであろう新しい世代を準備している。あなたがたは、彼らのために道を整えなさい。

50. あなたがたには、この時代にわたしの神聖な教えを聞くことが定められていた。それは、そう記されていたからである。時計は

、誰もが到着すべき時刻を示していた。そこでは、父が「」の「放蕩息子」の帰還を待ちわびておられる、その力強い大木の木陰で、皆が息抜きをするのだ。父は常に、その息子に対して、赦しの眼差し、歓迎の抱擁、そして愛情に満ちた微笑みを向けておられる。

51. わが神聖なる御霊の光は、あなたがたの脳を経て、心の奥底にまで届いている。そして、私があなたがたに託した使命を果たせるよう、私はあなたがたの唇に私の言葉を授ける。

52. この言葉は、人間の想像の産物ではない。魂が到達した高みこそが、このようにして魂を私に近づけたのである。なぜなら、あなたがたは徐々に私の律法を理解しつつあり、その律法の中で自らを開花させていくにつれて、より大きな成長を遂げるからである。

53. 私の声を聞いたにもかかわらず、私を理解できない者がいるとすれば、それは、その者が私の教えを、この世の理論やイデオロギ―と混同しているからであり、先祖から刷り込まれた教条的な信仰告白や教会の慣習とスピリチュアリズムを混同しているからである。

54. 私の教えは、あなた方にいかなる教義も強いものではない。あなた方の霊的な理解力こそが、私の教えを悟らせてくれる唯一のものである。あなた方は、魂が完全さを達成するまで、立ち止まることなく、この成長の道に従うだけでよい。

55. 私の律法と教えに表れている私の願いは、人々が兄弟姉妹となり、互いに愛し合い、世界に平和が訪れ、地上のすべての人々がその徳と模範によって私を体現することである。

56. 私はこの第三の時代に、混乱した人類に出会い、彼らが自らを救うことができるよう、この神聖な靈感を送ったのである。

57. しかし、私は、彼らによる私を崇拝する古くからの慣習や形式と闘わなければならなかった。なぜなら、私はそれらをこの時代にはもはやふさわしくないと判断したからであり、私のものではないこの遺産を守ろうとする者たちとの闘いは、激しいものだった。

58. 私があなたがたにもたらし、スピリチュアリズムと呼んできた教えは、私が古くからあなたがたに教えてきた永遠の教えである。しかし、まことに、あなたがたに告げる。それを一度も心に感じ取ったことのない者は、それを理解したとは言い得ないだろう。

59. あなたがたは喜ぶべきである。なぜなら、私の到来は、あなたがたにとって霊的進歩の道における一步前進を意味するからである。

60. あなたがたはまだ未熟で弱いため、私の啓示が内包する偉大さのすべてを認識することはできない。しかし、私の教えによって

あなたがたは成長し、やがて、人々が失ってしまった霊的な道を、あなたがたの人生を通じて明らかにすることを期待している人々にとって、良き手本となるだろう。言葉だけで、模範を示さずに彼らのところへ行くならば、彼らを絶望させたり失望させたりしてはならない。そうすれば、彼らはあなた方を私の弟子として認めないだろう。あなた方は、自らの行いによって、私の教えを証ししなければならない。

61. 人々は、この世に支配すべき霊的な平和を理解することから、いまだどれほど遠く離れていることか！彼らは、暴力や脅迫によって、また自慢する科学の成果によって、それを強要しようとしている。

62. わたしは決して人々の進歩を軽視したり、それに反対したりはしない。それらは彼らの精神的な発展の証でもあるからだ。しかし、それでもなお、私はあなたがたに告げる。暴力や地上の権力に対するあなたがたの誇りは、私の目に喜ばしいものではない。なぜなら、人々の十字架を軽くするどころか、それによって彼らは最も神聖な原則を冒涇し、自分たちのものではない命に手を出し、平和や健康、幸福の代わりに、痛み、涙、悲しみ、そして血をまき散らしているからだ。なぜ、彼らが知識を汲み取る泉が、愛と知恵と健康と命において尽きることのない、私自身の創造物であるにもかかわらず、彼らの行いはまさにその正反対を露呈しているのか。

63. わたしは、「第二の時代」にすでに説いたように、わたしの子供たちの間に平等を望む。しかし、それは人々が理解するような物質的なものだけではない。わたしは愛に基づく平等をあなた方に啓示し、それによって、あなた方が皆、兄弟姉妹であり、神の子供たちであることを理解させるのである。

64. 人類にこれらの啓示を伝えることを恐れてはならない。あなたがたは殉教を強いられることはない。そのような時代はすでに過ぎ去ったからだ。とはいえ、あなたがたは人々の調査の対象となるだろう。

65. こうして、私は人間の知性を通じて、あなた方を準備している。私の言葉は、すべての伝達者において同じ意味を持っている。もしあなたがたが、人によってその意味が異なると考えるならば、それはあなたがたが外見的な形式に固執し、その真意を見ていないからである。

66. 私は、あなたがたの隣人の幸福のために行われる行いを受け入れ、あなたがたが私の教えを実践する姿を見たいと願っている。

人々を驚嘆させるような奇跡を、あなたがたはどれほど多く成し遂げることができるだろうか！

67. あなたがたの使命を果たし、その功績によって「約束の地」を手に入れなさい——その約束こそが、あなたがたにとって永遠の現実となるはずである。

68. 子供は温もりを求めて父のもとへやって来る。父を心の友とし、その父に自分の悩みや苦しみ、そして恐れを打ち明けるのだ。そして、わたし自身、あなたがたの心の奥底で鼓動する音を聞くと、まことに喜びを感じる。わたしはあなたがたに近づき、あなたがたが立ち直れるよう、わたしの教えの光を与えるのだ。

私は、この世の富をあなたがたの手に注ぎ込むことはないが、あなたがたが悲惨な生活を送ることも望んでいない。そうすれば、あなたがたが私に従い、利己的な利益を追い求めず、またこの世の義務から狂信的に背を向けることもなく、自らを新たにすることを知ったとき、あなたがたは将来の世代に、曇りのない模範を示すことができるだろう。

69. 堅固な地に築き上げなさい。そうすれば、私があなたがたの中に築き上げた霊性と刷新を、不信仰者たちが破壊することはないだろう。しかし、世を恐れてこの真理を隠してはならない。あなたがたは、それを白昼の光の下で世に示さなければならない。この時代、祈り、私を愛するためにカタコンベに身を隠すようなことはしてはならない。いかなる形であれ、わたしについて語ったり、証しをしたりする際に、臆してはならない。そうしなければ、人々はわたしがあなたがたに現れたことを認めず、病者や助けを必要とする者たちが大勢、癒やされ、苦しみが和らげられたことを疑い、あなたがたの信仰に火をつけるためにわたしが行った奇跡を否定してしまうだろう。

70. わたしは、あなたがたにわたしの教えの書を残す。それは、あなたがたが世に向かって「見よ、これこそが師が遺産として残したものである」と告げられるためである。まことに、わたしの御言葉を聞くと、どれほど多くの者が信じ、どれほど多くの罪人が心を新たにすることか！ あなたがたの人生における試練に不意を突かれないよう、これらすべての教えを心に刻みなさい。

71. あなたがたは、この地上の生涯を通じて、癒しの香油を与え続け、その言葉は子供たち、若者たち、そして大人たちへの慈愛に満ちた助言となるだろう。それゆえ、今日のように、人々はあなたがたを求め、これからも助けを請い続けるだろう。あなたがたは、助けを求める死の床にある者たちから呼び出され、あなたがたの言

葉は、人々の魂が最期の時を迎える際の道しるべや灯台となるでしょう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 247

1. 日々増え続ける数で私に近づく民よ、ようこそ。ここに、善意をもって彼を待ち望む者たちに、愛の教えを授ける、すべての時代の師がおられる。

2. 私は「第二の時代」にそうであったように、今、あなたがた全員を迎え入れ、同じ主であるからこそ、同じ趣旨で語りかける。あなたがたの中には、かつて私の言葉を聞いた者たち——この地上で私の歩みを目の当たりにし、私の業を無関心に見つめていた者たち——が数多くいる。しかし、その中には、敬意を持って私の言葉に耳を傾け、私の言葉を熱心に吸収し、私の教えの光によって熱狂に駆られた者たちも大勢いました。その光は、彼らに樂園と、魂のための未知の永遠の至福の世界を提示したのです。

こうして、愛に飢え渴く者たち、病める者たち、悲しむ者たち、抑圧された者たちが、わたしを受け入れた。どれほど多くの者がわたしを求め、長い旅の末にわたしのもとへたどり着いたことか。彼らは、まもなく癒やしを見出せること、そして、わたしが魂のための命であり復活そのものであるゆえに、わたしが彼らを癒やすことができることを知っていたからだ。

3. この時代においても、私は信仰に満ちた心を見つけました。彼らはすぐに駆けつけ、私の神聖な御言葉を魂に受け入れることを知り、癒やされました。

4. あなたがたが私の弟子となるために、私はまだ多くのことを教えなければならない。あなたがたが準備が整ったとき、私はあなたがたを人々のところへ遣わす。あなたがたが私の種を蒔き、私を愛し、霊的に私を求めるすべての人々と調和できるよう、私は道を切り開く。しかし、まだ霊性への道を歩み始めていない人々を、あなたがたが皆、同じ道を歩んで一つになるまで、手を取って導いてほしい。

5. 常に前進しなさい、わが子らよ。知恵を求め、そうして人生の本質を見出せ。愛しなさい。そうすれば、あなたがたはわたしの秘められた宝庫に踏み入ることができるようになる。もはや秘密ではなく、真の愛の頂上に登りつめたとき、すべてがあなたがたに明らかにされるだろう。

6. 今日の子供たちは明日の使徒となるでしょう。そして、あなた方は今この瞬間からすでにそうなり得るのです。虚栄心から、兄弟愛の共同体に自分の名を残そうと努めてはなりません。善良な使徒たちを模範とし、望むなら彼らをも凌駕しなさい。しかし、それは

ただ人々への愛から行うべきです。善を追い求め、平和のために尽力し、常に完全性への道を指し示しなさい。

7. 私はあなたがたの瞑想において、あなたがたに靈感を与え、私の名において病人を慰め、調和、健康、そして平和を追求することで、人々が私のもとへ立ち返るよう導くようにします。この愛すべき人類に健康の秘訣を伝え、彼らが簡素さ、誠実さ、祈り、そして慈悲の行いに立ち返らなければならないと告げなさい。そこには、彼らが望むすべてのものが備わっている。

あなたがたが使命を果たすその時に、私はあなたがたを力づける。私は、あなたがたが、互いに認め合い、抱き合い、一つの家族を形成すべきその道を歩むよう、励まします。あなたがたが善を行うために手を差し伸べるたびに、私の輝きが降り注ぎ、あなたがたの善行から漂う芳しい香りが周囲を満たしていくのを感じるでしょ。

8. 人類のために道を切り開き、その未来を準備するすべての人々に祝福あれ。あなたがたが生きているこの恵みの時代を、人々の意識に深く刻まれるような行いで彩りなさい。それらの行いは、あなたがたの先駆的な歩みとなり、人々に投げかけることのできる最も効果的な呼びかけとなり、そして間違いなく後世に受け継がれる遺産となるでしょう。

9. 彼らに苦痛を与えず、良い手本を通じて警告し、教え導き、人類が速やかに正しい道へと戻れるようにしなさい。私は、彼らが泣き続けたり、つまずき続けたりするのを見たくはない。人類は、私が救いたいと願う、私の深く愛する娘なのだ。

10. 地上の巡礼者たちよ。あなたがたは力強い大木の木陰にいて、その実を喜んでいる。まさにこの場所に、純粹で水晶のように澄んだ水が湧き出る泉があり、そこで喉の渇きを癒すことができる。なぜなら、あなたがたに必要なものはすべて、ここで見つけることができるからだ。

11. あなた方は、まだその木と泉を探し求めている大勢の男女を、後ろに残してきました。

12. 私はあなたがたが力強い姿であるのを見てきました。飢え、疲れ、渇きがあなたがたから去ったとき、私はこう言いました。「欠乏によって滅びゆく者たちへと、目を向けてください。」

13. あなた方を導き、あなた方の道しるべとなる星は、すべての人々の頭上に輝いている。しかし、誰もがそれを見ることができたわけではなく、そうした人々は道に迷ってしまった。

14. 私は、この時代の人々の魂をこのように見ている。パンが隠されていたために飢え、世の情欲に弱くなり、差し伸べられる救いの手を見つけられなかったために、漂流しているのだ。

15. わたしは今すでに、あなたがたを「魂の漁師」として備えさせている。それは、あなたがたが同胞たちを慈愛をもって救うためである。

16. 病める者や疲れ果てた者の支えとなりなさい。今や、あなたがたは強くなっているのだから。魂の傷であれ、体の傷であれ、私の癒しの香油を注ぐことによって、その傷を癒やしなさい。渴きに苦しむ者が、私のもとへ来る力さえ失ってしまったなら、あなたがたはその人の唇に水を運んであげなさい。

17. これが、わたしがあなたがたに命じる、わたしの永遠の愛の律法である。あなたがたの心こそが、それを納めるべき新しい契約の箱とならなければならない。そうすれば、この内なる光こそが、あなたがたの歩みを導き、あなたがたに従う者たちのための道を照らし出すことになる。

18. この時代において、わたしの言葉は、荒野を横断した時のように、不和や苦しみ、闘いに満ちた人生の道程において、あなたがたの魂を養うマナである。しかし、このマナは永遠の命をもたらすものである――イスラエルの民が荒野の旅が続く間だけ養われたあのマナとは異なり、その民の子孫たちは、一握りのマナを聖遺物として持ち帰り、その記憶を今に伝えているのだ。

19. 男女の皆さん、私の教えに忠実であり続けなさい。そうすれば、あなたがたは周囲の人々の間で、闇を追い払う太陽のようになるでしょう。子供たちに良い手本を示しなさい。そうすれば、彼らは家族の懷の中で、消えることのない光を放つ燭台となるでしょう。

20. わが愛する被造物たちよ、あなたがたの中に、熱心な努力と、同時に深い苦しみ――この時代がまもなく終わりを迎え、あなたがたがわが教えから得たものはごくわずかであることを知っているがゆえの深い苦しみ――を見出す。しかし、まことに、あなたがたに告げる。恵みの時は終わらない。私はあなたがたのそばにいて、あなたがたの歩みを守り続ける。預言者たちの目は、私が選ばれた民の先頭に立って進む姿を注視するであろう。

21. 私は限らない愛であり、崇高な慈悲であり、決して私の子供たちを無防備なままにはしません。わたしの霊は常にあなたがたと共にあり、あなたがたに愛撫を授けるために、呼びかけを待っている。あなたがたが孤児であったことは一度もない。もし一時的に孤独を感じたとしても、それはあなたがたがわたしから離れてしまっ

たからに他ならない。しかし今、わたしはあなたがたがわたしの恵みの働きを感じたいと願っているのを見ている。

22. わたしを呼び求める者は幸いである。わたしはその人の心に降りてきて、その人の中に留まるからだ。わたしの御霊の光を渴望する者は、照らされるであろう。わたしを「父」と呼ぶ者は、わたしを父として出会うことになる。あなたがたがわたしを「医者」として必要とするなら、わたしはあなたがたと共にあり、あなたがたはわたしの癒しの香油を感じるだろう。わたしを「兄弟」として呼ぶ者には、わたしが慈悲深い手を差し伸べて導き、慰める。そして、わたしを「師」として求める者は、その心の中に教えを受け取るだろう。

23. わたしにとって不可能なことは何もない。わたしは全能者であり、わたしの被造物に対して抱く限りない愛が、人々にわたしの慈悲と赦しを授けるように働いている。それらは、あなたがたの弱さを見るのではなく、ただその魂を高揚させるべきである。なぜなら、その魂はわたしの霊の一部であり、わたしに属しているからである。その魂の上に、私がすべての人間の被造物に宿せた神聖な火花である霊が君臨している。私は今、平和と光の世界、すなわち新しい世界を築き上げようとしている。だから、あなた方をその支柱としたいのだ。

24. そして、第二の時代の弟子たちのようにわたしの御言葉を聞くあなたがたは、わたしの業のための有用な器となるようわたしに願い求めなさい。そうすれば、わたしはあなたがたにそのための力と光を与える。あなたがたの歩むすべての道において、あなたがたはわたしを感じるだろう。

25. 私は、あなたがたがこの時代の私の言葉を理解し、それを心に刻み込むことを望む。また、第二の時代に私が来た意味も理解してほしい。なぜなら、あの時代に起こったことは、魂の贖いの業であったからである。

26. 私は、完全なる者としての救い主として、地上に人となって降りてきた。私は、アダム以来の不従順によって罪に陥ったすべての被造物を救うという使命を果たした。彼らの弱さゆえに、その魂はますます深く堕ちていった。しかし、時が満ちたとき、私はメシアの到来に関する預言を成就するために人間となり、教えを授け、魂の鎖を取り除き、それに復活をもたらした。

27. あなたがたは皆、最後の晩餐で何が起きたかを知っている。私が弟子たちに与えたパンとぶどう酒は、全宇宙のための糧であった。それらは、信者であれ非信者であれ、すべての私の子供たちの

上に注がれる私の本質と愛を象徴していた。すべての人に、私の御霊の光が注がれた。

28. 私は使徒たちの足を洗い、私の謙遜を示し、彼らに地上の道へと旅立ち、私の愛——すなわち、誰も失われることなく、すべての者が私のもとに来るよう、私がすべての人に対して抱く計り知れない愛——をもって、あらゆる心を整えるよう促した。しかし、この行為は、あなたがたが使命の遂行に着手しようとするならば、あらゆる罪から身を清めるべきであることを教えているのである。

29. 私は自分のために何も残しておかなかった。人々が私に対して何ができるというのか、私があらかじめ知らなかったことなどあるだろうか。すべては私の意志通りに準備されており、で展開された通り、それは人々の心を納得させるために私があらかじめ定めた筋書きであった。人々は私を十字架へと引きずり出し、私の体を裸にし、私の手と足を木に釘付けにした。——十字架の象徴性は以下の通りである。

30. 横木は、垂直の梁に対立する世の罪を表している。垂直の梁は高みへと伸び、それを象徴している。しかし、罪は常に、神性への昇華を阻む障壁である。

31. 私はその木に釘付けにされた。そして、私の霊が人々の心の冷たさや悪意を目の当たりにし、さらに彼らがその肉体を拷問されるのを見て喜ぶ姿を見たとき、苦痛のあまり私の顔は歪んだ。その時、私の唇はこう語った。「主よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのか分かっていないのですから。」

今、この時代においても、あなたがたは依然としてわたしを理解していないので、わたしは再びあなたがたを赦す。どれほど多くの被造物が、わたしを愛していると主張しながら、実際には愛していないことか——どれほど多くの者が、わたしに仕えていると信じながら、実は誘惑に仕えていることか！

32. 再び、私の目は人々の群れに注がれ、当時私を取り囲んでいた者たちのうち、何人かを認めた——ほんの少し前に奇跡の恵みを受けたにもかかわらず、私を認識することさえできなかった者たちである。

33. 私は、それらの顔に憐れみも愛も見出せなかった。それゆえ、私は人々にこう言った。「私は渴いている。」それは肉体の渴きではなく、魂の渴きであり、その渴きこそが、あの言葉を口にさせたのである。私は人々の愛を渴望していた。しかし、愛することとは程遠いことに、私は彼らの中に、私を死に至るまで苦しめたこと

への満足感、喜びを見出した。その時、大地は震え、太陽は暗くなり、私の霊はイエスの肉体から離れ去った。

34. 私の子供たちは、罪の重荷と世の恥辱のすべてがのしかかったその肉体を見た。そして、拷問を受けたその肉体は叫んだ。「わが神、わが神、なぜ私を見捨てられたのですか？」

35. その後、私は苦痛に満ちたマリアの顔、私の使徒ヨハネ、そしてマリアに付き添っていた女性たちへと視線を向けた。そして、私の愛のさらなる証しを残そうと、私はマリアにすべての子供たちの世話と保護を託し、彼女に「女よ、そこにあなたの子がいる」と言い、ヨハネには「子よ、そこにあなたの母がいる」と言った。それが、その瞬間に私が人類に遺した遺産であった。ヨハネは「子」、すなわち人類を体現していた。あなたがたはマリアに託され、彼女がすべての被造物のために永遠に執り成し、慰め、守ってくれるようにされたのである。

36. その後、私は、恐怖に震えながら叫び、同じく十字架に釘付けにされていたディマスの方に向き直った。私は彼の心に入り込み、その深い悔い改めを見た。彼は私にこう言った。「完全なるあなたを、彼らは十字架につけている。この貧しい罪人である私に、憐れみをお与えください。」私は彼を慰め、こう言った。「まことに、まことに、ほんのわずかなうちに、あなたは私と共に楽園にいることになる。」

37. イエスに肉体の死が迫ったとき、私は次のように語った。「父よ、私の霊を御手に委ねます。」私は、あなたがたに、御戒めを果たした後に父のもとへ帰るよう教えた。私の霊は、御霊と一つになるために、父の御許へと戻っていった。

38. 私の最後の言葉は、「すべては成し遂げられた」であった。その成長の道のりの最終目標に到達できる心は幸いである。なぜなら、私はその心を受け入れ、その心は恵みと完全さに満ちるからである。

39. これらは、世界が年々耳にしている七つの言葉であるが、その霊的な意味を理解することはない。

40. わが弟子たち、そして友よ、イエスが息を引き取られた後、彼らはその遺体を収め、慣習に従って防腐処理を施し、地下墓所に安置した。その後の三日間、わが霊は、魂たちが私を待ちわびていた世界へと降りて行き、彼らに自由を与え、道を示した。救いは、暗黒の領域に留まり、救い主を待ち望んでいた存在たちにも及んだ。

。

41. その後、私は姿を現して現れ、母、マリア・マグダレナ、そして弟子たちを訪ねた。昇天に先立ち、私は彼らに最後の教えを与え、すべての魂を新たな命へと目覚めさせるために、私の無限の知恵と完全な教えを人々に伝える際、人間社会においてどのように振る舞うべきかを示した。

42. そして今日、私があなた方と別れを告げる時が近づいている。今、私はこう言います。この限られた教えの期間が終わっても、心配する必要はありません。魂たちは成長しており、あなた方はもはや物質的な目を通して私を見る必要はありません。また、物質的な口から私の言葉を聞く必要も、もはやありません。魂は成長し、高みへと立ち上がり、霊的に受け入れるようになった。私も今後も、すべての弟子たちに道を示していく。

43. 私はすべての子供たちに向けて指示を与える。師はこう告げる。もしあなたがたが、託された魂たちを、愛が実を結ぶ肥沃な野原へと変えることができたなら、あなたがたの間には一致と兄弟愛が支配するようになるだろう。そうして初めて、あなたがたは自分たちを私の弟子であると見なすことができるようになるのだ。

44. 時折、私は比喩を用いてあなた方に語りかける。それは、私の言葉があなた方の想像力に刻み込まれることで、深遠な教えを深く理解できるようにするためであり、また、あなた方が不快に感じたり混乱したりするようなことが何一つないよう、詳しく説明しているのだ。そうでなければ、あなたがたはすでに、弟子や生徒の間、集会の「最初」と「最後」の者たちの間に、階級や位階、分類を作り出し、祝賀の席で架空の月桂冠を自らに冠していたことでしょう。なぜなら、人間には虚栄心や見せびらかしへの傾向があるからです。

45. かつて私の使徒たちが育んだ兄弟愛の種を、あなたがたの間にも蒔きなさい。その種こそが、彼らが教会や村、そして町を築き上げた際の模範であった。

46. 私の教えを伝えるために、あなたがたは何を知っておくべきか。それは「愛」である。心に愛を持たない限り、あなたがたがキリストの宣教師となることは不可能だ。あなたがたは皆、私のもとへたどり着くことになる。そして、それは愛によって成し遂げられるのだ。ある者は早く、ある者は遅く到着するだろう。自らの過ちによって最も遅れてしまった者たちは、最も多くの涙を流さなければならないだろう。あなたがたは皆、新しい日の光を受け入れるために、一斉には咲かない花のようなものだ。もしあなたがたの心が神の愛に対して閉ざされたままであったなら、今、私はこう告げる

。あなたがたの過去は過ぎ去った。今、永遠があなたがたを呼び戻そうとしているのだ。私は、確かに多くの欠点があるであろう、あなたがたの過去の人生を記した書を手にしている。しかし、そこにはあなたがたの未来の人生と変容のための空白のページも記されている。私はすべてを見ており、すべてを知っている。

47. もう一度言おう。あなたがたは皆、わたしと一つになるのだ。しかし、一人ひとりが自ら天国を「勝ち取ら」なければならない。この「勝ち取り」は、愛によって容易に行うこともできれば、苦痛を伴って行うこともできる。わたしはあなたがたを助け、慰め、導くが、残りのことはあなたがた自身が行わなければならない。私はあなた方を力づける。その力は愛であり、宇宙とすべての被造物を動かす真のエネルギーであり、それなしにはあなた方は存在し得ない。私はあなた方の過去の書物を隠している。もしそのページを見たら、あなた方は悲しみのあまり泣き、憂鬱のあまり病んでしまうだろうからである。多くの人々にとって、その恐怖と苦しみはあまりにも大きく、自分たちは赦しや救いを受けるに値しないと考えるだろう。しかし、こうした暗い出来事の中にも、私の愛は輝き、恐ろしく果てしない苦しみからあなた方を救い、純粋な行いを通じて少しずつ魂を再生させていく新たな道を切り開くのだ。もしあなたがたが、人生の書物の未来のページを知ることができたなら——どれほど幸せそうに微笑むことだろう！

48. あなたがたがかつて高みへと至ったとき、過去の苦しみを楽しみに思い出し、父に感謝するでしょう。なぜなら、それらの苦しみは、あなたがたが受けるに値したものに比べれば、はるかに軽微なものだったからです。

49. ここに、人間の知性を通じて与えられた私の言葉がある。これをあなたがたが望むほど完全なものにするためには、あなたがたは霊性を高め、私があなたがたに語りかける兄弟姉妹たちにもこれを分かち合わなければならない。彼らに理想主義と心の平安、そしてそのための励ましを与えてほしい。彼らの仕事は、魂にとっては成し遂げがたく、肉体にとっては非常に負担の大きいものである。私の業には、力強い伝道者が必要だ。そうして初めて、不信仰な世界——すなわち、トマスのように疑い深く、目で見、手で触れて初めて納得する者たち——が求める奇跡を成し遂げることができる。彼らは、自分たちも、トマスのような態度を減らし、あなたたちに語りかける師をより手本にすれば、奇跡を起こすことができるのだということを知らないのだ。

50. わが言葉の伝道者たちよ。あなたがたの働きが理解されず、自分たちの行っている働きにふさわしい注目や称賛を受けていないと気づく限り――それを受け入れ、赦し、優しさを失わないでほしい。しかし、あなたがたの知性に向けられ、やがてあなたがたの唇から発せられる、わたしの光の霊的な触れを感じたときは――わたしを思い出し、喜びをもってわたしの愛に身を委ね、限りない歓びをもってわたしに仕えなさい。なぜなら、そうすることであなたがたの兄弟姉妹に仕えていることを知っているからです。私は、その瞬間にあなた方を恵みで満たすことで、あなた方の準備を報いる。これらすべてに値するためには、あなた方は愛に満ち、心の中に真の隣人愛の感情を抱かなければならない。

51. わたしの啓示に備えるその瞬間、この世の「知恵」や哲学について考えてはならない。なぜなら、わたしの知恵の前では、それらはすべて無益なものとなるからだ。あなたがたが恍惚状態にあるとき、あなたがたに靈感を与え、困難な任務を全うするための力を与えるのは、他ならぬわたしである。もしあなたがたがわたしに身を委ねるなら――一体何を恐れる必要があるだろうか。

52. 祈りなさい。しかし、その祈りは日々の計画や行いに基づいていなければなりません。それこそが、あなた方にとって最良の祈りとなるでしょう。しかし、もし私に向けて願いを込めた思いを捧げたいと望むなら、ただこう言ってください。「父よ、御心が私の上に成りますように」。そうすれば、あなたがたが理解し、期待する以上のものを求めることになるでしょう。そして、この単純な一文、この思いこそが、かつてあなたがたが私に求めた「主の祈り」を、さらに簡素なものにしてくれるでしょう。

53. これで、あなたがたは、あらゆるものを願い求め、あなたがたのために最もよく語ってくれる祈りを得たことになる。しかし、それを口にするのではなく、心で感じなさい。なぜなら、口にすることは感じることでなく、もしあなたがたがそれを感じているなら、私に言う必要はないからだ。私は御霊の声を聞き分け、その言葉を理解している。

54. これを知ること以上に、あなた方にとって大きな喜びがあるだろうか。それとも、私が何をすべきかを、あなた方が私に告げることに頼っていると思っているのか。私の啓示には、適切な場所や特別な衣装、さらには特定の振る舞いさえも必要だと考えるような思い込みを強めてはならない。やがて、どんな場所でも、どんな時でも、さまざまな人々の前で、あなたがたが私の思いを、誰もが理解できる言葉や言語で表現するようになる日が来るでしょう。

55. この御言葉が響き渡るべき唯一の教会は、あなたがたの兄弟の心である。あなたがたは、自分が話す言語以外の言語で私の御言葉を伝えるために、言語を学んでいるというのか。私はあなたがたに、光である私の思いを表現すべきだと言う。そうすれば、私の使徒たちが様々な方言や言語を話す人々に私の王国について語った時のように、誰もが自分の言葉でそれを受け取るだろう。これらの驚くべき出来事を真実だと信じる人々はそれを「奇跡」と呼ぶが、他の人々はそれを不可能だと考えて否定する。しかし、あなたがたが真に私の愛の弟子であるならば、これらは些細なことであり、何の苦労もなく成し遂げられることだと、私は告げます。おお、私の声を伝える者たちよ、誰かを真似ることなく、心の声に従いなさい。一人ひとりに果たすべき使命があることを心に留めておきなさい。

56. 人よ、増えよ。そして、私の道具となっている者たちに、心で寄り添いなさい。彼らは恍惚の中で、あなたを力づけ、喜びを与える霊的な光と糧を授けてくれる。彼らは、あなたが学ぶために奉仕しているのだ。明日には、今日あなたが彼らのために行っていることを、他の人々があなたのためにしてくれるだろう。あなたがたは、「第二の時代」に私が用いた言葉の形式と、今私が用いているものとは異なると言うかもしれない。その点については、ある程度正しい。というのも、イエスは当時、自分が暮らしていた人々の表現や言い回しを用いてあなた方に語りかけたのと同様に、私も今日、私の言葉を聞く人々の精神性を考慮してそうしているからです。しかし、当時も今も語られているその言葉が伝える霊的な内容は同じであり、唯一無二であり、不変なのです。それにもかかわらず、心が硬く、理解力が閉ざされている多くの人々には、このことが見過ごされてきました。

57. 常に、根源から離れ、表面的な事柄に固執する者たちがいる。彼らは、それに気づくことなく、誤り、道に迷ってしまうのである。私があなた方に語りかけるために用いる、私の子供たち一人ひとりに現れる言葉は、極めて簡素で純粹であり、愛を現し、霊的な深みを持っています。しかし、耳には心地よく響くものの、あなたの心に何も語りかけない、響きの良い表現に惑わされてはなりません。

58. 頭脳よりも心を動かされなさい。なぜなら、心こそが頭脳の主だからである。人は高潔であればあるほど、より深く愛し、より謙虚であり、そしてより健全である。

59. あなたがたの信仰、愛、そして観念の中で、最も純粹で崇高なところに、わたしの業を探し求めなさい。不必要な知識によって

それを複雑にしたり、外的な儀式によってこの教えの輝きを曇らせたりしてはならない。あなたがたが、こうした事柄や、後でわたしが語るであろう他の事柄によって、真の道から逸れてしまったことを忘れてはならない。

60. あなたがたはどちらを好むのか。私を表現するために作り出した物を通して私を求めることか、それとも、あなたがたの心の中で直接、私の愛の触れや私の声の呼びかけを受け取ることか。靈性を高めよ。まことに、あなたがたに告げる。これを成し遂げた者は、この世のあらゆる称号や任命よりも価値あるものを手に入れるであろう。

61. これが実現すれば、あなたがたは奇跡を目撃することになるだろう。そしてその前から、信じがたい出来事が起こるだろう。さあ、弟子たちよ！光を持たない魂たちに、たとえ彼らが現世に生を受けているか、あるいはすでにこの世を去っているかに関わらず、怯えてはならない。しかし、彼らを愛し、助けなさい。彼らもまた、あなたがたが私を求め続けたように、やがて私を求めるようになる、私の深く愛する子供たちだからである。その時、私は彼らを迎え入れ、「放蕩息子」のように私の腕に抱きしめるでしょう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 248

1. すべての魂に、わたしの平安あれ。この平安を深く感じ取りなさい。そうすれば、真の道を明らかにする光が輝き出し、あなたがたは、何世紀にもわたって歩み、その間、茨の茂みに躓きながら進んできた暗い道から背を向けることができるようになるでしょう。私が、あなたがたに永遠の命の一瞬を過ごすために託したこの美しい惑星を、あなたがたはどれほどの悲しみで覆い尽くしてしまったことか。

2. 魂に平安があるときのみ、あなたがたはわたしに従い、わたしを理解することができる。わたしがあなたがたに語る教えは、強い魂を持つ者たち、すなわち苦しみと愛の中で強くなった人々に向けられたものであり、彼らが後に人類の前で模範として輝けるようにするためである。

3. イエスの模範を思い起こすとき、あなたがたは私の教えを最も有効に活用できるでしょう。しかし、もしあなたがたが、人類が育てた苦い実を食べ続けることに固執するならば、師の教えをほとんど、あるいは全く理解することはできないでしょう。外見は甘さを約束しながら、その内側に毒を隠している、危険で偽善的な実が数多く存在するからです。

4. 改めて言おう。魂を安らげ、世界が贖罪の時代を経験している今、自分の問題は人類全体の問題であると思い、ひとときその悩みを忘れてほしい。

5. あなた方はまるで低木のようなものです。時には、その枝があまりにも枯れ、病んでいるため、病んだ部分を取り除き、再び健康を取り戻すために、痛みを伴う剪定を必要とすることがあります。私の愛に満ちた正義が、人間の木からその心を傷つける病んだ枝を取り除くと、その人は立ち直る。もし人の体の肢を切り落とさなければならないとき、その人は、それが病んだもの、死んだもの、そしてまだ生きられるものを脅かすものを取り除くためだと分かっているにもかかわらず、ため息をつき、震え、臆病になってしまう。バラもまた、剪定されると、痛みの涙のように生命の雫を流すが、その後、最も美しい花で身を包む。私の愛は、はるかに高次な方法で、子供たちの心にある悪を剪定し、その際、時には私自身を犠牲にすることもある。人々が私を十字架につけたとき、私は自分の処刑者たちを私の慈愛と赦しで包み込み、彼らに命を与えた。私の言葉と沈黙によって、私は彼らを光で満たし、守り、救った。そうして私は悪を切り取り、私の愛によってそれを退け、悪を行う者を守り、救うのだ

。それらの赦しは、かつてそうであったように、今も、そして永遠に、贖いの源であり続けるだろう。

6. 昔も今も、あなたがたが転んだ時には私が立ち上がらせ、迷った時には私が介入する。私を恐れる必要はまったくないことを悟りなさい。恐れるべきは、あなた自身なのだ！

7. 私は常に、子供たちに軽やかで美しく、安全な道を示す。あなたがたが自らの行いによって作り出す、長く、重く、苦痛に満ちた徒歩の旅を、私はあなたがたに免じてやる。もしあなたがたが道に迷ったり、怠惰になったりして、光の道への到着が遅れるとしたら、それはあなたがたがそれに固執しているからに他ならない。

8. 私は、あなたがたが新たな変容を遂げられるよう、新たな啓示を与える。私の教えの言葉が書物という形で魂に届くことを、何ものも、誰一人として妨げることはできない。私の言葉は、人間の生活の中に蓄積されてきたあらゆる誤りを打ち砕くであろう。

9. 私はこれで些細な争いを引き起こすのではなく、世界観をめぐる大いなる戦いを引き起こすのだ。その戦いの中で、靈感を受けた者たちは輝きを放つだろう。あなたがたが私の教えを正しく解釈できるよう、私はあなたがたに正しい言葉を授ける。

10. 師のもとへ来て、師から学びなさい。そうすれば、かつての聖典について教えられてきた誤った解釈を払拭することができるだろう。まるで曇った鏡のようなそれらの誤った解釈は、あなたがたに真実を見えなくさせていたのだ。

11. あなたがたには、私の弟子ヨハネの『黙示録』に言及して、反キリストについて語られてきた。しかし、あなたがたは誤って、この人物像を、過去も現在も、多くの同胞たちに当てはめてきた。今日、私はあなたがたに告げる。人類が想像してきたような「反キリスト」は、存在せず、今後も存在することはない。キリストは創造主の愛そのものであるから、愛を持たない者こそが反キリストである。それゆえ、物質主義に目がくらまされた反キリストたちが、あなたがたの世界に満ち溢れていることを悟りなさい。

12. 私はあなたがたに告げる。真実だと信じ込んでいる誤った確信や嘘に満ちているよりも、不確実さや否定に満ちているほうが、あなたがたにとってはましである。疑いや無知から生じる誠実な否定は、虚偽に対する誤った確信よりも、あなたがたに与える害は少ない。理解を渴望する誠実な疑いは、いかなる神話への確固たる信仰よりも優れている。光を声高に求める絶望的な不確実性は、狂信的あるいは偶像崇拝的な確信よりも優れている。今日、至る所で、不信者、失望した者、そして憤りを持つ者たちが多数を占めている

。彼らは反逆者であり、しばしば他者よりも物事をはっきりと見通している。彼らは儀礼的な振る舞いを単なる形式としてしか受け止めず、人々を精神的に導く者たちから聞かされた保証の言葉にも納得しない。なぜなら、それらの複雑な理論のすべては、彼らの恐怖を和らげる、純粋な水を渴望する心を満たすものではないからだ。あなたがたが反逆者だと見なす者たちは、自分たちを博学あるいは重要だと自負する者たちが答えるよりも、その問いかけの中でしばしばより多くの光を示している。彼らは、神の教えの達人と自称する多くの人々よりも、はるかに明晰に感じ、見、感知し、聞き、理解しているのだ。

13. また、あなたがたは、戦争が勃発するたびに差し迫っていると考え、恐れられ、恐ろしい「世界の終わり」についても議論している。それについても、今日、私はあなたがたに告げる。あなたがたが待ち望んでいるその終わりは、決して訪れない。私の「第二の時代」の言葉は、私を敬わず、愛せず、認めもしない、物質主義的で科学的な世界に向けられたものである。

14. あなたがたは、自らを「キリスト」と名乗る者たちの到来を文字通り信じていたが、最終的には、それらが偽りのキリストたちであることを信じ、理解するに至った。

15. あなたがたは、どうしても象徴を誤って解釈しようとし、それについて考えを巡らせるあまり、誤りに陥り、結局何を考えればよいのか分からなくなってしまう。あまり深く考えすぎず、魂と心を清め、わたしのところに来なさい。わたしはあなたがたに光を与え、物質的な向上と霊的な高まりの両方のために、あなたがたが知るべきことを明らかにしてあげる。

16. 偽キリストとは誰のことか。それは、優越性や美徳を大々的に宣伝し、善を広める者であると主張しながら、実際にはその正対のを行っている者たちすべてである。

17. あなたがたは今なお、神の恐るべき正義や、エホバの怒り、そして私が復讐の裁判官となる審判の日の「目には目を、歯には歯を」について語り続けている。しかし、あなたがたはこれまでの人生で、いったいどれほどの審判の日を経験してきたというのか。あなたがたの魂にとって悲痛なその瞬間において、私はあなたがたの裁判官ではなく、あなたがたの弁護人であったのだ。私の御霊の中に怒りが存在することなどあり得ない。それならば、どうして私がそれを現すことができようか。私の中には調和のみがある。「目には目を、歯には歯を」と互いに報復し合うのは、あなたたち自身である。私の正義は愛に満ちており、自ら清められる機会を求めている

るのは、他ならぬあなたたち自身なのだ。なぜなら、私はあなたたちを罰したりはしないからである。

18. 迷いの道を歩むあなた方を、私が呼び求められれば、まもなく迎え入れ、私の力と光を与えるであろう。あなたがたの肉体や魂に、大罪人の痕跡があることは問題ではない。わたしは、あなたがたが自分を侮辱した者たちを祝福し、また、神があなたがたの中にこの奇跡を起こし、を可能にしてくださったことを祝福するように導く。そうすれば、あなたがたは心の中でキリストの愛を感じ始めるだろう。

この言葉を聞いて、こう考える者もいるだろう。「大罪人が、功德によってこの恵みを得ている義人と同じように、どうしてこの恵みを受けられるというのか？」と。おお、人々よ、目に見える範囲しか見通せない人々よ！私は、あなたがたがそれに値するようになる前から、常に恵みによって私の恩恵を与えてきたのだ！

19. 私は、清らかな思いにも、また、隣人への愛に欠けるゆえに、たとえほんのわずかな謙虚さや自覚が湧き上がるだけであっても、汚れを抱えたまま私に近づく者の悲痛な嘆きにも、常に応えるのである。

20. 私は、自らの大きな無力さと無知ゆえに涙を流す弱き者たちの擁護者である。私は、泣く者を呼び寄せ、慰める神聖な希望であり、痛みと償いの苦しみの中でうめく者を優しく撫でる、慈愛に満ちたイエスである。

21. 私はあなたがたの救い主であり、贖い主である。私は、人間にとって手の届くところにある真理である。

22. さて、弟子たちよ、私の教えをもう一つ述べよう。まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが、自分たちを強く、偉大で、あるいは他より優れていると感じるなら、あなたがたは私から遠ざかってしまう。なぜなら、あなたがたの傲慢が謙虚さの感覚を窒息させてしまうからだ。しかし、あなたがたが自分たちを小さく感じ、自分たちが私の創造物の中で原子のような存在であると悟るとき、あなたがたは私に近づく。なぜなら、その謙虚さゆえに、あなたがたは私を称え、私を愛し、私が近くにいると感じるからだ。そうして、あなたがたは、神が内に秘めている、あなたがたがぜひ知り、体験したいと願う、あらゆる偉大で測り知れないものを思い浮かべる。まるで、魂の奥底で神のささやきの残響を聞き取っているかのように感じるでしょう。

23. わたしはあなたがたの魂の主であり、救い主である。あなたがたの肉体は、与えられた数多くの道具の一つに過ぎない。しかし

、ほとんどの人は、転生する際にわたしを忘れがちであり、地上での生活に影響されて道を踏み外してしまう。これは、魂にまだ真の偉大さと高みが欠けているときに起こるのだ。

一方、私が彼らの主であり父であることを忘れていない者たちは、願い事をする際には貪欲である一方で、与えることとなるとけちになる。彼らには、愛することができるような心の寛大さが欠けている。彼らは願い方のことは理解しているつもりだが、与えることについては理解していない。彼らは願い方を学ぶ努力をせず、ましてや与えることを学ぶ努力などなおさらない。彼らが私に求めるべき唯一のことは、私が彼らに対して私の御心を成し遂げるようにと願うことである。なぜなら、あなたがたはすでに、私の御心が公正で、完全で、愛に満ちていることを悟っているからだ。

24. わたしはあなたがたに言う。「求めなさい。そうすれば、与えられる。」

25. あなたがたは、この言葉、あるいはこの願いを、無意味なものだとも思っているのか。まことに、あなたがたに告げる。これをわたしに向け、その真意を心に刻む者は、奇跡の源を見出したのである。――与えることに関しては、愛が助言するすべてを与えなさい。

26. あなたがたは、この世において、正しい喜びの感情によって、魂の最も純粋な感覚を沈黙させようとしている。しかし、神聖な御霊があなたがたの本質の中に秘められている以上、あなたがたは皆、その御霊に従わなければならない。ある者は早く、ある者は遅れて。

27. 人々は、不完全な存在であるあなた方を完全さの高みへと引き上げることができる唯一の存在である神に対して、永遠に戦いを続けることはできない。

28. 私は、私の教えによって、あなた方に人生の真の意味を示し、この時代の私の言葉だけでなく、過去の時代の言葉も正しく解釈するよう教える。なぜなら、あなた方は誤った解釈によって、私の言葉を根拠に狂信的な儀式を作り出してきたからである。それゆえ、私が「天と地は滅びても、私の言葉は決して滅びない」と告げても、あなた方の物質主義的な考え方はそれを理解させないのだ。

「天も地と同様に滅びるなど、あり得るのか？」と、あなたがたは考える。これは、あなたがたに深い理解が欠けていることを示している。私が言いたかったのは、あなたがたが見ている天も、あなたがたが住んでいる地も、時間が秒ごとにその痕跡を残していくため、やがて滅びてしまうということだ。しかし、私の言葉の本質と

実体は滅びない。なぜなら、それは——神聖であるゆえに——永遠であり、神聖なるものは不変だからである。しかし、あなたがたの地と天は、人々には気づかれないうちに變化し、滅びていく一方で、私の愛は不変のままである。私の愛は滅びない。なぜなら、全宇宙がその愛で満たされているからだ。

29. イエスは、あなたがたに愛を教えるために来たのであり、あなたがたの虚栄心や好奇心を満たすために来たのではない。しかし、イエスの御名によって愛することを理解している者は、いかに少ないことか。あなたがたは何か善行を行うたびに、「私は高潔だ、私は寛大だ、私は慈善家だ。だからこそ、私はこれを行うのだ」と言う。私はあなたがたに言う。もしあなたがたが、主の名においてそれらの行いをしたならば、謙虚であったはずだ。なぜなら、その善は神に由来し、私があなたがたの魂に授けたものだからである。したがって、自分の善行を人間の心に帰する者は、自分の魂と、その魂にこれらの美德を授けたお方を否定していることになる。それに対して、あなたがたが悪事を働くと、ピラトのように手を洗い、その行いを父のせいにし、「それは神の御心だった、聖書に書かれていたことだ。神が望まれたのだ、運命なのだ」と言うのである。

30. あなたがたは、自分の過ちを免罪するために、「神の御心なしには何事も起こらない」と言う。しかし、まことに、わたしがあなたがたに告げる。あなたがたは誤っている。なぜなら、あなたがたの過ちやみすぼらしさは、神の御心なしに起こっているからだ。全能なる神が、決して力や権威をもってあなたがたを強要することはないことを悟りなさい。そのようなことをしているのは、あなたがた自身であり、より弱い兄弟姉妹に対して行っているのだ。まことに、あなたがたに告げる。悪、不誠実、調和の欠如はあなたがたに固有のものであり、愛、忍耐、心の平安は神から来るものである。あなたがたが愛するとき、それはあなたがたの魂の創造主があなたがたにインスピレーションを与えているのだ。それに対して、あなたがたが憎むとき、それはあなたがた自身であり、あなたがたの弱さがあなたがたを駆り立て、破滅へと導いているのである。

31. あなた方の生活の中で何か悪いことが起こるたびに、それはあなた方の仕業であると確信してよい。しかし、そのときあなた方は自問する。「なぜ神はこれを許されるのか？ 神は私たちの罪によって苦しんでおられないのか？ 私たちが泣いているのを見て、神も泣いておられないのか？」と。私たちをこうした転落から救うことに、神にとって何の負担があるのでしょうか。私はあなたに言います。あなたがたが愛しない限り、神はあなたにとって理

解できない存在であり続けるでしょう。なぜなら、創造主の寛大さは、あなたたちの理解の及ばないところにあるからです。

32. 強く、偉大に、賢くなりなさい。愛することを学びなさい。愛するようになれば、神を究明しようという子供じみた願望はもはや抱かなくなるでしょう。なぜなら、その時には、あなたがたは神を仰ぎ見、神を感じ、それだけで十分だと感じるようになるからです。

33. 私の愛は、あなたがたが苦しみの中で時に自問するそれらの問いに答えてくれる。私は、あなたがたが自ら育てた果実の味のように許しているだけだ。それは、あなたがたが他者に感じさせてきたことを、少しばかりは自らも感じさせるためである。しかし、私はこうも言うておく。もしあなたがたが苦しみの杯を溢れんばかりに満たし、私がその痛みを免れさせることができたとしても、私はそれでも、その痛み、さらには死さえも、あなたがたの中に存在することを許す。なぜなら、魂は、身体を通じて試される、こうした取るに足らない感覚的知覚のすべてを超越しているからである。

34. イエスは、高潔な魂が鞭打ちや侮辱、茨の冠をいかに耐え忍ぶかを教えるために人々のところへ来られた。そうすれば、あなたがたが「十字架にかけられる」とき、処刑人や中傷者に立ち向かい、彼らを愛し、祝福する勇気を持てるようになるためである。

35. そうして、あなたがたは世界と肉体を背後に残すべきである。

36. しかし今日、この恵みの朝、私の言葉が人間の知性を通じてあなた方のもとに戻ってくるこの日、私はあなた方を歓迎する。

37. 人類よ、あなたはイエスの誕生を記念する準備を進めてい。

38. クリスマス、すなわち喜びと追憶の祭典である。

39. 富める者や権力者たちにとっては、それは世俗的な満足と快楽を意味する。しかし、生まれた夜に寝床も家も持たなかったキリストに従う者たちにとっては、それは苦難を伴うが、霊的な喜びに満ちた祝祭である。

40. キリスト教徒たちよ、あなたがたは祭壇を飾り、祝祭を執り行う準備を進めているが、まことに、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたの心は空っぽである。あなたがたが築き上げるあの祭壇や、わたしを表現するために用いるあの像は、ただあなたがたの目を楽しませるものであり、現実からはほど遠い神の模倣に過ぎないということを、考えてみなかったのか。わたしは常に、真の謙遜の神殿に住まっていた。同様に、わたしはあなたがたに、すべての愛と自己否定をもって自分の務めを果たすよう教えてきた。

41. 今日、私は、その教えがその力を奪われ、その真意がこのキリスト教界によって忘れ去られてしまったのを見ている。なぜなら、家族を困窮に陥れる者たちでさえ、自らをキリスト教徒と呼んでいるからだ。華やかさと権力を誇示する者たち、そして戦争を煽る者たちも、同様に自らをキリスト教徒と呼んでいる。しかし、すべての人がその手本や道に従うわけではない。なぜなら、多くの人々が、魂の偉大さは、神が人間に吹き込んだ純粋な感情が宿る心の在り方に基づいているという認識に目覚めるからである。

42. 私が人間としてこの世に生まれてから、およそ2000年が経過した。私がこれを思い出させるのは、あなたがたが私の教えを実践することからどれほどかけ離れているかを、あなたがたに認識してもらうためである。完全な人間としての私の模範は、誕生の瞬間から始まり、幼少期や青年期を経て、苦難の十字架の上での最期の息を引き取るまで続いた。私の血で綴られたこの物語こそが、命の書であり、人類の贖いの始まりである。

43. 私は人々の間に住み、父の愛が彼らに対してどれほど大きいかを彼らに理解させるために生きた。その愛は、私が最終的に自らを制限し、モーセが遺した律法に従う指導者たちが抱いていた神性に関するあらゆる観念から遠く離れた場所で、人間として彼らと共に生きるほどに深かったのだ。彼らが富の中に暮らしていたのに、どうして貧しさの中にある神の御子を理解できたのだろうか。彼らが特権階級だと自負していたのに、どうして大工の息子であるイエスの前にひざまずくことができたのだろうか。

私の愛と謙遜の教えは、彼らには理解されなかった。私のゆりかごはあまりにも貧相だったため、彼らの中には、私を撫でたり、愛情を込めて見つめたりすることさえするために、誰も近づいてこなかった。しかし、自然は人間としての私の存在に深く心を動かされ、その様々な領域から私に向かって腕を伸ばし、私を歓迎してくれた。その一方で、星に象徴された永遠の光が、メシアの到来を世界に告げていたのだ。

44. 今、この時代において、私は人間の被造物として生まれ、迫害を受けるために人間となる必要もなかった。今、あなたがたの上に降り注ぐ私の霊の光は、人類によって見出され、人々は私の言葉が今どこから流れ出ているのかを知ることができるだろう。

45. 今日、私は光として、本質として、善意ある人々を平安で満たすためにやって来る。彼らはこの日を霊性と喜びをもって記念することを理解し、その心を私への贈り物として捧げてくれた人々である。

46. あなたがたが主に捧げるのは、苦しみと貧しさである。それは、あなたがたの師もまた、苦しむためにこの世に来られたことを記念してのことである。

47. わたしはこの捧げ物を受け取り、あなたがたの心に消えることのない炎を灯す。あなたがたの救いへの道を示すために、わたし自身が犠牲として身を捧げたのだから――あなたがたを救うために、わたしの慈悲深い手を差し伸べる用意が常にできていることを、決して忘れないでほしい。

48. あなたがたの霊的な幼年期は終わり、今や自らの成長を理解しなければならない。

49. わたしはあなたがたに「弟子としてその務めを果たす者は、師のようになる」と告げたがゆえに、わたしの代理の務めをあなたがたに委ねた。愛を蒔き、心に平和を植え、奇跡を行いなさい。恵みの命へとよみがえり、「死者」たちを真理へと目覚めさせなさい。

50. スピリチュアリストたちよ、あなたがたはわが言葉の解釈者であり、伝達者となりなさい。この日、私は、受けた教えに従ってわが到来を記念するすべての人々を慈しむ。

51. 声の伝達者が恍惚状態にあるとき、あなたがたがわたしの言葉を理解できるよう、わたしの神聖な光線、すなわちわたしの靈感がお降りになる。わたしは、あなたがたがただ一つの願い、すなわち人類の平和の下で一つに結ばれているのを見たいと願う。

52. わたしを慕ってやって来る者は幸いである。その者は、わたしの神聖な御霊の光を受けるからである。わたしを求める者は、自らの内なる高みへの発展の時が来たことを感じ取ったからこそ、そうするのだ。

53. 人間の理性は、自らを縛りつけてきた隷属の鎖を断ち切ろうとしている。わたしは、今こそ理性と魂が自由を求めなければならない時であると、あなたがたに告げた。なぜなら、彼らの前には無限に広がる野原が広がっており、そこでは、な心が示してきたものよりも、さらに多くのことを知り、達成することができるからだ。このようにして、人間は完成へと至り、より多くの知恵を得るだろう。そうすれば、あらゆる人間の思考には真理が宿ることになる。

54. 今日、私は多くの代弁者を通じてあなた方に語りかけ、彼らを通じてあなた方の魂のための教本を残している。それは、私がこの人類の第二の時代に、知恵と愛の遺産を残したのと同じである。なぜなら、私の教えの基盤は愛、すなわち、すべての存在をひとつの家族として結びつけることを目指す、普遍的かつ至高の力から成っているからである。

55. あなたがたはこの神聖な特質を備えなければならない。愛のないところには、慈悲はあり得ないからだ。しかし、私はあなたがたを愛で満たした。それは、慈悲を实践する機会が訪れるたびに、それが特定の形に縛られたり限定されたりしないことをよく理解した上で、常にそう行えるようにするためである。そのために必要な能力をあなたがたが開花させられるよう、私は自分自身のほんの一部をあなたがたに与え、それがあなたがたの中に生きている。それは、霊によって照らされたあなたがたの魂であり、あなたがたが私から生まれたことを理解させてくれるものである。

56. それゆえ、あなたがたは、神聖な力が、生命であるあらゆるものに現れ得ることを理解できるでしょう。なぜなら、生命とは、あなたがたを取り巻くすべてのものだからです。私は、あなたがたに、神をただ一つの姿に限定してはならないと教えてきました。私は創造主であるからこそ、あらゆる姿をとることもし、あるいはいかなる姿も持たないこともできるのです。

57. もしあなたがたの知性が、生命の原理へと導き、その中で生き物がどのように生まれ、変容していくかを発見するならば、私の教えの多くが説明されるのを見て、驚嘆することでしょう。そうして、あなたがたの目には見えない存在から、最も巨大な世界や星に至るまで、あらゆるものに神が現れていることを発見するでしょ。

58. このようにして、人間は生命や自然の力の創造者ではなく、すでに創造されたものを単に利用し、変容させているに過ぎないことを理解するだろう。私は、人間を創造の中に置き、私が与えたすべての賜物と能力を開花させるためである。

59. 創造そのものが神ご自身であり、やがて、創造主と人間との間に存在する関係に気づいていない人々でさえ、人間が行うすべてのことは神の力に由来するものであると理解する時が来るだろう。

60. 人間には、創造を構成するすべてのものと同様に、発展の過程がある。当初、人間は未熟であった。その知性は、当時送っていた原始的な生活に見合ったものであった。しかし、神は、人間が自ら開花し、善と悪を見分け、自らの内なる精神的な側面と肉体的な側面を発見できるよう配慮された。なぜなら、当初、人間の魂にはそれができなかったからである。

こうして人間は、自分がどこから来てどこへ向かうのかを知り、自分を完全性へと導くべき能力を自覚しながら、徐々に発展していった。こうして人間は、私が「魂の完成には、たった一つの地上生活では不十分である」と啓示したこの時代に至るに至ったのであ。

61. これについては、今日の人間の経験が過去の人々のそれよりも豊かであることを確認すれば、明確な証拠を得ることができる。なぜなら、魂は過去の生で得た光を携えてくるからである。しかし、あなた方は、人間の科学の進歩により、神の光があらゆる知性に輝いていることから、この時代を「光の世紀」と呼んできた。

62. あなた方に語りかけているのは、父であるわたしである。疑う者のために、わたしはわたしの言葉を明確かつ的確に伝える。それは、伝達者の能力に応じて明らかにされる。その脳は、わたしの知恵の伝達を受け取り、その能力に応じてそれを表現する。しかし、その意味内容は、すべての伝達者において同じである。

63. 私はすべての人を受け入れ、あなた方を祝福する。

64. ここに、あなたがたの間で完全なる裁き主がおられ、あなたがたの感受性の扉を叩き、あなたがたの思考、言葉、行いが、その全能、正義、そして真理に対してどれほど取るに足らないものであるかを理解させようとしておられる。あなた方の魂は、あなた方の精神が現在の存在における過ちを裁くだけでなく、私の神聖な正義に対する過去の負債をも明らかにするようなまでに、発展することができたのである。

65. あなたがたの感情が、より高い霊性へと達した暁には、過去への記憶と直感が、あなたがたの中でより鮮明になるだろう。今のところ、あなたがたがこれらすべてについて抱いているのは、漠然とした予感に過ぎない。しかし、それでもなお、それはあなたがたが、この方法で魂が清められ、救われるという確信を持って、屈従と確信をもって自分の十字架を背負う助けとなるのだ。

66. かつて、十字架を背負って息を切らして歩くイエスを見て嘲笑した者たちは、今日、その高みへと登るために進んで自らの十字架を背負った者たちである。当時、「彼を十字架につけよ」と叫んだ者たちは、今や、わたしに仕え、わたしを愛するという使命に身を捧げている。

67. あの叫び声は私の心を貫き、あの憎しみや冒涇の言葉は私を傷つけた。しかし、私は彼らに死を与えることはせず、彼らが自分のしていることを知らなかったから、彼らを赦し、新しい命を与えた。

68. あなたがたは私の肉体を十字架の木から降ろしたとはいえ、霊的には、私は今もなお十字架に釘付けにされている。私の脇腹からは今もなお血と水が流れ出ており、すべての傷は生々しいままである。なぜなら、あなたがたは依然として互いを愛しておらず、敵意や戦争が依然として存在しているからだ。

69. まことに、わたしはあなたがたを祝福する。良心の声をはっきりと聞き取れるよう、また、あなたがたの霊の目が、わたしがあなたがたに語ったすべてのことの真理を認識できるよう、備えなさい。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 249

1. 愛する民よ、ここにあなたがたの間にある「御言葉」がある。それは、第二の時代にあなたがたに語りかけ、今日、人間の知性を通じて霊的に現れているものと同じである。

2. まことに、あなたがたに告げよう。イエスが人々の間にいた生活は、決して容易なものではなかった。幼少の頃から、私の唇には苦難の杯が差し出されていた。しかし、私はそのために来たのだ。初めから終わりまで苦しみ、あなたがたに救いへの道を示し、そして、命と平和と至福の主である私が、地上であなたがたを通して苦しみを受けるために自らの栄光を捨てたのであれば――あなたがたには一体何が待ち受けているというのか。あなたがたは、この地上の世界における幸福や楽しみ、成功など、一体何を期待できるというのか。

3. キリスト教世界は、今もなおイエスがこの世に生誕された日を記念している。しかし、その記念の日でさえ、戦争の轟音が響き渡り、人々は互いに殺し合っている。女性たちは無防備なまま、子供たちは孤児となって取り残されている。その一方で、母マリアは愛の外套を地球全体に広げている。彼女は温もりであり、優しさであり、永遠の懷であり、安らぎの場である。人間としてのイエスの最も完璧な母である彼女は、馬小屋の飼い葉桶で始まり、ゴルゴタの十字架で終わった、その神聖な教えを同様に授けたのである。

4. 善意を持ち、愛し、祝福し、人類のために祈る人々に、平安あれ。

5. わたしを求めつつ、わたしに何も求めず、ただわたしの御心があなた方に与えてくださるものだけを期待している、わたしの被造物たちよ。もしあなたがたがわたしの愛と恵みを感じたなら、深い愛をもってそれを受け入れ、あなたの思いをわたしに委ね、自らを完全なものにしたいと願っていることをわたしに告げなさい。

6. あなたがたは、安らぎを求めて巣を探す鳥のようだ。温もりを求めて互いに寄り添い、わたしの言葉があなたがたを養い、あなたがたの心を満たした。

7. この日、あなたがたは私に自分の行いを示しています。涙と苦しみを過去のものとし、新しい年が人類に待ち望まれた平和をもたらすことを願っています。

8. 理解されないことや失望を経験した後、私を見つけたことに感謝し、私から愛されていると感じると、感謝の歌を歌い始めます。

9. 今、あなたがたは求めていた宝、すなわち遺産を発見した。そして、自分の魂の奥深くへと入り込んだとき、隠され、忘れ去られていた才能や能力に気づき、驚嘆した。

10. あなたがたは、私の中に、求めていた愛、真の師、そして誠実な友を見出した。あなたがたの魂のすべての高貴な琴線は目覚め、人類にこう伝えたいという渴望を感じています。すなわち、私の霊はあらゆる存在の上に響き渡り、私の光はすべての人に聞かれるために言葉となり、私が選んだ器とは、私の意志によって私の教えの代弁者となった人間である、と。あなたがたを通じてこの福音が人々に届き、受け入れられたとき、あなたがたは喜びを感じるでしょう。もし人々が耳を傾けなくても、心配する必要はありません。なぜなら、私は人間の反抗心を打ち破るために、さまざまな形で自らを現すからです。

11. 第二の時代、私は弟子たちにこう言った。「人間が罪の極致を知ったとき、私は再び来て、その魂に語りかけるであろう。」しかし、私は彼らに、私がどのようにして再び来るか、すなわち霊的な形で来ることを示した。そして今、私はその約束を果たすためにここにいる。あの弟子たちは私に尋ねた。「どうすればあなたを認識できるのでしょうか？」

そこで、私は彼らに、私の到来を示すしるしを与えた。しかし今、あなたがたは、あの使徒たちがもはやこの地上にいないにもかかわらず、この時代に私があなたがたに教えを伝えるために選んだ者たちを通して、あなたがたの父の声を認識したのだ。

12. 私がゴルゴタに到着し、苦難の杯を飲み干したとき、今日、ある人の仲介を通じて私の言葉を聞いている人々の多くがそこに立ち会っていました。彼らは、自分たちに語りかけていたその方が誰であるかを理解していませんでした。それは、私の教えを軽んじ、今日私にこう言うあなたたちなのです。「師よ、私たちはあなたを愛しています。あなたに従いたいのです。かつてはあなたを認識できませんでした。今、私たちは自分の過ちに気づき、赦しを請います。どうか、私たちがあなたの足跡をまっすぐにたどることができすように。」

13. しかし、わたしはあなたがたに言う。おお、心を開き、わたしの言葉が実り多い種として発芽し、成長し、実を結ぶことを許している弟子たちよ――この教えが、そのすべての恵みをあなたがたの中に残し、それがあなたがたの隣人の益となるよう、許しなさい。

。

14. 人間の精神が真理を求める時が近づいている。その時、わたしの種は地球の全土に蒔かれ、至る所に使徒たちが現れるだろう。

15. 今日、備えを固め、闘いの中で忍耐強くあれ。あなたがたのすべての苦しみは報われるだろう。あなたがたの苦しみを和らげる、わたしの愛撫と赦しを感じなさい。そうして、あなたがたは清められ、純粋な心でわたしのもとに来ることができるのだ。――わたしがこのようにあなたがたに語りかけるとき、あなたがたは平安を感じ、心は静まるだろう。

16. 苦難を背後に置き、痛みの道でわたしを探してはならない。愛そのものであるわたしのもとに来なさい。

17. 私は、あなたがたが強靱であり、忍耐をもって十字架を背負い、その道のりで恵みを分かち合う姿を見たいと願っている。私が与える平和に常にふさわしい者であり続けるよう、あなたがたのあらゆる行いに心を配りなさい。

18. 光を求めてここに集う人々の群れよ、わが子らよ。あなたがたは、自らの苦しみを忘れられるよう、わが言葉、わが思いを待ち望んでいる。

19. あなたがたはここに集い、私の教えの真意の中に私の光を見出した。互いに語り合う中で、あなたがたは、この言葉の中で私を求めるに至った理由が皆同じであり、その理由とは、真理への渇き、愛への渇きであったことを理解した。

20. 民よ、私があなたに与えなければならなかったものはごくわずかである。なぜなら、あなたがたが私に求めたものはすべて、すでにあなた方の魂の中に宿っているからだ。私はただ、あなた方の存在の永遠なるものに目を向けるよう教えればよかった。そうすれば、あなた方はそこに自分たちの遺産と富を見出すことができるからだ。

21. 私の光だけが、魂の目を真理に向けて開く。この光だけが、真の知恵へと続く果てしない道、すなわちあなたがたの救いへの道を照らし出すのである。

22. この道で探求すればするほど、より多くのものを見つけ、深く掘り下げれば掘り下げるほど、より大きな宝に出会うことになるだろう――それらは隠されていた宝だが、あなたがたの魂と、その魂に属する人生の中に確かに存在するのだ。

23. あなたがたが忘れていた富がどれほど多く、そしてどれほどの奇跡を、この道で発見することになるだろうか！

24. あなたがたは、私の靈感や呼びかけを受け入れられるようになるために、まだ多くのことを学ばなければならない。あなたがた

は、誰が呼びかけているのか理解できないまま、霊的な波動をどれほど頻繁に感じ取ってきたことか！その「言葉」は、あなたがたにとってあまりにも不可解なため、理解することができず、ついには霊的な現れを幻覚や物質的な原因のせいにしてしまうのだ。

25. あなた方の心は硬く、知性は愚かであり、それゆえ魂が真の故郷からの影響を受け取れることを許していない。かつての神の民はそうではなかった。霊性の高まりは、神の律法の成就と地上の法への従順に努めた、純朴な心と高潔な魂を持つ人々によって育まれていたのだ。

26. わたしは、あの時代のように、しかしより霊的な形で、再び感じられ、愛されることを望んでいる。

27. これは、預言者たち、わたしの言葉、そしてわたしの使徒の一人によって予告されていた。もしあなたがたが、それらの啓示をすべて一つに統合することに真に成功したならば、それらが、あなたがたが現在経験しているこの時代や、あなたがたが目目の当たりにしている現れについて、どれほど明快に語っているかに驚嘆することだろう。

28. 人間が理解できる範囲での私の啓示は、まもなく終わるだろう。なぜなら、もしそれが長引けば、あなた方は立ち止まってしまう、ただ私の言葉を喜ぶことにだけ慣れ、ついには私の臨在に慣れてしまうからである。それゆえ、この形式による私の啓示はまもなく終わりを告げ、その時には、あなたがたは、聞いたことを深く考察し、私の臨在を感じるために祈りを深め、私の奇跡にふさわしい者となるよう、より一層備えることを余儀なくされるでしょう。

29. あなたがたには、二つの過ちを避けるように望む。一つは、礼拝の行いにおいて習慣に囚われて立ち止まってしまうこと、もう一つは、あまりにも急いで先へ進もうとすることだ。私が示した目標に向かって、揺るぎなく一步一步進んでいきなさい。そうすれば、あなたがたは徐々に高みへと昇り、魂の汚れを清め、負債を返済していくことになるだろう。すべての魂が完全さの境地に達したとき、その故郷として定められている永遠の命に、ますます近づいていくことになるでしょう。

30. わが小さな子供たちよ、あなたがたがわたしの声を聞くととき、ある者は祈り、赦しを請い、またある者は泣く。わたしは愛の涙、悔い改めの涙、畏れの涙を見る――それらすべてを受け入れる。すべての「言葉」を解き明かすことのできる師が、いかに多くの方法であなたがたに耳を傾けているかを悟りなさい。

31. あなたがたは、わたしを聞き取るとき、この時間が過ぎ去ってほしくないと思うだろう。「なんと大きな平安、なんと深い安らぎ、なんと限りない至福だろう！」と、あなたがたの魂は私に語りかける。しかし、私はこう答える。この平安、この至福、この感じること、愛すること、知ること、そして成し遂げることによる至福は、あなたがたが霊的な人生において得るものである——たった一時間ではなく、永遠に続くのだ。

32. わたしはあの約束の地であなたがたを待ち受け、あなたがたがわたしのところへたどり着くまで、わたしの光があなたがたの道を照らし続けるだろう。なぜなら、わたしはあなたがたの道を照らすために降り注ぐ光そのものだからである。

33. 私は、私の言葉の中で、あなたがたに預言を告げ、それが成就するのを見届けてもらった。それは、あなたがたの証言を聞く者たちが、あなたがたの信仰に与ることができるようにするためである。これまで信仰なく生きてきた者たちが、突然目を開き、自らの上に永遠の命を見出し、自らの内に神性との類似性を見出したとき、彼らにはどれほどの歓喜が訪れることか。！その瞬間、それらの存在にとって、存在そのものが一変するだろう。なぜなら、彼らはもはや「求める者」ではなく、「感謝する者」となるからだ。求める者は、自分に十分なものが与えられていることに気づいていないからそうするものであり、感謝する者は、自分が受けるに値する以上のものを与えられていると確信しているからそうするのだ。

34. もしあなたがたが自然の奇跡を見つめ、自分たちが神の愛と慈悲の対象であったことに気づくとき——そのとき、あなたがたの心から感謝の念が湧き上がってこないだろうか？ この瞬間、あなたがたが私に示すことのできる、感謝以上の証拠とは、私の偉大さに対する称賛、謙虚さ、そしてその告白以外にあるでしょうか。そうであれば、あなたがたの心を私に向けて燃え上がらせたのは、痛みでも、苦難でも、利己心でもなかったのです。

35. 感謝の祈りをささやくときはいつでも、その想いを裏付ける行いを添えなさい。

36. 私はあなたがたの中からあらゆる誤りを取り除かなければならない。なぜなら、私がこの姿であなたがたに語りかける期間はすでに非常に短く、1950年が終わる頃には、あなたがたは私の霊界からの賢明な助言に支えられながら、私の教えをより深く研究した結果、私の業についてより深い理解を得ているはずだからである。神のメッセージを伝えるという任務を託された伝達者たちは、自らの責任をより深く認識して、その準備を整えることになるでしょう。

37. 私がこの言葉を撤回するその時まで、あなたがたの間では、礼拝の儀式や慣習の浄化がなされなければならない。その時、真理の旗印の下で私に従いたいと願う者は、旅立ち、私に従うべきである。そして、利己心や私利私欲から、清らかなものを歪めようと固執する者は、その不従順と警戒心の欠如の結果を被らざるを得なくなる。

38. その子を罰するのは私ではない。その子は自らその裁きを実感することになる。あらゆる雑草は根こそぎ引き抜かれるだろう。

39. 私はこの霊的な民を解放し、その「畑」を照らし、彼らの前に立ちはだかる障壁や障害を取り除いた。しかし、これほど多くの恩恵を受けた以上、彼らには大きな責任も課せられている。「目を覚ましなさい。そうすれば、あなたがたが何をすべきかを示し、常に警戒を怠らないよう促してくれる良心の声を、はっきりと聞き取ることができるだろう。」

40. 今年は、あなたがたが、魂の開花を妨げていた狂信へと縛り付けていた鎖を断ち切ろうと努めたため、準備の年となった。あなたがたには、多くの偏見を捨て去ろうという確固たる意志があった。その時から、あなたがたはより自由になり、真理に近づいたと感じている。今や、あなたがたは闘いに向けてより強さを感じるだろう。

41. どれほど多くの出来事が起こるだろう！人間が作り出したどれほど多くの小さな世界が破壊されることか！まことに、私はあなたがたに告げる。あらゆる偽りの偉大さと、あらゆる利己的な行いは、無に帰するだろう。

42. あなたがたのうち、私の教えを理解した者はわずかである。しかし、私が去る時が来れば、私は弟子たちに、戦いに立ち向かうために必要な知識と力を残して去るだろう。なぜなら、師はあなたがたに寛容であるからだ。私は、あなたがたの努力——たとえささやかであっても——が価値あるものであることを見ており、それを受け入れているからである。

あなたがたは、魂のために働いているという確信を持ち、今日涙を流して蒔いた種が、明日には甘い実を結ぶと信じている。これを知っている者が、あえて時間を無駄にするだろうか？

43. まもなく、あなたがたは、私の教えがさまざまな言語で出版されるのを目にすることになるでしょう。そうすれば、私の言葉、私の教えが、あなたがたを遠く離れた国々の人々と結びつけ、互いに会ったことがなくても、互いを認め合うようになるでしょう。た

とえ国や海が間にあっても、あなたがたは結ばれ、私の業によって一つとなるのです。

44. 1950年が終わりに近づく頃、あなた方の多くの中に不安や疑念が生じるだろう。なぜ、私の啓示を信じる者たちよりも優れた知性を備えているにもかかわらず、私の啓示を疑う者たちがいるのか。それは、私の真理を判断できるのは人間の知識でも理性でもないからであり、人間がこれを理解すると、新しいものすべて、未知のものすべてに対して恐怖に駆られ、無意識のうちにそれを拒絶してしまうからだ。しかし、弱き者たち、教養のない者たち、知性によって認められた人々の高みに達することのできない者たちであるあなたがたこそ、信じる者たちであり、霊的な神秘に深く入り込むことができるのです。なぜでしょうか？ それは、永遠の命とその奇跡を理性に啓示するのは、霊そのものだからです。

45. 人間の知性は、あなたがたがこれから戦いを挑むことになる力である。なぜなら、人間はこの知性によって、霊から啓示されたものではない、霊的なものに関する考えや観念を自ら生み出してきたからである。

46. この戦いにおいて、あなたがたは強くなければならない——それもまた、霊に由来する強さをもって。あなたがたの力は、決して肉体にも、金銭の力にも、あるいは地上の手段にも基づくものではない。あなたがたの中に宿る真理への信仰こそが、この対決においてあなたがたを勝利へと導くのである。

47. 私の言葉が諸国で聞かれるようになれば、世界は騒然となるだろう。なぜなら、この啓示を受ける準備が整っている人々の霊は、喜びと恐怖の両方に心を動かされるからである。その時、真理を知ろうとする者は、物質主義的な観念の束縛から自らを解き放ち、その眼前に広がる光に満ちた地平線に心を癒やすべきである。しかし、精神の暗闇にとどまり、この光に抗い続ける者には、そうする自由が引き続き与えられている。

48. 霊性への心構えの変化は、国家間の友情と兄弟愛をもたらすだろう。しかし、対立は激しくなるため、あなたがたは備えを固める必要がある。人々が戦争で互いに立ち向かい合うとき、それは私の意志によるものではなく、彼らが神の法則を理解していないからである。

49. 魂の発達は公正な法則に支配されているため、人間はその道のりで清められていく。このようにして、人間は自らの力によって神の前で義と認められるのである。

50. 現代の人類は、正しい道から大きく逸脱した状態でこの時代に直面している。戦争、飢餓、疫病、悲しみ、そして破壊は、この世に蔓延する慈悲、霊性、そして正義の欠如を告げる声である。

51. 私があなたがたに平和を授けていることを理解せよ。私があるがたを戦争へと煽動したことは決してない。

52. この混沌の只中で、私はあなたがたを教え、情熱の嵐から引き上げ、かつて約束したことを明らかにした——あなたがたは小さく謙虚であっても、魂の準備と信仰によって、私の業のための勇敢な戦士、そして無私の使徒へと変えられるのだと告げるためである。

53. 世界は、あなた方の中に私の臨在を感じ、今日では忘れ去られている私の律法を思い出し、新たな啓示と教えを知るようになるだろう。人類は、あなた方の愛の行いの証しを受け取ったとき、私のすべての栄光を見るようになるだろう。

54. もし大きな試練に直面してあなたがたの信仰が弱まってしまうえば、周囲の人々に信仰を鼓舞することも、病人を癒やすことも、罪人の心を揺さぶることも、悲しむ者を慰めることもできなくなるだろう。あなたがたは、道を照らし、苦しむ者たちに扉を開く力を一時的に失ったと感じるだろう。あなたは、盲人の手を取って導くに値しないと感じ、そのとき、あなたの心は痛切に泣くことになるでしょう。あなたがたが、私への全幅の信頼を込めて祈るときにのみ、私はあなたがたを受け入れ、その祈りに応え、あなたがたの魂に平安を与え、私の愛の消えることのない光で、あなたがたの信仰の灯を灯して差し上げるのです。

55. わたしは、あなたがたを、わたしの律法によって結ばれた一つの民、互いに愛し合い、悪意のない家族として造りたかった。それは、あなたがたが隣人にとって模範となり、わたしの聖所の礎となるためである。

56. 私はあなたがたに不可能なことを求めているわけではない。ただ、あなたがたの言葉と行いに真実性が込められていることを望んでいるだけである。もしあなたがたが謙虚さと理解をもって私の教えに従い、生活の中で徳と質素さを体現するならば、隣人の魂を目覚めさせるために、わざわざ言葉をかけたり、努力したりする必要はなくなるだろう。そのとき、あなたがたの行動による隣人愛の証しだけで十分となるでしょう。

57. この責任を負うのは、あなたたちだけではない。あなたたちと同じか、あるいはそれ以上の熱意と愛を持つ新たな人々の群れ、新たな「働き手」や「兵士」たちが加わり、彼らは発展の道において一歩前進を成し遂げるだろう。

58. 私が「第二の時代」の十二使徒たちに、病人を癒し、隣人を愛し、侮辱を赦し、悪霊に取りつかれた者を解放し、愛の言葉と行いによって「死者」を新たな命へと蘇らせることを教えたように、私もまた、あなたがたが私の教えの真の使徒となるよう、あなたがたに教えてきたのである。

59. 心を静め、理性を鍛えなさい。まことに、あなたがたに告げる。あなたがたは、その準備に応じて、わたしから受け取るであろう。そして、わたしはこう言える。「見よ、わたしはここにいる。再びあなたがたと共にいるというわたしの約束を果たすために。」

60. あなたがたの存在の最も奥底からわたしに語りかけなさい。わたしはあなたがたの霊的な言葉を聞き取っているからだ。あなたがたはわたしに自分の不運を訴えるが、わたしはまた、あなたがたが、人類がこの時代に「苦味の杯」として飲み干している苦しみを見るたびに、苦しんでいることも見ている。それは、世界がわたしを拒絶し、誘惑の罠に陥り、無知と苦悩の中で暴れ回っているからである。私は謙虚に近づき、すべての心の扉を叩き、人々に慰めと平安、そして魂の糧を与えようとしている。しかし、人は私を忘れてしまい、私を認識しなかったがゆえに、私を遠くへ追い払っている。人間は、自らの過去を嘆き悲しんでいる。それは、私を遠く離れた存在だと信じているからであり、私が今、あなたがたに与えているこの言葉を聞き取っていないからである。それゆえ、私はあなたがたに、人類の中で果たすべき崇高な使命を、改めて思い起こさせる。

61. わたしは、あなたがたが魂を目覚めさせ、わたしの平安を伝え、祈り方を知らない人々のために祈り、同胞の痛みを感じ取り、彼らのために祈ることができるように、わたしの力によってあなたがたを満たした。

あなたがたは、愛と兄弟愛と赦しに満ちて、最初の一步を踏み出すために、わたしが呼び覚まし、恵みを与えた民である。わたしがあなたがたに与えた教えを学び、それに従う真の弟子たれ。なぜなら、わたしはあなたがたを、この地上でわたしの弟子として残していくからである。

62. 民よ。あなたがたの中には、わたしの言葉の真意に満足せず、わたしの霊的な啓示に対する真の信仰を抱かず、物質主義の中、賛美歌や言葉による祈り、儀式や典礼の中にわたしを求める不信仰者たちがいる。それは、彼らの魂がまだ真理によって強められていないからであり、そのために彼らはわたしから遠ざかってしまうのだ。

63. わたしはあなたがたに多くのことを教えた。あなたがたが心の中にわたしのために整えてくれた聖所に住むと約束した。しかし、物質主義的な礼拝を実践する者たちは、自分たちがわたしに喜ばれ、使命をよりよく果たしていると信じている。だが、わたしは彼らにこう言う。わたしはあなたがたに教えを明確に伝えた。なぜ、なおも眠り続けているのか。

私はあなたがたに多くのことを語ったが、あなたがたが学んだことはごくわずかである。私があなたがたに偉大な啓示を与えたとき、あなたがたはそれに反発し、「このような方法で父を崇めるのは気に入らない。私たちは自分たちの礼拝の形式を揺るぎなく守り続ける。なぜなら、霊から霊へと父を崇めるという形式を、私たちは学んでいないからだ」と言った。

しかし、私はあなたがたに告げる。時は過ぎ去るが、あなたがたは依然として眠り続け、魂を高揚させる輝かしい目覚めを得ることはないだろう。明日、あなたがたは私から切り離された孤児のように感じるだろう。そして、私がこれほど近くにいてもかかわらず、私を感じることを学んでいないため、私を感じるができないのだ。

64. 愛する民よ、あなたがたの父はいつの時代もあなたがたに語りかけてきたことを思い出せ。第二の時代において、神聖なる師はあなたがたに高みへと向かう道を示し、あなたがたが真の祖国にたどり着けるよう、その道に足跡を残しておかれた。今日の時代、私はあなたがたの魂を照らし、私の言葉と恵みによってあなたがたを準備し、エリヤのように働くために旅立つようにした。そうして、あなたがたは人々の導き手となることができるのだ。

65. 今こそ、私が選民イスラエルの十二部族を統一し、集結させ、彼らが再び神聖な「御言葉」の教えを受けられるようにした時である。師として、私はあなたがたの間で私の教えを明らかにした。私は私の御言葉によって、あなたがたを準備し、導いてきた。しかし、あなたがたとのこの形の交わりは、まもなく終わりを迎えるだろう。

66. 「イスラエルよ、人類の導き手となりなさい。彼らにこの永遠の命のパンを与え、この霊の業を示しなさい。そうして、さまざまな宗教が私の教えの中で霊化され、そのようにして神の御国がすべての人々に訪れるように。」

67. わたしがあなたがたに乳と蜜を与えるのは、あなたがたが困難な使命を果たさなければならない民だからである——その使命は、あなたがたの肩に重い十字架となることはない。あなたがたは、

再びわたしを認識し、靈性に満ちて、人類の前にその旗を掲げるために旅立とうとする民である。

68. わたしは、わたしと調和して生き、あらゆる行いや思いにおいて謙虚で素朴であるよう、あなたがたに教えてきた。人間が互いに殺し合うために戦争を煽っている間、あなたがたは、世界の憎しみと無知と戦うために、光の武器を手を持つ、わたしの神性の兵士となるべきであると、わたしはあなたがたに教えてきた。

69. わが民よ、あなたがたの周囲で、人々が恐怖と苦痛に苛まれていることを悟りなさい。あなたがたは、彼らにわが神聖なる御霊の慰めと励ましと愛をもたらすよう召されているのだ。

70. 見よ、このようにしてあなたがたが使命を果たしたとき、あなたがたはわたしの平安を感じるだろう。そして、その平安を人々と分かち合うべきである。あらゆる地上の野心を捨て、わたしの愛を身にまといなさい。そうすれば、わたしの憐れみが、あなたがたを通して全世界に現れるであろう。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 250

1. 約束の地について私が語るのを聞く魂のうち、そこに住みたいという憧れを抱かない者がいるだろうか。あなたがたの間で私が啓示を行う目的は、あなたがたの魂が、光と永遠の平安の世界へと至るのを助けることにある。そこからは、あなたがたの創造主の栄光を感知することができるのだ。いつの時代も、あなたがたの魂が待ち望むあの永遠、あの命の門へと至るよう、道は示されてきた。

2. 私はあなたがたを赦し、贖罪の重荷を軽くしました。それは、あなたがたがより速く前進し、罪を清め、再び旅路を始めるための力を得るためです。あなたがたが地上で担う使命と闘いは偉大である。しかし、戦争や災害が相次ぐこの時代においては、その重みはさらに大きくなっている。あなたがたは、他者からは見えもせず、触れることもできない自分の魂が、戦争の拡大を食い止め、諸国民の上に平和の外套を広げることができるほど、献身的に祈ることを学ばなければならない。

3. あなたがたが住むこの国は、新しいエルサレムではありません。なぜなら、その都は霊的な世界であなたがたを待っているからです。しかし、この国は、この時代に私が御言葉を宣べ伝えるために選ばれたものであり、私の使徒ヨハネが恍惚の中で見た、白く輝く都へとあなたがたを導く扉となるでしょう。

4. 外国人たちがあなたがたの街に入ってくるでしょう。あなたがたは、彼らが異なる人種であるからといって軽んじることなく、霊の兄弟として彼らを見なすべきです。

5. ほんのしばらくの間、心を高揚させてください。そうすれば、私は、戦争の騒音、人々の嘆き、母親たちの痛み、子供たちの泣き声が、あなたがたの心に届くようにします。それは、あなたがたが自らの使命を理解し、それを果たすために動き出すためです。今こそ裁きの時であり、金に執着する富める者や、強大でありながら自己中心的な国々がその権力を奪われるのを、あなたがたは目にするだろう。また、所有者の許可なく他人のものを奪い、自らの富を増やした者も同様である。彼にとっても、他人の手によって、不正に所有していたものが奪い取られるのを目の当たりにしなければならない日が訪れたのだ。

6. 物質的な貧しさの中にいるあなたがたは、自分たちは私の裁きから免れていると考えている。しかし、私はあなたがたに告げる。あなたがたもまた、私があなたがたに授けた霊的な富において、貪欲な金持ちになり得るのだから、あなたがたは間違っているのだ。

7. 今日、私はあなたがたに、心を高め、諸国民が被っている苦痛を感じようと努めるよう求めました。しかし、私は、あなたがたが呼吸する空気さえもその苦痛に満ちているにもかかわらず、まだ同胞の苦しみに共感することができないのを見てきました。人類を押しつぶすその苦しみを理解するために、あなた方もまた、その試練をくぐり抜け、その杯を飲み干さなければならないのだろうか。あなた方の心は依然として硬く閉ざされており、愛の透き通った水がそこから流れ出ようとはしない。

8. 仲間を苦しめる苦難を目の当たりにし、彼らに奉仕するために旅立つ者は幸いである。その者がその務めを全うした後、私は彼を私の胸に抱かせて安らぎを与えるだろう。思い出せ。人生があなたに微笑みかけていた時、あなたは苦しむ人々を無関心に見つめていた。また、ある者たちは、悲惨さを知り、輝かしい人生を手に入れた後――自分の扉を叩く人々を助けるどころか、彼らを自分の前から追い払い、こう言う。「行け、苦しめ、闘え。私が苦しんだように、闘ったように。そうすれば、私もこれほど苦労して手に入れたものを、お前たちも手に入れるだろう」と。

9. 私の教えは、こう説いている。たとえあなたがたが、靈魂の光の中で心が享受する平安を、大きな試練と苦しみを通じて手に入れたとしても、その宝石を、人々がそれを所有するに値するかどうかを確かめようとすることなく、同胞たちに分け与えるべきである。

10. 私の言葉は、かつてラザロを生き返らせた時と同じように、あなた方の心にも同じ効果をもたらした。死の息吹があなた方の心に忍び込み、絶えずあなた方の平和を脅かしていた戦争を生き延びるために抱いていたあらゆる希望を打ち砕いていたのだ。しかし、戦争の知らせが届いたまさにその瞬間、あなたがたは、素朴で謙虚な心を持つ人々の集いの場で、主の御声が聞こえていることを知った。そして、それが真実なのか、そのような奇跡が可能なのかを深く問うこともなく、私が「平和」そのものであることを知っていたからこそ、私への渴望を抱いてここに駆けつけたのである。

11. その声を聞いたとき、あなた方の魂のすべての琴線に響き渡り、あなた方は「主よ、お話しになっているのはあなたです！」と叫びました。それでもなお、あなた方の信仰は完全なものにはなっていません。なぜなら、私のもとにいるにもかかわらず、私と共に舟に乗っていたあの弟子たちのように、あなた方は依然として恐れているからです。彼らは海の波が荒れ狂うのを見て、「主よ、主よ、私たちを救ってください。私たちは滅びてしまいます」と叫びました。

12. おお、民よ、なぜあなたは、わたしの憐れみの庇護の下にあるにもかかわらず、恐れるのか。なぜわたしの力を疑うのか。わたしに耳を傾けようとするあなたの努力が、無駄で実りのないものにならないようにしなさい。遠く離れた土地から、私の言葉を聞くためにやって来る人々が大勢いることを心に留めなさい。また、家族の懷疑を乗り越えなければならない人々もいる。さらに、この世の仕事や世俗的な義務を捨てざるを得ない人々もいる。その犠牲が無駄になってはならない。

13. よく考えてみてほしい。もしあなたがたが、疑いや不信の代わりに、私の言葉に全幅の信頼を寄せることができるならば、その言葉は、あなたがたの愛の炎によって魂に刻み込まれ、あらゆる瞬間にあなたがたを照らし、あらゆる試練の中であなたがたを励ましてくれるだろう。

14. あなたがたの魂は、すでにその苦難の杯の味を味わっているがゆえに、隷属の鎖から生じる多くのことを恐れている。

15. あなたがたは平和を何よりも愛しており、その魂の渴望こそが、わたしをあなたへと引き寄せたのである、おお、民よ。なぜなら、あなたは平和が完全にわたしの中に集約されていることを知っているからだ。もしあなたが、様々な人間の制度の中や、権力者たちの間、あるいは現代科学の最も進歩的な理論の中にそれを求めようとしても、それは無駄なことだ。なぜなら、人類はこの宝を失ってしまったからである。人間が、自ら捨ててしまったこの賜物を取り戻そうとするなら、あなたがたに起こったように、間違いなく私のもとでそれを求めなければならない。

16. 私があなたがたに与えた教えは、明確であり、私のすべての子供たちにとって理解できるものである。なぜなら、私はあなたがたを準備させ、人類に、平和を見出すために私を求める最善の道を示す、この「喜びの知らせ」の使者となってもらいたいからであ。

17. ここに、私があなたがたに与えた言葉が成就している。それは、「第二の時代」において、イエスが、父が知恵を学者や教養ある者たちからは隠し、謙虚な者たちに与え、明らかにしてくださったことを感謝した時の言葉である。そう、わが民よ。あなたがたが「学者」と呼ぶ者たちは、自らを誇り、庶民を貶めようとしている。彼らは、自分たちがわたしから授かったパンのかげらに過ぎないと見なすようなことだけを、庶民に教えているのだ。一方、貧しい人々、すなわち「庶民」は、人生がもたらす苦難やそれに伴う欠乏を身をもって知っている。彼らがようやく何かを自分のものと呼べるようになったとしても、それは自分たちにはあまりにも多すぎる

ものだと感じ、それゆえに他の人々と分かち合うのである。さらに付け加えよう。貪欲な者が寛大な人となり、高慢な者が謙虚な人となれば、彼らは即座に、徳ある生き方を知る者のために私が用意しているすべてのものに与かることになる。なぜなら、私の愛は偏りなく、すべてを包み込み、私のすべての子供たちのためのものだからである。

18. あなたがたはこれらすべてを知らなければならない。なぜなら、もし誰かが私の教えの中で賢くなりたいと願うなら、それを得るためには、まずソロモンのように謙虚でなければならないことを忘れてはならないからだ。私はソロモンを王とし、彼を非常に賢明な者とした。そのため、彼の名は当時の世で有名かつ高く評価され、彼はその助言と裁きの知恵によって人々を驚嘆させたのである。しかし、彼が私の戒めに背いたとき、彼の持つすべての権力、知性、そして栄光は、私の正義の力の前では無に帰した。

19. 民よ、平和のために戦い、尽力せよ。イスラエルが、数多くの困難や紛争を経験し、それらを乗り越えて、約束の地を勝ち取ったように。私がイスラエルについて語る時、あなたがたの魂は私をよく理解していると私は知っている。なぜなら、あなたがたはその種を自らの本質の中に宿しており、その歴史はあなたがたの精神に刻まれているからだ。

20. そこに彼の経験、成長、そして悟りがあり、そこに彼の魂の中で開かれた書物があり、彼に律法を示し、過ちに陥ることを防いでくれる。私は、この時代に、あなたがたの魂が転生するよう導いた。それは、他の種族や民族に起こったように、あなたがたを物質主義的にさせてしまうような、古い地上の所有物から遠く離れた場所でのことである。そうすることで、あなたがたの唯一の情熱が、人類のために霊的な突破口を切り開き、人類がどこへ歩みを向けるべきかを示し、正義と愛に満ちた私の王国の平和へと導くこととなるようにしたのだ。

21. 今日、あなたがたは憐れみを渴望してやって来るが、誰がそれを受け取らなかったと言えるだろうか。病人は癒やされ、疲れ果てた旅人は安らぎを見出し、霊性を渴望し、渇きに苦しむ者たちは、その飢えと渇きを癒やされた。しかし、わたしに従う者たちの中には、いまだ目覚めていない者、疑い、信じるために証拠を求める者が依然としている。わたしは、わたしの御心に従って、彼らに必要なものを与える。しかし、わたしが彼らに与えるのは、この世の財産ではない。私は子供たちのために魂の恵みを備えており、隣人

への慈悲と愛の行いをもってそれを求める者には、惜しみなく与える。

22. わたしは、わたしの本質の一部である靈魂を探し求め、それを教え導き、高め、わたしのもとに来させようとする。しかし、すべての者がわたしを認識するわけではなく、わたしを受け入れることも理解していない。この世とその数え切れない試練が、あなたがたの心を苦々しくさせ、もはや靈的な生活について考える力さえ失わせてしまった。しかし、私はあなたがたに告げる。今、この世があなたがたに敵対しているからこそ、あなたがたはなお一層の熱意をもって、私の限りない愛に避難を求めなければならないのだ。

23. わたしの教えは、水晶のように澄んだ水の絶え間ない滴のように、ゆっくりとあなたがたの上に降り注いでいる。それは、信仰、希望、そしてわたしがすべての魂に託した業への信頼という土台を、少しずつ築き上げていくのである。

24. 自然の力は、人間に対して解き放たれている。あなたがたは恐れる必要はない。私が、悪を打ち負かし、同胞を守るための権能をあなたがたに与えたことを知っているからだ。あなたがたは、破壊をもたらすそれらの自然の力に「止まれ」と命じることができ、それらは従うだろう。祈りを絶やさず、目を覚まし続けていれば、あなたがたは奇跡を起こし、世界を驚嘆させることができるだろ。

25. 心から祈り、わたしの御霊と交わりなさい。そのために特定の場所を探す必要はない。木の下でも、旅の途中でも、山の頂上でも、あるいは寢床の片隅でも祈りなさい。そうすれば、わたしは降りてきて、あなたがたに語りかけ、啓示を与え、力を与えてあげよう。

26. この言葉を聞いたら、心を開き、その光に活力を与えてもらいなさい。そして後になって、あなたがたが清められ、準備が整ったとき、世に出て行き、受けたものの証しを広めなさい。

多くの者が喜びに満ちて最初の実をわたしに捧げる一方で、種を恐る恐る隠している者もいる。彼らは全力を尽くしたにもかかわらず、待ち望んだ実を得ることができなかった。しかし、わたしは彼らの熱意と愛を見て、こう告げる。「希望を持ち、粘り強く続けなさい。そうすれば、あなたは実を収穫するだろう。」

27. 悪しき種が育ち、地上で発芽することのないよう、警戒しなさい。種まきに適したこの時期に、今日、働きなさい。そうすれば、わたしがあなたがたの耕作を助けてあげよう。

28. わたしは、あなたがたの国を「第二のエルサレム」の模範として定めた。まもなく、さまざまな人種の兄弟姉妹たちがそこへや

って来るだろう。そして、彼らがその国が繁栄しているのを見ると、権力への欲望が目覚め、あなたがたを略奪しようとするだろう。わたしはあなたがたに警告し、こう告げる。わたしは、疲れた旅人に平安を、飢えた者にパンを、魂に光を与えるために、あなたがたの国を準備してきた。見知らぬ者たちが支配者となり、あなたがたが奴隷となることを、わたしは望まない。あなたがたが平和に暮らせるよう、わたしはあなたがたに愛と正義と誠実さを吹き込む。

29. 時間を有効に使い、私の教えを学べ。1950年がすでに近づいているからだ。その年には、私はこの手段を通じて語ることをやめる。私があなた方を正し、一步一步、完全さへと導くことを許せ。

30. マリアはあなた方のために祈っている。たとえ彼女を見えなくとも、その愛と慰めが、恵みの露としてあなた方の内に降り注ぐのを感じるだろう。そうして、悲しむ者たちは希望に満ち、罪人たちは清められ、あなた方全員が彼女によって祝福され、「油注ぎ」を受けたのである。神の母に、あなた方の苦しみの慰めを求めなさい。愛をもってマリアに心に向けるならば、彼女が子供たちに助けや保護を与えないなどあり得るとでも思うのか。いいえ、民よ、彼女の神聖な御霊の中には、愛と温かさ、そして慈悲しか見つからないだろう。

31. 世の女性たちよ、マリアを模範としなさい。彼女が貞淑な妻であり、献身的な母としてあなたがたと共に生きていた時代を思い起こせば、あなたがたの魂が新たな勇気で満たされるのを感じるでしょう。

32. そして、私の姿に似せて造られ、試練の道を歩み、神の正義を感じている男性たちよ――勇気を奮い起こし、与えられた賜物を活かし、愛と英知をもってあなた方の人生を導きなさい。

33. あなた方を励ますために、私はこう告げる。「このパンを食べなさい。そうすれば、あなた方は決して『死ぬ』ことはない。この水晶のように澄んだ水を飲みなさい。そうすれば、二度と渴くことはない。」

34. この時代において、私は、魂と魂との対話に備えるため、この姿であなた方に現れた。私があなた方に詳しく語る理由は、あなたがたが私の言葉の神聖な真意を悟り、他の教えに惑わされないようにするためである。

35. 私があなたがたを再生の道へと導いたのは、あなたがたが私の御前にいるときに恥じることをなくし、私のお言葉を聞くにふさわしいと自覚できるようにするためである。

36. 私はあなたがたの心の奥底まで見通している。あなたがたがこれから行うことまでも見抜いている。それゆえ、あなたがたが過ちを犯す前に、私が時折あなたがたを正すとしても、不思議に思う必要はない。

37. 父が世界を創造し、それを贖いの場とする運命を与えたとき、父はすでに、御自身の子供たちがその道のりで弱さや過ちに陥ること、そして、再生と完全化への第一歩を踏み出すために、安住の地が必要となることを知っておられた。

38. 最初の人間たちが地球に住み始めたとき、創造主は彼らに愛を注ぎ、魂を与え、その精神に御自身の光を灯し、同時に彼らに自由意志を与えられた。

39. しかし、ある者たちは、清らかであり続け、主にふさわしく、良心に沿った生き方をするために、あらゆる誘惑と戦いながら善に堅く立ち続けるよう努めていた一方で、他の者たちは、罪から罪へ、過ちから過ちへと、感覚の声に導かれ、情欲に支配され、一つひとつ罪の鎖を紡ぎ出し、そして、周囲の人々に誤りと誘惑をまき散らした。しかし、こうした混乱した魂たちの傍らには、私の神性を伝える天使の使者として、私の預言者たちもやって来て、人類を目覚めさせ、危険を警告し、私の到来を告げ知らせるのである。

40. 人類の道を横切る闇の魂たちは、人々を偶像崇拜、異教、狂信へと誘い込み、彼らを惑わしている。

41. わたしの預言者たち、使者たち、僕たちは、墮落と偽りと戦い、苦しみ、同胞のために命を捧げ、指を差し伸べて真理と正義と愛の道を指し示してきた。

42. 預言者たちの言葉を求めなさい。そうすれば、彼らがすでにその当時、あなたがたを準備させ、やがて成就するであろう出来事について語っていたことが、その言葉の中にわかるだろう。ヨエルが、こうした霊的な啓示の時代について、いかにあなたがたに語っていたかを見よ。すべての預言者が、霊と霊との対話を教えるために、偶像崇拜と戦ってきたことを心に留めなさい。

43. キリストがこの世に生まれられた時、人類はすでに多くの罪を犯しており、大洪水はすでに地表を清めていた。ソドムとゴモラは火に焼き尽くされ、バビロンは破壊されていた。キリストは、御自身の律法への不従順と預言者たちの血について責任を問われたが、彼自身もまた、自らの子らによって裁かれ、殺されなければならなかったのだ！

44. 「御言葉」は人となり、処女の胎から肉体をまとった。キリストは謙遜、赦し、愛、そして魂の高揚について語ったが、迫害さ

れ、裁かれた。神であられたにもかかわらず、キリストは苦しみ、死に、人間として嘲笑され、鞭打たれた。

45. それらの啓示の奥義を解き明かすことができた人々は、真理を発見し、今日、その真理に頭を垂れている。

46. しかし、この時代において再び混乱が現れており、誤った偉大さに満ちた誇りを持つ人々は、イエスの御名とその教えを人間の心から追い出そうとしている——それゆえに闇がもたらされている——一方で、父なる神はヨエルの預言を成就させ、新しい時代を切り開き、すべての肉とすべての魂に御霊を注いでおられる。御父は、さまざまな形で御自身を現すことによって、その声を聞かせ、その存在を感じさせ、目に見えるようにしておられる。

47. 自然はその懐を開き、人々を驚嘆させてきた秘密を明らかにすることで、世界と科学を驚かせる。それらは、あらゆる人間の知識を超越した知恵と力について語る声である。墓は死体を守っているが、魂はそこから抜け出し、その声を響かせて、魂の不死を証している。

48. 人々の目——子供であれ、若者であれ、大人であれ——は、物質界を貫き、あの世へと深く入り込み、霊的な生命を垣間見るのである。

49. 神の教えを語る、この不器用で気取らない代弁者たちの声に耳を傾けてみよ。そうすれば、この啓示が、何世紀も前から予告されていた、この時代における最も偉大な啓示の一つであることを悟るだろう。

50. 現実の預言であり、後にその成就を目の当たりにしたような夢を見たことがない者は、いったい誰がいるだろうか。今こそ、光の時代、科学によって眠りにつかされ、物質的な発見に魅了されていた魂が覚醒する時である。

51. 人々は、科学ゆえに、この時代を「光の時代」とも呼んできた。見よ、彼らが鳥のように天の高みを飛び回っている姿を。彼らが海や大地を支配し、夜を照らす光を発見した様子を見てください。彼らは日々、力を発見し、要素を組み合わせ、人類に新たな驚きをもたらしていますが、その光は彼らを盲目にしていきました。唯物主義と虚栄心が、彼らの心を、そして良心の声に耳を塞がせてしまったのです。

52. 今日、聖霊の光が世界に降り注いでいる。それは、人々が顔を上げ、神はただひとりであり、その律法もただ一つであることを悟るためである。人類の業が偉大であり、創造主にふさわしいもの

となるためには、すべての人々がその律法の下に一つにならなければならないのだ。

53. 誤解してはならない。「第六の封印」が終わりを迎える前に、大きな出来事が起こるからだ。星々は重要な兆しを示し、地上の諸国民は嘆き悲しみ、この惑星の三分の二が消え去り、聖霊の種が新たな命として芽吹く、たった一つの部分だけが残されるだろう。その時、人類は新たな存在を開始し、一つの教え、一つの言語、そして平和と兄弟愛という一つの絆によって結ばれることになる。

54. あなたがたは、自然の法則の下で生き、心の中で主の声を聞いていた時代から、どれほど遠く離れてしまったことか。主は初代の人々にこう言われた。「増えよ、満ちよ、地を満たせ。」

55. 今、霊化によって、あなたがたは簡素さと自然さへと立ち返ることになるだろう。しかし、あなたがたの魂の中には、長い進化の道のりで得てきた光が宿っている。

56. 人間の最初の歩みを照らし、道や小道、山頂や深淵において人間に寄り添ってきた霊の光は、人間をその道の始まりへと立ち返らせるだろう。霊は決して迷うことはない。なぜなら、それは私自身の光だからである。まさか、霊が「同胞を殺せ」と言ったこと、あるいは、あなた方を産んだ父や、あなた方を宿した母を拒絶せよと命じたことを、聞いたことがあるだろうか？ まさか、禁じられたものを利用せよと助言したのを、聞いたことがあるだろうか？ いいえ、わが子らよ、霊は良き導き手であり、助言者であり、裁き手であった。なぜなら、霊の中にこそ、私がいるのだから。

57. それゆえ、私は常に、あなたがたがどこにしようとも、私はあなたがたと共にいると伝えてきた。私が全能であるにもかかわらず、なぜあなたがたは、自分たちの手で作り出した物の中に私を探そうとするのか。私が遍在であることを知っているにもかかわらず、なぜ特定の集会所へ行き、「ここが主の家だから、ここに主がおられる」などと言うのか。私が自然の栄光の中や、あなたがたの魂の内なる聖所に住み、自らを現していることを知っているにもかかわらず、なぜあなたがたは儀式や装飾に惑わされるのか。

58. 良き弟子として私の教えを学びなさい。そうすれば、あなた方の魂にはより多くの光が満ちるでしょう。

59. 私の言葉が日々あなたがたに降り注ぐ中、ある者には信仰の火が灯り、またある者には疑いが湧き上がる。ある者は改心しようと決意するが、またある者は、この言葉の中に現れているのが本当に私であるのかと疑い、信じたり自らを新たにしたりすることをためらう。彼らは、私を信じ、もはや苦悩から解放されるために、私

を見たいという渴望を抱いている。しかし、肉眼で私を見ることができないため、彼らは信仰に火をつけるために、霊的かつ超自然的な現象を求めようとする。

60. また、ある人々は目を閉じ、目に見えない世界へと入り込み、私の御顔を見ようと試みるが、その努力の末に疲れ果ててしまう。しかし、疲れ果てた彼らの理性が眠りに落ち、高揚した魂が霊的な領域にとどまっている間に、私は降りてきて、その魂に語りかけ、教えを与え、信仰に火を灯すのである。

その深い眠りから目覚めたとき、魂も身体も新たに生まれ変わったように感じ、人生が新たな光に照らされているのを見た。そして、あなたは夢のことをかすかに思い出し、「イエスの夢を見た。師は本当に私のそばにいてくださったのだろうか」と言うのである。

61. まことに、あなたがたに告げる。魂には、わたしを見るための多くの目がある。この賜物を認識し、それを開花させなさい。なぜなら、それによって、人々が預言的な幻や夢を見る時が来るだろうと語ったあの預言者の言葉が成就するからである。

62. また、あなたがたに告げる。この教えをよく学び、この世の偽預言者や偽の幻視者を求め、彼らを信じないようにしなさい。

63. 私はいつの時代も、あなたがたの魂が私と直接結びつくよう準備してきた。そしてこの第三の時代において、魂はすでに大きな高みに達しているはずであった。もしそうであったなら、私が霊として来たとき、あなたがたは疑うこともなく、また自分の手で私に触れようとも思わなかっただろう。

64. 私がかつての時代について語っても、あなたがたは聖書さえ読んでいないため、何も理解できない。

65. 私は1866年以来、第三の教えを説いてきたが、すべてが予言されていたにもかかわらず、あなた方の多くは疑いを抱いた——ある者は無知ゆえに、またある者は聖書の誤った解釈による混乱ゆえに。それゆえ、今日、私があなたがたに永遠の命の糧を食べてもらうために食堂と食卓を用意したとき、あなたがたは準備ができていなかった。私は、あなたがたの覚醒と目覚めを待ち望みながら、限らない忍耐をもって自らを明らかにせざるを得なかったのだ。

66. 自らを新たにし、宗教的狂信を捨て、偽善者や利己主義者であることをやめなさい。そうすれば、あなたはまるで新しい人間になったかのように感じるでしょう。そうすれば、私こそがあなたのもとへ降りてくるのかどうか、もう自問する必要はなくなります。なぜなら、あなたの心の清らかさが、あなたの魂に私の存在を感じ

させるからです。信仰は最も偉大な美德の一つです——それを手に入れなさい。

67. あなたがたは、目が見えない人、足の不自由な人、絶望的な病人に何度も出会うだろう。あなたがたは、その人々を信仰によって癒やし、人々の心に光を灯さなければならない。

68. あなたがたの中には、わたしへの信仰によって何ができるかという事例がすでに存在している。信仰によって得られる奇跡の数々を証する多くの証言があるのだ。

69. 1950年が、あなたがたの信仰が弱まった状態で訪れることのないようにしなさい。そうすれば、あなたがたは孤児のように感じ、大きな苦難に直面することになるだろうから。

70. 今日、私は「旅人」たちの前に現れ、彼らに真の道を指し示す。私は、彼らの身なりが王侯貴族のようか、あるいはみすぼらしいかを判断することに時間を費やすのではなく、彼らの心の中に聖所を求めるのである。

71. 疲れに打ちひしがれて地面に倒れる者には、私が再び立ち上がるのを助け、もし神を冒涇したならば、それは私の力と光を拒んだことに他ならないことを、その者に悟らせる。

72. 試練の中で、あなたがたの心が乱されないよう祈りなさい。なぜなら、一瞬の暴挙によって、あなたがたは「盲目」となり、魂の中に持っているすべてのものを失ってしまうかもしれないから。

73. 今や、人類が、自らを霊的に偉大かつ高貴なものとしてきたすべてのものを、なぜますます失ってきたのか、お分かりいただけるだろう。

74. 私は、あなたがたが深淵に転落しそうになっているのを見たから、あなたがたに歩み寄ったのだ——あなたがたは、自分の命が短くなることを願う準備さえしていた。しかし、私の言葉を聞いたとき、あなたがたは立ち直った。なぜなら、私の神性によって定められたその時まで、この地上に生きなければならないと悟ったからである。

75. あなたがたの霊的な賜物が再び利用可能になったことを証明するために、私はこう言った。「自然の力が解き放たれたとき、私の名において手を差し伸べなさい。そうすれば、それらがあなたがたに従うのを見るだろう。」

76. これらの奇跡は、あなたがたの信仰を深めるものであり、あなたがたが最も予期しない時に、あなたがたは私の「働き手」へと変容しているだろう。

そうして、あなたがたは師からより深い教えを受け、十分な備えを整え、あなたがたを試そうとする者たちや、あなたがたを滅ぼそうとする者たちを迎え入れる術を身につけることになる。

77. もしあなたがたが、真に私の言葉を証しすることを理解すれば、多くの同胞が私を賛美し、「互いに愛し合いなさい」という戒めを果たしているのを見るでしょう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 251

1. この時代、あなたがたは、自らの賜物によって成し遂げられる奇跡を目にして驚嘆するだろう。そうすれば、もはや自分が貧しく、見捨てられた存在であるとは感じなくなる。なぜなら、一步一步進むごとに、私があなたがたを愛し、あなたがたに目を向けているという証拠がそこにあるからだ。

2. それらの賜物は、あなたがたが創造されたその瞬間に、すでにあなたがたの魂に宿されていた。しかし、それらの賜物が現れ始めるためには、私が来てあなたがたに教えを授け、あなたがたが長い道のりを歩み、その過程で絶えず成長していくことが必要だったのだ。

3. とりわけ現代において、人間の魂は、新たな時代に生き、新たな日の光に照らされていると感じ取っている。魂は、その賜物や能力が眠りについていて深い無気力状態から引きずり出すような、激動と動揺を経験してきたのである。

4. 現在、人間はまだ疑問を抱き、ただ予感しているに過ぎない。しかし、まもなく、確信を持って「あそこに道がある」と叫び、それを信じて従う時が来るだろう。

5. 人類の魂たちが一度その道を歩み始めたら、誰がその前進を止めることができようか。また、私の光によって示された道筋を変えることなど、誰にできようか。人々が、第三の時代がもたらした遺産とメッセージへの渴望に駆られて立ち上がるならば、いかなるものも、いかなる者も、人々の霊的な目覚めを止めることはできないだろう。

6. 私はとっくの昔にあなた方を目覚めさせることもできた。しかし、私は、あなた方が陥った深い眠りに嫌気が差し、自らの罪や絶え間ない戦争への恐怖が、物質的な本性の情欲からあなた方を解放する、その適切な時にあなた方の元へ訪れたいと願っていたのだ。

7. 今日はある民族が、明日は別の民族が、そしてその後もさらに多くの民族が、内なる光に照らされて目覚め、その光は彼らすべてに霊性について語りかけるだろう。

8. それらの民が目を目覚めするその時、私は彼らに御自身を現す準備ができていよう。それは、子供たちの呼びかけに応える父の声となるでしょう。しかし、まことに、私はあなたがたに告げます。私はすべての人に同じ方法で自らを現すわけではありません。例えば、私が人間の知性を通じてあなたがたに与えたこの啓示は、あな

たがたにのみ与えられたものであり、あなたがたはこの時代の幕開けにおいて、最初に目覚めた民であると見なすことができます。

9. 私がこの形であなたがたに現れる時期はすでに示されており、この期間の終了する年と日を知らないスピリチュアリストは一人もいない。

10. 私があなたがたの間での教えを締めくくる時、あなたがたは、この種を世界中の民に蒔くための準備をしなければならない。そうすることで、あなたがたは、目覚めの決定的な瞬間に直面している同胞たちを大いに助けることになるだろう。彼らは、自らの予感の確実性と私のメッセージの現実性を前にして、霊的な姿の私を受け入れる準備をするだろう。私が、各集会や各伝道者の準備状況に応じてあなたがたに御自身を現されたのと同様に、私は、各共同体の霊化の度合いや、その集会で支配する敬虔さに応じて、彼らにも御自身を現すであろう。

11. 私の言葉を書き留め、それを大切に守り、時が来たらそれを広めなさい。なぜなら、それは、この世で霊的な命として生まれ出る新しい共同体の基礎であり、出発点となるからである。

12. わたしを道具として仕えてきた者たちの、物質化された観念や誤りによって、わたしのメッセージが混同されることを許してはならない。そうすれば、あなたがたは、わたしが託した実を、ありのままに伝えることができなくなってしまうからだ。私は長い期間にわたり、あなたがたに私の神聖な本質を知り、あらゆる人間的な好みを捨て去るよう教え導いてきた。

13. 私の霊の光は、私を理解し、明日、自分たちが成し得る限り最大の誠実さをもって私の戒めを解釈するために旅立つ者たちの足跡を追うであろう。なぜなら、彼らはその道のりで、自分たちの闘い、犠牲、そして努力が無駄ではなかったことを実感するからである。私は彼らの働きの中に突然現れ、まもなく他の共同体たちが彼らを待っていること、種子が熟したため、まもなく種まきに出かけることができることを告げるだろう。

14. 私の弟子たちは、私の言葉が成就するのを目の当たりにしたとき、魂が震えるような感動と喜びの涙に包まれるだろう。

15. あなたがたは、耳を傾けてくれる人を探して、あちこちを歩き回り、戸を叩く必要はない。なぜなら、あなたがたを求め、呼び求めているのは、他ならぬあなたがたの隣人たちであることに気づくからである。あなたがたが準備を整えてくれれば、それで私には十分である。そうすれば、私はあなたがたに道を示し、何をすべき

かを啓示し、愛と霊性、そして慈悲の証しを渴望して私の民に助けを求める人々を、あなたがたの元へと導いていくであろう。

16. あなたがたが調和によって、私が期待する共同体を作り上げれば、自らを世に知らしめるために努力する必要はなくなる。なぜなら、その時には、他の人々がその役割を果たし、心から心へと、すべての人のための霊的生活の糧である神のメッセージの光が輝いている共同体があるという知らせを広めてくれるからである。

17. わたしはあなたがたに言う。民よ、わたしを信頼せよ。あなたがたが社会から追放され、住んでいる町から追い出されたとしても、わたしはあなたがたを迫害者たちから遠く離れた場所へ、すなわち荒野や山岳地帯、遠く離れた谷間、あるいは海の岸边へと導き、そこで、私が荒野でイスラエルの民にマナを送って養ったように、あなた方を養ってあげよう。

18. 今、わたしはわたしの民のために新しいマナをもたらそう。それは、試練がわたしの選ばれた者たちを圧倒するやいなや、まもなく降り注ぐであろう。

19. 試練は、わたしの言葉が常に成就するゆえに訪れる。それらは、かつてエジプトでファラオの奴隷制の下にあったイスラエルが団結したように、わたしの民を一つにまとめる役割を果たすだろ。

20. 試練が訪れたとき、この道を歩み続けるのは、わたしを愛する者たち――すなわち、勇敢で忠実な者たちだけである。偽り者、偽善者、この世を恐れる者、愛ゆえにわたしに従わない者たちは、去っていくだろう。わたしにとって、真にわたしを愛する者たちが一つに結ばれているのを見るだけで十分であり、そうしてこの世にこう告げよう。「これこそがわたしの民であり、これこそがわたしの子孫である」と。

21. あなたがたのうち、魂の限りの信仰をもってわたしに従う者たちには、水もパンも欠けることはない、とわたしは保証する。なぜなら、信仰において裏切られた者は、これまで一人もいなかったからだ。

22. すでに、心の中で「師よ、これらすべてはいつ起こるのでしょうか」と私に問いかける者たちの声が聞こえてくる。それは、私がこれらの試練を告げると、あなたがたが恐れを感じ、震え上がるからである。しかし、わたしはあなたがたに言う。恐れる者は荒野へは行かず、町にとどまる。そこでは、奴隷状態や屈辱に慣れきっているため、抑圧に耐えやすいからだ。しかし、もしその者が真理に目を開けば、その心は勇氣と信仰で満たされ、荒野へと向かい、魂の自由と心の平安を渴望して旅立つだろう。

23. あなたがたは、この試練がいつ訪れるのかと私に尋ねる。私はこう言う。すでに何人かには訪れており、やがて他の人々にも現れるだろう。そうして、あなたがた全員が備えを整え、強くなるまで続くのだ。

24. 試練は極めて巧妙な形で訪れるため、いつ始まり、いつ終わったのか、あなたがたはしばしば気づかないことさえある。もし私が、あなたがたがそれを待ち構えられるように、日付や日、時刻を告げたとしたら、あなたがたはどうなるだろうか。

25. 今日、私があなたがたに語ったその荒野で、すでに生き、新しいマナを糧としている者は、あなたがたのうちどれほどいるだろうか。彼らは、社会の懷から追放され、親族や友人たちに見放されてしまった者たちである。挨拶さえ拒まれ、仕事の扉を閉ざされた人々です。また、異端者、裏切り者、背教者として断罪され、教会の懷から追い出された人々でもあります。

26. 彼らは中傷、憎悪の眼差し、屈辱、嘲笑、輕蔑に耐えてきた。しかし、彼らは、自分たちが何も失っておらず、わたしに耳を傾けるという恵みを得たことを知っていたからこそ、これらすべてを忍耐強く耐え抜いたのだ。

27. 彼らは「荒野」へと退かなければならなかったが、それは物質的な荒野ではなく、たとえ肉体的にはこれまでと同じ場所に暮らし続けていたとしても、靈的な避難所へと退いたのである。

28. そこ、その靈的な避難所において、彼らはかつて知らなかった平安を見出し、以前には誰も与えてくれなかった満足を得た。当初、私の臨在を感じ取ることができなかったために孤独を感じたとしても、今日、彼らには何も欠けるものがなく、誰にも打ち負かされなかったことを、私に感謝している。

29. 彼らが以前送っていた享樂的な生活は過去のものとなり、あらゆる偽り、あらゆる表層的なものは消え去った。なぜなら、彼らにとって、真理を見出し、その存在の全力を尽くしてそれにしがみつく時が来たからである。

30. 善意と信仰を持つ人々は幸いである。彼らは敵の犠牲になることはないからだ。私の力は、彼らを陰險に殺害しようとする手を抑え、私の光は、彼らの行く手を待ち伏せする者を不意打ちにする。そうして、彼らは約束の地を待ち望んでいるゆえに、妨げられることなく前進し続けるのである。その地では、あなたがた全員がそこに入るその瞬間のために、祝宴が用意されている。

31. わたしの言葉は、多くの人の心の琴線に触れ、彼らはわたしにこう言った。「主よ、あなたほど真実を語る方はいません。この

時代、あなたに従って以来、私たちは周囲の人々からの非難に耐えなければなりませんでした。それは、エジプトからの解放の夜に、あなたの民が食べた苦い草のようでした。」

32. 愛する民よ、あなたの信仰を思い起こしなさい。そうすれば、かつてあなたを拒んだ者たちでさえ、あなたの仲間に加わるためにやって来るのを目にするだろう。なぜなら、彼らにも呼びかけが届けられ、彼らにも、物質主義的で誤った生活から解放され、この業が豊かに授ける神聖な本質で魂の空虚を埋める機会が与えられるからだ。

33. その呼びかけはすべての人に同時に届くかもしれないが、誰もが同時にそれに応えることができるわけではない。ある者は駆けつける準備ができていますが、他の者は、自らの使命を果たすために必要なほど魂がまだ十分に発達していないため、そうすることができないだろう。

34. 私が「召された者」と「選ばれた者」について語る際、あなたがたが理解しておくべきことは、どの時代においても「召された者」は多く、「選ばれた者」は少ないということである。なぜなら、私は準備の整った者だけを選ぶからであり、召されながらも選ばれなかった者たちは、再び召されるまでしばらく待たなければならないからだ。

35. 私が何度も、あなたがたの心の扉を一度、二度、三度と叩いたこと、そしてあなたがたが目覚まし、準備が整って初めて、私の呼びかけに応じて駆けつけたことを、覚えていないのか。それゆえ、私のメッセージが届いても関心を示さない人々を見て、絶望してはならない。

36. 私の言葉を広めるという使命を果たし、その働きの成果が直ちに現れようが、後になって現れようが、それに満足しなさい。

37. あなたがたは、自分の人生にある悪から身を切り離すために、自分たちに欠けていると感じていた力を、私の言葉の中に求めている。それは、あなたがたの心の中に、先祖の慣習、習慣、伝統、そして悪癖が根を下ろしてしまっているからである。

38. 今、良心の声がますますはっきりと聞こえるようになったため、あなた方の内面で闘いが勃発している。しかし、あなた方の心は、まだそれに抵抗している。なぜなら、その心は感覚に囚われ、魂よりもむしろ肉体の方へと傾いているからである。

39. 私は、あなたがたのこの内なる葛藤を祝福する。それは、あなたがたが私への愛を感じ、私の言葉に真実と正義を認めていることの証だからである。

40. 誘惑に直面したとき、信仰と愛がまだ弱いため、自分の中の「肉」が勝ってしまうのではないかと恐れる瞬間がある。そんな時、あなた方は急いで私のところへやって来て、私の言葉の中に、罪や闇と戦うために必要な武器を見出せることを願って、私の御言葉を聞こうとする。あなたは悔い改めの心と悲しみを胸に、私の視線から逃れられればと願いながらやって来ますが、実際には、私の視線から一瞬たりとも逃れることはできないと知っているのです。その後、あなたがたが心の中でわたしの言葉の優しさを受け入れたとき、涙を流します。その抑制のない涙は、魂の重荷をますます軽くしていきます。そしてついに、あなたがたはこう思うのです。「わたしがこれほど大きな愛をもってあなたがたを受け入れたのは、わたしがあなたがたの心に深く入り込まず、また、わたしの前であなたがたを恥じさせるようなものをすべて見つけ出さなかったからなのだ」と。

41. ああ、まだ主を知らない、小さくて弱い子供たちよ！ もはや罪を犯さないための力を私のもとで求めているあなたがたに、もし私が、赦しや励まし、愛や知恵の言葉の代わりに、非難や裁き、責め、脅し、罰をもって迎え入れたら、あなたがたはどうなってしまっただろうか？ いつの日か、あなたがたはこの言葉を疑うようになり、やがて抑制を失って物質主義の懷に飛び込んでしまうことになるだろう。だから、私が「声の媒体」を通してあなたがたに御言葉を授けるその瞬間、私の視線があなたがたを見逃しているなどと言ってはならない。

42. この「労働者」たちの群れ、すなわちこの業に仕える者たちを見てごらん。彼らもまた、あなた方と同じように、苦しみと解放された情熱に満ちた心を持ってやって来た。彼らもまた、私の言葉に心を揺さぶられ、魂と肉との内なる闘いを知った。そして彼らもまた、私が言葉の中で彼らの罪を責めなかったため、人々の群れの中にいる自分たちを私の視線が見つけられないのだと思ってい。

今、彼らはここ、私の畑にいて、私が彼らに託した任務を平穩のうちに遂行している。なぜなら、闘いの後に彼らの魂に安らぎが訪れ、また、あなたがたがどこへ行こうとも、あなたがたを追う私の神聖な視線から決して逃れることはできないと彼らが理解したからこそ、ついに信仰が彼らの心に宿ったのだ。

43. 今もなお、世界と肉欲は彼らを試み続けている。これは、彼らの愛、信仰、そして忠誠心を試すためであり、彼らが眠りにつかないようにするためである。中には、まだあらゆる転落から身を守るほどの霊的な力が十分に備わっていないにもかかわらず、世に立

ち向かおうとする者もいる。彼らは、転んでまた立ち上がる者たち——今日離れても明日また戻ってくる者たちであり、もはや弱くなく、最後まで真理の中に留まることができる日が来るまで、その繰り返しを続けるのである。

44. 今日、自らの弱さを制御できず、悲しみに満ちてここへやって来たあなた方を、たとえ現時点では誰かの役に立つことなど不可能に思えても、わたしは新たな「働き手」として造り変える。そうすれば、あなた方は自らの内なる奇跡が現実となるのを目撃することになるだろう。なぜなら、あなた方は自らの魂の変容を目の当たりにするからだ。そうすれば、弱い者は強さを感じ、不信仰な者は熱意に燃えるようになるでしょう。

45. 罪を犯したとき、わたしを侮辱してしまったことを悔い、涙を流す者たちは、祝福される。霊的に貧しい者たちは幸いである。なぜなら、わたしは彼らを励まし、この世、罪、物質主義、そして悪徳に打ち勝たせるために来たからである。

46. 明日、あなたがたは、自らの回心と再生という奇跡を証ししなければならない。明日、あなたがたは周囲の人々にとって「開かれた書物」となるでしょう。そしてそのページ、すなわちあなたがたの過去から、私の業の中で得た経験と知恵のすべての光を汲み取り、それをあなたがたの闘い、準備、そして勝利の熟した実として、周囲の人々に捧げるのです。

47. 人々が私の到来を待ち望み、私の御言葉の臨在を予感している諸国、諸州、そして村々において、私の「働き手」たちの証しは、まるで真の天の露のように、人々の渇いた魂の上に降り注ぐであらう。

48. わたしはすでに、わたしの証人たちや後継者たちが拒絶され、嘲笑され、迫害されるだろうと告げた。しかし、彼らを信じ、祝福する者たちも現れるだろう。それはまた別の戦いとなるが、わたしもその戦いを祝福する。なぜなら、戦いが繰り広げられるところには、必ず勝利もあるからだ。

49. 地上のすべての人々がこのメッセージの真実を信じることができるよう、私は、古の時代に預言されていたしるしが全世界で感じられるようにした。それらは、私の再臨について語った預言である。

それゆえ、この福音が諸国民に届くとき、人々は、その時代に彼らに語られたすべてのことを探求し、検証するだろう。そして、驚きと喜びをもって、私の再臨に関して予告され、約束されたすべて

のことが、ただ一つの意志、一つの言葉、一つの律法のみを持つお方にふさわしく、忠実に成就したことを発見するであろう。

50. わたしは教えの中で、人生とは魂の「苦難の道（ヴィア・ドロローサ）」であり、それが地上の存在の終わりであると、あなたがたに語った。それは魂にとっての「カルヴァリーの丘」であり、そこであなたがたは、わたしの模範に従い、わたしの手本を実践に移すよう努めなければならない。

51. 信仰と徳をもって頂点に到達する魂たちは幸いである。なぜなら、彼らが肉体の殻から解き放たれるその瞬間、彼らの勇気と愛への報いとして、父の愛撫を味わうことになるからだ。これこそが、つまりくことなく永遠へと入っていく者たちである。

52. この時代におけるわたしの言葉は、人々がわたしの律法と教えの真意をすべて理解する助けとなるだろう。そして、その教えを実践することによって得られる充足感が、人々に至福——心の喜びと魂の平安——をもたらすだろう。なぜなら、完全な至福は、魂が本来属すべき故郷においてのみ見出されるからである。

53. あなたがたには、善を行い、隣人のために役立つ機会が絶えず与えられている。どの家庭も、わたしの種を蒔くのにふさわしい畑である。どの都市も、どの民族も、慈悲と愛を渴望する大地のようなものであり、わたしはあなたがたを種蒔き人として遣わし、人々に慰めを与え、平和を蒔くようにする。

54. 行い、言葉、そして祈り——これらは、あなたがたが世の中で、隣人に仕え、彼らを愛するという使命を果たすために用いるべき、また用いることのできる手段である。

55. わたしは、魂の真の言葉であり、人々をわたしと直接結びつける、完全な祈りをあなたがたに教えた。

56. わたしはあなたがたに「言葉」という賜物を与えた。それは、魂の中に宿る光と、心に秘められた愛の表れである。

57. わが言葉を聞く民よ。私があなたたちに求めすぎているなどと言ってはならない。あなたたちが何ができるかについては、あなたたち自身よりも私がよく知っているのだから。

58. 今日、あなたがたは弱く、不器用で、無力であり、ふさわしくないと感じている。それは、あなたがたが自らの内面を見つめ、多くの弱さや不備を発見し、それゆえに他者の痛みを感じることでできないからだ。しかし、私はまずあなた方を癒やし、私の平安を感じさせ、あなた方の心を励まし、あなた方の道を清める。そうすれば、あなた方はもはや恐れも、疑いも、無力感も抱かなくなるだろう。

59. それゆえ、私はしばらくの間、あなた方に私の言葉に耳を傾けさせ、まだ諸地方へ送り出すことなく、私の言葉によって少しずつあなた方を励ましてきた。しかし、あなた方の魂が私の本質に浸透したとき、あなた方は出発するために試練やしるしを待つことはなくなるだろう。なぜなら、あなた方はインスピレーションによって、何をすべきかを受け取るようになるからだ。

60. 民よ、祈りなさい。あなたがたが祈る間、私は地上のすべての民に私の平安を注ぎ、あなたがたの家を祝福し、あなたがたの道を照らすであろう。

61. 私があなたがたに約束したことはすべて真実であることを示す証拠を、私は与える。その証拠とは何だろうか。それは、あなたがたが長い間望んできたこと——ある者にとっては得ることのできないようなこと——が、あなたがたの人生において現実のものとなるのを見ることである。私が差し出すものは、ある人々にはすぐに届くでしょうが、他の人々にはしばらく待たせることになるでしょう。しかし、まことに、あなたがたに告げます。私の愛の証しを受け取らない者は、一人もいないのです。この恵みがあなたがた一人ひとりに届いたとき、あなたがたは私の言葉を思い出し、そのとき、あなたがたの信仰はさらに深まるでしょう。

62. 絶望してはならない。涙を流してはならない。私の教えに従い、祈り、見張ることで、この時を待ち望むことを理解しなさい。

63. あなたがたが魂を高揚させるこの瞬間に、苦しみを忘れ、わたしの平安に満たされていることに気づいているか。わたしの教えを完全に実践することで、常にわたしのそばにいられるよう努めなさい。そうすれば、あなたがたの不幸や苦難の上に、わたしの平安と光が勝利することを目にするだろう。

64. あなたがたの苦しみは無駄なものではなく、むしろ、あなたがたが私の種を蒔く者たちの仲間となるために、精神的にも肉体的にも強靱になるという使命を負っているのだと理解しなさい。

65. 人々に慰めをもたらそうとする者、倒れた者を立ち上げらせようとする者、弱い者に力を与えようとする者は、経験の光によって照らされ、闘いと試練によって鍛えられなければならない。慈悲を求めて手を差し伸べてくる者がいる限り、いかなる苦痛の光景にも挫けてはならず、隣人のいかなる不機嫌にも恐れをなしてはならず、いかなる痛みからも逃げ出してはならない。

66. そこでは、悪徳と苦痛に心を硬く閉ざしている人々のうち、多くの者が、再生と霊性を求めて光へと突き進んでいくのを目にするだろう。しかし、このインスピレーションが彼らに届くためには、

あなたがたは彼らの心に真の兄弟愛の証を刻み込まなければならない。その行為こそが、苦しむ者から闇を取り除く一筋の光となるのだ。

67. ですから、さまざまな形であなた方を伴ってきたその苦しみこそが、困難な使命を遂行するために、あなた方の魂を内面から形作ってきた彫刻刀であったことを理解してください。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 252

1. 民よ、あなたがたはこの時代の私の啓示の証人であった。あなたがたは、それを解釈し、「最後の者たち」の模範となる準備ができています。あなたがたは、私が来た理由を知っているのと同様に、私が定めた時が来たときに私が去る理由も知っている。

2. あなたがたは私の弟子であるから、この世を恐れる必要はない。謙虚であるからといって、あなたがたが困窮者になるわけではない。魂の謙虚さと肉体の貧しさを混同してはならない。あなたがたがスピリチュアリストであるからといって、人間としての権利を失うことはない——むしろその逆である。霊化を理解し、それを自分の人生に適用する者は、自分を取り巻くすべてのものの所有者であり、物質的なものだけを見て理解する者よりも、より強い情熱を持って生き、楽しみを味わうのである。

3. 霊性化された人々こそが、第三の時代に「キリストの弟子」という名を正当に冠する者たちである——魂に属するものを神に、物質に属するものを世界に与えることを理解している人々——あらゆる法則を、創造主を愛し、隣人の中に創造主を愛するという一つの法則に統合する人々である。

4. 私の教えによって整えられた人は、超人的な業を成し遂げることができるようになる。

5. その魂と身体からは光が溢れ出し、知性だけでは成し遂げることのできないことを実現させる力と活力が湧き出るだろう。

6. 愛する民よ、私の意志に従い、あなた方はこの高みへと至らなければならない。そうすれば、あなた方のあらゆる行いが、私の真理の証となるからである。あなたがたの言葉からも、祈りからも、そして手からも、肉体的あるいは精神的に病む者たちにとって喜びと解放となる神聖な癒しの香油が流れ出るだろう。あなたがたの言葉からは、魂に信仰をもたらす光が湧き出し、あなたがたの祈りは、魂がその道筋で善を蒔くために運ばれていくための手段となるだろう。

7. これこそが、わたしに従い、わたしの教えを解釈し、それに従うことを知る者たちの未来である。

8. これからは「目を覚ましていなさい」。そうすれば、あなたがたの知性が決して曇ることはなく、あなたがたが経験しなければならない試練の中で、今日のあなたがたの信仰を裏切るようなことがなくなるでしょう。

9. この民が自らの不完全さから解放され、私の意志に従って私の言葉を実践するようになったとき、どれほどの喜びがそこにあることか。

10. 現在、あなた方の間には、霊性への歩みを妨げる多くの障害がまだ存在しています。あなた方は、その障害が、団結の欠如、外形的儀式への傾倒、そして真の隣人愛の欠如であることを知っています。

11. まだ、あなた方の間には、強靱で、理想主義的かつ闘志あふれる民——人類が助言者、医師、兄弟、指導者を見出すことのできる民——は現れていません。まだ、あなた方の間には、その一致と兄弟愛において、平和と尊敬と愛に満ちた計り知れないほどの「家」の如く、ある者のパンが他の者たちのパンでもあり、ある者の屋根が皆の屋根でもあるような民は現れていません。

12. その模範はどこにあるのか？いつ、あなたがたはそのような理想を求めて奮闘したことがあるのか？

13. 私があなたに語っていることは非難ではない、民よ。それは、ただ子供たちの幸福を願う父の言葉であり、それを実現するために、子供たちの過ちを指摘し、それを正す手助けをしなければならないのだ。

14. 私はまだしばらくの間ここに留まり、あなた方に私の言葉を授けるつもりだ。私はその言葉の中で引き続き啓示を行い、この時代のためにとっておいたことを明らかにし、人類が迫り来る混乱から救われるよう、私の教えを通じて必要な光を照らし続けていく。

15. わたしは、あなたがたが多くの「スピリチュアリズム」が現れるのを見る時が来ることを予告してきた。その時には、どれが真実に基づき、どれが欺瞞に基づいているかを見抜くための訓練を受けなければならない。

16. あなたがたは、わたしに帰せられる偽りの宣言が現れるのを見ることになるだろう。世界へメッセージをもたらすという「神の使者」に関する噂や、「七つの封印」を名乗る宗派、そして多くの混乱を招き、曖昧な教えが現れるだろう。

17. これらすべては、人類が招いた大きな霊的混乱の結果である。しかし、心配する必要はない。むしろ、目覚めて祈りながら生きるよう心がけなさい。そうすれば、霊的混乱に屈することはないだろう。なぜなら、最も深い闇の瞬間において、わたしの言葉は光となり、あなたがたに、わたしの水晶のように澄み切った永遠の真理を見させてくれるからである。

18. 今こそ、学び、教え、啓示の時であることを理解しなさい。怠慢にも、不注意にもなってはならない。さもないと、後になって失われた時間を悔やんで涙を流すことになるだろう。

19. 直感を研ぎ澄ませ、そうすれば、あなたがたの魂が引き受けた使命を明らかにしてくれるだろう。私の業においてその魂が働きかけるようにし、私に与えた約束、すなわちその魂の精神に記されている約束を果たせるようにしなさい。もし私、あなたがたの師が、この時代にやって来て、私の言葉によってあなたがたの存在を照らすと約束したのなら――なぜ弟子たちは、私のもとに戻るとの約束を守らないというのか。

20. 私は、この時代に私の臨在をもって、あなた方を驚かせるつもりはなかった。なぜなら、私の言葉は書き記されており、世界は私の再臨を知っていたからである。私が彼を呼び、私の教えを聞くようにしたとき、それは、私が彼を地上に遣わした際に彼の魂に授けた賜物と使命を、彼に確認させる意図で行われたことである。それについて、誰も驚く必要はない。

21. わたしがあなたがたへの約束を果たしたことで、わたしの言葉がすべての被造物の上に成就することを証明した。そうすることで、あなたがたの間でこれを終わらせる時が来たとき、誰も「知らなかった」と言わず、誰も「不意を突かれた」と言わず、また「準備する時間がなかった」と答えることがないようにするためである。

22. 今すぐ、わたしの指示に従い、わたしが定めたすべてのものを愛することで、わたしの御心を尊重することを学べ。わたしを愛し、わたしの御心を行う者は、わたしの子であり、わたしの弟子である。わたしの御心を尊重せず、自分の意志を行う者は、確かにわたしの子ではあるが、わたしの弟子ではない。なぜなら、その者はわたしを愛しておらず、わたしを手本としていないからである。

23. 私の教えの中で、私はあなたがたに基準を与える。それは、あなたがたがこの業の弟子として勝利を収め、つまずいたり、後に苦々しく泣くような過ちを犯したりしないためである。

24. 私は今、こう告げておく。私があなたがたに託したこの種を、真に心を込めて蒔く者たちは、平安のうちにその道を歩むであろう。彼らの呼びかけに耳を貸さなかった扉も、彼らには開かれるだろう。そして、たとえ敵対されることがあっても、彼らは決して戦いに敗れることはない。なぜなら、彼らの徳が、あらゆる試練を乗り越えさせてくれるからである。

25. 一方、良心の声を無視し、わたしの言葉に従わず、わたしを裏切る者たちは、常に敵のなすがままにされ、安らぎのない生活を送り、死への恐怖を抱くことになるだろう。

26. わが弟子たちよ、私があなたがたに啓示したような完全な業を、人類に対して、それが迷いであると判断されるような形で、あるいは、この時代に支配的な精神的混乱の産物として生まれた数ある教義や理論の一つとして見なされるような形で提示することは、果たして公正なことだろうか？

27. 私がこれほど深く愛し、あなたがたの証しを清らかなものとするために私の言葉で育ててきたあなたがたが、過ちの犠牲としてこの世の司法の手に渡されたり、近隣の人々から有害と見なされて迫害され、散り散りになったりするなど、果たして正しいことだろうか。私の教えが――正しく従われたとしても――そのような事態を招き得ると、あなたがたは思うのか。いいえ、弟子たちよ。このようにあなたたちに語りかけさせてほしい。なぜなら、私がそうする理由を知っているからだ。明日、私がもはやこの姿であなたたちに語りかけなくなったとき、あなたたちは私がなぜこのように語ったのかを理解し、こう言うだろう。「師は、私たちがどれほどの弱さに苛まれるかを正確に知っておられた。師の英知から逃れるものなど何もない。」

28. わたしの啓示が終わった後、あなたがたにはこの教えが何であるかについて明確な理解を持ってほしい。そうしてこそ、あなたがたはそれを正しく実践できるからだ。なぜなら、今日に至るまで、わたしの言葉を聞いた大勢の人々の間には、真のスピリチュアリストはまだ現れていないからである。これまであなたがたが実践してきたのはスピリチュアリズムではなく、単に私の業に対するあなたがたの想像に過ぎず、それは真のスピリチュアリズムからは程遠いものである。

29. あなたがたは、自分たちが道を誤っていたことを認めるために強くなければならない。習慣を改めるために気力を振り絞り、この教えの真実と純粋さがあなたがたの間で輝きを放つよう、熱心に努力しなければならない。

30. 私の教えの本質を歪めない限り、礼拝や儀式の形式的な部分を変更することを恐れる必要はない。

31. わたしはあなたがたに報いを与え、わたしが示した道において、あなたがたの行いをより良いものにするために費やしたあらゆる努力と犠牲を、すべて報いるであろう。

32. あなたがたの多くは、私の啓示が真実であるかどうかを確かめるために、それを探求している。しかし、しばしば、その真意を探るのではなく、外見だけで判断してしまい、その結果、誤った結論に至ってしまうのである。

33. わたしは、あなたがたがわたしの「声の伝達者」たちの、ごく些細な動きさえも観察しているのを見てきた。彼らが泣いているのを見たり、あなたがた自身と同じように人間らしい姿を見たりしたとき、あなたがたが驚いているのを見てきた。その時、あなたがたの心は神への冒涇の言葉で満ち溢れ、わたしの啓示の真実性を否定した。

あなたがたがこう言うのを、私は耳にしてきた。「私が彼らを、弱く、みすぼらしく、他のいかなる死すべき者とも変わらない人間として見たのに、どうして彼らが『イエスの足台』や『御言葉の伝達者』などと呼べるのか？」ああ、目に見えるものや触れることのできるものの中にしか真理を見出そうとしない、感覚に囚われた魂たちよ！ 当時もまた、人々は私が貧しさの中で生まれたことを理由に私を非難し、十字架上で私の体が血を流し、私の唇が嘆き悲しむのを見て、それに不快感を抱いた。私のあらゆる行いの奥義や意味を理解することができなかった、哀れな人間たちよ。

34. 魂の中で私の存在を感じる者たちにとっては、私の言葉の意味、私の教えの光、私の愛の輝き、そして私の霊的な慈悲の慰めだけで十分である。これらは、あらゆる外的なものから目を閉ざし、魂をもって私を求める者たちである——これこそが、常に私に従う者たちである。

35. イエスの言葉の中に神の臨在を感じた者たちの中には、主の犠牲の死の本質が、愛の神聖な印として残った。それは、この時代において、霊の中でわたしを求め続けた者たちの内に、わたしの言葉の本質が残ったのと同じである。

36. わたしの王国はこの世のものではない、と、私が何度も繰り返し言わなければならないのだろうか。

37. この時代の私の言葉は、あなたがたに過去を思い起こさせ、秘密を明らかにし、来るべきことを告げ知らせる。それは、人々が歪め、無力化してきたあらゆるものを正すであろう。なぜなら、真理の守護者である私は、私の熱意と正義の剣を携えてやって来て、あらゆる偽りを打ち倒し、偽善と嘘を粉碎し、再び真理の神殿から商人たちを追い出すからである。

38. あなたがたが魂の救いを得るために、本や人々の助言、あるいは戒律の中に真理を求める必要はないことを理解しなさい。

39. あなたがたは皆、救われる必要がある。すでに堅固な地に立っている者は、一人として見当たらない。あなたがたは嵐の夜に漂流する難破者たちであり、それぞれの命が危険にさらされているため、隣人のことは顧みず、ただ自分の命の存続に必死になっているのだ。

40. しかし、まことに、あなたがたに告げる。わたしは、あなたがたの唯一の救い主である。律法という航路から外れて迷い出た者たちを探し求めて、再びここへやって来たのだ。わたしはあなたがたの道を照らし、あなたがたが陸地、すなわち、その懐に霊のための無限の宝を秘め、あなたがたを待ち受けているあの祝福された地へとたどり着けるようにする。

41. おお、民よ、わが言葉があなたがたの心を慈愛に満ちたものにするよう許しなさい。そうすれば、明日、あなたがたは隣人を愛し、その苦しみの中に寄り添うことができるだろう。まさに、この試練の時、わたしがあなたがたと共にあったように。

42. この教えという木の枝が成長し、世界中に広がり、地上を歩む飢え、疲れ果てたすべての人々に実と木陰をもたらすよう、その手助けをしてください。

43. わたしはその木であり、あなたがたは、人類がわたしを知るための実である。

44. もしあなたがたの行いに甘美さと命が宿っているならば、あなたがたは、あなたがたを教え、愛と真理の命の雫を授けてくださった方の、忠実な証しとなるであろう。

45. 私がこの第三の時代にあなたがたに与えた教えは、過去の時代の教えと結びつくべき新しい契約である。なぜなら、これら三つは一つの啓示を成しているからである。

46. わたしの光は、わたしの教えのすべてをたった一冊の本にまとめ上げるよう定められている人々の知性を照らすであろう。

47. 私の霊的な僕たちは、この書物に何らの欠点もないよう、私の選ばれた者たちの手を導くであろう。

48. あなたがたがこの書物に深く没頭し、ついにわが業の真理を理解する時、これまでこの民の間に存在していた相違、論争、そして不和は消え去るであろう。

49. 今日、あなたがたは、その不和がもたらす結果を自覚していない。しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。明日、その結末として、あなたがたは涙を流すことになるだろう。わたしは、思考と礼拝の行為、そして魂の統一を、何度あなたがたに求めて

きたことか。あなたがたのうち、どれほど多くの者が、わたしの神聖な助言に耳を傾けなかったことか！

50. わたしはあなたがたに一つの民を形成するよう啓発し、「新しいイスラエル」という名を授けた。あなたがたが旅路や努力の中で、必要なあらゆる要素を頼りにできるよう、さまざまな使命と任務を与えた。それは、約束の地を渴望して荒野を横断した、初代イスラエルの民がそうであったように。しかし、これまであなたがたは、わたしの命令を理解しようとしなかったし、あの民が文書として残した団結の模範――消えることのない模範――に目を向けようとしなかった。なぜなら、その道中で遭遇した運命の試練を乗り越えることができたのは、まさに彼らの調和と団結のおかげだったからだ。

51. 新たな約束の地があなた方を待っているが、まだそこからは遠く離れている。あなた方は今、広大な砂漠を横断しており、ファラオの奴隷制を後にし、すでに律法を受け取っている。それにもかかわらず、あなた方はまだ偶像崇拜を完全に捨て去っておらず、自覚することなく、時折、黄金の子牛を崇拜している。

52. あなたがたは、眠りから目覚めるために、試練や抵抗、迫害を経験しなければならない。そうして初めて、あなたがたは確かにわたしの使命を果たす準備が整い、その使命に駆り立てられて、わたしがあなたがたに啓示した業を見守るようになるだろう。かつてイスラエルの民が律法を守るために幕屋と契約の箱を造ったように。なぜなら、試練こそが彼らを光へと目覚めさせたからである。

53. 今や、あなたがたの幕屋はあなたがたの霊となり、契約の箱は良心となる。そこにわたしの律法があり、主の民の道を照らすであろう。

54. 現代において、モーセの後を継いでこの民を先導し、奇跡によってその信仰を鼓舞するような人物は現れていない。しかし、少しの準備さえあれば、あなたがたはこの旅路において、あなたがたを導き、励まし、インスピレーションを与えるエリヤの霊的な臨在を感じるができるだろう。

55. 私の声を聞く人々の群れは、今や涙を流している。彼らのすすり泣く理由を知っているのは私だけであり、彼らがその道のりで遭遇し、足を止められてきたあらゆる障害や困難を知っているのも私だけである。

56. 群衆よ、粘り強くありなさい、忠実でありなさい。そうすれば、障害が取り除かれるのを見るでしょう。ますます真実さ、清らかさ、そして完全さを以て祈り、働きなさい。そうすれば、あなた

がたの使命において、人生の浮き沈みを忍耐をもって耐え抜くための慰めと必要な力を見出すことができるだろう。そのように歩み続けければ、あなたがたが最も予期しない時に、道が整えられ、つまりずきの石が消え去るのを見るだろう。

57. あなたがたは、今のところ小麦と雑草が共に育つ、わたしの畑である。刈り取りの時はまだ来ていない。しかし、その時が来れば、あなたがた一人ひとりの行いは裁かれることになる。その時、わたしは地上に良き弟子たちを残し、一致と霊化の実を結ばなかった者たちをこの世から取り去るであろう。

58. 目を覚まし、わたしの言葉を思い起こしなさい。わたしから非常に大きな使命と任務を授かったからといって、過信してはならない——わたしの正義が決してあなたたちに及ばないなどと考えてはならない。ダビデとソロモンを思い起こせ。彼らは民の前で偉大であったが、その偉大さに安住し、律法に背き、父に深く愛されているからには決して父の裁きを受けることはないと思い込んでいたにもかかわらず、容赦なく、かつ賢明な私の神聖な正義が彼らに下るのを見ることとなったのだ。

59. おお、民よ、新しい世代のことを考えなさい。あなたの子供たちのことを考えなさい。かつて、メシアの到来を受け入れる準備を民にさせた先祖たちがそうしたように。

60. これからやって来る者たちのために祈りなさい。慈善と愛をもって、彼らのために道を整えなさい。彼らには、あなたたちよりもさらに高い使命が与えられること、そして、彼らが従うことのできる霊性の道しるべを見出せれば、それは良いことであることを理解しなさい。その道しるべとは何だろうか。それは、あなたたちの生き方であり、あなたたちの行いである。

61. なぜ、いつも私に非難の言葉を持たせてくるのか。私は、あなたがたへの愛ゆえに来るのだ。あなたがたの心に痛みを抱えているのを見て、慰めたいからである。なぜなら、私はあなたがたの魂に私の平安を宿してほしいと願っているからだ。

62. 時には、わたしはあなたがたの前に裁き主として現れ、また時には父として現れるが、常に師として自らを現している。これら三つの顕現の形態の中に、あなたがたは唯一無二の神聖な本質、すなわち「法」「愛」「知恵」を見出すだろう。これこそが、わたしの霊の中に存在する三位一体である。

63. 目を閉じ、魂を解き放ちなさい。そうして、魂が師との交わりのこの瞬間を深く体験できるようにしなさい。第二の時代に、師の教えを一つも聞き逃すまいと、陸路や谷間、村々、川岸、そして

砂漠を通り抜けて師に従った者たちのように、魂を私のそばに落ち着かせなさい。そうすれば、私が時折、地上の物質的なものを用いて霊的なことを象徴し、それをあなたがたの霊的な理解の範囲内に引き寄せるために語る、その比喩的な意味を理解できるようになるだろう。私の言葉が、いかにしてあなたがたの魂に天の国を近づけるか、あなたがたは悟るだろう。

64. さあ、人類よ、私があなた方を教え導こう。それとも、あなた方は、生涯を通じて痛みがあなた方を教え続けることを望むの。

65. 私の領地へ来て、兄弟愛の種を畑に蒔きなさい。この世のように、私の領地があなた方を失望させることは決してないと、私は保証する。

66. ここに、あなたがたの魂のすぐ目の前に道があり、それに従い、二度と立ち止まらないよう招いている。なぜなら、その道であなたがたが踏み出す一步一步が、あなたがたを待ち受ける完全なる故郷へと、あなたがたの魂を近づける一歩となるからだ。

67. 私がまだあなたがたの中にいて、この姿で語りかけることができる時間は、あとわずかです。私は、あなたがたが功德を積むことを学び、この最後の数年間、これらの伝達者たちを通して私の言葉が豊かに注がれるようにしたいのです。

68. 神の啓示が、どのようにしてあなたがたの功德に対する報いとなるのか。それは、あなたがたの信仰、献身、そして霊性化によってである――すなわち、民の間に愛が満ち、慈悲が実践され、真理が愛されることによってである。

69. まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが、わたしの御心に従って団結しなければ、人類はあなたがたを散らし、あなたがたの生活が説く教えから逸脱しているのを見れば、その中からあなたがたを追い出すだろう。

70. もし人々が、各教会ごとに異なる礼拝の形式や、わたしの教えの実践方法が異なっていることに気づいたら、どうなるだろうか。彼らは、あなたがたを導いたのがわたしであったことを理解できなくなるだろう。

71. 私は、この民の統一のためにあなたがたが尽力するよう、私の啓示の最後の三年間をあなたがたに託す――その統一とは、霊的な側面と外的な側面の両方を包含するものである。そうして、調和と一致に満ちたあなたがたの働きこそが、さまざまな集会所や全国各地にいるあなたがたすべてが、ただ一人の師、すなわち神によって教えられたという最大の証拠となるのだ。

私の平安があなたがたにあるように！

教え 253

1. 本日、私がここに臨在するのは、裁き主としての姿である。私の光は、あなたがたの存在の聖域に差し込む。

2. 私は、受け取るため、そして与えるためにやって来ます。良い種が実を結ぶのを受け取り、あなたがたに育てるための新しい種を与えるためです。

3. あなたがたは、受けた恵みと、霊的な道における行いの良い結果に対して、私に感謝するために私の御前にやって来る。悔い改めの心を持って私のところに来る者もいる。彼らは何らかの悔恨の重荷を背負い、私の正義の声を聞いて震え、恐れに満たされる者たちである。どちらの者も私の赦しを求め、これからの時代に生計に困らないよう祈っている。

4. 今日、あなたの方の間で新たな一年が始まる。これは、人間の知性を通じて行われる私の啓示において、まさに最後から二番目の年である。そして、長い間これらの教えを受け続けてきた民に対して、私の言葉が正義を要求する姿勢を示すのは、ごく当然のことである。

5. 愛と正義の炎をもって、私はあなたがたに、初めからあなたがたの霊に刻まれている私の教えを理解させよう。そうして、あなたがたが明日、この真理のために証しを立てることができるようになるためである。

6. わたしのすべての業は、わたし自身によって『命』と名付けられた一冊の本に記されている。そのページ数は数え切れないほどであり、その無限の知恵は、その著者である神以外には、誰にも及ぶことはできない。しかし、その一冊の、どのページにも、父がそれぞれの業を分かりやすく示した短い要約が含まれており、あらゆる知性にとって理解できるようにされている。

7. あなた方もまた、絶えず『人生』という書物に書き記している。そこには、あなたの方のすべての行いと、成長の道のりにおけるすべての歩みが、永久に記録され続けるだろう。その書物はあなた方の魂に刻まれ、知識と経験の光となり、明日、あなた方が幼い兄弟姉妹たちの道を照らすためのものとなるのだ。

8. まだ、あなた方はその内容さえ知らないため、誰にもその本を見せることはできません。しかし、まもなくあなた方の内面に光が差し込み、あなた方は、ご自身の成長、贖罪、そして経験について語っているページを、周囲の人々に示せるようになるでしょう。そうすれば、あなた方は人々にとって「開かれた書物」となるでしょう。

う。自らの使命を自らのものとする者たちは幸いである。彼らは、ヤコブが夢の中で見た梯子を登っているのを感じるでしょう。それは、存在たちを創造主の御前に至らせる霊的な道なのです。

9. 人生のあらゆる試練を、それらがあなたの魂を照らし、まだ歩まなければならない長い道のりを歩むための力を与えてくれる教訓であることを知り、愛をもって受け入れてください。あなたの理解が深まるほど、あなたを完全なる存在へと導くために「闘いの道」へと送り出し、試練を乗り越える際、常にあなたを支えてきた御方への愛も、より深くならなければなりません。

10. 確かに、私はあなた方を試練にさらし、追及し、裁く。しかし同時に、私はあなた方を支え、赦し、立ち直らせてあげる。私の中には不公正など存在しないのだから、私の御前にあって失望する魂など決してないのだ。

11. 静寂の中でわたしに耳を傾け、道の茨によって引き裂かれる嗚咽をこらえることを学んだ、人々の群れよ、わたしはあなたがたを祝福する。あなたがたの唇は、嘆きの声を上げないよう沈黙を守り、その代わりに、あなたがたの心はわたしを祝福している。このように、自らの被造物から深く理解されていると感じる父が、どうしてあなたがたを祝福しないことができようか。

12. 今、光があなたがたの魂の中に広がっている。今こそ、私が今まさに探し求め、一つに結んでいる民から、暗い影が退く時である。

13. この民は多くの世代から成り立っており、今日、私はそれぞれの世代からその「貢ぎ物」、すなわち彼らの労働の果実を受け取る。そうして、各人がその行い、努力、そして目標に応じて報いを受けるようにするためである。

14. 世間の栄誉や称賛を渴望する者は、ここでそれを得るかもしれない。しかし、それらは短命であり、その者が霊界に入る日には何の役にも立たないだろう。金銭を目当てとする者は、ここでその報酬を受け取ってもよい。それがその者が目指していたものだからだ。しかし、この世のすべてを置き去りにして来世へと向かう時が来れば、たとえ慈善のために多くのことをしたと思っても、その者は自分の魂に対するいかなる報酬をも要求する権利を、微塵も持たないだろう。

それとは対照的に、常に諂いや特権を拒み、純粋な心で利己心なく隣人を愛し、あらゆる物質的な報酬を拒絶し、善を蒔くことに専心し、愛の行いを実践することに喜びを見出していた者——その人は報いを考えることはないだろう。なぜなら、彼は自分の満足のた

めに生きるのではなく、隣人のために生きるからだ。やがて主の懷に抱かれたとき、その人の平安と至福はどれほど大きなものになることか！

15. 木々を育て、その実によって見分ける必要がある。その時こそ、裁きの時であり、人々に有毒な実を与えた者たちは皆、わが愛の正義の炎によって滅ぼされ、命と健康の実を結んだ者たちだけが、高く評価されることになる。

16. 同様に、この地上に存在するすべての宗教団体や宗派も裁かれることになる――すなわち、真理を愛し、それに従う者たちだけが残り、嘘、虚偽、偽善というベールの陰に真理を隠してきた者たちはすべて消え去るのである。

17. 法はただ一つであり、それゆえ、それを果たす道もただ一つである。それは、あなたがた全員が靈的に一つとなるために求めなければならない道である。

18. 私の声を聞く者たちよ、今この瞬間、心の中で自らを省みよ。自分の理想が高潔であり、行いが清らかであるかどうかを自問しなさい。私が去った後、人々の間に留まり、族長、預言者、使徒として振る舞うことができるよう、すでに十分な準備ができているかどうかを自問しなさい。すでに靈化を果たしているか、私があなた方を特徴づけるために与えた「スピリチュアリスト」という名に恥じない存在であるかどうかを自問しなさい。

19. 1948年、この民は激震に襲われた。それは、あなたがたが狂信や日常の惰性に陥ったあらゆる時代と同様に、あなたがたを目覚めさせた、私の正義による一撃であった。

20. もしあなたがたが、この期間、私の説教が始まって以来、私の新しいメッセージの真意を理解しようと努めていたなら――どれほどの苦痛、どれほどの論争、そしてどれほどの内なる葛藤を免れることができたことか！しかし、あなたがたはいつものように、魂の自由と高揚を阻む外的な儀式に傾倒してしまった。それゆえ、あなたがたの誤りに一線を画す時が訪れることになったのである。あなた方はスピリチュアリストなのか？ それなら、礼拝の中で、生活の中で、そして互いの関係の中で、それを証明しなければならない。

21. ある者たちは目覚め、真理とは何かを理解し、靈性化のために尽力し始めた一方で、他の者たちは自らの慣習に固執し、象徴や礼拝の形式、習慣にしがみつき、「私があなたがたにこれらすべての象徴を示したのだから、それらは彼らにとって律法である」と主張している。

22. 争いが勃発したが、神に教えられた民の間でこのようなことが起こるのは、これが初めてのことはない。すでに「最初の時代」、神がシナイ山の頂上で授けた戒めの一つにおいて、私は人々に、神性を表すいかなる像も用いてはならないと命じると同時に、真の礼拝とは、神への愛と隣人への愛にのみ限定されたその律法の履行にあることを彼らに理解させたのである。

23. それにもかかわらず、民は数え切れないほどの伝統を作り出し、日々、その狂信と偶像崇拝を増大させていった。こうして、その象徴はもはや、より高次のものを理解するための比喻ではなく、偶像崇拝と礼拝の対象となってしまったのである。

24. あなたがたがますます遠ざかっていったその道を指し示すために、私がこの世に生まれる必要があった。しかし、祭司たちやパリサイ人たちは、私が伝統を説くために来たのではないと気づくと、私を告発し、民に「私の言葉はモーセの律法に反している」と告げた。そこで、私は声を上げて、偽善的な律法の代表者たちにこう答えた。私は父が定められたことに反対するために来たのではなく、むしろ自分の命をもってそれを成就するために来たのだ、と――私が人々の心から取り除こうとしたのは、彼らが律法を遵守することを忘れてしまった原因となった、無益な伝統や儀式、すなわち、神を愛し、互いに愛し合うことである。

25. あなたがたは、聖霊の時代に生きている今日、私が、あなたがたがスピリチュアリズムとして知ってきたこの働きの中に持ち込んだ、あらゆる伝統や外形的礼拝の形式を、あなたがたの心から一掃することを、正しいことだと考えないのか。

26. 確かに、神が人類に与えた三つの啓示のそれぞれが始まった当初、あなたがたが神の教えを理解し、それを自分のものにするのを容易にするために、いくつかの象徴や礼拝の行為が許されていたのは事実である。しかし、それはあなたがたがそれらを永遠に保持するためではなく、ましてやそれらを崇拝するためではなかった。これこそが、常にあなた方の霊的停滞の原因であり、また、私があらゆる時代に、あなた方をその危険な道から遠ざけ、光の真の道へと導くために訪れてきた理由なのである。

27. 今日、私はかつて定めたことを否定するわけではなく、むしろ、あなたがたの人生と行いに、より高い次元の霊性を与えることによって、それらに従うよう教えている。それは同時に、真実さでもあるのだ。

28. したがって、私がこの形であなたがたに語りかけることをやめたとき、あなたがたはもはや物質的な物や、儀式や形式への渴望

を抱くことはなくなるだろう。なぜなら、あなたがたはすでに偶像崇拜や物質主義から解放され、同じく霊である父の臨在を、霊をもって求めるようになっているからである。

29. あなたがたはまもなく、外形的礼拝に疲れ、宗教的狂信に嫌気がさしている人々の間に身を置くことになる。それゆえ、私があなたがたに告げるのは、あなたがたが彼らにもたらす霊性化のメッセージが、新鮮で清々しい露のように彼らの心に染み渡るだろうということである。

30. もしあなたがたが、狂信的な儀式や、霊化に反する行いを携えて彼らのところへ行ったら、世界があなたがたを神のメッセージの伝達者として認めてくれると思うか。まことに、あなたがたに告げる。あなたがたは、新しい宗派の狂信者だと見なされるだろう！

31. 私があなたがたに語る言葉の明快さにもかかわらず、「師よ、ロケ・ロハスが遺産として残した多くの儀式を、どうして私たちが捨て去らなければならないのでしょうか」と私に問う者たちがいる。それに対して、私はこう言おう。「『第二の時代』のあの例を、あなたがたに示したではないか。あの時、私は民に、儀式や形式、伝統、祝祭日を守ることに囚われるあまり、本質である律法を忘れてしまったことを理解させたのだ。」私があなたがたの師のこの行いを思い起こさせたのは、たとえそれがロケ・ロハスから学んだものであっても、かつてモーセの民が遺産として受け継いだのと同様に、今日においてもあなたがたは伝統や儀式を忘れてよいのだと理解してもらうためである。

32. さて、私は、彼らがあなた方に何か悪いことを教えたと言いたいわけではない——いいえ。彼らはただ、民が神の啓示を理解できるよう助けるための象徴や行動様式に頼らざるを得なかっただけである。しかし、その目的が達成された以上、真理の光を輝かせるためには、もはや不要となったあらゆる礼拝の形式や象徴を排除する必要があったのだ。

33. 私があなたがたに求めるのは、誠実さである——私の言葉を伝える代弁者から、「幼き弟子」の最後の一人に至るまで。

34. 最大の責任は、私の言葉を伝える者たちにかかっている。なぜなら、彼らの口を通して、私は律法を説くからである。しかし、彼らはその責任を理解していない。彼らに私は言う。「目覚めよ！ 良心の声に耳を傾けよ！ この民を見よ——無知でありながら、私の言葉を渴望し、あなたがたが提供するものに謙虚さと受容の姿勢をもって身を包んでいる姿を。」もし民が立ち上がり、あなた方に

準備と靈化を要求したら、あなた方はどうなるだろうか？ それは彼らの信仰、魂、地上の平和、そして永遠への道に関わる問題なのだから、彼らにはそれを行う十分な理由と権利があるのだ。

35. わが言葉を伝える者たち、第三の時代の預言者たちよ。あなたがたの不器用さでも、未熟さでも、貧しさでも、私があなたがたを通じて人類に自らを現すことの妨げにはならない。わが言葉の意味を制限し、私がわが民のためにもたらした真理を隠しているのは、あなたがたの罪と準備不足である。

36. まことに、わたしはあなたがたに告げる。靈性が高まるとは思えない者は、むしろ口を閉ざし、真理に虚偽を混ぜてはならない。なぜなら、それを聞く人々の群れは、まだ麦と粃殻、すなわち嘘と真理、不必要なものと本質的なものを区別することができないからである。

37. わが言葉は厳格であり、曖昧さはない。しかし、見よ、この啓示にもいつかは終わりが来る。そして、あなたがたが成し遂げる最善の業こそが、私があなたがたに託した靈的業の集大成でなければならない。

38. あなたがたの唇から発せられたこの言葉こそが、王国や帝国、王座を打ち倒す靈的なメッセージであることを知れ。それによって、愛と平和と正義の王国である天の御国が、人々の魂の中に到来するのだ。

39. わたしは他の国々にも、わたしの言葉の使者を遣わした。彼らのために祈り、思いをもって彼らに力を与えなさい。彼らは種を育て、多くの人々を一つにまとめ上げるだろう。そして、彼らが一度靈的な境地に達すれば、兄弟愛と理解の絆によって、あなた方と結ばれることになる。

40. 今、私は、この福音を他の祖国にも同様に伝える、新たな御言葉の使者を準備している。すべての人々に、私は平和の外套を広げよう。

41. あなたがたが生きているこの時代は、過渡期であり、発展、試練、変化、そして驚きに満ちた時代である。警戒して生き、目を覚まし、祈り、わたしの律法に堅く立ち続けなさい。

42. 今日こそは闘いの日であり、今日こそは功績が積まれる日であり、今日こそは苦しみ、戦い、苦勞する日である。明日、あなたがた全員が私の元に来るとき、魂の完全性に達したとき、あなたがたは父の懷に故郷を持つことになる。そこは、すべてが到達し、完全性を獲得したすべてのものが守られる場所である——その「懷」

には、あなたがたがここでは想像もできないような知恵、完全性、そして栄光が満ちている。

43. わたしの言葉は、あなたがたの魂を約束の地へと導く道であり、真理であり、命である。愛する民よ、その言葉のもとに来なさい。道に迷ってはならない。

44. わたしの光の束は山の上に降り注いでいる。そこから、わたしはあなたがたに問う。なぜ、あなたがたはまだその山のふもとに留まっているのか。なぜ、まだその山に登り切ることができていないのか。

45. 多くの人々は、心の中に大きな歓喜を抱いて私の声を聞いている。しかし、私の言葉を聞くとき、深い悲しみに襲われる者もいる。彼らは、エジプトにいたイスラエルの民のように、自分たちを奴隷だと感じている者たちである。彼らは今もなお、鞭打たれた傷跡を背負っており、その飢えは、自由と光への渴望である。

46. 私が来たのは、正義と自由と愛を渴望し、渇きに苦しんでいるあなた方のためであることを知ってください。

47. さあ、この声に耳を傾けなさい。この声は、あなたがたに勇気を与え、力を満たし、啓発してくれる。そうして、あなたがたはファラオに背を向け、囚われ、傷つき、辱めを受けてきたその地から立ち去ることができるのだ。

48. 視線を上げ、神聖な山が、あなたがたをその頂へと登るよう招いているのを見よ。その山へと向かい、頂に到達できると信じ、最初の一步を踏み出し、登り続けよ。そうすれば、やがて、あなたがたを縛りつけていた鎖や、あなたがたを押しつぶしていたくびきが、はるか後方に残されているのを感じたとき、大きな喜びが訪れるだろう。

49. ああ、あらゆる時代の民よ！ 心から恩知らずの心を払い去りなさい。そうしてこそ、あなたがたは真に父の平安を体験することができるのだ。

50. この道において、盲人は目を開き、疲れ果てた者は力を取り戻し、足の不自由な者は歩き、病人は癒やされ、悲しみに沈んでいた者は喜びの歌を歌うようになる。

51. わたしは再びわが民を一つにまとめ、人類に対する彼らの霊的使命を確認する。わたしは、社会から疎外された者たちを隣人に役立つ人間へと変え、自らを相続権を失った者と見なししていた者たちを、預言者、そして魂の医者へと変える。

52. この第三の時代に、わたしの到来を証ししなければならないのは、あなた方である。諸国や諸州があなた方の証しを必要として

いることを、わたしは知っている。しかし、あなた方が旅立つとき、それはあなた方が「光の子ら」であることを証明するためでなければならないことを知っておきなさい。

53. 私は、あなたがたに、私が今、託そうとしているこの使命の霊的な偉大さを、あらかじめ理解してほしいと願っている。そうして初めて、あなたがたの魂は、その使命の責任を自覚するようになるのだ。

54. しかし、もしあなたがたが、この光のメッセージを世界に伝えるための準備を、あなたがたが気まぐれに始めるまで、私が待たなければならないと信じているなら、それは大きな誤りである。なぜなら、人々を贖い、その魂を救うのは私だからだ。あなたがたは、ただ道を切り開く者、告げ知らせる者、預言者、そして奉仕者に過ぎない。これらの任務を果たすために、私はあなたがたに教えを授けているのだ。

55. わたしは、一人ひとりの弟子の心の一つの本質を宿した。この本質は、あなたがたの思いや祈り、言葉、そして愛の行いの中に現れるであろう。

56. あなたがたは、私が「あなたがたは人々の間で霊的な喜びとなるべきだ」と語ったことを覚えていないのか。

57. 苦しむ人々の助言者、導き手、そして魂の医者となること以上に、この地上で何を望むことができるだろうか。

58. 慈悲は愛の最も美しい花の一つであり、まさに私の御心によって、あなたがたの中で咲き、その香りを周囲の人々に漂わせるべき花なのです。まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたが、自らの魂に偉大さを与えたいという理想や切望を抱いているならば、私はあなたがたに慈悲の道を差し出します。私は、人々がほとんど歩んだことのないこの道を、あなたがたがそれを通じて私のもとへと昇りつめることができるよう、差し出すのである。

59. 私は、あなたがたがこの道のりの終わりまで、私の教えに忠実であり続けたという満足感を持ってたどり着くことを望んでいる。私の言葉は、あなたがたが旅の終わりまで確かな足取りで歩み続けることができるよう、あなたがたを力づけるものである。

60. 私の啓示の最後の数日間、あなたがたの道には多くの誘惑や障害が現れるだろう。それゆえ、私はあなたがたに警告し、警戒するよう呼びかける。目を覚まし、祈り続けなさい。

61. 民よ、強くあれ。そうすれば、この試練は過ぎ去るだろう。もしあなたがたが従順で忠実であり続けず、誘惑に陥ってしまったなら、終わりのない試練の連鎖を自ら招くことになり、それは多く

の人々の知性を混乱させ、多くの人の心の信仰を打ち砕くことになるだろう。

62. あなたがたの使命のための計画はすでに策定されており、そこから逸脱してはならない。

63. わたしは、わたしの言葉を締めくくる際には、あなたがたが準備をし、学び、熟考し、そしてあなたがたの間でわたしの教えを実践するために十分な時間を与える、と告げてきた。もし、私の民が霊的に目覚めたと私が認めたならば、私は、あなたがたが外へ出て、私が人類に知らせるために託した光のメッセージを伝えるべき道を切り開くであろう。

64. 私があなた方のために策定した計画は、明確かつ単純なものである。あなたがたがスピリチュアリストと名乗りたいたのであれば、この計画を少しでも変更したり、改変したりしてはならない。

65. 仲間を改心させる権威——これまで経験したことのないような病人を癒す力、そして奇跡を行う力を望む者は、私の律法に忠実であり、私の戒めに従順でなければならない。そうすれば、その者は、愛と知恵に満ちた偉大な業を成し遂げるための靈感と力を、決して欠くことはないだろう。

66. 私の教えを純粋に実践することから生まれる霊的な賜物や実りを軽んじ、称賛の言葉や物質的な報酬に惹かれる者は、魂を養うことのない虚栄や偽りの満足に溺れることになる。それが、その者が地上で愛し、わたしの業の中で求めてきたものであり、わたしは彼にそれを得ることを許す。しかし、まことに、あなたがたに告げる。わたしが定めたことを成し遂げず、停滞したままであり、その狂信や虚栄、物質的な欲望を捨てようとならない者たちは、わたしの指示を愛し、真にそれに従おうとする者たちの前進を妨げる障害となるであろう。

67. もし私が、狂信や無益な伝統に囚われ、停滞したままの民を彼らの目の前に示し、第三の時代の使徒たちの到来を待ち続けなければならない民たちを彼らに見せたとき、私の命令を無視する者たちは、どのような言葉や口実をもって私に答えるというのか。

68. あなたたちに語りかけているのは、私の愛である——絶えずあなたたちを見守り、霊的な進歩の代わりに苦難の杯を招くことのないよう警告している私の光である。

69. わたしは、あなたがたに最後に語りかけるその日のために、あなたがたを準備している。なぜなら、その時点から、この民にとって霊的な面においてすべてが変わるからだ。それゆえ、わたしはかねてより、あなたがたが伝統主義者や外見的な形式の守り手にな

ってはならないこと、また、礼拝の行為を、もはや心から引き離すことのできない慣習や習慣にしてはならないと、あなたがたに告げてきたのである。

70. まさか、すべてがいつまでも同じ形で存続しなければならないとも思っているのか。一生涯、これらの集会所で団結し続けるとでも思っているのか。いいえ、民よ、あなたがたがこれまでに持っていたすべてのものが視界から消え去ることが必要なのである。そうして初めて、真の靈性化の光が現れるのを感じるができるのだ。これまで、あなた方は私のメッセージの真意も、この事業の目的も理解していなかったのです。

71. 確かに、「最初の人々」は、教えや指導が不足していたため、彼らを驚かせた啓示の真意を把握することができなかった。しかし、あなたがた、「最後の者たち」——この時代の終わりを証しすることになる者たち——は、「最初の者たち」の過ちを引き継ぎ、第三の時代の夜明けをただ目撃しただけの者たちが知らなかったのと同じように、このメッセージの真意を今もなお理解していないことを、正しいことだと考えているのか。

72. いいえ、とあなたの心は私に告げている。私はあなたがた全員に告げる。今この瞬間にあなたがたが抱いているこの確信は、試練の時になっても決して失われてはならない。今日、私があなたがたに告げていることを忘れないでほしい。あなたがたの従順と誠実さゆえに、あなたがたの家庭において、また歩むすべての道において、平安が与えられるのだ。

73. 近づきつつある混乱の時代に、準備を整え、強靱な心で臨めるよう、できる限りのことをしなさい。すべての者が真理を争い合う時が来たとしても、諸宗派、教会、哲学、教義が引き起こす混乱に、あなたがたの混乱を加えてはならない。

74. わたしから霊的な形で教えを受けたこの民が、穏やかに、自覚を持ち、警戒心を忘れず、謙虚にこの時代を迎え、その存在が、あの嵐の中で一筋の光となり、安らぎの息吹となることを、わたしは望む。

私の平安があなたがたにあるように！

教え 254

1. 私は受け取り、与えるために来る。私はあなたがたに耳を傾け、またあなたがたが私に耳を傾けるために来る。

2. 私は数え切れないほど、父として、また師として自らを明らかにしてきた。今日、私が裁き主として現れるのは、私があなた方に一年を託し、その実りをあなた方から求めているからである。永遠の視点から見れば、この期間はほんの一瞬に過ぎない。しかし、その間にあなたがたが成し遂げた行いは、あなたがたが自らの人生の歴史を記す一冊の本に記録され続ける。あなたがたの霊に記されたこの本は、目標を達成するために戦った軌跡を留め、あなたがたが至高の審判者の前に差し出すものとなるだろう。

3. 今日、あなたがたは私に、発展の道において一步前進した、ごくわずかな期間を表す一面しか示していない。

4. あなたがたが上へと登っていくにつれて、あなたがたの行いはより大きな完成度を帯び、あなたがたはわたしの業をより大きく、より深く理解するようになる。そのために、わたしはあなたがたに、わたしの約束への信頼を吹き込み、あなたがたを立ち上がらせ、目覚めさせ、癒やすのである。

5. あなたがたが、愛の理想と努力によって、また父に喜ばれるという意図をもってその実りを得たから、私はそれを受け取りたい。あなたがたは厳しい試練の中で戦い、岩屑を越えて歩んできた。肉体の目は涙を流し、魂もまたすすり泣いた。

6. 今、あなたがたの唇は沈黙し、魂も嘆き悲しんでいません。そして、あなたがたは受けたすべての苦難を、わたしへの希望と、隣人への赦しへと変えています。わたしは、あなたがたの従順を祝福します。

7. あなたがたは、新たな一日へと目覚め、一步前進しているのを感じています。それ以来、あなたがたの精神はさらに啓発され、わたしをより深く理解するようになりました。また、父と世界に対して負った責任を、正しく認識するようにもなりました。

8. 今日、あなたがたは、時間が無駄にしてはならない貴重な宝であり、あなたがたの賜物は隠しておくべきではない宝石のようなものであることを知っています。

9. 闇と無知の時代は、あなた方にとって終わりました。今日、使徒として、あなた方は自分が何を語り、何をなし、何を考えているかを理解しており、私の恵みを受ける資格を得るために功德を積むことに心を砕いています。あなた方は光の中に生きており、もし誰

かがその光に眩まされるとしても、それはその人の視界に明瞭さが欠けているからに他なりません。

10. 私はすべての人に等しく恵みを注いでいるが、各人がそれを受け取る量は、その魂の準備と高まりに応じて異なる。

11. 私は今、転生した存在たちの働きの成果を受け取っている。なぜなら、地上の生活は時間によって測られるからである。あなたがたが霊的な生活に入るとき、永遠は時間、日、あるいは年によって測ることはできないと悟るだろう。なぜなら、時間は霊的なものには何の影響も及ぼさないからである。

12. 私は今、全人類には見えない形でここに存在している。彼らの命は私の中で脈打っている。なぜなら、私は彼らの父であり——彼らの命と行いを完全に裁くことのできる唯一の存在だからである。私は、人々が混沌の中で彷徨い、心の中に、さらには魂そのものの中にさえ戦争を抱え、殺戮と破壊の武器を手だけでなく心にも携え、言葉をまさに両刃の剣として用いているのを見ている。ある者は攻撃し、ある者は身を守る。ある者は死をまき散らし、ある者は命にしがみつく。そして、影のように、新しい教えの覆いが広がり、それは心から心へ、魂から魂へと伝播していく。

この脅威に直面し、人々や民族は戦慄し、なぜ全能なる方が、この救いようなない教えの広がりを阻止されないのかと自問する。それに対し、父はこう答える。「私は、それらが芽生え、成長し、花開き、広がり、実を結ぶことを許している。そうすることで、人類がそれらの木を、その実によって見分けられるようにするためである。」

13. これらの教え、理論、世界観は、人々があらゆる実を食べ尽くした後、その目を「命の木」に向け、真の実——その味に甘さを、その本質に命を含むもの——こそが、私が太古の昔から『愛の律法』の中であなたがたに差し出してきたものであると悟るために、この世に広まっていくのである。

14. 人々の平和は儚いものである。私があなたがたに差し出す平和だけが、永遠である。

15. 私は人間の知性を通じてあなたがたに語りかけている。そして、私の言葉は、私が古来よりあなたがたの中に蒔き続けてきたのと同じ、愛の種である。

16. わたしはあなたがたに力を与えた——しかし、それを使って隣人にわたしの意志を強要させるためではない。わたしはあなたがたの魂を解放した——しかし、その自由を悪用させるためではない。わたしの武器は、真理、愛、慈悲、平和、そして赦しである。

17. あなたがたがわたしをふさわしく代表し、わたしの忠実な証人となるようにするためには、わたしの教えを活かし、わたしの御言葉に深く入り込んでいかなければならない。そうしてこそ、あなたがたを分裂させ、ある者たちは外的な礼拝の形式や伝統を擁護し守ろうとする一方で、他の者たちはわたしの教えの本質や霊性をめぐって争うような、誤りに陥ることを防げるのだ。私がモーセを通じて人類に与えた律法の第一の戒めにおいて、「天にあるものの像や模造品を作ってはならない。それに向かってひざまずき、それを礼拝してはならない」と述べたことを思い出してください。それ以来、人間のための道、そして魂のための道は、はっきりと示されてきたのです。

18. モーセは、人々に十戒を伝えるにとどまらず、人間の生活のための二次的な律法を制定し、霊的な神への礼拝の中に伝統、儀式、象徴を導入した。これらはすべて、当時の人間の精神が辿っていた発展の段階に沿ったものであった。しかし、約束されたメシアが現れ、伝統、儀式、象徴、そして犠牲を廃し、律法のみをそのまま残した。それゆえ、パリサイ人たちが民に「イエスはモーセの律法に反対している」と言ったとき、私は彼らに、「私は律法に反対しているのではなく、むしろそれを成就するために来たのだ」と答えた。もし私の教えが伝統を排除するとしても、それは民が伝統を遵守することに没頭するあまり、律法に従うことを忘れてしまったからに他なりません。

19. 民よ、あの出来事はこの時代にも繰り返された。1866年、ロケ・ロハスの人間の知性を通じて私の臨在が啓示され、彼はそれをあなた方に伝えた。しかし、彼もまた、啓示の真意を理解できるよう助けるために、伝統や礼拝の形式、象徴を作り出したのである。

20. 今や、私がもはやこの形であなた方に語りかけることのない時が近づいている。それゆえ、あなた方が「聖霊の弟子」という名を正当に名乗れるよう、あなた方の礼拝や行動の内に存在するかもしれないあらゆる物質主義や狂信を、あなた方の心から一掃したいと思う。しかし、よく理解しておいてほしい。私が不必要な伝統や慣習を取り除くからといって、それが私の律法に反するわけではない。なぜなら、「第二の時代」においてそうであったように、伝統に従おうとするあまり、真の霊的な神への崇拜や、人類に対する義務に背くことになりかねないからだ。

21. もしあなたがたが、父への崇拜においてすでにあらゆる物質主義から解放されているとしても、霊性の頂点に達したと自負して驕ってはならない。その頂点から、あなたがたは、あらゆる宗派や

教会に帰属する者たちを未熟だと見なしてしまうからだ。あなたがたが隣人の目にあるちりを見ている間にも、私はあなたがたが自ら背負っている梁を指摘することができる。

22. 人々は、伝統や形式、儀式に疲れている。私は、光を求めることに疲れ果てた魂の安息の場として、私の教えの光を彼らに示したい。

23. 民よ、わたしをあなたがたの裁き主とせよ。あなたがたの良心の中で語りかけるわたしの声に耳を傾けよ。わたしに報いや称賛を求めたり、報酬を目当てにしたりしてはならない。もしわたしがあなたがたにそのような満足を与えたとしても、あなたがたはそれを悪用し、自らを主と称して高ぶってしまうだろう。わたしの子供たちの中で最も卑しい者であるかのように、謙虚にわたしを求めなさい。もし何かを悔いるなら、わたしの前にひれ伏しなさい。わたしはあなたがたの裁き主となり、最大の誠実さをもって語りかけ、憐れみをもってあなたがたを正すからである。そうすれば、あなたがたはわたしの言葉の背後に、かつて想像もできなかったこと、あらゆる憧れを超越した何かについての神聖な約束を見出すだろう。

24. わたしは、あなたがたに「言葉」という賜物を与える。それは、鐘の音のように眠っている者たちを目覚めさせ、力と癒しと命を与えるためである。

25. 不吉な出来事が人類をわたしのもとへ立ち返らせるまで待つてはならない。目を覚まし、祈り、種を蒔きなさい。そうすれば、わたしの御霊の光と平和が、心から心へと広がっていくであろう。

26. わたしの言葉は、人の脳や唇を通るものの、光と愛そのものである。群れよ、身を整え、わたしが言葉の伝達者を通して自らを現すことを許しなさい。そして、この崇高かつ繊細な任務に選ばれた者たちよ――さらに身を整えなさい。わたしの言葉を純粹に伝える能力がないと感じる者は、準備をすべきである。もしそれができないならば、むしろ沈黙を守り、口を閉ざすべきである。しかし、あなたがたの貧しさ、不器用さ、あるいは謙虚さが、わたしの啓示の妨げにはならないことを肝に銘じておきなさい。わたしは、世界を驚嘆させるために、不器用で教養のない者たちを用いてきた。わたしが非難するのは、不誠実さ、すなわち罪である。

27. 私は、あなたがたがふさわしい者となることを望む。私の言葉の最後の数年間において、私の啓示が次々と行われ、集会の場から異議の声が聞こえないようにするためである。

28. 私は、最も大きな星から、あなたがたの目にはかろうじてしか見えない存在に至るまで、全被造物からの捧げ物を受け取った。

万物は発展の法則に従い、すべてはその道を歩み、前進し、変化し、より高い次元へと発展し、完全になっていく。そして、完全性の頂点に達したとき、私の霊的な微笑みは、あらゆる欠点、あらゆる悲惨、苦しみ、そしてあらゆる不完全さが消え去った全宇宙に、果てしない夜明けの光のように広がるだろう。

29. 私の言葉の核心にある私の正義を悟りなさい。

30. 諸君よ、私の言葉は、私が諸君の心——私のためにほとんど鼓動することのなかったその心——を開くための鍵である。

31. 今日、あなたがたは、準備のために託された最後の三年のうち、二年目を迎える。

32. 今日に至るまで、あなたがたは何を成し遂げたのか。

決定的なものは何一つない。良心の光のもとで自らを省みた結果、あなたがたは、合一と霊化に向けて一歩も前進していないことを悟ったのだ。

33. あなたがたは、わたしの叱責に慣れてしまい、それゆえに怠惰に身を任せて後ろに寄りかかっている。しかし、あまり自信過剰になってはならない。わたしがあなたがたの間で啓示を行う期間を延長するだろうという考えを捨て去れ。なぜなら、もしあなたがたがこの誤りに陥れば、欺かれ、また人を欺くような生き方をすることになるからだ。

34. 私が与えてきた機会の後に、さらに別の機会を要求するなど、いったい誰が敢えてできるだろうか。愚か者か、無知な者だけである。しかし、あなたがたは無知ではない。私は年々、絶え間なくあなたがたに語りかけてきたのだから。

35. なぜ私がこう言うのか。それは、一部の者の心の奥底に、この願いと秘めた意図を見出すからである。その願いと意図は、たとえ実行に移されなくとも、すでに私の業の真実性と純粋性を冒涇しているのだ。

36. 私の言葉が際限なく続き、すべてがこれまで通り続くことを望むこの願いは、彼らが託された貴重な時間を活用しておらず、今になって何かを行うためのさらなる時間を求めていることの証拠である。しかし、定められた時が満ちれば、誰も神の決定を変えることはできない。なぜなら、そう意図することは、神が定められた計画の完全性を否定することになるからだ。

37. おお、民よ、わたしの命令に背いてはならない！ もし誰かがそうするならば、その者はわたしの正義の証人となり、この国に解き放たれた自然の力が襲いかかるのを目撃することになるだろう。

そして、わたしの愛の言葉にもかかわらず、わたしに従わなかったその者は、自らの不従順を悟ることになるのだ。

38. 彼らが迷いから目覚め、自らの霊的な後退に気づき、古代の人々に起こったのと同じように、父なる神が今もお自然の力を通じて彼らを奮い立たせ、懲らしめなければならないことを目の当たりにしたとき、その魂にはどれほどの苦しみと後悔が訪れること！

39. わたしは、この民の中からあらゆる不純な種を排除し、明日、人類がわたしを認識できるようになるための良き種だけを残す。混乱し、不従順で、あるいは狂信的な民を通して、どうして人々がわたしの真理の輝きを垣間見ることができるだろうか。

40. この準備の日々は、民よ、あなた方にとって深い思索に満ちたものである。この内省と良心の点検を経て、あなたがたが歩みたい道を選ぶためである――私の意志を行う者は平和のうちにその道を歩むことができ、自らの意志を行う者は、時が来れば容赦なく降りかかる試練を受け入れることを選ばなければならない、ということを示して。

41. わたしの命令に従う者には、真の平安がある。なぜなら、その者は父に従う善意の人となるからである。わたしの指示を無視する者には、一瞬たりとも平安はない。その者は絶えず良心の呵責を聞き、絶え間ない恐怖の中で生きることになる。

42. 私は誰をも裁くことはなく、ただ、あなたがたの行いの当然の結果として何が降りかかるかを、時宜を得て明らかにすることに留めている。私がそれを時宜を得て告げるのは、あなたがたを愛しているからであり、また、あなたがたがそれを避け、真実に目を向け、道から迷い出さないようにするためである。

43. 不従順な者は常に高慢である。しかし、自分の意志を通す権利がある、あるいは父の意志を変えさせる権利があると信じているのは、いったい誰なのか。自分の中にある賜物を、真の功績によって得たと信じているのは誰なのか。この民こそが、わたしの神聖な計画を実行するために不可欠であると信じているのは誰なのか。

44. あなたがたの知性が曇ることを許してはならない。良心の声を黙らせてはならない。肉の誘惑によって魂がつまりずくことを許してはならない。それは極めて痛ましいこととなるからだ。

45. 決して力が尽きることはないよう、目を覚まし、祈りなさい。深く考え、自らを厳しく省みよ。そうすれば、あなたがたの霊は、その光をあなたがたの知性と心に注ぎ出し、あなたがたの間には平和がもたらされるだろう。

46. 私の教えは、あなたの魂に「いのちの書」をページごとに示し続けている。なぜなら、この教えの時代が終わるまで、あなたの魂は強く、備えを保たなければならないからである。

47. もしあなたがたが、初代時代の預言者たちのように働き、人類の道しるべとなることを真に望むならば、霊性への道を歩みなさい。それは見つけるのが難しいことではない。なぜなら、これらの教えの一つひとつが、人々にとっての霊性の教訓だからである。

48. 私があなたがたに予告した、霊性が高まった魂を持つ世代がこの世に生まれる前に、このメッセージが諸国や諸民族に広められ、主の声を聞いた民、そしてその証を信じてその民に加わった者たちによって、道が整えられているのに出会うように、と私は望んでいる。

49. 私は、永遠の昇華を意味するこの道において、新たな一步を踏み出すよう、絶えずあなたがたに呼びかけている。立ち止まってはならない。もし立ち止まるとしても、それは、ある計画を熟成させたり、信仰を強めたり、熟考したりする必要があったからであり、それには意義がある。しかし、その後は前進し続けなさい。

50. どれほど多くの者が心の中で私にこう言うことか。「師よ、なぜこの時代に、あなたの御姿を目にするために、人間として私たちのところに来られなかったのですか？」しかし、私は別の問いをもって答えます。もしあなたがたが、この形でこの世に私の御姿を望むならば、それは再び私の血を求めることになると思っていないのですか？私をこのように受け入れてください。霊において、肉眼には見えないけれど、魂のあらゆる感覚には感じ取れる存在として。

当時、私は、自分の教えの中で説いた愛をその血をもって確約するために、血を流したのだ。今日、私はすべての人々に神聖な本質を注ぎ出しています。それは、人々がどれほど恩知らずであろうとも、私の愛は変わらないという証であり、だからこそ私は彼らに近づき、私の王国で永遠に私と共に住むことへと導く、輝く道を彼らに示すためなのです。

51. 他の人々は霊的に私にこう言う。「あなたがこれほど深い愛を込めて私たちに聞かせてくださったこの言葉を、せめて決して私たちから奪わないでください。」そのような人々には、もし彼らが私の教えを真に活かし、私の意図を理解しようと努めるならば、その啓示を終わりと宣言する時が来ても、それを手放すことは彼らにとって苦痛ではないと告げよう。そして、それは彼らにとって苦痛ではないだろう。なぜなら、あなたがたの魂は私の本質に浸透され

、私の光に満たされたままであるからだ。しかし、もしあなたがたが私の教えの一部、あるいは多くを記憶にとどめることができなかったとしても、その場合に備えて、私はこの時代の私の言葉を収めた書物の作成を命じた。私の神聖な教えから編纂されるこの書物の中に、あなたがたは真の契約の箱を見出すだろう。それは、初期のスピリチュアリストたちが理解することができず、そのため物体や象徴によって表現せざるを得なかったものである。

52. 真の契約の箱とは、私の言葉である。なぜなら、それを開き、敬意と霊性、そして愛をもってその中に踏み込む者は、その底に知恵、深い啓示、預言、そしてあらゆる霊的賜物を見出すからである。私の言葉が、不完全な人間の伝達者を通じてもはや聞かれなくなったとき、あなたがたはこの契約の箱に目を向けることになるだろう。そして、あなたがたは、瞑想の中、学びの瞬間、あるいは祈りの瞬間に、あなたがたの存在の最も繊細な部分に、すべてを解き明かす高次の光が差し込むのを目撃することになるだろう——それは、あなたがたを包み込む父なる影響であり、人間のものではない声が、その完全な方法であなたがたに語りかけるのだ。それは、真の「霊から霊への対話」を通じて、あなた方に届く私のインスピレーションの光となるでしょう。

53. 祝福あれ——「先人たち」から受け継いだ、礼拝における多くの余分で不必要な儀式を取り除き、本質的なものだけを残すことができたあなた方よ。しかし、まだ清めるべきことが残っており、多くのことを霊的なものへと昇華させなければならないことを認識しなさい。

54. あなたがたの魂が、この地上で、私が期待する通りの崇敬を私に捧げることができるようになれば、どれほど幸せになることか！ しかし、もし彼女がここから霊の谷へと旅立ち、もし彼女が私の業にふさわしくないものを何か残してしまったならば、あなたがたが残した遺産を検証する新しい世代は、あなたがたが残した不純なものをすべて取り除くことを知り、そうして、あなたがたには成し得なかった一步を踏み出すことになるでしょう。

55. わたしはあなたがたに告げる。あなたがたが礼拝の行いを清め、神への崇拝を完成させればさせるほど、あなたがたの後を継ぐ者たちの苦しみは少なくなり、また、あなたがたの功績はわたしの前でより大きなものとなる。なぜなら、あなたがたは自分のために働いたのではなく、隣人を思いやってそうしたからであり、心の中で彼らへの隣人愛を感じていたからである。

56. あなたがたは、先人である兄弟たちから受け継いだものを清めるために、どれほど苦闘しなければならなかったかを、自ら経験していないか。それゆえ、この苦痛を伴う仕事を、あなたがたの足跡をたどる者たちに押し付けてはならない。

57. 第二の時代において、私の教えは、私の去りがすでに目前に迫っていた時に、その頂点に達した。

58. 弟子たちは――これが師と共に過ごす最後の瞬間であることをよく承知していた――その言葉の最後の一語までも聞き逃さず、心に刻み込むべく、全神経を集中させた。

59. イエスの神聖な願いは、弟子たちがその救いの教えを蒔く者となることだった。弟子たちへの最後の説教、すなわち父と子らとの最後の対話のクライマックスにおいて、イエスは愛に満ちた口調で彼らにこう告げた。「今、あなたがたに新しい戒めを与える。互いに愛し合いなさい。」その至高の戒めの光によって、イエスは人類にとって最大の希望を灯したのです。

60. 私が間もなくあなたがたへの啓示を終えようとしているこの時代においても、私は、あなたがたが私の教えに耳を傾ける際の敬虔さと注意深さを見ている。それらは、私の新しい弟子たちの精神に消えることのない形で刻み込まれるだろう。

61. かつて私が使徒たちに、世の中で「狼の中にいる羊」のようになるだろうと告げ、常に警戒して生きよう促したように、今、私はあなたがたに、備えをし、見張り、祈るべきだと告げる。なぜなら、多くの者があなたがたに立ち向かい、中傷という武器を用い、あらゆる手段を駆使してあなたがたを惑わそうとするからだ。

62. 今こそ戦いの時である。あなたがたは皆それを知っているのだから、誰も不意を突かれることがないように。

63. わたしは、あなたがたが教えを理解し、その真意を渴望して探求できるよう、教えを極限まで簡潔にした。その時が来れば、あなたがたは問われるあらゆる質問に対して、容易に答えられるようになるだろう。人を納得させるために、多くを語る必要はない。真に準備ができていれば、あなたがたの言葉は簡潔であるだけでなく、短いものとなるだろう。科学者に答えるために科学を知る必要も、神学者に答えるために神学を知る必要もありません。光の言葉はすべてを照らし出すものであり、私は、あなたがたの唇から光の言葉が語られることを望んでいるのです。

64. この時代に私の声を聞いた者すべてが、私の言葉を証しするために立ち上がるわけではない。真に私を愛する者たち――すなわ

ち、身近な人々の中に私を見出し、困っている人々に寄り添い、彼らに憐れみと慰めを与える者たち——こそが、旅立つのである。

65. わたしの教えを理解し、それを深く心に感じる者たちは、信仰をもってそれを受け入れるだろう。あらゆる敵対に立ち向かわなければならないのは彼らであり、真理と愛と正義の武器を手に取りなければならないのも彼らである。苦難を乗り越え、この正義と真理からすでに長い間遠ざかってしまったこの世界において、神への平安と信頼に満ちたこれらの種蒔き人たちは、第三の時代の霊的なメッセージを世界中に広めていくであろう。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 255

1. あなたがたは、闘争と祈りと功德の時代に入った。楽しみだけの時代は終わったと実感し、歩みを速めなければならないと感じている。人類は絶望の淵にあり、あなたがたには、言葉と行いによって、彼らに福音を伝え、私の到来の証しを届ける責任があるから。

2. あらゆる宗派や分派の人々が、私の到来を告げるしるしを見つけ出そうと、時代や人生、そして出来事を徹底的に探求している様子を見てごらん。彼らは無知な者たちであり、私がすでに長い間自らを現しており、まもなくこの種の啓示が終わりを告げることを知らないのだ。しかし、私はこうも言うておく。私をこれほど切実に待ち望んでいる者たちの多くでさえ、もし私が自らを現すその様子を目の当たりにしたら、私を認識することなどできず、むしろきっぱりと拒絶してしまうだろう。

3. 彼らには証言だけが届けられるだろう。そして、それによって、彼らはそれでもなお、私が自分の子供たちの間にいたことを信じるようになるだろう。

4. あなたがたもまた、心の中で焦燥感を抱きながらわたしを待ち望んでいた。しかし、わたしは、あなたがたがわたしを認識し、この時代のわたしの働き手の一員となることを知っていた。

5. 世の人々が、私が自らを現したその方法を嘲笑しようとも構わない。しかし、彼らが嘲笑するのは私ではなく、彼ら自身である。なぜなら、彼らは、あらゆる被造物が神性にとって何を意味するのか、予感すらしておらず、理解もしていないからだ。

6. 私にとって、子供たちに私が授けた能力を通して自分自身を現すこと——彼らが罪人であるとか、不浄であるといった口実を用いることなく——こそが、子供たちに対して私がなせる最も正しいことである。子供が父を知り、父を見、父を感じ、そして父を愛することができるようになること以上に、子供にとってこれほど素晴らしい励みがあるだろうか。

7. 古の預言には、罪人であろうとなかろうと、すべての目がわたしを見るようになると記されている。今、この時代に、私はあなたがたにこう告げた。「私は、義人を通じて自分自身を明らかにするために来たのではなく、人生の試練と悔い改めの瞬間に自らを清めた罪人を求めて来たのだ。」なぜなら、その人は、父に愛され、認められていると知れば、再生と徳の道をまっすぐに歩む子だからである。

8. 私があなたがたに語りかけた代弁者たちのうち、私の言葉を聞く前に、自分がすでに持っている賜物や、自分に定められた務めを予感していた者はいたか。誰もいなかった。彼らは生涯を通じて、まるで溶鉱炉の中にいるかのように精錬されてきた。しかし、その賜物は、それを明らかにする時が来るまで、秘密のままであった。

9. これは、人間の魂が父とのより高次の交わりを知るための始まり、あるいはその準備であり、あなたがたは驚いた。もし、私が適切な時にあなたがたに明らかにするために用意しているすべてのことを知っていたとしても、あなたがたは、私がなぜこれほどまでにあなたがたを愛しているのか、また、これほど大きな恵みを得るためにあなたがたが果たさなければならない功績とは何かを理解することはできなかつただろう。

10. 1866年、この事業の弟子たちである最初のスピリチュアリストの共同体が誕生した。私の霊の光のもとで、またエリヤの教えを受けながら、それらの最初の弟子たちは、今やあなたがたが、その完結を目前にして豊かに受け取っているメッセージの光線を受け取り始めたのである。

11. それ以来現在に至るまで、ロケ・ロハスが築いた「幹」から派生した多くの共同体が、枝として形成されてきました。

12. この民を構成する大勢の人々を照らしたのは、ただ一つの光であった。それにもかかわらず――各教会間には、なんと多くの違いがあることか！長年にわたり、あなたがたは、簡潔で明快かつ理解しやすい教えを通じて、わたしの言葉の啓示を喜びとしてきた。しかし、霊の教えの真意を説明できた者はごくわずかである。

13. この形での私の啓示が終わるまで、あと一年しか残されていない。しかし、民の大部分は依然として真理から遠く離れている。

「最初の人々」から「最後の人々」に至るまで、私は、彼らが当初は全く理解することさえできなかった神の啓示を、物質的な形として受け止めてしまったという事実を赦してきた。しかし、長年にわたり霊の教えが広まり、私の言葉がこの業を少しずつ、より深く解き明かしてきた今、私は、あなたがたに、慣れ親しんだ道から離れ、私の教えの核心へとさらに踏み込み、霊化への道において断固とした確固たる一步を踏み出すよう求める時が来たと見ている。

14. あなたがたが、象徴や形象、外的な礼拝の形式や物質化を通じて私を探し求め、崇拝している限り、どうして私に従うことができるというのか。あなたがたは私にこう言う。「それは『先駆者たち』の遺産であり、私たちはそれを尊重している」と。

さて、民よ、今、私はあなた方に告げよう。あの「最初の者たち」は、あなた方が彼らが始めた神への崇拝の形式や霊的な交わりの形式を完成させるための、単なる先駆者に過ぎなかったのだ。

15. 神の律法を、あなたがたが持つ宗教や、その律法を解釈するための方法と混同してはならない。

16. 法は永遠であり不変であるが、宗教や礼拝の形式、そして行いは、それらを信奉する人々の道徳的・精神的な成長に応じて発展し、変化していく。もしこの精神的な成長がなければ、諸君は今もなお、原始的な民族のように、星々や自然の力を神として崇拝し続けていたであろう。

17. わたしを愛し、わたしに仕え、わたしを崇めるという在り方に、立ち止まってはならない。常に前進し、ますます自らを磨き、完全なる境地を目指して努力しなさい。しかし、その律法に手を加えたり、変更したり、置き換えたりしてはならない。それは常にあなた方に至高の教えを授け、それを完全に果たすよう命じ続けるであろう。それは普遍的な法として、現在も永遠に存在し続け、神への真の愛と隣人への真の愛をあなた方に教えてくれるだろう。

18. 習慣や礼拝の形式、あるいは伝統の守り手になってはならない。そうすれば、何世紀にもわたって、教義への盲信と無知という無気力状態に留まり続けることになるからだ。その代わりに、律法と真理の守り手となりなさい。

19. この時代において、伝統に縛られ、保守的で狂信的であったために、何世紀にもわたって待ち望んでいたメシアがもたらした「天のパン」を食べることができなかった「第二の時代」のユダヤ人のようにってはならない。その時が来たとき、彼らはメシアを認識することができなかった。なぜなら、彼らの物質主義が、真理の光を見ることを妨げていたからである。

20. この日、私はあなたがたにただ二つの言葉だけを残す。あなたがたが、十分な準備を通じて、それらを深く探求し、その意味のすべてを汲み取れるようにするためである。それは「スピリチュアリズム」と「霊化」である。そうして初めて――瞑想し、祈り、目を覚ましていることによって――あなたがたは、この教えに基づき、主に対して捧げなければならない、真に正しい神への崇拝がどのようなものであるべきかを理解することができるだろう。

21. そう、民よ、外的な礼拝の形式を通じてわたしを愛し、肖像や象徴の中にわたしを求め、典礼や儀式、祝典を通じてわたしを礼拝するためには、多くの教会や宗派が存在し、もしあなたがたの心にまだそのような礼拝への渇きや必要性があるならば、そこで心を

満たすことができるだろう。しかし、もしあなたがたがこの霊的な働きを通じてわたしに仕え、わたしを愛し、それゆえにわたしを崇める他の形式を拒絶したいと望むならば、「スピリチュアリズム」とは何か、「霊化」とは何かを理解しなさい。そうすれば、もしあなたがたが真にこの教えの弟子でありたいと願うならば、慣習や規則、伝統、そして外的な礼拝形式を押し付ける者たちの仲間入りをしないように。そうしなければ、再び物質主義、偶像崇拜、そして狂信に陥り、スピリチュアリズムについてはその名ばかりを知ることになってしまうだろう。

22. 私の教えに順応し、それに調和するよう、できる限り高みを目指しなさい。しかし、その逆、すなわち、私の教えをあなた方の限界や都合に合わせて、それを物質化したり、歪めたり、改ざんしたりするようなことはしてはならない。

23. 本日のこの教えは、それを聞いた者たちにとって、目覚めの呼びかけとなるべきである。彼らがこの教えからインスピレーションを受け、エネルギー、熱意、愛、そして信仰に満たされ、長い間彼らを縛り続けてきた網を引き裂くことができるように。彼らの心には、「スピリチュアリズム」が何を意味するかという真の理解が形成され、その胸中には、この光と完全性の教えの真の弟子となるという高貴な理想が生まれなければならない。

24. 愛する民よ。あなたがたの間の相違が一度消え去り、現在あなたがたの間にある不和が兄弟愛に取って代われ、あなたがたが自らの使命を理解したとき、あなたがたの魂には渴望が、そしてあなたがたの心には衝動が湧き上がり、私の言葉の中で受け取った霊性の種を蒔くために旅立つことになるでしょう。

25. 啓示の瞬間があなた方に訪れるでしょう。その時、あなた方はこの大業の偉大さを極めて明瞭に理解し、その根底に、これまで想像もできなかったような驚くべき啓示が隠されていることに驚嘆するでしょう。そうして、あなた方は自発的に旅立ち、地球の隅々へと広がり、その道中で慈悲と光と慰めを授けることになるでしょう。隣人たちの批判はもはやあなた方を傷つけることはなく、家族からの軽蔑もあなた方を苦しめることはないでしょう。なぜなら、あなた方の使命の偉大さに比べれば、この世のあらゆる苦しみは取るに足らないものに見えるからです。

26. 苦痛に無感覚となるほどの霊的境地に達した者たちは幸いである。彼らは、わたしの慈悲の衣によって守られるからである。

27. 信仰、愛、そして霊化——これらは、第三の時代の戦士たちと使徒たちを無敵のものとする三つの美德である。これらの美德は

、太古の昔から、わたしの存在、わたしの臨在、わたしの律法、そしてわたしの真理を証してきたすべての奉仕者たちの中に宿っていた。

28. これらの奉仕者たちの中には、族長たち、預言者たち、使徒たち、そして殉教者たちを見出すことができる。しかし、人類の歴史において彼らだけがそうであったわけではない。自らの使命を果たし、私の真理を証しするために様々な道を歩み、あらゆる種類の攻撃、嘲笑、迫害、中傷に耐え抜いた人々は、他にも数多く存在した。彼らの信仰、彼らを傷つけた者たちに対する寛容さ、そして主からインスピレーションを得た、隣人に対する揺るぎない忠実な愛こそが、彼らに苦痛、不正、そして死を乗り越えさせたのである。そうでなければ、殉教者たちが処刑者たちに対して示した服従を、どうして説明できようか。私を愛し、私に従った者たちが、迫害に直面しても示した忍耐と平静さを、どうして理解できるだろうか？

29. もしあなたがたがわたしをそのように愛しているなら、この世の何ものも恐れることはできなくなるだろう。あなたがたの信仰が完全ではなく、愛が揺るぎないものでない限り、闘いはあなたがたに恐怖を植え付けるだろう。

30. あなたがたは何を恐れているのか。なぜあなたがたを牢獄に投げ込み、なぜ命を奪う必要があるというのか。あなたがたも知っている通り、そのような時代は過ぎ去った。そして、真理の敵たちに、殉教や投獄、そして血の磔台が――わたしの僕たちの信仰を消し去るどころか――彼らの愛の炎をさらに燃え上がらせ、わたしの教えをこれまで以上に力強く広めることになるのだということを証明するために、自らの命を捧げた多くの殉教者がいたのだ。

31. あなたがたは、周囲の人々の裁きを恐れ、この世での平安を失うことを恐れている。なぜ、むしろ、あなたがたの神の裁きを恐れたり、使命を果たせなかったために魂の平安を失うことを恐れたりしないのか。

32. 今日、私が「約束の地」のためにあなたがたに求めていることは、あなたがたには多すぎるように思えるだろう。しかし、まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたがかつてその地に入ったならば、そこにいることに驚き、さらにはその地にふさわしくないと感じ、こう言うだろう。「これほど大きな恵みに値するほど、私たちがしたことは、なんと微々たるものだったことか！」と。

33. あなたがたは心の中で私にこう問いかける。「師よ、もしかすると、あなたは私たちが値する以上のものを与えてくださっているのでしょうか？」それに対して私はこう答える。もし私があなた

がたの行いに応じて与えるならば、あなたがたが持つものはごくわずかか、あるいは何もないただろう。あなたがたは、今持っているその命、その肉体、あなたがたの内に息づく賜物、そして存在を取り巻くすべてのものが、あなたがたの功績に対する正当な報いだと信じているのか。

34. まことに、あなたがたに告げる。わたしは、あなたがたを愛し、あなたがたの父であるからこそ、あなたがたが正当に受けるべきものよりも、これまでずっと多くを与え、これからもずっと多くを与え続けるのである。

35. 人よ、あなたがたは、自分たちの信仰と愛の欠如を悟って泣いている。そして、わたしに喜ばれ、わたしの前で功德を得るためには、何をすべきか、と問う。それに対し、私はこう答える。最善の意志をもって隣人に仕え、苦しむ者たちの痛みを自らの痛みとして受け止め、あなたがたの賜物を開花させ、苦しむ人々の幸福のためにそれを完成させよ、と。なぜなら、あなたがたが隣人に対して行うことこそが、霊界に到った際にあなたがたが何を受け取るかを決定づけるからである。

36. わたしに関しては、あなたがたは、わたしが持っていないものを、何を与えてくれるというのか。わたしには力があり、平安があり、光がある。わたしは宇宙の所有者であり、人々はわたしを愛し、わたしに仕えている。わたしの精神には、利己心の影さえも微塵もない。なぜなら、わたしこそが完全そのものだからである。

それに対して、私の霊の子であるあなたがたの隣人たちの間には――なんと多くの悲惨さがあることか！　なんと多くの痛みと闇があることか！　なんと多くの苦難があることか！　なぜ、あなたがたは彼らの中に私を愛さないのか？　なぜ、互いに愛し合うことによって、あなたがたの中にある愛のすべてを私に捧げないのか？

37. 民よ、これがあなたの問いに対する私の答えであり、あなたがたの決断に対する私の天からの助言である。

38. 私が人類を代表して迎え入れる、愛する子供たちよ。人間の知性を通じた私の啓示の終わりが近づいている。その後、あなた方の霊は、私の神性との間で、霊から霊への対話を交わすよう努めなければならない。

39. 今日、私の言葉は、あなた方の守りであり、励ましである。しかし、この啓示の時期が過ぎても、あなた方は私の臨在を感じる事ができるだろう。

40. あなたがたが、この世で霊的な導き手を必要としていた時代は終わりました。これからは、この道を歩む者は皆、私の律法以外

の道も、自らの良心以外の導き手も持たないでしょう。とはいえ、その模範と靈感によって、多くの人々を支える、大きな光と偉大な霊的力を持つ男女は、常に存在し続けるでしょう。

41. もしそうでなかったならば、私はすでにモーセやエリヤのような霊たちを地上に遣わし、彼らがあなた方の道を切り開き、絶えず律法を思い出させていたであろう。彼らもまたあなた方を支え、守り、付き添っているが、もはや人間の姿ではなく、霊的な次元からである。誰が彼らを見ることができるだろうか？ 誰もいない。しかし、あなたがたが心構えを整えれば、常に人類とつながり、人類の中で偉大な使命を果たしてきた偉大な霊たちの存在を、自分たちの頭上に感じるようになるだろう。

42. 祈りの中で彼らに呼びかけなさい。そして、もしあなたがたが真に彼らを信頼するならば――私が言うように――あなたがたは決して滅びることはない。なぜなら、彼らは、この世であなたがたに数多くの証拠を示してくれたあの愛と献身をもって、あなたがたを導いてくれるからだ。

43. もう一度言うておくが、この世には、大きな光に満ち、あなたがたの道を照らし、愛をあなたがたの人生に蒔いてくれる人々が決して欠けることはない。人類は常に、この地上にそのような人々の存在を享受してきた。しかし、やがて、高次の光の精霊たちの大軍が世に現れる時が来る。彼らは、あなたがたが作り出した誤った世界を排除し、平和が息づき、真実が支配する新しい世界を築き上げるのだ。

44. 彼らは人々の悪意によって多くの苦しみを味わうことになるでしょう。しかし、これは決して新しいことではありません。神の使徒たちは、誰一人として迫害や嘲笑、敵意を免れた者はいないからです。彼らはこの世に生まれ、この世に留まらなければならないのです。なぜなら、地上における彼らの存在は不可欠だからです。

45. 彼らはやって来て、人々の心に愛をもって語りかけられるでしょう。父の正義に満ちた彼らの言葉は、謙遜という魂の衣を、虚栄、傲慢、偽りの権力、そして偽りの栄光という華やかな衣に置き換えてしまった者たちの、すべての高慢と誇りを打ち砕くでしょう。

46. そうした者たちは、真っ先に立ち上がり、怒りに震える指で私の使者を指し示すだろう。しかし、これは、私の僕たちが、彼らに課されるあらゆる試練の中で、この世にもたらした真理の偉大な証しを立てることができるようにするためである。

47. あなたがたは現在、彼らが人間生活のどのような道において現れるのかを知らない。しかし、私はあなたがたに告げる。ある者

たちは、大きな宗教団体の懷に現れるだろう。彼らは、すべての人々の団結と靈的な調和のために戦うことになる。また、ある者たちは科学者の間で頭角を現し、その靈感の結実を通じて、科学の眞の究極の目的は人間の魂の完成であり、決して人間の貧困化や滅亡ではないことを示すだろう。このようにして、あらゆる生活分野において、心に私の律法を宿し、言葉と行いをもって、私がこの時代にあなたがたに語ったすべてのことを裏付ける私の僕たちが現れるのである。

48. また、あなたがたが受け取ったこの教えである私の「種」は、あなたがたの中で実を結び、その実とは、あなたがたの子供たち、あるいはその子供たちの子供たちに転生する偉大な魂たちとなるであろう、と私は告げる。

49. これらはすでに私の最後の教えであるが、それでもなお、私はあなたがたに新たな教えを語り続けている。それは、私が師としての使命を最後の瞬間まで全うし、私の言葉の一つひとつに光を注ぎ込むためである。そうすることで、神の正義がかつてないほどに顕著に現れる苦難と痛みの時代にあっても、あなたがたが暗闇の中に取り残されることがないようにするためである。

50. 愛する民よ、世界のために目を覚まし、祈りなさい。

51. わたしのもとに来なさい。わたしは慰めであり、平和である

。

52. あなたがたは地上で苦しみや不幸を経験してきた。それは、魂が人間の苦難を乗り越えるための能力や賜物を十分に発揮してこなかったからである。

53. 人々が善意を持っていれば、この世界は涙の谷ではなく、樂園となり得たはずだ。私はこの住処を祝福で満たし、道に茨を撒くことはなかった。人々の苦しみは、彼らの過ちから生じている。しかし、彼らがその苦しみを招いたのと同様に、それを取り除くためにも努力しなければならない。

54. わたしに耳を傾けるあなたがたは、失われた民でも、迷い歩く民でもない。あなたがたは、力強い大木の木陰に家を築いた家族のようなものであり、その枝は絶えずあなたがたに実を差し出している。

55. この木陰で、あなたがたは新たな力を得て、傷を癒やすことになる。なぜなら、山の頂上まで登りきるためには、再び旅路を歩み始めなければならないからだ。

56.すでに、あなたがたの精神は天の梯子の第六段まで昇りつつある。そこでは、あらゆる誤りを払拭する光を見出し、第七段に到達するための助けが与えられるのだ。

57.わたしは、七つの封印についてあなたがたの間にある混乱や誤った解釈を取り除いてあげよう。まことに、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたは特定の封印に属しているわけではない。むしろ、あなたがたの魂は最初のものでから最後のものでまでを通過しなければならないため、今日、魂の発達第六の封印、すなわち第六の段階に生きているのだ。

58.ある封印から次の封印へと進むために、魂が乗り越えなければならなかった教訓と試練は、なんと大きかったことか！ どれほどの功德を積み重ねなければならなかったことか！ しかし、頂点である第七の封印の功德だけは、まだ欠けている。

59.悪の勢力は、その誘惑をもって、執拗にあなたの行く手を阻むだろう。しかし、あなたは、世界と苦痛と肉体を克服したあなたの師を思い出すだろう。その師の模範に従って、あなたは試練から勝利を収めて抜け出すことができるのだ。戦うための剣をあなたの精神の中に求めよ。そこには、常に準備の整った、決して外れない武器が見つかるだろう。

60.魂が私の光の火花をその内に宿しており、それが決して消えることはなく、また私があらゆる道においてその魂と共にいるというのに、どうしてその魂が私にとって取り返しのつかないほど失われることがあり得ようか。たとえその反抗心が続き、あるいはその混乱が長く続こうとも――これらの闇の力は、私の永遠に決して打ち勝つことはできない。

61.わたしは再びあなた方を解放した。あるいは、あなた方は、自らの狂信的な過去や偏見を取り除いた後、自分の魂がより自由になったと感じないのか。

62.わたしは命そのものであり、すべての人に等しくその命を注ぎ込んできた。とはいえ、わたしは常に、ある民族や人々を選び、彼らを通して自らを現わしてきた。これは、彼らを実に奉仕する使者、預言者、あるいはわたしの神性の証人とするためであり、決して、他の人々よりも大きな愛や好意をもって彼らを特別に扱っているからではない。

63.わが子らよ、わが言葉に力を得て、真の隣人愛をもって同胞を見つめ、罪人、悪徳者、狂信者、傲慢な者を裁く者とならないようにしなさい。そうすれば、あなたがたは良心の中で、こう告げるわが声を聞くことになるだろう。「清い者こそ、最初に石を投げ」

私の平安が、あなたがたと共にありますように！

教え 256

1. 民よ、あなたがたが善意をもって私の御言葉を聞き入れるとき、私の平安はあなたがたの魂に感じられる。

2. わたしは、あなたがたの心にある庭を育て、わたしの愛という天の水でそれを潤す、神聖な庭師である。わたしは、人類のあらゆる苦しみの上に、この神聖な愛の一滴を注ぐ。わたしは、父の御国へと続く道をあなたがたに示す。その道の果てをあなたがたが知ることは決してないだろうが、常に前進を遂げ、新たな栄光を知ることになるだろう。

3. 現在、わたしの言葉はあなたがたを磨き上げ、形作っている。わたしは繊細な彫刻刀であなたがたの魂を削り出している。あなたがたもまた、わたしの律法を全うすることで、自らを磨き、美しい形を身につけることを学べ。そうすれば、わたしはあなたがたの働きを祝福し、その後、あなたがたがこの世で偉大な使命——すなわち、同胞たちをこの愛の道へと導くこと——を成し遂げられるようにする。

4. わたしはあなたがたの師である。しかし、わたしを父から切り離して見てはならない。なぜなら、わたしこそが父だからである。御子と聖霊との間に違いはない。聖霊と御子は一つの霊であり、その霊こそがわたしだからである。あらゆる時代を通じたわたしの啓示の中に、一つの神を見出せ。その神は、多種多様で異なる教訓を通じてあなたがたに教えを授けてきた。それは、多くのページを持つ一冊の本のようなものである。

5. あなたがたの行いによってわたしの御名を聖別しなさい。そうすれば、無知と罪の闇からあなたがたを解放する、その光を自分たちの内に見出すことになるだろう。

6. 民よ、あなたがたは、わたしの言葉によって形作られる前に、自分たちがどのような存在であったかを覚えているか。かつては、今日では到底行えないような、多くの恩知らずな行いを犯すことができたことを覚えているか。あなたがたは、今の自分の人生を、かつての人生と比較することはできない。かつて、あなたがたは孤独な地上の巡礼者であり、存在を喜びで満ちし、そこに希望を灯す光もなく、その道を歩んでいた。今日、あなたがたは私の教えの弟子であり、その愛の泉で渇きを癒やし、傷を洗い清めている。私の愛は、あなたがたの足に刺さった棘を引き抜き、もしあなたがたの十字架に釘が打たれているなら、私も同様にそれを引き抜いてあげよう。

7. 私はこの世界、そしてすべての世界の光であり、あなたがたにこの光を身にまとうことを望んでいる。私の言葉は癒しの香油である。それをもって癒やし、それを聞き、実践しなさい。一言一言が、命の泉の一滴である。なぜ、あなたがたは自分の中に神を宿しているにもかかわらず、病に伏し、苦しみ、泣いているのか。自らを省み、正すべきことは正し、清めるべきものはすべて清めなさい。私はあなたがたに言う。器を内側も外側も清めなさい。つまり、あなたがたの魂の意志と志が、物質的あるいは人間的な部分と調和しなければならないのだ。私はあなたがたの内なる姿——人々に隠しているが、私の前では隠せないその姿を——形作っている。もしあなたがたが、自分の顔が魂を忠実に映し出すような形で外見を整えるならば、その行動には誠実さと真実さが表れるだろう。人々が互いに信頼し合えない理由は、ある顔を世間に見せながら、もう一方の顔を隠しているからである。

8. 私の教えに従い、あなたがたの賜物を活用しなさい。

9. すでに自分の傷を点検したか。私が与えた癒しの薬を、その傷に注ぎ込んだか。

10. もし私の香油の効能を疑うなら、彼女たちを改めて治療しなさい。しかし、もし信じるなら、治療せずにそのままにしておきなさい。そうすれば、私の愛が彼女たちを癒やすのを目の当たりにするだろう。そして、あなたがたが彼女たちを探し求めた時には、傷はすでに癒えているはずだ。他の人々には、信仰と祈り、そして思考の力によって健康を取り戻せるよう、私が許してやる。大勢の霊的存在たちがやって来て、その力とエネルギーを一つにまとめ、あなた方を「油注ぎ」し、あなた方は彼らの助けを借りて癒やされるだろう。

11. わたしの言葉は必ず成就する。「あなたがたの信仰と功績が、あなたがたを救うであろう。」なぜなら、その後、あなたがたが健康を取り戻したとき、わたしはあなたがたを戦いの場へと送り出し、人生における至高の目標、すなわち隣人への愛を達成させるからである。

他者にとっての光となることを、喜ばないだろうか？ あなたの言葉に真実の真髓が宿ることを、喜ばないだろうか？ 慰めを求めてあなたの元を訪れる人々を導く何かを持つことを、喜ばないだろうか？ なぜなら、もしあなたがそれを喜ぶなら、それを実行できるからだ。多くのことは、それを達成しようとするあなたの善意と努力にかかっている。残りのことはすべて、私が成し遂げる。

12. 霊的な人は言う。「人生とはなんと美しいことか！」一方、世俗的な人、物質主義者は言う。「人生とはなんと苦く、悲しく、そして暗いものか！」

高尚な精神を持たない人は、何事にも苛立ち、あらゆることに傷つきます。精神的に高みにある人は、道のりの逆境にさえ気づきません。高潔な知性が他者に関心を向けるのは、他者の美德を称賛するため、あるいはその過ちを弁解するためであり、決して裁いたり非難したりするためではありません。低俗な精神の持ち主は、他人を裁き、中傷し、過ちを広め、それに喜びを見出す。

13. 裁きを行い、他人の事柄に干渉する者たちよ、私は問う。あなた方の罪の重荷は、あまりにも軽く感じられるのか。それゆえに、他人の罪をさらに積み重ねることに喜びを見出しているのか。もしあなたが自らの重荷から解放されないのであれば――なぜ、他人の重荷を加えてさらに増やすのか。なぜ、他者の光に喜びを見出すためにその中に宝石を探す代わりに、自らを汚すために汚れに執着することを好むのか？

14. 父の家には多くの住まいがある。しかし、高い霊的な領域に住む者たちは、人々がその重荷から解放されるのを助けたり、あるいはその重荷を背負うのを助けたりするが、彼らを裁くことも、その悲惨さを喜ぶこともない。

15. 私は、ある日はあなたがたが冒瀆し、次の日には悔い改めるのを見てきた。また、私の啓示を否定しておきながら、その後でそれが真実であると証言するのを見てきた。ある日は中傷し、翌日にはその中傷したものを擁護する姿も見てきた。過ちを正すことは確かに良いことだが、正す必要がなくなるよう、二度と悪い行いをしないほうが、なお良いことである。

ある日、私はあなたがたが、それを必要としていない者に施しをするのを見ました。また、真に貧しい者に対しては施しを拒むのを見ました。しかし、私はあなたがたを非難したり、裁いたりするつもりはありません。私は、あなたがたがもはや罪を犯さないよう、私の教えの光をもって、あなたがたを照らすためにやって来たのです。また、私はあなたがたが助け合い、寛大で、慈善に満ち、思いやりのある姿を見ていることもお伝えしておこう。そして、それらの功績は、私によって常に考慮され、評価されてきたのだ。しかし、あなたがたの心の中には、すでに雑草よりも小麦の方が多いべきであることを理解してほしい。

16. 感情を込めずに、ただ機械的に唇を動かすだけで祈ってはならない。言葉を発することなく、心を込めて祈りなさい。かつて偽

りの誓いを立て、むなしい誓いを交わしていたあの軽率さを、今日、真実を語るために用いなさい。

17. 他人のものを奪ってはならない。他人のものを手に入れた者は、苦痛と恥を伴ってそれを返さなければならない。私は誰かを指差すわけではないが、一人ひとりが私の言葉の中から、自分に当てはまる部分を受け止めてほしいと願っている。

18. あなたがたが無知、未熟さ、そして物質主義という闇の中を歩んでいた頃に犯した行いについて、私はあなたがたを非難したり、責任を問ったりはしない。しかし、今日、あなたがたが私の律法とは何かを完全に理解しているにもかかわらず、許されないこと、不浄なことに固執し続けるならば、あなたがたは自らの行いについて、神の前で責任を問われることになるだろう。神は、あなたがたの良心の中で、容赦のないお方として現れるであろう。

19. あなたがたは皆、わたしの種であり、主はそれを刈り取る。良き種の中に雑草の種が混じったとしても、わたしはその種をも慈愛をもって手に取り、黄金の小麦へと変えるのである。

20. 私は、あなたがたの心の中に、雑草や泥沼、罪、憎しみの種を見出している。それでもなお、私はあなたがたを刈り取り、愛している。その種が、太陽の下で小麦のように輝くようになるまで、私はそれを慈しみ、清めていく。

21. 私の愛の力が、あなた方を救い出すことができないとでも思うのか。私はあなた方を清めた後、私の庭に蒔き、そこであなた方が新たな花を咲かせ、新たな実を結ぶようにする。あなた方を私にふさわしい者とすることは、私の神聖な使命の一部である。

22. 私は、あなたがたを喜び、あなたがたの心と語り合うためにやって来る。私の臨在は、私があなたがたに託した使命を果たせるよう、あなたがたに力を与える。

23. しかし、あなた方は——人々の痛みを感じないのか？ 良心の光の代わりに、死がこの世の罪をさらっていくのを見て、悲しみを感じないのか？

24. 第三の時代のイエスの弟子として、あなたがたは、私の言葉を聞き、私から学んだ者たちの一員である以上、非常に大きな使命を果たさなければならない。

25. 人々は科学を通じて、同様にあの世との交信を求めていることを知れ。もし、それらがあなた方を目覚めさせることを望まないのであれば、私の教えを証しするために立ち上がれ。

26. 私の存在を度々否定してきた科学者でさえ、自然のあらゆる側面を研究し、大地や海、宇宙を探求しているが、その一步一步の歩

みの中で、彼は私と出会っている。なぜなら、彼が成し遂げるあらゆる発見からは、私が全創造物を創造したその愛が語られているからである。

27. あなたがたは、私の光がすべての同胞に届くよう、また、原子から最大の星団に至るまで、すべての被造物が生命、糧、幸福、そして完全さを生み出すために定められているという理解に彼らが至るよう、多くを語らなければならない。

28. 無知な者たちが私の教えに不完全さを見出さないよう、その教えを完璧な形で広めなさい。善き種を蒔けば、あなた方から生まれる子孫たちは、あなた方の過ちによって苦しむこともなく、苦痛を遺産として受け継ぐこともないだろう。

29. わたしは、あなたがたから、至る所に祝福をもたらす、清く健全な種が芽生えることを望む。

30. 人生の道を、模範となる善行で彩りなさい。わたしの教えを歪めてはならない。その点において、「第二の時代」のわたしの使徒たちを模範としなさい。彼らは、わたしの教えを説き、解説するために、決して目に見える偶像崇拝に陥ることはなかった。人類がその後陥った偶像崇拝の責任を、彼らに負わせることはできない。彼らの手は決して祭壇を築くことも、霊的な神への礼拝のための宮殿を建てることもなかった。しかし、彼らは人類にキリストの教えをもたらし、病人に健康を与え、貧しい者や悲しむ者たちに希望と慰めをもたらし、そして彼らの師のように、道に迷った者たちに救いへの道を示したのだ。

31. あなたがたが今日知っているキリスト教は、私の使徒たちが実践し、教えた教えの、ほんのわずかな反映にさへ過ぎないのだ！

32. もう一度言うておくが、あなたがたは、あの弟子たちの中に、謙遜、愛、慈悲、そして高潔さの完全な模範を見出すことができる。彼らは、自らの口から語られた真理を、自らの血をもって確証したのである。

33. 人類は、もはやあなたがたの証言を信じるために、あなたがたに血を要求することはないだろう。しかし、彼らはあなたがたに真実さを求めるだろう。

34. わたしの教えは、常に人々に物質主義的になってはならないと説いてきた。しかし、それは決して、あなたがたに地上の財産を軽蔑するよう教えるものではない。わたしはあなたがたに言う。この地、その驚異、その美しさ、その喜びを、わたしが創造したすべてのものを愛すべきその愛をもって愛しなさい。しかし、必要であればすべてを拒む覚悟を持ちなさい。そして、あなたがたの魂はこ

の世に一時的に留まっているに過ぎず、かつて去った世界——魂が靈的に平安を渴望するその世界——へと戻らなければならないことを忘れてはならない。

35. 今日、あなたがたは心の底から、わたしにより良く仕えるために、物質的な生活を軽んじ、地上で愛するすべてのものを忘れてしまうべきかどうか、わたしに尋ねている。それに対して、わたしはこう答える。もし、わたしがそのようなことを言ったと信じる者がいるならば、その者は誤りに陥っており、わたしの教えを理解していないのだ。

36. 私が子供たちの生計のために自然を創造したにもかかわらず、どうして私が物質的な生活が提供するものをあなた方から奪うなどと考えられるだろうか。私が創造したもののうち、あなた方に敵対するものは何一つない。だから私がそれを禁じることはない。しかし、すべてを節度を持って用いなさい。私が、放蕩や物質主義から背を向けるべきだと言ったとき、私が常に言及していたのは、低俗な情欲、悪徳、恥知らずな行い、あるいは有害で悪しきものの使用についてであった。

37. 今日、私が教えについて詳しく解説するにあたり、魂や肉体を支配する法則に反して行うすべての行為は、その両方に害を及ぼすということを、あなたがたに理解させなければならない。

38. 良心、直感、そして悟りこそが、あなた方に安全な道を示し、転落を避けるように導く道しるべである。これらの光は靈に属するものだが、それを輝かせる必要がある。いったんその明晰さがあなた方一人ひとりの内に宿れば、あなた方はこう叫ぶことになるでしょう。「父よ、あなたの救いの種が私の存在の中で発芽し、あなたの御言葉がついに私の人生の中で花開きました。」

39. わたしは、あなたがたの心を偉大な業へと駆り立てるために、偉大な思想をあなたがたに吹き込む。しかし、まことに、わたしがあなたがたに告げる。この教えは、この民だけに留まることはない。なぜなら、スピリチュアリズムは世界的なものである。聖霊の教え、すなわち啓示は、ある一つの民のためだけでなく、すべての人々のためのものである。

40. すべてを巻き込んで流れ去る激流のように、スピリチュアリズムを信じる大衆が形成する大波となるだろう。その勢いは圧倒的であり、誰もそれを止めることはできない。そして、その流れの進路に障害物として立ちはだかろうとする者は、その流れに飲み込まれてしまうだろう。

41. この地上に、魂の進化や神の御計画の成就を阻止する力を持つ者がいるだろうか。誰もいない。絶対的な力と正義を持つ唯一の存在は、あなたがたの父であり、父はすべての魂が完全性へと歩みを進めるよう定められたのである。

42. もし人々が私の神聖な律法を短期間でも無視したとしても、私は、霊的な生命において死んでいる者たちでさえも、私の声が大きな鐘の音のように聞こえるよう、確実に仕向けるであろう。

43. この民の声もまた、人々の心の中で、目覚めさせ、祈りと瞑想へと招く鐘の音のように響き渡るだろう。しかし、あなたがたの行いが人類の中で真の模範として輝きを放つためには、謙虚さを身にまとい、心を隣人愛で満たすことが必要である。

44. 自分自身を愛することをやめ、他者を愛し始めなさい。自分の名声を求めるのではなく、ただ自分の行いが清らかであることにのみ心を配りなさい。そうすれば、あなたがたは不滅の世界へと入っていくであろう。まことに、わたしはあなたがたに告げる。謙虚さをもって種を蒔く者は、この世に自らの歩みの朽ちることのない痕跡を残すであろう。それに対し、わたしの業において、世の称賛や名声を渴望して働く者は、その行いがすぐに忘れ去られ、その名が三代目にはもはや知られていないことを経験することになるであろう。

45. わたしはあなたがたに、美しい使命を託したが、それは同時に果たすのが難しいものでもある。しかし、それゆえにあなたがたの力を超えるものではない。なぜなら、実行のために各人に割り当てられているのは、ほんの一部に過ぎないからである。

46. 人類の救いは、たった一人の人間によっても、ましてや一つの民族によっても成し遂げられるものではない。私が、その血をあなたがたに与え、それによって私の愛を表現した者であり、この時代に人々が立ち上がり、キリストが教えた道を求めるよう導く者である。

47. 常に目を覚まし、祈り続けなさい。今こそ、闇の力と混乱の力が解き放たれ、闇の軍勢が人々を取り囲み、動揺させている時だからである。

48. わたしの啓示があなたがたのもとでなされたのは、あなたがたの魂を癒やし、解放し、刷新し、光へと高めるためであり、また、あなたがたの魂に偉大な知識を啓示し、人々が理解していない秘密を説明し、さらに、あなたがたに隠されていたものを明らかにするためであることを、完全に理解しなさい。

49. 本質と永遠の命に満ちたわたしの言葉を心に留め、あなたがたの中にわたしの力を感じなさい。心配する必要はない。わたしはすべてを知っている。あなたがたの苦しみの最後の一片でさえ、わたしの前にあるのだ。

50. わたしの正義が、あなたがたの事柄を引き受ける。わたしはあなたがたの涙をぬぐい、人生においてそれに寄りかかることができるよう杖を差し出し、あなたがたが師から油を注がれ、愛されていると感じられるように、額に口づけをする。

51. 道の小さな小石を恐れてはならない。傷つくことなくそれらを乗り越えることを学べ。それは、人間生活の惨めさを超えて生きることに他ならない。

52. 諸国民のために、その信仰と慈愛をもって祈りなさい。そうすれば、あなたがたの働きかけが周囲の人々に感じられるようになり、あなたがたは、私の愛の外套が皆を包み込んでいるのを感じるでしょう。

53. 私があなたがたの魂の成長のために与えてきたあらゆる時間の中で、あなたがたはますます多くの光を得てきました。

54. この光こそが、あなたの知性と感情を照らすものである。

55. あなたがたが地上に来る前から、私はすでにあなたがたの生き様や性向を知っていました。そして、あなたがたの人生の旅路を助けるために、私はあなたがたの道に、その愛によって道を照らす心を置きました。その心は、男性のものであり、女性のものでありました。それによって、私はあなた方に助けを与え、それを必要とする者たちにとって、信仰と道徳的な力、そして慈悲の支えとなる存在になってもらいたかったのです。

56. あなたがたは、私の到来について率直に語るために口を開くことを恐れており、心の中では、善を行いたいという願望と、拒絶されるのではないかという恐れとの間で葛藤が生じている。それゆえ、あなたがたは、私から授かった賜物や使命を隠して過ごすことを選んでしまう。しかし、子供たちよ、あなたがたが持つ賜物を隠すことは、私を否定すること、そして自分自身の発展を否定することに他ならないことを忘れないでほしい。

57. 私を信じてほしい。もしこの民が団結し、信仰と勇氣に満ちて、言葉と行いによってこの福音を広めるために立ち上がっていたなら、私が今、人々に自らを現しているという知らせは、すでに地の果てにまで届いていたはずである。

58. もしあなたがたがまだ弱さを感じているなら、私はこう言います。食べ、飲みなさい。私は、あなたがたの中に飢えや渇きがあるのを見たくはないのです。

59. わたしの御心に従いなさい。そうすれば、あなたがたが心の中にわたしの愛を感じ、来世の平安を、そこを通り抜けてわたしの御顔を見るよう招く扉として予感するとき、報いはすぐに訪れるだろう。

60. わたしは、あなたがたすべてに、祈りの中で魂を高揚させることを教える。すでにこの恵みによって心を活気づけることができる者もいれば、過去の印象が心に深い痕跡を残しており、宗教的な慣習や伝統を忘れ去ることができなかったために、まだそれができていない者もいる。しかし、すべての者が、自らの礼拝行為の浄化、刷新、そして魂の高揚のために尽力している。

61. 人間の知性を通じて私の臨在を信じた者たちは幸いである。彼らは確かな歩みで、霊と霊との対話の時へと踏み込むことになるからだ。

62. あなたがたは、人生における休息として必要な慰めと温もりを得るために、わたしに近づいてきた。なぜなら、人生とは、大きな試練によって魂を鍛え上げる金床のようなものだからである。しかし、あなたがたの運命に対する信頼は深く、この試練の炉から、戦いに備えて清らかな姿で立ち上がることを知っている。

63. 日々、あなたがたの霊的な祈りがわたしのもとへ届いている。その言葉は、あなたがたの地上の性質には理解できないものである。なぜなら、それはあなたがたの唇から発せられた言葉でもなければ、あなたがたの知性によって形成された概念でもないからだ。霊の祈りは極めて深遠であり、人間の能力や感覚の域を超えてい。

64. その祈りの中で、霊は高次の霊たちが住む光と平和の領域へと至り、そこでその本質を存分に吸収し、その後、その儚い肉体へと戻って、そこに力を注ぎ込むのである。

65. 今こそ、人間が自らの魂を解放し、長い間魂を縛りつけていた鎖が断ち切れ、真の平和が心に満ちてくる時である。

66. あなたがたも、自分たちと同じように、私の神性から託された使命を果たすために旅立つ者たちと戦わないよう、心を研ぎ澄ませなさい。そうして、真の預言者と偽りの預言者を識別し、前者の業を肯定し、後者の業を打ち砕くことができるように。なぜなら、今こそ、あらゆる勢力が戦いに立ち上がった時だからである。善が悪と戦い、光が闇と戦い、知識が無知と戦い、平和が戦争と戦っている様子を見よ。

67. あなたがたは今、聖霊を受け入れる準備ができており、眠っている者を目覚めさせ、境界線や制限を取り除き、すべての人類を愛によって結ばれた一つの家族とする光を見出させるのである。

68. わたしは、最後の日に、すべての弟子たちと「子供たち」がわたしの声を聞き、人類を代表して彼らを迎え入れたいと願っている。わたしの腕は広げられるだろう。しかし、あの「第二の時代」のように十字架の上でそうなることは望まない。わたしは、人間を通じた神の御霊の啓示が完結するその瞬間に、愛の抱擁であなた方を包み込みたいと願っている。

70. 魂の命において死んでいる者たちでさえ、響き渡る鐘の音を聞く時が来た。

71. この時代にわたしが選んだ者たちのうち、霊的な賜物によって自分こそが他者より優れていると思い込み、傲慢になってはならない。なぜなら、あなたがたは未だ、ヨハネに匹敵するほどではないからだ――わたしが、「彼は預言者の中で最も偉大であったが、天の御国で最も小さい者よりも劣っていた」と語ったあの者である。

72. あなたがたの兄弟姉妹である父の子供たちを愛することで、父のために生きなさい。そうすれば、不死を得ることになる。もしあなたがたが利己主義に陥り、自己愛に閉じこもってしまうなら、あなたがたが残した種は、あなたがたの記憶を長く残すことは難しいだろう。

73. 心から柔和で謙虚でありなさい。そうすれば、あなたがたは常にわたしの恵みに満ちているでしょう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 257

1. あなたがたは静まり、その思いは父のもとへと向かっている。
2. 「ようこそ」と、師は言います。あなたがたは安らぎ、平和、あるいは慰めを求めており、私を聞くに至りました。なぜなら、あなたがたが必要とするすべてのものを備えているのは、他ならぬ私だからです。
3. もしあなたがたがイエスの言葉の真意を求めているなら——まことに、あなたがたに告げよう、それさえもまた見出すことになるだろう。
4. イエスの言葉は、神聖な「御言葉」の声でした。イエスはキリストの体の名でした——その体は、私の霊を宿し、私の言葉によって真理を明らかにするための神殿のようなものでした。
5. しかし、もしあなたがたがわたしを信じ、わたしを愛し、わたしに従うならば、あなたがたがわたしを指すために持っている数多くの名の中から、どの名を与えるかは重要ではない。重要なのは、あなたがたがわたしを感じることである。もっとも、わたしはあなたがたに、それを完全に成し遂げることを求めているわけではな。
6. 自分の魂の受容力が許す限り、自らの内なる存在の中でわたしを感じる事ができる者は、幸いである。
7. ある人たちは胸が高鳴り、またある人たちは私に何かを伝えようとしても、思考をまとめることができない。さらに、泣きたい衝動に駆られて涙を溢れさせる者もいれば、鋭い視線に見つめられていることを知って恐怖に圧倒される者もいる。
8. 自らを整え、わたしの臨在を感じる事ができる者たちこそ、恵みのパンを食べるために、真に霊的な食卓に近づく者たちである。彼らは、教えから教えへと、いつの日か知性や人間性を超越し、わたしの言葉の真意に深く入り込み、そこにその霊的な本質を見出すことになる魂たちである。
9. これらの人々こそが、慈悲の実践に身を捧げる者たち——すなわち、平和の使者となる者たちである。彼らは平和の源を見出したからであり、不和や争いの只中に生きる者たち——それは魂にとって真の闇である——を見つめる時、苦しみを感じるだろう。彼らは、慰め、励まし、暗く曇った知性の器官に光をもたらし、肉体的あるいは精神的に病む人々を癒やすために生きる者たちとなるでしょう。

10. わたしの臨在を感じ、わたしの言葉の真意と愛を魂で捉える者だけが、後に苦しむ人々に対して同情を抱き、人々の痛み、無防備さ、貧しさ、そして悲劇を同様に感じ取ることができるのであ。

11. わたしがあなたがた全員をわたしの食卓に招き、靈的にわたしの臨在を味わう準備をするよう促したのは、あなたがた全員が天の国の御馳走を味わうよう定められていることを示すと同時に、あなたがた全員に、不和が生い茂った野原に愛の種を蒔き、また、悪徳や悲惨、無知が潜むあらゆる場所を光で満たすという使命があるのだ。

12. この教えを受けるのは、あなたがたへの限りない愛ゆえに、すべてを捨ててあなたがたを闇から救い出すために、人間となり、迫害を受け、嘲笑され、ついには十字架の上で死ぬことさえ厭わなかった方である。

13. 弟子たちよ。あなたがたがこの世に最初の歩みを踏み出す前から、私はあなたがたの人生、行い、そして思いを知っている。それゆえ、これから始まる人生の旅路において、あなたがたに必要なものはすべて、私が与えておくのだ。

14. 魂は、その身体を通じて試練の時期を迎えます。しかし、魂はすでにあらかじめ悟りを開き、強さを身につけており、この世が提示する誘惑に惑わされることはありません。

15. 時には、心に大きな反抗心を抱く人間の中に宿ることがあり、その場合、その魂にとって自らの光を現すことは困難に思える。その心こそが、魂にとって人生における試金石であり試練となる。もし魂が、その心を制し、「肉体と魂が調和して初めて、人は平安を見出すことができる」と納得させることができれば、魂はその試練に合格し、より高次の世界を望むことができるようになる。

16. もし心が人生の苦しみや不運に対して弱く、神を冒瀆するようになってしまうならば、それは魂が苦しみによって打ち負かされてしまったからであり、物質のレベルにまで堕ち、本来自分には与えられていなかったあらゆる苦難や無意味さを自分のものにしてしまったからである。

時機を逃さず正気に戻り、祈り、信仰によって自らを強める者は勝利を収めることができ、その試練から得た経験という実りを手にすることで、今後失敗したり弱くなったりすることはなくなるだろう。それに対して、たとえ短期間であっても自らの本質を忘れ、この世のために生き、苦しむことに甘んじる者は、物質の力、苦難、誘惑、そして人間生活の惨めさに打ち負かされ、墮落してしまうだろう。

17. ああ、もしあなたがたが、この地上での最初の歩みを踏み出したその日から、両親の口から、賢明で、力を与え、慰めとなる教えを聞くことができたなら――それは、魂が知性と心を神へと高めるために、どれほど大きな助けとなることか。

18. 人間が良心の声に従って生きるためには、深い精神的指導が必要である。なぜなら、万物は神の愛に満ち、人間の幸福と喜びのために賢明に創造されているとはいえ、この世で人間を取り巻く物質は、魂が本来属さない世界に身を置き、自らの本質とは異なる性質を持つ肉体と結びついたその瞬間から、魂にとっての試練となるからである。

19. これこそが、魂が自らの過去を忘れる理由である。魂が、生まれたばかりの無自覚な存在に転生し、それと融合したその瞬間から、その身体と密接に結びついた人生が始まる。精神のうち、残るのは「良心」と「直感」という二つの特性だけであり、しかし、人格や成し遂げた行い、そして過去は、しばらくの間隠されたままとなる。それは父が定めたことである。高き故郷の光から、この世の悲惨な状況の中で生きるためにやって来た魂が、もし自分の過去を思い出してしまったら、どうなるだろうか？そして、別の人生においてその魂の中に存在していた偉大さが人々に明らかにされたら、人間たちの間にどれほどの虚栄心が生まれるだろうか？

20. 魂は、長く、時に過酷な試練にさらされることになるため、地上に転生する前に徹底的な準備を受けることを知っておくべきである。しかし、その準備のおかげで、魂はこの生に足を踏み入れる際、動揺することはありません。魂は新しい存在へと目を向けるために過去への目を閉じ、こうして、この世に降り立ったその最初の瞬間から、来た世界に順応していくのです。それとは対照的に、魂が肉体とこの世を離れた後、霊界の入り口に立つ際の態度は、いかに異なることか。故郷へ帰るための真の準備が与えられていなかったため、魂は混乱し、物質体の感情にまだ支配されており、何をすべきか、どこへ向かうべきかもわからない。これは、最期の瞬間にこの世界に対しても目を閉じなければならないことを学ばなかったことに起因する。なぜなら、そうして初めて、魂はかつて去った霊界に向けて再び目を開くことができるからだ。そこでは、魂の過去のすべてが、新たな経験と融合することを待ち受けており、過去のすべての功績が新たな功績に加算されるのである。

21. 彼女が光を取り戻そうとする間、その思考能力は濃いベールに包まれている。彼女が置き去りにしたあらゆるものからの執拗な影響が、彼女の精神の波動を感じることを妨げている。しかし、彼

女の影が消え去り、真の本質と一つになろうとするその瞬間——なんと大きな動揺、なんと大きな苦痛であろうか。

22. このメッセージを聞いたり読んだりした後、それを無益な教え、あるいは誤った教えとして拒絶する者がいるだろうか。私はこう言おう。極度の物質主義や、盲目的で教訓を受け入れない状態にある者だけが、その魂が深く揺さぶられることなく、この光を拒絶することができるのだ。

23. この時代において、私は人間にその魂の過去を明かすことはないが、それでもなお、その魂はかつてすでに生きていたこと、地球上で崇高な使命を果たすためにやって来たこと、そして故郷へ帰らなければならないことを保証する——ただ汚れのない状態で帰るだけでなく、持ち込んだのと同じ光さえも持たずに、それよりもさらに大きな光を携えて帰らなければならないのだ。

24. 地上に宿る魂たちよ。わたしの臨在を感じ、あなたがたに注がれる神聖な光を見よ。あなたがたの父には、その光線と靈感をお前たちに届けるための多くの手段がある。しかしそれ以上に、わたしは人間の知性という器を通して明らかにしたこの言葉を、あなたがたに届け、あなたがたがそれについて深く考えることができるように送っているのだ。それは、あなたがたの砂漠における命のマナであり、あなたがたの存在の不毛さに降り注ぐ恵みの露であり、あなたがたの痛みにおける癒しの薬であり、あなたがたの間における果てしない光である。

25. これを聞く者たちよ、そして私の啓示の証人たちよ、心を動かされなさい。全人類に私の神聖なメッセージが届くよう、準備を整えなさい。

26. 私の限りない慈悲は、あなたがたすべてを受け入れる用意がある——疲れ果てて泣きながらやって来る者も、真の信仰を持たずに私の声を聞こうとやって来る者も、そして良き弟子として、使命を果たした成果を私に捧げようと切望してやって来る者も、すべてである。

27. 私は、あなたがたが不安と混乱の時代に生きているからこそ、あなたがたの魂を探し求め、それを光で満たそうとする父であ。

28. 私は人類に、真の慈悲、霊的な有益さ、そして高揚をもたらす行いを実践するよう促す教えをもたらす。それによって、人々は後世の人々の記憶に留まり、彼らから祝福され、模範とされるようになるのだ。真理を含む行いの痕跡のみが、この世において不滅となる。なぜなら、裁きの時が近づいているからだ。その時には、真

理の土台に築かれていないあらゆる行いは破壊され、その行いからは石一つ残らない。

29. 弟子たちよ、あなたがたが人々の心に種を残したいと願うならば、その種はあなたがたの行いと模範——虚栄のない行い——によってなされるべきであることを、私は告げる。道を歪めたり、道を踏み外したりしないためには、あなたがたは、その業があなたがたの霊に刻まれているキリストの謙虚な僕であり、従順な弟子でなければならないことを、常に自覚しなさい。

30. そこには、数多くの嵐や暴風雨にもかかわらず、私の模範となる行いが、永遠に、消えることなく存在している。

31. 民よ、この時代の人間の苦難から、わたしの言葉があなたを守ってくれたことを悟っているか。それならば、あなたがたもまた、隣人に対して同じことをしなければならないことを知れ。

あなたがたの心は私にこう告げている。「主よ、あなたは私たちに賜物と恵みをお与えくださいました。どうして私たちが隣人に対して同じことをできるでしょうか？」それに対し、私はこう答える。たとえあなたがたが霊的な賜物を授けたり、恵みを施したりすることができなくても、あなたがたの口から私の教えを聞くとき、隣人たちが自らの賜物や能力が目覚めるのを感じ、父とつながることを学ぶ中で、インスピレーションを通じて果たすべき使命を受け取るように導くことはできるのだ。そうすれば、あなたがたの使命は、十分に偉大で、称賛に値するものだと感じられないだろうか？

32. 弟子たちよ、言うておくが、もしあなたがたの行いがわたしの前で価値あるものとなることを望むなら、その行いの見返りとして、周囲の人々から何も求めてはならない。

33. 第三の時代の神聖なマナがこの民の上に降り注いだのだ——それなのに、どうしてあなたがたは、光の子らから、闇と冒涇と不従順の子らへと変貌することができるだろうか。わたしの啓示の受託者として任命されたあなたがたが、どうしてこの地上で惨めな存在となることができるだろうか。

34. 誘惑に陥らないよう、また、恐れや利己心から、誰に対しても自分の賜物を隠さないよう、私は常に「目を覚まし、祈りなさい」と告げている。なぜなら、あなたがたは、自分の旅の荷物の中に、自分たちのものではない多くの賜物を携えていることを理解しているからだ。私は、あなたがたがそれらを隣人に分け与えるために、それらをあなたがたに与えたのである。

知っておきなさい——たとえどれほど多くのものを所有していても、もしそれを誰にも分け与えなければ、それは何も持っていない

のと同じことなのだ。それゆえ、私はしばしばあなたがたを問いただしてきた。あなたがたは私からこれほど多くのものを受け取っているにもかかわらず、何も与えず、私の愛の言葉を蒔くこともなかったために、空っぽの手を差し出して私の前に現れるからだ。

35. まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが使命を果たすための励ましを必要とするなら、真の隣人愛の行いを実践しなさい。なぜなら、わたしの教えを実践する中で、あなたがたは励ましと報いを見出すからである。

36. わたしから憐れみを期待しながらも、その道を歩む中でそれを実践しない者たちは、隣人に対しても、自分自身に対しても、憐れみを持ってこなかったのだ。彼らは心を冷めさせ、自らの灯を消してしまった者たちである――巣から落ちてしまった弱々しい小鳥のようであり、あるいは秋に木から落ちて、風によってあてもなく吹き回される枯れ葉のようである。

37. もしかすると、あなたがたは、私が罪深い被造物を通じてこの啓示を伝えているという事実を理由に、私の啓示を非難するかもしれない。彼らは確かに清らかな存在ではない。しかし、私にお答えいただきたい。これらの人間の唇を通して語られた私の言葉が、あなたがたの心に何らかの共鳴を呼び起こさなかったのか、あるいはその甘美さが、あなたがたの心に抱えていた苦味を、いかなる機会においても取り除かなかったのか、と。

38. 男性たちよ、あなたがたは傷ついた心、乱れた精神、引き裂かれた魂を抱えてここに来たことを思い出してください。そして、わたしの言葉を聞いた後、力を得て立ち上がったことを。これまで、誰があなたがたにそのようなことをしてくれたことがあったでしょうか。

39. 女性たちよ、あなたがたは、涙に疲れ果てた目と心を持ってここへやって来た。しかし、もう涙は枯れたと思ったその時、私の言葉を聞き、頬は再び涙で溢れ返った。だが、今やそれは希望と感動の涙であった。あなたがたが私の声を聞くその日以前、誰があなたがたの心の奥底にまで届いたことがあっただろうか。

40. この教えは、それが空虚な言葉ではなく、神聖な本質に満ちていることを、あなた方に証明した。それゆえ、その形式は簡素である。その深遠さと真意は、その言葉そのものに根ざしているからである。

41. わたしがあなたがたの苦難を慰めるために来たのと同様に、あなたがたの魂に光を与えるためにも来たのである。なぜなら、あ

らゆる闇の勢力がその深淵で解き放たれ、激しく渦巻いているからであり、あなたがたは自らを守る術を知っておく必要があるから。

42. 再びあなたの灯をともし、心の中に愛を呼び覚まし、永遠の命に心を向け、あなたの魂に憐れみを抱きなさい。そうして初めて、あなたは隣人に対して思いやりを感じ、あなたの人生のほんの一部を愛の行いに捧げることができるのです。

43. あなたがたの「宝」を大切にし、それを他者と分かち合い、その中に含まれるすべてのものを常に善用しなさい。そうすれば、あなたがたの中に、これまで経験したことのないような力、健康、そして光が生まれるだろう。この力、この光、そしてこの健康は魂から生まれ、肉体の中に反映されるのだ。

44. 人々よ、あなたがたはもはや、やみくもに光を求める旅人ではない。あなたがたはすでにそれを見つけたのだ。

45. この言葉は、あなた方を生へと目覚めさせるという奇跡を成し遂げた。それは、あなた方を立ち直らせ、癒やした力そのものである。あなた方の本質において、私の力にしか帰せられない変容を経験したにもかかわらず、どうしてこれが神に由来するものではないと、誰があなた方を説得できようか？

46. 今、あなた方には、人生を改善し、人々に役立つ存在となり、霊界において魂のためのふさわしい住まいを築き上げる、素晴らしい機会が与えられている。一体誰が、この機会をあなた方から奪い取ることができるだろうか？—あなたが警戒と祈りを忘れ、その怠慢によって誘惑に負けて墮落してしまう場合を除けば、誰もできない。

47. もしあなたがたが平安のうちにあり続けたいと願うなら、私の教えによって予告された大いなる出来事が起こる時が来ても、自らの決意に忠実であり続けなさい。

48. やがて、主要な教会の指導者たちが神の存在を感じ取り、新しい時代の到来を認識する時が来るのを、あなた方は目撃することになるでしょう。

49. 彼らの虚栄心が、一時的に互いに自分たちが優れていると信じ込ませるものの、彼らが互いに協議し、意見を求め合い、提案し合う姿を、あなたがたは目にするようになるだろう。

50. この闘争の時代は、あなた方の魂にとって忘れがたいものとなるでしょう。なぜなら、その過程において、魂は物質主義を克服し、信仰、愛、そして神への霊化の道を登りつめたいという渴望を強めることに成功したからです。

51. 霊性追求者の知性と心は、その高次の存在の喜びを分かち合うことになり、彼らに命がある限り、魂と共にその崇高な使命の遂行に協力し続けるだろう。しかし、大地の懷で安らぐ時が来れば、彼らは、主の御業に従事できたという満足感と平安をもってそうするでしょう。そして、その人の最期の思いや最期の鼓動は、謙虚で高潔であり、神の戒めに従順であった肉体に住まっていた者の魂に、消えることのない形で刻み込まれるのです。

52. 私が、あなたがたに、この地上で自分の体を魂の杖、支えとすべきだと告げている理由を悟りなさい。その際、私は、あなたがたに、肉体が魂を服従させようとしてきたその笏と権力を、肉体から奪い取らなければならないことを明らかにした。魂は——良心に導かれて——人間の生活における唯一の舵であり、唯一の光であるのだ。

53. わたしは、あなたがたの理解力に合わせて語ってきた。それは、わたしの言葉のいかなる意味もあなたがたに理解できないようなことがあってはならないと願うからである。また、各グループ、人々の集団、あるいは集まりごとの準備状況に応じて、わたしが自らを現す形も異なることを、あなたがたに告げておく。

54. すべての魂は、その父に対して大きな義務を負っている。あなたがたへの私の愛ゆえに、私は地上において、あなたがたが私の御前で自らの行いを正当化し、霊的に償い、清められ、次の住まいへと進むことができるよう、この新たな機会を与えたのである。

55. ああ、祝福された第三の時代よ！ あなたは、その「契約の箱」の中に、世界が束縛から救われるために必要なすべてのものを携えている。あなたの光を利用する者たちは幸いである。彼らは救われるからである。

56. わたしは、あなたがたの魂の成長の道のり全体を通じて、あなたがたを導き、試練を与え、この時代の啓示に備えさせてきた。新しいイスラエルの民を形作るのは人間ではなく、私がそれを形成し、清め、高め、その使命を果たすために人類の中に送り出すのである。その間、この民は成長し、前進するために障害を打ち破っていく。私がイスラエルをエジプトから導き出し、海と荒野を通り抜けて導いたときも、まさにそうであった。

57. この民には、人類を霊的に目覚めさせるという使命がある。しかし、彼らがその使命を果たし、人々が自分たちが生きる時代を自覚するようになったとき、あなたがたは、彼らの心に光への渴望が、そして彼らの魂に高揚の理想が湧き上がるのを見るだろう。そ

れは、人間の生活をその根源から揺さぶり、世界を変容させることになる。

58. その時、良心は聞き入れられ、従われるようになるだろう。霊によって召された者たちは理解され、霊的な渴望と権利は考慮され、尊重されるようになる。そして至る所で、神を知り、神を感じ、神に近づき、神の真理を仰ぎ見たいという渴望が輝き出すだろ。

59. これらすべては、人々の飢えと渇きが耐えうる限界まで達し、彼らの誇りが打ち碎かれ、悔い改めつつ主の前に罪を告白し、彼らが、私を否定しようと試み、私を裁き、否定してきたその玉座や豪華な座から降りたときに、人々の内に湧き上がるであろう。これは、彼らが自らの過ちを悔い改め、私へと目を向け、何世紀にもわたって彼らを待ち続け、愛を注ぎ尽くそうとしてきた父に対して、子供たちがそうするように、私に語りかけるようになるためである。

60. 人間は、ついに万物を創造された御方を否定するに至るまで、いかに深く唯物主義の深みへと沈んでしまったことか！人間の知性は、どうしてこれほどまでに暗黒に覆われてしまったのか？なぜ、あなたがたの科学は、私を否定し、生命と自然を貶めるようなことをしたのか？

61. あなたがたの科学が発見するあらゆる事象の中に、わたしの存在があり、あらゆる事象において、わたしの法則が明らかにされ、わたしの声が聞こえる。どうしてこれらの人々は、感じもせず、見もせず、聞いてもいないのだろうか。わたしの存在、わたしの愛、そしてわたしの正義を否定することが、果たして進歩や文明の証なのだろうか。

62. そうであれば、あなた方は、あらゆる自然の力や自然の驚異の中に、神聖で、高尚で、賢明で、公正かつ力強い存在の業を見出し、あらゆる善や存在するすべてのものをその存在に帰し、それゆえにそれを崇拜していた原始的な人々よりも進歩しているとは言えない。

63. 彼らは、高まる知性によって、肉体の感覚が捉えたものを理解しようと努めた。彼らが私に捧げられた崇拜など、どれほど完全なものだったというのか。彼らが真理について、どれほど完全な理解を持てたのだろうか。それにもかかわらず――彼らの驚嘆、信仰、そして崇拜は、私の霊が時代を超えて育んでいかなければならなかった広大な畑の初穂として、私によって受け入れられたのである。

64. あの時から今日に至るまで、私は人類にどれほどの教えを与えてきたことか！そして、私の愛は、彼らにどれほどの啓示を託してきたことか！それにもかかわらず――これらの人々は理解の頂点

に達し、神への崇拜も完全であるべきであったにもかかわらず、彼らの利己的で傲慢かつ非人間的な科学が台頭し、わたしを否定するに至った。そして、存在する宗教共同体たちは、日常と伝統という無気力な状態に陥っている。

65. わたしはあなたがたに自由意志という賜物を与え、わたしの子供たちに与えられたその祝福された自由を尊重してきた。しかし、私はあなたがたの本質の中に、神の霊の光も宿らせた。それは、あなたがたがその光に導かれて、自らの能力を正しい方向へと向かわせるためである。だが、私はあなたがたに告げる。魂と肉体の戦いにおいて、魂は敗北を喫し、痛ましい転落を遂げた。それにより、魂は私とその源である「真理」から、次第に、ますます遠ざかってしまったのである。

66. その敗北は決定的なものではなく、一時的なものである。なぜなら、魂が自らの飢え、渇き、無防備さ、そして闇をもはや耐えられなくなったとき、深淵の底から立ち上がるからである。その痛みこそが彼女の救いとなる。そして、彼女が自分の霊の声を聞いたとき、彼女は力強く、輝かしく、熱意に満ち、靈感に導かれて立ち上がり、再びその能力を発揮するだろう。しかし、もはや善にも悪にも自由に使えるのではなく、ただ神の律法の成就にのみその能力を捧げることであり、それこそが、あなたがたが私の霊に捧げることができる最高の礼拝である。

私の平安があなたがたと共にありますように

教え 258

1. おお、民よ、あなたがたは私の前で怯えている。それは、私の正義の聲があなたがたを震え上がらせるからである。しかし、私はあなたがたに問う。あなたがたが恐れているのは、果たして私の正義なのか、それとも不正なのか。もしそれが私の正義であるならば、あなたがたは自らの行いに対する神の裁きを受け入れることに同意しなければならないことを知れ。もしそれが不義であるならば、あなたがたは誤っている。なぜなら、わたしがそのような不義を犯すことはあり得ないからだ。

2. あなたがたは、最も容赦のない、同時に最も慈愛に満ち、忍耐強く、理解に富んだ父を裁判官としてお持ちだ――その裁判官は、あなたがたの過ちを公にしたり、隣人に密告したりするのではなく、一人ひとりと呼び寄せ、心に語りかけ、必要なだけ試練を与え、ある行いを完遂するためであれ、過ちを償うためであれ、新たな機会を与えてくださるのだ。

3. もし神の正義の中に父の限りない愛が存在せず、もし神の正義がその源を持たなかったならば、この人類はもはや存在していなかっただろう。人類の罪と絶え間ない過ちが、神の忍耐を尽きさせていたはずだからである。しかし、そのようなことは起こらなかった。人類は生き続け、魂たちは今もなお転生し、一步一步、あらゆる人間の行いの中に、愛であり無限の慈悲である私の正義が表れている。

4. 私があなたがたに語っている教えを理解するためには、人々は私の教えの真意に深く入り込む必要があるが、これまで彼らは地上の事柄や目標に忙殺されてきた。しかし今、彼らが、これほどまでに心を奪われ、束縛されているものを一時的に脇に置き、大空へと視線を上げ、心の中で私にこう問いかける時がやってくる。「わが神よ、この世で何が起きているのか？ 私たちの人生はどうなってしまったのか。そして、私たちが自覚することのないまま、それをどう扱ってきたのか？」 これこそが、今や多くの人々が経験することになる悟りの瞬間となるだろう。

5. 他の人々は、この時代に私があなたがたに与えた御言葉に驚かされるだろう。その御言葉は、あなたがたである私の使者たち、証人たち、そして弟子たちの心に届くのだ。

6. 人々は、私の啓示の真実性を否定しようと試みるだろう。しかし、事実、証拠、そして出来事こそが、この真実を語り、証しするであろう。それは、「第三の時代」の偉大なメッセージとして、私

の民の口から語られることになる。また、書物を通じて、私の教えは世界中に広まっていく。なぜなら、これは私が太古の昔から使徒たちに授けてきた、許された手段だからである。私が望むのは、あなたがたが私の真理を見守り、それを最も純粹かつ簡素な形で人々の心に伝えていくことだけである。

7. 弟子たちよ、まもなくその言葉を締めくくろうとしている師が、あらゆる教えの中で、あなたがたの戦いのための靈的な備えを授けていることに気づきなさい。

8. あなたがたは、波乱に満ちた運命の広大な荒野を横断した後、私の教えを受けるために群れをなしてここにやって来る。その理由は、あなたがたの魂が、私の再臨が予告されていた時が来たことを感じ取り、魂を呼びかける神聖な声を聞き取ったからである。

9. 愛のパン、すなわち命のマナを渴望し、希望の光に導かれてやって来る、病める者、飢えた者、渴いた者、疲れ果てた者たちの群れが、今やその創造主の御前にたどり着いている。

10. 皆さん、ようこそ！私の平安の陰で休息し、食べ、飲み、病から癒やされなさい。

11. もしあなたがたがこの言葉に引き続き熱心に耳を傾け、人生の闘いに立ち向かうならば、信仰と知識によって強くなったゆえに、その重荷が軽くなったと感じるだろう。

12. わたしのもとで、この世の富や宝だけを求め、靈的な賜物の存在を認めない者たちは、失望を味わうことになる。そして、彼らが召された道から逸れたとき、手には何もなくて、心は慰めを失っていることに気づくだろう。彼らはまだ不浄なものを愛している魂たちであり、私は彼らにさらなる時間を与えなければならない。そうして彼らが成長し、経験を積み、私の道に戻ってきたとき、私を受け入れる準備が整うようにするためである。

13. 靈性をもって来た者にとって、この言葉を通じたわたしの臨在は、まさに光の祝宴である。そこでは、愛、正義、知恵、そして平和を渴望する者たちに、靈の王国における最高の御馳走が供される。彼らはわたしの道から逸れることはなく、さらにこの世の恵みを受け取る術も身につけるだろう。

14. わたしの業は、彼らの人生において本質となるものであり、物質的なものは、生き延び、彼らに託された使命を果たすための補完的なものに過ぎない。

15. ああ、もしあなたがた全員が、この言葉の太陽がまもなく隠れてしまうことを理解してくれたなら――あなたがたは、その価値と光を心の中に留めておくために、急いで行動するだろう。しかし

、あなたがたは理解するのが遅すぎ、反抗的すぎて、今この時点で「新しい時代」の到来を予見できる「先見の明」という賜物を開花させることができないのだ。

16. 確かに、私がこれまであなた方のそばにいたような形で、あなた方の間に留まる時間はもう長くはない。あなた方は、現在と未来を生きることが必要であり、過去における多くの慣習や信仰の信念、観念、そして行動様式を忘れていく必要がある。それらは、あなたがたが初めて私の言葉を聞くためにここに来た際、背負ってきた途方もない重荷の一部を成しているのだ。

17. わたしは魂の救い主であり、あなたがたの信仰と命の守り手である。あなたがたを の深淵に突き落としたり、荒野で迷わせたりすることはできなかった。あなたがたに、わたしの慰めの声を聞かせず、わたしの御霊から湧き出る真の光を見させずに、そんなことはできなかったのだ。

18. あなたがたは、ただ私の声を聞いて心に平安を得るだけで満足し、隣人の心に私の業を蒔くための準備もせず、また私の弟子となることもしないつもりなのか。

19. もしあなたがたが、隣人に役立つことによってわたしに喜ばれたいと願うのであれば、彼らにもその恵みを分かち合わせなさい。そして、わたしが現れるたびに与える神の教えを活用し、わたしやわたしの律法、わたしの教えについて語れるようにしなさい。また、たとえその光が、あらゆる時代の知恵である絶対的な真理の光であったとしても、現れるあらゆる新しい光を打ち砕こうと準備している者たちに、あなたがたが不意を突かれることのないように。

20. 私があなた方を呼び寄せたのは、ただあなた方の苦難を慰めるためだけではなく、隣人の痛みを感じ取り、その苦しみを和らげることを教えるためでもあることを理解しなさい。

21. あなたがたが人々の間で何をすべきかを知りたいのであれば、あなたがたが私の言葉を初めて聞いたその日から、私があなたがたの間でなしてきたことを見つめれば十分である。

22. 私はあなたがたを赦し、限りない憐れみと愛をもって迎え入れ、骨の折れる日々の労働から休ませてあげた。私は、あなたがたの社会的地位や身分、あるいはカーストを判断することに時間を費やすことはなかった。私はあなたがたの罪という「らい病」を清め、あなたがたの病を癒した。私は、あなたがたの欠点を裁くにあたり、理解を示し、寛容であり、慈愛に満ちていた。私は、あなたがたに愛の教えを与え、隣人を救うことによって自らも救われることができるようにし、それによってあなたがたを真の命へと導いた。

23. わたしがあなたがた一人ひとりに対して成し遂げたこれらの業の中に、あなたがたは、肉体的・精神的に苦しむ人々——彼らが
大挙してあなたがたの元へやって来るであろう——に対して実践すべき最良の模範を見出すことができる。

24. 私がここでこの民に語りかける時、私は人類全体に語りかけているのだ。あなたがたの使命は、明日、人々の心に寄り添い、救いの業を完成させる私の言葉を、兄弟愛をもって彼らに伝えることである。

25. 今日、あなたがたは苦痛に襲われているのを感じているが、時に、この杯によって自らを清めていることに気づかないこともある。汚れを抱いたままで、どうしてわたしについて語れるだろうか。もしあなたがたの心が利己心で満たされていたなら、慈悲と人間愛の感情として表れる愛が、どうしてそこから溢れ出るだろうか。

26. 神の子たちの不完全さが、痛みをもたらした——その痛みは、あなたがたの心を磨き、あなたがたが失ってしまった道を示すための師となった。わたしの愛は、あなたがたの心に宿り、そこからすべての悪を取り除く。なぜなら、わたしはあなたがたを強く、健やかで、清らかな姿で見たいと願っているからだ。

27. この形であなたがたの間で響き渡るこの声に耳を傾けなさい。それを聞き続けることに倦むな。私は、あなたがたの心の荒さをなだめ、1950年以降、私がもはや現れなくなったとしても、あなたがたを確固たる信仰の中に残せるようにと、この啓示を長引かせてきたのだ。

28. 人々は科学に没頭しており、その心と知性は、この地上で送る生活に完全に占められている。それゆえ、私は人間の中から、私が語るこの者たち——素朴で、学問を持たない者たち——を選び出した。私は彼らの心に触れ、その後、私の民にこの愛のメッセージを伝えるために、私の光をもって彼らの知性を照らし通した。

29. この光があなた方の人生の道を照らし出した。それゆえ、あなた方は私に身を委ねたのである。私が去った後、私はあなた方を人類の中に残す。それは、あなた方が私の真理を証し、弟子たちの間に、その行いによって霊的な愛の教えを説く師たちが現れるためである。

30. 天国の喜びは、すべての人々のために用意されている。この地上において、あなたがたはその平安のほんの一部と、永遠の命の輝きを味わうことになるだろう。地上で善意を持ち続けなさい。そうすれば、わたしの平安があなたがたに欠けることはない。

31. 私があなたがたに御言葉を授けて以来、あなたがたは『命の書』の多くのページが過ぎ去るのを見てきた。その一つひとつが、完全な教えであった。時には父の愛があなたがたに語りかけ、またある時には師があなたがたをその教壇の前に座らせ、時には裁き主があなたがたを奮い立たせたのである。

32. あなたがたは皆、わたしの言葉を受け取った。それゆえ、あなたがたは皆、従うべき指示と使命を霊において受け取っている。すでにそれを始めた者もいれば、出発の時をまだ待っている者もあり、また準備を進めている者もいる。あなたがたの中に、開花するための能力を受け取っていない者は一人もない。しかし、私がまだこの姿で啓示を行っている今、すでに開花を始めた者たちがいる一方で、他の者たちは私の啓示の時期が過ぎた後に初めて、魂の開花を始めることになるだろう。しかし、この時代において、あなたがたは皆、一つの霊として立ち上がれ。

33. あなた方には、私の言葉を深く探求し、私の靈感を受け取り、また来るべきことを告げる幻視を受け取るための賜物がある。

34. 今日、立ち止まってしまった者たち――すなわち、私の神聖な光を受け取る賜物を受け取った者、あるいは霊界が彼らを通して現れることを許されるべきであった者でありながら、その使命を果たさなかった者たちは、後にその成就に取り掛かることになるだろう。とはいえ、私はすでに彼らに告げている。人類に混乱をもたらさないためには、その伝達の形を変えなければならない、と。

35. あなたがたが世界中に散らばる日が来るだろう――ある者は一つの国に、別の者は他の国々にいるが、それでもなお、私があなたがたにもたらした霊的な調和によって、あなたがたは皆、一つに結ばれていると感じるだろう。

36. 私は、あなたがたが互いに愛し合い、その絆によって強く、無敵となるよう、あなたがたを準備している。そのために、私は、自らの模範によって弟子たちに道を示す、慈愛に満ちた忍耐強い師であり続けてきた。自分の歩み、行い、さらには言葉や思考さえも、しっかりと見守りなさい。あなたがたの不完全さを裁くのは人間であってはならない。常に、あなたがたの良心を通じてあなたがたを正すのは、師でなければならない。

37. 罪深い人々を通して自らを現し、あなたがたに私の力と愛の証しを与えること、それが私の意志であった。さあ、今、御霊によってあなたがたの父のもとへ歩み寄り、あなたがたも父を愛していることを父に証明しなさい。この目標を目指して努力し、御霊から御霊へのその崇高な対話を成し遂げなさい。最初に収穫した実だけ

で満足することなく、完全さに達したその時に初めて満足するのだ。そうすれば、すべての人間は、その内なる神聖な導き手を持つようになり、その導き手は、創造主の愛を渴望し、高みへと成長することを知る者たちに定められた道を、永遠に歩み続けるよう導いてくれるでしょう。

38. 私の言葉となった光、命、試練——これらすべてには、あなた方を物質主義から解放するという意味がある。明日には、人間の科学でさえも、霊性、高揚、高潔な目標を持つようになり、一見隠されていたが、実際には単に発見されていなかったものについて語ることを理解するようになるだろう。なぜなら、その秘密に踏み込むのは理性ではなく魂であり、それは魂が清らかさを得て初めて起こるからである。しかし、民よ、精神とその関連する事柄に目を向けることで、人間の生活や地上の義務が疎かになり、その結果、あなたがたの健康や肉体が、今日まだ想像もつかないような影響を受けるのではないかと心配する必要はない。なぜなら、今日の人々の魂が、現在生きている泥沼から立ち上がるとき、その肉体の中に新たな力と、それまで知られていなかった光を感じるようになるからです。その光は、人々に、幸福、安寧、そして健康に満ち溢れた存在を築き上げるよう導くでしょう。

39. なぜ人々は、つかの間であり、時には無意味な儀式行為によって、絶えず自分の魂に近づこうとしてきたのか。永遠の命の本質や実体を持たない儀式行為によって、魂も心も欺いてはならない。

40. この光が、まもなく人々の心に届くことが必要である。当初、それが論争や争いの原因となることは重要ではない。古来より、光と闇、真実と虚偽、善と悪は互いに衝突してきた。夜の影が昼の光によって消え去るように、人々の悪もまた、私の愛のメッセージの前には退くことになるだろう。

41. あの「第二の時代」において、私が人間として来られることを信じたのは、ごく少数の心だけでした。それにもかかわらず、人類は後に、救い主の誕生を新しい時代の始まりと決めました。同様に、この時代において、私があなた方に啓示を始めること、すなわち聖霊として来られることは、明日、さらなる時代の始まりとして定められることになるでしょう。

42. 神の愛の体現者であるキリストが語る言葉に耳を傾けなさい。

43. 善意を持つ人々、真理を愛し、愛の種を蒔く人々に平安あ。

44. 私は「御言葉」である。人々は私のもとへたどり着くことができなかったため、私が彼らを訪ねていくのだ。私が彼らに啓示す

るのは私の真理である。なぜなら、真理こそが、私の御心により、あなたがた全員が進入すべき王国だからである。

45. 私が、そのために多くの犠牲が必要であるとあらかじめ告げなければ、どうしてあなたがたは真理を見出すことができるだろうか。

46. 真理を見出すためには、時に、自分が持っているものを手放し、さらには自分自身さえも捨て去らなければならないことがあ。

47. 自己満足に浸っている者、物質主義者、無関心な者は、自分が住んでいる壁を打ち壊さない限り、真理を認識することはできない。私の光を直視するためには、その者が自分の情欲や弱さを克服することが必要である。

48. 唯物論者は人間の生命だけを愛する。しかし、自分の中のすべては儚いものであると認識しているため、その人生を精一杯生きようと努める。そこで、自分の計画や願いが実現しなかったり、何らかの形で苦痛に見舞われたりすると、彼は絶望し、不平を漏らす。そして運命に挑み、自分が当然受け取るべきだと信じている恩恵を受けられないのは運命のせいだと非難する。

49. 彼らは、屈強な肉体の中に弱い魂を宿した者たちであり、道徳的に未熟な存在である。彼らは、物質主義に囚われて、取るに足らない行いに過大な価値を見出しているという誤りを自覚させるため、様々な形で試練にさらされている。

50. 物質化された者たちは、どれほど自分の運命を変えたいと願っていることか！ 彼らは、すべてが自分の思い通り、自分の意志通りに進むことをどれほど切望していることか。

51. 神からは、善きものとして望むものはすべて得ることができる。神の正義に挑んだり、その力を疑ったりする必要などないのだ。私の愛は、自らの存在をより良いものにしたいと願う者なら誰の願いにも応える用意がある。

52. もう一度言おう。真理を愛する善意の人々に平安あれ。彼らは神の御心に服従するために努力しているからだ。そして、私の保護の下に身を置く者は、必然的に私の臨在を感じることになる——その魂においても、また人間としての生活においても、苦闘においても、必要においても、試練においても。

53. 善意を持つ人々は、父の律法に従う子供たちである。彼らは正しい道を歩んでおり、激しい苦しみを受ける時、赦しと平安を渴望して、その魂をわたしへと向ける。彼らは、痛みがしばしば必要であることを知っており、それゆえ忍耐をもってそれを耐え忍ぶ。ただ、それが耐え難いものとなった時のみ、彼らは自分の十字架の

重荷が軽くされるよう願うのである。『主よ』と彼らは私に言う。『私の魂が向上するためには、浄化と苦しみが必要であることを知っています。私に何が必要かは、私よりもあなたがよくご存知です。私が必要としないものを、あなたが私に与えることはありません。ですから、あなたの御心が私の上に成りますように。』このように考え、祈る者たちは祝福される。彼らは、人生の試練に適用するために、師の模範を求めているからである。

54. あらゆる痛み、あらゆる苦しみは、心に新たな息吹を与え、魂を揺さぶり、その汚れを洗い流し、成長し、高みへと発展する機会を与えるという点で、確かに正しいのである。

55. 愛と忍耐をもってこの杯を飲み干すとき、痛みは魂にどれほど多くの善をもたらすことか！

56. あなたがたの魂にとって、試練の道は長いものでした。あなたがたは、千年の樹木に似ています。その樹木は、吹き荒れる風によって枯れた葉を落とし、風はそれを鞭打って葉をすべて落とし、後に新しい葉で覆われるようにするのです。かくして、木は父の御心を全うする。同様に、あなた方も皆、生涯を通じて父が与える試練や教訓を受け入れることによって、魂の古い衣、不純物、ぼろを脱ぎ捨て、新しい祝祭の衣を身にまとうことで、父の御心を全うすべきである。

57. 弟子たちよ、苦しみはあなたがたの心から悪い実を取り除き、経験を与え、過ちを正すものであることを知れ。

58. このようにして、あなたがたの父は、あなたがたの心に光が差すように、あなたがたを試しているのだ。しかし、もしあなたがたが理解できず、わたしの賢明な教えの真意を見出せないために実りのない苦しみを味わうならば、その痛みは無意味であり、その教えを活かすこともできない。

59. この期間、わたしはあなたがたに人生の意味を説いてきた。それは、あなたがたが自らの痛みの理由を知り、贖罪と償いが何を意味するのか、そしてなぜ自らを清めなければならないのかを理解するためである。もしわたしの民がわたしの教えを理解し、その真意を心に刻むならば、新しい人類の礎が築かれることになるだろう。

60. 痛みによって、あなたがたは時折、激しく揺さぶられたことはないか。あなたがたの枝は曲がり、枯れた葉は落ち、悪い実の木から落ちたことはないか。私はあなたがたに告げる。あなたがたの魂が獲得した善は、この世で最も高く評価されているものよりも、比べものにならないほど価値があるのだ。

61. 私は、あなたがたが毎日自然の中で観察できる例、例えば嵐の風に吹き荒らされる木のような例を挙げる。なぜなら、物質的な自然は神聖な自然の現れであり、それゆえ、この人生においてあなたがたを取り巻くあらゆるもののの中に、あなたがたの精神のための教えや啓示を見出すことができるからだ。

62. あなたがたの体が生きるために空気、太陽、水、そしてパンを求めるのと同様に、魂もまた、その本質にふさわしい生活環境、光、そして糧を必要としている。もし魂が、自らの糧を求めて高みへと舞い上がろうとする自由を奪われたとすれば、それは弱り、枯れ、鈍感になってしまう。まるで、子供を常に揺りかごの中に留まらせ、部屋に閉じ込め続けるようなものだ。その子供の四肢は不自由になり、顔色は青ざめ、感覚は鈍り、能力は萎縮してしまうだろう。

63. 魂もまた、不自由な者になり得ることを悟りなさい！ 私は、この世界は魂の不自由な者、盲人、聾者、病人に満ちているとさえ言えるだろう！ 閉じ込められて生き、自由に開花する機会を奪われた魂は、知恵においても、力においても、徳においても、成長しない存在である。

64. 激しい嵐があなたたちを不純物から清めてくれるのを待つ必要はない。なぜなら、季節の巡りを待ち、その中に身を委ねて自らを新たにし、清められ、花開くこともできるからだ。

65. あなたがたが他の、より高次の生命の世界へと至ることができるように、この世で学ぶべきことは多くある。

66. 学び、深く考え、戦い、苦しみ、そして希望を持つことを理解しなさい。常に愛し、また信頼を持ちなさい。信仰と善意に満ちた人間となりなさい。そうすれば、あなた方は偉大な魂となるでしょう。

67. もし、あなた方を囲む自然の中に私の存在を求めたいのなら、そうしなさい。私は、すべてのもののの中に、そして私のすべての御業の中にいるのだから、あなた方はあらゆるもののの中に私を見出すだろうと知っている。

68. 私がこれらの人々を通して自らを現している様子を見てください。私は、彼らの唇から私の神聖な御言葉が溢れ出るように、しばらくの間、彼らの中に身を隠しているのです。いつになったら、あなた方はこの世に属するものを超えたところで私を見ることができるのでしょうか。いつになったら、人間の媒体を必要とすることなく、霊的な感覚を通して私を感じ取ることができるのでしょうか。

69. 神の永遠の教えの言葉は絶え間なく響き渡っている。なぜなら、神こそが「御言葉」そのものだからである。しかし、それを直接、すなわち霊から霊へと受け取ることができるのは、悟りを開いた人々だけである。

70. あなたがたが神性と人間性との直接的なつながりを得たとき、すなわち、自らの存在の調和を成し遂げたとき、天使と人間、天と世界、あの世とこの世、精神と物質が一つに融合する歌を耳にすることになるだろう。すべては、その御業に命を吹き込み、それらを御自身の子供とした神聖なる存在への愛の賛歌として一つに結ばれるでしょう。弟子たちよ、あなたがたはこの賛美の歌の中で一つとなるのです。なぜなら、私が再び人々の元へ来たのは、まさにそのために他ならないからです。

71. あなたがたは、自らの内なる聖域に足を踏み入れる必要がある——それは、人の手によって築かれたものではなく、神の知性によって築かれたものである。私はあなたがたに告げる。そこであなたがたは真理の啓示を知り、永遠の本質を理解し、それゆえに、あらゆる働きものよりもそれを愛するようになるのだ。

72. あなたがたの肉体とは、いったい何であろうか。それは、その飛翔が束の間の、はかない小鳥に過ぎない——まもなく消え去ることを無意識のうちに歌っている鳥である。その利己心ゆえに、多くのものを自分用に求め、要求する哀れな肉体よ。それに対して魂は、この世からは見えないが、清らかで輝く鳥であり、時が経つにつれてますます高く舞い上がる。魂こそ、年齢も、年も、世紀も存在しない存在である。

73. あなたがたは、自分がどの日に、どの時間に、どの年に生まれたかを知っている。しかし、霊的にいつ生を受けたか、果たして知っているだろうか？

74. 魂を高めなさい。魂こそがあなた方の生命の本質であり、あなた方の使命であり、あなた方が創造された目的である。立ち上がれ。そうしてこそ、あなた方はわたしのもとに来ることができるのだ。わたしには、あなた方に与えるべき多くのものがある。それは、あなた方がこの世で出会ったものよりもはるかに多い。

75. 愛は、やがてあなた方を打ち勝つでしょう。そして、愛を通して、あなた方はわたしを知るようになるのです。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 259

1. ようこそ、わが弟子たちよ。あなたがたはわが教えを聞くためにここへやって来た。わたしは、あなたがたが永遠のいのちの糧を摂ることができるよう、祝宴を用意している。

2. たとえあなたがたの「肉体」が弱くとも、あなたがたの魂は、わたしに従うのに十分な強さを持っています。「御言葉」を聞くために、心を整え、この世に属するものを捨て去った弟子は、幸いである。

3. わたしは、あなたがたの魂に恵みの衣を授ける。なぜなら、時が経つにつれ、あなたがたはわたしが与えたものをぼろ布にしまったからだ。

4. わたしの律法とは、あなたがたがいつの時代にも受け継いできた教えである——あなたがたが従わなかった律法であり、その不従順によって、あなたがたは混乱に陥ってしまった。今、わたしは聖霊の光をもって、あなたがたを新たに照らす。

5. 私は、人類の前に輝かせるために、計り知れない価値を持つ宝石をあなた方に託した。それを隠したり、自らそれを奪ったりしてはならない。

6. 今日、あなたがたは、私がかつてのエルサレムに凱旋入城した日を記念している。今日もまた、人々は物質的な手にヤシの枝を握って、私の前に現れている。しかし、私は彼らの心の中に平安を見いだせない。

7. 当時、人々の群れは、主の恵みが彼らと共にあることを知っていたからこそ、魂を込めて「ホサナ」と唱え、わたしを迎え入れた。こうして彼らは、神の御子が人々の間にいたことを証ししたのである。

8. その後、あなたがたに使命を果たすよう教えるために、私が十字架という聖なる祭壇の上で犠牲となったとき、多くの者は、イエスが真の神の子であり、はるか昔に預言者たちによって予告されていた「神の小羊」であるということを疑った。しかし、その小羊がその血によってあなたがたを照らすと、そう記されていたのである。

9. 今日、私は御霊として再びあなたがたのもとに来る。それは、あなたがたに新たな教えを与え、あなたがたを霊的な存在へと変え、聖霊の光をもって闇を追い払い、あなたがたが新たに生まれ変わり、美德が完全に現れることを許すためである。

10. 人々はまだこの言葉を聞いておらず、互いに軽んじ合っている。しかし、わたしはあなたがたを「強きイスラエル」と呼んだ。

あなたがたはわたしの力に満たされて旅立ち、人類の間にわたしの霊的な臨在を証し、わたしの真理を伝え、この時代に世界が飲み干している苦難の杯を取り除くためである。

11. あなたがたの中には、飢えた狼がいる。あなたがたは目を覚まし、祈り、わたしの教えを実践しなければならない。わたしの戒めに従う者は、わたしの平安を感じるだろう。

12. この時代、私はあなたがたに私を理解してもらえよう、極めて明確に語りかけてきた。私は、この道が歩めるものであることを示してきた。もしあなたがたに苦痛が襲うとしても、それを送ったのは父ではない。あなたがた自身が、不従順によってそれを招いたのである。

13. わたしが無限で、崇高で、聖なる愛であり、すべての人を愛していることを悟りなさい。しかし、わたしはあなたがたに言う。父があなたがたを愛するように愛しなさい。そうすれば、わたしもこれからも常にあなたがたを愛し続ける。

14. わたしは、あなたがたを、るつぼの中の金のように精錬し、人類の模範となるようにするために来た。あなたがたが、周囲の人々の間で、すべての魂を照らす光の松明となるためには、わたしの教えを理解することが必要である。

15. わたしが永遠の命を与えようとするのは、あなたがたの靈魂である。それは、あなたがたの靈魂がわたしから生まれたものだからだ。わたしは、あなたがたの靈魂がわたしに従い、霊と霊との間でわたしと対話できるよう、それを整えている。

16. 物質的なヤシの枝は私に届かないのだから、霊的な意味で私にヤシの枝を差し出せ。あなたがたは今、人類が苦難の杯を飲み干している時代を生きておる。その苦難があなたがたにも及ばぬよう、目を覚まし、祈り続けよ。

17. この数日間、人類は私の受難を記念している。しかし、まことに、あなたがたに告げる。今こそ、私があなたがたを目覚めさせる時である。

18. 人類が、その狂信と迷い、そして罪によって、今なおわたしを十字架につけているのを見る時、わたしの霊は深い痛みを覚える。しかし、選ばれし民よ、啓示を受けた者たちよ、人々の間で永遠に君臨するであろうわたしの真の教えに従いなさい。人々は、わたしの愛を阻むことも、わたしの神聖な光を覆い隠すこともできないだろう。私は、あなたがたが私の足跡をたどり、私の律法を全うできるよう、私の言葉をもってあなたがたを励まし、導く。

19. 明日、あなたがたは祈りの中で私の神性へと高まり、直感によって啓発され、同胞たちの道の導き手となるであろう。

20. 私があなた方に託した使命は、あらゆる時に果たさなければならぬ任務である。なぜなら、あなた方を通じて人類は私の光を受け取らなければならないからであり、私は彼らを恵みの生活へと引き上げるからである。

21. イスラエルよ、これ以上眠り続けようとするな。もしそうするなら、自然の力があなたたちを目覚めさせ、私があなたたちに託した崇高かつ困難な使命を全うできていないことを責めることになるだろう。

22. わたしは、あなたがたに、わたしが託した賜物と、その計り知れない広さの畑を認識させた。それは、あなたがたがそれらを清め、耕すためである。

23. あなたがたは、いのちの木の葉陰の下、わたしの庇護の下にあるわたしの子供たちであり、あなたがたの魂は喜びに満ちていた。選ばれた民よ、私はあなたに告げる。あなたがたのうち、私の憐れみを懇願した者で、それを受け取らなかった者がいるだろうか。私の偉大な恵みを悟り、父があなたがたと共にいることを証しするために旅立ったあなたがたは、幸いである。なぜなら、あなたがたの証しによって、大勢の人々が旅立つことになるからだ。

24. 私があなたがたと共にいたことを証しなさい。そうすれば、人々は魂の中に恵みの命を持ち、私の中に最高の医師を見出し、霊から霊へと私を求めるようになるであろう。

25. 第二の時代において、私の弟子たちは、人類がそれを学び、熟考し、実践できるように、私の教えを広めた。しかしその後、人間は私の教えの核心から離れ、大衆を導くために独自の律法を作り出した。だが、私は、人間がその迷いと物質主義の中で作り出したものを、受け入れはしない。ただ一つ、私の真の神殿は、あなたがたの心と魂の中に築かれなければならないことを、改めて思い出させておく。

26. この時代、わたしを求め続けたあなた方に対し、わたしは、心の中でわたしを感じ、わたしの教えを心に刻み込むよう導いてきた。それは、あなた方が恵みと光に満ちて生きる民となるためである。

27. 準備を整え、謙虚な心で旅立ちなさい。そうして、人類にこの平和のメッセージを伝えなさい。人類のために祈りなさい。そうすれば、あなたがたの父は、すべての人々がその律法を認め、従うように導いてくださるでしょう。そうして、人々が恵みに満ちた人

生を送り、霊から霊へと私を求めることを理解できるようになるのです。

28. 私がこう言ったことを思い出してください。「あなたがたのうち、二人、あるいは三人が私の名によって集まるとき、私はあなたがたの中にいて、あなたがたの備えに応じて、自らを現すであろう。」

29. わたしは、この時代に、選ばれた民であるあなたがたの中に現れることによって、人類にわたしの愛のさらなる証しを与えるために来たのである。

30. あなたがたは人々に証しし、教えなければならない。すなわち、彼らが備えを整え、物質主義を捨て去れば、彼らはその霊によってわたしを感じ、見ることができるのだと。それゆえ、わたしは人間の知性を通じてあなたがたに語りかけた。そして、罪深い人間たちによるこの啓示こそが、あなたがたがわたしの言葉を受け入れ、後にそれを人類に伝えることができるよう、わたしがあなたがたに与えた愛の証しであったのだ。

31. イスラエルよ、備えよ。人間の知性を通じて私が啓示を行う時間は短い。私は、あなたがたが準備不足のために明日、孤児のように感じ、豪華な教会に集まり、儀式や物質的な賛美歌に満足している大衆を真似てしまうことを望まない。

そうした群衆の中に、わたしを感じ取った者はごくわずかである。しかし、わたしはあなたがたの心を整え、魂を照らし、愛に満ちたわたしの言葉を与えるためにあなたがたのところに来たのだ。それは、あなたがたがわたしの臨在を感じ、明日、この愛と平和を隣人に伝えていく者たちの一員となるためである。

32. もしあなたがたが、愛に満ちたわたしの言葉によって心を整えなければ——人類を襲う大きな試練と嵐の時代が訪れたとき、あなたがたはどうなるのか、あなたがたの隣人たちはどうなるのか。

心には平安がありません。そして、こうした人々が慰めを求めて一時的に快樂にふけるとしても、真実を告げましょう。彼らは、そうしたあらゆる快樂の中であって、私の平安を感じることもない、苦しみ、病んだ魂を抱えているのです。彼らが求める気晴らしは、ただ肉体の感覚を満たすだけであり、彼らの魂の中には痛みしかありません。

33. この人類はわたしを感じ取っていない。まだ、彼らの手を引き、道を示す者が誰一人として現れていない。わたしは彼らが無垢な者のように迎え入れ、その過ちを憐れみをもって裁く。そして、彼らに償う機会を与える。

しかし、わたしを聞き、わたしが自らを現した選ばれた民よ――あなたがたが霊界にたどり着き、わたしに不従順を告白するとき、わたしの御前でどのような気持ちになるだろうか。あなたがたは父から恵みを受けた者たちであり、わたしはあなたがたを、その困難な使命の成就とともに迎え入れたい。私は、あなたがたが私の御前で被告となることを望まない。父なる者の微笑みをもってあなたがたを迎え入れ、光の霊として、また隣人の導き手であり守護者として、再びこの世へ送り出したいのだ。

34. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたがわたしのところに来たのは、エリヤがさまざまな道であなたがたを導き集めたからであり、あなたがたはエリヤが羊としてわたしのもとに導いてきた選ばれた者たちだからである。エリヤの羊の囲いの中にいる者は、彼によって守られる。このたゆまぬ羊飼いは、あなたがたを悪意ある追跡から守ってくれる。

35. 聖霊はあなたがたを照らした。しかし、この恵みを受けるのは、私の神聖な印を持つ者たちだけではなく、自らを備え、エリヤに導かれて私のもとへと昇る者すべてである。

36. 聖霊の光があなたがたを照らし、あなたがたが御霊と真理のうちにわたしのもとにるようにした。これこそが、あなたがたがわたしの愛を感じ、救いを見出す道である。

37. わたしは、エリヤがわたしの御前に連れてくる羊たちを受け入れる。彼はこれからも迷い出た者たちを探し続けるだろう。なぜなら、わたしは地上のすべての民と、これから来るすべての世代に、わたしの憐れみを注ぐからである。

38. 主はあなたがたにこう言われる。「この尽きることのない泉から、その水晶のように澄んだ水を飲み、永遠の命のパンを食し、ぶどうの木の実を口にせよ。見よ、わたしはあなたがたのために、わたしの食卓に最上の席を用意しておいた。」

39. イスラエルよ、問う。諸国民のために何を願うのか。この恵みは、あなたたちだけのために用意されたものではないからだ。見よ、諸国民がどれほど大きな苦痛の試練に見舞われてきたか。しかし、あなたたちに告げる。イスラエルよ、もしあなたが同胞のために立ち上がり、祈るならば、わたしの御心は全人類において成就するであろう。

40. 人々はわたしの教えを歪めてしまった。しかし、わたしはあなたがたのもとに来て、再びわたしの教えと知恵をもってあなたがたを導き、あなたがたがわたしの弟子となり、明日、世界の人々を

教え、彼らの魂の中にわたしの臨在を実感させる者となるようにするためである。

41. 諸国は、新たな戦争へと突き進む準備を進めている。しかし、あなたがたが目覚まし、祈り続けるならば、私は人類に私の平和を差し出し、与えてやるだろう。

42. 私はこの第三の時代に、霊として、ラザロが墓からよみがえったように、あなた方を命へと目覚めさせるために来た。私はあなた方の病を癒し、あなた方の痛みを取り除いた。

43. 私は、あなたがたが心の中に私の愛を宿し、人類を導き、あなたがたに影を与え、その実によって命を与えてくれた木を示すために、準備を整えて旅立つことができるよう、教えを与えたのである。

44. 人々を私のもとへ招き入れなさい。そうして、彼らに私の父なる愛の慈しみを授け、彼らの魂を照らし、果てしない悪行の海から救い出し、彼らに乳と蜜を与え、彼らの人生から苦味を消し去るためである。

45. あなたがたがこのように隣人に語りかけるならば、私がいつの時代にもあなたがたに与えてきた使命を果たしたことになる。愛する民よ、自らの内なる良心の声に耳を傾け、私を愛し、隣人を愛するという決意を固めなさい。

46. わたしは、あなたがたが心の中にわたしのための聖所を築くことができるよう、あなたがたの心の愛を求めている。わたしはあなたがたを愛し、神の恵みをもってあなたがたを飾り、あなたがたを照らし、わたしに仕えることができるようにしたのだ。

47. わたしは、明日、良き種として実を結ぶこの言葉を、あなたがたの内に置いた。なぜなら、もしあなたがたがもはやこの形でわたしに耳を傾けなくなったとしても、人々の群れは、声の伝達者たちからは聞くことができなかった教えを受けるために、わたしの弟子たちに頼るようになるからだ。あなたがたは彼らを教え導き、わたしは彼らと共にいる。あなたがたは、私の律法に献身し、従順でなければならない。そうしてこそ、私の業があなたがたにとっての防護壁となり、あなたがたは霊性の旗を掲げることができるのだ。

48. イスラエルよ、人類を襲う大きな試練が待ち受けている。それは、人々がそう望んだからであり、彼らの心には依然として破壊の意図が息づいているからであり、また、彼らがこの世で自分たちの神を作り上げてしまったからでもある。しかし、人間が自らの意志を行動に移す前に、父は再び人類の間にその存在を明らかにされ

るだろう。わが民よ、かつてノアが人々に語ったように、わが律法である「救いの箱舟」を再び示すために立ち上がれ。

49. わが民よ、あなたがたのもとに来る者たちを受け入れるために、備えなさい。彼らにわが愛を与え、互いに愛し合うことを教え、わが律法を示し、彼らの心に信仰の炎を灯し、わが言葉をもって平安を与え、彼らがその道のりでそこから力を得ることができるようにしなさい。あなたがたは、その大群衆に、霊から霊へとわたしを求めるよう教えなければならない。

50. あなたがたは、この使命を果たすために地上にやって来た。そのために、わたしはわたしの言葉によってあなたがたを備えさせ、この水晶のように澄んだ水であなたがたの魂の渇きを癒し、あなたがたを強め、癒やすためである。あなたがたは勇氣を持って立ち上がり、わたしの名において人々に語りかけなければならない。あなたがたはわたしの使者となり、あなたがたを媒介として、わたしは彼らに私の光を与えるであろう。

51. 祈りの中で立ち上がれ。そうすれば、わたしはあなたがたと共にあり、霊界と共に、あなたがたは人々を少しずつ目覚めさせていくであろう。わたしを感じるができず、苦しみの中で嘆き、「父よ、父よ、なぜ私たちの声に耳を傾けてくださらないのですか」とわたしに訴える人々のために、目を覚まし、祈り続けよ。

しかし、霊から霊へとわたしを求める術を知っているあなたがたは、同胞たちに祈りを教え、静寂の中で、そして自らの魂を高揚させる中で、わたしを求めるよう導くであろう。わたしは彼らに、わたしの赦しを実感させ、光と知恵を与え、彼らがわたしの律法を全うできるようにする。

52. わたしを認識し、わたしのそばにいるあなたがたを通して、わたしは悪という広大な海で滅びゆく者たちを助ける。わたしは彼らを赦し、祝福する。しかし、あなたがたは、あなたがたの神であり主であるわたしから恵みを受けた者として、わたしがあなたがたに教え、啓示したすべてのことを人類に対して証ししなさい。そうすれば、彼らもまたわたしを愛し、自らの霊的使命の成就に取り掛かるようになるだろう。

53. 今日のこの時代に、地上に「イスラエルの民」という神の新しい民が現れると預言されており、わたしの言葉は成就しなければならない。しかし、私が「新しいイスラエルの民」について言及するとき、それがユダヤ民族のことだと誤解してはならない。なぜなら、私があなたがたに語っているその民は、あらゆる人種とあらゆる

る言語から成るものとなるからだ。その共同体も、その使命と同様に、肉体的なものではなく、霊的なものとなる。

54. かつての「最初の時代」にはイスラエルが十二部族から成っていたが、今や新しい民が遂行するのは十二の使命となる――十二の神聖な使命であり、それらが相まって、この民に無敵の民としての力を与えるのである。

55. 人々は、新しい部族を形成するために集団を作る必要はない。私がそれらを創り出し、一人ひとりに、人々の間で果たすべき異なる使命を与えるのである。

56. 直感、啓示、そして靈感という賜物は、「新しいイスラエル」の精神の中で目覚めるであろう。なぜなら、それを通じて「新しいイスラエル」は私のメッセージを受け取るからである。

57. 新しい民を構成する人々は、地上で選ばれるのではなく、わたしの愛によって、すでにその魂の中に、進化した存在として、光の存在として印が押され、あるいは封印されており、彼らに定められた道から迷い出ることはないだろう。

58. かつて、イスラエルが約束の地への渴望を抱いて荒野を横断する準備を整え、各部族に異なる任務が委ねられたように、この時代においても、ある者たちは他の者たちを霊的に支え、各人が自分に委ねられた任務を果たすことになる。

59. 今、私の言葉を聞いているあなたがたは、全世界に散らされ、天の星のように数多いこの民の一部に過ぎない。

60. あなたがたのうちの何人かが受けたあのしるしは、この第三の時代に「新しいイスラエルの民」の中で任務を果たすすべての者が、その魂に宿している印の単なる象徴に過ぎない。

61. わたしは何度も、あなたがたの魂は、この地上に来る前から、すでにそのすべてを内に秘めていたと語ってきた。それゆえ、あなたがたが「封印」と呼ぶその行為は、単なる象徴に過ぎなかったのだ。しかし、あなたがたの使命はすでに定められており、新しい民の懷において、あなたがたの運命と役割が何であるかをすでに知っているのだから、喜びなさい。

62. あなたがたは、諸国民に私の教えを告げ知らせる使者となり、私があなたがたをその受託者に任命した神聖なメッセージを人類に啓示する者となるべきである。なぜなら、このメッセージにおいて、すべての使者と「印された者」たちは霊的に一つに結ばれるからである。あなたがたは、魂のあらゆる賜物と能力が解き放たれる時を人類に告げ、それらを発見し、開花させ、活用する方法を教えるべきである。

63. 靈感、直感、言葉の賜物、癒やし、預言、啓示、靈的な対話——これらは、わが民に注がれる賜物であり、すべての人々を新たな人類へと変えるであろう。しかし、祈り、信仰と勇気を持ち、あなたがたが同胞の間に平和、正義、そして隣人愛を溢れさせるようにしなさい。

64. わたしの使徒たちは、あらゆる場所、あらゆる組織の懷において、その使命を果たすことになる。彼らの心は、自らが果たしている靈的な使命を認識しないだろうが、彼らの靈魂は、自らの行いのすべてを完全に自覚している。靈魂は、心にこの地上で果たすべき使命を示し、理性には実現すべきすべてのことを明らかにするだろう。

65. このメッセージを受け取ったあなた方の責任は、なんと大きいことか！ なぜなら、あなた方は、聞いたことを証しし、靈性化の模範となり、教訓となるために備えなければならないからだ。

66. 人々に福音を宣べ伝えるために口を開く時が来たとき、あなたがたの間にはいかなる曖昧さもあってはならない。そして、あなたがたの行いにおいても、言葉や文章においても、真実と寛大さが表れなければならない。

67. 今、わたしはあなたがたに問う。あなたがたは、人々の心呼び覚ます「真理」の響きを帯びた鐘の音で人類を目覚めさせ、目覚めの合図を鳴らす者たちになりたいのか。それとも、あなたがたの地上での痕跡が最後の一筋まで消え去るまで待たせ、世界の諸民族にこの証しを伝える役目を新しい世代に委ねたいのか。

68. あなたがたは、これほど高き使命を果たす力があるかどうかを時に疑うこともあるが、私があなたがた一人ひとりを遣わしたとき、私は決して間違っていなかった。

69. あなたがたは、自らの弱さを知っているがゆえに、選ばれ、遣わされたことを疑っている。しかし、私はこう言おう。それらの弱さは、私が遣わした靈魂にあるのではなく、地上で試練を受けるための肉体にこそあるのだ。

70. 靈魂が肉体に対して優位に立つ時が必ず訪れ、悟りの光がすべての知性に輝き渡るだろう。その時、あなたがたは互いに一つとなる。なぜなら、ただ一つの意志だけが存在するようになるからだ。それは、新しいイスラエルの民にふさわしい子となるために、父によってあなたがたの魂に刻まれた戒めに従うという意志である。

71. 師の神聖な光は、全世界に広がっている。私は、あなたがたが主の食卓に着くことができるよう、私の「働き手」たちに呼びか

けを送る。従順と謙虚さを示し、ここに来て養われ、あなたがたの中に愛と理解と慈悲が宿るようにしなさい。

72. 至高の師である私は、私の「働き手」たちに完全な模範を示す。私はこの第三の時代に、弟子たちを準備し、あなたがたが律法を全うし、あなたがたに固有の慈悲を実践する心となるようにす。

73. 愛する弟子たちよ、私はあなたがたのもとに来て、私の愛をもってあなたがたを励まします。それは、あなたがたが私を感じ、私を知ることができるように、また、あなたがたが誰からその言葉を聞いているのかを知り、それを研究し探求することで理解できるようになるためです。

74. 愛する「働き手」たちよ、これに深く没頭しなさい。なぜなら、人類の中に闇——憎しみ、貪欲、虚栄——が広がっているからだ。しかし、あなた方には大きな力がある。病める者、「らい病人」、不信仰者が、この時代に「神の言葉」が伝えるものを認識できるよう、私の業を語らなければならないのは、あなた方なのだ。

75. あなたがたは世の光である。しかし、あなたがたは人々の間で輝いているにもかかわらず、まだ自分自身を知らず、人々もまたあなたがたを認識していない。

76. 不信仰な人類は、私が「第二の時代」に与えた証拠や奇跡を見ることを期待しているため、私の力を否定しようと口を開く。人々は、自らの魂を高揚させる術を知らず、祈ることも懇願することも望まなかったがゆえに、偶像崇拜を助長している。

77. 私があなたがたに祈ることを教えたとき、私はあなたがたを真理と向上と準備の道へと導いた。私はあなたがたにこう言った。「人々に、目を覚まし、祈ることを教えなさい。」

78. よく考え、深く探求しなさい。そうすれば、師があなたがたの卑しさの中に現れ、光と赦しと祝福を授けるためであり、決してあなたがたを見捨てたことはないことを理解するだろう。私は、あなたがたの十字架の重荷を軽くし、慰めを与えるために、あなたがたと共にいるのだ。

79. 私は、あなたがたが畑を耕し、管理できるよう、畑と農具をあなたがたに託した。

80. 人類は、わたしがあなたがたに託した真理を渴望し、飢えている。人類は闇へと、深淵へと、破滅へと向かっている。しかし、さまざまな言語、人種、肌の色を持つ人々の中に、わたしを愛する心がある。わたしは、その違いに目を向けず、ただ魂たちへと呼びかけを送るだけである。

81. イスラエルよ、彼らに道を示し、私の教えを伝えなければならぬのは、あなたなのです。

82. あなたがたが持つ恵みと、わたしの言葉の価値を悟りなさい。わたしがあなたがたに託した使命を果たすために、一つの心、一人の人間、そして一つの意志をもって、働き始めなさい。

83. 互いに愛し合い、団結し、謙遜の模範となりなさい。わたしの言葉を伝え、健康をもたらし、慰めを与え、ラザロを墓からよみがえらせ、盲人の目を開き、足の不自由な者を癒やしなさい。そうすれば、人類はこれらの霊的な奇跡を通して、わたしを認めるようになるだろう。

84. 1950年を過ぎれば、あなたがたはもはや代弁者を通じて私の声を聞くことはなくなるだろう。そしてその時、人間の知性を通じて現れたのは、師であり、聖霊であったことを悟るだろう。

85. 今日、私は父としてあなたがたに私の恵みを、師として私の教えを与える。私はその響きよい鐘の音であなたがたを呼び寄せ、様々な道からあなたがたを選び集め、この時代にあなたがたを人々の導き手とするためである。私は、あなたがたが果たさなければならない使命を思い出させ、象徴や姿を通じて私を見ることができるよう、あなたがたの霊的な目を鍛えてきた。また、あなたがたが私から受けた啓示について人類に証しができるよう、言葉の賜物を与えた。

86. あなたがたは私の選ばれた者たちであり、私はこう言った。「あなたがたが行くところどこにでも、光の軌跡を残さなければならない。」しかし、その軌跡を残すためには、あなたがたは自らを新たにし、準備を整えなければならない。

87. もしあなたがたが私の教えに従うならば、この世の何を恐れることがあろうか。私は、あなたがたが私を理解し、私に従うことができるように、極めて明確に語っているのだ。

88. わたしがあなたがたに教えを授けるのは、あなたがたが世に真理の言葉を伝え、わたしの臨在を世に実感させるためである。あなたがたの心の花を私に捧げ、善行の芳香を私の御霊へと昇らせ、隣人にとって良き模範となりなさい。そして明日、あなたがたがもはやこの声を通じて私の声を聞くことができなくなったとき、私の良き弟子として、人類にこの道を示すために旅立ちなさい。

89. 人々はわたしの業を歪め、迷い込んでしまった。しかし、あなたがたは自らを鍛え、もはや偶像崇拜に陥ってはならない。なぜなら、人の手によって作られた像は、語らず、感じず、聞くこともないからだ。わたしの本質が、あなたがたと共にいるために物質化

する必要があるというのか。真理はいつの時代も勝利する。私は、あなたがたもまた私について証しができるように、常に真理の言葉を授けてきたのだ。

90. 誘惑は、まるで猛禽類のように、あなたがたの賜物を奪おうとします。しかし、あなたがたは信仰の自由がある時代に生きています。抑圧の時代はすでに終わったのですから、この自由を活用し、人間の悪意や嘘の奴隷になってはなりません。

91. この教えを愛をもって伝えてください。愛こそが、私あなたがたに与えたものだからです。私あなたがたに私を信じさせるために鞭を使う必要はありませんでした。もし私がそうしていたなら、もはやあなたがたの父であり、神ではなくなっていたでしょ。

92. 世の道や小径において、あなたがたは苦痛に遭遇してきた。今、私の真理があるこの道を、霊的な眼差しでその栄光を見つめよ。私はあなたがたに鍵と賜物と力を託した。人類があなたがたを私の弟子として認めるよう、これらすべてを善用せよ。

93. 今こそ、あなたがたが準備を整えなければならない時である。そうすれば、もはや声の媒体を通してわたしを聞くことができなくなったとき、あなたがたは自らの使命の成就に取り掛かることができるだろう。わたしは決してあなたがたから離れることはない。あなたがたが困難な使命を果たせるよう、わたしはあなたがたに靈感を与え、霊から霊へと語りかけるであろう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 260

1. あなたがたは今、私の新たな教えを聞き、忘れていた私の教義の法典を受け取り、また、人々によって隠されていた私の啓示の書を探し求めるために、私のもとに戻ってきている。

2. 私は、命の書の新たな一章、すなわち第六の封印を、あなたがたの前に開いた。そこには無限の知恵が込められており、今、私はそれを簡潔かつ分かりやすい形であなたがたに啓示している。この啓示は、あなたがたがこれまで解き明かすことができなかった秘密を明らかにするものである。

3. 第六の封印は完全に開かれており、私はそのページを一つずつ、あなたがたの目の前に示している。

4. あなたがたの準備が十分に整い、わたしに耳を傾けたときはいつでも、あなたがたは偉大な神の啓示を得てきた。あなたがたは『知恵の書』の相続人である。それゆえ、あなたがたが備えをなすとき、第六の封印の内容があなたがたの中に注がれ、あなたがたは、聞いた声が私の声であったことを証しする証人となり、その行いを通じてそれを証しすることになるのだ。

5. もし父が御自身を子供たちに明らかにされなかったとしたら——父は彼らに完全な理解と完全な愛を期待できるだろうか。私が時を経て、あなたがたの霊に対して、ますます簡潔に教えを明らかにしてきたことを思い出してほしい。

6. あなたがたは聖霊の時代に生きているにもかかわらず、まだわたしを完全には認識しておらず、わたしが誰であるかについて完全な理解も持っておらず、また、わたしがあなたがたに啓示したことも理解していない、と申し上げなければなりません。しかし、あなたがたの愛は、師の言葉に励まされながら、人生の旅の目的地へと導いてくれるでしょう。

7. あなた方は心の砂漠を旅しており、その道中、神聖な灯台の光に照らされています。足の裏を焼くのは熱い砂ではなく、顔の肌を傷つけるのは太陽の光でもありません。あなた方を苦しめているのは水やパンの不足ではありません。それでもなお——犠牲や苦難、不運に満ちたこの人生そのものが、まさに砂漠のようなものであり、あなた方はゆっくりとそこを横断しつつ、平和の王国にたどり着くという確固たる希望を抱いているのです。

8. エリヤは、この時代に民の先頭に立ち、道を示し、闘いの中で民を励ます導き手である。

9. この旅路は、あなたがたの魂に進歩と完成をもたらすだろう。しかし、次のことを認識せよ。第一の時代にはあなたがたはまだ見習いであったが、第二の時代には弟子となり、そしてこの時代には、師となるための修練を受けているのだ。

あなたがたは警戒しなければならない。人々は、ある者たちが科学的だと見なすであろう私の業を探求し始めるからだ。そのとき、あなたがたは、霊的な教えがいかにして世界を変容させるかを彼らに告げ、隣人への愛の行いによってその証しをなすべきである。

10. わたしは人間の科学に反対するものではない。なぜなら、科学とは知識であり、認識であり、光だからである。しかし、わたしの教えはあらゆる人間の認識を超越している。わたしの言葉において、わたしはあなたがたに、霊魂について、霊的なものや神聖なものについての知識について、そして物質や実体というものを超えた、より高次の生命についての知識について語っている。まことに、あなたがたに告げよう。人類の幸福のために人々が発展させてきた科学を、私は祝福する。

11. 今こそ、魂や科学について多く語られる時代である。科学は、それを研究するために肉体を鍛える者たちの特権に留まらない。なぜなら、それは神から授かる霊魂に由来する光だからである。

12. わたしの神聖な教えは、魂を完成させることを教える、より高次の科学である。そのために、わたしはあなたがたに脳と心を与えた。そこにおいて、あなたがたの思考と感情を高めさせるためである。

13. 私が今、あなたがたに与えている教えには限界がなく、すべてを包含し、無限である。その教えの中で、あなたがたは霊的な生活と物質的な生活に関する真の知識を見出すだろう。

14. 私は、あなたがたが私の教えを理解し、その奥義に迫る能力を持っていると見ています。物質に関する科学を通じて、あなたがたは物質的創造を支配する法則——あなたがた自身の体の中に凝縮されている法則——を知りました。

しかし、かつてはあなた方にとって謎であったものを知ったとき、あなた方は、あの世の入り口に立っていることに気づきました。そこでは、絶えずあなた方に語りかけようとしている父の心を感じ取ったのです。私の教えを知っているなら、あなた方に未知のことが何があるのでしょうか。

15. それゆえ、私はあなたがたに告げる。私の教えは、この世の学者たちの前でも、あなたがたの心が挫けることのないよう支えてくれる、より高次の知識を与えるのである。

16. 自然界やあなた方の人生におけるあらゆる出来事の意味や意義を理解するために、科学の書物を参照する必要はありません。あなた方にとっては、知性を整え、心を清め、口からインスピレーションが溢れ出るようにするだけで十分です。

17. あなた方への私の愛は、たとえあなた方がどれほど未熟であっても、私の王国を差し出し、あなた方に私の血を与えるために降りてきたほど、計り知れないほど大きいのだ！

18. 私が今教えているこの民は、それゆえに他の民より偉大になるわけではないが、私が彼らに託し、啓示した事柄に対して、より大きな責任を負うことになる。あなたがたの使命は、あなたがたが持つものを他の人々と分かち合い、彼らをあなたがたと同じレベルに引き上げることにある。そうして、あなたがたは、受け取る者としては最初であったにもかかわらず、謙虚さをもって最後となることを成し遂げられるのだ。

あなたがたの後に来る者たちが、あなたがたよりも大きな進歩を遂げることを恐れてはならない。あなたがたが与えるほど、あなたがたの知識は増していく。一方、もしあなたがたが父から受けたものを何も伝えなければ、あなたがたの魂は裸のままであり、心は空っぽになり、手には力がなくなるだろう。そうすれば、あなたがたは宝を失い、その書は閉じられたままとなる。あなたの口は沈黙したままで、もはや霊的な教えを語ることはなくなり、イエスがあなたに託した癒しの香油を失うことになるでしょう。

19. 人々に対するあなたがたの使命は、平和と愛の使命である。この使命は、あなたがたの霊が、あなたがたが私の律法の幼き弟子であった「第一の時代」にすでに持っていたものであり、その時代、私はあなたがたを道具として用い、あらゆる時代の人々に教えと模範を与えたのである。第二の時代には、あなたがたはイエスの弟子であった。その頃、あなたがたは、十二使徒が聞き、全人類が証しとなるよう広めた言葉を、私の口から直接聞いていたからである。それゆえ、私が去った後、多くのキリストの弟子たちと多くの殉教者たちが現れたのである。

20. 人々よ。私が聖霊として来るこの時代において、私は、神性との直接の対話ができるよう訓練された師として、あなた方をこの世に残していく。

21. ほとんどの人間は、人間の知性によってわたしを聞くことはないだろうが、あなた方を通してわたしの教えを受け取るだろう。私がこの世であなたがたに御言葉を伝えるというこの形を、永遠に廃止する時がすでに近づいている。しかし、私の声を聞いていなか

った多くの民が、あなたがたを通して私の声を聞くことになる。今日、私があなたがたと結ぶ契約は、私の血ではなく、私の光によって封印される。

22. あなたがたは、何をすべきかを人々に尋ねる必要もなく、また彼らの質問に対して言葉に詰まったり、黙り込んだりすることもないだろう。あなたがたは、あなたがたに語りかけ、靈感を与えてくださる師をその内に宿している。あなたがたの祈りは、奇跡を起こすのに十分な力と権能を授かるだろう。

23. 見よ、世界は大きな苦難に直面し、イエスが「第二の時代」に人類のもとへ戻ると約束されたことを思い返し、また、この時代を揺るがす出来事が、私の到来が間近に迫っている兆しであることを願って、昔の預言者たちの言葉を研究している。

24. もしあなたがたが、わたしの業の信奉者として、周囲の人々に対して自分たちが劣っており、軽蔑されるべき存在だと感じるならば、人々はあなたがたを愚かで無知だと見なすだろう。

25. 私が「無知な者たちを通して自らを現す」と言うのは、あくまで表現上の言葉に過ぎない。なぜなら、私の靈感を受け入れる脳は、魂の中に光を現し、その光こそが知恵だからである。

26. 改めて言おう。戦え！なぜなら、魂が成長の途上にある限り、誘惑にさらされ続けるからだ。それゆえ、私はあなたがたを教え導き、悪しき傾向を克服できるよう力を与えるのである。あなたがたの魂が強ければ、それは理性に力を与え、心に確固たる意志を与え、肉の欲望を克服することができるだろう。人に光が欠けていると、その魂は成長しない。そうになると、人生のあらゆる浮き沈みがその心に強烈に作用し、その人は嵐の真っ只中で転覆する船のようになる。

27. 人が魂の面で準備が整っていれば、それはあたかも、誘惑の陰陰さに対して、破壊不可能な鎧を身に着けているかのようだ。

28. 私がこれらの教えをあなた方に明らかにしたのは、もしあなたがたが道中で一瞬でも転んだりつまずいたりしたとき、その過ちに気づき、再び改心の道を求めることができるようにするためである。

29. あなたがたが謙虚であれば、あなたがたを待ち受ける人生において、霊的な富は増し加わるだろう。そうすれば、あなたがたは、存在の中で最も美しい感覚をもたらしてくれる平安を得るでしょう。そして、あなたがたの心には、父に仕えたいという渴望が生まれるでしょう。それは、父が私の創造したすべてのものの忠実な守

護者であり、苦しむ者にとっては慰めであり、安らぎのない者にとっては平安であるからです。

30. こうした瞬間に私の臨在を告げているのは、私の言葉だけではありません。私があなた方に与えるその平安のただ中で、私を深く感じ取っているのは、あなた方自身の魂なのです。

31. 師はあなたがたと共にいます。あなたがたの魂は、わたしの天の食卓に着席しました。まことに、あなたがたに告げます。この食卓には特権的な席などありません。すべての人々は、わたしの慈悲に包まれているゆえに、皆等しいのです。

32. 私の愛は、あなたがたの本質を貫き、私があなたがたを愛するようにあなたがたも隣人を愛し、あなたがたの心の中に「最初」も「最後」の席も存在しないようにするためである。もしあなたがたがすでに諸国、諸州、諸村へと旅立っていたならば、愛も慈悲もない人類に出会い、至る所で苦痛と悲慘を発見することになっただろう。至る所で、あなたがたは私の種を蒔くのにふさわしい土地を見つけるだろう。

33. 人類は、私がどのような形で現れたのかを知らずに、私の存在を感じ取っている。そして、恐怖に満ちた祈りの中で、私だけが彼らを救うことができると私に告げている。私が彼らに私のパンを与えれば、彼らは愛への飢えと渇きで滅びることはない、そして私の光だけが彼らの葛藤に解決をもたらすのだと。彼らの苦しみと絶望に満ちた声は、私にこう問いかける。「なぜあなたは来ないのですか？ なぜ、苦しみの中であなたを呼び求め、懇願する者の元へ近づかないのですか？」

34. 彼らは、日々私を聞き、私の御霊の臨在を受け入れている人々がいることを知らない。その御霊は、その恵みによって、社会から疎外された者たちを神性の僕へと変容させるのである。

35. もし彼らが、私がまもなく再び去っていくことを知っていたなら、慰めや霊的な言葉、一筋の光を必要としている彼らに対して、あなたがたが無関心であったことを理由に、あなたがたを容赦なく「恩知らず」だと断じることでしょう。

36. 私は今、私が去った後の時へとあなた方を備えさせている。それは、人生の浮き沈みにもかかわらず、あなた方が団結し続けられるようにするためである。なぜなら、「御言葉」は霊的にあなた方の内に響き続け、大きな靈感をもたらしてくれるからである。あなたがたが霊的な啓示について語り合うために集まるとき、私から神聖なインスピレーションを受け取り、その瞬間、師の心の温もりと、あなたがたの頭の上に置かれるその手の優しい重みを感じるで

しょう。その時、あなたがたは、私の愛に満ちた声を聞き、そこから私の平安が与えられるかのように感じるでしょう。

37. 私は、あなたがたが迫害されたとき、人々の間で奇跡的な癒やしを成し遂げられるよう、一滴の癒やしの香油を授ける。なぜなら、大流行の際、異質で科学にも知られていない病気が蔓延するとき、私の弟子たちの権威が明らかにされるべきだからである。

38. わたしは、あなたがたに一つの鍵を託します。それによって、あなたがたは最も錆びついた錠前、すなわち最も頑なな心さえも開くことができ、さらには刑務所の門さえも開いて、無実の者に自由を与え、罪人を救うことができるでしょう。あなたがたは常に平安と、わたしへの信頼のうちに生きるだろう。なぜなら、どこへ行こうとも、わたしの天使たちがあなたがたを守ってくれるからだ。天使たちは、あなたがたの使命の遂行を自らの使命とし、あなたがたを家庭や病院、刑務所、不和や戦争の渦巻く場所――あなたがたがわたしの種を蒔くために向かうあらゆる場所へと付き添ってくれるだろう。

39. そうして、第六の封印の光が力強く輝き出すでしょう。それはまるで宇宙的な松明のようで、その光はすべての人に見られるようになり、私の教えの名は人類の間に知られるようになるでしょう。

40. 私がこの時代に自らを現したこの地の一角は、新しいエルサレムの反映となるだろう。新しいエルサレムは「十二の門」を開き、大群となってやって来る異邦人たちに立ち入りを許す。彼らは、この時代に師がどこにおられたのかと尋ね、師が成し遂げた奇跡や、また、その言葉を探求し、かつての弟子たちを観察するために、その言葉の証拠を求めるであろう。多くの人々が、私が本当にあなたがたの中にいたかどうかを確かめるために、過去の時代の預言が記された聖典を持ち込むだろう。

41. 私の弟子たちの中には、今の場所に留まる者もいるだろう。しかし、他の者たちは他の国々へと旅立たねばならず、使徒や宣教師として旅する道中、破壊と死がその足跡を残した戦場を目にすることになる。彼らは、死の街、瓦礫、そして悲惨な光景を目にするだろう。そして、「死者」たちを信仰と光と愛の生活へと連れ戻すための戦いが始まる。しかし、もし人々が私の「働き手」たちの真実性を疑うならば、私は彼らを通して奇跡を行う。そうすれば、不信仰者たちは改心し、涙を流し、大勢の人々がその痛みをもって、これらの使者の心に深い共感を抱くことになるだろう。

42. その時、あなたがたは、誰に呼ばれ、誰に迎え入れられるのかは分からない。しかし、どこへ行こうとも、誰のもとで働こうと

も、常に謙虚さと柔和さを身にまとい、語らなければならない。あなたがたは、過去の時代の律法、啓示、教えを解釈し、またこの時代に聖霊によって啓示されたものを解き明かすことになる。あなたがたは比喻を用いて語るが、私の比喻やたとえ話を説明する術を心得ていなければならない。そうすれば、大人は理解し、子供たちは目覚め、年配者たちは頭を悩ませることなく済むのだ。

43. この御言葉に立ち返る者たちは、「働き人」たちに加わり、私のために人々の心と魂を勝ち取るために旅立つであろう。」

44. 論争は激しくなるだろうが、実り多いものとなる。なぜなら、その痛みがあらかじめ人々の心を実りあるものにしてくれるからだ。

45. わたしの教えによって起こる変化を認識しなさい！

46. 物質的な力は無に帰し、科学は混乱し、高慢は屈服させられ、情熱は抑え込まれるだろう。

47. すでにその発達によって開花している人間の魂は、まもなく私の教えの啓示を理解し、それを自らのものとするだろう。物質主義、私利私欲、虚栄心の背後には、私の到来を待ち望んでいる靈魂が存在している。

48. あなたがたが蒔く種が、私があなたがたに託したものと同じくらい純粋であるよう、心を配りなさい。

49. あなた方は、自分たちとは異なる考え方や感じ方、生き方をする人々に遭遇するだろう。さらに、彼らの慣習、生活環境、法律、教え、儀式は、彼らの心の奥深くに深く根ざしている。

50. あなたがたは、世界観や教えをめぐる争いの証人となるだろう。ある者たちは私の律法に部分的に従う一方で、他の者たちはそれらの原則から完全に背を向ける。私は、彼らが互いに対立し、争うことを許す。

51. この対立の中で、あなたがたは、主要な宗教団体が、愛や慈悲よりもむしろ暴力や不正を多用する様子を目にするだろう。あなたがたは、彼らが弱者を自分たちに縛りつけようとする企みを見抜くことになる。

52. 真理には、まさにその真理に忠実な者たちを守るための独自の武器があるため、あらゆるものに崩壊の兆しが見られるだろう。しかし、人々の間に「真理はどこにあるのか」という疑問が生じたとき、あなたがたはこう答えるべきである。「愛の中にある。」

53. 弟子たちよ、あなたがたの喜びは大きい。なぜなら、わたしの言葉がまだあなたがたと共にあり、この言葉こそが、あなたがたに命を与え、試練の時にあなたがたを支え、あなたがたを養ってき

たからである。あなたがたがこの言葉と親しんだとき、傷が癒え、人生が変容していくのを体験したはずだ。

54. 物質的なものに関わるどれほどの野心が、あなたがたの心の中で消え去ったことか。それは、霊的な種を蒔いて善行を成し遂げることで、人生を活かす機会を見出したあなたがたの魂にとって、大きな喜びとなった。あなたがたは過去を振り返り、かつての自分と今の自分を比較する。その過程で、自分が成し遂げた霊的な進歩に気づき、心の底からわたしに感謝するのだ。

55. あなたがたが過ちを犯したとき、私は他の人々にあなたがたのことを告げ口することなく、愛情を込めてあなたがたを正してきた。なぜなら、私は、世の人々があなたがたの欠点を見て、あなたがたを正すようなことを望まないからだ。世は残酷であり、その正義には憐れみなどない。

56. 私の霊界があなた方を正すことを許しなさい。彼らはあなた方の最良の友であり、愛における兄弟姉妹であり、自らの愛の行いを大々的に宣伝したりはしない。彼らは、どれほど多くの深淵や危険からあなた方を救い出し、どれほど多くの悪い決断からあなた方を思いとどまらせたことか。彼らは、あなたがたの心の情熱が、あなた自身に対する断罪となりかねない言葉として表に出ないように、何度あなたがたの口を封じてきたことか！

あなたがたが、善だと思い込んでいた悪しき企てに失敗したとき、彼らはその後、あなたがたのために正しい道を切り開いてくれた。彼らは、看護者であり守護者として、たゆまずあなたがたの傍らに寄り添っている。わたしが語りをやめたとき、彼らもまた、もはやその存在を明らかにすることはなくなるだろう。しかし、これらの存在たちから愛をすべて奪ってはならない。彼らはあなたがたに非常に近くあり続け、これからも助けを与え続けてくれるからだ。

57. 私がもはやあなたたちに語りかけなくなり、私の霊界もそうなくなるからといって、私の業が終わるわけではない。それどころか、その時こそ、父との完全な対話の時が訪れ、あなたたちは霊的に父の声を聞くようになるのだ。

58. 私の言葉は、モーセがシナイ山で聞いたように、嵐の轟音の中に具現化された形で聞かれることもなければ、第二の時代にイエスの口から語られたような人間的な形でもなく、また、あなたがたが今この時代に聖霊から聞いたように、人間の声を通じて聞かれることもない。準備を整える者は皆、霊から霊への対話を得るようになる。それは、ごく一部の者だけの特権ではない。

59. 魂たちが互いに意思疎通を図り、自分たちがそこから生まれた霊の言葉を理解できるというのは、最も自然なことである。

60. 霊化は、眠っていた賜物や能力の目覚めをもたらし、心のあらゆる繊維を繊細に感じ取る感性を育むだろう。

61. 私の臨在が感じられるようになるでしょう。あなたがたが私の業について語る時、私から靈感を受け、計り知れない知恵に満ちた言葉を口にしてください。それは、多くの知識を持つ人々でさえも驚かせることでしょう。この交わりにおいて大きな進歩を遂げる者たちは、単なる言葉や文、あるいは考えを受け取るだけでなく、完全さに満ちた説教そのものを受け取るようになるでしょう。あなたの方の手は、聖霊の靈感を受けた使徒ヨハネの手のように、「金の筆」のように書くことができるようになるでしょう。

62. もしあなたがたが、不信仰者や律法学者、司祭たちに囲まれ、私の霊に満たされていると感じたとしても、あなたがたの口を通して語っているのが父であることを、誰にも言ってはならない。しかし、私は引き続き、あなたがたを通して人類に語りかけるであろう。この交わりの際、あなたがたの目は開かれ、魂は恍惚とし、その瞬間に唇が明らかにするものに驚嘆するであろう。

63. 幻視による預言の賜物もまた解き放たれ、まだ明らかにされていない秘密を明かし、未来を見させてくれるだろう。しかし、幻視者は決して、仲間たちを裁いたり、その欠点を暴いたりしてはならない。

64. これはある種の「霊から霊への交信」となるだろう。それを通して、私は再びあなたがたに告げる。1950年に、私の言葉があなたがたの間で終わっても、私の業は終わらない。その目的、すなわち全世界におけるその使命は、今後も続いていくのだ。

65. あなたがたは備えをしておきなさい。そうすれば、集まるたびに――それがこれらの集会所であろうと、あなたがたの家庭であろうと、あるいは大自然の中であろうと――その集まりにおいて、霊的に私の臨在を感じることになるだろう。

66. しかし、警戒しなさい。偽りの弟子たちも現れるだろう。彼らは、父と直接対話していると大々的に宣伝し、誤った指示や啓示を伝える者たちである。わたしは、あなたがたに、真実と欺瞞を見分け、その実によって木を見分けるよう教えてきた。

67. 私は両者を試練にさらす。そうすれば、あなたがたは、真の弟子たちがその信仰によって試練に耐え抜き、偽りの弟子たちがその弱さゆえに倒れるのを目にするだろう。

68. 私が最後の説教を行うとき、私の教えを活かせなかった者たちを見て悲しむだろう。しかし、私の別れの言葉の意味を理解している者たちについては、彼らの成長を見て満足を感じるだろう。

69. わたしのもとへ至るための道しるべとして、わたしはあなたがたに祈りを遺す――それは、口先だけで唱える祈りでも、歌として口ずさむ祈りでもなく、清らかな思いと高潔な感情に満ちた祈りである。

70. もし、こうした行いのためにあなたがたが迫害を受けることがあっても、恐れてはならない。もし、祭壇や像の前にひざまずかないという理由で裁かれることがあっても、同様に恐れてはならない。あなたがたが語るべき時は必ず訪れ、真理によって人々を納得させることになるだろう。あなたがたの神への崇拝は、公の場で行われるものでも、外見的な効果を狙ったものでもなく、内面的かつ精神的なものであることを示すことになる。人々はこれらすべての中に誤りを探そうとするが、見つけることはできないだろう。

71. 粘り強くありなさい。そうすれば、偶像崇拝者たちが自らの過ちに気づき、自らの手で偶像を破壊する様子を目にすることになるだろう。

72. まことに、わたしがあなたがたに告げる。天と地が滅びる方が、わたしの言葉が成就しないことよりも先である！

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 261

1. わたしの言葉は明快であり、その簡潔な表現は、教養のある者にも、教養のない者にも、説得力を持って心を動かす。その明快さゆえに、あなたがたは、以前は理解できなかった、あるいは受け入れたくなかった多くの教訓を、容易に理解することができた。

2. 今日、あなたがたは、霊的なものを感知するために感情の高ぶりを必要とすることなく、人間が自分の神を認識できることを知っている。今日、あなたがたは、限られた脳を持ちながらも、神と人間との完全な交わりがどのように現実のものとなるかについて、想像を巡らせることができることを知っている。それは、あなたがたが、私の代弁者たちの知性を通じて、私の啓示の真実性を確信しているのと同じことである。

3. わたしに耳を傾けた者たちの中には光が差し込んだため、もはや偽りや不浄なものが彼らの心に入り込むことはできない。

4. 今こそ光の時代であり、人々はただ信じるだけでなく、私の真理を理解し、その根拠を明らかにし、それを感じ取るようになるだろう。

5. 私の教えの目的は、誰もが正当な理由なくしてこの世に生まれてきたわけではないこと、その理由こそが神の愛であること、そしてすべての人間の使命は愛の使命を果たすことにあるということ、すべての人に納得させることにある。

6. 太古の昔から、いつの時代も、人々は自問してきた。「私は誰なのか？ 誰のおかげで生きているのか？ なぜ私は存在するのか？ 何のためにここに來たのか、そしてどこへ向かうのか？」 彼らの抱く不確実性や認識の欠如の一部については、私の説明や、私が長きにわたりあなたがたに啓示してきた事柄についての考察を通じて、答えを得てきた。しかし、すでにすべてを知っていると思い込んでいる者たちもいる。だが、私はあなたがたに告げる。彼らは大きな誤りに陥っている。なぜなら、神の知恵の書に秘められているものは、人々に啓示されない限り、人間が発見することは不可能だからである。そして、この神の知恵の書には多くのことが記されており、その内容は無限である。

7. この世界は、真理の認識においてさらなる一步を踏み出すことになる。突然、混乱に見舞われるだろうが、その後、事態は落ち着き、理解に至るだろう。

8. 人間は常に、真理の認識を得るために奮闘してきた。当初、人間はすべてを自然の仕業と見なししていたが、後に観察と考察を通じ

て、これほど多くの奇跡や完璧な業が、無から生じ得るはずがないという見解に至り、創造的な力、知性、そしてより高い力が存在しなければならないと悟った。この確信によって、人々の信仰は強められ、彼らはすべての被造物を生み出した「その方」を崇めるために、様々な信仰や儀式を創り出した。

9. 人々の心には新たな疑問が湧き上がった。「神とは誰なのか？ 神はどのようなお方なのか？ 神は本当に存在するのか、それとも存在しないのか？」人々は、私の存在や本質について、こうした疑問やその他の問いを投げかけ、私は常に、あらゆる呼びかけや問いに答えてきた。

10. 神は人類の黎明期から、人々に多くの証拠と啓示を与えてこられた——物質的で、触れることができ、目に見える現れを、当時の被造物たちの純真さ、無知、そして素朴さに応じて与えてこられたのである。そして、時が熟したとき、私はイエスを通してこの世に姿を現し、人々のあらゆる問いに自ら答えるために、あらゆる疑念を払拭し、彼らがもはや無知で無邪気で愚かな幼子ではなく、神の御霊の光のおかげで、愛と認識によって高められ、自らの本質、使命、そして存在の理由を自覚した偉大な弟子、神の子となるべき時代に向けて、彼らを準備するためであった。

11. このように、ある者たちは人生で勝利を収めるために常に神の加護と助けを求めてきた一方で、別の者たちは知性が発達するにつれて、自分たちは自立しており、力強く、賢明であると自負するあまり、傲慢さを増していった。彼らは、独創的なアイデアを思いつき、自給自足できると自負していたのである。

12. この人類には、常にスピリチュアリストと唯物論者が存在してきた。また、両者の間には世界観をめぐる争いがあり、それぞれが自分こそが真理を握っていることを証明しようと戦ってきたのである。

13. この時代に私が霊的な存在として現れたのは、あなた方を和解させ、互いに和解するよう導き、あらゆる疑問に答え、霊的なものを擁護してきた者たちも、物質的な生活の中のみ真実があると説く者たちも、どちらも正しいわけではないことを証明するためであった。前者は狂信者として罪を犯し、後者は無知ゆえに罪を犯した。彼らは、どちらの側もその真実の一部を握っていることに気づかなかった。しかし、彼らはそれを調和させ、互いに和解させ、愛をもって一つに統合することを理解していなかったのだ。

14. あなたがたには、互いに理解し合うことが不可能に思え、これほど壮大な調和などあり得ないと信じている。しかし、まことに

、わたしはあなたがたに告げる。この調和が現実のものとなることを、わたしはよく知っているのだ。

15. そうでなければ、あなたがたは、神があなたがたを創造された完全な姿ではなくなり、父のすべての御業がそうであるように、正義と正しさをもって行動するための、良心におけるわたしの光をもはや持ち得なくなるだろう。しかし、その光、すなわちあなたがたが「霊」と呼ぶ神聖な部分が、人間を通じて、人間に与えられた自由意志の全過程を通り抜け、人間を刷新、回復、そして魂の向上という業へと導くためには、まだしばらく待つ必要があるのだ。

16. あなたがたは、わたしをその中に迎え入れるために、自分の心を聖所として整えた。その前に、あなたがたは良心の点検を経て、多くの目から悔い改めの涙が流れた。

17. わたしはあなたがた全員の声を聞き、すべての人を祝福す。

18. 試練の中で弱さを露呈し、苦しみを感じた者が誰であるか、また、敵を赦すと私に誓いながら、それを実行しなかった者が誰であるか、私は知っている。しかし、その者が私のもとに戻り、私の言葉を聞こうとしたとき、直ちに良心の呵責を感じ、謙虚に過ちを認め、私に新たな機会を求めたのである。

19. あなたがたが二度とつまずかないよう、私があなたがたを強くし、限りない忍耐と寛容をもってあなたがたを導き、そして、あなたがた一人ひとりに、理解力、努力、意志力、そして進歩を証明する新たな機会を与えることを知ってください。

20. 誠実な悔い改めは、多くの汚点を洗い流し、あなたがたの重荷を軽くし、心に平安をもたらすことを悟りなさい。そして、あなたがたが重荷から解放されたと感じたとき、祈ることのない多くの人々がそれでも苦しんでいることを思い起こし、私の癒しの香油がすべての病者や苦しむ人々に注がれるという確固たる確信を持って、彼らのために祈ってください。

21. わたしは、何時間も続く祈りをあなたがたに求めているのではなく、形式は簡素でありながら、その霊性によって深みのある、短くも心からの祈りを求めている。そのような瞬間の数だけで、わたしはあなたがたに私の慈悲を授けるのに十分である。

22. 祈りとは、私が人間に、私の神性との対話を交わすために授けた霊的な手段である。それゆえ、祈りは初めから、あなたの方の中で、渴望として、魂の必要として、試練の時の避難所として現れてきたのである。

23. 真の祈りを知らない者は、それがもたらす至福を知らず、その中に秘められた健康と恵みの源を知らない。その人は確かに、私

に近づき、私と語り合い、自分の願いを私に捧げたいという衝動を感じる。しかし、霊性が欠けているため、ただ自分の思いを天に向けるという捧げ物はあまりにも貧弱に思え、すぐに何か物質的なものを探し求め、それを私に捧げようとする。なぜなら、そうすることで私への敬意をよりよく表せると考えているからだ。

24. このようにして、人々は偶像崇拜、狂信、儀式、そして外形的礼拝に陥り、それによって自らの魂を窒息させ、父に直接祈るというその祝福された自由を奪ってしまったのである。痛みが極めて激しく、苦しみがついに人間の力の限界に達したときのみ、魂は束縛から解き放たれ、形式的な儀式を忘れ、その偶像を打ち倒して身を引き締め、心の底から「わが父よ、わが神よ！」と叫ぶのであ。

25. 祈りによって、人は平安を得、知恵を授かり、健康を保ち、深遠な真理を理解し、知性が啓発され、魂は勇気づけられる。

26. 霊から霊へと祈ることを知る者は、どこにいても守られていると感じる。しかし、その存在を感じ、安心感を得るために、わざわざ訪れなければならない像や肖像を求める者はそうではない。

27. 物質主義のこの時代、諸民族が互いに戦争を繰り広げている様子が見えるか。しかし、わたしはあなたがたに告げる。あの戦火の真っ只中であってさえ、多くの人々が祈りの神秘を発見したのである——それは心から湧き上がり、切実な助けを求める叫びとして、嘆きとして、懇願として、わたしのもとへ届く祈りである。そして、彼らがその道中で願い求めた奇跡を体験したとき、神と語り合うには、魂の言葉以外には方法がないことを悟ったのです。

28. 弟子たちよ。あなたがたは、単なる一課ではなく、一冊の本そのものを受け取った共同体として、これまで誰も語ったことのないような方法で、わたしについて語る準備が整うであろう。

29. 今、私はあなたがたに、その使命を果たすための多くの機会を与えている——それを活用しなさい。すべての人に与え、すべての人を教えなさい。私があなたがたに与えたものには限界がなく、それによってあなたがたの心は決して空になることはない——それどころか、与えるほどに、あなたがたは自分の中でそれが増し加わっていくのを見るだろう。愛すれば愛するほど、あなたがたは徳においてより偉大になるだろう。

30. わたしは、わたしの臨在の証しとして、わたしの民の中に愛を残している。

31. わたしの啓示はあなたがたのもとにある。わたしの光は人間の知性に輝き、その媒介を通じて人類に愛のメッセージを送るためである。

32. あなたがたは、私の言葉が州から州へ、そして心から心へと伝えられる、その使者となるのだ。

33. 今のこの時は、この民にとって自己省察に捧げられたものであり、あなたがたが内省を行うための時である。それは、あなたがたが純粹にわたしを愛しているのか、それとも狂信に陥っているのかを、真に知るためである。今こそ、あなたがたの過ちを正すのにふさわしい時である。

34. 「靈化」という言葉の意味を深く考察する中で、あなたがたは、象徴と呼ぶような形を通じて神性を表現しようとするのは誤りであることを理解したはずだ。それは、外見的な見せかけによって、まさに目の前にある現実を覆い隠してしまうことを考えれば、さらに大きな誤りとなる。

35. 私が常に知性、生命、愛、力の中に自らを顕現し、決して生命のない像の中には顕現しないことを心に留めなさい。今日でさえ、あなたがたは、ある人間の知性を通じて行われる私の顕現の一つに立ち会っている。なぜ、あなたがたは、魂のない肖像や像の中で私を描き出そうと固執するのですか？ 私が自らを現すその人は、魂の奥深く、さらには肉体そのもののなかでさえも、私を深く、そして強烈に感じ取っている。その喜びは深遠であり、その恍惚状態によって、その人の知性へと届く光を、はっきりと見ることができるのだ。

36. あなた方はこの人のような存在です。それなのに、なぜあなた方は自分の心の中で、私を同じように感じ取ることができないのですか？

37. この教えについて深く考えれば、「神性を物質化しようとする傾向があるところには、靈化はあり得ない」という結論に達するでしょう。

38. 現時点では、あなたがた全員が「靈化」の意味を理解しているわけではなく、また、私がなぜあなたがたにこの内なる高揚を得るよう求めているのかも理解していない。私が何を求めているのかさえ明らかになっていないのに、どうして私の戒めに喜んで従い、服従することができるだろう。しかし、師が弟子たちに鼓舞する理想を理解している者もあり、そうした者たちは、師の示唆に従うことを急ぐだろう。

39. 象徴主義や形式への愛着、また肖像への崇拝は、人類の霊的な幼年期、すなわち人々が神性を信じるために外的なものや目に見えるものを必要としていた原始時代を彷彿とさせるものである。

40. 人間の知性は、その発展の初期段階にあった。当時、私が入々に「魂に属するものを探究し、理解せよ」とは言わなかつたろう。しかし今日、人間は科学のあらゆる道に足を踏み入れ、多くの哲学を発展させ、多くの分野で知性を開花させたのだから——ついにスピリチュアリズムを理解するのではないだろうか？私の新しいメッセージを前にして、人間は混乱に陥るだろうか？いいえ、民よ、人間の魂は私の救いの教えを必要とし、それを切望しているの。

41. この教えを広め、蒔き散らすための闘いを恐れてはならない。すでに多くの民族が、自由に考えるという神聖な権利を尊重している。やがて人々は、これまで人類が知らなかつたような精神の自由を知るようになるだろう。

42. 世界では戦争が続き、死と破滅の脅威が諸国民を覆っている。それは、自らの哲学や教義に頑なに固執する人々が、真理を認めようとしないからである。

43. 民よ、あなたがたが失敗を恐れることのないよう、私は霊的な励ましを与える。私が、あなたがたの魂の中に輝かせたこの光が影を追ひ払うと告げたならば、今、私は再び、あなたがたに真実を語ったのだと繰り返す。

44. この瞬間、私はあなた方を私の神性の光で包み込む。私は、あなた方を師として備えさせるために降りてくる。そうして、あなた方が愛と慈悲、謙遜と赦しの言葉と行いをもって、同胞たちを導くことができるようにするためである。しかし、まことに、私はあなた方に告げる。行いは常に言葉よりも雄弁である。

45. 人間もまた、人類への愛や兄弟愛、平和について語るが、その行いによって自らの言葉を否定している。

46. 今日、父が人間の知性を通じて自らを現すために降りてこられたこの時、私はあなたがたにこう言います。愛を語りながら心に憎しみを抱き、善を語りながらその反対の行いをし、平和を語りながら戦争を煽る者たちの仲間になってはなりません。いいえ、あなたがたが私の言葉を自分たちの内で花開くのを見るためには、心から湧き出る行いを通して、その言葉を語らなければならない。

47. 魂を通して語れ。あなたがたは聖霊の時代の頂点に立っているのだから。常に喜びに満ちていなさい。もしあなたがたが、ほんの少しの間、わたしが遠くにいると感じたとしても、離れたのはわたしではなく、あなたがた自身である。あなたがたが自分の魂を弱めてしまったからだ。なぜなら、わたしは常にあなたがたの心の中に生きているのだから。

48. 神の御霊と人の心との間の距離や障壁は、人自身が作り出しているのだ。しかし、私はあなたがたのすぐそばに宿っている。だから、私を見るために地平線を眺める必要などない。敬虔さと静寂をもって内面へと深く入り込み、私の聖所の中で私を見出せば、それで十分である。

49. この時代のわたしの啓示は、あなたがたをわたしの神性との霊的な交わりへと導く――それは、あなたがたの魂が常に求めてきた親密さである。

50. 今もなお、私はこの人類が、私を称え、儀式や賛美歌、言葉による祈り、そして様々な礼拝の形式を用いて私を呼び求め、私を身近に感じようとしているのを見て、聞いています。私はすべての人に私の臨在を感じさせ、すべての人と共にいます。しかし今、主は、御子らによる神への礼拝が完全であり、父との交わりも完全であることを望まれる時が来ました。そして、これこそが、この時代の教えがあなた方に明らかにしたことです。今日、あなた方は私から、どのように祈るべきか、そして霊と霊との対話をどのように得るかを学びました。

51. あなたがたがこの道において進歩を遂げられるよう、私はあなたがたに、あらゆる儀式や外的な礼拝を脇に置くよう促しました。その結果、あなたがたが集まる場所からは、神の属性を表現しようとして用いていたあらゆる物、そして霊的な神への礼拝の感覚的な表現や外在化も、次第に消え去っていったのです。

52. 私の教えは、単にあなたがたが地上の生涯を歩む上で力と確信を与えるためだけのものではありません。それは、この世を去り、来世の門をくぐり、永遠の故郷へと足を踏み入れる方法を、あなたがたに教えるためのものです。

53. あらゆる宗派は、この世を旅する魂を力づけるが、死後の世界への大いなる旅について、魂にどれほど明らかにし、準備させているだろうか。それゆえ、多くの人は死を「終わり」と見なしているが、そこからこそ、真の命の果てしない地平線が見えることを知らないのである。

54. あなたがたは、私がこの時代に聖霊として与えた教えを「スピリチュアリズム」と呼んできた。それは、聖霊があなたがたに多くの不可解な秘密を明らかにしたからである。来世と人間との間にベールが存在するという考えは、もはや時代遅れである。私は、あなたがたが理解できる範囲で、そして私の意志にかなう範囲内においてのみ、あの世について明らかにしていく。

55. 墓を終わりと見なしではならない。その向こうに、空虚や死、闇、あるいは無を見るな。なぜなら、肉体の死の向こうには、命があり、光があり、すべてがあるからだ。

56. あなたがたがあゝの領域へと踏み込む前に、準備を整えなければならない。そうすれば、まだ肉体に宿っている今この時から、魂を高揚させることによって、「霊的な谷」に住まうことも、あるいはそこへと入り込むこともできるようになるだろう。

57. 自分の体を鎖とも、敵とも、死刑執行人とも見なしではならない。自分の体を、あなたがたが力づけなければならない弱い存在として見なさい。そうすれば、それはあなたがたの召使いとなり、支えとなり、ある使命を果たし、山へと登りつめるための最良の道具となるだろう。狂信に陥らせることなく、それを霊化させなさい。そうすれば、祈りの中で自らを解き放ち、思考の翼に乗って病める人々に癒しの香油を届けることができるだろう。

58. 私が第二の時代に弟子たちに私の王国について語ったとき、彼らはそれを理解できず、「主よ、あなたの王国はどこにあるのですか」と私に尋ねた。しかし、私が去る日が近づくと、私の言葉はもはや比喩ではなく、はっきりと理解できるものとなり、皆がそれを理解した。

59. 今日の時代においても、私がもはやこの姿で現れることのない時が近づいているため、私は比喩的な表現を捨て、あなたがたのためにとっておいた偉大な事柄について、率直かつ簡潔に語っている。1866年以来、私があなたがたに語ってきたすべてのことは、この最後の3年間の私の教えに集約されるであろう。

60. この時代、人間の知性を照らす「神の光」を通じてあなたがたが耳にしたこの言葉は、あなたがたの魂にとって新たなマナであった。それはまた、イエスが荒野で成し遂げたパンと魚の奇跡のようでもあった。

61. 私があなたがたに語りかける時間は、すでに非常に限られている。自らを鍛え、私の言葉と模範を活かし、それらをもって人類のもとへ赴き、私の教えを証しなさい。多くの扉があなたがたのために開かれるだろうが、閉ざされたままのものもあるだろう。

大勢の人々が、あなた方の話を聞きにやって来るでしょう。その中には「耳の聞こえない者」も混じっているでしょう。しかし、人々の心は土のようなものだから、あなた方は種を蒔き続けなさい。私はあなた方の蒔いた種に露と雨を降らせ、そうすれば種は芽を出すでしょう。

62. 他の民族のもとへ赴くことを定められた者たちは、平和の使者として国境を越えていくことになる。

63. 世界は、そのすべての苦しみ、悪徳、病、そして傷を抱えた贖罪の地として、あなたがたを待ち受けている。それは、私があなたがたに託した、あらゆる悪を癒やす香油を、あなたがたがそこに注ぐためである。

64. あなたがたは、自分には偉大な行いなどできないと感じているだろう。しかし、私はあなたがたを媒介として、あなたがたの愛と慈悲のほんの一部を通じて、あなたがた自身でさえその価値に値しないと感じるほどの驚くべき業を成し遂げるであろう。

65. もし、この集会室で私の言葉がもはや響かなくなったとしても、あなたがたは集まって私の教えの言葉を読み上げるだろう。そうすれば、以前は理解できなかった多くの教えを理解できるようになるだろう。預言者たちは、聖霊としてあなたがたに新たな啓示を与える師の姿を目にするだろう。そこ、あなたがたの中において、病人は痛みを和らげ、死の淵にある者は命を取り戻し、悲しむ者は慰めを見出し、絶望する者は新たな希望を見出すだろう。

66. あなたがたは、自らの生き様を通じて教えなさい。残りは私が成し遂げる。あなたがたをこの愛の業に参加させることは、私の意志であった。そうすることで、あなたがたは隣人を愛することにより、私そのものを愛することになるのだ。

67. 私の最後の説教の日まで備えをしておきなさい。それは、第二の時代における「最後の晩餐」のようになり、そこであなたがたは私の最後の言葉を受け取るからである。

68. わたしの教えに従わず、霊性への向上にも努めず、時代遅れの慣習や伝統に頑なに固執してきた者たちは、涙を流さざるを得なくなるだろう。そして後になって、わたしが今、あなたがたに託している書物を読んだとき、彼らは自らの過ちに気づくことになる。その時、彼らは痛みと後悔に満ちて、過ちを正そうと努めるだろう。

69. 闇が世界を覆い尽くそうとする時、私の愛の光が世界とその道を照らす。日々、多くの魂が、自分たちがどこへ向かうのかも知らずに、この世を去ってゆく。彼らを忘れないでください。祈りと慈悲の光を彼らに注いでください。光の存在たちについては心配しないでください。彼らはすでに光の中にあり、あなたたちのために尽力しているからです。人間のためだけでなく、すべての隣人のために祈ってください。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 262

1. あなたがたが、師に近づきたいという同じ願いで結ばれているのを見ると、私の霊は喜びます。ここで、私の御言葉が語られるとき、あなたがたは悲惨、恨み、嫉妬、そして苦しみを忘れます。

2. あなたがたは心を清めるのがよい。なぜなら、あなたがたが心を聖所として整えてこそ、わたしの言葉はそこに届くからである。

3. あなたがたの霊的な神への礼拝には、謙虚さと質素さが存在すべきである。そうしてこそ、物質的なものや見せびらかしによって、あなたがたが本質的なもの——すなわち、父への愛と隣人への慈悲——から気をそらされることがない。あなたがたが、このような高揚の瞬間を迎える準備ができたとき、あなたがたの思考は神の御心に調和したことになる。

4. 一致し、兄弟愛に満ち、真理と善行を愛する民となりなさい。新しい兄弟姉妹の到来を喜び、口元に微笑みを浮かべて彼らを迎え入れ、心に真の隣人愛を、霊に祈りを抱いて迎え入れなさい。あなたがたは、わたしに耳を傾けてきた間に蓄えてきたものを、彼らに与えることになるでしょう。あなたがたは、私があなたがたのために示した真の道を彼らに示し、私を模範とするという考えに喜びを感じるでしょう。あなたがたの知識がまだそれほど深くないことは問題ではありません。あなたがたの隣人愛が大きければ、真の奇跡を成し遂げることができるでしょう。

5. この使命を遂行する者が、愛をもってその行いを照らすならば、この使命は決して重荷には感じられないだろう。それに対し、単に義務としてこれを行う者にとっては、それは重い十字架のように思えるかもしれない。

6. このような繊細な使命を果たすには、自分たちはまだ不完全すぎると感じるとしても、落胆してはなりません。善意はすべてを乗り越えるのです。

7. さて、私は今、あなたがたに、日々の行いのすべてが高潔な感情に導かれ、試練や困難があなたがたを妨げたり、後退させたりすることがないようにするための、ある種の準備の仕方を教えます。新しい一日の光に目を開くとき、祈り、思いを通じてわたしに近づき、そしてわたしの光に導かれてその日の計画を立て、人生の闘いに立ち向かいなさい。その際、強くあり、一瞬たりとも従順と信仰に背かないことを心に決めなさい。

8. まことに、あなたがたに告げる。まもなく、あなたがたの不屈の精神と、その行いの成果に、あなたがた自身も驚嘆することになるだろう。

9. あなたがたの行いに真実さと清らかさが宿るよう心がけなさい。そして、周囲の人々から嘲笑されることを恐れてはならない。なぜなら、彼らが軽率な行動をとるその瞬間、彼らは自分たちが何をしているのか分かっていないのだから。

10. あなたがたが、中傷や批判を恐れているのがわかる。私は、あなたがたが嘲笑されることを望まない。しかし、もしあなたがたの良心が何も責めていないのであれば、私はあなたがたを傷つけたかもしれない者たちを赦し、彼らの心に真理の光が輝くように導くであろう。

11. 慈悲とは何か、それをどのように感じ、どのように施すべきかを真に理解しなさい。そうすれば、その慈悲はより純粋なものとなり、見せびらかすことなく実践できるようになるでしょう。「右手が何をしているかを左手に知らせてはならない」と常に心がけてください。つまり、見せびらかして施してはならないのです。そうすることで、あらゆる慈悲の行いを台無しにしてしまうからです。

12. 私は、これらの各共同体の一つひとつと、真の家族を築きたいと願っている。そこでは、あなたがた全員が互いに愛し合い、苦しみや困難の中で互いに支え合い、互いの間で慈悲を実践することを学ぶのだ。その想いが育まれ、あなたがたの心の中で熟したとき、あなたがたは闘いの道へと踏み出し、愛と光を必要とする人々——あなたがたの道を何千人もの人々が通り過ぎるでしょう——に、その善き実を捧げることができるようになるでしょう。

13. 今日、私の教えを聞くために集まっているこの弟子たちの群れの一員でなくなる日がやってくるだろう。しかし、あなたがたが地球上のさまざまな場所に散らばったとしても、戦いの中で、また使命を遂行する中で、霊において一つであり続けるだろう。この霊的な絆を、誰も断ち切ることはできない。

14. あなたがたは、父と調和していたゆえに祝福されている。神との交わりのこの時、不純な思いがあなたがたの心を乱すことはなかった。すべてが調和に満ちており、その調和の中で、あなたがたはあらゆる集会所から遠く離れた、自然の懷において、わたしの御言葉を聞き取ったのである。

15. あなた方を囲むものの栄光を見よ。創造主への絶え間ない賛美の祭壇である高い山々。人々の命を照らす計り知れないほど大きな光である太陽。父なる神へとトリルを捧げる鳥たちの調和のとれ

た歌声——それはまるで祈りの歌のようだ——そして、この栄光のただ中で、神の言葉の調べに心を奪われ、恍惚とするあなた方の。

16. わたしの慰めの御霊はあなたがたと共にあり、わたしの光は光線となって注がれている。そして同時に、わたしはあなたがたの心から、わたしのために持参してくれた捧げ物を受け取っている。

17. それゆえ、この高揚と靈性にあふれた雰囲気の中で、あなたがたは、自分たちの間で最大の奇跡が現実となるのを見るだろう。願いなさい、病める者たちのために、苦しむ者たちのために、不在の者たちのために、道に迷った者たちのために願いなさい。そうすれば、彼らは豊かな恵みを受けることになる。

18. 愛する民よ、私の御前に立つために最善の捧げ物を求めている者たちよ。あなたは自らを清め、良心が示す過ちを洗い流し、罪を犯したことを悔い改めた後、私と交わるために聖所を整えてい。

19. 目を覚まし、祈りなさい、と師は教える。そうすれば、誘惑に打ち勝ち、もはや罪を犯さなくなるだろう。あなた自身のため、そして祈り方を知らない人々のために祈りなさい。毎日祈るのに、どれほどの時間が必要だろうか？ 魂をわたしのもとへ高めるために、長い時間が必要だろうか？ いいえ、民よ、5分で十分です。この愛と、わたしへの献身の短い時間は、あなたがたが今まさに経験しているその日に対するわたしの予定に対して、あなたがたの服従と従順をわたしに捧げるために必要な時間なのです。わたしはあなたがたの苦難の中で慰め、仕事において励まし、そしてあなたがたの計画が実を結ぶよう導きを与えます。

20. 親しい人、慈愛に満ちた友を必要とする時はいつでも、わたしに心を向け、心に抱えている苦しみをわたしに委ねなさい。そうすれば、わたしは最善の道——あなたがたが求めている解決策——を助言してあげる。もしあなたがたの魂が重荷に押しつぶされているなら、それはあなたがたが罪を犯したからである。私はあなた方を受け入れ、慈愛に満ちた裁きを下し、改心への決意を強め、失われた力を取り戻させてあげます。

21. 私の教えに従うことだけが、あなた方を神の恵みの中に保ち、心身の健康を維持するのです。あなた方が得る経験は、魂の中に少しずつ蓄積されていく光となるでしょう。

22. わたしの裁きと律法は容赦のないものである。もしあなたがたがこの時代に罪の代償を払わなければならないのなら、愛をもって、忍耐強くそうしなさい。しかし、もしあなたがたが疲れ果てたなら、わたしがあなたがたの十字架を背負うのを助け、あなたがたが戦い続けるための新たな力を得られるようにする。

23. あなたがたの運命はすでに定められており、試練はただ心を磨き、肉的な性質を屈服させるだけであることを知っているのなら――なぜ反抗するのですか？

24. あなたがたの魂には大きな力が与えられており、わたしが送る試練は、あなたがたが持つ能力やエネルギーを超えるものではない。それらは、あなたがたが功德を積み、救われるのを助ける恵みなのだ。

25. 私の父なる御霊は、人類の痛みを見るたびに心を痛めておられます。私は人類を罰したわけではありません。愛と正義の私の律法は、適用されれば、幸福と平和をもたらすだけです。

26. 人間によって、破壊の力が解き放たれた。戦争はその種をすべての人の心に蒔いた。人類はどれほどの苦痛を経験したことか！ その軌跡には、どれほどの見捨てられ、悲惨、孤児化、そして悲嘆が残されてきたことか！ 戦いで倒れた者たちの魂は滅びてしまったとでも思うのか。あるいは、人間の中に宿る生命の一部、すなわち永遠なるものが、もはや存在しないとでも思うのか？

27. いいえ、民よ。魂は戦争や死を乗り越えて生き残る。私の精神の一部であるその魂は、苦しみの野原から立ち上がり、生き続け、開花し、発展していくために、私の道において新たな地平を求めているのだ。

28. そして、地上に残り、祖国が荒廃し、畑が荒らされ、疫病や飢餓に見舞われ、道徳と善の原則が踏みにじられるのを目の当たりにした者たちには、私は生きる勇気を保たせ、彼ら全員を見守ってきた。

29. 来るべき時代において、私は彼らを用いて、私の言葉の光を他の民族へと届けるつもりである。私は彼らに、偉大な霊的使命を託すであろう。

30. 彼らは、私があなたがたに教えた通りに祈ることを学んだ。これらの魂には痛みも苦しみもなく、むしろ魂の高潔さがある。なぜなら、彼らは試練の真っ只中で私を愛し、私を理解し、私に服従したからである。彼らは苦しみの中で清められたのである。

31. 民よ、あなたがたの祈りを、それらの魂たちの祈りと一つにせよ。あなたがたは苦しみによって清められたわけではない。あなたがたの試練の炉は、この時代に私が愛の言葉をもってあなたがたに与えた平安であった。一度準備が整えば――ある者は苦しみによって、またある者は愛によって――あなたがたは寄り添い、一つとなり、共に私の教えに従って私の言葉を深く探求するだろう。あなたがたはこの愛の杯を飲み干し、受けたすべてのものが恵みであっ

たことを認めるだろう。私は私の業を前進させ、その最終目標、すなわちその成果をあなたがたに示す。人類が呈する精神的・道徳的な廃墟の上に、私は健全で力強い世界を築き上げる。

32. 民よ、あなたたちへの裁きの時はまだ来ていない。他の諸民族が私の裁きの重荷を背負ったように、あなたたちも、定められた時に、それぞれの行いに応じてそれを受けることになる。

33. 私はすべての人を歓迎する。私の言葉を熱心に聞こうとやって来る者も、探求するために足を踏み入れる者も、あるいは、聞いたことをすべて傲慢に否定し、単なる好奇心からやって来る者も、すべてである。

34. まことに、あなたがたに告げる。わたしの輝きは、かつては一つの形で、今日は別の形で、明日はまた別の形で、そして永遠にそうあり続けてきたし、これからもそうあり続けるのである。

35. 父と子供たちの間には、決して断ち切られることのない絆があり、この絆こそが、神聖な霊とあなたがた全員との間に対話が行われる原因である。

36. 真理を求める者は祝福される。その者は、愛と光と善に渇き求めている者だからである。求めよ、そうすれば見いだすであろう。真理を求めよ、そうすれば真理はあなたたちのもとへやって来るであろう。引き続き深く考え、これからも『神の知恵の書』に問いかけなさい。そうすれば、それはあなたに答えてくれるでしょう。なぜなら、父は、切実に問いかける者に対して、決して沈黙したり無関心であったりすることはないからです。

37. 書物や学者、あるいは様々な学問の中に真理を求める人々のうち、どれほど多くの者が、最終的に自らの内面にそれを見出すことになるのか。なぜなら、私はすべての人間の最も内なる部分に、永遠の真理の種を植え付けたからである。

38. ここに、人間の脳内で輝き、言葉となる私の光がある。なぜ、あなたがたはこの啓示を不可能だと考えるのか。人々が科学によって遠隔地の人々と意思疎通を図れるからといって、神よりも優れた能力を持っているとでも思うのか。

39. まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが、人間の魂に備わっている能力を知らなければ、私を知ることはなおさらできないだろう。

40. 私が人間の知性という器官を通して自らを現すのは、脳こそが「創造主によって完全に造られた装置」であり、その中に、魂の光である知性が現れるためである。

41. この「装置」は、あなたがたがどれほど科学を駆使しても決して再現することのできない模型である。あなたがたはその形や構造を、自らの創造物の手本として用いるだろう。しかし、あなたがたの父の御業が持つ完全さには、決して到達することはできない。それなのに、なぜ私が、私が創造したものをを用いることができることを疑うのか。

42. もう一度言うておくが、あなた方は自分自身を知らない。もし魂の観点から自分自身を知っていたなら、この神聖な啓示を理性によって肯定するだけでなく、さらに大きな驚きがあなた方を待っていることを理解するはずだからだ。もし自分たちを知っていたなら、自分自身さえも知らないのに、周囲の人々に理解されないことを嘆くことはなかっただろう。自分自身を知りなさい。そうすれば、自分自身が永遠の謎であり続けることはなくなる——自分の内側に抱えている答えを、あちこちで探し回ることもなくなるのだ。

43. 私の教えのすべては、あなた方の本質が内包するすべてのものを明らかにすることを目的としています。なぜなら、この知識から、永遠なるもの、完全なるもの、そして神へと至る道を見出すための光が生まれるからです。

44. 私の教えは、この世にあるあらゆるものよりも高次の存在を、あなた方の内に創り出すことを目的としている——それは、寛大さ、光、そして魂の美しさ、徳、知恵、そして力そのものである存在だ。その時、あなた方の喜びと内なる平安は、どれほど大きなものになることか！ あなた方の精神はこう告げるだろう。「これこそが、あなたの存在の真髄である」と。

一方、心からあらゆる善の種を追い払い、自らの存在を利己的な生活、物質主義的で墮落した生活に捧げてしまった者たちの振る舞いは、どれほど異なることか。彼らが一度、自らの内面を見つめるに至り、一度でも良心と対話する瞬間を持てば、決して曇ることのない、決して嘘をつかないその鏡に自分自身の姿を映し出し、自分たちが内に抱えている、しかも自分たちの仕業であると認識することさえできないその怪物に、戦慄を覚えるだろう。

45. ああ、不信仰者たちよ！ さあ、頻繁に私の言葉に耳を傾けなさい。私の言葉は、あなたがたの疑いを打ち砕くであろう。もし、私の言葉の表現が、かつて私が用いていたものとは異なると感じるならば、私はあなたがたにこう告げる。形式や外見にとらわれるのではなく、その本質、すなわち変わらない真意を探し求めなさい。本質、すなわち真意は常にただ一つである。なぜなら、神性は永遠であり、不変だからである。しかし、啓示があなた方に届く形、あ

るいは私があなた方に真理のさらなる一部分を知らせるための形は、常にあなた方が到達した受容力や成長段階に合わせて現れるのである。

46. 私の教えの大部分は、あなたがたが自分自身を発見し、自分自身を知ることを目的としていた。そうすれば、道でつまづくこともなくなり、迷子になったり惨めな気持ちになったりしたときに、もはや慈悲を乞うこともなくなるからだ。

47. あなたがたは自らの内面にこれほど多くの富と隠された宝を秘めているのに、なぜ涙を流すのか。あなたがたが長い間忘れてしまっていた人生の目的の一つは、これである。すなわち、魂が内に秘めているすべてのものを発見するために、自分自身を知らなければならぬということだ。

48. 問いかけ、探求し、深く掘り下げなさい。そして、自分の内面に深く入り込むほど、より大きな宝と驚きを発見することになるでしょう。

49. 人々の群れよ、わたしと共に来なさい。わたしはあなた方を救う。もしこの世に疲れを感じ、もし周囲の人々に誤解され、もし身内にも理解されないのであれば、わたしのもとに来なさい。わたしはあなた方を受け入れる。あなた方に起こったことすべてを、わたしが知っていることを証明して見せよう。

50. さあ、ここへ来なさい。そうすれば、私はあなた方を真の命へとよみがえらせ、あなた方が「与える」ために創造されたことを思い出させてあげよう。しかし、自分の中に何を抱えているのかを知らない限り、それを必要とする者に与えることは不可能である。

51. あなた方を囲むすべてのものが、与えるという使命を果たしているのを見てください。元素、星々、生き物、植物、花、そして鳥たち——最大のものから、もはや知覚できないほど小さなものに至るまで、すべてが与える能力と使命を持っています。なぜ、あなたがたは、神の恵みによって愛する能力を最も豊かに授かっているにもかかわらず、例外とするのでしょうか。

52. あなたがたは、弟妹たちの道の光となるために、どれほどさらに知恵と愛と徳と能力を高めなければならないことか！ あなたがたの父は、なんと高貴で美しい使命をあなたがたに与えてくださったことか！

53. わたしの平安を感じ取り、それを心の奥底に抱きしめなさい。誰にも、わたしの平安を奪わせてはならない。それは宝である——人間が持つことのできる最大の宝である。

54. 権力も科学も、あなた方に平安を与えることはできなかった。それでも、もしあなたがたが平安を見出せなくても、絶望してはならないと、私は告げる。なぜなら、善意を持つ人々の内にこそ、愛し、仕え、神が定めた律法に従うための平安が確かに存在することを、あなたがたが理解するまで、もうそう長くはかからないからだ。

55. 律法を全うするための、最も実践的で、素朴で、単純な方法を教える私の教えに耳を傾けなさい。あなたがたの神、その御業、そして人生は単純で素朴であることを理解しなさい。単純なものを複雑に見せ、明白なものを神秘的に見せてしまうのは、あなたがたの無知と未熟さによるものである。

56. 神は複雑でも、神秘的でも、その創造において秩序を欠いているわけでもない。なぜなら、完全なものは単純だからである。それに対して、さまざまな段階にある被造物は、不完全であればあるほど、より複雑になる。

57. あなたがたは、父について真実な認識を得られるようになるまで、わたしを知ろうとし、霊的な事柄の真意を深く理解しようと努めなさい。たとえわたしに対する知識がわずかであっても、それは正確なものでなければならない。

58. もしあなたがたが、わたしの存在、わたしの本質、わたしの力、そしてわたしの正義について現実的な理解を持っていれば、その時が来れば、あなたがたの同胞たちに、あなたがたの父がどのようなお方であるかについて、真実に基づいた理解を伝えることができるようになるだろう。

59. そうすれば、人々が遠く、近づきがたく、神秘的で理解不能なものとして思い描いてきたあの神が消え去り、その代わりに、子供たちに対して永遠に心を開き、あらゆる場所、あらゆる瞬間に臨在している真の神が現れるのを、あなたがたは体験することになるだろう。

60. あなたがたが一度、私を真に知るようになれば——今のところ、私に対するあなたがたのイメージは霊的なものというより人間的なものであり、信仰もまだ微々たるものだから——今日よりも深く私を愛するようになるだろう。あなたがたが一度、より完全な形で私を愛するようになれば、間に合うあらゆる場所に、倦むことなく光を運ぶようになるだろう。真の父を知らないすべての人々——すなわち、わたしを愛し、知っていると信じているにもかかわらず、実際にはわたしを真に知らず、誠実に愛してもいない人々

——に対する、あなた方の思いやりは、心からのものとなるでしょう。

61. 第二の時代、私は野原を歩き回ることが好んだ。そこでは、農夫たちが私が通り過ぎるのを見ると、私を迎えに来て、心から私に語りかけてくれた。私の霊は、彼らが純粹で素朴であるのを見て喜びを感じた。

私は家庭を訪ねた。時には、両親が小さな子供たちと一緒に食卓につこうとしているまさにその瞬間に。彼らが私の呼び声を聞くと、喜んで私のところへやって来て、一緒に食事をしようと誘い、何らかの恵みを求めて私に心を開いてくれた。私は彼ら全員を祝福し、弟子たちのもとに戻ると、こう言いました。「これらの家族は天国の姿そのものであり、これらの家庭は聖所のようなものです。」

62. 時折、私が一人きりになっていると、子供たちに気づかれ、彼らは私のところへやって来て、小さな花を差し出し、ささやかな悩みを打ち明け、私にキスをした。

63. 母親たちは、自分の小さな子供たちが私の腕の中にいて、私の言葉に耳を傾けているのを見つけると、不安そうに心配した。弟子たちは、これが師に対する礼儀を欠くことだと考え、子供たちを私のそばから追い払おうとした。そこで私は彼らにこう言わなければならなかった。「子供たちを私のところに來させなさい。天の御国に入るためには、子供のような清らかさ、素朴さ、そして無邪気さを持たなければならないのだから。」

64. 私は、まさに開こうとしている花のつぼみを見る人が喜びを感じるのと同じように、その無垢さと気取らない様子に喜びを感じた。

65. 彼らもまた、開花しつつある魂であり、未来への約束であり、輝き始めようとしている命である。

66. 私は、父の栄光のために、命として花開かなければならないつぼみであるそれらの魂を愛している。

67. ある時、私は地上の母であるマリアと共に、ある結婚式に招待された。愛によって結ばれる二人の人生におけるその重要な瞬間に、私は子供たちのそばにいたいと願った。私は彼らの心の喜びを見届け、彼らと共にその祝宴を分かち合いたかった。それによって、私はあなたがたの救いとなる喜びのどれ一つとして、私にとって無関心なものではなく、あなたがたの人生の重要かつ意義深い瞬間のどれ一つとして、私の存在が欠けてはならないことを、あなたがたに理解させたのである。また、慈愛に満ちた母であり、あなたがたの執り成し手であるマリアも、一時的に不足してしまった祝宴のワ

インを、イエスに御力を行使して増やしてくださるよう願ったとき、この人類に対する彼女の使命が何であることを証明しました。私は、その祝福された執り成しのゆえに、また、私の力への信仰と、あなたの方のために祈るという靈感に満ちたその女性の心——それらがあなたの方にとって完全な模範となっている——ゆえに、あの奇跡を授けたのである。

68. たとえ短くとも、その出来事について私が触れることを許してください。しかし、私がこの世に戻ることがどうしても必要だなどと言ってはなりません。なぜなら、そうすれば、私が経験し、語ったすべてのことは書き記されており、あなたがたの精神の中に現存している、と私が言わざるを得なくなるからです。その一方で、この人生は、その発展のあらゆる段階において驚くべきものであり、私からあなた方へと永遠に語りかける、深遠で無限の教科書であることを認識すべきである。

69. それを観察し、感じ取ってください。そうすれば、その中に師であり、父であり、裁き主である存在を発見し、すでにこの地において、別の、より高次で、より光に満ち、より完全な人生から、あなたたちに語りかけている声を聞くことになるでしょう。

70. 弟子たちよ。私は、あなたがたが苦痛に打ちひしがれて倒れ伏していた大地の塵の中から、希望と成就に満ちた人生へと引き上げた。試練の中にあっても、私の力を実感させ、たとえ最大の苦しみにあっても疑わず、絶望しないよう教え導いた。

71. 今日、あなたがたは、現在、全人類が苦難の杯を飲んでいること、苦しんでいるのはあなたがただけではないこと、涙を流しているのはあなたがただけではないこと、あるいは、より激しく苦難の杯を飲み干しているのはあなたがただけではないことを知っている。そのことに対して、あなたがたは私に感謝し、思いやりの心を同胞に向け、自分自身を少し忘れてくれる。

72. あなたがたは皆、心に傷を抱えている。私のように、誰があなた方の内面に深く入り込むことができようか。私は、あなた方の世界に蔓延するこの大きな不正と恩知らずさに対して、あなた方が抱く苦しみ、悲しみ、そして打ちひしがれた心情を知っている。私は、この地上で長く生き、苦労を重ね、その存在自体が重い負担となっている人々の疲れを知っている。この人生で孤独に置かれた人々の心の空虚さも、私は知っています。私はあなたがたすべてにこう言います。「求めなさい。そうすれば与えられる」。なぜなら、私は、あなたがたが私から必要としているもの——それが仲間であ

れ、心の平安であれ、癒やしであれ、使命であれ、光であれ——を
与えるために来たからです。

73. 男性たちよ、私の前で泣くことを恥じるな。涙は子供や女性
だけのものではないからだ。私の前で泣く者たちは幸いである。な
ぜなら、私の手が彼らの涙を拭い、私の慰めの言葉が彼らの心に染
み入るからである。弱さのまま私のところに来る者は、その後、周
囲の人々に対して強くなれるだろう。なぜなら、その者は父の力に
よって強くなることを学んだからである。

74. わたしが単にあなたがたの苦難を共感するにとどまらず、そ
れを取り除こうとしていることを知れ。しかし、あなたがたはこれ
を単に知るだけでなく、わたしの律法への愛と信仰を持ち、願い求
め、祈ることを知り、試練の中で忍耐強くなければならない。

わが平安があなたがたと共にありますように！

教え 263

1. この交わりの瞬間に、神聖な光があなた方を照らし、あなた方の魂を強める中、わが霊の平安があなた方の中にありますように。

2. 平和と調和の樂園を夢見る者たちは、祝福されよ。

3. 人間に何の益ももたらさず、ましてやその魂にはなおさら益をもたらさない、些細な事柄や虚栄、情欲を軽蔑し、それらを無関心に見つめてきた者たちは幸いである。

4. 何の成果ももたらさない狂信的な儀式を廃し、古く誤った信仰観念を捨て去り、絶対的かつありのままの純粋な真理を受け入れた者たちよ、祝福あれ。

5. 私は、外的なものを拒絶し、その代わりに精神的な瞑想、愛、そして内なる平和に身を委ねる人々を祝福する。彼らは、この世界が平和をもたらさないこと、そして平和は自分自身の中に見出すことができることを、ますます深く認識しているからである。

6. 真実を恐れることなく、またそれに憤りを感じなかったあなたがたのうちの人々は、祝福されるであろう。まことに、わたしがあなたがたに告げる。光は滝のようにあなたがたの魂に降り注ぎ、光への渴望を永遠に満たしてくれるであろう。

7. 私は、あちこちの場所に集い、神聖なる師への渴望に心を奪われているあなたがたの上に、平和の外套を広げます。あなたがたが私のところに来るなら、祈りなさい、私の弟子たちよ。私があなたがたに預言したすべてのことが、まだ成就するのを見てはいないとしても、やがてそれを見るようになるからです。

8. 引き続き祈りなさい。そうすれば、人間の無知という重荷が取り除かれ、また、他人の知識を集めただけで「学識がある」と主張する者たちの虚栄心も消え去るでしょう。真の学者とは、破壊し、支配し、滅ぼすための最善の方法を見つけ出そうとする者ではなく、すべての被造物の神への愛と、すべての被造物への愛にインスピレーションを得て、人々の生活をより調和のとれたものにするために創造へと立ち上がる者であることを知らない者たちの虚栄心もまた、消え去るように祈り続けなさい。

9. 弟子たちよ、私はあなたがたに告げる。偽りの中に真理を求めるべきではなく、謙虚な魂の中に、隣人への愛によって高められた心の中に、そして生活の簡素さと清らかさの中に真理を求めるべきである。

10. 知恵の中には、あなたがたの心が切望する癒しの香油と慰めがある。それゆえ、わたしはかつて、あなたがたに「真理の霊」を「慰めの霊」として約束したのである。

11. しかし、試練に直面しても立ち止まらず、恐れを感じないためには、信仰を持つことが不可欠である。

12. 信仰は、あなたがたが永遠という安全な港にたどり着くまで、人生の道を照らす灯台のようなものである。

13. 信仰は、今日一歩前進して明日一歩後退するような、生ぬるく臆病な魂のものであってはならない。彼らは自らの苦痛と向き合うことを拒み、ただ父の慈悲によってのみ、御霊の勝利を信じているのである。

14. 信仰とは、神が自分の中にいることを自覚し、主を愛し、自分の中に主を感じ、隣人を愛することを喜びとする魂が感じるものである。その父の正義に対する信仰は極めて深く、隣人から愛されることを期待せず、侮辱や過ちを赦す。しかし、自らの功績によって浄化を達成したゆえに、明日は光に満たされると信じている。

15. 信仰を持つ者は、平安を持ち、愛を所有し、

16. 彼は霊的にも物質的にも豊かである。しかし、それはあなたがたが考えているような富ではなく、真の富である。

17. 人々は恐怖に駆られて悲慘さから逃げ出そうとするが、その恐怖のあまり、何度も深淵や苦難へと転落してしまう。彼らは、この魔の手から身を守るための正しい手段を思いつかない。しかし、この世の悲慘さから逃げる者は、自分の道を阻む者すべてを打ち倒し、抑圧し、引き裂き、破滅へと突き落とす利己主義者である。彼は自分自身のことをしか考えず、唯一の理想と目標は自身の安全と存続である。他者は彼の兄弟ではなく、すべて彼にとっては見知らぬ者たちである。彼には信仰がなく、その光を知らず、真理を信頼しない。なぜなら、彼はそれを知りたくなかったからだ。

18. しかし、人類よ、私があなたに送ったあの人々——私の道、すなわち知恵と愛と平和の道である信仰の道をあなたに思い出させるために送った人々——を、あなたはどのように扱ったのか。

19. あなたがたは彼らの使命を一切受け入れようとはせず、自らの理論や宗派に基づく偽善的な信仰をもって、彼らと戦った。

20. あなたがたの目は、私の遣わされた者たちが——あなたがたが彼らを預言者、予言者、悟りを開いた者、医師、哲学者、科学者、あるいは牧師と呼ぼうとも——愛のメッセージとして運んできたその光を見つめようとはしなかった。

21. あの人々は光を広めたが、あなたがたはその光を受け入れようとしなかった。彼らはあなたがたに先立って歩んだが、あなたがたは彼らの足跡をたどろうとしなかった。彼らは、犠牲と苦しみと慈悲の道を模範としてあなた方に残したが、あなた方はその模範に従うことを恐れ、わたしに従う者たちの苦しみこそが、霊の喜びであり、花で満ちた道であり、約束に満ちた地平線であることを気づかなかった。

22. しかし、彼らは地上の花の香りを嗅ぐためでも、この世の儚い快楽に酔いしれるためでもなかった。彼らの魂の渴望は、もはや不浄なものに向けられておらず、高きものに向けられていたからである。

23. 彼らは苦しんだが、慰められることを求めなかった。なぜなら、自分たちが慰めるために来たことを知っていたからだ。彼らはこの世に何も期待しなかった。なぜなら、戦いの後、真理から逸れたすべての人々の魂が、信仰と命へとよみがえる喜びを目にすることを待ち望んでいたからである。

24. 私があなたがたに語っているこれらの存在とは、いったい誰のことか。言うておくが、それは、光、愛、希望、健康、信仰、救いのメッセージをあなたがたにもたらししたすべての人々である——彼らがどのような名前を持っていたか、あなたがたがどのような形で彼らの姿を目にしたか、あるいは地上でどのような肩書きを持っていたかなど、一切を問わず。

25. あなたがたも、私が使徒たちを通じて絶えず与えている偉大な模範を手本とすることで、彼らのような存在になれるのだ。しかし、人々があなたの行いを理解しないことを言い訳にはなりません。「愛のメッセージ」をもたらしした者たちは、ただ種を蒔くだけで、決して収穫を得られなかったなどと言ってはなりません。いいえ、民よ、魂の収穫はすぐには訪れません。「肉体」とは不毛の地であり、実を結ぶようになるまで、絶えず愛によって肥沃にされなければならないことを考えれば、当然のことです。

26. 今日のあなたがたの学者たちについて、私は何を語ればよいのか。彼らは自然とその力、そして要素に挑み、それによって善を悪のように見せかけているではないか。彼らは大きな苦しみを味わうことになるだろう。なぜなら、彼らは科学の木から未熟な実を摘み取り、食べてしまったからだ——その実は、愛をもってこそ熟すことができたはずのものだったのだ。

27. あなたたちを救えるのは、わたしの愛だけである！見よ、人々の中にはもはや愛の残滓さえも残っていない。祈りなさい。しか

し、祈りの力に対する真の信仰をもって、すなわち、あなた方の同胞が人生において戦い、隣人の平和を破壊するために用いる武器の力を打ち破るほどの大いなる信仰をもって祈りなさい。

28. かつて祈るために用いていたあの像や絵を目の前から取り除いたあなたがたは、真の祈りを実践することができる。なぜなら、もはや神を老人の姿に限定せず、また、神聖であるゆえに形を持たないものに、想像力によって人間の姿を与えることを許さなくなったからである。

29. あなたがたの肉体が地に残され、魂が天の住まいへと昇り、あなたがたが「死」と呼ぶものを通り抜け、無限へと昇っていくとき、あなたがたの知性がどれほど多くの誤った観念を生み出してきたかを理解するでしょう。そして、そのとき、嘘があなたの魂から消え去っていくのを感じるでしょう。それはまるで、目から包帯が外れ、真実の光が見えるようになるかのようです。

30. どれほど多くの人々が、至高の天国にたどり着き、マリアと出会えることを望んでいることか。彼らはマリアを、この世で人となったキリストの母として、かつて人間として女性であった姿のまま想像し、また、玉座に坐す美しく力強い女王として思い描いている。しかし、私はあなたがたに告げる。もはや、あなたがたの心の中で神聖なるものに形を与えるべきではない。マリア、すなわちあなたがたの霊的な母は確かに存在しますが、彼女は女性の姿でも、いかなる他の姿でもありません。彼女は、その慈悲が無限に広がる、聖なる、愛に満ちた優しさそのものです。彼女は魂の中で統治していますが、その統治は謙遜と慈悲と純潔によるものです。しかし、彼女が持つ玉座は、人間が想像するようなものではありません。彼女は美しいですが、その美しさは、あなたがたがどんなに美しい顔を見ても想像することさえできないようなものです。彼女の美しさは天上のものです、あなたがたは決してその天上のものを理解することはできないでしょう。

31. 私はあなたがたに言う。もしあなたがたが真理に少しでも近づき、その黙想に没頭したいと願うなら、神性を形にしようと試みた際に作り出したあらゆるイメージを、自分の目と心から取り除くよう心がけなさい。

32. もしあなたがたが、神聖なる師がまだ多くのことを教え、正さなければならぬことを次第に理解するようになれば、あなたがたは私の真理があなたがたの知性に浸透することを許すようになるでしょう。そうすれば、あなたがたの魂の前に新たな地平線が現れ

、学び、新しいことを知り、魂をより高い次元へと発展させるために、歩むべき野原、谷、道、山々が差し出されるのを見るでしょ。

33. わたしの光は、あらゆる霊の中に宿っている。今、あなたがたは、わたしの霊が人々に注がれる時を迎えている。それゆえ、わたしはあなたがたに告げる。まもなく、あなたがた全員がわたしの臨在を感じるようになるだろう――学者も無学な者も、偉大な者も小さな者も、権力者も貧しい者も、皆がそうである。

34. 生ける真の神の真理を前にして、ある者もまたある者も、皆震え上がるだろう。

35. 弟子たちよ、ここにあなたがたが深く考えを巡らせるべき新たな教訓がある。わたしが、ただあなたがたの耳を楽しませたり、心をなだめたりする言葉を聞かせるためだけに来たのではないことを理解せよ。師の意図は、あなたがたを闇から引き離し、真理の光を示すことにあるのだと理解せよ。

36. わたしは永遠の光であり、永遠の平安であり、永遠の至福である。あなたがたはわたしの子供たちであるから、あなたがたをわたしの栄光の共同者とするのが、わたしの意志であり、わたしの義務である。そのために、わたしはあなたがたに律法を教える。それは、魂をその御国の高みへと導く道だからである。

37. 律法を全うし、功德を積む機会は、毎日、毎時間、ある。それらを見逃さず、見逃してはならない。一度過ぎ去れば、二度と取り戻すことはできないからだ。良い一日を迎える準備をしておきなさい。そうすれば、夜が訪れたとき、あなたの眠りは安らかで穏やかなものとなるだろう。徳ある生活を送りなさい。そうすれば、あなたの魂の成長は永遠に続くであろう。

38. 愛する弟子たちよ、私は二度、人々の間にいた。一度は人間の姿で、もう一度は霊的な形である。今こそ、あなたがたが私の教えを理解すべき時である。

39. なぜ、あなたがたはたいてい、泣きながら、嘆きながら私のところへやってくるのか。私がこの世にいたとき、私は安楽や快樂の中で暮らしたわけでもなく、この世の権力の笏を握っていたわけでもなかった。私は苦しみ、戦い、その痛みに対してさえも反抗することはなかった。私は、自らの十字架を背負い、自ら進んで負った使命を果たすために来たのだ。

40. 私は、父の御心を行う魂が、その務めを全うしたとき、いかにして無限への渴望に駆られて高みへと舞い上がり、物質的なものをすべて後にして、天の領域へと向かっていくかを、あなたがたに教えなければならなかった。

41. あなたがたは、苦難や欠乏の中にいるとき、なぜ父があなたがたの望むものをすべて与えてくれないのかと、しばしば自問する。あなたがたは、自分たちの考えによれば、自分の完全性のために恵みの賜物だけを望んでいるのだから。しかし、私はこう言おう。もし私があなたがたの望むすべてを与え、この地上で切望するあらゆる喜びを許したとしても、後になってあなたがたはそれを後悔することになるだろう。なぜなら、自分たちが停滞していることに気づくからである。

そう、弟子たちよ、もしあなたがたがそれらすべてを所有していたとしても、それを手に入れるために何の努力も労力も費やさなかったため、それを無駄遣いし、大切に守ろうとはしないだろう。それに対して、今日あなたがたが、それに見合う功績がないにもかかわらず、功績に基づいて与えられているものを、どれほど愛を込めて大切に守るか、そのことをやがて理解するだろう。

42. いつになったら、わたしの言葉は理解されるのだろうか。いつになったら、あなたがたは、その言葉が心の中で花開き、魂の中で実を結ぶことを許してくれるのだろうか。わたしがあなたがたを想うように、あなたがたもわたしを想ってほしい。この世で孤独を感じている者は誰か。自分が孤児だと言う者は誰か。あなたがたが準備を整えれば、もはや「自分は一人だ」とは口にしないだろう。なぜなら、どこにいても、わたしの助けを感じられるようになるからだ。

わたしの道の光を求めていれば、恐れることは何もない。科学や人間の知識の光に執着してはならない。なぜなら、知性の光は、魂を神の御前に導くにはあまりにも弱すぎるからだ。

43. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたを高め得るものは愛である。なぜなら、愛には知恵と感情と高揚が内在しているからだ。愛は神性のあらゆる特質の総括であり、神はこの炎をあらゆる霊的な被造物の中に灯されたのである。

44. あなたがたに愛することを学ばせるために、私はどれほど多くの教訓を与えてきたことか！ 神の慈悲は、あなたがたにどれほど多くの機会、人生、そして転生を授けてきたことか！ その教訓は、習得されるまで、必要なだけ繰り返し与えられてきた。一度習得されれば、繰り返す理由はない。なぜなら、もはやそれを忘れることもないからだ。

45. もしあなたがたが私の教訓を素早く学べば、もはや苦しむ必要も、過ちを嘆く必要もなくなるだろう。地上で受けた教訓を活かして生きる存在は、再びこの世に戻るかもしれないが、その際は常

に、より大きな成熟を帯び、より良い生活環境のもとで戻ってくることになる。一つの生と次の生の間には、常に休息の期間があります。それは、新たな一日の働きを始める前に、考えを巡らせ、休息をとるために必要なものです。

46. ある者が心の中で私にこう問いかける。「父よ、この日々の営みや休息の期間は、私たちを再び世に送り出し、この世で新たな苦難を求めるためのもののでしょうか？ これはいつまで続くのでしょうか？」

47. ああ、小さな者よ、私はあなたの無知を赦し、あなたがたが歩まなければならない人生の旅路において、私が不公正なことも不完全なことも何も予定していないと告げよう。靈魂は疲れを知らない。物質界に生きているときだけ、身体から伝わる疲労の影響を感じるのだ。しかし、再び靈的な自由と靈的な光へと戻れば、その疲労を脱ぎ捨て、再び疲れを知らなくなる。

48. この世や肉体の誘惑に対して強くあれ。試練に直面しているときは、私の模範を思い起こしなさい。

49. あなたがたは、どうしてイエスが世の誘惑に触れることがあったのかと私に問う。それに対し、私はこう答える。あなたがたの師の心を揺さぶったのは、卑しい誘惑などではなかったのだ。

50. 私がこの世で持っていた肉体は、人間らしく、感受性に富んだものであり、人類に私の教えを伝えるための私の靈の器であった。私の靈がそれを明らかにしたため、その肉体は待ち受ける試練を知っており、待ち受ける痛みのために苦しんだのである。

51. 私は、その肉体が、真の人間らしさの特質をあなた方に示すことを望んだ。それは、私の苦痛が現実のものであり、人間としての私の犠牲的な死が真実であったことを、あなたが確信できるようにするためである。

52. もしそうではなかったなら、私の犠牲の死は人々にとって何の価値も持たなかっただろう。それゆえ、イエスは厳しい試練に耐えるために、御自身に命を吹き込んだ私の御靈の力を三度呼び求めた。一度目は荒野で、二度目はゲツセマネの園で、三度目は十字架の上であった。

53. 人類がイエスに与えるであろう苦痛が、彼らに深い印象を与えるためには、私が人間となり、あなたがたに私の肉と血を捧げることが必要だった。しかし、もし私が「靈」として来られたとしたら――あなたがたを通して、私はどのような犠牲の死を味わうことができたでしょうか。私は何を犠牲にすることができたでしょうか。ま

た、あなたがたは私にどのような苦痛を感じさせることができただろうか。

54. 神の御霊は不死であり、痛みは御霊には及ばない。しかし、「肉体」は痛みには敏感であり、その能力には限界があり、本質的に死すべきものである。それゆえ、私はこの手段を選び、世に御自身を現し、真の犠牲の死を捧げ、人々に救いへの道を示したのである。

55. あなたがたが罪人である限り、あの受難における私を模範とし、その血を思い起こしなさい。そうして、自分の過ちを悔い改め、私があなたがたに示した無限の愛の模範によって、自らを清めるようにしなさい。

56. あなたがたが人間である限り、十字架上の私を思い出してください。私が自分の処刑者たちを赦し、祝福し、癒やしたように、あなたがたもまた、困難に満ちた人生の道のりにおいて、自分に不当な扱いをする者たちを同様に祝福し、自分に悪を行なった者たちに対して、可能な限りの善を行いなさい。そのように振る舞う者は私の弟子であり、まことに、私はその者にこう告げる。その者の苦しみは常に束の間である、と。なぜなら、試練の瞬間に、私はその者に私の力を感じさせるからである。

57. 師の模範を通じて隣人を教え導こうとする者は、ごくわずかである。この民の間でも同様であり、大多数の共同体では、行いや模範によって裏付けられていないため、力のない言葉による教えが説かれている。

58. 今、あなたがたには、私の教えの解説を聞く機会が与えられている。その教えは、私があなたがたの霊に託した使命を果たす準備が整うまで、少しずつあなたがたの心を整えていくのである。

59. 私の足跡をたどることを恐れてはならない。私は、誰に対しても、私がこの世で経験したのと同じ苦難を味わうことや、私と同じ方法で犠牲を捧げることを求めることはない。また、私の霊がその体に差し出したような苦難の杯を飲み干すことができたのは、その体だけであり、他の人間には耐えられなかっただろう、と申し上げなければなりません。なぜなら、私の体は徳から生命力を汲み取り、私を受け入れるためにその胎を捧げた方、すなわちマリアの清らかさによって力を得ていたからです。

60. 民よ、心を落ち着かせ、私の教えに耳を傾ける際にあなたがたが踏み込むこの祝福された静寂を活かしなさい。まことに、私はあなたがたに告げる。この静寂と霊化の瞬間に、私の種はあなたがたの心の最も奥深くで芽生えるのである。

61. この形で私の啓示の最後の時を、この恵みを二度と受けることはないという自覚を持って活用するあなたがたは、幸いである。

62. 私の啓示の時代は、恩寵に満ちた時代であった。私は、相続権を奪われた者たちに恵みを惜しみなく与え、人生の闘いに敗れた者たちを立ち直らせ、罪人や社会から疎外された者たちに新たな機会を与えた。

63. それは幸せな時代であり、過ぎ去った後には、人々は切なる思いでそれを思い出すだろう。なぜなら、私の言葉は語り手を通じて聞かれたものの、人々の心は私の臨在を感じ、魂は私の神聖な本質で満たされたからである。

64. 人々の群れよ、この祝福された時にあなたがたが示している霊性を、常に保ちなさい。それは、あなたがたの集まりにおいて、祈りの瞬間において、そしてあなたがたのあらゆる行いにおいて、常に存在していなければならない。

65. このぶどう酒を飲み、このパンを食べ、満腹になるまで味わいなさい。あなたがたは、この準備期間の最終段階にあるため、わたしの啓示は過ぎ去ってしまうからである。

66. 真に備えを進める弟子は、常に証しを口にしており、師から受け継いだ真理を隠すことはできないだろう。光は彼の中にあり、その存在そのものが、私があなたがたに明らかにした言葉と行いの生きた証しとなるだろう。

67. もし誰かが、私の言葉や私が彼に託した賜物を心の中に隠してしまうならば、それによって失った喜びを味わうことはできないだろう。なぜなら、私の畑で種を蒔き、戦い、自ら苦しみを受けることこそが、魂にとっての喜びであり幸福だからである。

68. 戦いが常に容易であるとは限らない。苦い試練の日や瞬間もあるだろう。しかし、そのような時でさえ、魂は謙虚さと愛をもって父の御心に応えるべきである。なぜなら、まさにその柔和さの中にあってこそ、私は善き弟子たち、すなわち忠実な証人たちに、私の平安を現すからである。

69. あなたがたは、第二の時代の私の使徒たちにとって、その道が労苦に乏しく、戦いがより容易だったと思うか。いいえ、民よ、彼らもまた、その師と同様に、受難の道とゴルゴタを持っていた。しかし、あらゆる苦しみの中で、彼らは、自分たちが耐えたすべてのことが、真理を渴望する同胞たちへの愛から生じたものであるという自覚のもと、平和に満ちた魂を天へと向けたのである。

70. もしあなたがたが、私の教えに従う者たちに、彼らが弱気になったり、迫害者や処刑人を恐れたりしたかどうかを尋ねたなら、

彼らはこう答えるだろう。彼らの信仰は一瞬たりとも揺らぐことはなく、神の力への信頼は絶対的なものであり、その信仰ゆえに、彼らは損失や嘲笑、試練、さらには死さえも意に介さなかった、と。

71. これこそが、あなたがたの前にある道筋であり、人間にとって、イエスの足跡をたどり、その力、愛、強さ、そして慈悲に似た者となることが決して不可能ではないという、生きた証しである。

72. 私が言いたいのは、私の弟子となるためには、必ずしもあの殉教者たちのような迫害や死の苦しみを受けなければならない、ということではない。私が皆さんに理解していただきたいのは、隣人を愛するためには、自分自身に対する愛を後回しにし、ある特定の瞬間には自分のことを忘れて、他者のことを考えなければならないということです。なぜなら、真の愛からこそ、他者にとっての模範として残されるに値する不朽の行いが生まれるからです。それは、福音を広めようとする熱意と、人々の心に主の光をもたらしたいという願いから、すべてを捧げた、神の御言葉の使者であるあの弟子たちの行いのように。

73. それは彼らが至近距離で目の当たりにした模範であり、彼らは自分たちに可能な限りの力を尽くして、その模範のようになるよう努めた。あなたがたのうち、誰が放棄と柔和と慈悲の道を歩んでいるのか。道は開かれており、小道があなたがたを待っている。道の脇には、水を渇き、種を飢えている畑が広がっている。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 264

1. 愛する民よ、私はあなたの中に、私の律法を守ろうとする闘志を見出す。それは私の言葉からインスピレーションを得て、人類の道に光の軌跡を残そうとするものである。

2. この民が、かつてエジプトでイスラエルがそうであったように増え広がり、他の共同体もこれに加わるためには、あなたがたは私の律法に対する真の従順の証しを示さなければならない。私は、私があなた方に託した使命である霊的な日々の務めを継続するよう、あなた方を励まします。そして、私の言葉を心に深く刻み込み、それを深く探求し理解した者は、失敗することはほとんどない、と告げます。

3. 私は、この使命を果たすためにあなたがたの全時間を求めるわけではない。一日のうち数分間を私の御言葉の研鑽に捧げたり、善行を成し遂げたり、あるいは何らかの形で霊的な道において一歩前進したりするだけで、私には十分である。

4. あなたがたは、わたしの慈悲と愛を映し出そうとする鏡のようだが、その鏡は曇っており、光と真理を反射させることができない。その鏡を清めなさい。そうすれば、あなたがたの霊の中に、わたしの霊が映し出されているのを見るだろう。

5. もしあなたがたが心の底から私にこう言うなら、「師よ、私はあなたのしもべです。あなたの御心に従う用意があります」、その瞬間こそ、私が真にあなたがたの中に現れ始める時となるでしょう。

6. あなたがたの善意にもかかわらず、今日のあなたがたの心は、私の愛に対して依然として眠ったままであり、あなたがたは、自分の使命を果たすには私の愛に導かれなければならないということを、まだ理解しなければならない。この力に動かされて働きに出る弟子は、その生涯において使徒となり、偉大な業を成し遂げることができるだろう。なぜなら、彼は何も恐れることがなく、彼を弱らせるものなど何もないからである。

7. 平和について語るなら、まず心の中に平和を保ちなさい。わたしやわたしの業について語るなら、まずわたしを知りなさい。そうすれば、決して真理を歪めることはないだろう。自分たちだけが真理の唯一の所有者だなどと思ってはならない。そうすれば、無知と狂信から罪を犯すことになるからだ。私は、あなたがたが真理を含む教えを説くとき、同時に、隣人の中に真理を見出す術を身につけてほしいと願っている。ある者には多くの光があり、ある者にはほんのわずかな火花しかないだろう。しかし、あなたがたはすべての

人の中に私の臨在を見出すだろう。なぜなら、彼らは皆、私の子供たちだからである。

8. あなたがたは、回復の時代を目の当たりにしたことを、父に感謝し、喜びなさい。明日、すでに霊界にあって、地上の行いの実を顧みる時、心を躍らせなさい。そう、弟子たちよ、この涙と贖罪の谷は、平和と霊的進歩の地へと変貌するだろう。

9. 今日に至るまで、人類は主を愛するための真の神殿をまだ築いていない。人類は多くの礼拝の形式を取り入れ、多くの儀式を制定し、多くの宗教団体を設立してきた。しかし、その基礎が揺るぎない、あの霊の神殿を、人類は今日に至るまで築いていない。

10. この聖域が、愛と真実と正義という揺るぎない永遠の岩の上に築かれたとき、あなたがたの信仰上のあらゆる相違は消え去り、戦争が消え去るのを見ることになるだろう。

11. あなたがたは、わたしの真理の中にのみ、自らの遺産を見出すことができるだろう。しかし、もしあなたがたがそこから遠ざかっているならば、兄弟姉妹となるまで、自分自身を忘れていなければならないだろう。

12. わが霊性主義の民よ、あなたがたには、すべての人に対して兄弟愛をもって接し、実例を通じてわが愛という至高の戒めを教えるという使命がある。

13. あなたがたは、まだどのように働くべきかを知らず、また、あなたがたの精神の力がどこまで及ぶのかも知らない。しかし、私はそれをよく知っており、こう告げる。心配するな、私を信頼せよ。私の光が道筋を示し、私の声が、その日の働きを始めるべき時を告げるだろう。

14. あなたがたの魂はすでにわたしを聞き、目覚めている。それゆえ、わたしはもはやあなたがたを眠らせはしない。魂は、自らの使命の中にわたしの愛を予感しているため、清らかな感情によって高みへと昇りたがっているのだ。魂がその任務を果たせるようにし、その使命のために自由を与えなさい。そして、ある崇高な業のためにその時が魂に属していることを、魂があなたがたに感じさせてくれるとき、その声を聞き逃してはならない。

15. すでに今、わたしの啓示の研究に専心している者たち——わたしの御言葉について熟考する時間を割いている者たちは、道をより歩みやすくし、十字架をより軽く担う者となるであろう。御言葉は川のように彼らの唇から流れ出し、癒しの香油は彼らの霊的な手の中で奇跡的な働きをするであろう。

16. わたしに耳を傾け、わたしの教えを活かす者たちは祝福される。彼らは、その魂の中に多くの満足と喜び、そして勝利を見出すからである。

17. 良き弟子たちは謙虚でなければならない。そして、彼らが誰であるかを物語るのは、彼らの愛の行いであるべきだ。私の「子供弟子」たちの中には、私の業における使命が何を意味するのか全く理解していないくせに、私の選ばれた者たちの一員であることを誇示し、世界の人々に自分の額に刻まれた私の印を見てもらいたいと願う者たちがいるが、彼らはそうではない。

18. 直感的で目覚めたこの人類は、まもなく、真に説教する者と、ただ装っている者を見分けるようになるだろう。

19. 私があなたがた全員に語りかけたということは、私があなたがた全員に光を持つことを望んでいることの証である。

20. あなたがたの責任は、これまで正しい道を歩んだことのない者にその道を示すことだけに限られるのではない。道から迷い出た「働き手」たちが、必ずやあなたがたの道と交差することになるのだと知っておきなさい。あなたがたは彼らに助言を与え、彼らを「囲い」へと戻さなければならない。

21. あなたがたは皆、私が託したものを守り抜くがよい。謙虚さと賢明さをもって歩めば、あなたがたは勝利するだろう。苦難の杯を飲み干すときは、忍耐をもって行いなさい。そうすれば、それはまもなく過ぎ去るだろう。

22. 裁きがあなた方の身にあること、そして大いなる試練の時が来たことを予感したり知ったりしたなら、魂を天に向け、信仰を強め、心を奮い立たせなさい。

23. これまで追放された者のように感じていたなら、あるいは祖国や実家から遠く離れていると感じていたとしても、心配する必要はない。あなたがたの功績は、あなたがたの魂が切望してきた祖国へと導いてくれるでしょう。また、あなたがたが隣人を愛し、彼らを赦すことによって天の父を愛するならば、その行いは、地上に平和の時代が近づくことにつながるのです。

24. 試練に満ちたこの人生において前進し、主の御前に至った魂の至福を、あなたがたは想像することさえできないでしょう。その魂は、崇高な霊的な言葉で父にこう語りかけます。「主よ、私は勝利しました。あなたが私の魂に与えてくださった光によって、あなたが私に示してくださった愛によって、私は勝利しました。私の試練は極めて大きく、私を打ちのめした嵐は極めて激しかった。しか

し、あなたの力によって、私はそれらすべてに打ち勝ち、今こうしてあなたの御前にいます。」

25. この愛の炎こそが試練に火をつけたのである。そうでなければ、魂の生涯には教訓が欠け、そのすべての能力は依然として眠ったままであっただろう。

26. 私は多くの弟子たちの顔に悲しみを見出す。それは、あなたがたが、私の呼び声がそう遠くないうちに響くことを予感しており、また、あなたがたの魂がこの地を去る時、平和な姿を見る幸運に恵まれなかったことを悟っているからだ。しかし、私はこうも言うておく。心配するな。なぜなら、あなたがたの魂は、ここへやって来た霊界から、この世界に平和の時代が訪れるのを見れば、喜びを感じるだろうからである。

27. すでに、私の「いのちの言葉」が人々の心の中で花開き、あなたがたが日々、私の言葉が成就していくのを目にする時が近づいている。そして、あなたがたがこの世に属さなくなったとき、霊界からすべてを見渡し、完全な明瞭さと完全な理解をもってそれを証しすることになるだろう。

28. 知識への渴望を満たしなさい。そうすれば、人生の歩みのあらゆる段階で驚きを見出すでしょう。たとえ十字架が重くのしかかっても、存在を楽しく、軽やかにする術を学ぶことになるでしょ。

29. 徳に満ちた弟子として自らを高めなさい。そうすれば、わたしの教えがあなたがたの霊に降りてくるだろう。そうすれば、あなたがたは、その教えの中に、誘惑や試練に打ち勝つために必要なすべての力を見出すことになる。

30. すでに、わたしの畑で種を蒔く者としてあなたがたが果たした使命の最初の収穫を、わたしの納屋に集めた。そして、あなたがたが引き続き種を蒔き続けられるよう、わたしの言葉をもって励ましてきた。たとえ一部の心が、あなたがたのメッセージにすぐには応じなくても、落胆してはならない。目覚めつつある魂がいるのと同様に、遅れてくる魂もいることを知っておきなさい。

31. 私はすでに、大勢の人々が、私の教えである恵みの泉へとやって来て、自らの汚れを洗い流し、不浄な衣を脱ぎ捨て、私の光に身を包もうとしているのを見ている。

32. この時代に私の言葉を聞いた者たちのうち、私が1950年の終わりにこの形の啓示を終えることを知っている者はいるか。誰もいない。大小の共同体において、都市や村々の集会所において――あらゆる伝達者を通じて、私は、この日付をもって、人間の知性によ

る啓示というこの段階を終わらせるという私の意志を明らかにしてきた。

33. スピリチュアルな民にとって、新しい日は、もはやこの形で私を聞くことはなくなるが、その魂の最も崇高な部分において私を受け入れ、感じ取るようになる時となるだろう。

34. その時、あなたがたがもはや伝達者を通じて私を聞くことがなくなれば、私の教えについて深く思索し、今は説明できない多くの教訓を理解できるようになるだろう。したがって、私を聞いたことのない者たちから――私の到来と啓示の理由について尋ねられたとき、あなたがたは明確な言葉で、私の再臨は、かつて私が人間としてこの世に生を受けたのと同じ理由によるものであると伝えることができるだろう。すなわち、あなたがたが、伝統や儀式、そして偶像崇拜によって置き換えようとしていたため、あなたがたはそこから遠ざかってしまった。これは、たとえ父を崇め、父に喜ばれようという善意がある場合でも、真の道ではないのだ。

35. かつて神の教えに誤った解釈が与えられたのと同様に、この時代においても私の教えは歪められてしまった。それゆえ、師が再び来臨し、あなたがたが誤りから解放されるよう助ける必要が生じたのである。なぜなら、自らの力だけで迷いから抜け出せる者はごくわずかだからである。

36. 確かに、私は当時、再び戻ってくると約束しました。しかし、私がそうしたのは、人類が私の教えの道を歩んでいると確信しながら、実際にはその教えから大きくかけ離れてしまう時代が来ることを知っていたからです。そして、今こそが、私が再臨を予告していたその時なのです。

37. わたしはあなたがたに対して、わたしの約束を果たした。すなわち、わたしの姿が使徒たちに最後に目撃された当時、約束した通り、霊として来たのである。わたしがこれらの「声の媒体」を通じて自らを明らかにしたのは、あなたがたが霊におけるわたしの存在を感じ取ることも、わたしの靈感を受け入れることもできなかったからに他ならない。

38. あなたがたの精神、さらには感覚の及ぶ範囲内の私の啓示は、霊から霊への啓示への前段階として必要であった。それゆえ、私は、私の最後の啓示の日を告げたあの「声の媒体」たちを通して、一時的に自らを現したのだ。

39. これは、子らと父との間の霊的な対話の時が来る前に、私が選んだ一時的な形であった。一時的であるというのは、私が当時のように目に見え、触れることのできる人間として来たわけでも、完

全に靈的な姿で来たわけでもなく、私が啓発した知性の器官を媒介として現れたからである。

40. この種の啓示は、あなたがたに私の臨在に対する信頼を植え付けるために役立った。第二の時代、私が犠牲の死の後、使徒たちの前に、神でもなく完全な人間でもないが、それでも目に見え、触れることのできる姿、すなわち肉体として現れたとき、私は使徒たちに同様の体験を授けた。それゆえ、最も不信仰な者でさえも信頼を抱くことができたのである。

41. あなたがたも、この時代において、エマオへの旅人たちが経験したような形で私の臨在を、また使徒たちが聞いたのと同じ方法でその御言葉を、どれほど望んでいたのか！しかし、それは別の時代であり、それゆえに、与えられた教訓も異なっていたのだ。

42. 信じてほしい。今、あなたがたがわたしを聞き取っているこの形は、あの時よりも進歩したものである。なぜなら、これはあなたがたの本質、すなわち知性の器官、霊、魂から生じるものだからである。一方、わたしの弟子たちが見て聞いたものは、それらの外側にあり、彼らの感覚にのみ現れていたのだ。

43. 今日、あなたがたは、私の中に人間の姿を見るために目を開く必要も、私の存在を信じるために私の手からパンを受け取る必要も、私が私であることを信じるために指を私の傷跡に当てる必要もない。

44. あなたがたは、当時、私がもはや人間界に属していなかったにもかかわらず、どうして彼らが私の人間としての姿を見ることができたのか、そして私の弟子の一人が私にさえ触れることができたのかと問う。――私があなたがたに示してきたすべての真実を悟るためには、あなたがたは私からまだ多くのことを学ばなければならない。しかし、すべての秘密は、時が来れば解き明かされるだろう。ひとまず、あなたがたが知っておくべきことは、神性という性質と人間性という性質の間に、主がその崇高な目的のために用いる、他にも多くの性質が存在するということである。

45. キリストは、その啓示と教えにおいて、時代をはるかに先取りしていた。それは、人間が靈的なことに目覚め、そのより高い人生に関わるあらゆる事柄に関心を寄せる時が来たとき、一步一步進むごとに、イエスの中に、その子供たちにすべてを啓示し、語り、遺した師を見出せるようにするためであった。

46. 祈り、わたしの言葉を深く考えなさい。この民には、働きと闘いの日々が訪れるからだ。この民は、主からの啓示を受け、その証しを全世界に広めなければならないのである。

47. イスラエルの民よ、愛する弟子たちよ。あなたがたは人類の守護者として備えてきた。あなたがたは、新しいエルサレムという祝福された都の門——光を求める異邦人が通り抜ける十二の霊的な門——を守っているのだ。

48. 十二部族よ、祝福あれ！あなたがたは、どれほどの祝福を受け、どれほどの特権を与えられてきたことか！わたしは常にあなたがたの元へ降りてきて、霊と霊とを交わして語りかけてきた。わたしはあなたがたの願いを尋ねたところ、あなたがたはわたしにこう答えた。「私たちの願いは、人類が救われることです。」あなたがたは、自分たちはすでに救われていると考え、人生の浮き沈みを乗り越えられると信じている。そして、周囲には、より高い発展を求めようとせず、貧しく、無知で、物質主義に囚われた人類を見て、彼らのために苦しんでいる。あなたがたは、救われるために霊的な賜物を得られるよう、私に祈り、懇願しています。しかし、私はこう言います。私はすべての魂を救うでしょう。福音が彼らに届くのです。

人間の知性を通じて私の言葉を聞き取った者はごくわずかである。すべての者が私の業のこの段階を知るわけではないが、私は今、一人ひとりの人間との霊的な対話を求めている。

わたしの言葉は、良心を通じて、わたしを証しする試練を通じて、自然の力を通じて、あるいはわたしの霊的な子供たちを通じて、さまざまな形で注がれている。わたしの言葉は普遍的である。準備を整える者は誰でも、わたしの声を聞くことになる。

49. 私の教えは、完全な愛、すなわち無私の愛をあなた方に説くものである。私は、父として、友人として、そして兄弟として、あなた方に私の愛を示してきた。私は、あなた方が互いにこのように愛し合い、隣人に対して真の愛を感じ、倒れた者を助け起こし、常に赦し合うことを望んでいる。第二の時代に、あなたがたにこれほど身近であった私の生涯は、誰もが手本とできるよう、教訓となる実例である。私があなたがたに与えたその教訓は、あらゆる時代の人々に向けたものである。

50. あなたがたの魂に、もともと備わっていたすべての優雅さを取り戻しなさい。それは、時が経つにつれて、あなたがたの歩みの途中で、破片となって置き去りにされてしまったものである。私は、あなたがたが、私が永遠に住まうことのできる神殿となることを望む。

51. ああ、愛するイスラエルよ！人々を助け、彼らの道を整え、彼らの信仰を強め、彼らの心を希望で満たしなさい。もし人々があ

なたたちの中に自らの過ちや不完全さを見出したとしたら、混乱に満ちたこの世界の道を、どうして正すことができようか。おお、小さな子よ、心の中で自分自身と語り合い、自らを省み、私があなたに与えたこの肉体を愛をもって統べ、その歩みを導き、魂と物質を一つに統合し、一つの意志を形作れ。法に従いなさい。自由意志を用いて限りなく愛し、有益で調和のとれた存在を築き上げなさい。霊の法則と自然界の法則に従いなさい。なぜなら、私はその両方を定めたのであり、それらは完全だからである。

52. わたし、父は、常に慈愛の眼差しであなたがたを見つめ、あなたがたがすべての霊的賜物を得られるよう、すべてを準備し、整えてきた。わたしはあなたがたの魂に天使のパンを、あなたがたの肉体には、わたしが創造した自然の果実を授けてきた。あなたがたには、すでに始まっている「魂を完成させる」という業を成し遂げるために、この地上に来る機会が与えられていた。これらすべての中に、わたしの愛を見出せないのか。あなたがたは、自分自身の内面を見つめ、自分がわたしに似ていることに気づいていないのか。わたしはあなたがたを愛しており、あなたがたが完全な姿でわたしの元にいることを望んでいるからこそ、すべてを与えてきたのだ。

53. 罪を遠ざけなさい。たとえ地上の快樂があなたの心に心地よいと感じられたとしても、偽りの約束に惑わされてはなりません。

私の道は茨に覆われているけれど――この道を選びなさい。なぜなら、これこそが平安へと導く道だからです。私はあらゆる傷に癒しの薬を持っていますが、この世はあなたたちに対して愛も憐れみも持ち合わせていません。

54. 人類は、わたしのために十字架を立てている。彼らの信仰の欠如は、わたしの神聖な御霊を絶えず傷つけている。しかし、あなたがたが落胆することのないよう、わたしはすべての傷を赦しの衣の下に隠し、嘆きの声を押し殺す。

55. 第三の時代の十字架の足元で目を覚ましていなさい。わたしの杯は極めて苦い。あなたがたは、その味を知るために、この杯から一滴をわたしのところへ求めてくるだろう。しかし、私は今日、すでにこう言うておく。もしあなた方の生活がすでに非常に苦痛に満ちており、贖罪の生活を送っているのなら、むしろ日々を甘くし、愛をもって微笑み、私の啓示を熟考して喜びなさい。それらの啓示は、この時代の後に平和が訪れ、すべてが刷新され、恵みと徳こそが人々を動かす力となることを告げているのだ。

56. わたしは、すべての国々、すべての家庭、そしてすべての心を整え、彼らに平和と団結のメッセージを送る準備をしている。人

類が引き起こす最後の戦いの後、わたしの王国は人間の魂に近づき、そこに永遠に宿ることになる。わたしは、あなたがたを善の戦士として、悪に対抗するためにこの世に残す。そうして、あなたがたには、戦争のあらゆる要素、悪徳や病気のあらゆる種を根絶してほしい。この危機の時代に人々に寄り添い、彼らの苦しみを和らげるために、あなたがたの愛をすべて注ぎ出せ。

57. この時代、私は多くの伝達者を通じて私の言葉を授けてきた。それは常に同じ本質をもって啓示され、その意味内容は同じである。私は、教育を受けていない素朴な男女を用い、彼らを道具として、私の活力を与え、愛に満ち、賢明な言葉を伝えるために用いた。私が去った後、あなたがたが私の教えを統合し、私の啓示の一つひとつを深く探求するとき、完全なものを認識し、不完全なものを取り除くことになるでしょう。伝達者に起因する部分を、私に帰属させてはなりません。私は、私が三つの時代に伝えた三つの部分を、一つの書物に統合し、それが一つの作品となるよう、あなた方を啓発する。それゆえ、私は第一の時代の使徒であるモーセについて、繰り返しあなた方に語っているのだ。私はイエスとその行いの記憶を蘇らせ、それによって、聖霊としての第三の時代の私の啓示を統合する。

58. 弟子たちよ、あなたがたが平和のうちに、そして一致しているときはいつでも、わたしはあなたがたにわたしの啓示を与える。そのとき、あなたがたの顔は、誠実さに満ちた魂を映し出すであろう。わたしは、あなたがたがすべての賜物を持ち続けるようにして去り、あの世からあなたがたの歩みを追い、あなたがたの行いを見守る。なぜなら、わたしはあなたがたの心の神殿と家庭に、非常に近くにいるからである。

59. あなたがたは、子供たちがわたしの言葉を理解できないと考えて、彼らを遠ざけているのを見る。しかし、あなたがたは、わたしが「これらの小さな体には、わたしについて多くのことを知っている偉大な魂が宿っている」と語ったことを思い出していない。たとえ彼らが預言の成就を目の当たりにしたいと切望しているとしても、この業の光から彼らの目を閉ざしてはならない。あなたがたの業は、彼らによって裏付けられることになるのだ。

この世界は、霊化へと向かうその発展を止めることはない。私がさまざまな年齢層のあなた方を呼び寄せているのは、靈魂には年齢も性別もなく、その本質は永遠であり、私と似ているからだ。これらの魂の光を喜び、彼らがこの世での使命を果たせるよう、その第一歩から祈り続けなさい。

60. この日のあなたがたの祈りは、世界への平和を懇願する切なる願いである。わたしはあなたがたの使者となる。善行一つひとつに対して、わたしは恵みを与え、あなたがたが一人を赦すごとに、わたしは一つの国を赦す。あなたがたの蒔いた種は、永遠のうちにわたしによって何倍にも増やされるであろう。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 265

1. 弟子たちよ、私の講壇に来て、私の教えについて熟考しなさい。あなたがたは、その熟考を通じて、この言葉が内包する真意を発見し、それがあなたがたの人生の真の意味を明らかにしてくれることを体験するでしょう。

2. もし人々が、初めから、そしてあらゆる時代を通じて、人生の目的が魂の完成にあることを認識していたならば、彼らの存在も、その行いも、今とは異なっていたであろう。しかし、人間は最初の歩みを踏み出した時から、ほんの短い間だけ与えられていたものを自分の所有物だと見なし、高貴な行いのために託されたあらゆるものを、不正直な目的のために用いてしまった。

3. この世界が、その科学をもって、魂の完成には関心を払うことなく、ただ地上の栄光と力のみを発見しようと努めている様子を見てください。しかし、魂がその能力を開花させず、またその内に存在する美德を実践しなければ、その人生において、愛も、真の慈悲の心も持つことはできないでしょう。

4. 多くの人々は、この世に蔓延する物質主義的で墮落し、利己的な生活から自分の魂を解放したいと願っている。しかし、彼らにはそれができない。なぜなら、彼らにとって生存競争はあまりにも複雑で、苦しく、困難であり、その結果、魂さえも人間生活の悩みや問題に縛られてしまっているからである。

5. もしあなたがたの地上での存在がもっと単純であれば、生きるための闘いも軽減され、あなたがたには自由と時間が生まれ、魂が自分に課せられた使命を果たすことに専念できるようになるでしょう。

6. 私の小さな弟子たちよ、人類の変革を実現するのは、あなたがたに課せられた使命ではない。それはあなたがたの力を超えた業だからである。しかし、あなたがたは、人々がこれまで生きてきた大きな誤りから彼らを解放するこの神聖なメッセージを広めなければならない。

7. これほど乾いた畑に霊的な種を蒔くというこの働きは、あらゆる偉大な業と同様に、信仰と愛と努力を必要とする。それゆえ、わたしはあなたがたに告げる。わたしの神聖な計画の実現について、一瞬たりとも疑ってはならない。もし疑うならば、あなたがたは実りある成果を何も得られないからである。あなたがたの使命は、私が現在準備を進めているこの弟子たちの団体の構成員として活動することである。

8. あなたがたは、この霊的な事業の創始者であるなどと思ってはならない。あなたがたは、かつての兄弟たちが成し遂げた他の努力や、他の事業の継承者であることを理解せよ。

9. それゆえ、私が今日あなたがたに伝えた教えは、かつても、そして今も変わらず同じものであると、私はあなたがたに告げたのである。もしあなたがたがその中に何らかの違いを見出したとしても、それはあくまで外見上の形式に過ぎない。なぜなら、私が各時代において教えを伝えた形式は、人類が到達していた霊的な発展段階に応じて、また私が語りかけた民に応じて定まっていたからである。

10. この時代にわたしを受け入れること、それがあなた方の定めであった。あなた方の使命は、かつてわたしが使徒や使者に託したものよりも、決して重要性が劣るものではない。わたしの言葉と、あなた方の行いの清らかさが相まって、人々の心の中で花開くよう定められた実り豊かな種となるだろう。

11. 何世紀にもわたり、霊的なものから遠く離れた生活を送ってきた人々や民族の生き方を、わたしの言葉とあなたがたの模範によって変えることができるだろうか。

12. まず、あなたがたがこの教えの達人となり、まるで幼い子供たちのように愛をもって同胞の手を取り、最初のレッスンから最後のレッスンまで一步一步導けるようになるまで、準備をしなければならぬことを理解しなさい。

13. 今日というこの貴重な時間を無駄にしてはなりません。また、現在の時間を正しく活用せずに、未来を待って自分の使命を果たそうとしないでください。現在の時間は、まず第一にあなたがたが心に留めておくべきものであり、そうしてこそ、戦いの時が来ても落胆することはないのです。あなたがたが説くことへの信頼は完全でなければならず、また、あなたがたの助言が、風変わりな人々や唯物論者たちによって容易に打ち碎かれてしまうという恐れを払拭しなければならぬ。

14. 恐れる者は、私の真理を完全に確信していないがゆえにそうするものであり、そのような者にとっては、その心から信仰の炎が燃え上がるまで、試練を受ける必要がある。

15. 弟子が師となる恵みを授かったとき、その存在と言葉は、愛情に満ち、親しみやすく、説得力のあるものとなる。彼は、最初の瞬間から信頼を醸し出すような振る舞いをするだろう。その言葉は、彼が語る事柄を真に理解しており、教える内容に対して絶対的な確信を持ち、そしてより高次の光に照らされていることを証明するだろう。善良な弟子が敵対者たちから攻撃を受けると、彼は平然と

彼らを迎えるだろう。なぜなら、彼の心には何の恐れもなく、彼を導いた方への信頼が完全だからである。

16. まことに、あなたがたに告げる。わたしに従い、わたしの弟子となろうとする者は、偽善という衣を脱ぎ捨て、師のもとで見たような純真さと真実さを身にまとう必要がある。なぜなら、わたしは真実そのものだからである。

17. 地上には、真理の種を蒔く者たちが現れ、至る所にわたしの香油をまき散らすことが必要である。そうして初めて、耳の聞こえない者たちは聞き、目の見えない者たちはわたしのメッセージの光を見ることができるのだ。

18. 神は、その被造物たちのために善のみを望んでおられる。この善の実現に協力する者たちすべてに、幸いがあるように。

19. わたしの言葉の反響と、あなたがたが行うことは、多くの場所で知られるようになった——あなたがたが思っている以上に広く知られているのだ。そして、私の啓示の知らせを耳にした懐疑的な人々は、この争いの絶えない世界を兄弟愛に満ちた家族へと変えるという教えを信じることができないかもしれないが、その不信仰を気にする必要はない。また、彼らが改心するまでにどれほど多くの年月が過ぎようとも、気にする必要はない。この大義のために戦い、働きなさい。そうすれば、徐々に調和に満ちた世界を築き上げ、その種はますます広がっていくでしょう。

20. 人々よ、今この時は、あなた方にとって試練の時である——これを活用せよ。後で後悔し、「主よ、私の弱さを赦してください」と言っても、何の役にも立たない。私はあなた方に告げる。そうしても、逃した機会を取り戻すことはできず、ただ私の律法に基づく行いと証しによってのみ、それを取り戻すことができるのだ。

21. 私は、あなたがたにこれらの父なる助言を残す。それは、私があなたがたに語ったすべてのことを深く考え、天の父が御自身の被造物のために愛と生命と教えの計画を立てられたように、あなたがたもまた、御父の靈感を受けて、愛と謙遜と従順と忍耐と救いの計画を自ら立てるためである。

22. 人間は、肉体の命は儚く、霊的な命は永遠であることをしばしば自覚していたにもかかわらず、肉体の命の方を霊的な命よりも重要視してきた。これが、文明や科学の分野では進歩を遂げたにもかかわらず、霊的には停滞し、宗教においては眠りについてしまった理由である。

23. 宗教を一つひとつ見ていけば、そのどれにも発展、開花、あるいは完成の兆しが見られないことがわかるだろう。どれも同じよ

うに「至高の真理」として説かれているが、その宗教を信奉する者たちは、その中にすべてを見出し、理解したと思い込んでいるため、一步でも前進しようと努力しないのである。

24. 神の啓示、神の律法、わたしの教え、そしてわたしの啓示は、最初から、人間とは発展の過程にある存在であることを、あなたがたに理解させてきた。それなのに、なぜあなたがたのどの宗派も、この真理を肯定し、検証しようとししないのか。私はあなたがたに言う。魂を目覚めさせ、その内に光を灯し、魂を育み、その内に秘められたものを明らかにし、つまづくたびに立ち直らせ、立ち止まることなく前進させるような教え——そのような教えこそが、真理に導かれたものである。しかし、これこそが、私の教えが常にあなた方に明らかにしてきたことではないのか？それにもかかわらず、あなた方は長い間、霊的に停滞してきた。それは、あなた方が、魂に関わる事柄よりも、地上の生活に関わる事柄の方をより気に付けてきたからである。しかし、霊的なものを完全に放棄しないために、あなた方は、地上の仕事や義務の遂行を少しも妨げないよう、宗教を形作ってきた。そして、その宗教的伝統に従うとき、あなた方は神に義と認められると思い、それによって良心をなだめ、天国への入りを確かなものにするのだと信じている。

25. なんと無知なことか、人類よ！いつになったら、ようやく現実目覚めるのか？あなたがたは、宗教的な慣習に従っても、私に何も与えていないばかりか、魂も空っぽのまま終わってしまうことに気づかないのか？

26. あなたがたが教会を後にし、「これで神に対する義務を果たした」と言うとき、あなたがたは大きな誤りに陥っている。なぜなら、私に何かを与えたと思い込んでいるからだ。しかし、あなたがたは、私に何も与えることはできないが、私から多くのものを受け取り、自分自身に多くの恵みをもたらすことができるはずだと知るべきである。

27. あなたがたは、律法を全うすることとは、単にそれらの場所を訪れることに限られると信じているが、これもまた大きな誤りである。なぜなら、それらの場所は、生徒が将来のために学ぶべき学校であるべきだからだ。日常の生活に戻ったとき、学んだ教訓を実践的に応用すべきであり、それこそが律法の真の全うなのである。

28. 兄弟姉妹の間にはどれほどの不和があり、夫婦の間にはどれほどの悲劇があり、どれほどの不道德や悪徳があり、民族の間にはどれほどの戦争があるか、お分かりだろうか。そのすべては、あな

たがたが神の律法から離れ、遠ざかってしまったことに原因があるのだ。

29. 人間には精神的な教育が欠けており、自らの成長に対する認識も欠けている。

30. 様々な形でこの世に降りかかる耐え難い苦しみは、人々が犯した過ちの結果である。しかし、彼らは私の正義を自覚していない——ある者は野心に、またある者は憎しみに目がくらんでいるのだ。

31. いったい誰が、人間の中から悪を根絶することができるだろうか？ 超人的な苦痛か、それとも果てしなく苦痛に満ちた試練か？ いいえ、民よ。痛みはそれを一時的に食い止めるだけだ。しかし、その短い期間こそが、人々が考え、憤り、そして再び落ち着きを取り戻すための時間となる。そうして初めて、彼らは自分たちを救うことのできる唯一の力、唯一の光——すなわち私の律法——を感じ取るようになるのだ。

32. 弟子たちよ、わたしがあなたがたに与えた啓示の意味を理解しなさい。このメッセージが人々の魂にとっていかに重要であるかをよく考えなさい。そうすれば、なぜわたしがあなたがたに語りかけるために来たのか、そしてなぜわたしの啓示がしばらくの間、あなたがたの間で行われてきたのかが理解できるだろう。

33. ああ、もしあなたがた全員が、私があなたがたが従わなければならない宗教や礼拝の形式について言及するとき、私があなたがたを裁こうとも、傷つけようともしていないことを知っていたなら！ もしあなたがたが、互いに愛し合い、霊の教えを人間としての生活に適用せよという、主の神聖な願いを理解してくれたら！ しかし、私は知っている。あなたがたの心はまだ頑なであり、かつてそうであったように、私の新たな使者を迫害し、私の新たな啓示を嘲笑するだろうということを。

34. それにもかかわらず、私の光は稲妻のように東から西へと走り抜け、魂たちを解放するだろう。

35. 弟子たちよ、祈りなさい。そして、その祈りが、あなたがたがこの教えを理解した証となり、明日、私の教えによって得た知識を、あなたがたの行いを通して表現できるようになるように。

36. あなたがたは、わたしが託した業を理解するよう努めなければならない。それこそが、あなたがたの証言に本質と真実を込める唯一の手段となるからである。

37. また、もしあなたがたの私の教えに対する知識が不十分であれば、光の敵たちがあなたがたの中で私の業に立ち向かうとき、あ

あなたがたの信仰と確信が危険にさらされることになることを理解しなさい。

38. わたしは、あなたがたに、世界中で、その言葉を聞いたことさえないスピリチュアリストたちが現れるのを見ることになるだろう、と告げた。そして、彼らの行動を観察し、その言葉を耳にすれば、彼らがスピリチュアリズムについて持っている直感と明確な認識に、あなたがたは驚嘆することになるだろう。しかし、私はまた、私が去った後、自らをスピリチュアリストと称する集団や宗派が現れるが、彼らの生活や行いはスピリチュアリティの否定そのものであることも、あなた方に告げておく。彼らはあなた方に対立し、あなた方の不完全さを探り出して、あなた方を拒絶し、詐欺師と呼ぶだろう。

あなたがたはそれを疑うかもしれませんが、あなたがた自身の間——この言葉に養われてきた者たちの間にも——兄弟姉妹に立ち向かい、混乱や惑わしの武器に手を伸ばす者たちが現れるでしょう。

39. もしあなたがたの信仰が確固としておらず、知見も深くないならば、そのような勢力に対して、どのような武器を対抗させることができるだろうか。

40. 私が、敵対者たちに対してあなたがたの信仰を守るための武器を与えようとしているのだなどとは、決して思ってはならない。私は、あなたがたが彼らと論争を交わすことを望んでおらず、ましてや彼らを拒絶し、門を閉ざすことなど、なおさら望んでいない。私の望みは、あなたがたが決して不意を突かれないよう、静かに自分の持ち場にとどまり、あなたがたを探りに来る者が誰であれ、祈りと私の御言葉の研鑽に励むあなたがたの姿に出くわすようにすることである。

41. あなたがたの行いの真実さこそが、あなたがたを滅ぼそうとする者たちに対して用いるべき最良の武器となるでしょう。

42. 私は、自分の陣営に、揺るぎない兵士たち、真理を守る術を知る勇敢な兵士たちを望んでいる。無知ゆえに私の業を称えるどころか冒涇してしまうような、狂信者たちの大群など望まない。また、信仰が薄弱で、戦いに直面すると、自分には戦う能力がないと思い込んで勇気を失い、逃げ出してしまうような人々の群れも望まない。

43. 自らを省みよ。もし、これほど長い間、わたしの言葉を聞いてきたにもかかわらず、戦う能力がないと感じるならば、それは、あなたがたがわたしの言葉を活用してこなかったこと、わたしの呼びかけの目的を理解していなかったこと、そして、わたしの啓示の

中で絶え間なく響き渡る目覚めの呼び声を聞き逃して眠り込んでいたことを、あなたがたに悟らせることになるだろう。

44. わたしは、あなたがたが失われた者であり、迫害者たちに必然的に打ち負かされる運命にあるなどとは言っていない。いや、それどころか、今こそ、あなたがたの行いが霊的なものか、それとも人間的なものを徹底的に吟味し、あなたがたの振る舞いを綿密に観察して、誤りや虚偽、そしてわたしの業にふさわしくないものをすべて見極めるのに、まだ好機であると言っているのだ。ひとたび、あなたがたの行動が真実さと誠実さによって特徴づけられるようになれば、恐れることは何もないだろう。なぜなら、真のスピリチュアリズムは、あなたがたをすべての法則を成就する道へと導くからであり、それゆえ、誰もあなたがたを裁くことはできないから。

45. 信仰の武器は、単に自分自身を守るためだけに用いられるものではなく、あなたがたの責任は自分自身を超えたところにあることを知らなければならない。なぜなら、あなたがた一人ひとりに、試練から救い出すまで見守り、祈り、戦わなければならない一群が託されているからである。

46. あなたがたは、今後さらに多くの朝の祈りの時において、わたしの声を聞き、知識と信仰を強めることができるだろう。そうすれば、あなたがたは自らの内面に、未知の力と限りない信頼を感じるようになる。この闘いに対する自信と平静は、信仰が与えてくれるものであり、知識は、あなたがたがわたしの言葉の中に見出したものに価値を与えるのである。

47. わたしは、あなたがたが平和の民となることを望んでいる。そのために、わたしはあなたがたをわたしの愛の外套で包む。

48. 愛する民よ。今日、あなたは御霊の言葉をもってわたしに語りかけ、わたしはわたしの平安をもってあなたに答えた。

49. あなたがたの盾となってきたこの御言葉を、まもなく聞くことができなくなることと思うと、悲しみに満たされ、この期間は一見長く感じられたが、実際には短かったのだと考えるだろう。しかし、私はあなたがたに問う。あなたがたは「私の再臨」とは何を指すのか。もしかすると、1866年から1950年までの期間、すなわち私があなたがたに御言葉を授けてきた時代のことだろうか。

50. まことに、あなたがたに告げる。人間の知性という器官を通じたこの啓示は、あなたがたが「霊から霊への対話」の時代へと入るための準備に過ぎなかった。その時代には、ベタニヤの弟子たちに予告された通り、あなたがたは「雲の上の御霊」において、私の再臨を完全に体験することになるのだ。

51. 私がこの声の媒体を通じてあなたがたに与えているこの教えを、もはや知性ではなく、あなたがたの霊そのものが師の光を受け取るようになる、その時のための準備として受け止めてほしい。

52. これが、あなた方にとっての新たな約束であり、新たな目標である。あなたがたが「声の媒体」を通じて受け取ったメッセージは、ある人間によって伝えられたものであり、その人物は、たとえどれほど霊的な存在であったとしても、不完全さや不純さから完全に自由ではないということを忘れてはならない。したがって、今や、あなたがたは、仲介者を介することなく、まず耳や脳を経由することなく、私の言葉が直接あなたがたの霊に届くとき、その言葉をいかに完全な形で受け取るかを想像することができるでしょう。それはまず霊に届き、霊が魂を照らし、心を高潔にするという役割を担うのです。

53. 長い間、あなた方はこの教えを聞いてきましたが、その中で神聖な何かから養分を得るために、その真意を探し求めなければなりませんでした。明日、あなたがたが霊から霊へとインスピレーションを受け取ることができるようになれば、あなたがたの魂が受け取るのはもはや人間の言葉ではなく、神聖な本質となるでしょう。そして、あなたがたには、その本質を思考、言葉、そして行いに転化するという使命が課せられ、それによってあなたがたは、主と人類との間の仲介者となるのです。

54. 弟子たちよ、私の代弁者たちによるこの啓示の期間は、あなたがたに神の言葉を理解させることを目的としていたことを理解せよ。それは、師が弟子たちに与えた基礎的な教えであった。

55. あなたがたは今日、この言葉を聞きながら、私の臨在を感じている。それゆえ、もはやそれを聞くことができなくなる日を恐れているのだ。しかし、私はあなたがたに告げる。もしあなたがたが霊と霊とで私とつながるならば、私の臨在は、私の弟子たちによって、さらに大きな明瞭さと清らかさをもって感じられるようになるだろう。

56. このように心の中でわたしを感じ取る者たちの喜びは、計り知れないほど大きなものとなるでしょう。彼らは決して、「師はまもなく去ってしまう」とか、「主が御言葉を残さずに私たちを置き去りにする日が近づいている」などとは決して言わないでしょう。いいえ、その時、弟子たちは、父が常に子供たちと共にあり、決して去ったことはなく、常に私と共にいることを理解できなかったのは人間の方であったことを知るでしょう。

57. 今日、あなたがたは確かに「神は私たちの中にいる」と言う。しかし、それを感じも理解もせずに言っているのだ。なぜなら、あなたがたの物質化が、あなたがたの存在の中で私の臨在を感じることを妨げているからである。しかし、一度霊化があなたがたの生活の一部となれば、あなたがたはすべての人の中に私の臨在という真実を体験することになるだろう。私の声は良心の中に響き渡り、内なる裁き手の声が聞き取られ、父の温もりが感じられるようになるでしょう。

58. わたしはあなたがたに多くのことを教え、新しい時代の到来を喜びをもって迎えられよう準備を整えている。しかしそれでもなお、わたしの最後の言葉の日が近づくにつれ、多くの人の心に悲しみが見て取れる。泣いて悲しみに打ちひしがれている者たちは、確かにわたしの声を聞いたものの、理解しておらず、試練の時が来ても準備ができていない者たちである。

59. 私はいつもあなた方にこうやってきた。熱狂に駆られた語り手たちが口にするこの言葉の核心に、神聖な意味を見出せ、と。もしあなたがたが、こうした啓示の表層的な形式に満足してしまうならば、人間的な起源を持つ多くの言葉に神聖な色合いを付与することになり、その結果、新たな狂信や偶像崇拜に陥る道へと向かうことになるだろう。

60. あなたがたは、人類に福音を伝える使命を負っていること、そして、私があなたがたに教えた愛と忍耐と慈悲をもって、同胞たちを導く道を進んでいることを理解しなければならない。その際、必要であればその教えを繰り返したり、必要であれば最初の方を思い出すために立ち返ったりしながら進めばよいのである。

61. 人間がまだ存在しなかった頃から、私が幾度となく、霊的な生活について、また人間が地上に現れたこと、私の最初の戒めや最初の啓示について、あなたがたに語ってきたことを思い出してください。私が、時代を超えての人類の歩みについて、その成功と過ち、上昇と衰退について――そして、あなたがたに残した偉大で崇高な模範ゆえに、その名が敬意をもって守られている悟りを開いた者たちについて、同様に、その墮落が人類の歴史に消えることのない痕跡として刻まれた者たちの名前も、あなたがたが彼らのように振る舞わないようにと、敬意をもって守られているのだ。

62. わたしは、あなたがたがメッセージ、戒め、預言、そして教えを受け取った、わたしの使者の名々を思い出させた。

63. こうして、私はかつてのすべての教えの内容を一つの教えに統合した。

64. スピリチュアリズムとは、三つの聖典がたった一冊の霊的な書物に統合された遺産である。

65. 私のすべての教えは、1950年以降の闘いに備えることを目的としている——その時代には、あなたがたはもはや「賜物を持つ者たち」を通じて霊界の声を聞くことはなくなるだろう。彼らもまた、この形式による啓示の期間を限定していた。しかし、この民の守護天使、助言者、慰め手、そして守護者であるこれらの祝福された存在たちは、その時期が過ぎてもあなたがたが彼らを覚え続け、彼らの存在を感じ、彼らの助けを受けられるよう、あなたがたを準備してきたのである。

66. 霊界はこの時代に何のために来たのか？——その言葉と行いを通じて私の教えを説明し、私の啓示を解釈する方法を教え、その真意を理解できるよう助けるためである。

67. 彼らは決して、あなた方に不必要な教えを与えたことはなく、まだ知る時期が来ていないことを明かしたこともなく、あなた方の好奇心を煽ったり、神秘的な学問や能力を植え付けたりするために来たことも決してなかった。彼らの使命は別のものだった。彼らの魂の偉大さと光は、彼らが愛の法則を精神の理想としていたため、ありふれた物質化に陥ることを許さなかったのだ。

68. この霊界は、神の御命により、短期間にわたり人間的な形で自らを伝え、その寛大な兄弟愛の印象、彼らの存在の証し、そして人間社会における彼らの存在の証拠を遺すためにやって来たのである。

69. 彼らは、もはや人間の口を通してあなた方に語りかけなくなっても、あなた方から遠ざかることはない——むしろその逆だと告げてきました。彼らは、これからの日々において、あなた方の感受性によって、彼らの存在をこれまで以上に身近に感じられるようになることを切に願っているのです。

70. 民よ、もしあなたがたが自らの賜物を使うことを学び、もしあなたがたが真に霊界と調和するに至ったならば、まことに、私はあなたがたに告げる。そうすれば、あなたがたは自らの歩む道に奇跡の痕跡を残すことになるだろう。

71. この時代には、この人々の群れの中から、強い心を持つ者たち——良き預言者たち、良き助言者たち——が現れることが必要である。彼らは、自らの生き様と言葉によって、民を私が示した道へと導く術を知っている者たちであり、私の教えを一点の曇りもなく守り抜くことを知っている者たちである。

72. 私があなたがたに語っているこの「気概ある者たち」とは、いったい誰のことか。ただ一つしておくが、私は今、私の言葉によって彼らを準備している。そうすれば、この啓示の終わりが来たとき、彼らは立ち上がり、民を励まし、その信仰によって、人々の群れが散り散りになることを許さないだろう。

73. 彼らの口から発せられる言葉は、私があなたがたを、人間との交信の証人としてこの世に残したということ、常にあなたがたに思い出させるであろう。そして彼らは、あなたがたが、私が霊として来たことを人類に告知知らせる使命を負っているのだと、絶えず語り続けるであろう。

74. 私はもはや、人間となるために、あるいは人々の間に実体化するために来ることはない。この地上に転生するために来ることもない。このことをあなたがたは同胞たちに語りなさい。それはあなたがたの十字架の一部である。しかし、私はあなたがたがこれを担うことができると知っている。

75. 心配するな。私はすでに、十字架の重荷に疲れ果てたイエスを見てシレネがしたことを、今日、私の助けを必要とするすべての人々のために私が行い、あなたがたの人生という山の頂上——そこであなたがたは自らの使命という十字架に登りつめる場所——へと、一步一步彼らを導いていく、と告げたからだ。

76. その時、あなたがたは、その瞬間に、主の脇腹が開いて、愛と命と赦しを告げる血を注ぎ出したのと同じように、自分の心を開くことを許すことによって、一つの業を成し遂げることがどれほど満たされることであるかを体験するでしょう。

77. これこそが、私が今、スピリチュアリズム的トリニタリアン・マリア派の人々の心に蒔いている教えである。

78. 「スピリチュアリズムの民」とは、神の御霊の光を受け入れるからであり、「三位一体」とは、神が人類に御自身を現された三つの啓示の段階において神を認識するからであり、そして「マリア的」とは、あなたがたがこの神聖な慈愛を、父のもとへと導く階段として、また、あなたがたを強め、慰め、清め、高慢を取り除き、主の御前で柔和と謙遜に満ちた子供へと変えてくださる執り成し手として認識しているからである。

79. この最も優しい愛を忘れないでください。なぜなら、あなたがたは、わたしのもとへ至るための十分な準備が常に整っているわけではないからです。しかし、あなたがたが彼女を信頼すれば、すぐに彼女の助けを感じることになるでしょう。

80. 覚えておきなさい。「あなたがたが子どものようにならなければ、天の御国に入ることはできない。」

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 266

1. 私は師である。永遠の教えの御言葉に喜びを見出すために、ここへ来なさい。たとえ私が今、この脳を通じて自らを現していないときであっても、私の教えの御言葉は常に存在している。

2. 私があなた方に私の言葉を授けるのはほんの一瞬の間だけである。なぜなら、あなた方はまだ未熟すぎて、無限の彼方で絶え間なく響き渡り、様々な生命の世界にいるすべての存在、すべての魂に語りかける「永遠の教え」を聞くことに耐えられないからだ。

3. 私はあなた方に真実のみを語っている。なぜ多くの者が、私があなた方に啓示するものを疑うのか。あなた方もまた、一つの真実である。あなた方は自分たちの真実と存在を信じているのに、なぜ私の真実を信じないのか。真実はただ一つであることを知らないのか。

4. ここでは、あなたがたがそれを把握し、理解できるよう、簡潔で短い教えを説く。しかし、この形であっても、あなたがたはそれをほんの短い間しか心に留めず、その後すぐに忘れてしまうのだ。

5. 真理の光が常に燃え盛っている霊界においては、私の教えは永遠に続くものであり、それを聞く者たちは、それを聞くことに決して飽きることはない。なぜなら、彼らにとって私の教えは、あなたがたにとって呼吸する空気であるのと同じように、彼らの命そのものだからである。ただ聞く準備をしていないというだけの理由で、この世において魂の中に私の教えを持たずに生きる者たちよ、災いあれ！ その中には、助けを欠き、希望を失って倒れてしまう者がどれほど多いことか――心に神への思いを持たず、道に迷い、目も耳も塞がれたまま。しかし、私はあなたがたに問う。魂の道であり光である神の戒めを、自らの存在から消し去ってしまった者たちは、いったいどこへ向かうのか？

6. 哀れな者たちよ、彼らの船は方向を見失い、灯台の光を見出すこともできないがゆえに、難破してしまうのだ。

7. わたしはあなた方を探し求め、あなた方にわたしの光を与える。それは、あなた方がその道に踏み出し、そこから、師が人生を通じて絶えず与えてくださる教えとは何かを理解できるようにするためである。

8. 人が肉体的には強くても、魂が強くなくては、何の益があるだろうか。

9. 私は、あなたがたが背を向けていた現実、すなわち真理へと、あなたがたを近づける。なぜなら、あなたがたが、霊の生活である

より高次の生活を軽んじたとき、物質世界という、より低次の生活に身を委ねてしまったからである。

10. 真の命の道へと立ち返りなさい。そうすれば、再びあなたがたの真の本質に近づくことになるでしょう。私があなたがたに語る道とは、精神と肉体のバランスを取り、あなたがたが自らの内に抱く真理を知ったときに、あなたがたが見出すことになる道なのです。なぜなら、その時、あなたの方より高次の本質である霊はこう言うからです。「私は光をもたらす者であり、道を知り、法を持つ者である。それゆえ、私の肉体の行いを決定し、支配するのは私である。」もしあなたの方がそう語るようになったら、それはあなたの方の本質の中に光が輝き、その反映が人間の心に届いたからに他なりません。

11. ああ、もしあなたがたの肉体が、霊魂がその透視能力によって受け取るものを、受け入れることができたなら！ なぜなら、霊魂は決して見ることをやめないからだ。たとえ肉体が物質化のせいでそれを全く感知できなくても。いつになったら、あなたがたは自分の霊魂を理解できるようになるのだろうか？

12. わたしの言葉に耳を傾け、わたしの教えを受け入れなさい。それは、戦うこと、逆境に打ち勝つこと、試練から逃げ出さないこと、犠牲に直面しても落胆しないことを教えるものである。

13. わたしは弟子たちに常にこう言っている。「恐れるな。あらゆる試練に打ち勝つために、わたしがあなたがたに御霊の力を与えたことを理解せよ。」御霊の力は、肉体の力よりも優れている。しかし、人間的な問題という濃い霧が視界を遮るならば、信仰の光によってその霧を追い払い、払いのけなさい。そうすれば、その霞の向こうに、無限と融合する地平線が見え、さらに先へと進み、平安に満たされるよう招いてくれるだろう。

14. 自らの問題を乗り越えることを学んだ者は、その後、周囲の人々の問題に立ち向かい、彼らの闘いを支えるようになる。

15. この人生は戦いであることを知れ。しかし、あなたがたは勝利する運命にあるのだ。なぜなら、あなたがた一人ひとりの内にある私の光は、悪の闇の勢力に決して打ち負かされることはないからである。

16. あなたがたは勝利しなければならない。なぜなら、勝利して初めて、この人生において、また霊的な世界において明らかにされる秘密の啓示を受け取ることができるからだ。

17. 時代を超えて戦い続ける民よ。やがて、あなたがたがもはやこのような形で戦わなくて済む時が来る。霧や苦難、問題、試練

——それらは、自分自身のものも、他者のものも、すべて終わりを迎えるだろう。

18. あなたがたは、苦しみに満ちた人生の道を歩む隣人を支えなければならないと私が告げても、心配する必要はない。強い魂は、自らの十字架も他者の十字架も耐え忍び、小さく弱い魂たちを喜んで助ける。彼らは常に、癒やすべき傷を探し求めているのだ。

19. 苦しむ者に語りかけ、その傷を癒やし、塞ぎ、忘れさせてくれる者の言葉は、祝福される。その者は、私がその心に置いた癒しの力（バルサム）の役割を知っているのだ。

20. 困難や危険に囲まれていると気づいたとき、精神の力を懇願し、肉体的な魂の恐れを克服し、戦い、勝利し、栄光を勝ち取る者こそが強い者である。なぜなら、信仰が、精神に何ができるかを彼に知らしめたからである。

21. 私がこれをもって言いたいのは、戦いがあなた方を呼ぶ場所では、知恵と正義と信仰が、その道に立ちはだかる苦難や不純な情熱を常に克服するという絶対的な信頼をもって、その戦いに臨むべきだということである。

22. あなたがたの賜物が開花するのにどれほどの時間を要したか、あなたがたは知っているだろうか。私はあなたがたに告げる。それらは、霊が命を得たその瞬間から、すでにあなたがたの中にあっただのだ。霊が肉体と世界に向かって「私はあなたたちを打ち負かした！」と告げられるとき、その喜びはどれほど大きなものになるだろうか。

23. 弟子たちよ、私は、魂の発達に必要なすべての教えを、あなたがたに与えてきた。

24. 真理を悟る者たちは幸いである。彼らはすぐに道を見出すからだ。他の人々は、自分たちの行いが私の行いよりも優れていると見なしているため、神の教えを常に拒み続けている。

25. わたしはあなたがたすべてを愛している。わたしは、羊を呼び寄せ、それらを一つにまとめ、数え、日々その数を増やしたいと願う羊飼いである——羊たちに餌を与え、愛撫し、世話をし、その数が多いのを見て喜ぶが、すべての羊が従順ではないのを見ると、時には涙を流すこともある。

26. これがあなた方の心である。あなた方の多くは私のところに来るが、真に私に従う者はわずかである。

27. 私があなたがたに御言葉を伝える、その御言葉を語る者たちを見てごらんさい。彼らは、その使命という十字架を背負っている。多くの人々が彼らの賜物を疑っていることを知りながらも、彼

らは柔和に歩み続けている。彼らは、第二の時代に人々が「私はメシアではない」「私はキリストではない」と言って、私を疑ったことを覚えている。彼らは、真理を受け入れようとしなかった者たちによって、私が十字架へと導かれたことを覚えている。それゆえ、彼らは使命の十字架を、従順に背負ったのである。

28. 民よ、わたしはあなたがたと共にいた。わたしの愛の外套は、あなたがたが今、わたしの声を聞いている集いの場を超えて、広げられている。あなたがたは皆、例外なく、わたしの霊と愛に満たされていた。

29. わたしの言葉は、静寂に満ちた平安の場である。疲れたり、悲しんだり、嫌気がさしたり、病に伏したりしたときは、そこを訪ねなさい。そこでは、生き、戦うための励ましと健康、そして信仰を見出すだろう。

30. わたしは、あなたがたが熱心に、謙虚に、そしてわたしの御心に従順であり、決してわたしの力を試したり、わたしの正義を疑ったりするような者たちにならないことを望む。なぜなら、そうする者は自ら試練に身をさらすことになることを、あなたがたは知っているからだ。

31. 私がこの形で啓示していることを信じるか、あるいは認めようとしなにかにかかわらず、この啓示の核心にあるものが真実か虚偽かについて、あなたがたが完全に確信するまで、敬意と柔和さをもって耳を傾けなさい。

32. もしあなたがたが、この啓示の真実を否定し、あなたがたが聞いている御言葉を信じる者たちを中傷し、わたしの御言葉を伝える者たちを嘲笑した者たちが、どれほど多くの悔恨の涙を流してきたかを知っていたなら。今日、彼らは、自らの口から出た侮辱的で無礼な言葉を、どのような言葉で消し去ればよいのか、また、どのような行いによって主と和解すればよいのか、知る由もない。

33. 私は、あなたがたが判断を下す際に軽率にならず、また第一印象に早々に左右されないことを学んでほしい。私がこの助言を与えるのは、あなたがたが私の言葉を解釈するとき、あるいは教義、宗教、哲学、カルト、霊的な啓示、あるいは科学について判断を下さなければならない際、あなたがたが知っていることが存在するすべてではないこと、そしてあなたがたが知っている真理は、ここである種の形で現れている絶対的真理のごく一部に過ぎず、それはあなたがたには知られていない他の多くの形で現れる可能性があることを認識できるようにするためです。

34. 私が今日、なぜこのようにあなた方に語ったのか、その理由を説明しよう。その理由は、この人々の群れの中に、ある心が、私がこの民にこれほど多く語りかけ、その言葉が「御言葉」に由来しているにもかかわらず、なぜ私はこの人々の群れの完全な刷新も、霊化も成し遂げていないのかと、執拗に私に問いかけ続けているからである。そこで私は、その者に詳細な教えをもって答え、さらにこう付け加えた。もし私が純粋な力によってこれを望むならば、一瞬にしてこれらすべての罪人を天使に変えてしまうだろうが、その業は私の目には何の功績も含まないものであり、まさにそのために、この言葉は賢明かつ極めて忍耐強い方法で語られてきたのである。それは、この民の心を、信仰と愛と悔い改めが湧き出るまで、じっくりと磨き上げるためである。

35. 人々は暴力を振るうことによって世界を破壊している。あなたがたは、彼らの暴力が私の力に勝るとでも思っているのか。それにもかかわらず、私の意志は、彼らが自らの過ちに自ら気づき、それを正し、その後、彼らが破壊し、冒涇したすべてのものを再建することにある。そうして初めて、彼らの功績は私の目には真のものとなるのだ。

36. あなたがたはまだ小さな民である。しかし、今日に至るまで私の啓示の周りに集まった者たちの数が少ないことを、私は決定的な要素とは考えてこなかった。その証拠こそが、私があなたがたに与えてきた数多くの教えと啓示である。

37. 1950年以降、あなたがたがもはやこの形でわたしの言葉を受け取らなくなると、あなたがたの心には一見空虚感が生じ、静寂と悲しみに満ちた朝の祈りの時間がいくつか訪れるだろう。しかしその後、あなたがたは再び力を取り戻し、すべてが私によって知恵をもって計画されていたこと、そして私が最後の教えの中で、あなたがたを偉大な高みへと登らせ、それが私があなたがたに与える最後の、そして最も忘れがたい頂点に至ったことを認めるようになるだろう。

38. たとえそれが人間の目には見えないとしても、誰があなたがたの灯を消したり、あなたがたが私に捧げる霊的な供物を枯れさせたりできようか。誰が、あなたがたが永遠の昔から魂に刻み込まれている印を消し去ろうなどというのか。信仰はあなたがたの心に深く根を下ろしており、これから成長し続け、周囲のすべてを照らし続けるだろう。

39. そうして、あなたがたの闘い、そしてわたしがあなたがたに課した大きな試練の後に、休息の時間が訪れ、あなたがたは報いを

受けることになる。わたしは、これ以上別の慰め主を約束しなかった。なぜなら、わたしがあなたがたに予告したその方は、すでにあなたがたの間におられるからだ。その方は、今日、あなたがたを通じて語られ、あなたがたの苦難の中で支えるために、一人ひとりの人間のもとに降りてこられた方である。その方は、この時代に明らかにされた私の霊であり、また、あなたがたの人生の道を共に歩み、大きな戦いのなかで守り、癒やし、慰めてくれる天使たちから成る霊界そのものである。

高潔な徳を備えた存在たちの全軍団が、予告されていた通り、あなたがたが今経験しているこの試練の時に、あなたがたを慰めるために、わたしと一つになった。地球に住む数え切れないほどの人々の中から、この啓示、この業に深く入り込み、その偉大な賜物を受け取るために選ばれたことを、大変幸せなことだと考えてほしい。

40. わたしは、あなたがたをわたしの弟子としての使命を果たす準備が整った状態でここに残す。そしてまもなく、あなたがたは、わたしの教えの中で予告したことが現実となるのを目にするだろう。世界では、霊におけるわたしの臨在を物語る多くの出来事が起こり、人々はわたしがどれほど彼らの近くにいたかを実感するだろう。なぜなら、人間を通じた私の啓示が終わっても、私は引き続き、すべての子供たちの魂の中で支配するために、彼らの準備と真の礼拝を待ち望むからである。そこが神殿となり、そこが律法となり、霊の賜物が啓示される場所となり、私はあなたがたの崇敬と愛を受け取るであろう。

41. 私はとっくの昔に、さまざまな国々で私の言葉を語り、私の光が他の人々の間でも人間の知性を通じて現れるだろうと、あなた方に告げていた。そして真実として、私が小さな共同体の懷において、男性や女性を通して語ってきたことを、あなた方に知ってほしいというのが私の意志である。私の言葉を聞いたとき、ある者は私を師と受け止め、またある者は単なる高次の霊的存在としか見なさなかった。しかし、私は私の言葉を成就させた。

42. 私が「私は師である」と語ったとき、信じた者もいれば、疑った者もいた。しかし、単純で謙虚な被造物たちを通して語られた私の言葉が明らかにした真意と知恵を彼らが悟ったとき、彼らは、私の霊によるこの啓示が果たして可能なのかと自問した。

43. 私はまた、その啓示が終わりを迎える時を定めておいた。そして、あなたがたが証しを携えて、私の言葉が聞かれた地球上の各地にたどり着いたとき、あなたがたは彼らに、これらの啓示の真実性を確認させることになるだろう。今日、疑いを抱いている男女が

、あなたがたの明確な証しを耳にすれば、私が彼らのそばにいたことを悟るだろう。

44. 私が準備を整えておいた共同体は、なんと少なかったのか！しかし、私はそこに臨在し、すべての魂を照らし、私について証しをしてきた。それは、ある者たちが他の者たちを教え導き、彼らの指導者となるためである。

45. もし、私の説教、すなわちその人の祖国でも受け入れられた私の言葉について語る訪問者、すなわち外国人を迎え入れることがあれば、その人を拒んではならない。むしろ、私はあなたがたに、その人を受け入れるよう命じる。そうして、私の言葉が成就したことを共に喜びをもって確認し、私の再臨を待ち望んで見張り、祈り続けてきた者すべてが、この時に私を迎え入れたことを知るためである。わたしは、あなたがたをわたしの弟子とするために、すべての人を呼び集めたのである。

46. それゆえ、この国以外でも、飢えた者たちを養うために、わたしの神聖な光が言葉となったと誰かが告げたとしても、あなたがたが驚かないよう、あらかじめ知らせておく。私の愛はすべてを包み込み、私の回復の業は全世界に及ぶことを知ってください。そうすれば、私がただあなたがたの国にのみ恵みの賜物を与えることに限定したのではなく、私が一つにまとめ、一つの点、すなわち靈化へと導こうとしているすべての者が私の家族を成していることを理解できるでしょう。

47. 私がこの時代にあなたがたに与えた教えによって、私は過去の時代の啓示を一つに統合した。それぞれから教えを汲み取れば、預言や師の教え、そしてその啓示の中に、律法全体の要約があり、それらが靈化へと導く道を指し示していることに気づくだろう。

48. 何世紀もの歳月が過ぎ去ったが、あなたがたが律法と人生の目的を理解したのは、今日になって初めてのことである。

49. 私があなたがたの道のりで多くの「奇跡」——あなたがたが私の業と呼ぶもの——を授けたのは、あなたがたの信仰を奮い立たせるためであり、また、私があなたがたに恵みを注いだのは、善の道にのみ平和があるということをあなたがたに理解させるためであった。それらの奇跡は、民が新たな荒野を横断する際に勇気を与えたのである。

50. この平和の只中で、あなたがたは、戦いの時が来たときに強くなれるよう備えられてきた。わたしは、あなたがたが祈りを武器として、盾として、靈感の源として、防壁として、そして慰めとして用いることができるよう、靈から靈へと祈ることを教えた。

51. あなたがたは、私が使徒たちに「主の祈り」を教えたとき、彼らに永遠に通用する祈りを授けたのかどうかを、一度だけでなく何度も私に尋ねてきました。そして私は、あの祈りを述べたとき、父に語りかける高貴な方法を彼らに教える意図でそうしたのだ。それは、愛、謙遜、信仰、畏敬、服従、信頼を内包する呼びかけである。

52. 私の言葉を機械的に繰り返すだけで満足した者たち、また、その祈りを自らの祈りの手本として用いなかった者たちは、誤った行いをしたのである。

53. 今日、私があなたがたに「靈的に高みへ昇れ」と言うとき、私はあなたがたの心から、あの祈りの模範、あの完全な祈りを消し去るわけではない。私が望むのは、口先で私に語りかけるのではなく、心の中でそうすること、そして、その祈りを構成する文をただ順番に繰り返すことに留まるのではなく、それらからインスピレーションを得て、あなたがたが心の中で形作る思いが、『主の祈り』のように、父への愛、謙遜、信仰、畏敬、服従、そして信頼を表現するようになることである。

54. ひとまず、あなたがたの課題は、私が今述べたことを熟考し、研究することであり、正しく説明できるようになるまでは、誰かに教えようと試みてはならない。心に留めておきなさい。もし、スピリチュアリズムの教えが、キリストが世界に教えた祈りを排除してしまったとあなたがたが示唆すれば、あなたがたは異端者と見なされ、その教えは神の師の教えに反するものとして扱われることになるでしょう。

55. それに対して、もしあなたがたが、自分の考えが整理され、言葉が口からすらすらと出てくるようになるまで待つならば、そうすれば、私の教えを深く掘り下げることもなく、私の言葉をただ繰り返している人々――彼らは、自分の知性が理解することのない美しい深遠な言葉を口にしているにもかかわらず、それらについて考える努力を一度もしたことがないため、その言葉を単なる習慣やルーチン、無益な慣行にしてしまっている人々――を、あなた自身で容易に説得することができるでしょう。

56. 弟子よ：私の教えの目的である「霊から霊への祈り」において、あなたの全存在はその行為に集中し、創造主へと語りかける――その声はあなたの全存在から湧き出るものであり、その際、霊を使者および通訳として用いるのである。

57. これこそが、あなたがたが父なる神に、真の礼拝、愛、感謝、謙虚さ、畏敬の念を捧げることができる方法である。

58. あなた方を平安へと導き、霊性への道を示すのは、科学でもなければ、この時代の教えでもありません。天から光が降りてきて、あなた方の知性を照らし、真の道を明らかにすることが、不可欠なのです。

59. 人間が理解してきたような科学では、人間の心を、霊的なものを感じ、見ることができるほどに感化することは決してできな。

60. 言うておくが、もし人々が科学の根底にわたしを求める意図を持っていれば、科学を通じてわたしの存在を感じ取ることができたはずである。しかし、彼らは発見するあらゆる奇跡の中にわたしを見出しているにもかかわらず、まるで盲目であるかのように、わたしを否定している。

61. 人間が熱心に探求する自然は、私の力、私の愛、そして私の正義を明らかにすることで、絶えず私について語っている。人間は、知識を得て力を蓄積することだけを追い求めているが、創造主の御業がそうであったように、愛こそがすべての御業のインスピレーションであり、源でなければならないということを、全く考えていない。

62. 自然やその要素、そして力が、いかに私について語っているか、お分かりでしょうか。なぜなら、自然は人々の目に真実を見開かせるよう努めるからです。その懐からは、今日に至るまでそこに秘められてきた数え切れないほどの教訓が湧き出てくるでしょう。その内側から正義を求める叫びが響き渡り、宇宙空間には動揺が生じ、遠くでその軌道を描く世界たちもまた、そのメッセージを伝えてくるだろう。

63. これらすべてが起こり、科学者が全力を尽くしても、至る所に裁きをもたらす破壊的な力を食い止めるには無力かつ微々たる存在だと感じる時、彼は自らの行いに愕然として後ずさりし、ついにはこう叫ぶだろう。「主よ、それはあなたです。今、現れているのはあなたの御臨在であり、あなたの御声であり、あなたの正義なのです！」

64. それは、多くの人々にとって、裁きと恐怖と悔恨の日であ。

65. その苦痛は甚大であり、まるで悲しみと苦悩の黒いマントが人々を覆うかのように、彼らの心に暗澹とした陰を落とすだろう。その時、人々の魂からは祈りがこみ上げてくる。その祈りは、疲れ果て、病に伏した「放蕩息子」が、父の家の門前にひれ伏して叫ぶ、恐怖に満ちた嘆願となるだろう。

66. 人々がようやく精神の目を開き、真理の光を見出すその瞬間は、祝福されるであろう。なぜなら、彼らの過去は赦され、新たな

太陽が彼らの人生に輝き、それを変容させ、刷新し、高めてくれるからである！

67. 人は、苦しみの杯を底まで飲み干したとき、どれほど敬意を持って科学の道を歩み始めることか！そして、自然の神秘を探求するとき、彼を鼓舞する意図や理想は、どれほど高貴なものとなることか！

68. 闇の後に再び光が現れ、その輝きの中で、人々はより霊的かつ高次の意味から人生を見つめるようになるだろう。宗教的狂信という束縛は解け、人類は私の存在を感じるようになるだろう。この教えは、拒絶され迫害された後、真の神の啓示として受け入れられ、全世界に広まり、人々を光と信仰、善と正義の道へと導いてい。

69. なぜ、私が告げているようなこの偉大な至福を、あなたがたは疑うのか。あなたがたに降りかかるすべての出来事は、果たして、あなたがたの存在を限りなく悪化させたり、苦しみに満ちたものにするためだけに起こるものなのか。いいえ、民よ。私があなたがたに悲しみ、苦痛、苦悩、そして悲惨な日々を予言するのと同様に、私はまた、知性への光、心への平安、そして魂への愛の力が戻ってくる日々も予言しているのだ。

70. あなたがたは、次から次へと災いや不幸に見舞われることにあまりにも慣れきってしまい、もはや良いことを期待せず、好転を信じられなくなっている。それは、あなたがたが信仰を失ってしまったからだ。しかし、もしあなたがたが、人類が善と兄弟愛の道へと立ち返るという生きた希望を抱くのであれば、他者がやって来て、あなたがた自身にその方法を教えるのを待つことなく、自らの使命を果たすことによって、その実現に貢献しなさい。

71. 愛する民よ、わたしはあなたがたの医者である。まことに、あなたがたに告げる。わたしほどあなたがたの健康を気遣う者はなく、わたしほどあなたがたの痛みを深く感じる者もない。

72. 今この瞬間、私の癒しの香油が、あなたがたの肉体と魂を流れ抜けるのを感じたいか。それなら、祈りに身を委ね、私のもとへと立ち上がり、心と精神を清めなさい。そうすれば、最高の医師の香油を感じることができるだろう。

73. 私はあなたがたにこう告げた。この人生の後、魂の長い旅路を歩み終え、試練の荒野を横切り、カルヴァリーの丘を登りきったとき、あなたがたは、常にあなたがたを待ち続けてきた、輝きに満ちた都、すなわち真の永遠の霊の都にたどり着くのだ。そこでは、もはやいかなる苦痛も味わうことはない。なぜなら、その場所には、完全性を達成した魂だけが住んでいるからだ。苦痛、病氣、苦難

、そして不幸は、贖罪のため、あるいは学ぶために苦しむ、不完全な魂に特有のものであることを忘れてはならない。

74. なぜ、あなたがたはここで兄弟姉妹として一つにならないのか。そうすれば——たとえ輝かしい都でなくとも、少なくとも、あなたがたの父を迎え入れることのできる、輝かしい霊的な住まいを築くことができるではないか。私は心から心へと歩み寄り、あなたがたを励まし、癒やし、慈しむだろう。そうすれば、あなたがたは、自分が飲んでいるのは私の血ではなく、私の神聖な本質であると語るようになるだろう。

75. 私はあなたを愛している、人類よ。それゆえ、私はあなた方の子供たちのために「見守る」ことを決してやめない。かつて私が人々の間に住んでいた頃、私は祈るために、そして私がこれほどまでに愛し、救うために犠牲の死を自ら引き受けた者たちのことを想うために、荒野へと身を引いた。今日、私はあなたがたに告げます。目に見えない世界——あなたがたがまだ踏み込むことのできないその場所——においても、私は砂漠の孤独を見出しています。そこから私は祈り、執り成し、そしてあなたがたのことを想っているのです。私が救った後、私の王国へと導くことになる、あなたがたのことを。

76. 男たちよ！泣くことを恥じてはならない。泣くこともまた、神からの賜物だからだ。祈りなさい。皆、わたしの前で幼子のようにありなさい。涙を流して、痛みを消し去り、喜びを受け入れなさい。

77. 女性たち、母たち、処女たち、幼い少女たちよ、私はあなた方と共にあり、一人ひとりの心に私の愛撫を注ぎます。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 267

1. 愛する子供たちよ、あなたがたは魂を一つにして、あなたがたの間でのわたしの臨在を待ち望んでいる——祝福あれ。

2. あなたがたは命の樹の実を求めている。そして、私は一人ひとりにその実を与える。

3. 私の愛の輝きは、これらの木々をそっと揺らすそよ風です。

4. 弟子たちよ、人生とは、創造主が子供たちに遺した、最も美しく、最も深みのある書物である。しかし、そこにどれほどの美しさと奇跡が秘められているかを発見するためには、その読み方を学ぶ必要がある。私、神聖なる師以上に、この書物の内容をページごとに、教訓ごとに、あなた方に示すことのできる者がいるだろうか。

5. 長い間、その本は一ページを開いたままになっていた。それは、あなた方の無関心が、私が新たな教えを授けることを妨げていたからだ。あなた方は立ち止まっていた。しかし、やがてあなた方が、人生と永遠と光について語るその本に目を向ける時が訪れ、師がすでに知っているページをめくり、新たな教えを示すのを見たのである。

6. この書物が伝える知識は、あなた方の過去が魂にとって実りのないものではなかったことを証明している。なぜなら今、知識の光に照らされて、あなた方は多くの教えの根拠を見出し、人生の意味と、すべての被造物に存在する神の本質を見出しているからだ。

7. 長い道のりのなかで、すでに経験した試練という広大な砂漠や、道の分かれ道を越え、待ち伏せや危険に満ちた暗い森を後にした魂たちは、幸いである。大きな試練を乗り越えた者たちこそ、私の言葉を最も明確に理解し、深淵に落ちることなどほとんどあり得ない者たちとなるだろう。

8. あなたがた一人ひとりの内に存在するその書物もまた、偉大なものである。私があなたがたに語っているのが、どの書物かお分かりだろうか？それは、あなたがたの過去、すなわちあなたがたの魂が経験してきたすべてのことにまつわるものであり、その物語は日々積み重なっていくのである。ひとたび「私の懐」に入れば、そのすべてを再び心の眼の前で振り返り、完成への山を登るためにどれほど奮闘してきたかを目の当たりにして、喜びを感じるでしょう。

9. 今、あなた方は苦痛の時代を生きていますが、その意味を理解することが絶対に必要です。そうして初めて、苦痛が罪人に対して清めの効果をもたらすことを、最終的に理解できるようになるからです。やがて、あなたがたは皆、私がそれぞれの子供のために一つ

の衣を用意していることを知るでしょう。しかし、それを手に入れるためには、内側も外側も「器」を清め、完全に清らかになるまで磨き上げなければならないのです。この衣が何であるか、知っていますか？ 私が教えてあげましょう。この衣とは、真理なのです。

10. 経験がない、経験が少なすぎる、あるいは周囲の人々を理解できていない、といった理由を挙げて、自分が私の弟子になる能力がない、あるいは人々に私のメッセージを伝えるだけの強さがない、と誰が言えるだろうか。

11. いいえ、わが子らよ、あなたがたの人生は短すぎたわけでも、経験したことが少なすぎたわけでもありません。その疑いや信頼の欠如は、肉体という殻、すなわち、発展の道のりで自らの靈魂が蓄積してきた力と光を知らないがゆえに、落胆してしまう心から生じているのです。

12. あなたがたは、自らの過去について、またその起源がどれほど昔に遡るのか、どれほど知っているだろうか。あなたがたは、どこから来たのか、これまでにどのような道を歩んできたのか、そしてどこへと歩みを進めているのかについて、どれほど知っているだろうか。

13. この第三の時代に到達した以上、誰も自分を未熟だ、あるいは無知だなどと考えてはならない。ましてや、私が「長子」と呼んだあなた方ならなおさらである。

14. なぜ未来を恐れるのか。過去において魂が積み重ねてきたすべての経験を、無駄にしてしまうつもりなのか。収穫も得ずに、種を放置しておくつもりなのか。いいえ、弟子たちよ。誰も自分の運命を変えることはできないが、勝利の時を遅らせたり、どの道を進もうとも避けられない苦難を増大させたりすることはできるのだということを、心に留めておきなさい。

15. あなたがたがこの真理を確信しない限り、私はあなたがたを福音の使者として諸地方や諸国へ遣わすことはしない。なぜなら、その場合、あなたがたの言葉には説得力がなく、世界はあなたがたをキリストの使者として認めることができないからだ。

16. 私は今、あなたがたに、単純で、霊的かつ素朴な神への礼拝を身近なものにしている。それは、あなたがたが、外的な礼拝の儀式に没頭して時間を浪費するのではなく、私が何度も語ってきたように、実践的な隣人愛という本質的なことに専念できるようにするためである。

17. あなたがたはすでに霊的な幼年期と青年期を経てきました。そして今日、あなたがたは、満ち溢れる豊かさである成熟を得る新たな人生の段階の入り口に立っています。

18. わたしに耳を傾ける者はわずかであり、それゆえ、それを体験する者もまたわずかである。この人類を見よ。彼らは光の時代に生きながら、まるで暗闇の中を歩いているかのようにつまずき、転んでいる。彼らの杯を吟味し、その傷を見定め、その絶望を感じ取り、遠くからでも彼らの心に寄り添え。もしあなたがたに隣人への憐れみと愛があるならば、痛みには涙を流しなさい。そうすれば、あなたがたは深い憐れみに満たされるだろう。そうすれば、あなたの心からは高貴で寛大な衝動が湧き上がり、それがあなたを、愛と癒しと光のたゆまぬ種まき人へと駆り立てるでしょう。しかし、もしあなたが依然として世間の視線を恐れて身を隠し続けるならば――その状態で、あなたの心が隣人への憐れみの感情に敏感になり、清められるとでもお考えでしょうか？

19. 魂をあなた方のものにしたいか。それなら、私の言葉という香油と、あなた方の慈悲という聖油を持って来なさい。

20. 誰に対しても、その信仰の確信や儀式が不完全であることを証明しようと試みてはならない。その結果は否定的なものとなるからだ。苦しむ者のもとへ行き、その痛みの原因を探り、その人を慰めなさい。そうすれば、その人の唇から、あなたがたこそが真理の使者であると告げる、心からの告白が湧き出るのを目にするだろ。

21. まことに、わたしはあなたがたに告げる。苦痛の瞬間、苦悩の瞬間に、わたしもまた、わたしの子供たちにとって、彼らがわたしの栄光のために執り行う儀式や儀礼そのものよりも、はるかに身近に寄り添っているのだ。なぜなら、深い苦痛からは真実さに満ちた呼びかけが湧き上がるのに対し、儀式においては、伝統、習慣の力、ルーチン、さらには虚栄心さえもが表れるからである。

22. 今こそ、あなたがた全員が、完全な明瞭さをもって語りかけるわたしの言葉を、改めて聞くべき時が来た。なぜなら、わたしの使命は、あなたがたを救うことであり、あなたがたの過ちを暴くことではないからだ。

23. すべてのものが本来の真実へと回帰することが必要であり、それゆえ、人々の間では世界観をめぐる闘争が激化するだろう。この世に蔓延する唯物主義の只中に、偉大な靈感に満ちた人々が現れ、その光こそが、地球上にスピリチュアリズムが到来する前兆となるだろう。

24. 予言者、預言者、悟りを得た者、そして靈感を受けた者たち——彼らすべてが、人類に私の霊的な臨在を告げ知らせるだろう。彼らには、主の神殿を築くための礎を据えるという使命がある。その神殿は石ではなく心から築かれ、その内部には信仰の炎が燃え盛っている。

25. この神殿は輝かしいものとなり、そこから、あなたがたは、私の全能が初めから、すべての私の子供たちがそこに住むことができるようにと創造した聖所を仰ぎ見るだろう。

26. 今日、あなたがたは人々の心にこれほど多くの頑なさを見、伝統や狂信が人々の心に深く根ざしているのを見ているため、彼らの刷新や変容、そして霊化の教えが受け入れられることは、おそらく不可能に思えるかもしれない。それにもかかわらず、私はあなたがたにこう告げる。すべての者は、光の中に住み、真理を知るために私のもとに来るよう定められているのだから、私の御心は今後も成就し続けるだろう。そうでなければ、あなたがたは救われるどころか、滅びてしまうことになるからだ。このことをよく考えてみよう。そうすれば、あなたがたの中にある悪、すなわち不完全さというもの、たとえそれが永続的なものであっても、やがて過ぎ去っていくことを理解するだろう。

27. 人類に重くのしかかっている試練は大きい。あなたがたの直感、世界がわたしの神聖な裁きの下にあり、人々の傲慢が父によって罰せられ、その裁きの力が日々強まっていることを告げている。しかし、人間が如何にその傲慢を改めず、過ちを認めず、犯した悪行を悔い改めず、一言で言えば、神の正義に屈服しないかを見てください。彼ら自身が苦しみの期間を長引かせ、多くの罪のない人々をも破滅へと引きずり込んでいるのです。この苦難の時代は、いつまで続くのだろうか。それは、人々が真理に目を向け、唯一存在する力、すなわち私である私に屈服するその時まで続くのだ。

28. 民よ、あなたの周囲で何が起きているのかその理由を知り、同胞の救いと平和に貢献する手段を見出したことを、幸せに感じないのか。

29. あなたがたがこの喜びを味わえるのは、私の言葉を理解し、愛をもってその困難な使命を果たす術を知っているからである。

30. 1866年から1950年にかけて、私の言葉、すなわちこの霊の光は、あなたがたが体験しているのと同じ形で、あなたがたの間で響き渡ってきた。この期間、多くの伝達者がその賜物を開花させ、私のしもべたち、すなわち私の「働き手」の中核をなす男女たちが準備を整えてきたのである。

31. わが選ばれた者たちの知性を通じて、わが霊は現れた。しかし、師が語られたこれらの被造物たちが、自らの口から発せられた言葉を完全に自覚していると思うだろうか。私はあなた方に告げる。彼らは、自らの知性の器官に降りてきたものが無限のものであると感じてはいるものの、自分たちの知らぬ間に口から発せられた言葉の偉大さやその意味の深遠さを評価し、理解することは不可能である。

32. 1950年、すなわち私が去った後、この民は人類に私の業を広めることになるが、それは人間の意志によるのではなく、私の意志によるものである。私が語りかけた声の媒体たちは、私の靈感を発現したその瞬間、自らの口から出た言葉を理解することができなかった。明日、彼らは私の預言、すなわち私が彼らを通して告げたすべてのことが成就しているのを目の当たりにして、驚嘆するだろう。その時、常に熱心であった者たちは、さらに大きな愛をもって自らの使命を受け入れ、時に信仰に欠けていた者たちは、一瞬でも疑ったことを悔い改め、ひざまずくだろう。彼らの信仰は燃え上がり、彼らは最後まで私に忠実であり続けるだろう。

33. 私の言葉を聞いている人々の群れの中にいるある者が、私にこう尋ねる。「師よ、あなたの声の伝達者であり、その知性の器官にあなたの光が注がれている者が、あなた自身がその者を通じて現れていることを疑うなどということはあり得るのでしょうか？」それに対し、私はこう答える。はい、私の「声の伝達者」でありながら、啓示の瞬間でさえ疑いを抱き、疑念の中で生きてきた者たちが確かに存在する。それにもかかわらず——インスピレーションが彼らに注がれたその瞬間に変容した、あの不器用な唇から溢れ出た言葉、光、真理、そして慰めは、なんと偉大であったことか。

34. 私が彼らの中に注ぎ込んだとき、その教えがなぜ偉大であったと、あなたがたは思うか。それは、彼らが最も苦しめられてきた者たちであり、多くの機会に、私にふさわしい最善の道を見出すために立ち上がろうと最も努力してきた者たちだからである——彼らは、より清らかな心で私に近づき、常に自らの務めにふさわしい者となるよう努めている者たちだからである。

35. あなたがたの疑いは、どれほど頻繁に彼らの謙虚さから生じていることか。なぜなら、彼らは私が彼らをこの奉仕のために聖別したその瞬間から、戸惑いを感じ、「私のような小さな被造物、不適格な罪人、取るに足らない存在が、神によってこれほど大きな任務に選ばれるなど、あり得るだろうか」と自問してきた者たちだからである。

36. この疑いの向こう側に、私の小さな子供たちの愛と畏敬の念があることに気づいているか。なぜ彼らが疑うのか、そしてそれにもかかわらず、なぜ私が彼らの伝達を通じて自らを現すのか、今、理解できるだろうか。

37. 私の存在を信じる伝達者は、どれほど頻繁に、それだけで満足してしまい、靈感を受けるために必要な感情を準備に注ぎ込まないことか。その結果、その表現は冷たく単調なものになってしまう。同様に、虚栄心に支配されてしまった者も、本質において最も貧しく、光において最も乏しい者であり続けてきたのである。

38. あなたがたは、師への完全な献身、そして師に対する信仰と愛と謙遜の恍惚状態の中で、世と肉体を捨て去り、「役に立ちたい」という理想と、光を必要とする兄弟姉妹たちへの思いを抱いて生きた、そうした「声の担い手」たちを通じて、私の最も完全かつ完璧な現れを目の当たりにしてきたのである。これほどまでに準備を整え、私をそのように迎え入れることを理解できた者は、いかに少ないことか！

39. 靈感を受けたその伝達者の中に、変容を見出さなかったのか。教えの説教の最も崇高な瞬間に、その唇を通して神の光が透けて見えるという霊的な感覚を抱かなかったのか。これこそが、『第三の聖書』の最も輝かしい一節が記された時である。

40. 試練の時代に魂を一つに結んだあなたがたよ、祝福あれ。最初の人から最後の人まで、あなたがたは皆、眠ることなく、また誘惑に陥ることのないよう、試練にさらされてきたのだ。

41. 私があなたがたに最後の教えを与える時がすでに近づいている。あなたがたはその日に備えなければならない。なぜなら、その時、私はあなたがたに最初の収穫を求める一方で、あなたがたが引き続き私の畑を耕し続けることができるよう、種と教えを与えるからである。

42. 試練の意味を理解し、わたしの御心を祝福する者たちがいる一方で、その理由を知らず、それに反発する者たちもいる。

43. 私が、はるか昔に、暴風が吹き荒れ、あなたがたの民の間に混乱が蔓延するこの日々を予告していたことを思い出せ。

44. わたしの言葉を心に留め、「目を覚ましていた」者はごくわずかであり、彼らはわたしのたとえ話に登場する賢い乙女たちのようであった。大多数の者はわたしの預言を忘れ、不意を突かれたため、動揺に支配されてしまった。

45. これこそが、私が予告した嵐の風である。洗礼者ヨハネ——エリヤが転生した者——も予告したように、この風は、あらゆる悪

い木を倒し、良い木からは枯れた葉や実のならない果実を摘み取るためにやって来るのだ。

46. 「この混乱は過ぎ去るのでしょうか？」と、あなたがたは恐る恐る私に問う。私はこう答える。「はい。」しかしその前に、あなたがたは多くの苦闘と涙を味わうことになるだろう。

47. 光の勝利と合一を真に切望する者たちには、祈りの中に留まり、わたしの言葉を学び、わたしがあなたがたに教えたことを実践し続け、あなたがたの意志ではなく、わたしの意志が成されるようにすべきだと告げる。そうすれば、あなたがたは真に勝利を収めるだろう。

48. 私は、靈化を志し、自らの心から物質主義や偶像崇拜の最後の痕跡さえも取り除く者たち――すなわち、私の御心に従い、私の教えを正しく解釈する者たちに、勝利を与える。私は、その両者を励まし、そうして彼らは熟考し、準備を整えながら、語るべき適切な時を待ち、こう言うようになるだろう。「これこそが父の御業であり、これこそがスピリチュアリズムである。」

49. 私は、彼らが学びや瞑想にふけるまさにその瞬間に、彼らの間に現れ、靈性への道を粘り強く歩み続けるよう励ますため、新たな啓示を授けるであろう。

50. 私の啓示が続いていた間、あなたがたは様々な任務を遂行してきた。その中には、これらの集会所の中で行われたものもあれば、あなたがたが求められた場所で遂行されたものもあった。私はそれらの任務の一つひとつに異なる名称を与えた。それゆえ、「指導者」、「声の担い手」、「賜物の担い手」といった呼称が生まれたのである。

51. 1950年の終わりに、私と靈界による啓示が終焉を迎える際、それまであなたがたが持っていたそうした呼称は、あなたがたの間から消え去り、互いに親しくなり、誰も自分を他より上だと見なしたり、あるいは下だと感じたりすることがないようにしたい。

52. その頃には、あなたがたはもはやそれらの名称を必ずしも必要としなくなるだろう。あなたがたが、前述の役職を公式には務めなくなっても、尊敬や愛される度合いが下がることはない。重要なのは、あなたがたが真理にとどまり、その愛の行いが周囲の人々からの感謝に値するものであることだ。

53. 私はすべての民に告げる。人間が持つ最も高貴で美しい称号は、「神の子」であるということだ。もっとも、それを得るにはそれにふさわしい者となる必要があるが。

これこそが律法と教えの目的であり、すなわち、あなたがたに私の真理を悟らせ、至高の完全性であるその神なる父のふさわしい子となれるようにするためである。

54. この言葉をもって、私はあなたがたに、私が示した道を粘り強く歩み続けるよう励まします。

55. こうして、私はこの試練の時ににおいて、あなたがたが落胆したり、信仰を失ったりすることがないように、慰めを与える。

56. あなたがたの心に秘められた、数え切れないほどの苦しみ、悩み、願い、そして祈りを、祈りを通して私に委ねなさい。

57. 私はこれらすべてを知っており、すべてが私の元へと届く。しかし、私は私の御心に従い、適切な時が来たら、あなた方に与えるであろう。

58. 私が花々に露を降らせるならば——どうしてあなたがたの魂に、私の輝きを送らないことがあろうか。

59. 今、私は本質においてあなたがたと共にここにあり、新しいメッセージを啓示している。

60. この時、私はあなたがたに霊化を教えている。それは、人々が私に約束してきた偽りの愛に取って代わるものである。

61. 私は、私があなた方に仕え、愛することで、私を真に愛する機会を与えている。私の模範が、互いに愛し合うことを教え、慈悲を実践するために金貨を捧げる必要はないことを示すためである。なぜなら、最も貧しいと自認する者でさえ、同胞に差し出すことのできる尽きることのない富を持っていることを、あなた方に理解させるからである。

62. あなたがたが愛の種を蒔くことのできる、あの広大な畑は、「霊的な耕作地」という名を与えられています。私はあなたがた全員を、その畑で働くよう招いています。そうすれば、善を行う中で自分の賜物を開花させ、それが現れるのを見ることができるよう。

63. わたしは、あなた方に靈感、癒しの香油、直感、魂の強さ、そして平安を授けた。しかし、わたしは聴衆の間にも様々な役割を割り当てた。ある者たちは、自らの知性をもってわたしの光を受け入れ、言葉を通じてそれを伝えるという役割を与えられた。また、ある者たちは、知性の力によって霊界を受け取るという賜物を受けた。さらに別の者たちには、予知の賜物、すなわち霊的な視力によって、あの世や未来の一端を垣間見る能力が与えられている。

64. また、ある者には識別する賜物が、別の者には言葉を語る賜物が与えられている。

65. 私が人間の知性を通じて啓示を伝え始めて以来、私はあなたがたに、それぞれの賜物を活用し、霊的な使命に着手してほしいと願ってきた。そうすれば、私が去る日が来たとき、あなたがたはすでに道のりの一部を歩み終えており、そのような困難な任務の遂行に着手するのに、自分たちが弱すぎると感じることはないだろうからである。

66. 神の御心を正しく解釈し、それを成就しようと努めた者たちもいる。しかし、この業の真意を誤解してしまった者たちもおり――そして彼らは大多数を占めている――。

67. これらは、私がこの民を非難する誤りである。なぜなら、長い間教えを受けてきた人々を、人々が嘲笑することを私は望まないからである。

68. あなたがたの礼拝行為において犯されてきた、また今も犯され続けている過ちを一つひとつ列挙して、私が物質化して現れる必要などあるだろうか。あなたがたの良心と霊界の助言があれば、是正や教えに不足することはないのだ。

69. 私はあなたがたに告げる。私の業を最も無私無欲に愛する者たちこそ、感覚を惑わすような礼拝行為を最も速やかに捨て去り、自らの過ちを最も容易に正す者たちとなるだろう。なぜなら、彼らは常に霊的な向上を渴望してきたからであり、慣れ親しんだ慣習を廃止することは彼らにとって犠牲とはならない。それによって一歩前進することを知っているからだ。それに対して、儀式や慣習、儀礼を通じて、私の業の中で自分自身の地位や生計、あるいは虚栄心を満たすお世辞を得ようとした者は、自分にとって「霊的な業」であるかのように思われているものを手放すために、自分自身と激しく葛藤しなければならないだろう。なぜなら、私の業においては、純粋で、高潔で、完全なもののみを許容すべきだからである。しかし、不誠実さ、物質主義、虚偽を内包するものはすべて、人間の仕業である。

70. いつになったら、あなたたちはこの作品の意義と目的を理解するのだろうか。いつになったら、それが私の作品であり、あなたたちに託されたものであるからこそ、何一つ自分なりのものを加えることなく、あるがままに尊重しなければならないことを悟るのだろうか。

71. ああ、愛する民よ！ 私はあなた方を泥沼から光の中へと引き上げた。しかし、どうしても闇の中で生き続けたいと願う者たちが大勢いる。そうした者たちは、すでに遠くにその影を見せ始めている試練に、不意を突かれることになるだろう。

72. 父として、また師として、私はあなたがたの間で私の使命を果たした。民には、祈り、瞑想し、神の御心に従って行動することが求められる。

わが平安が、あなたがたと共にありますように！

教え 268

1. 愛する弟子たちよ。もし、私が定めた日に、もはや私の言葉が聞こえなくなったとしても、能力が目覚めるのが遅すぎるがゆえに、使命の遂行を怠ることのないよう注意しなさい。あなたがたがもはや私の声を聞かなくなるその日から、あなたがたにとって新たな展開が始まり、それによって、霊から霊への対話を得ることになるのだということを自覚しなさい。

2. あなたがたは、インスピレーションの中でわたしの臨在を感じ、まもなくわたしの言葉の不在があなたがたの中に残す空虚を埋め尽くせるよう、日々、感受性を高めていかなければならない。

3. もし、私が語っているような弱さに陥る者がいるならば、この教えを思い出し、直ちに祈りに専念しなさい。祈る中で、あなたがたの魂に刻み込まれている私の言葉を思い出すでしょう。そうすれば、永遠に失ったと思っていた賜物が、喜びとともに再び現れるのを見るでしょう。

4. 心配する必要はありません。あなたがたが真に祈るならば、あらゆる誘惑から解放されるからです。

5. 民よ。魂の自由を阻む試練に打ち勝ったならば、魂の高揚を妨げるような不従順によって、新たな試練を自ら招くことのないようにしなさい。

6. 今や、あなたがたの証しを立てる時が近づいていることを心に留めなさい。それゆえ、私の真の証人となるために、入念に備えなければならない。

7. 人類は、私があるがたの中にいたこと、また、男女からなるささやかな集まりの懷において、霊的に自らを現したことを知らない。彼らが私のメッセージを知るようになるのは、その時には、私の言葉がすでに私の代弁者たちの口からは聞かれなくなっているからである。

8. すべての民族がこのような形でわたしを聞くことを、わたしは望んでいない。なぜなら、誰もがそのようにわたしを受け入れる準備ができていないわけではないからだ。彼らにとっては、わたしの新しい啓示の証人であった者たちを通してメッセージを受け取り、その証言を信じるほうが、伝達者が恍惚状態にある中でわたしの言葉を伝えているのを目撃するよりも、はるかに容易であろう。

9. まさにこれこそが、この民に課せられた使命である。すなわち、彼らが霊的に師から受けた教え、教訓、指導について、真実さと霊性をもって語るということである。

10. 知性の訓練のみに専念してきたために、その精神が私の教訓を忘れてしまった民族がいる。それらは科学を崇拝する民族である。また、唯物論的な教えによって精神をこの世の奴隷にしてしまった他の民族は、地上の権力を夢見る者たちである。また、宗教的であるにもかかわらず、私がこの時代にあなたがたに教えている靈化の基礎となるキリスト教の種を持っていない民族も存在する。

11. これらすべての民族は、主がその働き人たちに託した広大な畑のようなものである。しかし、私の新しいメッセージが世界に届く前に、あらゆる民族と国家には、ある準備の時期が訪れるだろう。ある者たちには戦争が襲いかかり、他の者たちには世界観の衝突が訪れるだろう。しかし、彼らが光と真理と平和を渴望するようになったとき、こそが、私の種まき人たちがやって来て、愛と憐れみをもって、彼らに託された神聖な種を蒔くべき時となるのだ。

12. また、私の「第二の時代」における到来が何であったか、そして私の言葉と行いが何を明らかにしたかを、まず知らなければならない民族もいる。そうして初めて、彼らは私の新しいメッセージを「第三の時代」の啓示として受け入れることができるのだ。

13. 光が到来し、神への崇拝と信仰における靈化と真の自由がもたらされる前に、人類は闘争と混乱、そして浄化の時代を経験することになる。

14. イスラエルよ。今、あなたは主がエルサレムの都に凱旋入城されたことを記念している。長い年月を経て、あなたがたは心の中に私の模範を保ち続けてきた。それゆえ、光の時代を生きる今日、あなたがたはそれらの教えが持つ無限の深みを発見することができるのである。

15. 地球には、私の生きた道の痕跡は一切残っていない。なぜなら、私はその道のあらゆる痕跡を消し去ったからだ。私は、私の足跡が子供たちの精神に刻み込まれ、愛と光と犠牲のその道が、すべての人間の最も純粋な部分の中で輝き続けることを望んだのだ。

16. 血は、この世における私の業を確固たるものとし、その記憶が消えることのないように封印した。そして今、あなたがたはこう見ている。私があなたがたの間におり、受難を遂げてから約2,000年が経過したが、あなたがたは、あたかも昨日のことであるかのように、私の受難を偲んでいる。私はあなたがたを祝福する。なぜなら、あなたがたの間で、「一粒の種も失われることはない。遅かれ早かれ、それは必ず発芽するからだ」というその言葉が成就しているからである。

17. 私がエルサレムの街に入ったとき、群衆は歓声を上げて私を迎えた。村々や路地から、男、女、子供たちが大挙して押し寄せ、師が街に入られるのを目撃しようとしたのである。彼らは、神の子の奇跡と力の証しを受けた者たちであった。——かつて目が見えなかったが、今や見えるようになった盲人、かつて声が出なかったが、今や「ホサナ」と歌えるようになった口がきけない者、寝床を離れて、過越の祭りに師に会おうと急いで駆けつけた足の不自由な者たちであった。

18. 私は、この勝利が一時的なものであることを知っていた。その後何が起こるかについては、すでに弟子たちに予言していたのだ。これは私の闘いの始まりに過ぎず、今日、それらの出来事から遠く離れた場所から、私はあなたがたにこう告げます。私の真理の光は、無知と罪と欺瞞の闇に対して今もなお戦いを続けているのです。それゆえ、私の最終的な勝利はまだ訪れていないと付け加えなければなりません。

19. エルサレムへの入城が、私の大義の勝利を意味していたなど、どうして信じられるだろうか。改心したのはほんの一握りに過ぎず、私が誰であるかを認識しなかった者たちは大勢いたのだから。

20. たとえ当時の人々が皆、私の言葉に改心していたとしても——その後、さらに多くの世代が続くはずではなかったのか？

21. その歓喜の瞬間、あの束の間の勝利の行進は、光と善と真実と愛と正義の勝利——必ず訪れるべき、そしてあなたがた全員が招かれているその日——の象徴に過ぎなかった。知っておいてほしい。もしその時、私の子供たちのうちたった一人でも新しいエルサレムの外にいたとしたら、祝宴は開かれまいだろう。なぜなら、神の力が最後のひとりまで救うことができなかったならば、神は「勝利」を語ることも、勝利を祝うこともできないからだ。

22. 今、この時、私の臨在を感じ、私の御言葉を聞いたあなたがたは、私が、あたかも私を迎え入れる都であるかのように、あなたがたの心に宿ることができるよう、魂を整え、飾り立てている。私は、あなたがたのその準備を祝福し、あなたがたが霊化に努めていることを告げますが、その思いは、あたかもすでに真実の勝利の祝典であるかのように捉えてはならないと伝えます。

23. これは、新たな闘いの時代の始まりに過ぎず、あなたがたの魂の救い、解放、そして高揚のための決定的な勝利の始まりであ。

24. 皆で心をつにし、喜びと勝利への希望、そして互いの調和を表現する賛美歌を歌い上げなさい。

25. 民よ、この時代において、あなたがたは選ばれた者である。それは、あなたがたを通して、わたしの言葉が恵みの露として人類の上に降り注ぐためである。立ち上がり、進歩を目指せ。そうすれば、あなたがたの使命と闘いが終わったとき、わたしの御前に来て、師と共に、その響きが永遠にこだまするあの勝利の歌を歌えるようになるだろう。

26. 人間だけが、この地上でわたしを体現している。なぜなら、人間はわたしの霊の像であり、その模倣として創造されたからである。しかし、あなたがたがわたしの代表者であると宣言するためには、わたしの律法に従い、絶えず備えを怠らない生活を送らなければならない。もしあなたがたがわたしの弟子になりたいと願うなら、自分の十字架を背負い、わたしに従いなさい。その道によって、あなたがたの魂は完全なものとなるであろう。もしあなたがたがわたしを信じるならば、誰かがあなたがたの決意を揺るがすことができようか。

27. わたしは、あなたがたの内面を知らせるために、あなたがたの謙遜さ、愛、そして柔和さを試した。わたしはあなたがたを知っているが、あなたがたには自分たちが何ができるかを自覚する必要がある。そして、試練こそが、あなたがた自身を知る機会を与えてくれるのだ。

28. あなたがたはしばしば私に問う。「この人生は何のためなのか、なぜこれほど多くの苦しみを味わわなければならないのか」と。それに対し、私はこう答える。魂は、自らの功績によって、最も深い生命の次元から完全性の頂点へと昇りつめなければならないのだ。

すべての存在は、発展の法則に従わなければならない。また、私はあなたがたにこう告げる。今この時代、私の宇宙における裁きによって、犯されたすべての過ち――あなたがたの世界だけでなく、私の子供たちが住むあらゆる生命の世界において――が暴かれた中で、あなたがたの魂は償いを行っているのだ。

しかし、泣いてはなりません。むしろ、私に感謝しなさい。なぜなら、魂が清められるこの時が過ぎれば、あなたがたは私により近くなり、正しい道へと立ち返ったことで、その法則を全うするためのより良い条件が整うからです。あなたがたが試練の中で落胆することのないよう、私は十字架を担う者として、あなたがたと共にいます。

29. あなたがたは今、わたしの受難を思い起こし、あの犠牲の死が再び繰り返されているのを感じている。あなたがたは刻一刻とそ

れについて考え、肉の弱さを克服し、この世の苦難を乗り越えるための決意を固めている。しかし、わたしはあなたがたに言う。目を覚ましていなさい。あなたがたはまだ弱いからだ。第二の時代には、私を愛し、私に忠実であると主張する大勢の人々が私に従った。しかし、世が私の行いを非難し、その裁きを下し、私に従う者たちが迫害を受けると、私が愛を注ぎ尽くしたまさにその魂たちが、私を否み、私から離れていった。

30. 今日、あなたがたはわたしを愛し、わたしの言葉を信じていると語る。しかし、わたしは、あなたがたのうちの多くが、もし大きな試練にさらされたならば、わたしを見捨てるだろうことを知っている。それでもなお、あなたがたの使命は、最高の幸福である霊的な高みへと到達するまで戦い続けることである。

31. 今、私はあなたがたの中にいて、あなたがたの心に呼びかけている。私が、あなたがたが絶え間ない敵対関係に巻き込まれているのを見て、私の平安が完全であるなどと思うだろうか。それゆえ、私は偉大なる戦士として、闇と悪と戦うために来たのだ。そして私と共に、私の業を成し遂げるために、善の霊たち、すなわち霊界もまたやって来たのである。この戦いはいつまで続くのか。私の子供たちが皆救われるまでだ。しかし、私は苦痛をもたらしたわけではない。ただ愛によって、あなた方を変容させていただきなのだ。

32. かつての時代の私の言葉を学んできた者たちが、私が人々の元に戻ってきたこの時代の私の啓示を目撃するとき、彼らは、この教えの証人となることを許してくれたことに感謝する。しかし、私はすべての人にこう告げる。あなたがたが私を栄光に満ちて現れるのを見たのと同様に、1950年の終わりに、私が再び去っていくのを見るだろう。あなたがたは、師と一つになるために、毎日この段階へと高まっていくべきである。

33. その後、あなたがたは世に立ち向かわなければならない。そして、宗派や教会の聖職者や牧師たちが、あなたがたに立ち向かってくるのを目にするだろう。その中には、ただ真理を求める者たちもあり、彼らが私の御言葉を知れば、その信仰に火が灯り、私を信じるようになるだろう。

34. あなたがたがわたしを知るとき、父がいかに慈愛に満ち、師としていかに賢明であり、裁き主としていかに寛大で公正であるかを理解するようになるでしょう。

35. 愛する民よ、あなたがたは神の師の弟子である以上、世はあなたがたに完全な行いを求めている。この師が悪く評価されないよう、わたしの指示に従いなさい。

36. 私が現れる時が近づくと、あなた方の心臓の鼓動は速くなる。ある者にとっては喜びからであり、またある者にとっては恐れからである。しかし、あなた方全員が、私の神聖な臨在を感じているのだ。

37. 私が来るのは、ただあなた方を安全へと導き、新たな命へと目覚めさせ、旅路の全期間を通じて頼りにできる杖を差し出すためである。

38. 十字架の上で死と格闘し、処刑人の手下たちに虐待され、拷問を受けながらも、無限の彼方へと目を向け、「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのか分かっていないのですから」と語った、その方が、今、あなた方に語りかけているのです。

39. 私は、その神聖な赦しの中に、あらゆる時代の人々すべてを含めた。なぜなら、私は人類の過去、現在、そして未来を見通すことができたからである。私は、真実と御霊において、あなたがたにこう告げることができる。今この時代に私の新しい御言葉を聞いているあなたがたをも、あの祝福された時に、私は見守っていたの。

40. 今日、私はあなたがたを霊的な停滞から解き放つためにやって来た。なぜなら、この人類はすでに長い間、宗教的狂信、偶像崇拜、誤った礼拝形態、そして物質主義という寝床の上で深く眠り続けており、それによって互いへの愛の実践、慈悲、赦し、そしてこの唯一の律法から生じるあらゆるものを置き換えようとしてきたからである。

41. この言葉の意味には、世界が自らを刷新し、真の道へと立ち返り、わたしへの愛によって高みへと昇るために必要なすべてが含まれている。もしこの民が、第三の時代にわたしが与えた教訓に注意深く耳を傾けず、正しく理解しなければ、この民はどうなってしまいうだろうか。もし彼らが私の言葉によって強くならず、私の慈悲という神の箱舟に避難しなければ、大きな試練が彼らを待ち受けている。

42. まさか、あなたがたが運命の打撃に耐え、地上で苦い苦汁を飲むのを見ることを、私が喜んでいとも思っているのか？ いいえ、民よ。私は、あなたがたが犯罪者や追放者のように扱われるのではなく、あらゆる点において神にふさわしい子供たちとして扱われることを望んでいるのだ。

43. わたしは、あなたがたがわたしの言葉の栄光と、そこから溢れ出る赦しに慣れきってしまい、試練の時が近づいていることに気

づこうとせず、それを乗り越えるための準備をしようとしなかったことを見ている。

44. あなたがたは謙虚であると主張するが、父に対しては恩知らずで高慢な態度を見せている。これこそが、あなたがたが私の真理の証人として世に広めようとする模範なのか。これらすべてを心に留め、自分の行いを省みよ。そうすれば、私の言葉を厳しく裁くことにはならないだろう。

45. 愛する民よ、今こそ功德を積むのにふさわしい時である。わたしの業の中に、あなたがたの行いを正し、師が教えるすべてに注ぎ出す光によってそれを美しく彩るために必要な手本を見出すことができる。

46. 私に言ってみよ。あなたがたが過ちを犯したとき、私があなたがたを拒んだことがあったか。何らかのつまずきによって足止めを食らったとき、私があなたがたを見捨てたり、置き去りにしたりしたことがあったか。痛みに打ち負かされて倒れたとき、私があなたがたに厳しい顔を見せたことがあったか。それにもかかわらず、私がこれほど深い愛を込めて「弟子」と呼ぶ者たちが、不幸に見舞われた同胞を見捨て、正しい道から逸れた者を、愛情を持って引き寄せ、改心するよう助ける代わりに拒絶し、時には、裁く権限のない事柄に干渉して裁き手となってしまうのを、私は見ている。これは私の教えにかなっているだろうか？ いいえ、とあなたの良心が私に告げている。なぜなら、私はあなたがた自身を厳しく見つめ直し、感情を蝕んでいる多くの荒さを磨き落とし、私の弟子となる道を歩み始められることを望んでいるからだ。

47. あなたがたの心は情欲や欠点、そして人間の衰れさに満ちているというのに、私の教えを教えようというのか。盲人が別の盲人を導くことはできず、そうすれば両者ともつまずいたり、深淵に落ちたりする危険がある、と私が何度も言ったことを思い出せ。

48. これこそが、第六の封印から発せられる声である――神の書物の、その最後から二番目の章が開かれ、知恵をもってあらゆる魂とあらゆる知性へと注がれているのだ。

49. この光は、世界を浄化し、刷新する大いなる試練が過ぎ去った後、第三の時代において神の子らが霊的な結束を保つことになる、新たな夜明けである。それゆえ、私がこの民にメッセージを伝えた際、詳細に説明しなければならなかった。なぜなら、私は彼らが戦いに強くあることを望んでいるからだ。それゆえ、私は彼らに責任を問うとともに、裁きを下したのである。彼らの不完全さを是正

するのは、この世界であってはならない。なぜなら、私は彼らを学ぶために遣わすのではなく、教えるために遣わすからである。

50. 民よ、私の光が、御言葉の伝達者の唇に宿る前に、あなたは一瞬、恐れを覚えたか。それには理由があった。私はあなたの予感に祝福を授ける。

51. わが平安が、イスラエルの民よ、あなた方と共にありますように――その霊の中に、エホバがモーセを通して与えた律法を宿し、その霊の中にイエスの御言葉が記され、今や聖霊の啓示を受け入れている民よ。まことに、わたしはあなた方に告げます。あなた方は光の子らであり、いかなる理由があっても、道から迷い出ることはないでしょう。

52. あなたがたが、光として自分の知性に注がれるのを感じるこの御霊こそ、父である――「わたしは、天と地、そしてすべての被造物を造ったエホバである」と告げる律法をあなたがたに啓示された方である。あなたがたの知性を靈感で満ちし、知恵の言葉をあなたがたの唇に授けるこの御霊は、地上で力強い業を成し遂げ、愛の教えをあなたがたに遺したあの師のものである。

53. 今日、私は人々の元へやって来て、彼らの霊を通して自らを現す。私は、知性を照らす光の中に、心だけが感じ取ることできる輝きの中に、魂の糧となる本質の中に、やって来るのだ。

54. 今こそ、目覚めの時、霊的な豊かさの時であり、その時には、あなたがたは皆、兵士となり、皆、「働き手」となり、皆、弟子となるであろう。

55. かつて、あなたがたは、わたしの言葉というパンを食すことに喜びを見出すだけで満足していた。あなたがたは、自分の心をより愛に満ちたものにし、平安を取り戻すためにわたしを求めたが、すべての魂が、広めるべきメッセージと、困窮する同胞たちに分け与えるべき豊かな恵みをもたらしていることを、思いもよらなかった。

56. この時代のわたしの言葉は、利己的で、引きこもりがちで、実りのない生活の隠遁状態からあなた方を引き出し、光の道を切り開き、種を蒔くべき畑をあなた方に提供しようとするものである。あなたがたは、一見すると教養がなく、無知で、貧しいように見えるかもしれませんが、長い発展の道のりがもたらした豊かな精神的経験を持っていることを、私は知っています。

57. わが民が、わたしが彼らに啓示した知識を広めるために使徒として旅立つとき、光の光輪が彼らを包まなければならない。その時には、あなたがたはすでにわたしの言葉の力を知っており、わた

しを現すのにふさわしい時を待ちながら、長い間あなたがたの本質の中に隠されていた賜物について、完全な認識を得ているである。

58. あなたがたは、どれほど多くの教え、どれほど多くの神への礼拝の形式、そして霊的な生活や人間生活に関するどれほど多くの新しい考えに出会うことだろう。もしあなたがたがそれらを深く掘り下げ、見極める術を知っているならば、その一つひとつが、正義、愛、そして完全性である真理からかけ離れた、誤った部分とは別に、良き正しい部分も示してくれるだろう。

59. あなたがたが誤りや無知、あるいは悪を発見した場所では、わたしの教えの真髄を広めなさい。それは、わたしの教えである以上、不純なものや誤りと混ざり合うことはあってはならない。

60. 私の教えは絶対的であり、包括的であり、完全である。

61. 私の真理を完全に確信している者は、他者に見られる異質な儀式を私の業に決して混ぜ合わせようとはしない。なぜなら、私の教えには、他の教えの中に良きものや真実なものとして見出せるあらゆるものが、すでに含まれていることを認識しているからである。

62. 私の教えは、たとえどれほど簡素なものであっても、すべてはあなたがたの霊のための知識の一面であり、あなたがたの霊はまもなく私の言葉を収集し、それを人類に「命の種」として届けることになる。

63. あなたがたは、すべての人に届くように、どのようにして同胞たちに呼びかけをすべきか、まだ分かっていない。私はあなたがたに言う。焦ってはならない。なぜなら、私があなたがたが強靱であることを見れば、私はあなたがたのために道を整え、手段を与えるからである。

64. 祈りの際に、マリアを執り成し手、仲介者として求めるあなたがたは、祝福されなさい。なぜなら、霊的な意味において、彼女はあなたがたの母だからである。私が十字架の足元に彼女を残したのは、彼女がすべての人々のために取り成し、あなたがたが彼女を愛し、その懷に慰めを見出せるようにするためであった。

65. マリアは、この世で人間となり、女性として、また母としての使命を果たすために、神の懷からやって来たのである。

66. あなた方のような清らかな花からでなければ、人類に救いをもたらす実——初期の族長たちに父が約束し、彼らが「メシア」と名付けたその実——は生まれ得なかったのです。

67. マリアの靈魂が、愛と柔和と犠牲という使命を地上で果たし終えると、彼女は、自分が来た場所である完全性の懷へと戻った。

なぜなら、マリアは他の魂たちのように発展の過程を経る存在ではないからだ。マリアは神聖な表現形態であり、神の柔和そのものである。

68. この教えは、この啓示の真実を見出すことができなかった人々の心に光を灯す。

69. スピリチュアリズムは、あなたがたが知恵の道を歩みながら向上できるよう、思考と心に無限に広がる進歩の領域を切り開くものである。

70. わが言葉を聞くことによってあの霊の世界へと入り込むあなた方よ、かつてはただ謎や謎めいたものに包まれてしか見ることができなかったものを、すでに明瞭に認識し始めている。

71. この時代において、あなたがたはもはや、思索も探究もしない盲目的な信仰を持つ者であってはならない。あなたがたの魂は成長し、知り、探求しようとしている。そこで私は、真理の霊としての私の光をあなたがたに送り、すべての秘密を解き明かし、イエスを通して約束したとおりに説明するのに、今が好機であると見極めたのである。

72. 明日、あなたがたが私の教えの要点を理解し、それを求める者にこれらすべてについて説明できるようになったとき、あなたがたは、私の名をその心から追い出し、この世の栄華の虚栄や科学の勝利に目がくらんでいたこの世界が、キリストの教えこそが真理への扉を開く鍵であると悟り、再び私へと目を向けるようになることに気づくでしょう。

73. しかし、知性的に発達し、目覚めたこの新しい人類は、啓示の説明、秘密の解明、比喩的な意味で受け取ったものの解釈を求めだろう。そして、私は、この素朴な民こそが、私の言葉の真意を説明し、私が彼らに啓示したことを謙虚に教える者となることを望んでいる。私が、この民こそが古の聖典をも正しく解釈する者となる、とあなた方に告げたでしょうか。なぜなら、彼らが過去を説明することを理解すれば、現在についても、多くの人々を驚かせるほどの簡潔さで説明できるようになるからです。

74. モーセの宗教、キリスト教、スピリチュアリズム——これらは、愛という唯一の教えに関する三つの異なる教訓である。

75. この種を蒔き広めるために立ち上がる者の数は少ない。しかし、第二の時代における私の弟子たちの数も少なかったにもかかわらず、彼らが人類にイエスの御言葉を知らしめることに成功したのだから、なぜ彼らが十分でないと言えるだろうか。

76. わが新しい弟子たちよ、わが教えによって魂を強め、明日、諸国民へと遣わされるにふさわしい者となることを切に願い求めよ。なぜなら、その願いこそが、愛と信仰と善意の証となるからである。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 269

1. イスラエルの民よ、その魂にエホバの律法とイエスの教えを刻み込んでいる者よ——私が一人の人間を通じてあなたに与えるこの言葉を受け入れなさい。目を開き、この時代の出来事を見よ。そうすれば、私が再び来て、あなたたちに私自身を明らかにしたことを知るだろう。私の言葉を聞き、それを深く学び、その真意を自分のものとしなさい。そうして、以前の二つの聖書と合わせて、あなたがたが永遠に学び続けることのできる一冊の書物を作り上げなさい。

2. わたしはあなたがたの心を慈しみ、試練を通して、来るべき時代に備えさせる。なぜなら、わたしが去った後、あなたがたはわたしの代わりにここに残されるからだ。

皆さんは、この朝の黙想の中で私の受難を思い、あの師の振る舞いを思い起こし、それらについて深く考えを巡らせました。その際、これらの聖なる出来事を図像として描くことはしませんでした。あなたがたは、あの日々を再び体験したのです。なぜなら、あなたがたは、当時、私の生涯の歩みに驚き、最初から最後まで感嘆の念を抱きながら見守っていた、まさにその魂そのものだからです。私の謙虚さに驚き、自分の家さえ持たない貧しい家庭の懷で私が生まれたことを思い巡らしました。私はただ、神の律法を全うして生きることをあなたがたに教えただけなのです。

あなた方の多くは、私を思い出し、私の模範があなた方の人生において開かれた書物のようにあったという時間が過ぎてから初めて、私の言葉と行いの真意を理解したのです。

今日、あなたがたは地上に戻ってきました。そして、私は再び、あなたがたのすぐそばにいます。あなたがたは、私が人々の仲介を通じて与えるこの言葉を疑った。なぜ私がこの手段を選んだのか、なぜ私の業があらゆる教会から離れた形で展開されたのかと、非難めいた口調で私に問いかけた。しかし、私はあなたがたに告げる。私は、その大多数がこの国に暮らすイスラエルの民の懷に降りてきたのだ。残りの者たちは、わたしによって遣わされ、あらゆる国々に散らばっており、わたしは彼らに靈的に自らを現した。これらは、わたしに忠実であり続けた、わたしの選ばれた者たちである。彼らの心は汚染されておらず、彼らの靈はわたしの靈感を受け入れることができる。今、わたしは彼らを通じて、世界に偉大な知恵の宝を授けている。

3. わたしの声は、人々の心に呼びかけ続ける。わたしの光は御霊の中に現れ、御霊に力を与え、目覚めさせ、あらゆる魂を引き寄せ

る。わたしがこれほど深く愛するこの人類が、物質主義のあまりに深いところへ陥ることを、わたしは許さない。試練が彼らを立ち止まらせ、私の言葉が彼らに届いたとき、人々の賜物は目覚め、彼らの心は感受性を帯び、その道筋は示されるだろう。そうして彼らは、私を呼び求めることを理解し、私のもとで癒しの香油を求め、私の弟子へと変容していくのだ。

4. わたしは、あなたがたの周囲に、あなたがたを包み込むような霊的な安らぎの雰囲気を作り出し、すべてがあなたがたの霊的高揚に資するものとなるでしょう。不信仰者たちに対して忍耐強くありなさい。そうすれば、やがてわたしの啓示が真理として受け入れられ、わたしの言葉が尊ばれるようになるのを、あなたがたは目にすることになるでしょう。

5. 私は、人々よ、あなた方をどれほど愛していることか。そして、あなたが兄弟愛と調和を成し遂げることを、どれほど切に願っていることか！

6. 新しい弟子たちよ、この真理について語る際には、たゆまず語り続けなさい。恐れから私の言葉を口にできない、まだ慣れていない唇よ——決断したその瞬間に、心を開きなさい。私の名において語られるたった一言が、罪人を救い、悪に身を任せて反抗的になった者たちの道を阻む深淵を塞ぐことができる。あなたがたは、私の言葉が持つ力を知っているだろうか。あなたがたの権威の力を知っているだろうか。模範となる行いを通じて語り、私があなたがたに託した私の業の一端にふさわしい者となりなさい。残りは私が成し遂げる。

7. わたしは、あなたがたの中に「第二の時代」の弟子たちを見出す。あなたがたの中には、ヨハネ、ペトロ、トマス、そしてユダを体現する者たちがいる。彼らは教養がなかったにもかかわらず、わたしを模範として、称赞に値する教えを語り、奇跡を成し遂げたのである。

8. 見ることなく信じる者たちは幸いである。信じるために、私に見る力を与えてくれるよう求めなかった者は幸いである。なぜなら、その者は信仰の目をもって私を見、私の言葉の实の甘美さを知り、それによって養われてきたからである。また、この尊い賜物を使命として受け取った後、私について証しすることを知っている者たちをも、私は祝福する。

9. わたしはあなたがたが蒔いた種の実を収穫する。あなたがたがわたしに捧げる、たとえ最も小さなものであっても、わたしはそれを何倍にも増やす。それがわたしの御心だからである。

10. 天で封印されていた書物は、第六章で開かれた。それは「七つの封印の書」であり、知恵と裁きを含んでおり、あなたがたへのわたしの愛ゆえに封印が解かれ、その深遠な教えがあなたがたに明らかにされたのである。

11. 人間は、神の御霊の息吹に励まされながら、五つの時代を通じて地上に生きてきた。それにもかかわらず、人間は、人生の霊的な意味、存在の目的、その使命、そして本質を理解することはできなかった。すべては、その理性にとっても魂にとっても解き明かせない謎であり、その内容を解釈することのできない封印された書物であった。人は霊的な生活を漠然と予感してはいたが、存在を神に近づける発展の階段を真に知ることはなかった。彼は、この地上における自らの極めて崇高な使命を知らず、また、闘いに勝利し、人間の苦難を乗り越え、魂を完成させて永遠の光の中に住むために、自らの精神に備わっている美德や賜物についても知らなかった。

12. 神聖な書物が開かれ、人々がその内容を熟視することが必要であった。そうしてこそ、この世に存在するあらゆる悪の根源である無知の闇から自らを救うことができたのである。一体誰がこの書を開くことができたのか？ 神学者か、科学者か、あるいは哲学者か？ いいえ、誰も、義なる魂たちでさえも、その内容をあなた方に明らかにすることはできなかった。なぜなら、その書が守っていたものは、神の知恵そのものだったからである。

13. キリスト、すなわち「御言葉」、ただ彼のみ、神の愛だけがそれを成し遂げることができた。しかし、それでもなお、人々が私の霊的な臨在の輝きに目をくらまされることなく、神のメッセージを受け取れるようになるまで待つ必要があった。こうして人類は、神の知恵の書が人類のために秘めていた奥義を知ることを可能にする、相応の成熟に達するために、試練、教え、経験、そして成長という五つの段階を経なければならなかった。

14. 神の律法、キリストによって与えられた神の言葉、そして預言者、使者、遣わされた者たちによるすべてのメッセージは、すべての人々に光、救い、そして正義を常に告げ知らせてきた神の約束に対する人類の信仰を支え続けた種であった。

15. 今こそ、待ち望まれていた「大いなる啓示」の時が到来した。この啓示によって、あなたがたは、私が長きにわたり明らかにしてきたすべてのことを理解し、あなたがたの父が誰であるか、あなたがた自身が何者であるか、そしてあなたがたの存在の意義が何であるかを悟ることになるだろう。

16. 今こそ、あなたがたが到達した霊的な成長、経験してきた試練、そして積み重ねてきた経験に基づき、私の霊からあなたがたの霊へと、あなたがたの準備が整うのを待ちわびて私の宝庫に保管されていた知恵の光を受け取ることができる時である。そして、人類が私のメッセージを受け取るために必要な発展段階に達したため、私は彼らに私の光の最初の光線を送りました。それがこれであり、私の言葉を代弁する、教養のない素朴な人々を恍惚とさせ、語らせたのです。

17. この光の光線はあくまで準備的なものであり、新しい一日を告げる夜明けの光のようなものである。やがて、私の光は完全にあなた方の元へ届き、あなた方の存在を照らし出し、無知、罪、そして悲惨さによる最後の影さえも一掃するであろう。

18. あなたがたが無限の彼方でその夜明けを称賛しているこの時代は、人類の霊的生活において幕を開ける第六の時代、すなわち、光と啓示、古の預言と忘れ去られた約束の成就の時代である。それは第六の封印であり、それが解かれるとき、正義と啓蒙と啓示に満ちたメッセージとして、その中に秘められた知恵が、あなた方の魂へと注ぎ込まれるのである。

19. あなた方にとって、これは第六の時代であり、「第三の時代」である。この時代において、私は「第一の時代」——私が「様々な形」で私の臨在と御言葉を感知できるようにした時代——や、「第二の時代」——私が「私の御言葉」を人間として現し、あなた方の心に語りかけた時代——よりも、より身近な場所からあなた方に語りかけたのである。

20. 今日、私は再び声を響かせている。しかし、私が自らを現すのはもはや感覚ではなく、私が語りかけるのはあなたがたの心でさえもない——私が自らを現すのは、あなたがたの靈魂であり、光の王国、すなわち永遠で幸福な霊の王国へと導く昇華の道を教えるためである。

21. あなたがたの名前と定めが記されている、神の書の第六の封印はその奥底に何を秘めているのか。そこには、教え、極めて大きな試練、そして知恵の啓示が込められている。

22. この時代における私の僕たちの使命とは何でしょうか。祈り、瞑想し、自らを新たにし、一致、平和、そして霊的な光を蒔き、あなたがたの可能性と能力を開花させ、高揚のために闘うこと。無知、悪徳、狂信を排除すること——一言で言えば、人々の間でさまざまな形で現れる悪を排除することです。

人々が互いに憎み合い、殺し合い、裏切り合うことをやめたとき、赦しと慈悲が心から心へ、民族から民族へと広がり、もはや血も涙も流されなくなったとき、霊と霊との対話をもたらす大いなる静寂が訪れるだろう。その時、私は最後の封印、すなわち第七の封印を解く。その期間、人々は私がこの地上に降臨した際にあなたがたに教えた通りに、互いに愛し合うようになるだろう。

23. これは、神の「御言葉」が常にそうであったように、簡潔かつ平易な言葉で、あなたがたが『知恵と神の正義の書』の第七の封印について知りたいと願っていることの一部である。

24. あなたがたはそれを聞いたのだから、今こそ理解すべきである。なぜなら、やがてあなたがたは預言し、啓示し、教えを説かなければならないからだ。

25. 神聖な木は、その枝を諸州や都市に広げ、疲れ果てた旅人たちに木陰を与えている。このように、私が今や御霊として来られるゆえに、この時代において、私があなたがたに私の言葉を同時にさまざまな場所で聞かせることとなったのである。

26. あなたがたが今、わたしの言葉を聞いているこの地域は、あなたがたがわたしを受け入れられるよう、あらかじめ整えられなければならないかった。試練、痛み、そして苦難こそが、あなたがたの歩みを止め、現実への目を開かせたのである。その痛みが、あなたがたの心の乾いた土を耕し、涙がその土に水を注いだ。それによって、あなたがたは、私の言葉である種を待ち受ける準備が整ったのである。

27. 今や、あなたがたは私がなぜあなたがたを召したのかを知っている。私は、あなたがたが私の畑の働き手となり、この種を至る所に蒔くことを望んでいるのだ。

28. 愛する「働き手」たちよ、目を覚ませ！見よ！太陽が地平線から昇り、あなたたちに働くよう呼びかけている。

29. わたしこそがその太陽であり、この時にわたしが到来したことは、あなたたちにとって新たな夜明けとなったのである。

30. 自分のことが、わたしの領地で役に立つかどうかについて、誰も疑ってはならない。わたしがあなた方を召したのだから、わたしが間違えるはずがないということを心に留めておきなさい。

31. 私があなた方に託した仕事は、あなた方の力を超えるようなものではない。しかし、あなた方の数と団結が大きければ大きいほど、あなた方の背負う十字架は軽くなるのだ。

32. あなたがたの魂がこの惑星に遣わされる前に、その魂には「畑」が示され、平和を蒔くことがその使命であり、そのメッセージ

は霊的なものであると告げられた。そして、あなたがたの魂はそれを喜び、その使命に忠実かつ従順であることを誓ったのである。

33. なぜ今、種を蒔くことを恐れるのか。なぜ今、魂がその使命を託された時にこれほどまでに喜びを感じたその働きを遂行するに値しない、あるいはできないとを感じるのか。それは、あなたがたが情欲に道を塞がれ、それによって魂の通過を妨げているからであり、その優柔不断さを子供じみた言い訳で正当化しようとしているからだ。

34. あなたがたが来た「谷」へ、手ぶらで戻ってはならない。そうすれば、あなたがたの苦しみは甚大になることを、私は知っている。

35. 確かな第一歩を踏み出すためには、何をすべきか。私の言葉を深く熟考し、その後、全き信仰と全き感情を込めて祈りなさい。その準備から、次第に内なる力が生まれ、その力は肉体との絶え間ない戦いを始めるだろう。霊魂は物質的な肉体に対抗し、良心の声を響かせ、肉の声を沈黙させようと試みるでしょう。

36. このようにして、霊魂は人間生活の中で徐々にその居場所を確立できるようになるでしょう。そして、一度振り返ってみれば、あなたがたが私の後を追って十字架を背負うことを妨げていた那些の障害が、はるか遠くにあるのを見るでしょう。

37. 子供たちよ、わたしの教えはあなた方を励ましてはいないか。わたしの言葉はあなた方を現実へと目覚めさせてはいないか。あなた方の魂は新たに生き返っていると感ぜないか。

38. 私の言葉には、あなた方に対する非難や叱責は一切含まれていなかったことに留意しなさい。それは、あなたがたが地上に持ち込んだ霊的な使命を果たすよう、光に満ちた言葉をもってただ励ましたに過ぎない。すなわち、自由意志を誤って用いてはならないこと、魂が肉体の義務に干渉してはならないこと、また肉体が魂の使命を妨げてはならないことを、あなたがたに理解させたのである。

39. 私の教えだけが、魂と肉体の調和を成し遂げるための基準をあなた方に与え、また、あなた方の父なる神の世界において、ふさわしい行い——師となる道を進む弟子たちとしての行い——を行うための唯一の方法となるのです。

40. いつ、あなた方はこの内なる闘いに勝利するのだろうか。

41. ある者はまだ戦いを始めてさえおらず、ある者は戦いの真っ只中にあり、またある者——ごく少数だが——は肉体に打ち勝っている。しかし、私はまた、戦いを始めたものの、自らの内なる敵に

打ち負かされ、今や私の道ではない道を歩んでいる者たちも目にする。

42. 私はこれからも彼らを探し続けよう。私は今なお、彼ら自身が、真理と生命の本質がどこにあるのか、そして幻想や偽りの輝き、欺瞞がどこにあるのかを自ら見つけ出すことを望んでいる。彼らがぼろぼろの身で、傷ついた心と傷つけられた魂を抱えて私のもとに戻ってきたとき、私はもはや彼らに何も説明する必要はないだろう。なぜなら、彼らは自らを欺いてしまったのだから。

43. いつになったら、お前たちはわがままで生意気な小さな子供のような振る舞いをやめるのか。

44. 私の食卓に来なさい。そして、私の言葉の美味を味わいながら、魂を光で満たしなさい。そうすれば、私の教えによって、魂がより強くなり、「肉体」がより柔軟で従順になるのを実感するだろう。

45. あなたがたがそれを実践しなければ、私の教えはすべての意味を失ってしまう。愛する弟子たちよ、あなたがたはよく知っているはずだ。私の律法と教えの目的は善を行うことにあるのだ。それゆえ、それをただ記憶の中に留めたり、口先だけで語ったりして、自分の行いに適用しない者は、義務に背いているのである。

46. あなたがたが、わたしの生の原則を教え、その内容を説くために旅立つ前に、まず、隣人を愛し、霊的な生き方をし、愛の行いと光をもって自分の道を彩ることで、わたしがあなたがたに啓示した教えに従うことから始めなければならない。もしそうしないならば、私は今ここで、あなたがたはスピリチュアリズムを理解していないと告げます。スピリチュアリズムはあなたがたの本質を明らかにし、それを通じて、あなたがたは父について明確なイメージを抱き、自分自身を知ることができるのです。

47. 確かに、霊性への到達には、ある程度の放棄、努力、そして犠牲の精神が必要である。しかし、もしあなた方の内に、より高次の存在への憧れが芽生え、あなた方の本質の中で愛が輝き始め、あるいは霊的なものへの渴望が湧き上がってきたならば、あなた方にとって、犠牲や放棄ではなく、自分の中にある無用なもの、有害なもの、あるいは悪いものをすべて取り除くことが、喜びとなるでしょう。

48. あなたがたがわたしを聞いたとき、あなたがたの魂は目覚めた。なぜなら、あなたがたが耳にしたのは、いつもの典礼でも、同じように繰り返される言葉でもなかったからだ。私の教えがあなたがたの魂に深く刻まれたからこそ、あなたがたはいつも、私が何を

語り、何を啓示するのかを知りたいという願いを抱いて、私のところへやって来たのである。しかし、私を聞いたり、私の言葉を学んだというだけで、すでに自分の使命を果たしたなどと考えてはならない。

49. 私がイエスとして人間であったあの時代、私は常に、愛の行いを私の言葉に伴わせていた。それらはすべての人の心に深く刻まれ、私の足跡をたどろうとする者が、言葉の光と行いの真実さの中で、私を手本とすることができるようにするためであった。

50. さあ、民よ、今、よく私の言葉に耳を傾け、私の言葉を尊厳をもって、誠実に従うように努めなさい。あなたがたは、私があなたがたの魂に刻んだ律法を、これらの人々のすべてが守るわけではないと予感しているため、心に悲しみを抱いているのが私にも見える。しかし、私はあなたがたに告げる。今日、かつての「最初の時代」と同様に、民は分裂することになるのだ。

51. わたしはあなたがたに多くのことを語り、すべての人々のためにただ一つの道を示してきた。それゆえ、こう告げる。もしわたしの子供たちの一部がわたしに背くならば、あなたがたの父の御心によって定められた、この啓示を終わらせる日が来たとき、この民に対する裁きの宣告が下されるであろう。

私はこの時代、解放者としてあなたがたの元へやって来て、荒野を通り抜ける道、すなわち解放と救いのための闘いという霊的な「日々の業」を示し、その果てに、霊にとっての平和、光、そして至福である新しい約束の地を約束した。

解放と霊化を渴望して旅立ち、この旅路でわたしに従う者たちは幸いである。彼らは、広大な砂漠がもたらす試練の中で、決して見捨てられたり、弱さを感じたりすることはないからだ。

それに対して、信仰に背き、霊的なものよりも世のものを愛する者たち――すなわち、依然として偶像や伝統に固執する者たちには、災いがある！ 私に仕えていると思い込んでいる彼らは、実は「ファラオ」、すなわち「肉」、物質主義、偶像崇拜の隷属者となるだろう。約束の地、すなわち霊の故郷へとたどり着きたいと願う者は、この世を歩む中で、善の足跡を残さなければならない。この道を歩み、恐れることはない。なぜなら、あなたがたがわたしに希望を置くならば、道に迷うことはあり得ないからだ。もしあなたがたが恐れを抱いたり、信頼を持てなかったりするなら、その信仰は絶対的なものではありません。そして、わたしに従おうとする者は、わたしの真理を確信していなければならないと、あなたがたに告げます。

52. わたしはあなたがたすべてを祝福し、赦し、わたしの愛の中で一つに結び合わせます。

53. 自分自身を省みよ。そうすれば、あなたがたの意識の中に、一步一步を確実に踏み出すことへの絶対的な信頼が生まれるだろ。

54. 自分の信仰と行動を吟味しなさい。そうすれば、あなたがたが「霊性主義者」と名乗るにふさわしいのか、それともその名を名乗るにはまだしばらく待つ必要があるのかが分かるだろう。

55. あなた方の多くは、私が人間の知性を通じて啓示を行う際に私の存在を信じ、また私の言葉を聞くためにしばしばその場に立ち会っていることから、自らをスピリチュアリストと呼んでいる。しかし、私はあなたがたが、善を実践すること、人生の本質を悟ること、隣人への愛、そして寛大で実り豊かで徳高い生き方を通じた神への奉仕によって、スピリチュアリストとなることを望んでいる。

56. 私の言葉があなた方を目覚めさせ、高め、あなた方の靈魂が内に秘めているあらゆる賜物、能力、力、そして美德を明らかにしてくれるようにしなさい。なぜなら、あなた方は、自分の中に遺産を宿しているにもかかわらず、無知ゆえに自分たちを貧しい者と見なしている者たちの一人だからである。

あなたがたの主は、霊的な光と恵みを授けておられたにもかかわらず、あなたがたが物質的な生活に溺れて生きているのをご覧になり、あなたがたを目覚めさせ、霊的な飢えと渇きに苦しむのは正しくないと告げるために、あなたがたの元へ来られたのです。なぜなら、霊化の道を進むことで到達できる、神聖な知恵の泉が、あなたがたの手の届くところにあるからです。なぜなら、この時代の幕開けとともに、あなた方もまた旅を始めようとしているかのようだからである。

しかし、まことに、あなたがたに告げよう。あなたがたの魂が過去において刈り取ったすべてのものは、第三の時代がもたらす試練と教訓を乗り越えるための、経験と鍛錬の光である。

57. わたしは、あなたがたがわたしの教えを学ぶために、あなたがたをわたしのもとに引き寄せる。わたしの講壇の前には、すべての者が歓迎される。忍耐強い者たちよ、あなたがたは祝福されている。わたしの言葉のそばにあなたがたがいることは大きな意味を持つ。それは、わたしにより近づきたいというあなたがたの切なる願いの表れである。

私だけが、あなたがたが持つ賜物を明らかにし、あなたがたが隣人に対して負う責任を実感させることができるのです。

今こそ、裁きの時、あらゆる罪の代償を支払う時、償いの時である。

58. わたしの神聖な業は光であり、それが人々に降り注ぐとき、御霊によって彼らを照らす。ある者たちには、神のメッセージがインスピレーションという形で直接届くであろう。またある者たちには、わたしの弟子たちによる言葉を通じて届くであろう。さらに別の者たちには、わたしの教えの真髄が記された書物という形で届くであろう。

59. 人々は一步一步、徐々に、御霊の命へと目覚めていくでしょう。それは彼らにとって、あたかも約束に満ちた新しい人生を始め、素晴らしい驚きに彩られ、そして最大の理想である「神」の光に照らされるかのような、新たな存在となるでしょう。

60. そう、愛する民よ、魂が高みへと昇らなければならないとき、神こそがその理想である。なぜなら、「神」と言うことは、完全性、調和、知恵、至福、光、無限の平安、愛、永遠を意味するからである。

魂が試練のるつぼから抜け出し、計り知れない情熱の海の中で「肉」やこの世と闘い抜いたとき、魂はひととき立ち止まり、これまで起こったすべてのことを振り返るのです——まるで、波と必死に闘った末、ついに陸地にたどり着いた難破船の生存者のように。彼は、信仰と希望の象徴である一本の木片にしがみつき、依然として荒れ狂う海を眺めながら、こう叫ぶのだ：

「船は沈んだが、私は助かった！天の主を賛美しよう！」——これは、嵐が過ぎ去った後、立ち止まって思索にふけり、自らの情熱を見つめ、この世の栄華や虚栄が、かつて難破した船のように過去へと沈んでいくのを見る、ある魂の心境である。しかし、自分の中に信仰の光が灯り始めていることに気づくと、その魂は喜びの声を上げる。「父よ、感謝します。これほど大きな苦しみにもかかわらず、私はあなたを忘れませんでした！」

61. これこそが、魂が覚醒する時であり、その高揚が始まる瞬間である。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 270

1. わが啓示の最終日に備えられている者たちは幸いである。まことに、あなたがたに告げる。彼らの魂は、わが新しい晚餐に与るであろう。そこで、あなたがたの魂は、この目に見えない、酵母のない真のパンを最後にもらうとき、力を得て、霊性と光に満たされ、それによってまもなくこの教えの真意を理解するようになるであろう。

2. この最後の時、なんと荘厳な雰囲気満ちていることか！　なんと多くの光がこの民の上に降り注いでいることか！

3. 天の御国は、そこに住むようという絶え間ない招きをもって、あなたがたの魂に近づいてくるでしょう。偉大で力強い霊たち、光の霊たち、霊界における真の賢者たちが、その瞬間に臨在するでしょう。

4. かつて神のメッセージを地上にもたらした先駆者たち、すなわち預言者たちもまた、そこに臨在するでしょう。なぜなら、私の言葉は、肉体に宿っているか、あるいは物質から解放されているかを問わず、すべての魂に向けられたものだからです。

5. それらの存在たちは、宇宙に存在する無限の生命世界の代表者となり、この時代、この形でなされる私の最後の啓示に立ち会うことになる。

6. 彼らはこの民の中に何を見るだろうか？　何を発見するだろうか？　それを知っているのは私だけである。しかし、私はあなたがたに、「目を覚まし」、祈るよう命じる。そうしてこそ、あなたがたは食卓に着く者たち——師と共に食事をし、涙を流す者たち、天のパンとぶどう酒を食し、飲む者たち——の一員となることができるのだ。裏切りを犯している間は、その食卓に近づいてはならない。そうすれば、あなたがたはただ見かけ上だけ、わたしのそばにいたことになるからだ。なぜなら、実際には、あなたがたの良心が、父の御臨在を享受することを許さないからである。

7. 私がなぜこのようにあなたがたに語るのか、分かっているか。それは、これから何が起るかを知っているからであり、あなたがたを完全に知っており、誰が私を否み、誰が私の言葉を学んできたゆえに私に忠実であり続け、そして誰が私の業の核心を決して深く探求しなかったために迷い込むかを知っているからだ。

8. ある者たちは、ただ私の言葉の意味内容に関心を持ち、常に自らの魂の進歩と成長を渴望していたのに対し、他の者たちは、外見的な儀式にばかり喜びを見出していた。同様に、前者が霊性に関す

る教えを受けることを喜んでいた一方で、後者たちは、自分たちの過ちが指摘されることに不快感を抱いていた。

9. 私の代弁者たちを通じて明らかにされるべきであったにもかかわらず、隠されてしまったすべての事柄について、誰が私の前で責任を問われることになるか、私だけが知っている。

10. 民よ、よく理解せよ。この「第三の時代」において、あなたがたは、この神聖な啓示を目の当たりにした証人として、このメッセージを完全に忠実かつ誠実に広めるという使命を負っている。あなたがたは、人類に福音を伝え、同胞たちに霊的な道を教えるために召され、選ばれたのである。その道こそが、あなたがたを平和、真の光、そして万物を包み込む兄弟愛へと導く唯一の道である。

11. 私があなた方を教え導くために費やした時間は長いものでした。しかし、後に加わった者たちは私の言葉をほとんど聞き取れなかったため、私は彼らのために私の言葉を書き残します。そうして彼らがその中に神聖な意味を見出し、皆が同じ理解と、同じ霊的境地に至れるようにするためです。

12. もしあなたがたがこの道を歩むならば、魂の完成という理想以外に、他の理想を持つてはならない。その完成は、私の教えを実践し、私の指導に従って生き、絶え間ない義務の履行を通じて、隣人への奉仕、神の法則、そして人間の法則に自らの存在を捧げることで達成できるものである。

13. あなた方はすでに、物質的な生活のために多くの闘いを重ねてきた。今こそ、魂のために働く時である。

14. これら二つの努力は、その本質において異なる。なぜなら、人間の闘いは自分自身のために働くものであるため利己的であるのに対し、霊的な闘いは絶対に無私でなければならないからだ。報いを期待することなく、愛と慈悲をもって自らの道を切り拓かなければならない。

15. そのような姿勢で私の教えを深く掘り下げ、理解するよう努めなさい。そうすれば、高潔で清らか、かつ霊的な生活を実践することの中に、より大きな満足、最大の喜び、そして真の永遠の勝利が存在することを悟ることができるでしょう。

16. 魂が、この世の物質化や肉体の反抗から超越するとき、真理の光を通して人生を見通すようになる。そうして初めて、魂は何が真実であり、何が偽りであるかを見極めることができるのだ。

17. わが子らの魂に平安があることは、わたしにとって喜ばしいことであり、人の心が喜びを味わうとき、わたしは喜びに満たされる。わたしが望むのは、あなたがたが真実なものを追い求めること

だけであり、そのための手段を、わたしの言葉を通してあなたがたに与えているのだ。

18. まことに、あなたがたに告げる。わたしの言葉に慣れきっていない者たちは幸いである。わたしの指示に従い、それを尊重する者たちは祝福される。なぜなら、彼らこそがわたしの業を証しする者となるからだ。彼らこそが、わたしの言葉の中で彼らに示す愛に、愛をもって応える者となる。彼らこそが、自らの命をますますこの民に捧げているこれらの「声の担い手」たちに対して、思いやりと感謝の念を抱く者たちである。

19. しかし、私の啓示に慣れきってしまった者はどれほど多いとか！彼らは、まるで儀式に参列したり、伝統を履行したりするように、私の教えに臨んでいる。しかし、それは私が私の民に期待する態度ではない。

20. あなたがた全員が、霊的な観点からわたしの業を理解できる時はまだ来ていない。注意してほしい——わたしの「働き手」の中には、わたしが恵みを与えるにつれて謙虚で慈愛深くなる者たちがいる一方で、兄弟姉妹よりも常に優れていると思い込み、高慢で利己的になる者たちもいるのだ。

21. 前者たちは、静寂と謙虚さ、そして内面的な精神性の中で活動している。後者たちは、お世辞や称賛、賛美に囲まれて生活し、小さくて弱い兄弟姉妹を辱めることに喜びを見出さなければ、満足することができない。彼らは私の弟子ではない。なぜなら、私の教えの模範も、私の教えも、私の啓示も、決してそのような振る舞いを彼らに教えたことはないからだ。

22. そのような台座を自ら築き上げた者たちよ、私は愛をもってこう告げる。もし、今日あなたたちを高く持ち上げた者たちと同じような者たちに、明日、突き落とされることを望まないのなら——確信と悔い改めの心から——その台座から降りるべきである。それは、偽りの権力の玉座に就き、そこから隣人を辱めてきた人々に、常に起こってきたことだからである。

23. あなたがたのうち、愛をもって霊的な慈善という祝福された種を蒔き、謙虚に働いてきた者たちよ、私はあなたがたにこう告げる。これからも蒔き続けなさい。苦しむ者たちの涙をこれからも集め続けなさい。そして、今後も、闇と無知と悪徳と混乱の道に光をもたらし続けなさい。これこそが、イエスの「働き手」の道であり、使命である。

24. 私は、ある者もまたある者も、私の業において一つに結ばれることを望む——信仰によって結びつき、靈化において一致し、同じ十字架の重荷を背負って同じ道を歩むのである。

25. あなたがたが靈性において師であるということを世に公言してはならない。弟子であるということさえしてはならない。しかし、あなたがたの行いが、可能な限り私の真理に忠実であるように努めなさい。そうすれば、それらの行いがあなたがたのために証しをしてくれるだろう。

26. 人生における困難な時や大きな試練に直面した際には、外見上誰の注意も引かないようにして、心の中でわたしを呼び求めなさい。そうすれば、わたしは自分の臨在と力を感じられるようにしてあげる。

27. わたしの領地は無限である。どうして、それがあなたがたがわたしの御言葉を聞くあの集会場所に限定されているなどと、誰が信じられようか。

28. わたしの働きの場は、わたしの御心に従って人が住む、あるいは魂が存在する地球上のあらゆる場所である。わたしの耕作地はこの世界を超えて広がり、光、平和、精神的な教養、浄化、そして完全化への渴望が存在するあらゆる生命の世界にまで及んでいる。

29. あなたがたの想像力を広げなさい。あなたがたの知性が自ら閉じ込めた輪を打ち破り、あなたがたの魂が、肉体がそれを束縛してきた鎖から解放され、無限を仰ぎ見、永遠に満たされるようにしなさい。

30. 人々がこの教えを探求するためにあなたがたの元を訪れる時が近づいている。その時には、あなたがたが自分たちを守るために彼らにわたしの言葉を示すことには何の功績もない。なぜなら、それはわたしから発せられたものであり、その意味は純粹で完全なものだからである。真に称賛に値するのは、彼らがあなた方を探求する中で、わたしの民の中に、質素で清らかな生活を送る人々——自分の時間の一部を慈悲の実践に捧げ、人生の道筋に慰めと光の痕跡を残す男女——を見出すときである。これこそが、あなたがたが世に示すべき生きた証しとなる——言葉ではなく、行いによって示される証しである。

31. 確かに、人々の心を動かすために、言葉の賜物があなたがたの唇に花開くべきである。しかし、あなたがたの言葉の一つひとつを裏付けるのは、行いでなければならない。

32. あなたがたは、第二の時代のわたしの弟子たちが、師から聞いたことをただ繰り返すだけで満足していたと思うか。いいえ、民

よ。確かに、彼らの唇から発せられた言葉には、光が豊かに注がれていた。しかし、彼らの行い、その業は、言葉と同じくらい数多かった。それゆえ、彼らの蒔いた種は実り豊かで、豊かな収穫をもたらしたのだ。

33. それゆえ、わたしはあなたがたに言う。おお、民よ、わたしの言葉によってあなたがたの魂を活気づけなさい。まだしばらくの間、この恵みを享受することができる。あなたがたの心を、わたしの教えの真髄をすべて守り抜く宝箱としなさい。そして、あなたがたの魂こそが、わたしの知恵が保管される聖櫃となるようにしなさい。

34. もうすぐ、これらのナイチンゲールが、この木の枝でさえなくなる日が近づいている。私は、あなたがたが後で、無駄にした時間を悔やんで涙を流すようなことになってほしくないのだ。

35. この啓示の時期を終える時が来れば、私はあなたがたの霊的な旅に必要なものをすべて与えておくでしょう。あなたがたに欠けるものは何一つありません。

36. わたしは、あなたがたに光の武器を与えた。それは、わたしが予告したこの時代に立ち向かえるようにするためである。その時代には――すでに述べたように――人々は自らの内なる信仰を破壊しようと試み、神への愛がかつてないほど激しく攻撃されることになる。しかし、私はあなたがたにこの「命のパン」を残しておく。それは、光を渴望する者たちに癒やしをもたらし、肉体と魂の痛みを癒やすためであり、また、真の道から迷い出た者たちを食い止める力となるためである。

37. この時代があなた方にとって不意の出来事とならないよう、備えなさい。もしあなたがたが眠り込んでしまったなら、痛ましい出来事によってその眠りから引きずり出されることになるだろう。そうなれば、他者のことを考える余裕はなく、自分自身のこと、せいぜい子供や両親、配偶者、兄弟姉妹のことしか考えられなくなるだろう。しかし、私はあなたがたに、自分自身が何者であり、何を持っているかを忘れ、魂が「隣人の中に神を愛すること」という最高の使命に専念できるようにしてほしいのだ。

38. 私は、あなたがたが、まるで彼らを知っているかのように、ただ彼らが存在していることを知るだけで十分であるかのように、隣人を愛することを望んでいる。

39. 団結しなさい。そうして、迫害や試練、抵抗を乗り越え、私の律法の光に満ちた道を一步一步歩み、私の平和という神の約束に

励まされながら、道を切り開いていくことのできる、強き民、すなわち「新しいイスラエル」を形成しなさい。

40. あなたがたは、霊的にも血筋的にも、平和と自由を求めて奮闘し、多くの抑圧、誘惑、屈辱を経験してきた民である。まことに、わたしがあなたがたに告げる。まさにこの極めて苦い苦難の杯を通して、あなたがたの魂は清められ、鍛え上げられたのである。

41. 光と自由と平和という理想を、決して失わせてはならない。私があなたがたに示すこの霊的な道こそが、信仰と善意を持つ人々を確実に目的地へと導くことを、あなたがたは理解しなければならない。

42. 私の正義が世の中で完全に現れるとき、それはあなたがたが証しをし、人々を改心させ、道を整える助けとなるだろう。

43. 人類の真理への渴望は極めて強くなるだろう。そして、人類が滅びることのないよう、私の教えという水晶のように澄んだ水を彼らに与えなければならない。この時代の人々は、その霊的な発展のゆえに、もはや欺かれることはないこと、世界は今まさに、目を光に大きく開いて、「これが善であり、これが悪であり、これが光であり、これが闇である」と宣言しようとしていること、そしてもはや曲がりくねった道を歩むことも、儀式や伝統の中で迷い込むことも望んでいないことを、常に心に留めておきなさい。

44. 経験、自由意志、不従順、そして悪という長い道のりは、人類によってすでに歩み終えられており、人類は目標に近づいている。そこへは混乱しながらたどり着くことになるが、そこでこそ、自分の中に光が差し込むのを体験することになるのだ。

45. 霊は、闇に対して鋭い光の剣として戦い、魂が混乱に陥るのを防ぐだろう。そして、魂が落ち着き、自らの過去を見つめ、それを評価できるようになったとき、一連の光景が彼女の心の中を駆け巡り、二度と引き返さないよう彼女を勇気づけるだろう。

46. そのような瞬間、わたしの言葉は嵐の夜の灯台のように輝き、道に迷った者の道を照らすだろう。

47. もしあなたがたが、その時までに必要な備えを整えていなかったとしたら、果たしてそれでよいというのか。

48. あなたがたは、人類の霊的救済にとって、必ずしも自分たちが不可欠ではないことを知っている。しかし、それでは、あなたがたの使命はどうなってしまうのか？

49. わたしには、あなたがたがいなくてもすべてを行うことができる。しかし、もしわたしがあなたがたを呼んだとき、あなたがたはわたしに何と答えられるだろうか？

50. 弟子たちよ。祈りを捧げた後は、自らの責任を思い返し、その使命の重大さを深く考えなさい。私がそのことについて詳しく語ってきたのだから、あなた方はそれをよく知っているはずだ。

51. 私は、愛と知恵の言葉をもってあなた方を励ますためにやって来る。あなた方は今、大きな出来事の前夜に立っている。私は、1950年に世界が激震に襲われると予告した。これらの出来事は、私の啓示の最後の年と私の別れを特徴づけるものであり、それに関心を持つ人々が、私の啓示の真実性とそれに伴う状況を探求するとき、1866年の啓示の始まりにおいても、1950年の終わりに至るまでにおいても、天と自然と人間の生活が揺さぶられたことを発見するようになるためである。

52. 愛する民よ、明日の世界について、また、私の存在を示す兆しを不安げに探し求める人々について考えてほしい。あなたが、自分が見て、私から聞いたすべての事柄の忠実な証人として、この世に残されるのだということを心に留めておいてほしい。

53. 私の教えが詳細であったように、あなたがたの証言もまた詳細でなければならない。そうしてこそ、あなたがたの周囲の人々の心に、わずかな疑いや誤りも残さないようにできるのだ。

54. 外見上印象的な行いによって隣人を説得しようとするのではなく、私の教えの精神的な本質によってなされるべきであることを、深く心に刻み込んでおきなさい。

確かに、慰めを求めて苦しみを抱えてやって来る人々、あるいは痛みの和らぎを切望するあまり、その「癒しの薬」をどのような形で受け取るかさえ気に留めない人々を、あなたがたは感動させることはできるだろう。しかし、彼らが目を覚まし、私から「働き手」たちが受け取った癒しの薬が、その完全な純粋さのまま彼らに伝えられていなかったことに気づくことになるだろうということを心に留めておきなさい。まことに、私はあなたがたに告げる。このように蒔かれた種は、多くの実を結ばないだろう。

55. 真の、正しく理解された慈善行為の実践をその働きの基盤とする「働き手」――すなわち、身体の病を癒やすだけでなく、神への信仰の光を灯し、霊的な知識を伝える者――自らを忘れ、ほんのわずかな瞬間を隣人への奉仕に捧げる者こそが、周囲の人々にスピリチュアリズムを実感させ、その行いを通じて私の存在を感じさせることになる。その結果、その者の畑は実り豊かになり、収穫も良質で豊かになるだろう。

56. あなたがたが自分自身を欺くことのないよう、また、あらかじめ自分の意図や行いの目的を吟味し、得られる結果がどのような

ものになり得るかを理解できるよう、私はあなたがたの魂に、課せられた使命を改めて思い起こさせなければならない。

57. あなたがたは私の弟子であり、行いを成し遂げる前に良心の声を聞き取れるよう、目を覚まして生きなければならない。そうすれば、あなたがたは、この世では光の世界に住むにふさわしい者となるために功德を積むべきに過ぎないことを認識し、この世を超えた先で達成したい目標を定めることになるだろう。

他者があなたの助けを借りて、あなたより先にそこにたどり着いたとしても、それは何の意味があるのでしょうか。それによって、あなたの功德はさらに大きくなるのです。なぜなら、それはあなたが自分自身よりも彼らのことをより多く考えていたことを意味するからです。

58. スピリチュアリストの歩む道は困難である。なぜなら、教えを受けた後でも、憎しみ、利己心、偽善、あるいは悪意を心に抱いている者は、この教えの弟子であると正当に名乗ることはできないからである。

59. スピリチュアリストには、苦しむ人々に癒やしを与えるために、平和、信仰、隣人愛、寛容、微笑み、理解、寛大さ、そして優しさが備わっていなければならない。一方で、真実を歪め、隠し、あるいは裏切る者たちに対しては、その心に熱意、力、そして厳しさが備わっていなければならない。

60. わたしはあなたがたに純粋な種を与え、それを蒔くための準備の整った畑を提供している。それゆえ、あなたがたが帰還した際に、わたしに劣った実を捧げる理由などないのだ。

61. わたしの言葉を用い、それを真剣に考えなさい。そうすれば、それが繊細な彫刻刀となり、あなたがたの存在の奥底に浸透し、あなたがたの心の中で滑らかに整える働きを始めようとしているのを感じるだろう。

62. 人々よ、私の呼びかけは、あなたがたが地上で果たすべき使命をも明らかにするために発せられたのだと理解せよ。あなたがたの霊は、すでに何のために遣わされたかを知っていたが、霊と協力し、両者が一つの存在、一つの意志を形成できるようになるためには、あなたがたの物質的な性質もまたこの啓示を受け取る必要があったのだ。

63. これらの啓示を聞いた後——あなたがたのうち、誰一人としてその使命を拒むことができるだろうか？ あなたがたの霊は逃げ出し、戦いを拒むことができるだろうか？ 自らの運命から逃げ、自分自身から逃げるなど、それは子供じみたことである。この世界

や他の世界のどこに、私の声が届かない場所などあるだろうか？
ない。なぜなら、私の声こそがあなたがたの光だからである。さらに——この試練の時代から、誰が逃れられようか。あなたがたが身を隠そうとするどんな場所へでも、浄化は追いかけてくるだろう。

64. まことに、あなたがたに告げる。あなたがたが、わたしが託した律法を実践し、それに従うことによってのみ、安全と平安を見出すことができるのだ。愛の道において、すなわち慈悲と兄弟愛において、あなたがたの魂が得る功德は、あなたがたの人間生活において、平安、安らぎ、確信、そして健康として反映されるだろう。

65. 初期の頃、民は主と契約を結び、律法を遵守することを誓った。今日、私はあなたがたに誓いを立てさせるつもりはない——私が望むのは、私に従うというあなたがたの動機が自発的なものであり、その実践が愛から生まれることである。

66. この時代、私はすべての教会が集まり、この民が私に服従と団結を誓ったその日を記念するために、一つの群衆を形成するのを見てきた。しかし、私はあなたたちに問う。あなたたちはその誓いを守ったか。私の指示に従い、団結してきたか。いいえ、民よ、あなたたちは誓いを守らなかった。あなたたちの誓いは無効であった。それならば、なぜその日を記念するのですか？たとえ、その伝統を記念するために決して団結することのないとしても、あなたがたが肉体的には離れていても、その代わりに霊的に団結し、同じように私の教えを実践し、私の言葉に従う姿を見るほうが、私にとってははるかに望ましいのです。そうすれば、あなたがたは私の業において一つとなり、その結びつきは愛と誠実さに基づいた強固なものとなるだろう。魂に誓いの重荷を背負っているからという理由だけで、それを果たさなければならないという必要はなくなるのだ。

67. 新しいイスラエルの民が、わたしに従うために立ち上がる時、その契約が愛と信仰に基づくものであることを、わたしは望む。

68. 私がなぜあなたがたのすべての伝統を廃止するのか、理解できるか。それは、あなたがたがそれらに従おうとするあまり、すなわち（愛の）律法に従うことにある、あなたがたの人生の真の意味を忘れてしまうからだ。

69. 言うておくが、この時代の私の啓示が終わる前に、あなたがたが団結せず、互いに赦し合わないならば、あなたがたを揺るがし、あなたがたの誤りや不和を思い知らせるような試練が、どのようなものかを知ることになるだろう。

70. あなたがたは、わたしの言葉に慣れてしまい、わたしが非難や戒めの口調で語りかけると耳を塞ぎ、その直後にわたしがあなた

がたを赦し、限りない愛をもって語りかけてくれると信じ込んでいるのがわかる。

71. ああ、民よ、あなたは種を大切にしようとはせず、ただ果実を食べる喜びだけを渴望しているではないか！ もし私の言葉が欠けてしまったら、あなたはどうなるのか？ そのとき、あなたたちはその空虚を埋めるための何らかの方法を思いつくのだろうか？

いいえ、民よ、自らを欺こうとしてはならない。むしろ今こそ、私の言葉を心に留め、それを蓄えておきなさい。そうすれば、もし私がもはや啓示を与えなくなったとしても、あなたは尽きることのない知恵の宝、健康と平和の泉、そして尽きることのない祝福の源を所有することになるだろう。

72. あなたがたがもはや私の言葉を聞くことのない、予告された日が近づくにつれて、私の言葉はますます明瞭になっていく。私の代弁者たちの一部は成熟に達しており、彼らと民の準備が整ったことへの報いとして、私は明瞭さと簡潔さに満ちた私の言葉を注ぎ出している。

73. 以前は、比喩的な意味であなた方に語りかける必要があった。なぜなら、私の言葉を伝える者たちは、この形式でしか、私の真理の深遠な教えを語る能力を持っていなかったからである。あらゆるたとえや比喩の背後には、その者が表現し得なかった神聖なものや神秘的なものが存在していた。

その後、その者の霊化と高揚によってその使命が理解されるようになると、比喩的な意味合いは彼の口から消え去った。なぜなら、彼の知性能力は、あらゆる知性器官とあらゆる魂が理解できる範囲内で、高尚なことを簡潔な言葉で表現できるようになったからである。

私の平安があなたがたにあるように！

教え 271

1. わが民よ、わたしはあなたを祝福し、あなたを通して未来の世代をも祝福する。
2. わたしは、あなたがたが世の病に感染し、すべての弱き存在と同様に病んでしまったのを見ている。しかし、あなたがたには、果たすべき偉大で高貴かつ困難な霊的使命が待ち受けているゆえ、わたしはあなたがたを清めるであろう。
3. わたしの言葉の中で、わたしはあなた方を「イスラエル」と呼んだ。そして、あなた方がこの名を聞いたとき、これまで想像もしていなかった責任の重さに震え上がった。
4. この名はあなた方を目覚めさせ、それ以来、あなた方は不道德で有害、あるいは悪しき快楽に溺れることをやめ、心と魂を、栄養豊かで健全かつ清らかな糧で養うようになった。
5. あなたがたは、低俗な情欲を徐々に真の愛へと置き換え、無意味な快楽を魂の満足のために捨て去った。そして、こうした再生と浄化のすべてが、あなたがたの心に感受性を与え、靈魂の眠っていた能力が、あなたがたの人生において現れ始めることを可能にしたのである。
6. 私の言葉が、まるで一筋の太陽光線が田園を照らすかのように、あなたの知性に届いたとき、あなたはついに、あなたの魂が父への愛と隣人への愛によってのみ養われることを悟ったのです。
7. こうして、霊化の時代を切り開く運命にあるこの民の中に、次第に光が差し込んでくるのである。それゆえ、私はあなたがたにこう告げる。ひとたび自分自身とのこの戦いに勝利したならば、もはや一歩たりとも下へ降りたり、後退したりしてはならない。
8. あなたがたがもはや自らの痛みを感じなくなり、その代わりに他者の苦しみを感ずるようになったとき、あなたがたはわが教えの道において、さらなる一步を踏み出すことになる。
9. 今こそ、預言者たちによって人類に予告されていた時代である。この時代には、苦痛は極めて厳しいものとなるが、その後、それは過ぎ去り、徐々に平和へと変わっていくのである。
10. 人々の大多数は、慰めの御霊としての私の到来や私の存在について何も知らないが、心の奥底では何かを予感し、私を待ち望んでいる。
11. ここにいるこの民は、人々に私の新たな啓示の確実性を伝えることに取り組んでいる。それこそが、私があなたがたの魂に私の光を注ぐ理由である。

12. もはや迷いも、疑いも、不従順も許されない、民よ！信仰と信頼が、あなたがたの全存在を支配するようにしなさい。

13. 人生の試練から逃げ出してはならない。それらは、あなたがたが学ばなければならない教訓だからである。あなたがたはこの時代に、高貴で尊い使命を遂行する中で、自らの魂を清めるために遣わされたのだと知れ。

14. 「今日、わたしに従うには障害が多すぎる」と口実にし、使命の遂行を後回しにしてはならない——明日の太陽があなたの道を完全に照らすまで待ってから、戦いに乗り出したいなどと言ってはならない。

15. 神の御霊の光が、あなたがたを転ばせたり眠らせたりすることのないよう、絶え間なくあなたがたの魂に降り注いでいるのを見なさい。

16. 時折、私はあなたがたが瞑想の静寂の中にいるとき、「なぜ人類に対してこれほど大きな義務があるのか」という問いを投げかけて、あなたがたを驚かせることがある。しかし、私はこう言う。その問いは、あなたがたが自らの霊的な過去を知らず、それゆえに、同胞たちに対して負っている負債も理解していないことから生じているのだ。

17. 地球上の諸民族に対するあなたがたの責任を完全に確信するならば、あなたがたは大きな愛をもって自らの十字架を背負い、喜びをもって霊的昇華の山を登っていくことになるだろう。

18. あなたがたの記憶から、魂の過去が消え去り、かつての生が忘れ去られているかもしれない。しかし、神によってすべてが記されている「命の書」には、過去のものとして沈むものは何もなく、消え去ることも、忘れ去られることもない。そこでは、すべてが現在にあり、永遠に生き続けているのだ。

19. これこそが父の正義である。完全であり、愛に満ちている。

20. 人が道に迷い、この世の汚れの中に転落したとしても、主は御慈悲を働かせ、その魂を救ってくださる。もしあなたがたが、地上の行いによって永遠の命を得る機会を永久に失ってしまったと思うなら、永遠の裁き主は、過ちを償うための新たな機会を与えてくださり、そうして努力と意志の力、そして善への粘り強さによって、救いを得ることができるようになしてください。

21. 今、皆さんはこの恵まれた機会を得て、これらすべてについて深く考え、自らの使命を果たすために努力することができます。そうすれば——魂が物質界に宿るために離れるあの「谷」へと戻ったとき——未達成の任務や使命を抱えることなくそこにたどり着き

、代わりに、あなたがたが住んでいた肉体という殻の貧しさや不器用さに打ち勝ったという、真の喜びを体験できるようになるので。

22. あなた方の魂は、かつてないほど目覚めている。それゆえ、私はあなた方に告げる。この期間にあなた方が踏み出す一步一步に対して、あなた方は責任を負うのだ。私があなた方に教えを授けてきた期間は非常に長く、私があなた方に教訓を伝えた言葉は極めて詳しくあったからである。

23. 誘惑は、最も厳粛な瞬間や、最も重大な意味を持つ時にこそ、あなた方を最も強く包み込み、心が弱まり、勇気が萎え、疑いや不安、優柔不断さが湧き上がってくることを忘れてはならない。

24. わたしの業の純粋さに触発され、何が父にとって最も喜ばしいことか、今、あなたがたがうまくやっていることは何か、そしてうまくいっていないことは何か、自問しなさい。

25. 他人の行いを裁く前に、まず自分の行いを吟味しなさい。そうすれば、研究と愛の欠如ゆえに、これまで見過ごしてきた無数の不完全さが浮かび上がってくるのを見るだろう。

26. あなたがたの仲間の中から、狂信、偶像崇拜、迷信、物質主義、そして不必要で無益な儀式行為をすべて一掃しなさい。それは、まるで雑草を取り除いて土壌をきれいにし、その後で美しい小麦を蒔くようなものである。

27. 残された時間を活用して、私の教えに耳を傾けなさい。そうすれば、その教えがあなた方を光と恵みで満たし、霊性へと確かな一歩を踏み出すことができるだろう——物質主義と誤謬に満ちた儀式に囚われ続けてきたために、あなた方が踏み出せなかったその一歩を。

28. 今日に至るまで、あなた方には、像や儀式、象徴を廃し、無限の彼方において霊的にわたしを求めるための信仰が欠けていた。あなた方には、真の霊性を持つ者となる勇気が欠けており、物質主義的な心構えや過ちを隠すために、ある種の偽りの霊性をでっち上げてきたのである。

29. 私は、あなたがたに偽善的であるのではなく、誠実で真理を愛する者であってほしいと願っている。それゆえ、私はあなたがたに極めて明確に語りかける。それは、あなたがたが自らの生活を徹底的に清め、この業の真理を世界に示すためである。あなたがたは自らをスピリチュアリストと呼ぶのか？ それなら、真にそうありなさい。私の教えとは正反対のことをしている限り、私の教えについて語るな。そうすれば、あなたたちの行いによって人々を混乱させるだけだからだ。

30. 何よりもまず、私の業とは何か——私の律法が何を意味するのか、あなたがたの使命とは何か、そしてそれをどのように遂行すべきか——を認識しなさい。そうすれば、もしあなたがたの道に、その歩みを導くにふさわしい導き手がいなくても、良心と、私の教えから得た認識によって自らを導くことができるようになる。そうすれば、いかなる過ちや誤りについても、誰かのせいにすることはできなくなるでしょう。

31. また、わたしはあなたがたにこう言う。あなたがたの霊的な歩みを助言によって導く者が、わたしの律法に従って歩むならば、その者はあなたがたの信頼に値する者であるから、あなたがたは忠実に彼に従うべきである。

32. この民に責任を問う時が来れば、わたしの言葉はすべての人によって同じように聞かれてきたのだから、わたしの声はすべての魂に、同じ正義をもって届くであろう。そのとき、だれもこう言うてはならない。「主よ、もっと多くを知っている者たちを裁き、ただ彼らの指示に従っただけの私たちを赦してください」と。

33. あなたがたは、墮落していたり邪悪であったりする地上の父の悪い手本を見て、その生き方に従わないことが、子供にとって過ちであると思うか。それとも、その子供は親の足跡をたどる義務があると思うか。

34. まことに、わたしはあなたがたに告げる。良心と理性が、あなたがたを正しい道へと導くべきものである。

35. しかし、あなた方を人生において導く義務を負う者たちが示した誤った道から離れるからといって、彼らを軽んじたり、愛することをやめてはならない——それどころか、その逆である。あなたがたが救いを見出すその場所から、正しい道から外れてしまった人々を助けるために、自分たちのできる限りのことをすべきである。つまり、あなたがたの慈悲と愛は、決して変わるべきではないということである。

36. 愛する弟子たちよ、私の言葉を完全に理解するよう努めなさい。そうすれば、試練が突然襲ってきたときにも、疑念に苛まれることはないだろう。

37. 唯物主義は、魂の発展にとって途方もない障害として立ちはだかっている。人類はこの壁の前で立ち止まってしまった。

38. あなたがたは、人間が物質に関する科学に応用して知的能力を開花させることができた世界にいる。しかし、霊的な存在に対する判断力は依然として限られており、物質に完全には属さないものすべてに関する認識は遅れている。

39. あなたがたが生きているこの世紀には、二つの側面がある。一つは知性の発展であり、もう一つは精神的な停滞である。

40. 実際、神の光は知性の能力に降り注いでおり、それゆえに、そこから私の偉大な靈感が生じ、その成果は人類を驚嘆させている。なぜなら、知性は今や自由と知識の拡大を渴望しているからだ。人間は自然の研究に没頭し、探究し、発見し、喜び、驚嘆するが、決して迷うことはない。しかし、精神的なもの、すなわち、彼にとって既知の物質の彼方にある真理との関係を明らかにしようという考えが彼の中に湧き上がるたびに、彼は恐れを抱き、未知の世界、彼が禁じられていると考えるもの、そして（彼の考えによれば）高潔で、神の神秘を探究するにふさわしい存在にのみ許されるものへと踏み込むことを恐れるのである。

41. そこで彼は、自分を縛りつける偏見を意志の力で乗り越えることができない、弱く愚かな存在であることを露呈してしまった。そこで、彼が歪んだ解釈の奴隷であることが明らかになったのである。

42. 人間の知性が精神的な次元でも発展しない限り、その開花は決して完全なものにはならない。あなたがたは地上の生活に関する認識にのみ専念してきたがゆえに、自らの魂がいかに大きく遅れているかを悟りなさい。

43. 人間は他者の意志の奴隷であり、呪い、非難、脅迫の犠牲者である。しかし、それによって何を得たというのか？ それは、人間が持つべき最高の知識を理解し、獲得したいというすべての願望を放棄すること、そして、不条理にも常に秘密だと考えてきた「霊的な生活」というものを自ら解明することを妨げることである。

44. 地上における人間の魂の生活は、永遠に謎のままであるとしてもお考えか？ もしそうお考えなら、あなた方は大きな誤りに陥っている。まことに、私はあなた方に告げます。あなたがたが自らの起源を知らず、霊に関することを何も知らない限り、科学がいかに進歩しようとも、あなたがたは依然として、植物や動物に囲まれた貧しい世界に棲む、単なる被造物に過ぎないでしょう。あなたがたはこれからも戦争で互いに戦い続け、あなたがたの生活はこれからも苦痛に支配され続けるでしょう。

45. もしあなたがたが、自らの本質の中に何を抱えているかを見出さず、また隣人の中に、すべての人に宿る霊的な兄弟を見出さないのであれば――果たして、本当に互いを愛することができるだろうか。いいえ、人よ、たとえあなたがたがわたしを知り、わたしに従っていると言っても。もしあなたがたがわたしの教えを表面的に

しか理解しなければ、あなたがたの信仰も、認識も、愛も、誤ったものになってしまうだろう。

46. 今日、わたしの光は、輝かしく、かつ靈感に満ちた形で、あらゆる知性の器官に降り注いでいる。それが人間の言葉という媒体を通じて伝えられるとき、それを聞いた者にとっては、それが私の教えとなる。しかし、これらすべてがあなたがたの魂の高揚を目的としているため、私はそれを「スピリチュアリズム」と呼んだ。だが、決して名称や定義にこだわってはならない。私の教えにおいて重要なのは、その意味内容と、そこに含まれる真理である。

47. 今こそ、私の言葉の光、高次の道徳、そして靈化の知恵が、あなたがたが通り抜けてきた砂漠の長い干ばつの後の、清涼で恵み深い雨のように、人々の心に注がれる好機である。

48. この教えは、第二の時代に私が語った言葉が完全であったように、また私のあらゆる靈感と同様に、完全なものである。もしそれが、それを伝える知性の器官から生じたものであるならば、その完全性はあり得ないだろう。しかし、それはそれを啓示した神聖な霊に由来するものである。

49. この教えは、あらゆる純粹で神聖なものと同様に簡潔であり、それゆえ理解しやすい。しかし、それを実践することは、時に困難に思えるだろう。魂の営みには、肉体からの努力、放棄、あるいは犠牲が求められるものであり、もしあなたがたに精神的な修養や規律が欠けているならば、苦しむことになるだろう。

50. 太古の昔から、神から与えられた律法に則った人生を送るために、何が正しく、何が許され、何が善であるかを理解しようとする中で、魂と「肉」との闘いが続いてきた。この厳しい葛藤の中で、あなた方は、まるで異質で悪意に満ちた力が絶えず、戦いを放棄するよう誘惑し、自由意志を行使して物質主義の道を歩み続けるよう勧めているかのように感じるでしょう。私はあなたに告げます。あなたの肉体の弱さほど大きな誘惑はありません。肉体は周囲のあらゆるものに敏感であり、屈服してしまうほど弱く、容易に倒され、誘惑されるものです。しかし、肉体の衝動や情熱、弱さを制御することを学んだ者は、自らの内に抱える誘惑に打ち勝ったのです。

51. イエスが第二の時代に説いた愛の教えが、あなたがたが歩むべき道を示してくれたにもかかわらず、スピリチュアリズムはあなたがたにどのような新しいことを教えているというのか。イエスはあなたがたにその言葉を理解させ、極めて詳細に説明し、靈的に実践するよう指導してくださったのである。

52. イエスの教えは完全であった。それは、神が身を隠しておられた「言葉」が人となって、あなたがたに啓示されたからである。イエスとしてこの世に語られたその「言葉」は、イエスを通してこの世に語りかけたその「言葉」こそが、今、霊を通してあなた方に語りかけているものであり、私があなた方の間に生きていた時に残した教えや行い、模範を、あなた方の生活に適用すべきだと告げているのです。また、あなた方は自分たちを非常に進化した存在だと考え、あの時代から遠く離れた時代に生きているからといって、私の言葉が時代遅れであるなどとは決して思ってははいけません。スピリチュアリズムにおいて、あなたがたは、私の教えや模範を、あなたがたが生きる時代や、あなたがたが到達している発展段階に適用する方法を見出すことができる。

53. 今日の御言葉は、第二の時代にイエスが語ったものとは異なります。それは、人間の媒体を通じて伝えられるものであり、その知性の器官には受容能力に限界があるからです。しかし、彼らの唇から発せられる御言葉の意味内容は、完全なものです。

54. 私が用いる人間の肉体の中に、神の存在を見出してはならないし、また、その人間の声の中に神の声を見出してはならない。神には形もなく、あなた方のような人間の声の表現もない。したがって、私の言葉を聞く者は、人間の言葉という外的な表現の中に神を見出すのではなく、その意味内容の中に神を見出すのである。これこそが、私がすべての教会で明らかにしてきたものである。

55. 師は再び弟子たちの元に戻り、第二の時代に人類へ愛と平和のメッセージとして伝えられたあの神聖な教えを、彼らに思い起こさせようとしている。

56. 私が戻ってきたのは、現在の世代が私の言葉を人生の規範や法則として用いてこなかったからであり、彼らが理解できていなかったことを説明する新たな教訓を通じて、彼らに道を教える必要があるからだ。

57. 人間は、自由意志の衝動に従い、人生の多くの現実から遠く離れて、わがままに自分の道を歩んでいる。

58. 地球上から、弱い者を抑圧する帝国や強大な民族がもはや存在しなくなるべき時が来ているはずである。それにもかかわらず、それらが依然として存在していることは、人間の中に、権力の乱用によって弱い者から奪い取り、暴力によって征服しようとする原始的な傾向が依然として優勢であることを証明している。

59. 確かに、私は人間を地球に置いたのは、人間がそこで主となり、統治し、平和と理解と調和に満ちた世界を治めるためであり、

そこで人間は、その創造主である王に忠実で従順な君主となるはずだったのだ。

60. しかし、人々が地上に築き上げた支配はそれとは異なる——それは、偽りの偉大さ、虚栄、偽りの栄光による支配である。それゆえ、世界はその最大の富として、平和や知恵、精神の高揚といった精神的な宝物を数えてはいない。

61. 人類はわずかな平和を渴望しているが、それを達成するために利用可能な手段——すなわち、冷静さ、赦し、慈悲、和解、そして愛——を通じてそれを求めることは決してない。

62. 今、私は、平和の王国の確立を目指す者たちと、この世の支配の権力を守り、あるいは拡大するために戦う者たちとの間において、大規模かつ激しい戦いが起こることを告げる。

63. それは、霊と物質との戦い、すなわち永遠なるものと一時的なものとの古くからの戦い、物質に対抗する霊の戦いであり、物質との対立である。果たしてどちらがどちらを打ち負かすのか。ある者は「霊だ」と言い、またある者は「物質だ」と言う。しかし、私はあなたがたに告げる。どちらにも勝利はない。

64. この戦いにおいて重要なのは、精神が勝利し、「肉」が屈服することではない。もしそうであるならば、その勝利は誤りとなるからだ。身体と魂が共に調和し、それぞれの使命を果たしながら、一つの理想の下で、正義と愛の道——すなわち、わが律法によって示された道——を歩むとき、両者にとっての最終的な勝利がもたらされるのである。人々は、その殺戮的な戦争によって、互いにどれほどの害を与え合っていることか！ 心の中にわずかな平和も持たず、敵と化した自らの兄弟たちからの脅威にさらされ、絶え間ない恐怖の中で生きながら、日々、月日、年が過ぎていく。これこそが、崇高な理想のために生きることなのか、あるいは少なくともそのために戦うということなのか？ いいえ、民よ。人々は、自らの命よりもはるかに価値の低い、人間的な権力欲のために互いに殺し合っているのだ。しかし、彼らは命の価値を認めようとせず、人間の存在が神聖であり、それを創造した者だけがその処分権を持つことを知りたがらない。

65. あなたがたが現在住んでいるこの世界は、長い間戦場であった。しかし、人類にとって、先祖から受け継いだ膨大な経験——良心によって開かれた書物のように、現代の人々の前に横たわる、苦く痛ましい経験——は、十分ではなかった。しかし、人々の心は硬すぎて、光の遺産のようなその経験の果実を受け入れることができ

ない。彼らが先祖から受け継いだ唯一のものは、血を通じて受け継がれた憎しみ、誇り、恨み、貪欲、傲慢、そして復讐であった。

66. 多くの罪なき者たちの血によって大地が赤く染まり、その後、生き残った者たちの悲しみによって黒く染まることになるだろう。

67. 人々が誇りと傲慢を土台として築き上げたすべての王国は、一見堅固に見えたその基礎が偽りであり、わたしの正義に耐えられなかったために、崩壊してしまった。

68. 今日、人々を驚嘆させている那些の勢力は、まもなく轟音とともに崩壊するのを見ることになるだろう。そして、それらの後に他の勢力が台頭しても、それらは同様に倒れることになる。

69. 人々が諸民族を一つにまとめ、父が太古の昔から彼らに啓示してきた愛と正義の法則によって、精神的にも人間的にも自らを統治するようになれば、彼らは平和の王国のための堅固な基礎を築き上げたことになるだろう。そこでは、世界で初めて、調和、兄弟愛、真の進歩、魂と人間性の開花、知恵、知識、そして幸福が初めて世界にもたらされる平和の王国の確固たる礎を築くことになるだろう。

70. 愛する民よ、この恵みの朝、あなたの思いを集中させ、自分の感情に耳を傾けなさい。そうすれば、あなたが今受け取っている教えに対して、あなたの信仰がいかに大きな力を持っているかを悟ることができるだろう。

71. もしあなたがたが、わたしの業のために働くのに十分な強さを得たと感じるなら、さあ、旅立ち、わたしの言葉を広めなさい。その言葉は、わたしがあなたがたに告げた、平和と真理の王国である新しい世界の堅固な礎となるであろう。

私の平安があなた方とともにありますように！

教え 272

1. イスラエルよ、わたしはあなたを祝福する。そして、あなた方を通して、現在および未来の世代を祝福する。あなた方は、あらゆる時代にわたしの啓示と戒めを受けてきた、わたしの愛する弟子たちである。

わたしはあなた方を、新たな転生として地上に遣わした。しかしその前に、この時代の人類がどのような状態にあるかを告げることによって、あなた方を準備させ、警告しておいた。私は、人類の物質主義や混乱についてあなた方に語った。そして、あなた方は、果たして自分の使命を果たせるのか、また、繊細な本質であり、優しさで光そのものである私の言葉を、岩のように硬いあ的心中に、いかにして浸透させることができるのかと自問した。

師は、あなたがたに戦うことを教え、あなたがたを「働き手」とし、心を畑として託した。あなたがたは、その畑を整え、耕し、実り豊かなものにしないでなければならない。

2. あなたがたが人を通して私の言葉を聞き、私があなたがたを「イスラエル」と呼んだとき、あなたがたの魂は震えました。あなたがたの脆弱な肉体はこれらの啓示を知りませんでした。が、靈魂は自らの使命を知り、理解しています。私はあなたがたに告げる。あなたがたは私の業に協力するよう定められており、その歩みに注意を払わなければならない。道を外れてはならない。物質主義に陥ってはならない。群衆に紛れてはならない。あなたがたは、同胞よりも優れているわけではないからだ。静かに働きなさい。そうすれば、隣人への愛と憐れみだけが、あなたがたを他者と区別するようになるだろう。

3. あなたがたの存在は闇を追い払うだろう。そして、もし私の教えを語るのにふさわしい機会が見つからないからといって口を閉ざしたとしても、あなたがたの靈魂が語り、それによってあなたがたは周囲の人々の間に光と正義をもたらすことになる。

4. この苦痛の時代に、わたしはあなたがたを慰めるために来た。すべての魂は、解放の日が来ることを知っており、救い主を見ることを待ち望んでいる。彼らは、救い主がどのような形でやって来るのかは知らないが、待ち続け、隠された神の知恵に問いかけ続けている。

5. 民よ、あなたには預言されたすべての事柄の確証があり、あなたはこの光を人々に届けるべきである。私が彼らを愛していること、そして私が彼らに与える人生のあらゆる瞬間に、私の慈悲と力を

現していることを彼らに伝えなさい。彼らが完全になるよう助け、誠実に私を求め、霊的に私を求めるべきだと彼らに告げなさい。

6. あなたがた、わたしの働き手たちが彼らの心を整え次第、わたしは彼らと交わりを持ちます。わたしはあなたがたを各地に遣わし、あなたがたの中にわたしの霊を宿らせ、あらゆる人種や信仰を持つ人々にわたしの御言葉が届くようにします。なぜなら、わたしは人々をただ一つの目標、ただ一つの真理へと導くからです。

7. 人々は道の途中の岩につまずき、嘆き、苦しんでいる。しかし、これらすべては、私の意志に従い、彼らを変容させるために訪れた贖罪の法則と正義に従っているのだ。私は、私の子供たちが私を父として愛し、霊性を高めて、平和のうちに生きることを望んでいる。

8. あなたがたの心が大きな試練に直面するとき、あなたがたは反発して私に問う。「この苦しみの杯を飲み干さなければならぬことが、果たして私の運命に記されているのでしょうか。これが私の贖罪なののでしょうか。父よ、それが本当にあなたの御心なののでしょうか？」しかし、私はあなたがたに言う。「私の御心なしには、何一つ動くことはない。」あなたがたの運命には、乗り越えなければならぬ多くの試練がある。あるものは、あなたがたが私の律法に背いた結果であり、またあるものは、私の霊からあなたがたの霊へと届くものである。とはいえ、たとえあなたがたがそれを不必要だと考えても、それらはすべて正当なものである。あなたがたが目覚まし、学び続けるならば、それらの試練は私の完全さと愛を物語ってくれるだろう。最も苦難に満ちた日々であっても、希望と信仰を失わず、明日はより良くなると信じなさい。私の愛の太陽が、あなたがたの魂と体を照らし、理性と直感が澄み渡り、あなたがたは良い目的地へと導かれることを信じなさい。そうしてあなたがたが人生の旅の終わりにたどり着いたとき、あなたがたの中には平安があり、父のもとには喜びがあるでしょう。あらゆる試練の後に、あなたがたは自らの強さを認識することになり、私は、あなたがたが私に向けてくれる愛に応じて、その実を受け取ります。

9. 人類よ、人々が霊的な知恵を見出すことになる「第三の時代」を歓迎しなさい。それは、あなたがたが信仰と直感と霊化を通じて、わたしを感じるようになる時代である。人間の姿をしたわたしの現れを期待してはならない。また、わたしを信じるために、わたしの傷跡を探し、そこに指を突っ込もうとしてはならない。

10. この時代には、すべてが霊的なものとなる。

11. あなたがたがすべての物質主義を捨て去り、私を霊として理解し、感じる時が来た。

12. 偶像崇拜、狂信、そして伝統に頑なに固執する民たちよ、災いあれ！彼らはわが光を見ることもできず、魂の目覚めがもたらす限りない至福を感じることもないだろう。

13. 確かに、わが教えは世界を震撼させるだろう。しかし、戦いが終われば、地上にはわが霊から湧き出る真の平和が感じられるようになる。愚かな者、頑固な者、そして心硬い者たちだけが、引き続き苦しむことになる。

14. 人類の上に、目に見えない世界が浮かび、息づいている。それは光の存在たちの世界であり、その先頭に立ってすべてを導き、決定するエリヤが歩んでいる。

15. その天上の影響を受け入れる者たちは、祝福されるである。

16. 地球上のあらゆる民族の中に、霊界の働きを助けるためにその霊が遣わされた人々が存在する。もし彼らが、自らの心を霊的な靈感に無感覚な岩へと変えてしまうことを許してしまったら、彼らに何が起こるだろうか。彼らは、自ら遠ざかってしまった道へと戻るために、極めて苦い杯を飲み干さなければならないだろう。

17. わたしにとって、人間の悔い改め、再生、そして救いが不可能であるということはありません。もしそうであれば、わたしは全能ではなく、人間の方がわたしよりも強くなってしまう。あなたがたは、わたしの力を、人間の中に潜む悪が持つ力よりも劣っていると見なしているのか。人間の中の闇を、神聖な光よりも優れていると見なしているのか。決してそうではない！ そう、あなたがたの心はわたしに告げよ。

18. よく考えてみよ。わが使命は、あなたがたに存在を与えた後、あなたがたを完全さへと導き、すべての人をひとつの霊的な家族として一つに結ぶことにある。そして、わが意志はあらゆるものを超えて成就することを忘れてはならない。

19. わたし、神なる種蒔き人は、愛の種をすべての魂に気づかれないように蒔く。この種が全人類の中でいつ芽吹くかを知っているのはわたしだけであり、わたしの業の果実を無限の忍耐をもって待ち続けることができるのも、わたしだけである。

20. この教えの真意を活かし、まずご家族の懷に調和の種を蒔き始めなさい。次に、あなたがたの民を構成する各共同体間の調和を図りなさい。そして、それらが霊的な絆によって結ばれたならば、あなたがたの中から、平和と幸福が外へと輝き出るようにしなさい。

。

21. 全人類を改心させるために必要な闘いの大きさを測ろうとし、存在する罪の深刻さや至る所に広がる悲惨さを考慮に入れれば、その考察の過程で、必然的に心が重く沈んでしまうだろう。しかし、世界救うのはあなたたちだけだと、誰が言ったのでしょうか。各自に与えられた役割をしっかりと果たすことに専念し、他の人々にはそれぞれの役割を果たさせてください。そうすれば、父の助けにより、あなたがたは日ごとに、一步一步、わたしの言葉が成就するのを目の当たりにすることになるでしょう。

22. 人類にとって困難なこの時代に、あなたがたは地球上で生きる運命にあった――これは第三の時代の始まりである。しかし、自分の運命を嘆いてはならない。それは、わたしに対する非難を意味することになるからだ。覚えておきなさい。あなた方一人ひとり――ここで私が言及しているのは、あなた方の靈魂のことである――は、これまで何度もこの地上に生まれてきており、そのうちのいくつかの生において、人間の心が切望するあらゆるものを享受してきたのだ。

23. この時代に最も苦しんでいる者たちは、かつて喜びや人間的な満足、そしてこの世の栄華という杯を底まで飲み干した者たちであり、それによって靈的な道から逸れ、自らを汚してしまったのだということを、確信しなさい。

24. 贖罪と浄化の時は、たとえこの世で何世紀もの歳月が過ぎ去り、あなたがたの魂がこの時が来るまで待たなければならなかったとしても、必ず訪れるはずでした。しかし、その時は今、まさにこの瞬間に到来しました。それを理解し、体験し、活用してください。

25. 慰めの御靈の光を受け入れなさい――それは、私が人々に与えた約束に従って来なければならなかった御靈である。

26. 今、私の目に見えない姿での臨在が、なぜその約束を果たすのかを理解しなさい。今日の私は、肉体に降臨したキリストではなく、苦しむすべての人々に光、愛、知恵、そして慰めを注ぐ、靈におけるキリストである。

27. 愛よ、人類よ、再びあなたの人生を照らし出せ。私はあなた方に靈的な道を示し、あなた方の内に存在する真理を明らかにして、神聖な光を知らしめる。あなたがたは、自分たちを実際よりも偉大だと考えるとき、誤りに陥っていることに気づいていないのか。あなたがたは「肉」に従い、人間という存在に基づいて自分自身を信じている。しかし、人間的なものは儚いものであるため、その信仰が誤りであることを知っているか。私は、あなたがたの信仰と成長を、堅固で永遠である靈魂の価値に据えるよう教えてきた。

28. あなたがたは、自分たちが単なる物質であり、この世界しか存在しないと信じてきた。それゆえ、人生においてこれほど多くの涙を流し、その生き様は恐怖と絶望に満ちているのだ。

29. あなた方の物質主義は、私が人間に託したエデンを地獄へと変えてしまった。

30. 人々が送っている人生は誤りであり、彼らの享樂も、権力も、富も、学識も、科学も、すべて誤りである。

31. 富める者も貧しい者も、あなた方全員が、その所有は虚しいものである金銭に心を奪われている。あなた方は痛みや病気を心配し、死を思うと恐怖に駆られる。ある者は自分が持っているものを失うことを恐れ、またある者はかつて一度も所有したことのないものを手に入れようと切望している。ある者はすべてを余すところなく持ち、ある者はすべてを欠いている。しかし、こうしたあらゆる努力、情熱、欲求、そして野心的な目標は、すべて物質的な生活、肉体の飢え、低俗な情欲、人間の欲望にのみ関わるものであり、まるで人間には魂など存在しないかのようだ。

32. 世界と物質は、魂を一時的に打ち負かし、徐々に再び奴隷の状態へと追いやり、ついには人間生活における魂の使命を台無しにしてしまった。なぜ、あなたたちは、自分たちの人生を圧迫しているあの飢え、あの悲惨、あの痛み、そしてあの恐怖が、他ならぬあなたたちの魂の悲惨さと苦しみを忠実に映し出したものに他ならないことを、次第に自ら気づかないのか。

33. あなたがたの中に存在し、かつあなたがたが見ようとしなかった真実を、私が明らかにすることは、どうしても必要だった。しかし今、私は来た。今、私はあなたがたと共にいる。そして、あなたがたが長い間抑え込んできた、あなたがたの精神からのメッセージを聞き取ることを、根本から教えよう。

34. まもなく、あなた方は、人生が人間に対して残酷なのではなく、あなた方自身が自分自身に対して残酷であることに気づくでしょう。あなた方は、理解の欠如ゆえに苦しみ、周囲の人々をも苦しめています。孤独を感じ、誰も自分を愛していないと思い込み、利己的になり、冷酷になっていくのです。

35. そこで、私はあなたたちに声を届けます。「立ち上がれ。そうすれば、あなたたちの感情は高潔なものとなる。卑劣さや不純さに目を向けるのではなく、赦し、和らげるべき悲惨や苦難に目を向けよ」と。

36. あなたがたの心と視線を永遠なるものへと向け、清らかな思いに満たされるようにしなさい。

37. 魂の住処である無限の世界には、光と高潔な思い、そして永遠の平和が満ち溢れている。そこへと自らを高め、その領域で力を養いなさい。あなたがたがそこへ昇らない限り、病に倒れ続け、兄弟姉妹であることを互いに認め合うことなく、争い続けることになるだろう。

38. この物質主義は人々を分断した。不和の種はこれほどまでに増殖し、民族同士が互いに拒絶し合うだけでなく、親と子、さらには兄弟姉妹の間でさえも互いに拒絶し合うようになっている。

39. 少なくとも、私の教えを糧とする民よ、泥沼から立ち上がり、愛し、許すことを学べ。魂の平安と幸福のすべてを物質の世界に築き上げてはならない。精神的なものと物質的なものの両方に志と目標を分け、それぞれの側面に公平に向き合うよう努めよ。

40. 物質によってすべてを達成できると信じるのをやめなさい。神へと昇華するためには、魂によってのみそれが可能であることを理解しなさい。

41. 物質的な行いによって魂の至福を勝ち取れるという考えを、どうして固執し続けることができるだろうか。自分の過ちや誤りをすべて自覚しなさい。もしあなたがたが、今のように物質主義に染まった生き方をし、それが自分たちが創造された目的だと信じているならば、私は真実を告げる。その場合、魂が真理に目覚める時、その苦しみは極めて厳しいものとなるだろう。

42. 神は従順な子供たちを望んでおられ、奴隷を望んでおられるのではない。しかし、あなたがたは自らの情欲や他者の情欲の奴隷となっている。

43. あなたがたは、さえずる代わりに怯えてピーピーと鳴く、道に迷った小鳥のようだ。あなたがたは、日中に私が与える恵みに感謝しなくなってしまった。私の恵みがあなたがたに届くたびに、もはや私の御名を賛美することもなくなった。

44. 皆さんは、肉体の力に頼ってきたために氣力を失いつつありますが、肉体は弱いものです。この世を真の至福の王国と見なすという大きな過ちに気づくことができれば、皆さんは強くなれるでしょう。

悟りと洞察の瞬間、魂は、肉体の中で貧しくなってしまったことを恥じ、その大きな貧しさを痛感するでしょう。魂は、天の高みを制するコンドルになることを望みませんでした。むしろ、光に眩まされるがゆえに、闇の中に住処を求めるあの鳥たちのようでありたがったのです。

45. 私の教えは正しく理解されなければならない。そうしてこそ、私が人間の人生を軽んじるよう教えているのではなく、永遠へと向けた視線、知性、そして理想を持って、真の人生を生きるよう教えているのだと、あなたがたは理解できるだろう。

46. 今日、あなた方の霊的な無知は甚だしく、あの世へ旅立った人々を思うとき、「かわいそうに、彼は死んですべてを残し、永遠に去ってしまった」と言うほどである。

47. もしあなたがたが、霊界にいる者たちが、あなたがたがそう語るのを聞いて、どれほど憐れみの眼差しであなたたちを見つめているかを知っていたら。あなたがたの無知を前にして、彼らが感じているのは憐れみなのだ！ なぜなら、たとえほんの一瞬であっても、もしあなたがたが彼らを見ることができたなら、その真実を前にして言葉を失い、圧倒されてしまうだろうから！

48. あなた方は、地中に残された生命のない遺骸を前にして涙を流し、それを覆う墓塚に花を植え、涙で潤している間、それらの肉体から解き放たれ、自由と光の王国に住む者たちはこう言います。「おお、哀れな肉体よ、私はどれほどあなたを愛し、守り抜いたことか。どれほどあなたに栄誉と歎び、虚栄と儚い栄光をもたらしたか。それなのに今や、あなたは暗い墓の中のほんの一握りの塵に過ぎない。」

49. 皆、私の教えについて深く考えなさい。そうすれば、今日まで知りたがらなかった秘密が、その教えの中で極めて明快に解き明かされているのを見るだろう。

50. 今この時よりも、私があなた方を慰めるために来るのにふさわしい時が、他にあっただろうか。確かに、あなたがたは、この時代にキリストが地獄の領域へと降りたと言うこともできるだろう。なぜなら、世界がのたうち回っているあなたがたの罪深い生活ほど、地獄のようなものがあるだろうか。あなたがたは真の道から遠く離れて歩んでいる——私なしでは生きようとしてしまうほど遠く離れている——だからこそ、私はあなたがたを救うためにやって来たのだ。しかし、真実としては、あなたがたの命と私の命は一つなのである。

51. 神の律法から切り離された人間の存在は、空虚で誤ったものである。私がなぜ、あなたがたに光をもたらすために来たのかを理解せよ。それは、私が以前にもあなたがたに伝えたのと同じ御言葉によって、あなたがたを救うためである。なぜなら、真理はただ一つであり、それゆえ教えもただ一つだからである。

あなた方の自己愛は、あなた方のために偶像崇拜の玉座を築き上げた。しかし、あなた方が招こうとした王が偽りであったと確信したため、あなた方の心は方向を見失ったままだった。それでも、あなた方の内なる存在の中に、あなた方の神、すなわち真の王の御臨在を求めることはできる。もしそこでわたしを見いだすなら、わたしはあなた方に、わたしのために玉座を築くよう求めることはない。私は、信仰の燭台が光を放つ、愛と謙遜の祭壇を好む。

52. あなたがたの魂が必要としているものは数多くある。考えてみてほしい。一日に何度、あなたがたは自分の体に栄養を与えているだろうか。その食事の一つでも欠けると、体が弱ったように感じるだろう。しかし、あなたがたの魂については――一日に何度、私の言葉でそれに栄養を与えているだろうか。

53. あなたがたの存在という干ばつの中で、人類の霊的な飢えと渇きがいかに大きいかを理解すれば、あなたがたは、私の真理を説明し、あなたがたの大きな苦難の中で慰めるために、霊において私が臨在していることを正当化できるだろう。

54. この時代における私の教えと来臨は、あなたがた全員が私の意志に従ってなるべき新しい弟子たちが、師である私のように「慰めの霊」となり、私の業を実現し、私の愛を蒔き、光を灯し、子供たちの心に愛と理解をもたらして、彼らの存在の計り知れない空虚を埋めるために、この地上の道へと歩み出すためのものである。肉体という殻の痛みに打ちひしがれ、その苦しみがやがて命と共に終わっていく病人に、癒しの香油をもたらすため。また、頭を預けることのできる人が誰一人いない、貧しく見捨てられた人々に、慰めをもたらすためである。

55. あなたがたがこの大きな苦しみの現実を目の当たりにすれば、それを自らの痛みと比較し、かつて自分にとって最大の苦しみだと信じていたその痛みを祝福し、「主よ、私が持っているものすべてを思えば、私は幸せであるべきなのです」と言うようになるでしょう。

56. あなたがたは、苦しむ人々と親しくなることが必要となる。そうしてこそ、あなたがたの心は多くの教訓を受け取り、愛に満ち、柔らかくなり、偽りの喜びから離れ、その代わりに、愛情に飢え、愛と慰めを必要としている人々のことを少しでも思いやるようになるのだ。

57. もしあなたがたが、他人の痛みを自分のことのように感じられるようになったら、私はもはやあなたがたに語るべきことはなくなるだろう。あなたがたは自発的に、病院の病床で苦しむ人々の元

へと向かうようになるだろう。あなたがたの手は、嫌悪感を抱くことなく、ハンセン病患者に差し伸べられ、孤児を優しく撫でてあげるだろう。あなたの唇は、その言葉によって魂に光をもたらし、目的も愛も神も持たずに人生を歩む人々の心に、信仰の炎を灯す術を知ようになるでしょう。

58. スピリチュアリストは物質的な富を過剰に蓄積することはないが、その代わりに、常に魂の宝に富んでいるよう心掛ける。彼は、その宝が何を包含し、それがどのような状態にあるかを常に知っている。彼は他のすべての死すべき者と同様に苦しむが、決して絶望したり、反抗したりすることはない。

59. あらゆる機会に、私の模範を心に留めておきなさい――すなわち、あなた方を愛し、慰め、永遠の至福への道を指し示すという使命に捧げた、あの生涯を。私は、多くの人々に私の言葉を聞いてもらうために、教えのすべてにおいてこの道について語った。私の言葉を伝えるための特別な場所はなかった。広場でも、列柱のあるホールでも、通りでも、神殿でも、旅の途中でも、山の上でも、私は天の御国について語るメッセージを伝え続けた。

60. 人生の闘いの中で得た功德で満たされた旅の荷物を常に用意しておきなさい。そうすれば、私があなた方を来世へと招く呼び声が、いつ訪れても驚かされることはないでしょう。常に内省し、自らを省みなさい。その時を待って、功德のない魂のままこの世を去ることのないようにしなさい。そうすれば、地上でもっと多くの善行を積んでおけばよかったと後悔することになるが、その時ではもう手遅れである。いつこの世を去ることになるか分からないのだから、常に良心と向き合いなさい。

61. ああ、私が特にこの言葉に向けている魂たちよ、落胆してはならない。私の道を粘り強く歩み続ければ、あなたがたは平安を知ようになるだろう。まことに、あなたがたに告げる。あなたがたは皆、至福を体験するよう定められているのだ。もしあなたがたが、私と共に天の国を分かち合うために創造されていなければ、私はあなたがたの父とはなり得ない。しかし、忘れてはならない。あなたがたの至福が完全なものとなるためには、あなたがたの魂がその神聖な報いにふさわしいと感じるよう、一步一步、功德を積み重ねていくことが必要である。私があなたがたに寄り添い、その道のり全体を通して共に歩んでいることを悟りなさい。私の使命はあなたがたの使命と一つであり、私の運命はあなたがたの運命と一つであることを自覚し、私を完全に信頼しなさい！

62. あなたがたは私のもとへ昇る力がなかったため、私があなたがたのもとへ来た。それによって、私はあなたがたに私の慈悲の証しを与え、あなたがたの信仰への励ましを与えたのである。あなたがたは、使命を果たすという考えそのものにすでに恐れを抱いている。なぜなら、あなたがたは世の戦いにおいては強いが、靈魂の使命に対しては弱いからである。

あなたがたは、自分たちにはまだ欠点が多すぎて、私の弟子とは見なせない、と私に言う。しかし、私はあなたがたに告げる。一つの欠点は一つの石のようなものであり、それらがすべて合わさると一つの重荷となる。あなたがたがその重荷の重みのもとで生きている限り、高みへと舞い上がることは不可能である。しかし、欠点という重い荷を少しずつ振り払っていくにつれて、あなたがたは、靈の高みへと昇ることができる実感し始めるだろう。

63. わたしの言葉によって、あなたがたが完全なものとなるよう、それを受け入れなさい。あなたがた全員が、私を聞くために心を整えてやってくるわけではないことを、私は知っている。この啓示を嘲笑する者もいれば、疑う者もいる。また、この言葉は高尚ではあるが、キリストからのものではなく、他の何者かからのものであると考える者さえいる。しかし、私はあなたがたに告げる。私の思いは、それぞれの知性へと届き、知恵として現れるのだ。

64. 私が愛ゆえにあなたがたに仕えているという証拠をすでに与えているというのに、人間の中における私の存在を疑う権利が、いったい誰にあるというのか。イエスが苦難の木に釘付けにされた時のことを思い起こせ。しかし、その十字架は、人類そのものを表しているに他ならないではないか。まことに、私はあなたがたに告げる。私は今もなお、私の子供たちへの愛によって象徴される、私の愛の十字架に釘付けにされているのだ。

65. あなたがたは疑い、裁き、さらには嘲笑さえするが、私はあなたがたを赦し、祝福する。なぜなら、あなたがたは無知ゆえに病んでいるからだ。私はあなたがたに熟考する時間を与える。明日には、あなたがたが最も熱心な者たちの一人となることを、私は知っているからだ。今、あなたがたは、私が明らかにした真理をまだ完全にはっきりと見ることはできません。それは、「肉」が靈よりも強いからです。それでも、あなたがたは靈化という理想に向かって歩み出し、やがて靈的に最も強い者となるでしょう。

66. 害となるもの、不浄なものに立ち向かいなさい。この世の悪徳は、魂の感覚を鈍らせ、魂が高次の世界へと入ることを妨げることを知っておきなさい。もしあなたがたが真の生き方を学ぶならば

——私はあなたがたに告げる、あなたがたがどこにしようとも、どこへ行こうとも、その存在そのものがすべてを平和の樂園へと変えることになるだろう。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 273

1. あなたがたは深く墮落し、靈的なものからあまりにも遠ざかってしまったため、靈に属するものでありながら完全に自然なものであるものを、すべて超自然的だと考えています。それゆえ、あなたがたは神聖なものを「超自然的」と呼び、同様に、あなたがたの靈に属するすべてのものもそう見なしていますが、それは誤りです。その理由は、あなたがたが、感覚の範囲内、あるいは人間の知性の理解の範囲内にあるものしか見たり認識したりできず、感覚や理性の及ばないものを超自然的だと考えてきたからです。

2. 今こそ、あなたがたは、生命が内包する真理を明らかにする私の教えの核心に深く入り込み、自分たちを私の弟子と見なし、やがて師となるべき時が来た。

3. 弟子とは学ぶ者であり、師とは私の教えを実践する者である。あなたがたもそうあるべきだ。なぜなら、もしあなたがたがただ学ぶだけで私の知恵を心に秘めておくれただったり、あるいは私の教えを改変したりするならば、あなたがたは、かつて私がその偽りを暴くために激しく非難した、あの偽善的なパリサイ人たちと同じになってしまうからだ。

4. 道は長く、あなたがたは注意深く歩まなければならない。そうしてこそ、極端に陥ることなく、すなわち、靈的なことがあなたたちにとってありふれたものになることもなく、また狂信に陥ることもないのだ。

5. 一度、靈魂と「肉体」の間に保たれるべき均衡に達すれば、存在がいかに軽やかであり、道がいかに平坦であるかがわかるだろう。一步一步、自分の道を歩み、魂の進歩のために人生が与えるあらゆる機会を活用していくのだ。

そして、靈的な生活の入り口にたどり着き、あなた方を包み込んでくれたこの世界や、支えとなってくれた肉体と別れを告げる時が近づいたとき、そこにはわずかな抵抗も存在してはなりません。魂が肉体の命を延ばそうと望むことも、肉体の殻が魂をこれ以上引き留めようとすることもあってはならないのです。

6. 魂が新たな住まいへと入るとき、どれほどの歓びと光を体験することか。そして、地上で共に過ごした人々の心には、どれほどの平安と和解を残すことか！

7. 私は、この世に支配している雰囲気、靈化とは相反しているのを見ている。それゆえ、あなたがたが、その道を前進することを

妨げている障害から自らを解き放つことができれば、それは非常に称賛に値することとなるだろう。

8. 私は、あなたがたが世の中で、その影響を受けずに生きられるようにするためのメッセージを送った。

9. 私の力によって、そうした困難を乗り越えることを学びなさい。人間の苦難を超越できるよう奮闘しなさい。一度、自分の人生を高め、魂を解放したら、再び沈んではならない。

10. 私の道には落とし穴などない。しかし、道の脇には藪が生い茂り、その中に時折、狡猾な狼が潜んでいるため、警戒し、祈ることが必要である。警戒し、祈りなさい。そうすれば、不意を突かれることなく、むしろ、善き道を歩もうとする者を陥れようとしたり、その信仰を奪おうと隠れている者たちを、あなたがた自身が不意を突くことができるのだ。

11. 私は、人類が最大の苦難の杯を飲み干す時、私の民が再びこの世に現れると予告した。それゆえ、戦いの時が近づいている今、私は使者たち、働き手たち、兵士たち、そして預言者たちを地上に遣わしている。

12. わたしの民とは、預言者たちを通じてわたしの声を聞いたこの者たちだけではない。わたしの民は全地球に広がり、その子らは、わたしの真理を証しするすべての人々——魂に光の隙間を切り開くすべての人々、雑草と戦い、第三の時代を告げるすべての人々——となるであろう。

13. 霊性を高めなさい。そうすれば、あなたがたは自らの使命を理解し、それを果たすことができるようになる。そして、他の国々で私の別の使者が立ち上がったとき、互いにその存在に気づき、団結し、精神的な支えとなりなさい。思考の力によって、世界を覆っている不和、分裂、そして戦争と戦わなければならない。

14. 心配するな、民よ。わたしは、あなたがたが今日までに積み重ねてきた功績を受け取った。しかし、最初の数歩で立ち止まってはならない。成し遂げた最初の業に満足してはならない。落ち着いて、確かな足取りで進め。そうすれば、勝利を勝ち取ることになるだろう。

15. あなたがたの功績は、霊界に到達して初めて報いを受けるというわけではない。ここ、この世においても、その報いを受けることになるだろう。

16. ここでは、あなたがたの肉体は健康と力を持ち、霊的な生活においては、光と真の喜びを得るだろう。

17. 知恵を渴望してわたしのもとに来た者は、決して裏切られたと感じたことはない。わたしは、あなたがたがわたしの言葉を聞きたいという願いを妨げる障害など何一つなかったことを見てきた。どうしてあなたがたの努力と犠牲に報いないことができようか。あなたがたが、この場所にたどり着き、わたしのそばに留まり、わたしの声を聞くことができるようになるために、どれほど成長しなければならなかったか、わたしだけが知っているのだ。

18. 人々が自らの意志で鎖を断ち切り、目から覆いをはぎ取り、真の道を求め始める時が来た。

19. 人は、自分に正当に許されているものが何であるかを知り、また、本当に禁じられているすべてのことを知ることを可能にする光を、手に入れようと切望している。

20. 霊的な面において、人間は無知な存在である。人間を取り巻く数え切れないほどの偏見、そして人間を圧迫する脅威や呪いが、霊的なものに対する無関心の原因となってきたのである。

21. 今、魂を目覚めさせているのは私の光のみであり、彼らに思索を促しているのは私の声であり、彼らを揺るぎないものにし、目標を達成するために戦わせるのも私の力である。

22. 人類はまもなく、古びて擦り切れた衣を脱ぎ捨てるかのように、自らの偏見から解放され、長い間その発展を妨げてきた障壁を越えて、切望に満ちた眼差しと知性を向けるようになるだろう。

23. 人々が何世紀にもわたって心の中に抱き続けてきた、植えつけられた恐怖もまた、キリストこそが霊界の門を開いたことを思い出すとき、消え去るだろう。また、人類に教えるべきことをすべて明らかにしなかったのは、その時機がまだ来ていなかったからであり、光とインスピレーション、そして霊的な啓示に満ちた時代に再臨することを約束されたことを思い出すとき、

24. 人々は、わたしの中に、無知というくびきから自らを解放する勇気を見出すだろう。

25. 人生の前提であり、源であり、基盤である霊的な知識を持たない人々が、どうして地上に平和が訪れ、戦争が終わり、人々が生まれ変わり、罪が減少することを期待できようか。

26. まことに、わたしがあなたがたに告げる。わたしの真理を理解せず、また従わない限り、あなたがたの地上の存在は、流砂の上に建てられた建物のようなものとなるだろう。

27. 目覚めた者たちは、霊的な事柄に対して冷淡で無関心な者たちよりも数が少ない。後者たちは、支配的な混沌を前にしても動揺も恐れもせず、すべてを表面的な原因のせいに行っている。彼らは、

その乏しい理解に満足し、こう言う。「物質界を支配する者たちや、宗教を通じて霊的に私を導く者たちから課されたすべての義務を果たしているのだから、なぜ秘密を解き明かしたり、測り知れないものに踏み込もうとしたりする必要があるのか？ この義務の履行の中にこそ、キリストが教えた『善』の原理が存在するのではないのか？」と。こうした考えによって、彼らは心を落ち着かせ、自分たちが霊的な使命を果たしていると自らを納得させている。

28. しかし、わたしはあなたがたに告げる。この義務の履行は、見かけ上のものであり、実在するものではない。あなたがたの良心の前でも、神の前でも、あなたがたが行う善行はごくわずかである。なぜなら、あなたがたの人生は表面的であり、霊的な認識は取るに足らず、行いは利己主義と虚栄に満ちているからだ。

29. あなたがたが容易に欺くことのできる周囲の人々の目には、あなたがたは霊的および人間的な義務を忠実に果たしているように見えるかもしれない。しかし、あなたがたの良心と天の父の前では、見せかけだけで通用することはできない——そこでは真実が明るみに出るからだ——そして、それこそが、人々を霊的に停滞させたままにしている原因である。

30. これが原因で、ある者たちと別の者たちの間に争いが生じている。霊的に目覚めた者たちが霊性、霊的賜物、能力、啓示について語る一方で、霊的に鈍感な者たちは立ち上がり、彼らこそが人類を分裂させ、混乱させ、信仰の確信に疑念や不安を引き起こしていると主張する。

31. 光が現れ、真理が輝きを放つためには、この戦いは避けられないものである。そうして初めて、あなた方は、真理が分裂をもたらすものではないこと、そして、私の教えは真理を基盤としているため、たとえ当初、人々が光を得るために互いに戦わなければならないとしても、人々の間に分裂や不和をもたらすようなことは決してなかったのだと気づくことになるだろう。

32. 誰もがそれぞれの武器を手取るだろう——ある者は精神的な武器を、ある者は知性の武器を、またある者は物質的な武器を。

33. 物理的な武器の力だけに頼る者たちは敗北せざるを得ない。なぜなら、勝利は、その性質と力がより大きな霊的な武器を用いる者たちの側に傾くからである。

34. 第二の時代において、イエスの教えはすべてを明らかにしたが、スピリチュアリズムは、人間の間で謎とされていたすべてのことを解き明かし、説明し、解説する。その助けがなければ、人々は決して啓示の核心に迫ることはできないだろう。

35. まことに、わたしはあなたがたに告げる。七つの封印の書を開き、その全内容をあなたがたに示すことができたのは、ただ子羊のみであった。

36. 民よ、この教えを実践せよ。世界にわたしの言葉の真理を示す時が来た。わたしは、あなたがたを、人類が知ることを切に必要としているメッセージを伝える使者とするために、あなたがたを召したのだ。

37. わたしの言葉が地上の諸民族に届いたからといって、すべての人々が即座にスピリチュアリストに変わる、などとは言っていない。いいえ――まずは、あらゆる宗教共同体において霊性化が進むだけで十分である。そうすれば、人々が最も予期しない時に、すべての人々が一つの点、すなわち、これまで彼らの間には決して存在しなかった調和、統一、そして相互理解へと向かっているのを、あなたがたは目撃することになるだろう。

38. 雑草は根こそぎ引き抜かれ、その代わりに、豊かさ、労働、進歩、そして平和の象徴である小麦が育つだろう。

39. 自らの道を照らす光を渴望してやって来るすべての人々を、歓迎する。

40. わたしのそばにいなさい。わたしは、あらゆる道に光を照らす灯台である。この光は新しいものではない。人類の命が始まって以来、それは人々の良心の中に輝き続けてきた。しかし、人間は自らの力で霊的な命の神秘に踏み込むように創造されたため、「御言葉」がイエスにおいて人となり、その言葉によって神秘のベールを引き裂くことが必要であった。

41. 果たして、さまざまな世代にわたる全人類が、キリストが人の手によって死なせられた無限の愛について思いを巡らすために、カルヴァリー山の頂上にたどり着いたというのだろうか。いいえ、人類は、神聖なる師の光が明らかにしたすべてのことを知りたがらなかった。人類は、自然の神秘を探求する科学の光を、魂の偉大さという地上の力を好んだのである。

42. わたしの光は、一瞬たりとも人々の良心の中で輝きを絶やすことはなかった。しかし、人間はまだ未熟であり、父が何らかの形で彼らに近づいてくれることを必要としているため、わたしは新しい時代の約束に満ちたメッセージを携えて、エリヤの霊を遣わし。

エリヤは、私が人々に自らを現すためにどのようにして来られるかという啓示を世界に伝え、私の先駆者として、ある人の知性を開いて、その口を通して語らせた。しかし、彼はまた、幻や靈感を通

じて自らを現し、人間の知性という器官による啓示の後には、霊から霊への対話が訪れることを、あなたがたに告げ知らせたのであ。

43. 私の再臨は必要なかったと主張する者もいるだろう。しかし、そう考える者たちは、イエスがパリサイ人たちの偽善を暴き、神殿から商人たちを追い出し、偉大であると自称する者たちには頭を下げなかったという事実を知らないからに過ぎない。

44. 私を必要としているのは、苦しんでいる人々、正義への飢えと渇きを抱く人々、光と高揚を切望する人々、そして魂は立ち止まることなく前進しなければならないと理解している人々である。彼らは皆、祈りの中で私を呼び求め、苦しみの中で私に懇願し、私がいつ来るのかと問いかけている。彼らは、人類が私、私の言葉、私の癒しの力、そして私の奇跡を切実に必要としていることを知っているのだ。

45. 永遠の戦争に明け暮れる諸民族を見よ。私が教えた愛に対する最も断固とした否定である、それらの戦争を見よ。キリスト教徒を名乗り、私の至高の戒めである「互いに愛し合いなさい」を説きながら、互いに敵対し合う宗教共同体を見よ。

46. 人間の権力欲によって引き起こされたこれらの戦争や、信仰上の相違によって、どれほどの悲慘さと苦しみ的人类に降りかかったことか。

47. 私はこの時代に、この民の心の中でようやく発芽し始めたばかりの種を、あなたがたに授けた。しかし、まことに、あなたがたに告げる。この教えは人類を震撼させ、神の真の啓示として信じられるようになるだろう。あなたがた全員——私の業において任務や使命を授かった多くの者たち——には、私の教えをその純粋な姿のままに示す義務がある。

48. スピリチュアリズムは、儀式や伝統、あるいは宗教的な儀式とは何の関係もなく、あらゆる外的な神への崇拜を超越している。それゆえ、私が言うのだ。もし誰かが、私の教えに、宗派や教会から学んだ礼拝行為を混ぜ合わせるならば、その者は神聖さを冒涇する者となる。

49. もしあなたがたが、この啓示の光を、物質主義や秘密主義というベールの陰に隠してしまえば、どうして周囲の人々がその光に感嘆することができるだろうか。

50. スピリチュアリズムは宗教の混合などではない。その簡潔さにおいて、それは最も純粋かつ完全な教えであり、この第三の時代に人間の精神へと降り注ぐ神の光そのものである。

51. 民よ、私がこれらすべてをあなたに語る理由は、あなたがたがこの時代における私の最初の種であり、真理を受け入れ、人類から「誤りである」とか「冒涇的である」と非難されないようにするためである。

52. もしあなたがたが狂信に陥るなら、その責任はあなたがた自身にある。なぜなら、知識の書はあなたがたの目の前にあり、魂を照らしていたのだから。

53. さまざまな道からやって来た者たちよ——わが言葉を受け入れ、わが種を受け継ぎ、それをあなたがたの畑に蒔きなさい。師があなたがたに託した真理がどのようなものであるかを悟りなさい。

54. 完全な教えを知っているからといって、自分たちを完全だと思っではならない。しかし、人間として可能な限り最高の清らかさをもって使命を果たそうとするならば、私は、真の慰めの言葉を渴望する者たちを、皆、あなたがたの道へと導くであろう。

55. あなたがたの行いがどれほど純粋で愛に満ちていようと、依然として攻撃を受けることになることを自覚しなさい。そうしてこそ、あなたがたは、赦し、高潔さ、そして慈悲の模範を示すことで、心の中に抱いていると感じる真理をいかに守り抜くかを教える機会を得るのだ。あなたがたは、物質的な神殿を守るべきではないし、自分の名や人格を守るべきでもない。守るべきは、あなたがたの中に宿された真理そのものである。

56. 悲しみと疲れを心に抱いて、わたしのもとに来る人々の群れよ——わたしの言葉に耳を傾けてほしい。なぜなら、わたしの言葉の本質を通じて、あなたがたが平和、信仰、そして喜びへと立ち返ることができる、わたしは知っているからだ。

57. あなたがたは、広大な砂漠で、小石や灼熱の砂から足を守ってくれていたサンダルをすり減らしてしまったため、足を傷め、裸足でここへやって来る。しかし、ここでは、あなたがたが失ったもののすべてを取り戻すことになる。なぜなら、私はあなたがたを愛しており、その愛を改めて証明してあげるからだ。

58. どうしてあなたがたは、信仰の光を弱めてしまったのか。どうして、自分たちが霊を持っているという内なる知識さえも失ってしまうほど、真の道からこれほど遠く離れてしまったのか。

59. あなたがたが新しい時代に身を置いているという知識を伝えられるのは、わたしの神聖な啓示だけである。なぜなら、あなたがたは眠りについていたので。

60. あなたがたの存在の深みで、未知の憧れが芽生え、その理由を特定できないまま、奇妙な渇きがますます強まっていった。その

欲求が恐ろしいほどになったのは、あなたがたが私の新しいメッセージを受け取る時が来たからである。

61. あなた方を苦しめていたのは、魂の飢えと渇き——真理と平和への飢え、愛と光への渇き——であった。

62. わたしは、わたしの言葉が、水晶のように澄み切った新鮮な水のようなものとなることを望んだ。その本質には、魂の真の、そして永遠の糧が含まれているのだ——そうして、あなたがたが私を聞くためにやって来たとき、まるで泉を見つけた疲れ果てた旅人のように、背負っていた重荷を捨て去り、渇きを癒すために待ち望んでいた水へと貪るように身を投げ出すように、私へと身を委ねてくれるようにと願ったのだ。

63. あなたがた全員が靈的な渇きを抱いてここに来たわけではない。それを真に感じた者は、ただ私の言葉によってその渇きを癒やした。しかし、私を何度も聞いていながら、自分の痛みや問題が相変わらず変わらないと嘆く者も大勢いる。その理由は、彼らが私の本質を求めているのではなく、この世の富を求めているからである。

64. 決して自分自身を欺くことのないよう、このことをよく理解しておきなさい。

65. また、必要なものは何一つ欠かさず、快適な環境に囲まれて暮らしているにもかかわらず、何かが彼らの人生を暗くし、何かが彼らを恐れさせ、何かが彼らに欠けているという事実にも目を向けてほしい。彼らが切望しているのは、彼らの人生における「靈的なもの」の存在なのだ。彼らの人生を暗くしているのは、まさにその光の欠如なのだ。これを聞いた人々は、心の中でこう叫んだ。「これこそが、私が求めていたもの、望んでいたもの、欠けていたものだった！」

一方、ここに来て、財産や健康、愛する人を失ったと嘆き、心の中の空虚さを私の言葉では埋められなかった者たちもいました。しかし、彼らが失ったものを取り戻すと、かつて耳にしたこの天からの言葉を、せめて一つも思い出すことなく、立ち去ってしまいました。

66. 誰もがこの啓示を感じ、理解できるほどに成熟しているわけではない。ある者たちは留まる一方で、他の者たちは去っていく。それは、誰もがわたしを渴望しているわけではなく、靈的なものの渴望がすべての人に等しくあるわけではないからだ。

67. わたしはあなたがたにこう言いたい。人類、諸民族、そして諸国家を注意深く観察し、彼らが自らの生活を、灼熱の太陽に押し

つぶされ、その乾燥に支配され、疲れ果てさせるような、苦痛に満ちた砂漠にしてしまったことを自覚すべきである。人々の心に蓄積されている計り知れない渇きを、あなたがたは感じ取れないのか。今や、心地よい木陰と爽やかな清涼さ、絶え間なく湧き出る水晶のように澄んだ水を備えたオアシスが現れつつある。そこでは、彼らが真理への渴望、愛と平和への渇きを癒やすことができるのだ。

68. 多くの人々がその泉を訪れ、その水を飲むと、あなたのように「これこそが、私が求めていたものだ」と言うだろう。しかし、この世で失ったものを取り戻せると思い込んで、そこにやって来る人々も大勢いる。だが、彼らは失望して私に背を向け、この啓示にほんのわずかな真実さえ含まれていないと否定するだろう。

彼らは去っていくが、すべてはあらかじめ見通され、準備されている。やがて魂の真の渇きが訪れ、彼らが荒野でわたしを呼び求め、「父よ、私たちを赦し、あなたの真理を知るための新たな機会を与えてください」と告げる時、彼らが戻ってくるように。

その時、彼らが傲慢にも私の泉の水を、私の食卓のパンを拒んだ時でさえ、すでに彼らを赦していた私は、彼らに私の道を示すだろう。そうして彼らがその道の上で疲れを忘れ、癒やされ、平安に満たされ、私の光によって高められていくためである。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 274

1. あらゆる時代からの巡礼者たちよ、この恵みの日に、私の言葉を聞き、靈的に私の食卓に着くために、その道の途中で立ち寄ったあなた方を、心から歓迎する。

2. あなたがたがわたしに耳を傾けることができるよう、わたしはあなたがたの心に安らぎと平安を与える。まことに、あなたがたに告げる。わたしの言葉こそが、平安と幸福へと導く道である。

3. しかし、物質的な事柄についてお願いをするためだけに、わたしを求めないでほしい。確かに、わたしはあなたがたを苦しめるあらゆる悪に対する癒しの薬を持ち、仕事への扉を開く鍵も持っている。しかしそれ以上に、わたしは靈のための限りない富、知恵の奔流、尽きることのない靈的な喜びの泉をもたらすのだ。

4. この教えの真意は、初めて耳にする多くの人々を驚かせるだろう。それは、わたしの教えが彼らの靈魂に語りかけているからである。わたしは靈魂を求め、それに語りかけ、この世を超えた王国を提示し、約束された故郷へと至る道が何であるかを告げているの。

しかし、自分のためだけに生き、自分のものだけを愛し、自分のことしか考えず、すべてをこの世に期待している人間は——「放棄」「忍耐」「犠牲」「無私」「慈悲」といった言葉を耳にすると、こう自問する。「もし私がすべてを手放したら、誰が私に与えてくれるのか？ この人生で私が持っているものはこれほど少ないのだから——なぜそれを手放さなければならないのか？」

5. 私は彼らを許す。なぜなら、彼らにはそう考えるほかないからであり、彼らの利己主義は無知に由来するからだ。しかし、彼らが私の声を二度以上耳にし、私の言葉に含まれる光のひと筋が彼らの魂を照らすと、その魂はまるで長い眠りから覚めたかのように目覚め、驚きと戸惑いの中でこう自問する。「私はどこにいるのか、誰が私に語りかけたのか？」

6. その間も、私の言葉はその魂に働きかけ続け、その心の琴線を愛を込めて響かせ、やがてその人の中に長い間蓄積されてきた魂の痛みが堤防を破り、涙として溢れ出す。それは、懺悔、信仰への目覚め、靈的な復活、そして光と真理と永遠への昇華の始まりを意味する。

7. しかし、すべての人にこれが当てはまるわけではない。しかし、かつて私の御言葉を聞くために集まり、心の中に利己心や物質への愛、高慢、そして私の靈的教義を否定する論拠を抱いていた者たちは、その日の私の教えを耳にしたとき、暗闇に満ちてやって来た

あの日を即座に思い出し、自分たちが存在することなど想像もしていなかった光を見出したのです。

8. 彼らの多くは今や、私の最も忠実で、最も無私の働き手となっている。

9. 人々よ：私の言葉は、人々を清め、より良い人生へと備えさせる愛の奔流である。

10. 驚け：今、私はあなたがたに、罪人そのものの口を通して罪人を救う教えを与えているのだ。

11. あなたがたは、私の普遍的な救いの計画を完全に理解することはできない。しかし、あなたがたが私の業に参加できるよう、その一部を明らかにしてやる。

12. 世界が置かれているこの時代の意義を知っているのは、わたしだけである。いかなる人間も、この時の現実を理解することはできない。人々は太古の昔から絶えず自らを汚し続け、ついにその感覚と魂を暗くし、病み、安らぎなく、悲しみに満ちた人生を自ら作り上げてしまった。しかし今、浄化の時が訪れたのである。

13. この神聖な御言葉を聞いたあなたがたは、この時代に何が起きているのかを理解しており、祈りを捧げ、悪を行うことを避け、その代わりに善を行うよう心がけることでしょう。しかし、全人類がこの時代の出来事の意味を知っているわけではない。それゆえ、人々の間には混乱、絶望、苦しみ、憎しみ、暴走する権力欲、悪徳、犯罪、そしてあらゆる卑しい情欲が蔓延している。

14. 世界は私の言葉を必要としており、諸民族や諸国家は私の愛の教えを必要としている。統治者、科学者、裁判官、牧師、教師——彼らすべてが私の真理の光を必要としている。それゆえ、私はこの時代にやって来て、人々の魂と心、そして知性を照らすのである。

15. もしあなたがたが、私の到来を地球上の心、諸民族、そして諸国家へと導くための先駆者として、私の御霊に仕えるならば、満足感を覚えないだろうか。しかし、もしあなたがたが突破口を開き、道を切り開きたいと願うならば——どのような模範を示し、どのような証拠を提示するつもりなのか。

16. わたしの業は完全であり、永遠であり、力強く、明快で、光に満ちていることを忘れてはならない。

17. まだ未熟な弟子たちよ。あなた方は、高次の世界にいる霊たち——あなた方の兄弟姉妹である存在たち——が、いかに私を愛しているかを知らない。もし、彼らがどれほど私を愛し、私に奉仕し、私に服従しているかを知っていたなら、あなたがたは父に対する

自らの振る舞いを深く悔い改め、完全な愛をもってあなたがたを愛してくださる方に捧げるために、心の中に聖域を築くことを急ぐだろう。

18. 私の愛をあなたがたの心の中に宿らせ、人々の痛みにも敏感な心を持てるようにしなさい。あなたがたは、赦しを実践し、苦しむ人々に慰めを与えることができるよう、思いやりを学ぶ必要があ。

19. 私の言葉があなたの心を揺さぶり、隣人への愛をもって鼓動するようにしましょう。

20. 私の教えの言葉を心に留めておきなさい。あなたがたが私の真理の真の種蒔き人とならなければならないとき、まさにそれらが戦いの武器となるからです。

21. さあ、私のところに来なさい。私は泣く者たちに慰めを与える。あなたがたも泣いている——ある者は涙を流し、ある者はすすり泣きもなく、心の中で泣いている。

22. わたしはあなたがたの痛みを刈り取り、それを平安へと変える——魂の奥底にまで入り込むことのできる唯一の存在であるわたしが。わたしは、あなたがたの魂の重荷——あなたがたがまだ背負いきれないその重荷——のためにやって来るのだ。

23. ああ、人々に転生した魂たちよ！ あなたがたは、痛みや問題、試練に打ち負かされるためにこの地上に来たのではない。あなたがたは、不運や逆境の中で勝利を収めるために来たのだ。

24. もう泣くのをやめ、眠るのもやめなさい。人間の靈魂は、あらゆるもの——試練、痛み、情欲——と戦っている。

25. あなたがたは、自ら望んだがゆえに、人生のあらゆる苦難を知ることとなった。しかし、あなたがたの信仰、意志、そして努力こそが、物質や苦痛を超越させてくれるのである。

26. 私の言葉を理解できないのか？ それはとても単純なことだ！ しかし、あなた方は物質に覆われており、その真意を深く探求しないため、しばしばその核心にたどり着けないのだ。いつの日か、すでに肉体の殻を脱ぎ捨てたあなたがたの魂が、喜びをもって私の言葉を繰り返し、私の教えを理解する日が来るでしょう。そして、その記憶から、あなたがたの道のための光の川が湧き出るので。しかし、あなたがたは、霊的な支えや助けがなかったこの地上を歩んでいた頃、私の教えを捉えることができなかったことを嘆くことになるでしょう。

27. できる限り、私の教えを心に刻み込んでおきなさい。なぜなら、もしそれらが記憶から消え、心から遠ざかり、忘れてしまい、それを放棄してしまったならば、後でそれを探し求めても、もはや

見つけることはできなくなるからだ。それは、まるで泉を所有しながらもそれを離れてしまい、喉の渇きに苛まれてそれを探し求めたとき、まるで水が蒸発してしまったかのように感じるのと同じことです。

28. もしあなたがたが、渇きや疲労を感じることなくこの人生を歩む方法を知りたければ、もしあなたがたが悟りを開き、霊的な境地にありたいと願うなら——もし痛みや混乱を避けたいと願うなら、私の教えを活用し、それをあなたがたの存在に消えることのないように刻み込み、それをあなたがたの人生の法則と規範としなさい。

29. もし今日、父があなた方に説明を求められたら、あなた方はどうするだろうか。あなた方の魂のために、何を提示できるだろうか。

30. たとえそれが法則であるにもかかわらず、あなたがたが愛していなかったと良心が告げるならば、それでもなお、人間界から霊界へと移行する準備ができていると言えるだろうか。宇宙をさまざま多くの魂たちが、人々に声をかけ、「私のように時間を無駄にしないでほしい」と伝えたいと願っているのだ。

31. まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが私の言葉の一つひとつを深く研究するならば、あなた方の人生の道を照らすことになるだろう。なぜなら、その一つひとつには、本質、知恵、そして永遠が込められているからだ。

32. わたしの言葉を理解する者は、やがて、この世に何が生じたのか——それがどこから来て、どこへ帰らなければならないのか——を知るようになる。

33. この真髄に満たされた者は、もはやこの世界が苦しみ、涙、そして苦悩だけで成り立っているなどとは決して言わなくなる。なぜなら、その者は、苦しみを超えて信仰と愛を掲げる術を知っているからだ。

34. 人間がこれほど多くの苦しみを味わい、涙を流してきたこの世界は、多くの人が喜んで逃げ出したいと思う場所である。しかし、まことに、私はあなたがたに告げる。私は、あなたがたがこの世界を愛で満たすようにと定めたのだ。しかし、もし私が今この瞬間に、あなたがた全員に「この世界にどれほどの愛を蒔いてきたか」と尋ねたとしたら——あなたがたは、何と答えるだろうか。

35. 私は、あなたがたがキリストを理解したと私に告げてほしい——かつてあなたがたに「互いに愛し合いなさい」と語ったあの方を。何世紀にもわたるたゆまぬ教えの末、私が今、この問いを投げかけていることを悟りなさい。

36. それゆえ、私は繰り返し、あなたがたに、私の声を聞くことを学び、「御言葉」が語るときには静まることを学ぶべきだ、と告げている。そうしてこそ、あなたがたの心の中に神の種が芽吹き、花開くのである。

37. 私は、あなたがたが私の声を聞き取るのを待つために、限らない忍耐を尽くしてきた。なぜ、試練に直面している時に、あなたがたは少しの忍耐も示さないのか。忍耐を持たない者は、この償いの時期にそれを学ぶことになる、と私は告げる。苦難もまた師である。たとえその教えが短期間、厳しいものであったとしても。愛をもってのみ教える神聖なる師から学ぶほうが、はるかに良いのではないか？

38. 物質主義者にとっての時間は、霊的な者にとっての時間とは同じではない。ある者にとっては正義として現れ、別の者にとっては祝福として現れる。しかし、何世紀にもわたる光は常に人々の上を照らし、その過程である者たちを優しく包み込み、すべての人々を目覚めさせてきた。

39. いつになったら、あなたがたはこの光があなたがたの靈魂を通して現れることを許すのだろうか。いつになったら、私は鎖から解き放たれ、私のもとへ舞い上がろうとする人々に出会えるのだろうか。

40. 依然として、道から外れた旅人は多く、無知の闇の中で迷い込んだ人間も数多くいる。それは、彼らが霊よりも「肉」であり、真実よりも嘘であるからである。

41. 彼らにおいては、物質が勝利者であり、霊は敗者である。私が「霊の祝宴」、すなわち「愛の饗宴」へと招くのは、まさにこうした迷える者たちである。そこでは、私の天の食卓がすべての人を待ち受け、彼らをこれほどの苦しみと孤独から解放してくれるの。

42. 私は彼らに、私の食糧——パン、果実、ワイン、そして蜂蜜——を与える。これらは、真の意味で言えば、温もり、慰め、平和、健康、そして知識そのものである。

43. あなたがたが静かに天へと捧げる祈りは、真の霊的な賛美の歌であり、その音色は義人たちや天使たちの音色と調和する。

44. あなたがたは、自らの罪の重荷をわたしの御前に持ち出し、人生そのものをわたしにさらけ出している。しかし、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたの存在の奥底には、あなたがたには知られず、わたしだけが知る苦しみと贖罪の義務がある。だが、あなたがたがそれらのことについてわたしに語らないこと、また、あなたがたの過去について知らないことすべてについて、わたしに願ひ

求めないことは、何ら問題ではない。私は万物の中にあり、私の慈悲から逃れるものは何一つなく、同様に、私の正義から逃れるものもない。

45. わたしの父なる愛を感じなさい。その愛の中に、闇や苦しみ、涙を消し去りなさい。わたしにあつて力を得、健康と平安を取り戻し、力強く戦いの道へと戻りなさい。

46. これこそが、あなたがたが求めている言葉であり、慰めを与え、新たな勇気を吹き込み、希望で満たしてくれるものである。なぜ、試練にもかかわらず、あなたがたはわたしに従うのか。なぜ、十字架を肩から降ろさないのか。それは、あなたがたがわたしの言葉の意味の中に、すべての苦しみに対する絶対的な理解を見出しているからである。

47. わたしが今、わたしの新しい啓示の周りに集めている民を「イスラエル」と呼んだのは、この「第三の時代」に召された一人ひとりの内にどのような霊が宿っているかを、わたし以上に知っている者はいないからだ。

48. 「イスラエル」には霊的な意味があり、あなたがたが神の民の一員であることを自覚できるよう、私はこの名を授ける。なぜなら、「イスラエル」とは地上の民ではなく、霊の世界を意味するからである。

49. この名は、地上において再び知られるようになるだろう。しかし、それは誤りのない、その真の意味、すなわち霊的な意味において知られるようになるのである。

50. あなたがたはこの名の由来と意味を知らなければならない。あなたがたはその民の子孫であるという信念は揺るぎないものでなければならず、また、誰から、そしてなぜこの名称を与えられたのかについて完全な理解を持たなければならない。そうして初めて、明日、「イスラエル」という名に別の意味を与える者たちから向けられる攻撃に耐え抜くことができるのだ。

51. あなたがたは、ヤコブが夢の中で霊の眼をもって見た「梯子」の秘密を真に理解する、霊的な民である。私は、あなたがたがすでに私の教えを理解する能力を備えているのを見ており、それをあなたがたに啓示するために、あなたがたを一つにまとめたのであ。

52. 理解する能力は、成長、発展、そして蓄積された経験から生まれるものである。

53. まことに、あなたがたに告げよう。世界が創造される前、そして人間が地上に現れる前から、あなたがたの魂はすでに存在していた。それは魂にとって無知の時代であり、あの準備の場における

生活であった――魂が人間として転生し、地上に居住するために教えを受けていた時代である。

54. あなたがたの知性は、魂の過去に関する印象や記憶のイメージを受け取ることができない。なぜなら、肉体は、魂の生活へと侵入することを許さない、厚いベールのようなものだからである。魂が過去の過程で受け取ったイメージや印象を、いったいどの脳が受け止めることができようか。人間的な概念と結びつけて、自分には理解できないものを把握できる知性など、いったいどこにあるというのか。

55. こうした理由から、私はこれまで、あなたがたが霊的にどのような存在であるか、また、あなたがたの過去がどのようなものであったかを知ることを許してこなかった。

56. では、あなたがたは、私がどのようにしてイスラエルの民を形作っているのかを知ることができるだろうか。いいえ、私はあなたがたに、今知るべきこと、そしてあなたがたが理解できる範囲のことだけを明らかにしてきたのだ。それゆえ、私はあなたがたに、あなたがたは神の民の子であり、肉によるのではなく霊によって神に属しており、あなたがたの使命は無限に増え広がり、すべての人をこの民の輪に招き入れることであり、また、あなたがたの定めは、あらゆる世界に光を運ぶことであると告げてきたのである。

57. 最初の時代、私はある人に「イスラエル」という名を与えた。それはヤコブであり、彼が同じ名を持つ民の祖となるためであった。この名は霊的なものであり、その民が人類の歴史において、まるで御霊の前に開かれた書物のような存在となるためであった。

58. その民は私の声を聞き、霊に内在する賜物を明らかにした。モーセを通じて私の律法を受け、非常に大きな試練にさらされた。その民には、異教の民たちの前で、生ける真の神の存在と律法を明らかにすること以外に、この地上での使命はなかった。

59. 族長たち、預言者たち、先見者たち、統治者たち、立法者たち、裁判官たち、そして王たちは、私の使者であり、私の代弁者であり、私のしもべであり、道具であった。彼らは、時に愛をもって、時に教えをもって、時に正義をもって、私を現すために用いられた。彼らを通して、私は他の諸民族に私の力の証拠を示した。

60. 今日、何世紀もの時が流れ、あの民の栄光も、その裁きもはるか昔のこととなったが、その歴史を軽んじてはならない。なぜなら、もしあなたがたがそれを地上的意味から霊的な意味へと転化すれば、無限の教訓と教訓的な例を得ることになり、それによって、あのイスラエルが象徴であり、比喩であり、たとえ話であることを

、そして、私が現在形成しつつある「新しいイスラエル」が、その霊的な意味における実現を意味していることを、最終的に理解するようになるからである。

61. 見よ。かつてイスラエルは、エジプトで解放を勝ち取り、その信仰と不屈の精神をもって約束の地を征服した後、その子孫たちによって首都を築き、「エルサレム」と名付けた。そして、人々の心にとって信仰の松明のような存在であったエホバを称えるために、そこに神殿を建立した。

62. 約束の地で安息を許してくださった父に感謝していたあの民に対し、彼らが「聖なる」と呼んだその都市で、メシアを十字架に釘付けにすることになると、いったい誰が告げただろうか。

63. 物質主義、無知、狂信、偶像崇拜そのものである「ファラオ」の支配から自らを解き放つために奮闘する、新しい民であるあなたがたよ、今こそ、大いなる砂漠の旅が始まる。しかし、孤独や飢え、そして危険への恐れを感じたその時、突然、山の上に「雲」が降りてくるのを見ました。そしてその「雲」から神聖な光の一筋が放たれ、それがあなたがたの理解力に届いたとき、知恵そのものである言葉となったのです。

64. この言葉こそが神の律法であり、愛と正義と平和の完全なる律法である。それはまた、あなた方を養い、新しいエルサレムへと至ることを可能にする、新たなマナでもある。

65. その都はもはやこの地上にはなく、この世のものでもない。その都は霊界に存在する。しかし、あなたがたがかつてその都に永遠に住み、私がメシアとしてあなたがたのところに來るとき、あなたがたはもはや私に茨の冠を被せたり、酢を飲ませたり、十字架に釘付けにしたりすることはないだろう。私は、かつて人々が群れをなして地面をマントで覆い、賛美の歌を歌い、ヤシの葉を振りかざしたあの日のように、あなたがたのところへやってくる。あなたがたが、エルサレムにおける師の凱旋入城を祝うとき、心の中で私を受け入れることになるだろう。

66. これが一度実現すれば、私はもはやあなたがたの中から去ることはない。

67. あなたがたは、これらの啓示の神聖な意味と、あなたがたがそれらに与えていた地上的意味とを理解しているだろうか。

68. 今、私はかつてそうであったように、ただ一時的にあなたがたと共にいるに過ぎない。私がもはやあなたがたに語りかけなくなる時がすでに近づいているが、人類は私の存在を感じ取ってはいない。

69. 私があなたがたに私の言葉を伝え、あなたがたを見守っているこの「山」から、私は別れを告げる前夜にこう叫ばざるを得ないだろう。「人類よ、人類よ、あなたがたは、誰があなたがたと共にいたのかを知らなかったのだ！」私が「第二の時代」、死の直前に、ある山から街を見下ろし、涙ながらにこう叫んだのと同じように：「エルサレム、エルサレムよ、お前のそばにあった善を、お前は見分けられなかったのだ。」彼が涙を流したのは、この世のためではなく、依然として光を持たず、真理を得るためにまだ多くの涙を流さなければならない人々の魂のためであった。

70. もし「第一の時代」に民が持っていたすべてのものが単なる象徴でなかったならば、私の全能の正義は、その都と、その神殿、そしてその伝統を無傷のまま保っていたであろう。しかし、すべてが破壊されたのは、ただ良心の中に律法だけが輝き続け、霊の王国が真にこの世のものではないことを、すべての人が理解するためであった。

私の平安があなたがたと共にありますように！

教え 275

1. わたしは愛そのものであり、それゆえ、あなたがたは赦され、わたしの恵みの賜物を享受しているのだ。しかし、父から愛撫や贈り物だけを期待してはならない。わたしが師として来たのは、あなたがたに自らの欠点や不完全さを理解させ、自らを正すべき方法を教えるためでもあることを覚えておきなさい。

2. 私はあなたがたの霊の中に共にあり、あなたがたの知性に私の光を輝かせている。それは、あなたがたが現在受けているものの価値を重んじると同時に、あなたがたが得ているものすべてが功績によって得られたものではないことを悟らせるためである。また、私があなたがたに与えようとしているものは、これまであなたがたが受け取ってきたものだけではないこと、そして、あなたがたが今日切望しているものも、あなたがたの靈魂がより強く開花した暁には、その切望が内包するすべてではないことを、私はあなたがたに理解させています。

3. 人生が与える試練や教訓とともに、各教訓の意味を説明し、明らかにする私の教えが作用する。なぜなら、認識と経験、そして成長があってこそ、あなたがたは「第三の時代の私の神性の弟子」という称号にふさわしくなるからである。

4. もしあなた方に自らの経験が欠けていたとしたら、同胞たちに何を与えることができるでしょうか。あなた方の「実り」とは何であり、あなたがたが説こうとする言葉や教えの「証し」や「裏付け」とは何になるでしょうか。

5. あなたがたが一度霊的に高められた後、この世で追い求めているものを手に入れられず、苦しみ、絶望している人々に遭遇したとき、あなたがたの物質主義が、私の弟子たちの高潔さとはほどほど対照的であるかを体験することになるでしょう。私の弟子たちは、この人生においてすべては儚いものであるという確固たる信念に基づき、その志と願いが高潔であるため、大きな満足感を抱くことになるのです。

6. 私の弟子たちは、霊性の模範——すなわち、魂をこの世の偽りの宝に縛り付けるのではなく、神性に近づけるよう奮闘する生き方——を通じて、世に語りかけることになるでしょう。

7. 私は、物質主義者たちが来るべき人々は、この教えを知れば憤りを感じるだろう。しかし、彼らの良心は、私の言葉だけが真実を語っていると告げるだろう。

8. 人の人生において、すべては儚いものである。その若さは儚い幻であり、名声は束の間のもの、喜びも一時的なものに過ぎない。それゆえ、私の教えは、永遠のものを達成するという理想をあなた方に鼓舞するのだ。なぜなら、霊の喜びと、霊のために定められた栄光は、一度手に入れば、決して消え去ることはないからである。

9. 人々よ、あなた方の生活に少しばかりの精神性を吹き込むことは、それほど容易なことである。それゆえ、私はこう問う。なぜそうしないのか？なぜ試してみないのか？あなた方が人間としての義務から離れる必要などないのだ。

10. あなたがたの行いにほんの少しの霊性を吹き込むだけで十分である。そうすれば、もはや単なる地上の存在にとどまることなく、人間の使命が内包する真の意味を理解しうる、より高次の霊的生活を送る存在となることができるのだ。

11. もう一度言うておくが、私はあなたがたをこの世での任務から遠ざけようとしているのではない。そこにも、あなたがたには神聖な義務があるからだ。しかし、この世を、あなたがたの魂の成長よりも重要視してはならないと、私は告げる。

12. あなたがたは、私の業についての知識を深め、私の言葉を把握し、私の教えの意義を理解することが必要である。

13. 私は今、私の光がこれらの魂から物質的な肉体へと移り、そして一度知性と感覚が啓発されれば、それらが霊の従順な道具となることを知って、魂たちに語りかけている。

14. この言葉を聞く人々の群れよ。物質的な目を閉じ、無限の彼方にある主の御声に耳を傾けなさい。

15. この時、あなたがたに語りかけているのは、広場や通り、小道、あるいは谷間の草原で見かけることのできる人間イエスではない——それは、あらゆる精神と知性の中に宿るイエスの霊であり、すべての神の子らに注がれる私の普遍的な光である。

16. 人々よ、この世で私の教えが実を結ぶのを見ることが、あなた方を喜ばせないだろうか？この涙の谷が平和の地へと変貌するのを、あなた方は切望していないだろうか？それならば、愛に満ちて働きなさい。そうすれば、あなた方の魂にこの喜びが宿るだろう。そう、弟子たちよ、あなたがたの魂の中でである。なぜなら、その時点であなたがたの住まいがどこになるのか、あなたがたにはわからないからだ。しかし、光の勝利を霊的な谷から初めて目にするとしても、それは問題ではない——それどころか、そこからこそ、あなたがたは自らの行いと闘いの実りを、さらに高く評価することになるだろう。

17. あなたがたの心臓は高鳴り、私にこう言います。「師よ、私たちの魂はいつ、この勝利の歌を歌えるようになるのでしょうか」

18. 教会の指導者たちは私にこう言います。「父よ、私たちの努力が無駄になってはなりません。」しかし、私は双方にこう告げます。その目標に到達することは十分に可能であり、この理想を達成するために、あなたがたの命を犠牲にする必要はない、と。しかし、あなたがたのすべての働きが私の真理に基づいているように、また、すべての人の努力が私が示した最終目標に向けられるように、私の戒めの一つひとつを遵守しなければなりません。

19. 「霊化」、「合一」、「服従」——これこそが、あなたがたが父のために築き上げるべき聖所の確固たる基盤である。あなたがたがこれにふさわしい生き方をすれば、やがて人類の中で、わたしの業とあなたがたの闘いが花開き、実を結ぶのを目にするだろう。

20. わたしの言葉がこれらの代弁者たちを通じて伝えられ始めて以来、わたしはあなたがたに霊化を啓発し、一致を求め、従順を教え続けてきた。

21. 最初にやってきた者も、最後にやってきた者も、私の代弁者たちによって絶えず繰り返されているこれらの教えを知っている。

22. 私の教えは、あなたがたがあらゆる外的な神への崇拝から解放され、霊的かつ深く、誠実で、高潔かつ純粋な方法で私を愛し、私に仕えることを学ぶために、霊化について語ってきたのである。

23. 私はしばしば「一致」について語った。なぜなら、あなたがたが闘う際に、それぞれの賜物と力を一つにまとめず、個別に活動するならば、その働きは実を結ばないからである。

24. 私があなたがたに「従順」について語ったのは、あなたがたのすべての行いが、私の意志のような完全な意志に従属し、その意志を全うする上で決して道を誤らないようにするためである。そうして、私の言葉の啓示が終わりを迎えたとき、あなたがたは皆、この世の人々に私の啓示の真実の証しを示すことができるようになるだろう。

25. これらの戒めに従う者たちは、周囲の人々から信頼を得ることになる。しかし、これらの戒めを無視し、不和と不従順、そして霊性の欠如に満ちた人々の群れを教え導くことを標榜する者たち——わたしはあなたがたに告げる。遅かれ早かれ、彼らの欺瞞と偽善は暴かれ、彼らは最大の試練に巻き込まれ、最も忠実な者たちさえも自分を見捨てるのを見ることになるだろう。

26. これを、わが教えの勝利と呼べるだろうか。いいえ、民よ、あなたがたが戦いの終わりに直面するのは、混乱などではない。そ

れは平和であり、喜びであり、光であり、あなたがたの日々のご苦
労がそこに結実するのだ。

27. この民の一部が恩知らずで不従順であることを目の当たりに
して、わが霊が限りなく無関心であり続けるとでも思うのか。いい
え、民よ、わたしはわが正義をもたらし、それによって、わたしの
言葉に耳を傾けた時にわたしの慈愛によって震え上がらせたのと同
じように、わたしに従わない者たちを震え上がらせるであろう。

28. わたしの教えは、これ以上ないほど明確で単純である。しか
し、もしあなたがたの記憶が裏切り、それを忘れてしまったとして
も、わたしは、この第三の時代に与えられたわたしの言葉の書物を
作り上げるために、わたしの教えをまとめなければならない者たち
に靈感を与えるであろう。この書物は、あなたがたが忘れてしまっ
たすべてのことを思い起こさせ、試練に直面した際には悔恨の涙を
流させ、最終的には私の御心が成され、私の真理が勝利することを
理解させてくれるだろう。

29. なぜ、私の言葉は時にあなたたちにとって厳しく思えるのか
。そこには厳しさなどなく、私があなたたちに対して抱く愛に満ち
ている。なぜなら、あなたたちの父は、自分の子供たちが泣くこと
を望まないからだ。

30. 私がこのような口調であなたがたに語りかける時、裁き主の
言葉の背後に、師の臨在と父の本質を見出そうと努めなさい。そう
すれば、あなたがたはこれらすべてを発見するだろう。

31. 私があなたがたに警告し、何かを預言するとき、私があなた
がたの未来を知っており、私が「命」そのものであるゆえに、あな
たがた自身よりもあなたがたをよく知っていることを知ってください
。

32. 静寂の中で、霊的にわたしのもとへ昇ることを学べ。祈りの
うちに御霊を通してわたしに語りかけなさい。そうすれば、わたし
の答えが与えられるだろう。

33. あなたの知性を鍛えなさい。あらゆる不必要な思考を捨て去
らせ、霊的な対話の間には身を引くよう教えなさい。そうすれば、
知性が集中を妨げたり、その祝福された瞬間に心を解き放つことを
阻む障害となったりすることはないでしょう。

34. この霊的な準備と内なる解放を成し遂げた魂は、なんと幸い
なことか。その魂の持つすべての賜物が現れ、明らかにされるのだ
！ インスピレーション、啓示、癒しの力、内なる言葉、そしてその
他多くの能力が現れ、その本質と使命を示すのである。

35. 毎日、ほんの少しの時間を割いて霊的な祈りに充てなさい。そうすれば、やがてその修練の成果を実感することになるでしょう。私が自ら現れて、教えを与え、あなた方を準備させる日を待ってはいけません。そうすれば、あなた方は何度も最初からやり直さなければならず、霊的な活力を得ることを妨げる障害につまずいてしまうからです。

36. 毎日、ほんの少しの時間をこの実践に捧げなさい。私はいつでも、あなたがたの声を聞き、あなたがたを助ける用意ができています。

37. この時代、人々は真の祈りを実践してこなかった。それゆえ、彼らは祈りや願いを言葉にまとめ、必要に応じて機械的に繰り返し唱えざるを得なかったのだ。

38. 人間はもはや、魂をもってわたしに語りかけるためのインスピレーションを得る術を知らない。誰もが知るべきであるはずの霊的な言葉を、もはや全く知らないのである。なぜなら、あらゆる儀式を排し、あらゆる物質化を拒絶し、自らの核心に集中して、わたしの臨在を感知し、インスピレーションの光を受け取れるようにするための修練の方法を、彼らは知らないからである。

39. それゆえ、わたしはあなたがたにこう告げる。象徴の前で祈ったり、内なる聖所を求めるために私に儀式を捧げたりする傾向を、あなたがたが犠牲にすればするほど、霊的な交わりの賜物が展開し、成長し、高まっていくのを体験することになるだろう。それは、あなたがたを段階的に「霊から霊への対話」へと近づけていくものであり、人間が完全な形で祈ることを理解した時に起こるものである。

40. 今、よく理解しておきなさい。もし、あなたがたが同胞たちに、祈りにおいて完全さを達成する方法を教えることがわたしの御心であるならば、あなたがたは、祈りの中に存在する真理と力の証拠を示す準備をしなければならないのだ。

41. まさか、目を閉じさえすればそのやり方が完全であるかのようになり、彼らに教えようというのか。内面に真の準備が何もないのに、無意味な振る舞いを装わせて、隣人を欺こうというのか。そうはいかない、民よ。なぜなら、あなたがたは自分自身をも、隣人をも、ましてや父をも欺いてはならないからだ。

42. もしあなたがたが祈りを教えるのであれば、それは、霊的な祈りの真実、力、そして効力を証明できるからである。あなたがたは祈りによって病人を癒やし、不和が支配する場所に平和をもたらし、危険にさらされている者を救わなければならない。そうして初

めて、あなたがたは真の信仰を見出し、人々はあなたがたに倣おうとするだろう。あなたがたの教えは、人々の心に信仰を呼び覚ますでしょう。人々は、あなたがたが示す証拠の真実さに直面して、驚嘆するでしょう。

43. 忘れてはならない。祈りが効果を発揮するためには、あなたがたの信仰が確固として、偉大でなければならない。そうして初めて、慈悲こそが、わたしのもとへのあなたがたの昇華の本質となるのだ。

44. 奇跡を成し遂げた者たち——霊的な力の証拠を示した者たちは皆、そのように祈ってきた。初期の時代の先祖たちは、このように、霊から霊へと祈った。モーセは荒野で、ダニエルは獅子の穴の中で、このように祈った。同様に、わたしもイエスにおいて、人々の目の前で霊的な祈りの力を示し、真の祈りについての知識を人々に確固たるものにするために、そう行っただけである。

45. イエスは荒野で群衆の前で祈り、人々の驚嘆のうちにパンと魚を増殖させた。イエスはラザロの墓の前で祈り、信仰と憐れみから生まれる祈りが健康と命を与えるという証拠を示された。また、弟子たちの前で祈り、人が父とつながる術を知るときに得られる力を彼らに明らかにされた。

46. この人類は、私の教えからどれほど遠ざかってしまったことか！ そのすべてが表面的で、偽りであり、外見的であり、華美である。それゆえ、彼らの霊的な力は無に等しい。そして、魂における力の欠如と発展の不足を補うために、彼らは科学の懷に飛び込み、知性を発達させてきた。

47. このようにして、人間は科学の助けを借りて、自らを強く、偉大で、力強いと感じるようになった。しかし、私はあなたがたに告げる。あなたがたが成長させ、現れ出させることを許さなかった靈魂の力に比べれば、その力や偉大さは取るに足らないものであ。

48. 人々の放縦と物質主義が頂点に達し、彼らが自らの起源を忘れ去るに至ったとき——情熱、快樂、そして悪徳の溢れ出る奔流が、多くの人々を、神や家族、そして隣人に対する義務を顧みない軽薄な存在へと変えてしまったとき、その時、この言葉は、渇きに苦しむ人々の心にとって、水晶のように澄んだ水の泉のように、人類のもとに届いたのである。

49. あなたがたは罪にあまりにも慣れきってしまい、自分たちの生き方が最も自然で、最も普通で、最も許容されるもののようになっている。それにもかかわらず、まるでソドムとゴモラ、バビロン

、そしてローマが、そのすべての墮落と罪をこの人類に押し付けたかのようである。

50. 矛盾しているように思えるかもしれないが、今こそ、わたしの言葉が人々の心に響き渡るのにふさわしい時である。

51. 異教のローマを思い出せ。快楽に嫌気がさし、肉欲の喜びを享受することに飽き飽きしたそのローマが、私のメッセージを受け入れるために心を開いたことを。

52. あの出来事は再び繰り返されるだろう。そして、あなたがたは、人々が真理の道から最も遠く離れていると見てきた諸民族の中で、わたしの種が芽吹くのを目にするだろう。

53. 知恵と慰め、そして再生の約束に満ちた私の言葉は、不浄なものや悪が決して届かなかった心の琴線に響き渡るだろう。命の光と真理から死んでいた者たちはよみがえり、長い間失われていた道徳が回復されるだろう。

54. かつて、私の教えに改宗した異教徒たちが、私の言葉が説く愛の中に救いを求めたように、この時代の唯物論者たちは、イエスとその生涯に残した模範の中に、自らの救いへの道を求めるだろう。しかし、彼らはまた、この時代に私の霊が人々に注ぎ込んだ霊的な光からもインスピレーションを受けるだろう。この光には何が含まれているのか。それは、霊的な生に関する知識、靈魂の能力の啓示、そして人間が解き明かすことのできなかった秘密の解明であ。

55. 民よ、わたしはあなた方を、わたしの新しい御言葉の受託者に任命した。長い間、わたしはあなた方に自らを明らかにしてきた。それは、あなた方が、あなた方のそばにいるのが霊におけるわたしの臨在であることを確信し、また、あなた方がわたしの教えを心に受け止め、書き留め、それについて熟考するための十分な時間を持てるようにするためである。

56. これらすべては、何のためか。それは、あなたがたの間でのわたしの啓示が終わったとき、あなたがたが「それは確証も確信も持てない、つかの間の現象に過ぎなかった」などと言わないようにするためである。

57. 今や、あなたがたは、これらの教えの最終日が近づいていることを私から知らされたので、責任を感じ始めている。なぜなら、私はもはやあなたがたを弟子や信徒としてではなく、師から聞いたメッセージの解説者、使者、そして証人として、あなたがたを残していくからである。

58. あなた方のうちには、信仰と力と熱意に満ち、日々の働きを始めるのにふさわしい時を待ち望んでいる者もいる。一方、自分自

身を疑い、戦いを恐れて震えている者もいる。後者たちに対して、私は問う。私の言葉を直接聞いていない他の民族が、彼らに伝わった証言に動かされるだけで、あなた方より先に働き始めることなどあり得るだろうか。

59. 何があなた方を不安にさせているのか。あなたがたの心は私にこう告げている。「主よ、唯物論者や不信仰者に対して、真理を具体的に証明できないことへの無力感です。」あなたがたは私を理解していない。私は、目に見えず、触れることのできない霊的なものを、懐疑的な人々の目の前で物理的に感知できるようにし、そうして彼らに霊的なものを信じさせよ、などとは言っていないのだ。私が何よりも望んだのは、あなたがたが自分の人生を清め、精神性を高めることで、言葉と行いを通じて、あなたがたが信奉する教えが真実であることを示す最良の証拠を示すことだったのだ。

60. あらゆる事柄に科学的な説明を求める人々を納得させるような証拠を提示することは、あなた方にとって非常に困難に思えるだろう。しかし——私が教えに込めた偉大さは、あなた方がその中で、現れるあらゆる問題に対して答えと説明を与えることができる解決策を見出せるような性質を備えている。

61. まさか、私があなた方に後進的な教えをもたらしたなどと思っているのか。私の言葉を研究すれば、それがこの人類の精神的、そして知的な発展の両方と調和した形で明らかにされていることを、あなた方は確信するだろう。

62. かつてであれ今日であれ、私はあなたがたの科学を非難することはない。なぜなら、それは人間が私の真理を発見する一つの道でもあるからだ。あらゆる知識の中で私を求める者は、私を見出し、私の臨在を感じ、私の法則を発見する。私が非難するのは、善き目的のためにのみ創造されたものを、悪用することである。

63. 今日の人々は、かつての人々よりもはるかに、神の本質と力を理解する能力に長けている。そこには、科学が人々の認識能力に与えてきた影響を見出せ。

64. 人々が、自分の目で発見できるものだけが存在すると信じていた頃、そして自分たちが住む世界の姿さえ知らなかった頃、彼らは、自分の目が知る範囲に限定された神を想像していた。しかし、彼らの知性が次々と謎を解き明かすにつれて、彼らの目の前で宇宙はますます広がり、驚嘆する人間の知性にとって、神の偉大さと全能性はますます増していった。それゆえ、私はこの時代に、あなた方の発展にふさわしい教えを授けなければならなかった。

65. しかし、私はあなた方に問う。私の啓示に含まれているのは、物質的な知識だろうか。いいえ、私があるあなた方に教える知識は、あなた方が目にして、長い間探求してきた自然を超えた存在に関するものである。私の啓示は、精神を、そこからすべてを発見し、認識し、理解することができる生命の次元へと導く道を示している。

66. 神が霊的に人々に御自身を現わされること——霊界が自らを現し、あなた方の生活の中に現れること——未知の世界や領域があるあなた方に語りかけることが、あなた方には不可能に思えるか、あるいは少なくとも奇妙に思えるだろうか？ まさか、あなた方の認識がそこで止まり、父がすでに啓示されたこと以上のものを、二度とあなた方に啓示しないことを望んでいるというのか？

67. 慣習に縛られて信仰してはいけません。そして、あなたがたの精神の認識に制限を設けてはなりません！

68. 今日、あなたがたは霊の教えを否定し、それに立ち向かい、迫害するかもしれない。しかし、私は、明日にはあなたがたが真理に屈服することを知っている。

69. あらゆる神の啓示は、現れた当初は抵抗され、拒絶されてきた。しかし、最終的にはその光が勝利を収めてきたのである。

70. 科学の発見に対しても、人類は同様に懐疑的であった。しかし、結局のところ、人類は現実の前に屈服せざるを得なかった。

71. あなた方は、物質主義に囚われていたために、不信仰であった。当初、あなた方は自分の目で見えるものだけを信じていた。しかし、あなた方は成長し、今では自分の知性が発見したものを信じるようになった。もしあなたがたの精神が、かつてその無限の知識の領域へと踏み込んだなら、なぜ物質的な宇宙の彼方にあるものを信じ、認識できないというのか？

未来の人類がどれほど多くのことを認識するようになるか、あなた方はまだ知らない。かつての人々の精神的・物質的な知識を、あなたがたが今日持っている知識と比較してみれば、これからの時代における人間の生活がどのようなものになるか、その一端がわかるだろう。

72. 今こそ、新たな時代に向けてあなた方を目覚めさせ、準備を整え、これから目にするであろうすべてのことを預言的に告知させるのにふさわしい時である。

73. 民よ、私の到来はまさに適切な時期に起こったことを理解せよ。

私の平安があなた方とともにありますように

教え 276

1. 私の教えを聞くために集まってくる人々の群れの中に、この言葉を初めて耳にする「最後の人々」がやってくるのを見る。彼らは、以前、私の霊的な祝宴に招かれた者たちからの証しを受けていた。しかし、彼らは私の御臨在と第三の時代の到来を信じることを拒んでいた。

2. しかし、彼らは障害や偏見を乗り越えてここへやって来た。そして、伝達者の口から発せられた最初の言葉を聞くだけで、「師よ、あなたです。私はあなたの言葉の本質を悟りました。私の魂が震えています」と言うのに十分だった。

3. 1950年の私の啓示が終わるまで私を聞き、私の臨在を信じる者たちは幸いである。まことに、私はあなたがたに告げる。私が去った後も、私の本質は彼らの心から消えることはない。

4. 今、私の声は多くの人々を呼び寄せている。それは、多くの魂にとって、この地上の巡礼の旅の終わりが近づいているからである。彼らが心に抱くあの落胆、あの倦怠、あの悲しみは、彼らがすでに、より高き故郷、より良い世界を切望していることの証である。しかし、彼らがこの世で歩む最後の行程を、良心の指針に従って生きことは不可欠である。そうしてこそ、この地上の彼らの最後の足跡が、後に続いてこの世でそれぞれの使命を果たす世代にとって、祝福となるからである。

5. 多くの人々の悲しみは、長い旅路の途中で、その木陰で休むことのできる、葉の茂った木を見つけられなかったことに起因している。彼らは確かに道中で木を見かけたが、それらは枯れ果て、その種は実を結ばなかった。

6. わたしを求め、長い間希望を持ち続けてきたすべての人々は、まもなくわたしの声を聞き、その声へと駆け寄るだろう。なぜなら、彼らの心の中には、希望の最後の残滓と、信仰の最後の火花が、まだ消え去っていないからだ。

7. わたしの御業が彼らを待っている。それは彼らが探し求めている力強い木であり、その木陰で休息し、その実を糧としたいと願っているのだ。

8. 彼らが目的地に到着し、空腹と渇きを癒やし、休息できることを喜びながら、その想像力の中で、自らの過去すべてが目の前を駆け抜けていくのを見るだろう。砂漠を一日中歩き続けた苦痛に満ちた日々、誘惑に満ちた暗黒の時代、危険と悪徳、そして死の脅威に満ちた深淵。彼らは、これまで飲み干してきたすべての苦い杯を思

い出し、過酷な人生の道のりが刻んだ戦いの痕跡を自らの内に見つけるだろう。

9. ここで彼らは平安を取り戻すだろう。私は彼らを待っている。彼らが道に迷わないよう、道を整え、心の中に祝祭の喜びを抱いて彼らを迎えられるよう、賛美の歌を練習しておきなさい。

10. 彼らはまず、私の新たな啓示に対する生徒となるでしょう。その後、彼らの愛と勤勉さによって弟子となり、そして彼らの魂が真に養われ、この本質に浸透したとき、彼らはもはや日陰を求めるために木を探すことはなくなるでしょう。彼らは至る所で私の臨在を感じ、その中に日陰、避難所、実り、安らぎ、そして平安を見出すでしょう。

11. 「最後」の人々が「最初」の人々と力強く出会うことは、どれほど重要であるか。そうしてこそ、彼らはその良き模範に励まされ、最初の歩みから、従順と熱意と清らかさの道を歩み始めることができるのだ。

12. あなたがたは、何度もわたしを師としてきた。しかし、わたしが裁き主として現れると、恐怖に襲われる。その時、あなたがたは、わたしの前で清らかな姿を見せるために、一瞬にして自分の中のほんのわずかな欠点さえも洗い流そうとする。わたしを傷つけてしまったことへの後悔は涙へと変わり、あなたがたの魂は祈りの中でわたしに向き直る。

そして、あなたがたが真摯な悔い改めの行いを成し遂げたことに気づくと、心は落ち着き、その光をもって魂を照らす神聖なる裁き主の御言葉を聞くにふさわしいと実感するようになる。

13. 悔い改め、改善と再生への確固たる決意を固める者たちは祝福される。彼らは、不浄で有害なものから自らを昇華させることができるからだ。悔い改め、内省、そして改善への決意がなければ、あなたがたは、自らの魂の中に築き上げなければならない聖域の礎を築くことはできない。しかし、もしあなたがたが自らの過ちを認識し、将来それらから解放されるよう奮闘するならば、良心が人生のあらゆる行いを導いてくれるだろう。

14. 人々が罪のない犠牲を捧げることで清めを求めている時代は、あなた方にとってはとっくに過ぎ去った。また、長い間実践してきた断食や、誤って理解された悔い改めの無益さも、あなた方はすでに理解している。今日、あなた方は、魂の刷新と霊化だけが、平安と光をもたらすことができることを知っている。

15. 私は「第二の時代」において、人間として自らの模範を通じて、私の真理を説いた。私は、完全なる愛の教えのために自らを犠

性とすることで、無実で無自覚な存在たちに対する無益な犠牲を廃止した。あなたがたは私を「神の子羊」と呼んだが、それはあの民が伝統的な祭りの日に私を犠牲にしたからである。実際、私の血は、人々に救いへの道を示すために流されたのである。私の神聖な愛は、十字架の上から、当時およびあらゆる時代の人類へと注がれた。それは、人類がその模範、その言葉、その完全な生涯に触発され、救い、罪の清め、そして魂の高揚を見出すためであった。

16. あなたがたは今、私が模範を示すために来たことを理解しているはずだ。あなたがたは、私を手本として、永遠の平安の住まい、光の衣、そして尽きることのない平安を勝ち取るために、その功德を積まなければならないのである。

17. 私は、私の新しい使徒の群れの中に、強く、霊性に富み、知識の光に満ちた弟子たちを望んでいる。その知識は、私が「三つの時代」においてあなたがたに授けた啓示を通じて、私が与えたものである。私は、あなたがたが私の霊、あるいは霊的なもの全般を、あたかも物質的なものであるかのように探究することを望まない。科学者のように私を研究することも望まない。そうすれば、あなたがたは甚大かつ嘆かわしい誤りに陥ってしまうからだ。

私は、祈りを通じて魂を高め、謙虚さと敬意をもって父に問いかけるよう、あなた方に教えてきました。そうすれば、秘密の宝庫がわずかに開かれ、あなた方の知恵のために定められたものを垣間見ることができるようになり、あなた方は、神聖な靈感の光が知性へと降り注ぐのを感じるでしょう。

18. 祈りとは、あなたがたの問い、悩み、そして光への渴望をもって、わたしのもとへ至るために、あなたがたの霊に啓示された手段である。この対話を通じて、あなたがたは疑念を払拭し、いかなる秘密をも隠しているベールを引き裂くことができる。

19. 祈りとは、精神から精神への対話の始まりであり、それは来るべき時代に花開き、この人類の中で実を結ぶであろう。今日、私は、私に耳を傾けるこの民に、これらすべてを啓示した。それは、彼らが霊性化の時代の先駆者となるためである。

20. 私の霊が、その時に初めてすべての人々の上に響き渡り始めるのだなどと考える必要はない。まことに、私はあなたがたに告げる。私の波動、私の靈感、私の臨在、そして私の光は、いつの時代も人々と共にあった。しかし、人々は私のメッセージを直接受け取るための十分な準備ができていなかったのだ。

21. いつの時代も、私はあなたがたに歩み寄り、常にあなたがたに語りかけ、常にあなたがたを探し求めてきた。それにもかかわら

ず、あなたがたは決して私への真の道を進んできたことはなく、霊の言語で私に語りかけたこともなく、私が実際にいる場所で私を探し求めたこともなかった。

22. あなたがたの過ちを指摘するわたしの言葉に、勇気を失ってはならない。また、私はあなたがたに告げる。私は、人々が犯してきたあらゆる過ちや欠点をすべて赦し、彼らの精神の前に「光の時代」を切り開く。そこでは、彼らは自らの不完全さを認識し、停滞から立ち上がり、今日まで理解することができなかった私の業に込められた真理を知るようになるのだ。

23. 明日、あなたがたの問いに答えるのが私の声であることを望むか。祈ることを学べ。そうしなければ、答えるのはあなたがたの理性となるだろう。しかし、理性が霊の領域に一度も踏み込んだことがない以上、それが何をお示しできるというのか。

魂が立ち上がり、私のもとへ至り、私の愛と知恵の門を叩くことを許しなさい。そうすることで、あなたがたは、これまで一度も発見したことのない、素晴らしい人生を見出すことになるだろう。

24. 弟子たちよ、わたしの言葉を深く掘り下げてみよ。そこに、今日わたしがあなたがたに与えた教えの真髄を見出すだろう。

25. わたしはあなたがたの友である——あなたがたが秘密を打ち明けることのできる者——あなたがたのためにすべてを捧げる者である。

26. あなたがたが、その悩みを私に打ち明け、私があなたがたの心からそれを取り除いてあげられるようにと、私のところへやって来ているのを見ている。そして、私は確かにそうしてあげる。しかし、それは、悪は表面的に治すものではなく、その根源から治さなければならないこと——祈りや願いだけでなく、改善、内省、そして再生が必要であることを、あなたがたが理解して初めて実現するのだ。

27. もしあなたがたが苦しみのもとを放っておくなら、私が病を癒やしたり、何らかの苦しみから解放したりすることに、いったいどのような功德があるというのか。

28. 私の光を受け取り、それによってあなたがたの試練や不幸の理由や根源を見出せるよう、祈りなさい。謙虚さの中で力を得るよう、願いなさい。しかしその前に、魂にも肉体にも害を及ぼしかねないあらゆるものを避けるために、全意志を尽くしなさい。

29. 皆、私のところに来なさい。そして、あなたの苦しみから癒やされなさい。あなたの信仰が、健康を取り戻し、救いを得るといふ奇跡を起こすようにしなさい。その奇跡は私にあるのではなく、

あなた方にあるのです。しかし、奇跡を受けるために触れるべきはもはや私の衣ではなく、あなた方の信仰と高揚によって私の御霊の前に到らなければならないことを忘れないでください。

30. この道を通じて、どれほど多くの人々が健康を取り戻したでしょうか。彼らは、苦しみのもとを適時に見極め、勝利するまで戦うために、全き信仰と意志を注ぎ込んだからである！ また、どれほど多くの人々が、悲しみ、混乱、あるいは失望を抱えて、切望していたものを得ることなく去っていったことか。彼らは、こうした集いの場に行くこと、あるいは単に願い事をするだけで、すでにすべてが達成されたと信じていたからだ。彼らは、自らの苦しみの原因を突き止めることには一切関心を示さず、求めていた恵みを得ることなく、その場を去らざるを得なかった。精神的な光を持たずに生きる者たちこそ、自らの苦しみの理由や、健康や平和が持つ価値を知らないのです。

31. ほとんどの人々は心の中に「トマス」を抱いており、信じるためには自分の目で見て、自分の手で触れてみたいと願っている。しかし、私はあなたがたに告げる。私の弟子たちの中で最も不信的な者に与えられたような証拠は、この時代には二度と繰り返されることはない。なぜなら、この世は二度と私を人間として迎えることはないからであり、また、私がその実例を、私の子供たち一人ひとりの前に開かれた書物として残し、彼らがこの教訓を深く理解できるようにしたからである。

32. 私が人間としてのみ世に現れることができるなどと考えてはならない。いいえ、今や私は霊的な形であなたがたの中にその存在を感じさせている。これこそが、私が数え切れないほどの方法で人々に自らを現すことができるという証拠である。私は万物を創造し、あなたがたを知っている。それゆえ、この人類の眠れる魂をいかに揺さぶるべきかを知っているのだ。

33. 当時の私の謙虚さは、人々の心を愛で震え上がらせた。人々は、この世で私を代表すると主張する者たちの見せびらかしを見ることに慣れていた。しかし、人々が「王の王」が王冠を戴かず、地上に玉座を持たずに来られたのを見たとき、彼らの目が開かれ、真理を悟ったのである。

34. 同様に、この時代においても、私は自分の謙虚さによって世界を震撼させるであろう。その最初の証拠として、私は、新しい時代の到来を予感した先駆者たちの質素さと隠遁の生活を選び、彼らの間で私のメッセージを宣べ伝えたのである。

35. 人類を靈的に支配するために私の名を利用し、それによって人類の向上を妨げたり、誤りに導いたりした者たちには、災いがある。彼らは、真理を求める何千人もの人々が自分たちの陣営を去っていくのを目にするだろう！人生を楽にするどころか、人々の生活をより苦痛なものにしてしまった科学者たちよ、災いあれ。なぜなら、彼らは、貧しい者や無知な者たちが、自分たちの科学のすべてを駆使しても成し得ないような奇跡を成し遂げるのを目撃することになるからだ！

36. この時代の奇跡もまた、来るべき世代への証として記録されている。しかし、まことに、わたしがあなたがたに告げる。これらの奇跡は、肉体よりもむしろ魂の中で実現されるのである。

37. あの「第二の時代」に、私は多くの病人を癒した。私は盲人、ハンセン病患者、悪霊に取りつかれた者、耳の聞こえない者、足の不自由な者、そして口のきけない者を癒した。彼らは皆、肉体的には病んでいたが、その肉体に成し遂げられた奇跡によって、彼らの魂はよみがえったのである。

38. 今、私が来たのは、何よりもまず、魂に光を与え、自由を与え、信仰に火を灯し、あらゆる悪から癒やすためである。そうして、その後、魂が自ら進んで肉体を強め、癒やすようになるためである。

39. 時が経つにつれて、私があなた方をますます成長した姿で見なければならぬこと、そしてそれゆえに私の教えもますます高次なものにならなければならないこと、そうは思いませんか？

40. それゆえ、世界はもはや私が馬小屋で生まれるのを見ることも、十字架で死ぬのを見ることもないだろう。むしろ、世界は私の靈的な臨在を感じるために、より高い次元へと発展していかなければならないのだ。

41. 人類よ、この時代にあなた方を包み込む痛み、悲惨、そして混沌は、予期せぬもののようには思えるか。もしあなたがたが驚いているとすれば、それは私の預言に関心を寄せず、備えを怠ってきたからである。すべてはあらかじめ見通されており、すべては予告されていたが、あなた方には信仰が欠けていた。その結果、今、あなた方は極めて苦い杯を飲み干しているのだ。

42. 今日もなお、私は人間の知性を通じて預言している。ある預言はまもなく成就し、他の預言は遠い未来になって初めて成就する。それらを聞くこの民には、それらを人類に知らせるという大きな責任がある。なぜなら、それらには、人々が生きている現実を理解

させ、深淵へと向かって猛スピードで突き進む足を止めるように導く光が含まれているからだ。

43. わたしの使徒たちは、諸国に次のように知らせるであろう。もし彼らが、偉大さと権力への愚かで狂気じみた追求を続け、その過程で、まだ知らず、また使いこなすこともできないような力や要素を利用し続けるならば、主によって創造された樂園であり、後に人間の罪と不従順によって涙の谷となったこの地球は、人間の不道德の結果として、死と静寂の野へと変貌してしまうだろう。

44. これを果たして科学の成功や勝利と呼べるだろうか。人類が平和と調和の生活に至ることができれば、それは人類にとっての勝利となるだろう。なぜなら、そうして初めて、人類は人間的かつ精神的な両面における最大の成功の基盤を築き上げ、私があなたがたに勧める「互いに愛し合いなさい」という戒めを果たしたことになるからだ。

45. 他の国々から大勢の人々がこの民のもとを訪れ、あなたがたがこの時期に立ち会った霊的な出来事や、私があなたがたに与えた啓示や預言について、熱心に尋ねてくるでしょう。というのも、世界の多くの地域で、私の神聖な光線が西のある一地点に降りてきて、この時代の人類に語りかけるという私のメッセージが受け取られているからだ。その時が来れば、あなたがたは、他の民族や国々から人々があなたたちを訪ねてやって来るのを目にするだろう。その時、主要な宗派の指導者たちは、私が語りかけた相手が自分たちではなかったことに衝撃を受けるでしょう。

46. さて、あなたがたは、なぜ私が、あなたがたに物質主義と闘い、あらゆる疑いや誤りを取り除くことを求めているのか、今や理解しているはずだ。なぜなら、私は、あなたがたの同胞たちがあなたがたのところに来たとき、幻滅や失望を味わうことを望まないからだ。私は、彼らがあなたがたを兄弟と呼ぶ代わりに、敵になってしまうことを望まないのだ。

47. 世の中に蔓延しているこのような大きな混乱に、心を痛めてはいないのか。これほど大きな霊的な闇を目の当たりにして、苦しんでいないのか。

48. 良き弟子たれ——知識においては偉大であり、教える態度においては謙虚であれ。私はあなたがたに言います。人生が与えるあらゆる種を蒔く機会を活用すべきです。しかし、師と名乗りながら実際にはそうではない者は、その道のりでなすすべての行い、そしてその道のりで経験する試練についても、すべて責任を負うことになるということを、心に留めておく必要があります。

49. これは、日常のルーチンから解放され、進歩の道へと踏み出し、この業の純粋さを真に知るために、深く考えるべき貴重な瞬間である。なぜなら、あなたがた全員が、その純粋さについて熟考したわけでも、理解したわけでもないからだ。私は今なお、あなたがたの間に、儀式を好む一部の人々には好まれるものの、大多数の人々を混乱させるほど奇妙な礼拝の形式や慣習を目にしています。そうした人々は、それによって将来、嘲笑の種を作っていることに気づいていません。

50. 師は、人々がその業を破壊することを恐れているとでも思うのか？ いいえ、民よ、父は何も恐れることはない。その業は破壊不可能なのだ。私が望むのは、あなたがたが真理を愛し、私の業をその純粋さそのままに示すことである。なぜなら、もしあなたがたがそうしなければ、多くの苦痛をもたらすことになるからだ。それは、いかなる宗教共同体にあらうとも、兄弟姉妹への思いやりを欠き、隣人を混乱させ、墮落させ、傷つけてきた者たちが、パンのかわりに石を、光のかわりに闇を、真実のかわりに嘘を与えたのと同じことである。

51. 民よ、あなたがたは皆、この言葉を受け取った。聞いたことを自覚せよ。それでもなお、わたしはあなたがたに告げる。わたしに仕えることも、定められた道に従うことも、何者にも強制されるものではない。しかし、その用意があり、心に感じる愛に抗うことができず、その道で足を血まみれになることを恐れない者——その者は、自分の十字架を背負い、師に従い、隣人を通してわたしに仕える用意をもって、進んでいくがよい。

52. エリヤこそが、大勢の人々の間に身を置き、彼らに真理の道を教え、神の国について語り、人々に霊性を示し、混乱や不正、悪から彼らを解放するために来たのである。

53. エリヤは人々に悔い改めを促し、美徳と愛を示して、羊が囲いから出るように、彼らをわたしのもとへと導くのである。

54. この第三の時代において、わたしは、あなたがたにわたしの言葉を伝えるために、人間の知性へとわたしの普遍的な光線を注いだ。しかし、人類は、自らの思いや想像に従って多くの神々を作り出してきたため、私の神聖な啓示にまだ気づいていない。だが、私はあなたがたに告げる。真の神はただひとりであり、その神には始まりも終わりもなく、その神は人間に神聖な霊の火花を授けた。それは良心の光であり、善と悪を見分けることを人間に教えるものである。

55. 選ばれた民よ。様々な信仰や教義、様々な教会や宗派に属する学者たちが、この霊的教義の成果を探求するために研鑽を積んでいる。彼らは、あなたがたが現在仰ぎ見ている神がどのようなお方であるかを問うだろう。あなたがたが準備を整えれば、あらゆる問いに答えることのできる、啓発された民となるだろう。あなたがたには、このことを擁護する術を身につけてほしい。なぜなら、あなたがたは真理の言葉を語るようになるからだ。霊的に目覚めたならば、人々を恐れる必要はない。あなたがたは、言葉と思考、そして行いによって、私の真理を証しするようになるからだ。

56. もしあなたがたがわたしの律法を遵守するなら、人々はあなたがたを欺き者とは見なさないだろう。なぜなら、人々はあなたがたの従順さを見て、あなたがたを自分たちの兄弟姉妹として見なすからである。

57. 良き原則を心に持ち、自らの行いを深く考え、言葉から偽りを排し、隣人に対して愛と共感と慈悲をもって行動する者は、自らの内にわたしの神性の現れを感じ、その寛大な行いと善を行うという決意において、その神に似るようになるであろう。

58. そのような心を持つ者は、なんと少ないことか！ このようにして私の律法を全うした者の数はわずかである。しかし、選ばれた民であるあなたがたには、私は善を行うことを教えてきた。あなたがたは、善き思いと祈りによってそれを実践することができる。祈りを通じて、あなたがたは自らの靈魂を私の神性へと高めることができる。なぜなら、私は無限であるゆえに、あなたがたを慈しみ、慰めを与え、私の律法に従うよう教えるために、この世へと降りてくるのである。

59. 私は日々、あなたがたの中にいて、美德を実践するよう教え、私の愛を託し、あなたがたの魂と知性を照らしてきた。それは、あなたがたがどこにいても、善を行うという決意、再生への決意をもって高みへと昇れるようにするためである。私は、あなたがたに赦すことを教えました。それは、闇の中にいる者が、あなたがたが光の子であることを見るようにするためです。そうして、あなたがたは自らの善き模範によって世界に真理の道を示し、愛の行いを通じて、あなたがたが私の言葉を受け入れたことを証しすることができるのです。

60. 人々は、あなたがたを何の罪でも告発することはできないだろう。なぜなら、あなたがたが善を行うためにわたしから靈感を受けていることを、彼らは悟るからである。

61. 私の御心に従って、この霊的な働きに励みなさい。そうして、人類に新たな地平を示し、彼らがこれまで歩んできた暗い道を照らし出せるようにしなさい。

62. 直接わたしに身を委ねなさい。なぜなら、わたしこそが、あなたがたの魂の奥底に入り込み、無限の憐れみと限りない愛をもって、あなたがたの秘密に耳を傾けることができる唯一の存在だからである。

わが平安があなたがたと共にありますように！

目次

教え 242	節番号
御霊の道と使命	2
正義は戦争を根絶する	18
「平和の王国」に関する予言	58
真の価値	64
教え 243	節番号
一つの道と一つの真理	2
14万4千人の印された者たち	19
バアルを崇拝する者たち	25
霊的な武器は脅威ではない	35
1950年以降の霊的な交信	39
賜物	43
戦争とその原因	46
まもなく人類は輪廻転生について知るようになる こととなるだろう	47
神の顕現	50
この神からのメッセージは、ユダヤ人にも届くことになる	52
贖罪の道	61
あの世の存在たち	64
教え 244	節番号
霊的な顕現、すなわち 人間の知性による	3
三位一体	3
三つの時代	8
霊から霊への交わり	23
輪廻転生	28
過去と未来を知る恵み	30
精神的な充実を目指して努力せよ	34
カナンこそが、霊的なイスラエルの目的地ではない	41
象徴と霊性	42
教え 245	節番号
精神的・物質的な生活の真の道	2
死は実際には存在しない	18
神聖な完全性への道	23
神の赦しと私たちの功德	29

輪廻転生の終わり	43
父は常にこの世に現れてこられた	58
教え 246	節番号
スピリチュアリティの道	1
神の教えの真意と宗教の誤り	8
1950年以降	23
霊的イスラエルの使命	28
まもなく第七の封印が解かれる	29
エリヤ	45
スピリチュアリティと宗教的信条	52
精神的な平安こそが、 物質的な力の誇示を打ち負かすだろう	61
愛による平等	63
教え 247	節番号
弟子としての道	4
第二の時代における師の到来の意味	23
十字架とイエスの磔刑の意義	29
他界の霊たちの解放	40
愛による宇宙の変容	46
奉仕者たちへの言葉	50
真の霊的祈り	52
教え 248	節番号
思想の闘争と霊的啓示	1
「反キリスト」は存在するのか？	11
疑いについて	12
世界の終わりは存在するのか？	13
偽りのキリストたち	14
神の怒りと裁きは存在するのか？	17
受肉の意味	23
人生の真の意味	28
誤った解釈	28
クリスマス	37
創造主と被造物との関係	57
たった一つの物質的な人生だけでは不十分である	60
教え 249	節番号
霊における師の帰還	1
救いの道	21

精神と知性	44
スピリチュアリティの時代	48
物質化された者たち	63
教え 250	節番号
メキシコの責任	3
真の平和	15
霊的な知恵は謙虚な者に与えられる	17
この第三の時代におけるイスラエル	19
この惑星の使命	37
大いなる出来事に関する予言	53
良心は神の光である	56
信仰によって成し遂げられること	66
教え 251	節番号
この第三の時代における霊的覚醒	3
選民の使命	10
試練は適切な時期に訪れる	20
召された者と選ばれた者たち	34
教え 252	節番号
「霊に属するものは神に、物質に属するものは世に物質に属するものを」	3
混乱の只中における準備の時期	14
神の御国はこの世のものではない	36
「いのちの書」の編纂	45
ダビデとソロモンの教訓	58
教え 253 (1949年1月1日)	節番号
正義と生命	1
外面的礼拝の誤り	20
御霊によるイスラエルの使命	51
教え 254 (1949年1月1日)	節番号
神の正義	1
第三の時代の弟子の目覚め	7
御霊による神の新たな到来	50
新世代の模範	54
教え 255	節番号
神の第三の来臨とその証し	1
宗教やカルトは霊化されなければならない	16
伝統主義とスピリチュアリティ	20

大いなる光の霊たちがこの世界に転生するだろう	43
「七つの封印」の意義	56
教え 256	節番号
父の御国への道	2
霊的な痛み	11
人間の科学	26
「第二の時代の使徒」の例	30
霊的な祈り	63
教え 257	節番号
物質的な生活と霊的な生活	1
弟子の責任	34
世界は変容する	57
教え 258	節番号
人類の目覚め	4
痛みは、道に迷ったことを告げている	25
1866年は第三の時代の始まりである	41
肉体と精神の目的	72
教え 259 (パームサンデー)	節番号
物質的なヤシの枝は神に届かない	16
霊的なイスラエルの民は、ユダヤ人ではない	53
霊的な賜物	56
霊的な印の意義	60
1950年の意義	84
教え 260	節番号
私たちは今日、第六の封印の時代に生きている	2
精神と科学	9
イスラエルの精神的使命	18
多くの人々が、今もなお約束された主の再臨を待ち望んでいる	33
準備の整った弟子の権威	37
メキシコは「新しいエルサレム」の写し鏡である	40
思想の戦い	44
完全なる精神的なコミュニケーション	57
教え 261	節番号
存在の目的	5
真の祈りは霊的なものである	21
スピリチュアリティ	34

儀式や象徴は消え去るだろう	39
物質的な死の向こう側にも、生命は存在する	55
神聖な光線の伝達	59
教え 262	節番号
霊的な充足	4
人間こそが破壊と戦争の原因である	26
精神的なコミュニケーション、真実への道	34
人間の人生の目的の一つ	47
神は至高の簡潔さである	55
カナンの結婚式	67
苦しみと神の助け	70
教え 263	節番号
霊的分析による光、真理、そして知恵	1
マリアにはいかなる形もない	30
転生は機会である	44
試練におけるイエスの模範	49
準備と成就	62
教え 264	節番号
第三の時代の弟子	1
真の神の神殿	9
研鑽と瞑想	15
1950年をもって、第三の時代の啓示は終わる	32
第三の時代における新たな神の到来	35
弟子の憧れ	48
完全への道	49
子供たちの精神的な教育	59
教え 265	節番号
霊的な完成	1
儂きものと永遠のもの	22
進化の法則と停滞する宗教	23
戦争と苦難、そしてその原因	28
スピリチュアリズムは世界中で台頭するだろう	38
霊的な交信	49
神からの遺産	63
霊界の使命	65
教え 266	節番号
精神と物質	5
試練は有益である	14
意見に対する平静さ	33

功績の重要性	34
他国におけるコミュニケーション	41
スピリチュアリティ	47
心の祈り	50
科学と愛	58
神の正義に関する預言	62
教え 267	節番号
『命の書』	4
人類における思想の闘い	23
1866年から1950年まで	30
「声の担い手」	32
浄化の試練	40
新たなメッセージ	59
霊的イスラエルの責任	66
教え 268	節番号
1950年以降の時代に向けた準備	1
すべての人が救われる	21
生きる意味	28
第六の封印の光	48
イデオロギーの争い	58
マリアは神の現れである	67
信仰とは何か？	71
教え 269	節番号
あらゆる時代の霊的イスラエル	1
第六の封印が開かれた	10
無知、あらゆる悪の根源	12
主の働き手たち	28
神は霊の理想である	59
教え 270	節番号
御霊のパンとぶどう酒	1
スピリチュアリストの使命	10
人類の目覚めの時代	43
教え 271	節番号
スピリチュアリストの使命と機会	2
神の正義とは何か	18
物質の進化と精神的な停滞	37
精神の生活	43
スピリチュアリズムはどのような新知見をもたらすのか？	51

人間の戦争は何も決定づけない	64
平和の王国に関する予言	66
教え 272	節番号
師の働き手	1
試験の意義	7
聖霊の第三の時代	9
この戦いにおいて、私たちは一人ではない	21
償いの正義	23
天国と地獄の意義	29
物質的および精神的な行い	38
霊的な死と物質的な死の関係	46
真のスピリチュアリストの使命	54
教え 273	節番号
精神と物質の均衡	5
第三の時代の霊的な民	11
人類はまもなく解放される	20
霊的認識の欠如がもたらす結果	25
スピリチュアリズムは宗教でもカルトでもない	48
教え 274	節番号
真の価値に関する教え	2
霊的イスラエルの意義	47
精神の進化	52
教え 275	節番号
不朽の価値	2
祈りとは、神との霊的な結びつきである	32
好機	50
科学の世界と神の啓示	62
教え 276	節番号
人類の平和への追求	4
霊から霊への交わり	17
祈りと刷新	26
謙遜	33
癒しのプロセス	37
予言	41
準備	52

1866年から1950年にかけてのメキシコにおける神の 教え 参考文献

ライヒル出版社、D-56329 ザンクト・ゴア、電話：+49 (0)6741 1720

『真の生命の書』第I巻、第II巻、第III巻、第IV巻、第V巻、第VI巻

『第三の聖書』（スペイン語、英語、フランス語版も刊行）

『メキシコにおける神の啓示』（簡潔な序説）

人生に関する神の啓示

第三の時代のための予言

『人生のための書籍サービス』、マンフレッド・ベーゼ、Kirchweg 5、D-88521 エルティンゲン

電話：+49 (0)7371 929 66 42、Eメール：manfredbaese@gmx.de

神の愛——私たちの人生とあらゆる存在の起源、本質、そして目的

『El Amor Divino』——私たちの人生とあらゆる存在の起源、本質、そして目的

『真の生命の書』第VII、VIII、IX、X、XI、XII巻

『第三の聖書』

ユニコン財団、D-88709 メースブルク

電話：+49 (0)7532 808162、Eメール：info@unicon-stiftung.de

『真の生命の書』入門（無料）

アソシアシオン・デ・エストウディオス・エスピリチュアレス・ヴィダ・ヴェルデラ A.C.

Orinoco N° 54 Interior 5, Col. Zacahuitzco, 03550 メキシコシティ

『真の生命の書』、第I巻～第XII巻

『第三の聖書』

およびメキシコのこれらの神の啓示に関するその他の書籍

ウェブサイト

www.drei-offenbarungen.net

www.reichl-verlag.de

www.unicon-stiftung.de

www.drittes-testament.de

www.drittetestament.wordpress.com（多言語対応）

www.tercera-era.net（スペイン語）

www.144000.net（多言語対応）

www.dritte-zeit.net